李(り・一字名)　→　*定熙*(さだひろ・花山院/藤原/西園寺、左大臣/連歌)Ｊ２０５４
履(り・大須賀)　→　*筠軒*(いんけん・大須賀おおすが、儒者)　Ｉ１１５１
履(り・牧野)　→　*鉅野*(きょや・牧野まきの、儒/詩人)　Ｑ１６３６
履(り・工藤/川崎)　→　*也魯斎*(やろさい・川崎/工藤、藩士/儒者)Ｅ４５３９
履(り・清)　→　*玄道*(げんどう・清せい、詩人)　Ｌ１８８８
履(り・菊地)　→　*幽軒*(ゆうけん・菊地きくち、儒者)　Ｂ４６４５
履(り・東方)　→　*芝山*(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者)　Ｄ２１８０
理(り・矢沢)　→　*賢陶*(まさすえ・矢沢/滋野、庄屋/詩歌)　Ｃ４０８４
離(り・細合ほそあい)　→　*斗南*(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家)　Ｏ３１５８
犁(り・久田)　→　*湖山*(こざん・久田ひさだ、儒者:経学)　Ｍ１９６０
釐(り・仙石)　→　*釐*(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者)　Ｄ１４９７

4900　**利阿**(りあ)　？－　？　南北末期連歌師:救済門、
良基第で周阿と連歌研究、古今連談集入

L4923　**理阿**(りあ)　？－　？　室町期尾張熱田神宮?の社僧、時宗僧、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、
[いつのかたみぞ残る面影](熱田法楽;賦山何・二表8/独寝重ねる身にはあの人は遠い、
前句;清久;ひとりねの物かと袖の露おきて)

4926　**李阿**(りあ)　？－　？　歌人;1530十市遠忠と「五十番歌合」;三条西実隆判
利愛(りあい・和泉)　→　*利愛*(としちか・和泉、国学者)　Ｍ３１８４
利愛(りあい・南条)　→　*利愛*(としちか・南条なんじょう、商家/国学)　Ｖ３１９９

4928　**李庵**(理安りあん・北山きたやま/本姓;橘)1653-1729*77*　河内の医者:北山寿庵門;北山家を継嗣、
姫路藩主榊原政邦の侍医;致仕/大阪住;医業、正剛まさかた(1767-1843)は孫?、
「医学弁々害」「師語録」「衆方規矩附方」著、
[李庵(;号)の名/字/別号]名;理安/正堅、字;脩身、別号;医王堂
李庵(りあん・嵐山)　→　*甫庵*(ほあん・嵐山あらしやま、医者)　３９０１
李庵(りあん・北山)　→　*正剛*(まさかた・北山きたやま/橘、医者/歌)　Ｐ４０３３
利安(りあん・斎藤)　→　*利安*(としやす・斎藤さいとう、戦国武将)　Ｔ３１６４
利安(りあん/としやす・前田)→　*重熙*(しげひろ・前田/菅原、藩主/歌人)　Ｓ２１４６
利安(りあん・安藤/中井)→　*酔亭*(すいてい・中井、心学者)　Ｅ２３８６
利安(りあん・寺沢)　→　*利安*(としやす・寺沢、国学者)　Ｏ３１０２
利安(りあん・斎藤)　→　*利安*(としやす・斎藤さいとう、幕臣/歌人)　Ｔ３１６３
利安(りあん・小林)　→　*利安*(としやす・小林こばやし、歌人)　Ｖ３１１６
里庵(りあん・前田)　→　*玄通*(げんつう・前田まえだ、医者)　Ｌ１８４６
理安(りあん・久山)　→　*保*(たもつ・久山ひさやま、僧/神職)　Ｚ２６２３
理庵(りあん・藤本)　→　*由己*(ゆうこ・藤本、医者/詩歌/狂歌)　Ｂ４６５２
狸庵(りあん・成田なるた)　→　*朝辰*(ともとき・成田なるた/羽生、占ト家)　Ｐ３１９２
利位(りい・土井)　→　*利位*(としつら・土井、藩主/蘭学)　Ｍ３１９８
利以(りい・土井)　→　*利以*(としもち・土井、藩主/歌/茶人)　Ｎ３１９１
利意(りい・土井)　→　*利意*(としもと・土井、藩主/諸法度編)　Ｎ３１９３

4929　**鸝一**(りいち)　？－　？　江前期越前丸岡の俳人:宗因門、大阪に住、
1679刊高政「誹諧中庸姿つねのすがた」高政との両吟歌仙入、88「俳諧八景集」編
天野鸝一とは別人?　→　*鸝一*(りいち・天野、俳人)　４９３０

4930　**鸝一**(りいち・天野あまの)　？－　？　江前期近江梅津の俳人、1689「俳諧手向草」著

4931　**梨一**(りいち・関せき・高橋/本姓:一祚・一紹ひとつぎ、関久和男)1714-83*70*　初姓;関/のち母方姓の高橋、
武蔵の幕臣;治農の道を歩む、幕府領代官所役人;諸郡令に随い諸村歴治;農政に関与、
詩文;服部南郭門、俳諧:1736頃佐久間柳居門、最後に越前坂井郡兵庫村代官所に赴任、

1752頃奥の細道の注解を志す;実地踏査の旅/1766頃越前丸岡藩主有馬家に招聘;
私塾蓑笠庵を開設;藩の子弟に教育/丸岡に隠棲;同地に没、
1765「大和めぐり」67「もとの清水」76「奥細道菅菰抄」、「俳諧雪見山」「芭蕉翁発句解書」著、
1783維駒「五車反古」1句入、
［初雪や大名通る四ツさがり］(五車反古:巻尾454/午前10時過頃)、
［梨一(;号)の幼名/名/字/別号］幼名;収蔵、名;相行/高啓/干啓、字;子明、
別号;蓑笠庵/香椿亭、法号;蓑笠庵梨一信士

理一(りいち・原)　→　*脩斎*(しゅうさい・原はら、儒者/詩人)　Ｘ２１３２
利一(りいち・外山)　→　*利一*(としかず・外山とやま、陪臣/国学者)　Ｖ３１８１
利一郎(利市郎りいちろう・岩瀬)→　*京山*(きょうざん・山東さんとう、戯作者)１６３３
理一郎(りいちろう・堀内)　→　*千稲*(ちしね・堀内ほりうち、庄屋/商家/歌)Ｎ２８４８

4927　**梨陰**(りいん;号)　？－1796　備後三原の俳人;1763倚松いしょう「名所雪」入、
1768無名庵「鳳節」入、追善「梨陰老人追善集」(;土芝ら共編)

梨陰(りいん・山田)　→　*以文*(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実)　Ｂ４４６３
梨陰(りいん・速水はやみ)　→　*常忠*(つねただ・速水/山田、以文男/故実/歌)Ｃ２９４４
李蔭(りいん・山田)　→　*宗円*(そうえん・山田やまだ、幕府医官)　Ｇ２５３２
利蔭(りいん・荒巻)　→　*利蔭*(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽)Ｕ３１０１
利贇(りいん・前田)　→　*又久*(またひさ・前田/菅原/菅、藩士)　Ｊ４０５４
吏隠亭(りいんてい)　→　*東川*(とうせん・佐久間さくま、幕臣/儒者)　Ｇ３１１４
吏隠亭(りいんてい)　→　*君山*(くんざん・松平まつだいら、藩士/儒者)　１７２８
狸隠道人(りいんどうじん)　→　*朝辰*(ともとき・成田なるた/羽生、占ト家)　Ｐ３１９２

4932　**李雨**(りう)　？－　？　美濃の俳人:1691江水「元禄百人一句」目録入

4933　**李雨**(りう・竹裡舎)　？－　？　播磨林田の俳人:青蘿門、
1784「萩の輪」編、1786青蘿「骨書ほねがき」編、97「夢三年」編

りう子(りうこ)　→　*りう子*(りゅうこ・吉村、歌人)　Ｌ４９８３

4934　**離雲**(りうん)　？－　？　狂歌;1669梅盛「狂遊集」入

4935　**梨雲**(りうん・山川やまかわ)　？－　？　大阪の俳人;雑俳、
1751春耕「あふ夜」折句入/57律中「耳勝手」入

4936　**理雲**(りうん・西村にしむら/初姓;黒沢)1733-1811*79*　西村理元の養嗣子/医者;理元門/西村理泉門、
理元没後に家督継嗣;1782(天明2)仙台藩の侍医に抜擢、「青根山記」著、
［理雲(;通称)の名］　尚明

4937　**りえ**(里恵/里衛りえ・三上みかみ/波多野、三上一巣妻)1753-1837*85*　武蔵中藤村山王の波多野家女、
所沢豪商三上半二郎［一巣］と結婚、俳人;蓼太/寥松門、
1819　(文化15)「人とはば」編、35(天保6)「牡丹帖」著、
［りえの号］　2世野遊亭

夫も俳人　→　*一巣*(いっそう・三上、商家/俳人)　Ｃ１１９２

L4997　**里枝**(りえ・赤川あかがわ、赤川常宣の長女)1764?-1821*58?*　信濃飯田藩士の家、
松平能登守家臣岩松藤市2男知哲ともさと(1761-1838)を婿に入れる、知至ともゆきの母、
歌人;澄月・桃沢夢宅・香川景樹門、法号;清穏院

利恵(りえ・菅/井上)　→　*政子*(まさこ・井上いのうえ/菅、商家妻/歌)Ｎ４０３５
利永(りえい・斎藤)　→　*利永*(としなが・斎藤/藤原、武将/歌人)　Ｎ３１１６
利永(りえい・青山)　→　*利永*(としなが・青山あおやま、和算家)　Ｎ３１１９
利永(りえい・細川)　→　*利永*(としなが・細川ほそかわ、藩主/記録)　Ｎ３１２２
利栄(りえい・堀/戸川)　→　*安昌*(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣)　Ｃ４５９５
理永(りえい;法名)　→　*頼継*(よりつぐ・葉室はむろ/藤原、廷臣)　Ｊ４７０１
利益(りえき・前田)　→　*利太*(としたか・前田まえだ、武将/日記)　Ｍ３１１７
利益(りえき・前田)　→　*利鬯*(としか・前田まえだ、藩主/歌人)　Ｗ３１４０
理益(りえき;法名)　→　*通胤*(みちたね・中院/源、廷臣/日記)　Ｂ４１８１

M4914　**利恵子**(りえ・後藤ごとう、)1825-1923長寿*99*　陸奥(会津)胆沢郡水沢の国学・歌人;保田光則門、
仙台藩留守家家臣の後藤実崇さねたかの妻、後藤新平(1857-1929)の母、

［梓弓ひく手はいかにつよくとも的つらぬくは心なりけり］(新平欧米旅立への送別歌)
理右衛門(りえもん・小倉)→　*稲後*(とうご・小倉、俳人)　Ｄ３１６９
理右衛門(りえもん・大黒屋/堀田)→*知之*(ともゆき・堀田ほった、酒造業/歌/俳人)Ｑ３１８１
理右衛門(りえもん・堀田)→　*憲之*(のりゆき・堀田ほった、知之男/酒造/歌)Ｊ３５９４
理右衛門(りえもん・岩間)→　*宣道*(のりみち・岩間いわま、歌人)　Ｆ３５８６
理右衛門(利右衛門りえもん・堀田/大黒屋)→*知之*(ともゆき・堀田、酒造業/歌・俳人)Ｑ３１８１
理右衛門(りえもん・久保)→　*上水下見*(うえみずしたみ、久保、狂歌)　Ｃ１２００
理右衛門(りえもん・河合)→　*見風*(けんぷう・河合かわい、俳人/歌)　Ｃ１８９７
理右衛門(りえもん・須藤)→　*恵典*(よしのり・須藤すどう/松村、商家/国学)Ｎ４７３８
理右衛門(りえもん・須藤)→　*柳圃*(りゅうほ・須藤すどう、商家/儒者)　Ｆ４９５９
理右衛門(りえもん・河合)→　*風逸*(風乙ふういつ・河合、見風男/俳人)３８３４
理右衛門(りえもん・小笠原)→　*祇尹*(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人)１６７８
理右衛門(りえもん・宮永)→　*嘉告*(よしつぐ・宮永みやなが、藩士/郷土史)Ｅ４７６８
理右衛門(りえもん・早田)→　*簫山*(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者)　Ｊ２２３１
理右衛門(りえもん・柴田/宮城)→　*清行*(きよゆき・宮城/柴田、和算家)Ｑ１６３９
理右衛門(りえもん・後藤)→　*利朴*(りぼく・後藤ごとう、藩士/茶道/神職)Ｍ４９１５
理右衛門(りえもん・石野)→　*氏恒*(うじつね・石野いしの、藩士/国学)　Ｅ１２５２
理右衛門(りえもん・岩間)→　*宣道*(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人)　Ｆ３５８６
理右衛門(りえもん・小塙)→　*重一*(しげかず・小塙おはなわ、藩士/歌人)　Ｎ２１６６
利右衛門(りえもん・勝間)→　*龍水*(りょうすい・勝間かつま、絵師/書)　Ｉ４９３０
利右衛門(りえもん・伊勢屋)→　*正秀*(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人)４０１７
利右衛門(りえもん・浅井)→　*風睡*(ふうすい・浅井あさい、士/俳人)　３８８３
利右衛門(りえもん・新屋)→　*乙由*(おつゆう・中川なかがわ、俳人)　１４２０
利右衛門(りえもん・関)　→　*卜圃*(ぼくほ・関せき、俳人)　Ｄ３９８９
利右衛門(りえもん・松平)→　*康門*(やすかど・松平まつだいら、幕臣/和学)　Ｇ４５７１
利右衛門(りえもん・山口)→　*志道*(しどう・山口、国学者/神代学)　Ｖ２１２
利右衛門(りえもん・曾和/岨)→*良隠*(りょういん;法諱・温山;字、曹洞僧/篆刻)Ｇ４９２５
利右衛門(りえもん・清水/源)　→　*頑翁*(がんおう・清水、篆刻/書)　Ｄ１５４８
利右衛門(りえもん・浜崎)→　*景斎*(けいさい・浜崎はまざき、医者/歌人)　Ｎ１８６７
利右衛門(りえもん・堀内)→　*広城*(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者)　Ｆ３７７４
利右衛門(りえもん・堀内)→　*千園*(ちその・堀内、広城男/国学者)　Ｎ２８４９
利右衛門(りえもん・佐藤)→　*対雲*(たいうん・佐藤さとう、書家)　Ｊ２６０８
利右衛門(りえもん・小西)→　*長喬*(ながたか・小西こにし/井沢、歌人)　Ｍ３２０８
利右衛門(りえもん・小西)→　*長弘*(ながひろ・小西こにし/大原、歌人)　Ｍ３２０９
利右衛門(りえもん・鈴木)→　*迪吉*(みちよし・鈴木すずき、国学/歌人)　Ｊ４１３８
利右衛門(りえもん・吉田)→　*業忠*(なりただ・吉田よしだ、歌人)　Ｐ３２３２
利右衛門(りえもん・真佐木)→*元興*(もとおき・真佐木まさき、国学者)　Ｌ４４２６
鯉右衛門(りえもん・市江)→　*鳳造*(ほうぞう・市江いちえ、藩士/陶工)　Ｇ３９４２

4938　**理円**(りえん;法諱)　1662 － 1751*90歳*　安藝真宗本願寺派僧:知空門、草津の教専寺6世、「視聴記」著(;教専寺5世全禎の著作説がある)

4939　**鯉淵**(りえん・中川なかがわ/本姓;越智)1767−1832*66*　長門長府藩士;諸職歴任後;赤間関市令、1830致仕、儒者;長府藩儒小田済川門/江戸在勤中;古賀精里・倉成竜渚・陰山松桂園・細井平洲門、大阪で中井竹山・履軒・十時梅厓門、頼杏坪と交流、1822(文政5)「招魂帖」編、［鯉淵(;号)の名/字/通称/別号］名;好古、字;子信、通称;清左衛門、別号;涼斎
利円(りえん・葉室)　→　*教忠*(のりただ・葉室、廷臣/武将/連歌)　Ｅ３５９３
利延(りえん・浦上)　→　*利延*(としのぶ・浦上うらがみ、神職)　Ｕ３１３７
梨園(りえん・秋山)　→　*光彪*(てるたけ・秋山、国学/歌)　Ｃ３０７９
梨園(りえん・花岡)　→　*直弘*(なおひろ・花岡はなおか、国学/歌人)　Ｏ３２３８
理円(りえん・花山院)　→　*家定*(いえさだ・花山院かざんいん、廷臣/歌)　１１３５
理延(りえん;法名)　→　*輔平*(すけひら・鷹司たかつかさ/藤原、関白)　Ｃ２３９３

李園春色台(りえんしゅんしょくだい)→文京(ぶんきょう・花笠、合巻/歌舞伎作者)Ｆ３８０２
4940 **理翁**(りおう;号・川端かわばた、通称;理平治)?-? 江後期天保嘉永1830-54頃盛岡藩二子村肝煎、
博聞多識で郷里の子弟教育、村史「笑草」編纂
利往(りおう・土井) → *利往*(としゆき・土井どい、幕臣/故実家) Ｏ３１１２
利往(りおう・三浦) → *利往*(としゆき・三浦みうら、藩侍医/歌人) Ｗ３１５２
梨翁(りおう・宮本) → *天姥*(てんぼ・宮本、農業/俳人) Ｅ３０２５
李翁(りおう・駒木根こまきね)→ *投李*(桃李とうり、藩士/俳人) Ｉ３１０７
里鶯(りおう・役) → *尊閑*(たかやす・役えき、平賀、修験/古典) Ｎ２６５２
理翁(りおう) → *基教*(もとのり・鷹司/藤原、廷臣) Ｄ４４７８
驪翁(りおう・大島) → *完来*(かんらい・大島・富増、藩士/俳人) １５５５
離屋(りおく→はなれや・鈴木)→ *朖*(あきら・鈴木、国学/歌人) １０１３
4941 **李音**(りおん) ? - ? 京の俳人;樗良と親交、
1776樗良「誹諧月の夜」1句/77江涯「仮日記」1句入、
[秋の雨かぞふればやゝ二日かな](月の夜;37)
4942 **理恩**(りおん・松盛斎しょうせいさい、山田[;初姓]/関本、名;以貫)1806-78*73* 和泉堺華道家:上田広甫門、
のち松盛斎理遊門;理遊(姓;関本)の養嗣子、古流四代家元となる/法眼、
1853「生花松の志津玖」「盆景図」/59「生花口訣抄」「生花口訣抄標目」、「古流生花口訣抄」著、
「古流生花口伝秘録」「古流生花口伝秘録竹器」「竹花器図式」「桜の雫」著
[松盛斎理恩(;号)の通称] 茂樹
4943 **李下**(りか) ? - ? 江前期;江戸の俳人:芭蕉門、
芭蕉の深川の庵に一株の芭蕉を贈る;芭蕉庵の由来、1683其角「虚栗」/85風瀑「一楼賦」入、
1686芭蕉「初懐紙評註」入、86其角「新山家」入、88嵐雪「若水」歌仙入、1689「あら野」1句入、
1690其角「誰が家」百韻入、90嵐雪「其袋」入、98「続猿蓑」1句入、
[斗酒二百月見る世にぞ生まれけり](一楼賦)、
[餅つきや内にもをらず酒くらひ](あら野:巻五/歳暮)、
妻も俳人 → *李下が妻*(りかがつま、ゆき) ４９４４
籬霞(りか・小野) → *季顕*(すえあきら・小野おの/原田、庄屋/歌) Ｉ２３１７
梨花庵(りかあん) → *石鯨*(初世せきげい・梨花庵、俳人) Ｋ２４０１
梨花庵(2世りかあん) → *石鯨*(2世せきげい・岡村おかむら、俳人) Ｋ２４０２
4944 **李下が妻**(りかがつま、ゆき)? - 1688? 江戸の俳人;1688歳旦に発句、その秋没か?、
芭蕉の哀悼句[かづき伏す蒲団や寒き夜やすごき]、
「あら野」に去来の哀悼句[ねられずやかたへひえゆく北おろし]
夫 → *李下*(りか、俳人、深川庵に芭蕉を贈る)４９４３
4945 **李郭**(りかく・松村まつむら、泉里男)1728-75*48* 信濃諏訪の商家/俳人、曾良の遠戚、
1760(宝暦10)曾良50回忌追善集「乞食嚢こじきぶくろ」編刊、
[李郭(;号)の名/通称/別号]名;恒賀、通称;宥助/五右衛門、別号;随時庵、屋号;泉屋、
法号;顕誉祥瑞李郭居士
4946 **籬角**(りかく・東菊堂) ? - ? 江戸中期羽前山形の俳人、調和・不角の門流、
1762(宝暦12)「はつわらひ」編
理覚(りかく;法名) → *忠雅*(ただまさ・藤原、太政大臣/歌) Ｑ２６７８
理覚(りかく;字) → *心蓮*(しんれん;法諱・理覚、真言僧) ２２３１
理覚(りかく) → *後伏見天皇*(ごふしみてんのう、歌人) Ｄ１９６８
理覚(りかく;法名) → *師長*(もろなが・藤原、太政大臣/楽人) Ｈ４４６１
理覚(りかく;号) → *求仏房*(ぐぶつぼう、仁和寺僧) Ｅ１７６４
鯉角(李蠖りかく・細木) → *香以*(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人)１９７０
理覚院(りかくいん) → *円順*(えんじゅん・理覚院、天台僧) Ｅ１３９２
理覚院(りかくいん) → *亮海*(りょうかい;法諱・理覚院、天台僧) Ｌ４９３４
李下斎(りかさい) → *宗十郎*(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳人)２５１０
梨花坊(りかぼう) → *素練*(それん;号、僧/俳人) Ｂ２５３９
里歌乃(りかの・出口) → *妙泰尼*(みょうたいに;法諱・出口でぐち、歌) Ｊ４１７９

4947　理観(りかん;法諱、俗姓;安田)1635-9359　摂津兎原真言僧:摩耶山高野山修業;信竜門、
摂津大覚寺・播磨称名寺を復興、「月輪観法」「釈論聞書」「初発頓得鈔」、1674「秘密要鑑」著、
[理観(;初法諱)の別法諱/号]後法諱;増栄ぞうえい、号;深玄房、理智門空観

4948　理閑(りかん;通称・勝田かつた、名;寛僚)1641-172181　陸前仙台の医者/中条主膳の嫡孫、
仙台藩医、「勝田理閑方」著

4949　李完(りかん)　?-　?　豊後の生/京の俳人:1765「続瓜明月」編、
1768京中川の蝶夢庵の俳席に出座、「はちたたき」入、1772几董「其雪影」1句入、
[雪はみな地へしみこんで梅んめの花](其雪影;巻尾251/雪が解け梅に代る)

4950　璃寛(初世りかん・嵐あらし、2世嵐吉三郎、大璃寛、初世吉三郎男)1769-182153　大阪歌舞伎役者;立役、
風采・口跡に優れる;1821極上上吉、屋号;岡島屋、俳名;李冠、

4951　璃寛(2世りかん・嵐あらし、嵐徳三郎)1788-183750　大阪歌舞伎役者;初世猪三郎門、立役/1828襲名、
1832上上吉

利寛(りかん・前田)　→　*利寛*(としひろ・前田まえだ、藩主男/和学)　Ｗ３１４２
吏幹(りかん・忍海原/朝野)→　*鹿取*(かとり・朝野あさの、廷臣/詩人)　Ｃ１５６２
李冠(りかん;俳名)　→　*璃寛*(初世りかん・嵐あらし、歌舞伎役者)　４９５０

4952　理願(りがん)　?-　735　新羅より渡来の尼/大伴安麻呂邸に住、
坂上郎女に看護され病没、万葉三期:460挽歌題詞/461左注、
万葉八1633-3562の尼との関係及び739年没の家持妻[妾]との関係は不明(万三462-474)

M4913　利巌(りがん・櫟くぬぎ、)　1801 - 1869*69*　近江浅井郡田根村真宗大谷派の来生らいしょう寺住僧、
歌人;賀茂季鷹門、国学者、歌;[鳰のうみ]入、
[利巌(;法諱)の号]　号;幽柴庵ゆうさいあん

理記(りき・柳田)　→　*勝太郎*(かつたろう・柳田やなぎだ、藩士/歌)　Ｗ１５０７
利器(りき/としのり・恩田)　→　*仰岳*(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者)Ｎ１６４８
利器(りき・前田)　→　*利器*(としかた・前田、幕臣)　Ｓ３１８８
利季(りき/としすえ・三条)　→　*実顕*(さねあき・三条/転法輪三条/藤原、右大臣/日記)Ｋ２０６８
利起(りき・宇田)　→　*利起*(としおき・宇田うだ、儒者)　Ｍ３１１１
利起(りき・齋藤)　→　*徳元*(とくげん・齋藤さいとう、武将/俳人)　Ｋ３１６５
利記(りき・岩崎)　→　*利記*(としのり・岩崎いわさき、里正/歌人)　Ｕ３１３０
利熙(りき・堀)　→　*利熙*(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉)　Ｎ３１６２
利義(りぎ・井伊/土井)　→　*利義*(としのり・土井どい、藩主/詩人)　Ｎ３１３５
利義(りぎ・南部)　→　*利義*(としとも・南部なんぶ、藩主)　Ｎ３１０６
利義(りぎ・森川)　→　*利義*(としとも・森川もりかわ、歌人)　Ｔ３１４０
理義(りぎ・松田)　→　*三千雄*(みちお・松田、酒造業/俳/詩人)Ｂ４１２７
力囲斎(りきいさい)　→　*宗徧*(そうへん・山田やまだ、茶人)　Ｃ２５９０
力囲斎(りきいさい・神谷)　→　*松見*(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者)　Ｉ２２４７
力斎(りきさい・雲林院)　→　*玄仲*(げんちゅう・雲林院うじい、医者)　Ｏ１８３９
力三郎(りきさぶろう・今井)→　*道平*(みちひら・今井いまい、製陶家/歌・俳)Ｉ４１１１
力山(りきざん・木村)　→　*克敏*(かつとし・木村きむら/長野、国学/歌)Ｕ１５４６
力之(りきし・千村/千/村)→　*鴦湖*(がこ・千村ちむら、藩士/儒者)　Ｃ１５０１

4953　力所(りきしょ・桐山きりやま、名;震)1810-5849　江後期飛弾の商人/地誌家;飛騨の旧記遺文蒐集、
郷土史;「飛弾群鑑」「飛州志拾遺」「徜徉園力所詩抄」著、「飛騨遺乗合府」「三木家系図」編、
[力所(;号)の別号]　徜徉園しょうようえん

4954　力精(りきしょう;法諱)　1817 - 1879*63*　常陸那珂郡湊村真宗光泉寺に生、幼時より学問、
京西本願寺学林の曇竜門、若狭妙寿寺の栖城門、近江簗瀬村聞信寺に住、
桜田門外の変により井家領内の水戸人は糾問されるとのことで京浄教寺に避難、
摂津武庫郡源光寺に転住、終生学徒の教導に尽力、1879勧学、1850「天台四教儀聴記」著、
「文類聚鈔随聞記」「文類聚鈔聴記」「領解文論題」「易行品筆記」著、
[力精(;法諱)の通称/号/諡号]通称;仏力精、号;東海、諡号;発願院

力四郎(りきしろう・知久)　→　*文水*(ぶんすい・知久ちく/熊谷、歌人)　Ｉ３８４７
利喜次郎(りきじろう・岡田)→　*忠養*(ただやす・岡田、幕臣/下田奉行)　Ｒ２６０８

力信(りきしん・伊沢)　→　*蘭軒*(らんけん・伊沢いさわ、藩医/詩人)　Ｂ４８９３
4955　力助(力輔りきすけ・奈河ながわ)?-　?　江後期文政天保1818-44頃上方歌舞伎作者:
初世篤助門、1821(文政4)「阿波能鳴門白浪」「江戸花五枚錦絵」「紙起証天の網島」著、
1836(天保7)「鳴忠臣義士附録」著
力精(りきせい→りきしょう)　→　*力精*(りきしょう;法諱、真宗本願寺派僧)４９５４
4956　力蔵(りきぞう;通称・松枝まつえだ、名;時之、松枝時習の嗣)1833-1908*76*　陸前仙台藩能楽師、
大倉流大鼓方4世、代々広間番士/7両8人扶持、嗣の猛五郎から幸清流小鼓に変わる、
1844(天保15)「松枝氏家譜書上」著
力蔵(りきぞう・小島)　→　*有卿*(ゆうけい・小島こじま/川崎、藩医)　Ｂ４６３５
力蔵(りきぞう・朝倉)　→　*南北*(なんぼく・東西庵、狂歌/戯作)　３２３４
力蔵(りきぞう・熊谷)　→　*令徳*(よしのり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌)Ｍ４７５９
理喜蔵(りきぞう・山口)　→　*養生*(よしなり・山口、国学者)　Ｐ４７８２
理喜蔵(りきぞう・小室)　→　*信夫*(のぶお・小室こむろ、商家/政治家)　Ｉ３５４５
理吉(利吉りきち・升屋)　→　*琵琶彦*(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌)３７３１
理吉(りきち・玉楮)　→　*千畝*(ちうね・玉楮たまかじ、槐庵/漆工)　Ｍ２８８２
利吉郎(りきちろう・堀内)　→　*広城*(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者)　Ｆ３７７４
履吉(りきつ・座光寺)　→　*南屏*(なんぺい・座光寺ざこうじ、儒/医者)　Ｊ３２４０
力之進(りきのしん・水沢)　→　*清隆*(きよたか・水沢みずさわ、神職/国学)　Ｖ１６３７
力之助(りきのすけ・梅谷)　→　*眞滋*(ましげ・梅谷うめや、本陣/国学)　Ｏ４００２
利喜之助(りきのすけ・到津)→　*公著*(きみあき・到津いとうづ、神職)　Ｌ１６９８
4957　力丸(りきまる・鬼粒亭きりゅうてい/鬼拉亭きろうてい、松川為一/本姓奥おく)1774-1848*75*　大阪立売堀狂歌師、
鉄格子波丸門、1837「造物趣向種」編/43「絵本狂歌笑茸」編、絵師松川半山父、鬼烈亭望丸の師
力弥(りきや・三牧)　→　*秀胤*(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派)　Ｌ３７３３
4923　利休(りきゅう・千せん、田中与兵衛男)1522-91自刃*70*　和泉堺の納屋衆の家;1535以前に家督継嗣、
茶の湯;北向道陳・武野紹鷗門、南宗寺の大林宗套門;受戒、大徳寺派の禅に帰依、
1573(天正元)頃茶頭のひとりとして織田信長に出仕、のち豊臣秀吉に出仕、
1582(天正13)大徳寺山内で大茶会を主宰、秀吉の信任を得て政治上の機密に通ずる、
のち秀吉の不興を買う;1591堺に蟄居を命を受ける;京の自宅で自刃、
「千宗易献立」「利久目録」「喫茶活法奥儀集」「茶会式法宗易言上書」「利休百首」著、
1581「利休居士筆台子手前之伝」87「利休台子かざり様之記」「利休客之次第」著、
[利休(;号)の通称/別号/法名/法号]通称;与四郎、別号;抛筌斎/休翁、法名;宗易、
法号;抛筌斎利休宗易居士
4958　利求(りきゅう・青木あおき/or青山か)?-?　江中期正徳1711-16頃の和算家:荒木村英門、
1715(正徳5)「戯言算法」編
4959　利躬(りきゅう・坂本さかもと)1747-1811*65*　甲斐巨摩郡箕輪の俳人:稲後門、尺五と交流、
隆枝(八巻善太夫直喬)の甥、隆枝の七回忌追善句集「入梅の袖」跋文;出版にも尽力、
「逸見牧ひざくり毛」著、
[利躬(;号)の通称/別号]通称;喜兵衛、別号;厚菜亭/幸梅園/応時軒、法号;本光院
利躬(りきゅう・丸田)　→　*利躬*(としみ・丸田まるた、国学者/歌人)　Ｎ３１７９
4960　利牛(りぎゅう・池田いけだ、通称;利兵衛or十右衛門)?-?　江戸越後屋の手代/のち三井家支配人、
俳人:芭蕉門、1694「炭俵」共編(共に越後屋手代の野坡・孤屋と);95句(内発句17)入、
1693其角「萩の露」4吟歌仙入、98「続猿蓑」1句入、1701晩柳「放鳥集」野坡との両吟歌仙入、
[子は裸父ててはてゝれで早苗舟さなへぶね]、
(炭俵;百韻発句/てゝれは短い襦袢のででら姿/父子が舟で早苗を運び女達は田植え)、
[野はづれや扇かざして立ちどまる](芭蕉翁餞別)
4961　李牛(りぎゅう・小山こやま、雨譚男)?-1783　川柳作者、1781角力会に初出、
誹風柳多留・川傍柳かわぞいやなぎに入句、1783柳水「柳筥やないばこ二篇」;川柳・雨譚の追悼句あり、
[忘れたがいんぐわこくぶをかわされる](柳多留;一七)
利久右衛門(りきゅうえもん・荒巻)→　*中行*(なかゆき・荒巻あらまき、国学者)Ｇ３２２３
理教(りきょう)　→　*重誉*(朝誉ちょうよ、三論/真言/浄土僧)Ｋ２８０１

履郷(りきょう・松島)　→　*北渚*(ほくしょ・松島まつしま、儒/医者)　Ｄ３９４５
4964　**李郷**(りきょう/りごう・水谷みずたに)?-　?　狂歌作者:如瓶[走帆]門、
1737「狂歌種ふくべ」編、1736「絵本草の種」著
4965　**鯉郷**(りきょう・凉庵りょうあん)?　-　?　江戸の俳人、
1767「俳諧木の葉がき」(漸々舎巴十と共編/松柏堂板;江戸判者による高点付句集)
4966　**李郷**(りきょう・渡辺わたなべ、李亮男)1749-85*37*　越後岩船郡の素封家三左衛門家の生、俳人;父門、
父の桂車堂を継嗣/羽前米沢藩士となる、1772(明和9)「秋風集」編、
[李郷(;号)の別号]　松下堂/桂車堂2世
M4911　**吏恭**(りきょう・川尻かわじり、旧姓;吉村)1814-89*76*　飛騨吉城郡の国学者;田中大秀門、飛騨高山住
李喬(りきょう・三秀亭)　→　*忠寛*(ただひろ・本多、俳人)　Ｑ２６６９
李杏(りきょう)　→　*呉老*(ごろう、俳人)　Ｅ１９６０
李恭(りきょう・黒沢)　→　*登幾*(止幾とき・黒沢くろさわ、歌人)　Ｉ３１８６
里杏(りきょう・中田)　→　*威克*(たけかつ・中田なかた、藩士/国学)　Ｙ２６５５
里恭(りきょう/さとともの・曾爾/柳)→　*淇園*(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師)１６０３
里恭(りきょう・富川)　→　*玄嶽*(げんがく・富川とみがわ、儒者)　Ｉ１８２８
里恭(りきょう・小西)　→　*長喬*(ながたか・小西こにし/井沢、歌人)　Ｍ３２０８
利恭(りきょう・井上)　→　*利恭*(としやす・井上、幕臣/日記)　Ｎ３１９９
利恭(りきょう・赤沼)　→　*節山*(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者)　Ｅ２４３８
利恭(りきょう・吉田)　→　*利恭*(としたか・吉田よしだ、農業/歌人)　Ｗ３１９２
利亨(りきょう・酒井/土井)→　*利亨*(としなり/としなお・土井、藩主/詩人)Ｎ３１２５
利郷(りきょう・前田)　→　*利郷*(としさと・前田まえだ、藩主男/歌人)　Ｗ３１４１
理教(りきょう;字)　→　*重誉*(朝誉ちょうよ;法諱、三論/真言僧)Ｋ２８０１
狸橋(りきょう・森田)　→　*春郷*(はるさと・森田もりた、寺侍/国学者)　Ｋ３６９１
鯉橋(りきょう)　→　*豊彦*(とよひこ・岡本、絵師)　Ｒ３１４９
4968　**里暁**(りぎょう)　?　-　?　京の俳人;蕪村と遊び仲間/1782蕪村「花鳥篇」入、
[社家町しやけまちの門相似あひにたり山ざくら]、
(花鳥篇;80/社家町;神職の家並/年々歳々家も花も相似たり)
M4932　**利喬尼**(りきょうに)　1747　-　1831*85*　近江彦根の歌人:[彦根歌人伝・亀]入
4962　**里旭**(りきょく・中村なかむら、別号;緑桑園)?-?　江戸後期相模愛甲郡半縄の俳人:丈水門、
1802(享和2)「伝書」、「正風俳諧帖」「俳諧之稿草」著
利謹(りきん・南部)　→　*利謹*(としのり・南部なんぶ、歌/俳人)　Ｎ３１３２
利矩(りく→としのり・飯田)→　*篤老*(とくろう/あつおい・飯田、医者/俳人)　Ｌ３１６２
陸安斎(りくあんさい・神谷)→　*松見*(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者)　Ｉ２２４７
4969　**陸葦**(りくい・班竹堂)　?　-　?　尾張の俳人/浮世草子作者、
1710「俗枕草紙(僭上納言)」著
4970　**六翁**(りくおう・黒川くろかわ)　?　-　?　大阪の俳人;1691江水「元禄百人一句」入、
[夏中なつぢうの身持やよろづ御祓川みそぎがは](百人一句;88/夏越の祓をする川に流す)
陸翁(りくおう・依田)　→　*珍胤*(よしたね・依田よだ、宿脇本陣/国学)Ｐ４７９５
六雅(りくが・神谷)　→　*為政*(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌)　Ｓ２６７８
六牙院(りくがいん)　→　*日潮*(にっちょう;法諱・海音、日蓮僧)　Ｆ３３２０
陸岩(りくがん・中沢)　→　*鴻洲*(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学)　Ｊ１９５１
陸亀公(りくきこう;諡号)　→　*忠鼎*((ただかね・水野みずの/源/浅野、藩主/歌)Ｕ２６０８
陸其章(りくきしょう)　→　*修平*(しゅうへい・沼尻ぬまじり、書家)　Ｙ２１３０
六橋(りくきょう)　→　*信富*(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌)　Ｄ３５９４
4971　**六合**(りくごう、2世多賀庵)1723-1802*80*　安藝広島十日市の茶商、俳人:多賀庵風律門、
庵の多賀碑修復、母への孝心(頼惟完/惟柔編「藝備孝義伝」入)、篤老の師、
1797「瓠ひさご苗集」編(散佚)、刷物「唐からし」、84其両「昔の小簑集」/89素釣「こてふつか」、
1795一茶「たびしうゐ」入、
追善集;7回忌「きさらぎ集」(3世玄蛙編)/13回忌「其袋集」筵史編、
[すゝしさや膝のもとなる富士おろし](自筆の軸より)

[六合(:号)の通称/別号]通称;茶屋喜三郎、別号;多賀庵2世
4972 陸渾(りくこん・深山みやま、名;安良)?-1754 江中期越中今石動の儒者・詩人、
加賀金沢藩篠島家の家臣;1724金沢に移住、詩に長ず;藩主前田重熙に招聘され詩を披露、
「陸渾詩鈔」「壺峰先生詩集」「壺峰余草」「葛巻昌俊墓碑」著、
[陸渾(:号)の字/通称/別号]字;孟明、通称;嘉右衛門、別号;壺峰
陸斎(りくさい・神谷) → *松見*(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者) I 2 2 4 7
4973 陸之(りくし:号) ? - ? 江前期近江大津?の俳人;
1704(宝永元)撰集「奉納集」木節・貞普と3人で共編
4974 陸史(りくし・南坡菴) ? - 1782 江中期越中井波の代々醸造業と蔵宿を経営、
俳人:樗良門、1771「発句帖」73「まだら鴈」編、1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[雁の毛の斑まだらに雨の夜明かな](月の夜;44/家前の田をあさる雁の羽の斑模様)、
[陸史(;号)の通称] 高瀬屋兵次郎/のち高瀬屋与右衛門
陸子(りくし・竹中/市岡)→ *陸子*(みちこ・市岡、猛彦たけひこの妻/歌人)B 4 1 4 6
六師園(りくしえん) → *高敏*(たかとし・三井みつい、商家/国学) D 2 6 2 1
六種庵(りくしゅあん、六種園)→ *巨石*(きょせき・関本せきもと、学者/俳人) P 1 6 7 3
4975 陸舟(りくしゅう・上田うえだ、名;望、善淵男)?-1852 伊予西条の儒者;1824昌平黌入;古賀侗庵門、
父の跡を継嗣;伊予西条藩士/侍講、詩文に長ず、「窮堅堂詩稿」「竜吟遺稿」著、
[陸舟(;号)の字/通称/別号]字;士幹/中秋、通称;格之助、別号;愚渓
陸舟庵(りくしゅうあん・石川)→ *良信*(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人) F 4 7 7 2
六勝園(りくしょうえん) → *広海*(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳)H 3 7 2 1
六水(りくすい) → *六水*(ろくすい、俳人) B 5 2 0 1
陸助(りくすけ・岡田) → *溪志*(けいし・岡田おかだ、地誌家) F 1 8 8 3
4976 陸成(りくせい) ? - ? 俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[鳥一むれわたるか月のうす曇り](月の夜;25)
4977 六石(りくせき・奥村おくむら、名;任)1823-84*62* 土佐藩士/儒;吉田東洋門、仕置役兼大目付役、
1858(安政5)江戸より帰郷後著述に専念、「秋灯騰史」著、
[六石(;号)の字/通称]字;致遠、通称;又十郎
六石(りくせき・県) → *信緝*(のぶつぐ・県あがた、家老/日記) C 3 5 0 6
六石園飯持(りくせきえんめしもち、狂歌)→ *直胤*(なおたね・正宗まさむね、国/俳)B 3 2 6 2
六石[陳人](りくせき[ちんじん])→ *冲堂*(ちゅうどう・片山、儒者) G 2 8 6 7
陸仙(りくせん・桑原) → *鷲峰*(しゅうほう・桑原くわばら、儒者) I 2 1 2 8
4978 陸叟(りくそう・妻木つまき、石川玄春男)1768-1842*75* 越前福井藩医妻木宋伯の養嗣子;1784家督嗣、
1791上京/楢林由仙・川越大亮門;瘍科と傷寒論を修学、本草学;小野蘭山門、
1796(寛政8)藩主松平治好の侍医、1805済世館設立により学監兼講官となる、1828致仕、
准侍医長を命ぜらる、福井藩本草学の祖と称される/歌を嗜む、「秋陽随筆」「春秋精義」、
「素問精義」「傷寒論精義」「論語精義」「本草精義」「群書砕錦」著、「越州物産志」校訂、
歌;松平慶永(春嶽)「古今百人一首入」(1861刊)、
[寝る蝶の花にむつれし夢の間にあはれ幾世の春は経にけり](古今百人一首;64)、
[陸叟(;号)の幼名/名/字/通称/法号]幼名;八十太、名;**直**ただし、字;子方/士方、
通称;秋陽/宗雲/栄輔、法号;百弁院
六窓(りくそう) → *六窓*(ろくそう/りくそう・橘庵、俳人) 5 2 9 6
六朝史童(りくちょうしどう) → *黄山*(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) G 1 9 3 4
4979 陸沈(りくちん・水野みずの)1783- 1854*72* 美濃大垣藩士/儒者;経史百家の書に通ず、
算術;日比野良為門、大垣藩校致道館創設時に講官、藩主侍講・藩主書庫管掌役を務める、
尊王派;門下に尊王精神鼓舞、安藤就高の師、「四書度量考」「日本外史附録」「二倫軽重」著、
「陸沈遺稿」、
[陸沈(;号)の名/別号]名;民興、別号;訥斎
陸沈軒(りくちんけん) → *草寿*(宗寿そうじゅ・南部なんぶ、儒者) B 2 5 7 8
陸沈斎(りくちんさい) → *文鳴*(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1
陸沈斎(りくちんさい) → *宗真*(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6

4980 **陸沈亭**(りくちんてい・高野たかの、名;世竜)1760-1802*43* 常陸久慈郡太田村の医者/立原翠軒らと交流、
翠軒の推挙により1791(寛政3)水戸藩御目見格となる/1799水戸藩出仕;藩士、
八田郡の郡奉行、1789「蝦夷談」99「富強六略」1800「籠田の水」、「孝婦阿夏伝」「芻蕘録」、
「陸沈亭詩稿」「孝子喜代太郎墓碑銘」著、
[陸沈亭(;号)の字/通称/別号]字;子隠、通称;昌碩/文助、別号;千比呂ちひろ
陸沈洞(りくちんどう) → *是水*(ぜすい・荒木あらき、書家) K２４６４

4981 **六如**(りくにょ:字・慈周じしゅう:法諱、医者苗村なむら介洞男)1734-1801*68* 近江八幡の天台僧;1744叡山、
観国門;得度/江戸寛永寺・武蔵川越喜多院住/1757京の善光院住職/一時削籍;
1772(安永元)召還され京の正覚院主/82京の白雲教寺住;近江柏原成菩提院主を兼任、
詩人:彦根の野村東皐門/南宋陸游に私淑;宋詩を鼓吹、宋詩唱導の祖、
妙法院宮眞仁法親王に寵遇、伴蒿蹊・大典・井上金峨・村瀬栲亭・皆川淇園・小沢蘆庵と交流、
1749「浄信堂講録」1783-1823「六如庵詩鈔」83「放生功徳集」86「円頓章合記句解柏原記」、
1787・1804「葛原かつげん詩話」/1796「生白楼記」、「六如淇園和歌題百絶」「六如菴慈周尺翰」、
「十春詞」「随宜楽院大王画像記」「大乗起信論条目」「弥陀経新要解柏原抄」外著多数、
[慈周六如の号]白楼/無着庵、苗村なむら子柔しじゅう(當剛)の兄

4982 **陸馬**(りくば・岡島おかじま、別号;若水庵)?-? 江後期寛政1789-1801頃江戸の俳人:2世平砂門、
1794「俳諧百千鳥」編、「俳諧百人一句」編
陸夫(りくふ・林) → *陸夫*(みちお・林はやし、国学/歌人/軍人) K４１１４
六不庵(りくふあん) → *吐丈*(とじょう・六不庵、浄土僧/俳人) O３１１８
陸方山(りくほうざん;号) → *庸徳*(つねのり・奥田/穎川えがわ、質商/陶工)D２９１５
陸民(りくみん・佐々木) → *親覧*(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B２８８５

4983 **陸夜**(りくや・南みなみ) ? - ? 元禄享保1789-1801頃の越後直江津の俳人:
蕉風俳諧を修学、涼兎・露川と交流、1704(元禄17)「藁人形」編(許六の序)
[陸夜(;号)の別号] 会木かいぼく/南会木
利久弥(陸弥りくや・福島)→ *秋郷*(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人) I１０３６
六幽書楼(りくゆうしょろう) → *東山*(とうざん・青木、儒者/詩) E３１６４
利九郎(りくろう・山田) → *道貞*(みちさだ・山田やまだ、文筆家) B４１５４
六湾(りくわん・林) → *也籟*(やらい・林はやし、俳人) E４５５３

4984 **李渓**(りけい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」8句入
[古池に鷺のよごれぬ田螺たにし哉](蓮実;164/田螺とる鷺の白い羽毛は汚れない)

4985 **狸兄**(りけい・高月たかつき、別号;春暁館)?-1762 伊予吉田の豪商;法華津ほけつ屋三引家3代目、
問屋業・海運業を営む/代々町年寄を勤める、俳人:淡々門系浦川富天門、
「延享元年六月廿五日交席」編/1745(延享2)太宰府神前で通夜歌仙を興行、
芭蕉ゆかりの伊勢神宮・奥州の旅;1754「存おもひのほかの日記」著、「棗亀」「歳暖集」入集、
[仏にもならて涼しき庵哉](句碑)

4986 **里桂**(りけい・竹越たけごし、漁光男)?-? 陸奥津軽郡深浦の回船問屋小浜屋の生;継嗣、
庄屋、町年寄を務める、俳人:大高千円門/上京し五升庵蝶夢門、諸国行脚;
加賀の千代尼と交流、1767深浦宝泉寺境内に父と翁塚建立、
師千円の追悼「ふつくえ」「高砂子」編(千円の息子杏円と共編刊)、
[里桂(;号)の通称/別号]通称;久左衛門、別号;嘯月斎、

4987 **李渓**(りけい) ? - ? 淀の俳人;1776几董「続明烏」入
[軒遠く手を離れたる蛍哉](続明烏;甲262)、1691「蓮の実」入の李渓と同一?

4988 **李谿**(りけい・荒木あらき、名;廷喬、字;陳衍ちんえん/伯遷、蘭皐男)1736-1807*72* 摂津池田の儒者:
田中桐江門、懐徳堂入;中井甃庵門、詩;混沌社友、画;如春齋門、
1777父蘭皐「雞肋集」弟梅閭と共編、
「梅里嬉戯」「梅里小草」、「西灘草」「間居雑興」「漢朝文武名臣画讃」「熙朝詩選」「東雅」著、
[李谿の通称/別号] 通称;吉太郎/善右衛門、別号;商山/梅里/北山、法号;皓誉幽雲

4989 **里渓**(りけい・長谷川はせがわ/初姓;水町)1768-1845*78* 肥前佐賀藩士;御船頭/御掛硯方を勤める、
その功績により手明鑓に就任、俳人:美濃派宗匠として活躍/二蝶園華眠に文台を授与、
1815其翠25回忌追善集「濃古留華」編、追善集「誘ふ杜宇」、

[里渓(;号)の名/別号]名;敬貞、別号;交簾舎/浣花園
4990 李徑(りけい・隣山居:別号、文魚の弟)?-1852　肥前本部の俳人:美濃派、兄と共に上京、
鎌倉・江戸を経て奥州松島を行脚、肥前佐賀の美濃派宗匠雲左の13回忌追善集編纂中に没、
「残菊集」「旅笠集」著
4991 梨渓(りけい・窪田くぼた、名;茂遂しげつぐ、茂承男)1817-77*61* 出羽米沢藩士、詩人;山田蠖堂門、
1848(嘉永元)古賀茶渓に随い長崎に遊学;ロシア艦に接す、1865藩校興譲館の提学に就任、
1843(天保14)「三余堂詩抄」/54「長崎日記」、「長崎日記略抄」「梨渓詩集」「梨渓百首」外著多、
[梨渓(;号)の通称]　宮蔵/源右衛門
利啓(りけい・巨勢)　→　*利啓*(としのり・巨勢、幕臣/歌人)　Ｎ３１３１
利敬(りけい・南部)　→　*利敬*(としのり・南部なんぶ、藩主)　Ｎ３１３６
李渓(りけい・上野)　→　*彦馬*(ひこま・上野、日本初の写真業)　３７７５
李蹊(りけい・山科)　→　*宗安*(そうあん・山科やましな、侍医/墨竹)　２５４６
李蹊(りけい・黒瀬)　→　*淳*(じゅん・黒瀬くろせ、国学者)　Ｏ２１３５
里卿(りけい・松村)　→　*政勝*(まさかつ・松村まつむら、名主/代官/歌)Ｓ４０７３
理卿(りけい・南合/駒井)→ *晩翠*(ばんすい・駒井、儒者)　Ｉ３６１９
理卿(りけい・皆川)　→　*葵園*(きえん・皆川みながわ、儒者)　Ｉ１６４３
4992 李鯨(りげい・賀嶋かしま、巴雲男)?- ?　豊後岡の俳人:淡々門の父と俳諧活動、
1777父(1775隠退し大坂で宗匠)没;父の追善集1783「昨非集」編
4993 理慶尼(りけいに・松葉姫、勝沼次郎五郎信友女)?-1611 甲斐の生/武田勝頼の乳母、
武田信玄の側室?、雨宮家に嫁す;父信友が謀反の罪で討れたため婚家から離縁、
柏尾大善寺の慶紹阿闍梨に就き剃髪;尼となる(法名;理慶)、
「理慶尼の記」著
4901 履軒(りけん・中井なかい、甃庵2男)1732-1817*86*　大阪の漢学者:兄竹山と共に懐徳堂の五井蘭洲門、
1767(明和4)私塾水哉館を開塾、兄と違い社交を好まず市井で経学を研究し一家を成す、
1804兄の遺言で懐徳堂の講席を担当;学主となる、和文・歌・書に長ず、山片蟠桃の師、
「古詩逢原」「七経雕題」「七経逢原」「老子雕題」「荘子雕題」「世説雕題」「昔々春秋」著、
「百首贅々」「しがらみの記」「履軒和文集」「履軒越吟」「履軒古韻」「履軒古風」外著多数、
[履軒(;号)の名/字/通称/別号]名;積徳せきとく、字;処叔しょしゅく、通称;徳二とくじ、
別号;幽人/天楽楼主人、諡号;文清先生
4994 理軒(りけん・福田ふくだ、名;泉/字;士銭/子銭、商人太兵衛男)1815-89*75*　大阪和算;武田眞元門、
師と論争、和/洋算、1837「雨窓算艸」編/55「算法利足速成」、56-68「測量集成」、
「算法開方通理」外著多数、
維新後順天堂求合社設立;不振、金塘きんとう(暦算家)の弟/明あきら・半はんの父
[理軒の通称/別号]通称;理八郎/主計/主計介/左近/謙之丞/鼎、初称;本橋惟義もとはしこれよし、
別号;竹泉/順天堂、
4995 履軒(りけん・木村きむら、名;良)1818-93*76*　紀伊名草郡内海村の儒者、加茂流の書家、
篆刻・茶道にも通ず、1843(天保14)「臨池清談」編
[履軒の字/通称/別号]字;貞卿、通称;平右衛門、別号;大譲/三霞
利見(りけん;初法諱)　→　*徳見*(とくけん;法諱・竜山;道号、臨済僧)Ｋ３１６３
利見(りけん・前田)　→　*重靖*(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌)　Ｒ２１９６
利見(りけん・羽田)　→　*利見*(としみ・羽田はねだ/藤原、幕臣/歌)　Ｔ３１３３
利見(璃顕りけん・山田)　→　*遠貫*(とおつら・山田、医者/国学)　Ｗ３１８６
利賢(りけん・斎藤)　→　*利賢*(としかた・斎藤さいとう、伊豆守/武将)Ｔ３１６０
利謙(りけん・土井)　→　*利謙*(としかた・土井、藩主/鷹狩)　Ｍ３１２０
利憲(りけん・寺崎)　→　*梅坡*(ばいは・寺崎てらさき、儒者)　Ｂ３６９５
利堅(りけん・堀)　→　*利堅*(としかた・堀ほり、幕臣/大目付)　Ｍ３１２２
梨軒(りけん・細野)　→　*亘*(わたる・細野ほその、藩士、国学者)　５３８７
L4974 利玄(りげん、仁和寺)　? -　?　江前期;京仁和寺の住僧、俳人、
1673西鶴「生玉万句」神送脇句/柳発句等入、
[霜に朽せぬ金の草鞋わらんづ](生玉万句;神送脇、

発句清勝;西へ散る木の葉や神の旅ごろも)
4996 李原(りげん・山本やまもと、2世仏兄さとえ)?-? 大阪の俳人:鬼貫門;高弟/紹廉門、
1744鬼貫追善集「俳諧むなくるま」編(星行序・桃貫跋);李原独吟歌仙など入、
[風めくる花よ紅葉よむな車](むなくるま歌仙発句)
4997 離言(りげん;法諱) ? - ? 江中期安永天明1772-89頃紀伊和歌山の真言僧、
歌人:紀三井寺に歌塚建立、「浜の真砂」著
離言(りげん;字) → *猷空*(ゆうくう;法諱・離言、口阿/浄土僧)Ｂ４６３１
理源大師(りげんだいし) → *聖宝*(しょうほう;法諱、真言修験僧) Ｂ２２５６
4998 理交(りこう・橋爪はしづめ、別号;方丈丸)?-? 江中期遠江二俣の俳人:1758「ゑぼしやま」書
4999 李康(りこう) ? - ? 大阪の俳人;1776几董「続明烏」1句入、
[飢ゑし鵜の篝かがりかき消す早瀬哉](続明烏;甲254/綱が絡まり火が落ちる)
B4900 吏舡(りこう・杉本すぎもと、正保男)1749-1819*71* 伊勢一之木の神職;内宮一頭職、
外宮月読宮御炊物忌/守見物忌を奉仕;正六上、俳人:乙由門、1778「塚のさま」編、
1783-1818「伊勢歳旦」編、
[吏舡(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;巌千代、名;正備、通称;宗太夫、
別号;3世麦雨斎
B4901 李曠(りこう・服部はっとり) ? - 1865 尾張下之一色の生/幅下六句町に出て綿商経営、
俳人:芝石門、1843(天保14)「萩のたきさし」著、
[李曠(;号)の通称/別号]通称;綿屋林右衛門/綿屋林左衛門、別号;祥雲舎/棗池そうち
里紅(りこう・佐野) → *廬元坊*(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) ５２０３
里光(りこう・柳沢) → *里之*(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) Ｋ２０５７
利光(としみつ・前田) → *利常*(としつね・前田まえだ、藩主/日記) Ｍ３１９２
利光(りこう→としみつ・前田)→ *利常*(としつね・前田まえだ、藩主/日記) Ｍ３１９２
利光(りこう・富川) → *玄嶽*(げんがく・富川とみがわ、儒者) Ｉ１８２８
利行(りこう・山田) → *利行*(としゆき・山田やまだ/源、歌人) Ｔ３１７０
利恒(りこう・土井) → *利恒*(としつね・土井どい、藩主) Ｍ３１９７
利恒(りこう・長井) → *利恒*(としつね・長井ながい、幕臣/歌人) Ｘ３１４６
利厚(りこう・前田) → *斉広*(なりなが・前田まえだ、藩主/謡曲) Ｈ３２８８
利厚(りこう・土井) → *利厚*(としあつ・土井どい、藩主/建議書) Ｍ３１０３
利高(りこう/としたか・前田)→ *光高*(みつたか・前田まえだ、藩主/儒学/歌)Ｄ４１７２
利候(りこう・前田) → *斉泰*(なりやす・前田、藩主/謡曲/狂歌) Ｅ４０３８
利亨(りこう・酒井/土井)→ *利亨*(としなり/としなお・土井、藩主/詩人) Ｎ３１２５
利興(りこう・三宅) → *松庵*(しょうあん・三宅みやけ、儒者/教育) Ｇ２２５９
理光(りこう;法名) → *光頼*(みつより・葉室/藤原、廷臣/歌人) Ｆ４１２５
B4902 利合(りごう) ? - ? 江戸の俳人;芭蕉門、1693洒堂「深川」芭蕉と歌仙入、
1694野坡「すみだはら」芭蕉と13吟歌仙/1700杉風「冬かつら」歌仙入、
1604岱水「木曾の谷」杉風と歌仙入、1694炭俵4句/98続猿蓑3句入、
[朝臾あさがほや日傭ひよう出て行く跡の垣](炭俵;下/日雇労働者は朝が早い)
利剛(りごう・南部) → *利剛*(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) Ｔ３１７７
理光庵(りこうあん) → *光昭*(こうしょう;法諱、本願寺12世) Ｊ１９７４
理綱院(りこういん;諡号) → *恵琳*(えりん;法諱、真宗大谷派僧) Ｅ１３３６
B4903 利国(りこく) ? - ? 近江長沢の俳人;1691「元禄百人一句」目録入
利国(りこく・吉田) → *利国*(としくに・吉田よしだ、藩士、地誌) Ｍ３１３５
狸谷(りこく・石井) → *砕石*(さいせき・石井いしい、藩士/記録) Ｇ２０８５
B4904 李佐(りさ・伊藤いとう、伊藤満寛の妻)?-?1776前没*40弱* 越前福井の歌人:夫伊藤満寛門、
書を嗜む、「袖乃露」著
M4921 りさ(・永田ながた、号;かぜ)1774-1834*61* 讃岐香川郡石清水尾八幡神社祠官永田実苞さねもとの妻、
歌人
E4974 理西(りさい・藪内やぶうち) ? - ? 京の狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、
[極楽の金こがね座敷は尻ひえん只行くべきは地獄釜ぞこ](古今夷曲集;十釈教)

B4905 **履斎**(りさい・大月おおつき/本姓;藤原)1674-1734*61*　伊予大洲の儒者:浅見絅斎門;闇斎学を修学、
1715(正徳5)伊予松山藩儒、「燕居偶筆」「小学口義」著、三賀玄瑞・片桐省斎・松田東門の師、
[権ヲ取ル人モ イツマデモ威勢アリト思フハ大おおいナル分別違ちがいナリ](燕居偶筆)、
[履斎(;号)の名/字] 名;吉廸(よしみち)、字;正蔵

B4906 **履斎**(りさい・栗崎くりさき、庄助3男)1700-81*82*　肥後熊本藩家老米田家の家臣/儒者:藪慎庵門、
さらに大塚退野門、中小姓/読書指南/奉行役を歴任、儒学教授、1770(明和7)隠居、
「米田氏世系」著、
[履斎(;号)の名/字/通称/別号]名;時亮、字;士欽、通称;伝五郎/正五郎/善右衛門、
別号;竜渓/一枝、法号;桂岸一枝信士

B4907 **履斎**(りさい・山口やまぐち、春水の長男)1726-97*72*　母;若林強斎女、若狭小浜藩士;1748家督継嗣、
1770御納戸逼迫につき御用座帰役/儒者、1788「余慶編」著、岡畏斎・山口風簷の兄、
[履斎(;号)の名/通称/別号]名;安定やすさだ/重遠しげとお、通称;東十郎/治兵衛/次兵衛、
別号;野水、重遂・重迪(;嗣)の父

B4908 **理斎**(りさい・志賀しが、名;忍しのぶ)1762-1840*79*　幕臣;代々伊賀者として出仕;病と称し応ぜず、
勉学に励み官吏登用試験に及第;長崎奉行所の筆官となる/文政1818-30頃江戸城奥詰、
1832(天保3)江戸城金奉行に就任、経史・国典に通ず/狂歌を嗜む、山水を愛し各地行脚、
1799「理斎旅日記」1800「理斎帰路旅日記」23「理斎随筆」40「理斎翁子弟戒」著、
「真間紀行」「日光紀行」「衣更着紀行」「長崎旅日記」「理斎日新録」「理斎戯筆」「我菴話」著、
「埋木物語」「燕雀談」「堪忍の守」「座間狂歌集」「座間狂文集」「座間滑稽古」「筆塵」外著多数、
[理斎(;号)の字/通称/別号]字;子堪、通称;鍋太郎/理助、
別号;天鶏山人/牛渚/我楽多老人/潤身堂/叡北山樵、法号;元是院
息子;宮川政運 → *政運*(まさかず・宮川、随筆)　Ｂ４０７８
柳川重信 → *重信*(2世しげのぶ・柳川、絵師)　Ｃ２１７５
原徳斎 → *徳斎*(とくさい・原、儒者)　Ｋ３１７２
利済(りさい・南部) → *利済*(としただ・南部なんぶ、藩主)　Ｍ３１７２
利済(りさい・滝川) → *南谷*(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人)　Ｊ３２００
利済(りさい・大久保) → *利通*(としみち・大久保、藩士/新政府樹立)Ｒ３１７８
利哉(りさい・後藤) → *利哉*(としや・後藤ごとう、藩士/国学/歌)　Ｎ３１９６
理斎(りさい・稲富) → *直家*(なおいえ・稲富/大江、砲術家)　３２６９
里宰(りさい・加藤) → *艮斎*(こんさい/ごん-・加藤/伊丹、里正/儒)Ｇ１９１４

B4909 **利在**(りざい)　？－　？　室町期連歌作者;1452「宝徳千句」参加
理左衛門(りざえもん・松本)→ *定好*(さだよし・松本まつもと、槍術家)　Ｋ２０２１
理左衛門(りざえもん・松本)→ *定良*(さだよし・松本、定好の裔/槍術家)Ｋ２０２５
理左衛門(りざえもん・矢沢)→ *賢陶*(まさすえ・矢沢/滋野、庄屋/詩歌)Ｃ４０８４
利左衛門(りざえもん・小此木)→ *紅磧*(こうせき・小此木おこのぎ、俳人)　Ｋ１９０９
利左衛門(りざえもん・渡辺)→ *昭*(あきら・渡辺わたなべ、歌人)　Ｉ１０８３
利左衛門(りざえもん・佐藤)→ *正興*(まさおき・佐藤さとう、和算家)　Ｂ４０４３
利左衛門(りざえもん・五富利)→*言足*(延足のぶたり・五富利ごふり、御師代官/国学)Ｉ３５４６

C4962 **利作**(理作りさく・久保くぼ)1841-1906*66*　讃岐(中笠居村)の人;公共事業に尽力、
「香西浦鯛網元始由来」著
理作(りさく・林/飯島) → *為仙*(ためのり・飯島/林、名主/歌人)　Ｈ２６３３

B4910 **里三郎**(りさぶろう・清岡きよおか/本姓;菅原、名;**道香**みちか)1803-78*76歳*　陸奥花巻の国学者:長岡長材門、
本居大平門、三輪家入門、のち盛岡に住;歌・書画・生花・茶道に通ず、
「陸奥方言」「梅廼屋雑記」「金華山考」「千代廼加多美」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[まさきくて我も常磐に朝さらず友と見さけむ向津峰の松](八十浦;1036寄松祝)
[里三郎(;通称)の字/別通称/号]字;是三、別通称;土佐/常陸、号;梅坡/梅坡楼
利三郎(りさぶろう・座光寺)→ *南屏*(なんぺい・座光寺ざこうじ、儒/医者)　Ｊ３２４０
利三郎(りさぶろう・栗田) → *寛*(ひろし・栗田、国学者)　Ｆ３７９５
利三郎(りさぶろう・辻) → *嵐外*(らんがい・辻つじ/山本、俳人)　Ｂ４８６５
利三郎(りさぶろう・大内) → *清衛門*(清右衛門せいえもん・大内、問屋/藩士)Ｈ２４４５

利三郎(りさぶろう・金森) → *世竹*(せいちく・金森かなもり、俳人) Ｊ２４２１
理三郎(りさぶろう・松平) → *信古*(のぶひさ・松平/間部/大河内、藩主/記録)Ｃ３５９７
理三郎(りさぶろう・黒木) → *貞中*(さだなか・黒木くろき、藩士/軍法) Ｊ２００２
理三郎(りさぶろう・清村) → *寛*(かん・清村きよむら、儒者/記録) Ｐ１５８５
理三郎(りさぶろう・古沢) → *康伯*((やすのり・古沢、藩士/槍術家) Ｉ４５７３
理三郎(りさぶろう・佐藤) → *北溟*(ほくめい・佐藤さとう、絵師/国史) Ｄ３９９８

B4911 **理珊**(りさん・佐藤さとう、名;益直)1807-66*60* 陸前仙台藩医:1839「療隙叢課」編
理三(りさん・松川) → *鶴麿*(つるまろ・松川/平、医者/歌) Ｅ２９６８
利三(りさん・斎藤) → *秀麿*(ひでまろ・斎藤/藤原、国学者) Ｄ３７８４
利山(りさん・難波) → *利三*(りぞう・難波、三弦)

4963 **里山**(りざん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入、
[かたみなり二度の別れよをく扇](二葉之松322、秋に人と扇との別れ)

B4912 **李山**(りざん・伊藤いとう、弥次右衛門男)1696-1764*69* 出羽庄内の大庄屋;早く父没;叔父が家督嗣、
叔父も死没し絶家;1720(享保5/25歳)添川組大庄屋に復す/1726田沢組大庄屋に転ず、
1735(40歳)出家;俳諧に専念、惟然に随い諸国行脚、「楽縁記」/1729「老樹談」著、
[李山(;号)の通称] 豊四郎/文四郎/文右衛門、梅義(歌人;「万年草」著)の父

B4913 **理山**(りざん・三津みつ、蓮光寺住職琢成の長男)1799-1877*79* 近江神崎郡北町屋の真宗蓮光寺の生、
1807(9歳)得度/08(文化5)真宗仏光寺派蓮光寺14世、宗学;叔父の近江光林寺住職玄珠門、
のち京の海印寺宜然門、さらに天台律師慧超門/詩;中島棕隠門/歌;香川景樹門、
勤王の志士と親交、法印大和尚に昇進;本山で入出二門偈の講義、1872教導職訓導、
1876大講義となる、「仏光寺門跡系譜」著、
[理山(;法諱)の号] 徳水/遊心閣
李山(りざん:俳名) → *源内*(げんない・平賀、談義本/浄瑠璃作者等)１８２８
李山(りざん・安陪) → *恭庵*(きょうあん・安陪/安部、医/史家) Ｎ１６１５
李山(りざん・佐藤) → *政養*(まさやす・佐藤さとう、蘭学/測量) Ｉ４０１０
李山(梨山りざん・橋野) → *輝珍*(てるよし・橋野はしの、商家/国学) Ｆ３０１９
鯉山(りざん) → *豊彦*(とよひこ・岡本、絵師) Ｒ３１４９

K4987 **驪山人東阿**(りさんじんとうあ)? - ? 播州三日月の狂歌作者;1785「後万載集」2首入、
[よしつねはくはれぬそばのあつ盛をくまかへ給へひらに平山](後万載;408、
詞書;津の国敦盛そばの店にてかたへの人にさゝやき侍り、
常なら食えない盛り蕎麦をひらにかえてください;義経・敦盛・熊谷・平山秀重を掛る)

B4914 **理子**(りし、みちこ/まさこ/よしこ?)?- ? 南朝女流歌人/従二位、新葉集982、
[いかにせんわが心のみつき草のはな色衣恨みわびつつ](新葉;十五恋982)

L4971 **離思**(りし) ? - ? 俳人;一昌門、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[涼み人も後は棹とる小船哉](丁卯集/三涼;船涼)

B4915 **履視**(りし・向井むかい、名;由予)1753-1827*75* 讃岐高松藩士/文化1804-18頃京藩邸留守居役、
俳人:蒼虬門、「日本名家句集」著、
[履視(;号)の通称/別号]通称;郡助、別号;秉心堂へいしんどう
里之(りし・柳沢) → *里之*(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) Ｋ２０５７
利視(りし・南部) → *利視*(としみ・南部なんぶ、藩主/俳人) Ｎ３１７８

B4916 **利治**(りじ) ? - ? 京俳人;1633重頼「犬子えのこ集」入、前田利太としたかと同一?
[夕だちに虹の銘打つ雲井かな](犬子集;三904/虹に二字の刀の銘を掛ける)

B4917 **利次**(りじ) ? - ? 俳人;1678常矩つねのり常牧らと四十四よよし6吟;「ねざめ」入
☆京の歌人菅原利次としつぐと同一?
利治(りじ・前田) → *利太*(としたか・前田まえだ、武将/日記) Ｍ３１１７
利治(りじ・中野) → *利治*(としはる・中野なかの、国学者) Ｖ３１９１
利次(りじ・菅原) → *利次*(としつぐ・菅原すがわら、歌人) Ｘ３１１２
利次(りじ・塩見) → *利次*(としつぐ・塩見しおみ、藩士/記録) Ｍ３１８６
梨柿園(りしえん) → *信徳*(しんとく・伊藤、商家/俳人) ２２４２
梨柿園(りしえん) → *令徳*(りょうとく・鶏冠井かえでい、俳人) ４９２２

履視斎(りしさい)　→　*温故*(おんこ・平井/熊野、藩士/地誌)　Ｄ１４４２
利七(りしち・雛屋)　→　*立意*(りゅうい・多田ただ、商家/俳人)　Ｃ４９７３
利質(りしつ・中山)　→　*利質*(としただ・中山、楠木正成研究)　Ｍ３１７３
B4918 **履実**(りじつ・ふみざね・和智わち、東郊[1703-65]男)?-?　長門萩の儒者;父門、
「東郊先生文集」編(;父の詩文遺稿)、「遺徳談林」編(藩主毛利宗広逸話集;父の口述を筆記)
利子内親王(りしないしんのう)→ *式乾門院*(しきけんもんいん)　Ｑ２１０３
李尺(りしゃく・河野)　→　*涼谷*(りょうこく・河野、醸造業/俳人)　Ｈ４９５１
利寿(りじゅ・斎藤)　→　*利寿*(としひさ・斎藤さいとう、歌人)　Ｔ３１５４
梨守庵(りしゅあん)　→　*八水*(はっすい・梨守庵、俳人)　Ｆ３６２５
理趣院(りしゅいん)　→　*尋憲*(じんけん;法諱、法相僧/門跡)　Ｏ２２２４
B4919 **李収**(りしゅう)　?-?　山城伏見の俳人;1776几董「続明烏」1句入、
[一夜づゝ闇になりゆく踊かな](続明烏490/満月から月末まで続く盆踊り;
闇に向かう気象と行事終了の心の淋しさ)
B4920 **里舟**(りしゅう・豊川とよかわ、別号;豊里舟)?-?　洒落本作者;1782「登美賀遠佳とみがおか」、
黄表紙数種;清長画
李秀(りしゅう)　→　*自笑*(2世じしょう・八文字屋、書肆/浮世/俳)Ｔ２１８３
理秀(りしゅう・稲川)　→　*理秀*(まさひで・稲川いながわ/藤原、神職)　Ｎ４０７２
利秋(りしゅう・豊原)　→　*利秋*(としあき・豊原とよはら、楽人;笙)　Ｌ３１８８
里秋(りしゅう・加藤)　→　*歩簫*(ほしょう・加藤かとう、国学者/俳人)　Ｅ３９２７
B4921 **利重**(りじゅう)　?-?　尾張の俳人;1686「春の日」1句/89「あら野」2句入、
[海鼠腸このわたの壺埋うづめたき氷室哉](あら野;巻五/夏に好物の海鼠腸を食べたい)
B4922 **李充**(りじゅう・加藤かとう、名;清雄、歩簫男)1778-1849*72*　飛騨高山の国学(家学)/俳諧;父門、
1827父没後私塾を継承;門弟指導、1827「よしなし草」編/「柏翁句集」「李充文草」著、
[李充(;号)の通称/別号]通称;正次郎/小三郎、別号;蘭亭/柏翁/雲橋社
利充(りじゅう・吉田)　→　*利充*(としみつ・吉田よしだ、農業/歌人)　Ｋ３１９９
利重(りじゅう・秋尾)　→　*利重*(ししげ・秋尾、藩士/剣術)　Ｍ３１６０
利十郎(りじゅうろう・鈴木)→　*重篤*(しげすず・鈴木すずき、国学者)　Ｚ２１０９
利十郎(りじゅうろう・谷井)→　*直方*(なおかた・谷井たにい、窯元/国学)　Ｎ３２７９
理十郎(りじゅうろう/まさじゅうろう?・長沼)→　*詮政*(あきまさ・長沼、和算家)　Ｄ１０８９
李樹散人(りじゅさんじん)　→　*篤好*(あつよし・井上いのうえ、神道家)　Ｅ１０９５
B4923 **梨春**(梨春りしゅん・後藤ごとう、名;光生/光寧、多田義方男)1697-1771*75*　江戸の蘭学者;田村藍水門、
本草家;後藤姓/1760大阪浄安寺の物産会参/躋寿館都講;本草学を講義、談義本を執筆、
1728「河豚禅」29「春秋七草」/30「古今沿革考」/52「都老子みやころうし」(4巻;堂蘭渓挿画)、
1752「都老子みやころうし」(4巻;堂蘭渓挿画)、54「竜宮船」63「甘藷記」65「紅毛談」、69「震雷記」編、
「梧陰閑談」「尺八志」「随観写真」「日本伝略」「芭蕉行状記」「燧石嚢」「百花譜」「和産目録」、
「本草綱目補物品目録」「経学策」「大便経」「調辨道」「珍刀図」「天錦攷」「合擥ごうらん本草」、
[梨春(;字)の通称/号]通称;太仲/太冲たいちゅう、
号;梧桐庵/梧陰庵/伍陰庵/桐庵/名張なばり湖鏡こきょう/張朱鱗
利春(りしゅん・高向)　→　*利春*(としはる・高向たかむこ、廷臣/歌人)　Ｎ３１４０
利春(りしゅん/としはる・木下)→　*台定*(きんさだ・木下、藩主/文教奨励)　Ｒ１６０２
利春(りしゅん・加田)　→　*利春*(としはる・加田かだ、藩士/歌人)　Ｕ３１６５
L4986 **理準**(りじゅん・平松ひらまつ)1796-1881*86歳*　美濃安八郡出身の真宗大谷派僧;高倉学寮で宗学修学、
詩;頼山陽・江戸の大窪詩仏門、国学;黒川春村・香川景樹・井上文雄・富樫広蔭門、歌人、
1840(天保11)武蔵品川の正徳寺23世住職、尊王派、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いたづらに椿咲き散るやぶがくれ声うちくもり山鳩の鳴く](大江戸倭歌;358春鳥)、
[理準(;法諱)の字/通称/号]字;密乗/麗天/清嵓せいがん/学半、通称;常護院、
号;小自在庵/雲石/南園
李順(りじゅん・田代)　→　*簡窩*(かんか・田代たしろ、家老/儒者)　Ｑ１５０２
利淳(りじゅん・花園)　→　*賢蔵*(けんぞう;法諱、真宗大谷派学僧)　Ｋ１８７１
利諄(りじゅん・田中)　→　*利諄*(としあつ・田中たなか、歌人)　Ｖ３１５１

利順(りじゅん・山川)　→　*利順*(としのぶ・山川やまかわ、国学者/歌)　Ｗ３１８２
利純(りじゅん・出口)　→　*利純*(としずみ・出口でぐち/吉田、歌人)　Ｍ３１６４
利純(りじゅん・大村)　→　*純熙*(すみひろ・大村、藩主/兵学)　Ｄ２３９６
離准房(离准房りじゅんぼう)→　*恵範*(けいはん・六地蔵寺3世、真言僧)　Ｇ１８５６
B4924 **里女**(りじょ/りにょ、[里の女の意]、姓名不詳)?-?　美濃養老郡上石津村字牧田の俳人;
1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
[君が春や祝ふ雛鶴ひなづるのちいよちよ]
B4925 **里松**(りしょう・三朝舎)　?-　?　江戸住の俳人:玄武坊門、
1799「玄武庵和詩集」編、「墨なをし」著
利章(りしょう・栗山)　→　*大膳*(だいぜん・栗山、藩家老/黒田騒動)Ｋ２６５０
利章(りしょう)すべて　→　*利章*(としあき)
利昌(りしょう・児玉)　→　*利昌*(としまさ・児玉こだま、藩士/兵法家)　Ｖ３１１８
利昌(りしょう/としまさ・前田)→　*正甫*(まさとし・前田/松平/菅原、藩主)　Ｅ４０４５
利昌(りしょう/としまさ・山領)→　*梅山*(ばいざん・山領やまりょう、藩士/儒者)　Ｂ３６３０
利渉(りしょう・前川)　→　*虚舟*(きょしゅう・前川まえかわ、篆刻家)　Ｐ１６６５
利渉(りしょう・森)　→　*儼塾*(げんじゅく・森もり、医者/漢学)　Ｅ１８９１
利渉(りしょう・児島)　→　*利渉*(としただ・児島こじま、国学者)　Ｖ３１１７
利勝(りしょう・土井)　→　*利勝*(としかつ・土井どい、藩主/大老)　Ｍ３１２５
利尚(りしょう・吉田)　→　*利尚*(としなお・吉田、歌人)　Ｎ３１１２
理性(りしょう;字)　→　*賢覚*(げんかく;法諱・理性、真言僧)　Ｉ１８２１
理勝(りしょう;法名)　→　*基忠*(もとただ・鷹司/藤原、関白/歌人)　Ｃ４４９１
鯉昇(りしょう・和田)　→　*邦孝*(くにたか・和田わだ、酒造業/歌人)　Ｅ１７６１
鯉沼(りしょう・富田)　→　*道彦*(みちひこ・富田とみた、地役人/詩歌)　Ｊ４１８７
履昌(りしょう・祇園)　→　*南海*(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画)　３２３０
4902 **鯉丈**(りじょう・滝亭りゅうてい、姓;池田)?-1841(*60余歳没*)　元旗本池田家養子/一説に為永春水の兄?、
江戸下谷広徳寺門前住の櫛屋/縫箔屋・乗物師の説、浅草伝法院門前/駒形町河岸通へ移転、
戯作者;滑稽本作者、新内節の三味線の名手、遊芸に長じた寄席芸人、
1811-23三馬「浮世床」3編/33三馬「人間万事虚誕計にんげんばんじうそばっかり後編」著(;三馬の嗣作)、
1817(文化14)「栗毛後駿足くりげのしりうま」(処女作;一九膝栗毛の亜流)
1819-22「明烏後正夢あけがらすのちのまさゆめ」(初-3編)著(為永春水と合作:人情本の祖)、
1820-49「花暦八笑人」/23-45「和合人」26「霊験浮名の滝水」/30-31「女小学」著、外著多数、
[滝亭鯉丈(;号)の幼名/通称/別号]幼名;八蔵、通称;八右衛門、別号;都八造、
法号;釈観居士
利上(りじょう・大伴)　→　*利上*(としかみ/とかみ・大伴、万葉歌人)　Ｍ３１３０
利常(りじょう・前田)　→　*利常*(としつね・前田まえだ、藩主/日記)　Ｍ３１９２
理常(りじょう;字)　→　*円我*(えんが;法諱、俗姓;森井、真言僧;詩文)Ｕ１３００
理性気求(りしょうききゅう)　→　*気求*(ききゅう・大和田、書肆/国学)　１６９０
L4985 **理照尼**(りしょうに・津田つだ)?-　?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[あかなくに眺め暮せば梅が香の袂たもとにさへも深くしむかな](大江戸倭歌;春126)、
[思ふどち語る雨夜のほととぎす名のらば声のしなさだめせむ](現存百人一首34)
B4926 **李晨**(りしん)　?-　?　美濃岐阜の俳人、1689「あら野」2句入、
[麻の露皆こぼれけり馬の路みち](あら野;巻四/背丈以上の麻葉の露が馬の響で落ちる)
B4927 **履信**(りしん・酒井さかい)　?-　?(1844-48頃没:*61歳*)　江後期上総長生郡関村の名主、
「高根唱和集」編、
[履信(;号)の名/通称/別号]名;弘、通称;兵三郎、別号;枕流舎
利眞(りしん・櫛田)　→　*利眞*(としまさ・櫛田くしだ、脇本陣/郡長)Ｖ３１０３
履信(りしん・向井)　→　*元端*(げんたん・向井、去来の兄/医者)　Ｆ１８０２
履信(りしん・奥村)　→　*忠順*(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人)　Ｗ２６３５
里信(りしん・根本)　→　*鶴銭*(かくせん・根本ねもと、藩士/俳人)　Ｋ１５１５

里仁(りじん・村尾)　→　*景美*(かげよし・村尾むらお、国学者)　Ｖ１５９０
利人(利刃りじん・後藤)　→　*利哉*(としや・後藤ごとう、藩士/国学/歌)　Ｎ３１９６
離塵(りじん;法名)　→　*善秀*(ぜんしゅう・内記ないき、僧/国学者)　Ｏ２４３４
L4988 **履信一**(りしんいち;検校)　？－　？　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[磯近く寄せては返す浦波にみるめもからでぬるる袖かな](大江戸倭歌;恋1412)
B4928 **里水**(りすい・柳沢やなぎさわ)　？－　？　江後期武蔵川越の俳人、1730年代「歳旦帖」編、
[里水(;号)の通称/別号]通称;甲左衛門、別号;青柳舎/鶯台
B4929 **里翠**(りすい・菅、通称;喜右衛門/別号;松毬庵しょうきゅうあん)?-?　美作真庭郡勝山の俳人、
1814芭蕉句碑を勝山阿弥陀堂に建立(のち明徳寺に移転):その記念撰集を編纂、
1810(文化7)「俳諧色葉集」編、「無塵集」著
離数堂(りすうどう)　→　*定清*(さだきよ・服部、俳人)　Ｂ２０８２
B4930 **利輔**(りすけ・並木なみき)　？－　？　江中期歌舞伎作者:並木宗輔門、
1752(宝暦2)頃より上方作者として並木十輔・永輔らと合作/晩年は江戸に赴く、
1758「誉武者千里勝鬨」63「竹篦太郎怪物談記」67「十六夜名残容見」72「三千世界商売往来」、
1773「松下嘉平次連歌評判」74「一富玉盤顔見勢」「和布苅神事」外著多数
B4931 **理介**(りすけ;通称・村田むらた、名;正興、正容の長男)1808-65斬首*58*　常陸水戸藩士;1818家督嗣、
馬廻役・大番頭歴任/1842東郡奉行;1854反射炉築造の奉行を務める、
1864(元治元)/天狗党乱勃発後の藩内対立時に水戸藩主目代宍戸藩主松平頼徳に随う;
那珂湊で諸生党と戦い幕府軍に降伏;同年禁固/翌年1865斬首、「国難始末」著
利助(理助りすけ・西沢/正本屋)→　*一鳳軒*(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者)１１２６
利助(利介りすけ・深野屋)→　*公忠*(きみただ・深野ふかの/小泉、書肆)　Ｍ１６０３
利助(利介りすけ→としすけ・梅田)→　*利助*(利介としすけ・梅田、歌舞伎作者)Ｍ３１６２
利助(りすけ・松本)　→　*秀業*(ひでなり・松本まつもと、神職/歌人)　Ｄ３７５３
利助(りすけ・扇屋)　→　*千里亭*(せんりてい・藪虎;号、書肆/狂歌)Ｇ２４８１
利助(りすけ・平塚)　→　*飄斎*(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人)　Ｆ３７２４
利助(理助りすけ・一東)　→　*実雄*(さねお・一東いっとう、文筆家)　Ｋ２０７６
理助(りすけ・黒木)　→　*貞中*(さだなか・黒木くろき、藩士/軍法)　Ｊ２００２
理助(理介りすけ・田中)　→　*止邱*(止丘しきゅう・田中/田、儒者)　Ｂ２１５８
理助(りすけ・片山)　→　*恒斎*(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者)　Ｆ１９０３
理助(理介りすけ・富田)　→　*長洲*(ちょうしゅう・富田とみた、藩士/儒者)　Ｉ２８７２
理助(りすけ・志賀)　→　*理斎*(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌)Ｂ４９０８
理助(りすけ・和泉屋)　→　*篤成*(あつしげ・花岡なはおか、商家/国学者)Ｉ１０２９
里介(りすけ・松本/池田)→　*可候*(かこう・一筆庵、渓斎英泉、絵師/戯作)１５１３
M4912 **里勢**(利勢りせ・桜井さくらい、初名;ルイ)1750-94*45*　信濃飯田の生/伊那郡山本村の桜井要親の妻、
歌人;澄月門(夫と同門)、義母桜井知栄尼は歌道師範、桜井道考みちたか(1765-1837)の母
B4932 **李井**(りせい・吉田よしだ)　？－1803　信濃松代藩士/俳人:白雄門、
「松かさり並古かゝみ」編、「李井点取帖」著、
1755;巴人13回忌追善「夜半亭発句帖」に雁宕らとの百韻入、
没後;9回忌追善「さくら念仏」(息子阿喜良が葛三の援助で編纂刊行)、
[李井(;号)の通称/別号]通称;源左衛門、別号;鶉旭亭じゅんきょくてい
利清(りせい松田)　→　*利清*(としきよ/のりきよ・松田、俳人)　Ｍ３１３１
利清(りせい)　→　*利清*(としきよ/のりきよ、狂歌)　Ｓ３１８１
利清(りせい)　→　*利清*(としきよ/のりきよ・池田、俳人)　Ｔ３１１８
利生(りせい・高麗/林)　→　*葛廬*(かつろ・林はやし、幕府儒官)　Ｏ１５０４
利正(りせい・南部)　→　*利正*(としまさ・南部なんぶ、藩主/俳諧)　Ｎ３１７１
利正(りせい・加藤)　→　*空山*(くうざん・加藤かとう、儒者/隠士)　Ｃ１７２１
利正(りせい・堀)　→　*利正*(としまさ・堀ほり、幕臣)　Ｎ３１７０
利正(りせい・桐生)　→　*利正*(としまさ・桐生きりゅう、歌人)　Ｖ３１００
利世(りせい・久保)　→　*利世*(としよ・久保くぼ、神職/茶人)　Ｏ３１１５

利成(りせい・前田)　→　*利明*(としあき・前田まえだ、藩主)　Ｌ３１９０
利政(りせい・石川)　→　*利政*(としまさ・石川いしかわ、幕臣/魯使節)　Ｎ３１７４
利声(りせい・前田)　→　*利聲*(としかた・前田まえだ、藩主/国学)　Ｗ３１４３
履正(りせい・福村)　→　*履正*(ふみまさ・福村ふくむら、絵師)　Ｅ３８０３
理正(りせい→としまさ・会田)→　*利明*(理明としあき・大原/会田、和算家)Ｌ３１９５
理政(りせい・梅園)　→　*惟朝*(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学)Ｆ１９９８
李青(里声りせい)　→　*政辰*(まさとき・浅井、藩士/俳人)　Ｅ４０３７
李井庵(りせいあん)　→　*存義*(初世ぞんぎ・馬場、俳人)　Ｅ２５７３

B4933 **李夕**(りせき・佐川さがわ)　? - ?　江中期出羽の俳人;
芭蕉撰稿本「芭蕉庵三日月日記」を所持/初め出羽の呂丸が請受け呂丸没後李夕が愛蔵、
支考が刊行企画;1730「三日月日記」支考・李夕共編(:鶴岡連中の羽黒山芭蕉塚建立記念)

利積(りせき・生駒)　→　*魯斎*(ろさい・生駒いこま/岡野、家老/詩歌/兵学)Ｂ５２５２
里席(りせき)　→　*蓼太*(りょうた・大島/吉川、俳人)　４９２０
里席(りせき・堀田)　→　*連山*(れんざん・堀田ほった、絵師)　Ｂ５１１０
理石(李尺りせき・河野)　→　*涼谷*(りょうこく・河野、醸造業/俳人)　Ｈ４９５１

B4934 **梨節**(りせつ)　? - ?　俳、1688-1704頃「反古ざらへ」編;歌仙など入

B4935 **利雪**(りせつ・中野なかの、通称;与兵衛)?-?　伊賀上野の俳人、1691「猿蓑」/98「続猿蓑」各1句入、
[初ざくらまだ追々おひおひに咲けばこそ](猿蓑;巻四)

B4936 **梨雪**(りせつ)　? - ?　俳人、1692常牧「冬ごもり」四吟歌仙入/序を執筆

李雪斎(りせっさい)　→　*机鳥*(きちょう・李雪斎、俳人)　Ｂ１６４８

L4979 **利仙**(りせん・北岑きたみね)　? - ?　江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第九雪第三句入、
[蝋燭のたつ間遅しと春待ちて](雪第三句、
脇句正察;霜月師走流れ行く年/流れ行くに蝋燭を付る)

B4937 **里泉**(りせん)　? - ?　江中期享保1716-36頃近江長浜の俳人、
1726「民の秋」編、「臂枕」編、1760刊「俳諧浜荻」編

B4938 **驪川**(りせん・草加くさか、名;親賢)?-1790　備前岡山の儒者:伊藤蘭嵎門、
安永1772-81頃和泉堺に住、「読詩随筆」「読書随筆」「読儀礼」「凉話」「寒話」「玉箒」著、
「与々軒詩文集」、1767「東儀」著、二柳じりゅう「氷餅集こおりもちしゅう」の序執筆、山口美啓よしひろの師、
[驪川(;号)の字/通称/別号]字;玉衡/公輔、通称;与八/五郎左衛門、別号;与々如軒
法号;与々如軒穆風義扇居士

B4939 **里仙**(りせん・小泉こいずみ)　? - ?　江後期寛政1789-1801頃上州吾妻郡の俳人、
「みよの春草」著

里川(りせん・竹下)　→　*草丸*(くさまる・竹下、俳人)　Ｃ１７４０

B4940 **吏全**(りぜん、初号;長禄)　? - ?　越中井波俳人:浪化[常照1671-1703]集団で活動、
「浪化日記」1699一門百韻入

B4941 **理然**(りぜん・紙屋かみや)1701 - 1763*63*　尾張名古屋赤塚の紙商/俳人:巴静門;師の跡継承、
1747「月塚雅筵」編/48(寛延2)「六々庵発句集」編(;師の句集)、1754「梶の葉音」編、
1758「戊寅天新」編、1746-56「歳旦」編、
[理然(;号)の通称/別号]通称;紙屋理兵衛/紙屋九郎助、別号;南空/南空坊/如是庵

B4942 **履善**(りぜん;法諱・信修;字、仰誓男)1754-1819*66* 父仰誓は伊賀の真宗本願寺派明覚寺の僧、
1765父と共に石見浄泉寺入/1767安藝報専坊の慧雲門;真宗学を修学、
安藝の憲仲・備後の霊昌の異義を論破、1798浄泉寺住職を善法に譲渡;隠居、
智洞の三業帰命説を批判;三業さんごう惑乱論争の端緒を作る、1809私塾無成館創設;
子弟教育/後進指導、没後;勧学を追贈、1786「浄土論滞」1812「以呂波説」13「韋提得忍義」、
1816「阿弥陀経紀聞」、「小倉百詩」「浄土論註義枢」「真宗安心甄正論」「鵬溟文集」外著多数、
[履善(;法諱)の号] 鵬溟/兼信斎/芳淑房、諡号;芳淑院

履善(りぜん・熊谷)　→　*箕山*(きざん・熊谷、儒者/詩人)　Ｉ１６５６
履善(りぜん・吉成)　→　*信貞*(のぶさだ・吉成よしなり、藩士/記録)　Ｂ３５４９
履善(りぜん・宮北)　→　*直方*(なおかた・宮北みやきた、藩士/漢学)　Ｐ３２００

理全(りぜん;字)　→　*日理*(にちり;法諱・転心院、日蓮僧)　Ｄ３３５５
李瞻麟照(りせんりんしょう)　→　*探元*(たんげん・木村/平、絵師)　Ｔ２６４０
李叟(りそう)　→　*一鳳軒*(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者)　１１２６
梨棗(りそう・羽間)　→　*昌光*(まさみつ・羽間はざま/井岡/村上、商家/国学)Ｒ４０５６
B4943 **利三**(りぞう/りさん[利山]・難波なにわ)?-?　1704-1736頃一中節三絃の名手
理蔵(りぞう・青木)　→　*彊斎*(きょうさい・青木あおき、藩士/国学者)Ｓ１６１４
離巣窟南林(りそうくつなんりん)→*順永*(じゅんえい;法諱・楚璞、真宗大谷派僧/俳人)Ｌ２１２３
履霜軒(りそうけん)　→　*一雄*(かずお・恵藤えとう、国学/歌人)　Ｃ１５１６
李窓主人(りそうしゅじん)　→　*厚載*(あつのり・金子かねこ、藩士/測量/歌)Ｅ１０７９
梨窓陳人(りそうちんじん)　→　*他山*(たざん・工藤/古川、藩士/儒者)　Ｅ２６６０
離側軒(りそくけん)　→　*以守*(ゆきざね・本保ほんぼ、藩士/暦学者)　Ｅ４６４９
鯉村(りそん・大田)　→　*俶*(しゅく・大田おおた、漢学/詩人)　Ｉ２１５７
B4944 **李岱**(りたい・姓;生)　?-　?　江後期江戸小石川の俳人;
1801-4「五万才ごまんさい」初-五篇撰、俳人老狐ろうこの父
利太(りたい・前田)　→　*利太*(としたか・前田、城主/日記)　Ｍ３１１７
利泰(りたい・小野)　→　*利泰*(としやす・小野おの、国学者)　Ｕ３１４４
利卓(りたく・前田)　→　*利太*(としたか・前田まえだ、武将/日記)　Ｍ３１１７
理琢(りたく・菅)　→　*政友*(まさとも・まさすけ・菅かん、儒/国学者)　Ｅ４０７８
利太夫(りだゆう・山本)　→　*通春*(道春みちはる・山本やまもと、詩歌人)　Ｃ４１２９
理大夫(りだゆう・竹本)　→　*義太夫*(ぎだゆう・竹本)　１６１８
理太夫(利太夫りだゆう・淡輪/橘)→*常樹*(恒樹つねき・橘/長谷川/淡輪、国学者)Ｃ２９００
理太夫(りだゆう・矢畑)　→　*直方*(なおかた・矢畑やはた、神職/国学)　Ｐ３２１３
李太夫(りだゆう・増田)　→　*顕忠*(あきただ・増田ますだ、陪臣/和学者)　Ｉ１０４３
李太夫(りだゆう・岡田)　→　*顕忠*(あきただ・岡田おかだ、幕臣/書家/歌)Ｇ１０６３
利太郎(りたろう・小川)　→　*眞澄*(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶)　Ｏ４００６
利太郎(りたろう・堀内)　→　*千稲*(ちしね・堀内ほりうち、庄屋/商家/歌)Ｎ２８４８
B4945 **利旦**(りたん・喜多村きたむら)?-　?　江前期近江の医者/京に住:按摩業、法橋、
1648(慶安元)「導引体要」編/1713刊「導引体要附録」著
履端(りたん・小林)　→　*蒲渓*(ほけい・小林/源/井上、医者)　Ｅ３９１１
履担斎(りたんさい)　→　*棟*(たかし・松浦まつら、藩主/兵法家)　Ｌ２６９４
履端斎(りたんさい、履端軒)→　*碩庵*(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人)　Ｊ２４９１
履端斎(りたんさい)　→　*碩庵*(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人)　Ｊ２４９１
理智院僧正(りちいんのそうじょう)→　*隆澄*(りゅうちょう;法諱、真言僧/僧正)Ｆ４９２１
理智院法印(りちいんほういん;号)→　*海恵*(かいえ;法諱、真言僧)　１５８８
B4946 **里竹**(りちく)　?-　?　姫路俳人;1692才暦「椎の葉」1句入、
[朝顔を好すけと隠居に言はれたり](椎の葉;134/早起きせよとの警告)
B4947 **里竹**(りちく・岡部おかべ/修姓;岡、尹里男)?-?　江中期岩代伊達郡藤田の俳人:父門、松雨の孫、
親子三代でこの地の俳諧に尽力、1763(宝暦13)「時雨集」編、「俳筵」著、
[里竹(;号)の別号]　酒量鄽しゅりょうてん
理智房(りちぼう)　→　*仁源*(にんげん・理智房、天台僧)　Ｇ３３３２
理智門空観(りちもんくうかん)→　*理観*(りかん;初法諱・増栄;法諱、真言僧)４９４７
B4948 **里仲**(りちゅう・鯰橋亭)　?-　?　江中期享保1716-36頃肥後熊本の俳人:孟遠門、
湖東彦根派の俳諧を修学、1718芭蕉没25年記念「鯰橋なまづはし」編(;孟遠の序)
B4949 **里仲**(りちゅう・高木たかぎ/中村)?-　?　江中期大阪歌舞伎作者:並木正三・永輔らと合作、
1748-55(寛延宝暦)頃活動、1749「男作養老滝」50「薄雪遊撰染」51「三人嬢系図鉢木」、
1752「雲隠三途の月見」53「中富三大臣」54「昔絵双紙葛籠男」55「村烏廓音鼙」外著多数
B4950 **李中**(りちゅう・大貫おおぬき、松濤舎、杜哉[1742-1809]3男)?-?　江後期羽前の商家の生/俳人、
桃渓の弟、1812父追善集「二日月」編
吏中(初世りちゅう)　→　*吐月*(とげつ・飯島、俳人)　Ｌ３１６３
吏中(2世りちゅう・石中堂)→　*斑象*(3世はんぞう・中山、俳人)　Ｉ３６３４

里仲(りちゅう・吉田)　→　*薄洲*(はくしゅう・吉田よしだ、儒者/詩)　Ｄ３６２４
利忠(りちゅう・度会)　→　*利忠*(としただ・度会わたらい、神職/歌人)　Ｘ３１３２
利忠(りちゅう・梅津)　→　*利忠*(としただ・梅津うめづ、藩士/兵法)　Ｍ３１６９
利忠(りちゅう・河内)　→　*利忠*(としただ・河内、狂歌)　Ｓ３１８２
利忠(りちゅう・西脇)　→　*利忠*(としただ・西脇、和算家)　Ｍ３１７０
利忠(りちゅう・志筑)　→　*辰一郎*(たついちろう・志筑しづき/しつき、通詞)Ｒ２６５４
利忠(りちゅう・豊田)　→　*利忠*(としただ・豊田とよた、地誌家)　Ｍ３１７４

B4951 **履中天皇**(りちゅうてんのう、仁徳天皇皇子)?-?記64歳/紀70歳　母;磐之媛、記紀歌謡3首

L4904 **李朝**(りちょう・柴田しばた、風羅堂5世)?-?　江中期備後福山俳人;野坡門流、
福山風羅堂5世を継承、1789素釣「こてふつか」95花県「尾華うつし」、
1797魯白「遠山の雪」(蝶夢追善)/98「萩むしろ」入
[松に帆に凉しさかきりなかりけり](福山王子山境内句碑)

B4952 **里長**(初世りちょう・鳥羽屋とばや、里の都いち)?-?　上総出身;盲目/江戸で三味線;鳥羽屋三右衛門門、
里の都と名乗る/1781富本豊前太夫の脇三味線/1783常磐津兼太夫の三味線方となる、
作曲者;1784「積恋雪関扉」(2世岸澤式佐と合作)/「幾菊蝶初音道行」/「子宝三番叟」作曲、
利長(りちょう)　すべて　→　*利長*(としなが)
利朝(・若林)　→　*利朝*(としとも・若林、農学家)　Ｎ３１０３
利鬯(りちょう・前田)　→　*利鬯*(としか・前田まえだ、藩主/歌人)　Ｗ３１４０
鯉迢堂(りちょうどう)　→　*丁知*(ていち・村林/高柳、札差/俳人)　３０４４
利直(りちょく・関/野口)　→　*在色*(ざいしき・野口/関、材木商/俳人)　２０８０
利直(りちょく・加藤)　→　*雪湖*(せっこ・加藤かとう、俳人)　Ｋ２４８６
里椿(りちん・椿)　→　*月杵*(げっしょ・椿つばき、俳人)　Ｈ１８０９

B4953 **立**(りつ・畠山はたけやま)　？－　？　江後期儒者;常陸水戸藩儒、
常陸真壁の桜月波の立案をもとに義倉条約を編纂;1841(天保12)「真壁義倉条約」編

B4954 **栗**(りつ・北本きたもと、石黒信易2男)1832-86*55*　代々越中射水郡高木村の村役人・郡役人の家、
祖父石黒信由は有名な和算家、高岡の北本家を継嗣、1853富山藩絵図方手伝、
1859江戸で和算・測量術:内田五観門、帰国;新田才許役・射水郡書記を歴任、
維新後;石川県会議員;地租改正に尽力、1863「弧三角法醇」「弧三角法醇問答」著、
「求積通解」「開成算法円理豁術表」「精要上下巻解」「二儔十字環起源解」外著多数、
[栗(;名)の字/通称/号]字;行之、通称;与三八よそはち/半兵衛/半造、号;竜湖/知仰楼
立(りつ・杏)　→　*凡山*(はんざん・杏きょう、儒者)　Ｈ３６８３
立(りつ・隅田)　→　*圭峯*(けいほう・隅田すみだ、商家/詩/月琴)Ｇ１８６７
立(りつ・吉田)　→　*元卓*(げんたく・吉田よしだ、医者)　Ｋ１８９５
立(りつ・木村)　→　*松軒*(しょうけん・木村きむら、医者/儒者)　Ｉ２２４４
立(りつ・森田)　→　*甫三*(甫参ほさん・森田もりた、医者/詩)　Ｅ３９１６
栗(りつ・谷口)　→　*陶渓*(とうけい・谷口、藩士/歌人)　Ｄ３１１９
栗(りつ・山崎/高橋)　→　*復斎*(ふくさい・高橋/山崎、藩儒/詩文)　Ｂ３８５３
栗(りつ・渡辺)　→　*三休*(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒)　Ｍ２０００
栗(りつ・添川)　→　*廉斎*(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者)　Ｂ５１０８
律(りつ・栗原)　→　*大橋*(おおはし、一素の妻/喬木尼、歌)　Ｃ１４８２
立阿(りつあ)　→　*立阿*(りゅうあ、連歌作者)　Ｃ４９６３

B4955 **立庵**(りつあん・堀ほり、名;正英、杏庵男/本姓;菅原)1610-62*53*　母;茅原田貞正女、安藝広島藩儒;
父杏庵が尾張名古屋藩に招聘されたため1634父代行として京住のまま広島藩出仕、
1648法眼、「黙桃摘藁」著/「韋編啓譜」編、忘斎・孤山の兄、槐庵・蒙窩・蘭皐の父、
[立庵(;号)の通称/別号]通称;七太夫、別号;黙桃軒

M4955 **立庵**(りつあん・りゅうあん・奥山おくやま、名;玄建)?-?　江前期;幕府の奥医者;1680(延宝8)登用、
5代綱吉に出仕/1699(元禄12)致仕;水戸徳川綱条を診察/光圀(1628-1700)の侍医、
1703(元禄16)法印/のち西丸の奥医師、歌人;1681水戸徳川家九月十三夜会に参加;3首、
茂睡[鳥の跡]入、了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[散りかかる木の葉とぢそひ山の井の浅きもみえず氷る比かな](茂睡[鳥の迹]冬456)、

[曇るともよしやあかさん名にめでて秋の名残の月のひと夜を](水戸十三夜;3)、
[立庵(;号)の別号] 謙徳院

B4956 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、名;宣)?-1768　江戸の与力/茶の湯:石州流鎮信派野田酔翁門、
「立庵先生懐中秘書」著、
[立庵(;号)の通称/別号]通称;作左衛門、別号;心儘庵/自楽庵/二百斎/養寿軒

立安(立庵りつあん→りゅうあん・寿命院)→*宗巴*(そうは・秦はた、医者/連歌)Ｃ２５６８
立安(りつあん・山口)　→　*立安*(りゅうあん・山口やまぐち、医者/教育)　Ｃ４９６６
立庵(りつあん・南部)　→　*草寿*(宗寿そうじゅ・南部なんぶ、儒者)　Ｂ２５７８
立庵(りつあん・馬嶋)　→　*魯斎*(ろさい・馬嶋まじま、眼科医/詩歌)　Ｂ５２５５
立庵(りつあん・瀬川)　→　*祐昌*(すけまさ・瀬川せがわ、医者/国学/歌)Ｉ２３６７
立庵(りつあん・古林)　→　*正惇*(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌)Ｓ４０３８
葎庵(りつあん・河村)　→　*秀根*(ひでね・河村、藩士/国学者/歌人)Ｄ３７５４
栗庵(りつあん)　→　*青蘿*(せいら・松岡、俳人)　２４１４
栗庵(りつあん・松岡)　→　*青蘿*(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人)　２４１４
栗庵(りつあん3世)　→　*宇橋*(うきょう・草川、俳人)　Ｂ１２２６
栗庵(りつあん・鈴木)　→　*太老*(たいろう・鈴木すずき、俳人)　Ｃ２６４０
立以(りつい・喜多村)　→　*立以*(りゅうい・喜多村/北村きたむら、俳人)４９０７
立意(りつい・若山)　→　*立意*(りゅうい・若山、医者)　Ｃ４９７２
立意(りつい・多田)　→　*立意*(りゅうい・多田、俳人)　Ｃ４９７３
立意(りつい→りゅいい・堀)　→　*槐庵*(かいあん・堀ほり、儒者)　Ｉ１５３２
立允(りついん/りゅういん・細川)→　*立孝*(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人)Ｒ２６６５
立印(りついん;法諱)　→　*立印*(りゅういん;法諱/隆印・心源、臨済僧/歌)Ｍ４９７５
栗隠(りついん・栗田)　→　*維良*(これよし・栗田/高野、史家、俳)　Ｏ１９９９
栗隠叟(りついんそう)　→　*建胄*(けんちゅう:法諱・華岳、臨済僧)　Ｌ１８１３
立宇(りつう・島田)　→　*立宇*(りゅうう・島田、俳人)　Ｃ４９７８
利通(りつう・永幡)　→　*利通*(としみち・永幡ながはた/尾崎、国学者)Ｖ３１９５
利通(りつう・丸毛)　→　*利通*(としみち・丸毛まるも、幕臣/書家)　Ｗ３１５０
立詠(りつえい・松井)　→　*立詠*(りゅうえい・松井まつい、俳人)　Ｃ４９８４
立栄(りつえい・野村)　→　*立栄*(初世りゅうえい・野村、医者)　Ｃ４９７８
立英(りつえい→りゅうえい;初法諱)→*雲堂*(うんどう;法諱・乗音、真言僧)　Ｅ１２０１
立易(りつえき・高橋)　→　*立易*(りゅうえき・高橋、歌人)　Ｃ４９８８
立益(りつえき・倉田/横田)→　*何求*(可及かきゅう・横田、儒者)　Ｈ１５２３

F4979 立園(りつえん)　?-?　江前期下野宇都宮俳人;1691不角「二葉之松」入

B4957 栗園(りつえん・岡田おかだ、名;淳之、藩医岡田瑞仙男)1786-1864*79* 越中の儒者、1812昌平黌修学、
帰国後富山藩校広徳館教授、1836江戸に祇役して近習兼師範、55致仕、のち再出仕;
藩校学頭・祭酒に進む、1838「履校約言略解」、「戦国策考」「評註国語」「字彙校正」著、
「本草通串証図」編、「四書一得」「大同類聚方薬品漢名考」「栗園全集」、「栗園先生文集」著、
[栗園(;号)の字/通称]字;大初/為之助、通称;万三郎

B4958 栗園(りつえん・宮みや、正直男)1796-1847*52*　越後魚沼郡堀之内村八幡宮の祠官、和漢書修学、
上京;諸名家の門を歴訪、国学者、「錫命日記」「都可佐万遠志」著、
[栗園(;号)の名/字/通称]名;正聖/正謨/正樹まさき、字;徳卿、通称;上総

B4959 栗園(りつえん・中村なかむら、片山東籬男)1806-81*76* 豊前中津の儒者;帆足万里門/詩;亀井門、昭陽門、
万里ばんり十哲の1、上京;篠崎小竹・斎藤拙堂と交流、
1831(天保2)近江水口藩儒中村介石[篠山]の養子;水口藩儒、1854水口藩校翼輪堂設立;
教授、藩執政;国事奔走、1869大参事;新政府に協力、70致仕、
1858「日本智嚢」59「寤眠録」「栗園文鈔」61「栗園余稿」、「栗園詩稿」「孝経一得」「孝経翼」著
[栗園(;号)の名/字/通称/別号]名;和/和周、字;子蔵、通称;和蔵/三郎、
別号;半仙子/酔仙、諡号;分正

B4960 栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ)1816-58*43*　讃岐琴平の詩人;三井雪航門/画;大原東野門、
勤王家;日柳燕石らと勤王を主唱、嘉永1848-54頃事に連座;隠岐に潜伏、のち大阪住、

小説を執筆し生活、「岩見武勇伝」「栗園詩稿」著、
[栗園(;号)の名/字/通称]名;英政/央政/政、字;徳卿、通称;潤吉郎
B4961 **栗園**(りつえん・細貝ほそがい) ? - 1862　越後古志郡六日市村の代々邑正、
国学;江戸で平田篤胤門/帰郷;家督嗣/事に連座し幽閉、その間読書;経史を修得、博学、
赦免後;東海・東山・伊勢・京阪に遊学;名家を歴訪、「栗園遺稿」、
[栗園(;号)の名/字/通称/別号]名;資/**篤資**あつすけ、字;元卿、通称;邦太郎/善左衛門、
別号;遯翁
栗園(りつえん;画号) → *堅丸*(かたまる・地形堂ちがたどう、幕臣/狂歌)Ｎ１５０９
栗園(りつえん・宇田) → *健斎*(けんさい・宇田、医者/討幕活動) Ｊ１８０２
栗園(りつえん・浅田) → *宗伯*(そうはく・浅田あさだ、儒医/幕医) Ｉ２５７１
栗園(りつえん・小山) → *川蔭*(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人)Ｓ１５８４
栗園(りつえん・小野) → *済*(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸) Ｏ２４０２
栗園(りつえん・田中) → *利諄*(としあつ・田中たなか、歌人) Ｖ３１５１
栗園(りつえん・山下) → *興作*(こうさく・山下やました/芝、国学/歌) Ｒ１９４７
栗園(りつえん・栗橋) → *保春*(やすはる・栗橋くりはし、国学者) Ｆ４５８５
葎園(りつえん・河辺) → *一也*(かずや/かずなり・河辺かわべ、歌人) Ｍ１５５４
葎園(りつえん・山川) → *正宣*(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者)Ｆ４０７９
葎園(りつえん・辻) → *守静*(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人)Ｆ４４３６
立遠(りつえん・藁科) → *立遠*(りゅうえん・藁科、藩士/記録) Ｃ４９９８
立円(りつえん・渡辺/杉浦)→ *国満*(くにまろ・杉浦すぎうら、神職/国学) １７２２
栗園隠士(りつえんいんし) → *永言*(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) Ｋ３２２８
栗園主人(りつえんしゅじん) → *永言*(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) Ｋ３２２８
立翁(りつおう・八隅) → *景山*(けいざん・八隅やすみ、医者) Ｆ１８７９
立翁(りつおう) → *如風*(じょふう、文英和尚、僧/俳人) Ｃ２２９３
葎翁(りつおう・那波) → *葎宿*(りっしゅく・那波なば、俳人) Ｃ４９０１
栗屋(りつおく・小山) → *川蔭*(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人)Ｓ１５８４
B4963 **立華**(りっか:号・水原みずはら、通称;民部)1800-77*78* 常陸水戸の祈祷師;越中・越後を行脚巡歴、
信濃小県郡桜井村に定住、真言宗醍醐三宝院末修験竜善院と称し加持祈祷師を行う、
1830頃には医業を開く;治療投薬の傍ら学問・剣術を教授、
「伊呂波歌」「小竜教訓」「東門夜話」「白狐禅」「北信時世無異」著
立花(りっか・小島) → *彦十郎*(ひこじゅうろう・小島/小嶋、歌舞伎役/作者)３７６０
六花庵(初世りっかあん) → *乙児*(おつじ・松木、俳人) １４８７
六花庵(2世りっかあん) → *官鼠*(かんそ・山南、乙児門俳人) Ｅ１５１０
六花庵(3世りっかあん) → *雁赤*(がんせき・神田、俳人) Ｅ１５０４
栗下庵(りっかあん) → *孝昌*(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) Ｄ２６７３
立介(りっかい・梅園) → *直雨*(ちょくう・梅園うめぞの、儒者/天文家)Ｋ２８２４
栗崖(りっがい・八木田) → *政徳*(まさのり・八木田やきた、藩士/詩歌俳)Ｔ４０２９
立花園(りっかえん) → *文藻*(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) Ｆ１０１６
六花園(りっかえん) → *忠成*(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) Ｐ２６５９
立革(りっかく・寺田) → *臨川*(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒) Ｋ４９５８
栗歌場茂樹(りっかじょうしげき)→*顕周*(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌)Ｇ１０８５
六華亭(りっかてい) → *盤古*(ばんこ・六華亭、俳人) Ｈ３６５６
栗柯亭(4世りっかてい) → *栗間戸*(栗窓くりまど・桃李園、大阪狂歌)Ｄ１７５１
B4964 **六花亭富雪**(りっかていとみゆき)?- ? 大阪の絵師:役者絵/読本挿絵を描く、
1829-明治「俊傑神稲水滸伝」/1845「頼光大江山入」画、「絵本武勇録」「万太郎一代話」著、
1852東陽「繍像えほん復讐岩見英雄録」第三編画
[六花亭富雪(;号)の別号] 千錦亭/緑華(花)亭
栗柯亭木端(りっかていぼくたん) → *木端*(ぼくたん・栗柯亭、狂歌作者) ３９６６
B4965 **立閑**(りっかん・孝橋たかはし、宗寿男)?-1694 播磨室津の医者:京の古林見宜門、帰郷し医業、
傍ら地歴故事を研究:「播州室津追考記」著、

[立閑(;通称)の号]号;穏斎、法号;雲嶺立閑居士
立閑(りっかん・熊谷)　→　荔斎(れいさい・熊谷くまがい、儒者/詩文)　５１２８
葎甘(りっかん)　→　介我(7世かいが・佐保、俳人、注釈)　Ｂ１５０１
立義(りつぎ・竹村)　→　立義(たつよし・竹村たけむら、地誌/俳人)　Ｒ２６７０
B4966 **栗毬**(りっきゅう・楊果亭;狂号)?-　?　浄土僧;河内禁野の浄蓮寺住、
狂歌:栗柯亭木端門、1763「狂歌布もとの塵」/1780・83「狂歌藻塩草」著
葎居(りっきょ)　→　翁満(おきなまろ・黒沢、国学/歌人)　１４１２
立恭(りっきょう・中山)　→　弦斎(げんさい・中山なかやま、歌人/連歌)　Ｎ１８８６
立行院(りつぎょういん)　→　日厳(にちごん;法諱、俊達、日蓮僧)　Ｃ３３００
栗棘庵(りっきょくあん)　→　霊雲(りょううん;法諱、時宗僧/歌人)　Ｍ４９４６
立吟(りつぎん・小野川)　→　立吟(りゅうぎん・小野川、俳人)　Ｄ４９４０
立吟堂(りつぎんどう)　→　蔭文(かげぶみ・須那すな、商家/歌人)　Ｕ１５７８
B4967 **立渓**(りっけい・足代あじろ/本姓;度会、弘英2男)1703-6159 伊勢山田の儒者/1720父と死別:家督嗣、
伊藤東涯の説に感動;1734(享保19)家を庶兄広登に譲渡し上京;伊藤東涯門、
1739摂津平野の含翠堂に帷を下し講説;門弟指導(20年間)、1761(宝暦11)帰郷;没、
「薫蕕録」「俗暦考」「運行篇」「雞肋周易」「雞肋」「三正辨」「卦綜考」「説鈴」「神器詳解」著、
[立渓(;号)の名/字/通称/別号]名;弘道、字;仲行、通称;玄蕃/一学、別号;進修
栗卿(りっけい・小原おはら)　→　鉄心(てっしん・小原、藩士/儒詩/兵学)　Ｃ３０４８
栗卿(りっけい・河原田かわらだ)→春江(しゅんこう・河原田、藩士/儒者/兵学)Ｍ２１７９
栗卿(りっけい・鈴木)　→　安寛(やすひろ・鈴木すずき、歌人/歌学)　Ｃ４５８７
立敬(りっけい・寺沢)　→　明(阿支羅あきら・寺沢、国学)　Ｅ１０２０
立敬(りっけい・松田)　→　立敬(たつのり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌)Ｚ２６５７
立圭(りっけい・小出)　→　君徳(くんとく・小出こいで、医者/解剖)　Ｃ１７１７
立啓(りっけい・福井/福)　→　楓亭(ふうてい・福井/福、医者)　３８９５
立慶(りっけい・菊池)　→　正磨(せいま・菊池きくち、国学者)　Ｏ２４１１
立卿(りっけい・杉田)　→　立卿(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男/蘭医)Ｂ４９６８
立卿(りっけい・加倉井)　→　砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育)　Ｂ２０６１
B4969 **立軒**(りっけん・味木あじき、兵法家味木吉治男)1650-17257 6 山城の人/兵法;父門/儒:那波木庵門、
江戸で山鹿素行門;古学を修学、元禄1688-1704頃広島藩に招聘され出仕/儒を講説、
「覆載文稿」/1712「広陵問槎録」著、「立軒遺稿」、
[立軒(;号)の名/字/通称/別号]名;虎、字;允明、通称;虎之助、別号;覆載
B4970 **立軒**(りっけん・寺本てらもと/斎藤さいとう、名;忠衡)1650-17308 1 安藝広島医者;1680(延宝8)竹原で医業、
1681「磯宮縁起」93「竹原下市一邑志」著、法号;普妙院
B4971 **立軒**(りっけん・神屋かみや、名;亨)1664-1729 6 6　筑前の儒者;貝原存斎・益軒門、
元禄1688-1704頃福岡藩主黒田家に出仕;1712朝鮮通信使を接待、書/歌を嗜む、
「西海勝覧」「宗像春秋」/1722「帰鞍吟草」著、
[立軒(;号)の字/通称/別号]字;原明、通称;弥左衛門/安治、別号;松堂/松軒/毅斎
B4972 **立軒**(りっけん・増田ますだ、藩医増田策庵2男)1664-1743 8 0 阿波徳島の儒者;京の中村惕斎門、
師没後一時その後嗣、のち徳島に帰り増田に復姓;藩の儒官、師惕斎の著書を多く出版、
「惕斎先生行状」/1702(元禄15)「聞録慎終疏節」28「入学紀綱句解」30「慎終追遠疏節聞録」、
1737「渭水聞見録」、「立軒文集」「楽説紀聞」「仲子語録」「立軒雑記」「律呂新書句解」外著多、
妻;中村惕斎孫の自安、衡亭の養父、歌;1722頃内海顕糺[倭謌五十人一首追加]入、
[白波のうち出での浜の月さえて更け行く空に千鳥鳴くなり]、
(五十人一首追加;湖上千鳥/琵琶湖の打出の浜は歌枕)
[立軒(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;三郎/玄俊、名;**謙之**/謙/謙益、字;士益/益夫、
通称;道太郎/文内/平内、別号;立斎/不染居士/渭水/清世逸人、法号;立軒思山惟水居士
B4973 **立賢**(りっけん:通称・中村なかむら)?-　?　江中期享保1716-36頃茶人:
表千家6世千宗左覚々斎門、周防岩国城主吉川家の茶頭、「中村立賢筆記」著
B4974 **立見**(りっけん・青田あおた)　?-　?　儒者/狂詩作者;1772「戯場篇けじょうへん」著、
1800松好斎「戯場楽屋図会」入

B4975 **栗軒**(りっけん・宮崎みやざき/本姓;紀、名;成身、畏斎男)?-1859 幕臣/儒者;西丸小姓役/1847小十人頭、
1857持弓頭、1858致仕、1822「為学邇言」校訂/30「詠史詩纂」編、「享寛令条抄」編、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[たが門も同じみどりの松竹に千代をことぶく春は来にけり](大江戸倭歌;13)、
[栗軒(;号)の字/通称/別号]字;信卿、通称;次郎大夫、別号;百拙斎

B4976 **立軒**(りっけん・佐藤さとう、一斎3男)1822-85*64* 江戸の儒者:水戸の青山拙斎門、父没後家塾継嗣、
江戸上野寛永寺宮侍読を勤める、1868太政官権少史、「詩経輯疏」「立軒文集」著、
1855「立軒雑簿」/61「皇考故儒員佐藤府君行状」「佐藤一斎先生行状略」著、
[立軒(;号)の名/字/通称/法号]名;槻/棍、字;亦光、通称;新九郎、法号;立誠院

B4977 **立軒**(りっけん・矢島やじま、藩士俊吉男)1826-71*46* 越前福井藩士/儒者:江戸の安積艮斎門、
さらに塩谷宕陰・藤森弘庵門、藩校明新館創設に関与/1856明新館幹事/助教/1860侍読、
維新後;1870文学教授、「詩家雑載」編、
[立軒(;号)の名/字/通称/別号]名;剛、字;毅侯、通称;恕介、別号;禹年

立軒(りっけん・喜早/木曾)→ *清在*(きよあり・喜早きそ、神職) Ｎ１６０６
栗軒(りっけん・中村) → *雪樹*(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) Ｈ４６０５

B4978 **栗原**(りつげん・野呂のろ、通称;市三郎)?-? 江後期幕臣/儒者;江戸昌平学問所勤番、
四谷北伊賀町住、詩人:幕臣勝田半斎・野沢酔石と交流、古賀精里・野村篁園の批閲を仰ぐ、
勝田半斎主催の詩会に参加;1823半斎「声応集」入

立愿(りつげん・難波) → *立愿*(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) Ｄ４９６７
立元(りつげん・井上) → *金峨*(きんが・井上いのうえ/井、儒者) １６５８
立言(りつげん・藤倉) → *元竜*(げんりゅう・藤倉ふじくら、医者/詩) Ｍ１８９５
立言亭(りつげんてい) → *緑樹園*(りょくじゅえん・小林、商家/狂歌) Ｊ４９７７
立綱(りっこう・大寂庵) → *立綱*(りゅうこう・大寂庵、真宗僧/歌人) Ｄ４９８３
立孝(りっこう・細川) → *立孝*(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人) Ｒ２６６５

B4979 **六石**(りっこく・星野ほしの/旧姓;土岐とき、星野良悦の養子)1777-1850*74* 安藝広島医者;良悦門;養子、
養父が原田孝次に作らせた人体骨格の見本[身幹儀]を携え江戸に赴く時に随行、
大槻玄沢の塾で蘭医学修学、のち広島藩医/さらに侍医、藩主参勤に随い度々江戸に赴く、
1822(文政5)「天行疫利考」著、
[六石(;号)の名/字/通称/別号]名;知足、字;也足、通称;桑克/良悦、別号;春午

B4980 **栗谷**(りっこく・姫井ひめい、成田鉄之進充美男)?-? 幼時;備前岡山藩儒姫井桃源の養子;
儒(家学)を受、岡山藩校に修学/1818(文政元)養父没;家職を継嗣、昌平黌に修学、
岡山藩学の助教/教授/督学を歴任、1844藩主池田慶政の侍講/世子茂政の御手許御用、
1864学校奉行、詩文に長ず/書画を嗜む、「時言」著、
[栗谷(;号)の名/字/通称/別号]名;元淳、字;淳甫、通称;孝之介/孝之助、別号;琢堂

立国(りっこく・柴田) → *立国*(りゅうこく・柴田しばた、俳人) Ｄ４９９１

B4981 **立些**(りっさ) ？－ ？ 俳人;1688不卜「続の原」3句入、
[筏士いかだしに日和ひより見せけり夕雲雀](続の原;18/うららかな晴天の川下り)

立砂(りっさ) → *立砂*(りゅうさ・今日庵、元夢門俳人) Ｄ４９９７
律佐(りっさ・皐月) → *平砂*(2世へいさ・皐月さつき、俳人) ２７３１

B4982 **栗斎**(りつさい) ？－ ？ 俳人;1699等躬「伊達衣」七吟歌仙入

B4983 **立斎**(りつさい・佐久間さくま、名;高方/高常/健/和風/光風)1661-1741*81* 大和郡山兵学者:
山鹿素行門、布施守之門/1717水戸藩出仕/19彰考館入、
佐久間流兵学者;中沢豊忠・戸祭勝全らの師、
「関右紀行」「関右紀年」、1724「古本大学講義」編/32「東遷基業」35「軍器温知録」、
「兵学啓蒙」「兵法極意備忘録」「治平本義」「甲冑温知録」「三采幣本伝」「孫子新注」外多数、
[立斎(;号)の通称/別号]通称;権平/庄左衛門、別号;東野散人/独立斎

B4984 **立斎**(りつさい・林はやし) ？－ ？ 江前期儒者;浅見絅斎門、
1705「神道異説辨」-06「諸礼筆記」著、
[立斎(;号)の名/通称]名;敬勝、通称;忠蔵

B4985 **立斎**(りつさい・高野たかの)1708- 1758*51* 陸前仙台藩士/天文家;佐竹義根門、

藩主伊達吉村に出仕/世子の傅、主命により北辰潮汐の説を進め1749「潮汐図説」著、
のち獄吏に転ず、篆刻・篆書に長ず、1749「三月三日潮大涸之説」54「金玉其相」、「獄政」著、
[立斎(;号)の名/通称/別号]名;兼良、通称;兵蔵、別号;春麟/春潮/玉田散人

B4986 立斎(りっさい・箕浦みのうら、名;直彝なおつね、正路男)1730-1816*87* 土佐藩士/儒;富永惟安・戸部愿山門、
暦学;川谷致眞門/剣術;森下権平門、学問導方、1748上京;西依成斎・沢田一斎門、
江戸でも修学、1760新小姓/藩校教授館教授/84小姓;藩主に随従;
藩政改革大目付の兄秦川を補助、
「近思録講証」「詩経講証」「四書講証」「詩文和歌集」、秦川じんせんの弟/北江ほっこうの兄、
[立斎の字/通称/別号]字;迂叔、通称;万次郎/右源太、別号;進斎/江南/胆斎

B4987 立斎(りっさい・武田たけだ、久豊[三秀]長男)1735-1812*78* 羽後の儒医;父を継嗣;
秋田郡十二所城代茂木家の儒医、17528(18歳)上京し伊藤介亭門;古義堂4傑の1、
帰郷し経史を講ず;十二所経学の祖、「論語私説」「孟子私説」著、久典(三省)の父、
[立斎(;号)の名/字/通称]名;久文、字;士友、通称;藤太郎/三益

B4988 栗斎(りっさい・服部はっとり、梅圃男)1736-1800*65* 父は上総飯野藩儒で飯野藩領摂津豊島郡の定番、
摂津西成郡浜村生の儒者(家学);父門、大阪に出て五井蘭洲門/中井竹山・中井履軒と交流、
飯野藩儒となり江戸藩邸で世子の侍講、罹病のため致仕、稲葉迂斎・村士玉水門、
村士玉水の家塾・図書を継承:後継者となる、
1791幕府設立の江戸麹町教授所(渓書院)の学頭;門弟多数を教授、
1790「明徳辨附続明徳辨」96「中庸釈註大全抄」、「先儒三子評」「去就説筆記」「隠居放言」、
「雑記」「読書孟」「栗斎服部先生説書」著、
[栗斎(;号)の名/字/通称/別号]名;保命、字;佑甫、通称;善蔵、別号;旗峯、法号;寂静院

B4989 栗斎(りっさい・内山うちやま/本姓;源)1739-? 1876存 播磨西九条の儒者、大阪西町奉行所組与力、
詩文に長ず;1764朝鮮通信使と唱和、俳人;椎本芳室門、木村蒹葭堂けんかどうと交流、
「鴻臚筆談」1764「栗斎鴻臚摭筆」67「栗斎探勝草」著、1785去来「青根が峰」(俳諧論書)序
[栗斎(;号)の名/字/通称/別号]名;之明、字;士璞、通称;藤三/藤蔵とうぞう、
別号;老竜軒/枝栖/栖斎叟人

B4990 栗斎(りっさい・川島かわしま)1755-1811*57* 近江大津の儒者、代々石原家に出仕、和算に長ず、
勤王を志す、「詩文抄」「詩経講義」「伊川先生四箴講義」「論語講義」「或問雑録」「大学講義」、
1801「孟子講義」08「中庸講義」外著多数、
[栗斎(;号)の名/通称/別号]名;正臣/寛正/直正、通称;専蔵、別号;清々翁

B4991 立斎(りっさい・銭田ぜにた)1771- 1832*62* 加賀金沢の商家;富商、詩人、読書家、
「立斎遺稿」(門弟亀田敦が1841刊)、
[立斎(;号)の名/通称/別号]名;青、通称;俵屋銅輔

B4992 栗斎(りっさい・小南こみなみ)1771-1860長寿*90* 江戸の儒者:下野壬生、1819「老易大数」著、
1819「道徳仁義説」「和漢文明記」/28「四書談」28・31「江戸竹枝詞」著、「日本小史」著、
1841「四書談外篇三教一致編」50「大学読原本」、「経学文章論」「栗斎初稿」「栗斎二稿」著、
[栗斎(;号)の名/字/通称/別号]名;寛、字;士栗、通称;常八郎、別号;古学道人

B4993 律斎(りっさい・中沢なかざわ、名;成章)1789-1829*41* 浩斎の孫/代々陸前仙台藩儒:藩校養賢堂指南役、
1825「嚢中詩稿前編」著、
[律斎(;号)の字/通称]字;文裁、通称;治左衛門

B4994 立斎(りっさい・村瀬むらせ、重為男)1792-1851*60* 美濃武儀郡上有知の医者、藤城の弟/秋水の兄、
医学;尾張名古屋の神波船樹門/1816医開業;名声を得る/1845名古屋藩医官、
1848「宝鏡三昧略註」編、「豆州詩鈔」著、
[立斎(;号)の名/字/別号]名;有本、字;泉卿/原泉、別号;豆洲、
法号;即仏心軒知止道泰居士

B4995 栗斎(りっさい・大岡おおおか)1799 - 1836水死*38* 近江の儒者;京の頼山陽/江戸の佐藤一斎門、
1824(26歳)昌平黌入学、講究の暇に山野跋渉;松前より九州まで全国行脚、
1836(天保7)佐渡に渡る途中船が沈没;水死、「笙洲遺稿」、
[栗斎(;号)の名/字/別号]名;寛/寛通、字;士栗/子栗/廉平、別号;笙洲

B4996 栗斎(りっさい・浅野あさの、中村可致3男)1804-89*86* 浅野政次の養嗣子、加賀金沢藩士;養家を継嗣、

830禄;百10石、儒者;1835学校読師/38前田利義の傅、町同心/小松馬廻番頭/組外番頭、
学校督学を歴任、1870金沢藩権少属、晩年は自宅で子弟教育、墨竹を描く、
「老継木」「老継木次筆」「北藩格式輿」著、
[栗斎(;号)の名/通称]名;政周、通称;三九郎/周左衛門

B4997 立斎(りつさい・桑田くわた、新発田藩士村松喜右衛門2男)1811-6858 桑田玄真の養子、越後の医者、
江戸の坪井信道(誠軒)門、江戸深川に小児科を開業/種痘の実施とその啓蒙活動に尽力、
1857幕命で蝦夷で数千人に種痘を施す、生涯に10万児牛痘接種を目指すが果たさず病没、
1849「引痘要略解」53「愛育茶譚」54「三済私話」、「乍恐以口上書奉願上候」著、
[立斎(;号)の名/字/通称/別号]名;和、字;好爵、通称;八五郎、別号;駆痘主人/椌幅軒
法号;慈行院

B4998 立斎(りつさい・坂本さかもと) ? - ? 江後期和算家;最上知新流の祖、測量に長ず、
1861(万延2)「最上知新流数学階梯記」著、
[立斎(;号)の名/通称/別号]名;詮明、通称;数左衛門、別号;温故館

立斎(りつさい・立花) → *宗茂*(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) Ｂ４２３９
立斎(りつさい・増田) → *立軒*(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) Ｂ４９７２
立斎(りつさい・川井/川合)→ *立斎*(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) Ｅ４９０１
立斎(りつさい;剃髪号) → *立以*(りゅうい・喜多村/北村きたむら、俳人) ４９０７
立斎(りつさい・頼) → *立斎*(りゅうさい・頼らい、篆刻家) Ｅ４９０６
立斎(りつさい・佐久間) → *光豹*(こうひょう・佐久間、藩儒/和算家) Ｌ１９０３
立斎(りつさい・歌川) → *広重*(初世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) Ｇ３７０２
立斎(りつさい・歌川) → *広重*(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) Ｇ３７０４
立斎(りつさい・歌川) → *広重*(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) Ｇ３７０５
立斎(りつさい・岡) → *信好*(のぶよし・岡おか、国学者) Ｈ３５７８
栗斎(りつさい・小俣) → *蠖庵*(かくあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻家) Ｊ１５４３
栗斎(りつさい・下司) → *芝亭*(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) Ｖ２１１９
栗斎(初世りつさい) → *宇考*(うこう・佐々木、俳人) １２１８
栗斎(2世りつさい) → *宇喬*(うきょう・佐々木、宇考男/俳人) Ｃ１２１１
栗斎(3世りつさい) → *涼莎*(りょうさ・佐々木、宇喬男/俳人) Ｈ４９５７
栗斎(りつさい・大脇) → *自笑*(じしょう・大脇おおわき、幕臣/武術家) Ｔ２１８５
栗斎(りつさい・山本) → *直寛*(なおひろ・山本やまもと、医者/歌人) Ｐ３２２３
葎斎政演(りっさいまさのぶ;蓮斎政演せいさいまさのぶ)→ *京伝*(きょうでん・山東) １６３７
立左衛門(りつざえもん・日比野)→*良為*(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算家) ４７２２

B4999 立策(りつさく;通称・佐井さい)?- ? 江中期京の医者、狂犬病治療法を研究、
1748(寛延元)「猘犬咬傷せいけんこうしょう考」著、「猘犬療法」著

4903 栗山(りつざん・柴野しばの/修姓;柴、名;邦彦、柴野左衛門軌逵男)1736-1807*72* 讃岐牟礼の儒者、
高松藩儒後藤芝山門/1753江戸で林榴岡門;昌平黌入学/1767阿波藩儒、
京で三白社結成(;西依成斎・赤松滄洲・皆川淇園らと)/1788幕府儒官/昌平黌教官、
信敬らと聖堂の学政改革;寛政異学の禁を布令、寛政三博士(尾藤二洲・古賀精里と)、
「栗山文集」「栗山堂詩集」「栗山堂文集」、1786「雑字類編」(;弟貞穀さだよし修訂)/「雀林荘記」、
1790「ももしき」、「国字上書」「資治概言」「求仁録」「呈案集」「負文亀奏議」外著多数、
[栗山(;号)の通称/別号]通称;彦輔、別号;古愚/古愚軒/五峰山房/石顛/三近堂、

M4904 笠山(りつざん・大倉おおくら、)1785-1850*566* 山城笠置の生;絵師;中林竹洞門/詩人;頼山陽門、
家督を弟に譲渡し京に住、絵師・詩人の吉田佐登(袖蘭)と結婚、
[笠山(;号)の名/字/別号]名;穀、字;国宝、別号;義邦

C4900 立山(りつざん・奥村おくむら)1814-1858*45* 富山住の加賀藩士、江戸で暦学;山路弥左衛門門、
京の土御門家入門;允許を受、徳島藩主蜂須賀斉裕に出仕;藩校長久館算学教授、
「算題雑輯」著、
[立山(;号)の名/通称]名;吉当、通称;基之輔

栗山(りつざん・万年) → *櫟山*(れきざん・万年まんねん、医者) ５１７７
立山亭(りつざんてい) → *喜楽*(きらく・佐々木ささき、郷土史家) Ｑ１６４５

立算堂(りつさんどう)　→　*朝鄰*(ちょうりん・川北、数学者)　Ｋ２８１３
立志(初世りっし・高井)　→　*立志*(初世りゅうし・高井、松楽軒、俳人)Ｅ４９２７
立志(2世りっし・高井)　→　*立志*(2世りゅうし・高井、和諧堂、俳人)　Ｅ４９２８
立志(3世りっし・高井)　→　*立志*(3世りゅうし・高井、和嘯堂、俳人)　Ｅ４９３５
立志(4世りっし・浅見)　→　*立志*(4世りゅうし・浅見、和楽園、俳人)　Ｅ４９３８
立志(5世りっし・関)　→　*立志*(5世りゅうし・関、大中庵、俳人)　Ｅ４９４１
立志(6世りっし・関)　→　*立志*(6世りゅうし・関、俳人)　Ｅ４９４６
立志(7世りっし)　→　*立志*(7世りゅうし、雪志、俳人)　Ｅ４９４７
立之(りっし・細川)　→　*立之*(たつゆき・細川ほそかわ、藩主)　Ｒ２６６７
立之(りっし・森)　→　*枳園*(きえん・森、医者/国学)　Ｆ１６０３
立之(りっし・吉田)　→　*元卓*(げんたく・吉田よしだ、医者)　Ｋ１８９５
立子(りっし)　→　*立子*(りゅうし、俳人)　Ｅ４９３７
立此(りっし・川北)　→　*立此*(りゅうし・川北、俳人)　Ｅ４９４２
立枝(りっし・矢部)　→　*直記*(なおのり・矢部やべ、藩士/国学/歌)　Ｐ３２１４
立祀(りっし)　→　*立祀*(りゅうし、玄旨法師、僧/歌人)　Ｍ４９００
栗柿庵(りっしあん)　→　*小圃*(しょうほ・根ヶ原、俳人)　Ｌ２２６１
栗枝園蕪園(りっしえんぶえん)→　*確斎*(かくさい・武内,儒,戯作/狂歌)　Ｅ１５６８
栗枝亭鬼卵(りっしていきらん)→　*鬼卵*(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者)　Ｄ１６７１
立守(りっしゅ・林)　→　*立守*(たてもり・林はやし、国学/神職)　Ｚ２６０６
律聚(りっしゅう・中根)　→　*元珪*(元圭げんけい・中根なかね、暦算家)　Ｂ１８６３
栗洲(りっしゅう・;画号)　→　*白也*(はくや・寺島てらしま、代官/俳人)　Ｄ３６９８
律襲軒(律衆軒りっしゅうけん)→　*元珪*(元圭げんけい・中根なかね、暦算家)Ｂ１８６３)
律襲斎(りっしゅうさい)　→　*方静*(ほうせい・市川いちかわ、藩士/和算)　Ｃ３９０１

C4901 **葎宿**(りっしゅく・那波なば)　？－　？　京の俳人、連歌;寛文1661-73頃昌程門、法体、
俳諧;季吟門/のち談林風に転ず、宗因・任口・西鶴・松意と交流、
1678西鶴・松意と三吟三百韻「虎渓の橋」興行、京談林の雄として活躍;江戸へも赴く、
1678「四人法師」編、「何払百韻」参加、
[酔の色や是三人の笑ひ草](虎渓の橋;賦何紙俳諧発句;虎渓三笑の故事をきかす)、
[葎宿(;号)の通称/別号]通称;七郎左衛門、別号;葎翁/[入道]江雲/志好/櫟軒
立叔(立淑りっしゅく・千手)→　*旭山*(ぎょくざん・千手せんじゅ、藩士/儒者)Ｏ１６９７

C4902 **立所**(りっしょ・小河/小川おがわ、省宇男)1649-96*48*　母;有馬玄哲女、京一条の儒者・伊藤仁斎門、
弟得所と共に修学、京で開塾;教授、1691(元禄4)江戸下向;輪王寺宮親王の恩顧を受、
談論・書に長ず/医・薬に通ず、「立所文集」「聖教録」「伐柯篇」「学論」「立所先生藁残」著、
「小河立所遺稿」、
[立所(;号)の名/字/通称]名;成章、字;伯達/茂実、通称;茂七郎/茂七

C4903 **栗所**(槀所りっしょ・三田村みたむら/本姓;藤原/修姓;藤、丹波篠山藩士坪井梅山4男)1765-1821*57*　、
三田村上総大掾貴忠の養子;貴忠女と結婚/三田村の家督嗣;のち義弟に譲渡、
儒者;経史・詩文に長ず、1789「文枢」91「文機」、「天橋遊艸」「擬体篇」「荀墨綱領」「文的」、
「掌中天文考」「荀子辨解」「兵法集覧」「文章定不定論」「私学正準」「槀所詩文集」外著多数、
[栗所(槀所;号)の名/字/通称/別号]名;成粲、字;子亮、通称;兵庫、別号;教証、
法号:平等院
立祥(りっしょう・喜斎)　→　*広重*(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師)　Ｇ３７０４
立正(りっしょう・松原)　→　*一鳳*(いっぽう・松原まつばら、藩医)　Ｈ１１９１
立正院(りっしょういん)　→　*日収*(にっしゅう;法諱・眞定、日蓮僧)　Ｅ３３０６
立正院(りっしょういん)　→　*日調*(にっしゅう;法諱・志玄、日蓮僧)　Ｅ３３０８
立正大師(りっしょうだいし)　→　*日蓮*(にちれん・是聖房、日蓮宗開祖)　３３０４
栗杖亭鬼卵(りつじょうていきらん)　→　*鬼卵*(きらん・栗杖亭、読本/狂歌)　Ｄ１６７１
立信(りっしん→りゅうしん;法諱)→　*円空*(えんくう;字・立信、浄土僧/歌)　１３９３
立心(りっしん・小出)　→　*立心*(りゅうしん・小出こいで、俳人)　Ｅ４９７５

C4904 **立真斎**(りっしんさい・北村きたむら)?－　？　江中期江戸品川住;日蓮信者、

1751「挫日蓮笑解」著
C4905 **栗水**(りっすい・並木なみき、医者並木良貞男)1829-1914*86* 下総香取郡久賀村御所台の儒者、
儒:1849大橋訥庵門/師が江戸に開設した思誠塾の塾長;在塾7年、下総佐原に螟蛉塾開設、
1866(慶応2)久賀村に帰郷、詩文・経学・書に長ず、大橋陶庵・楠木碩水と交流、
「南遊詩草」「栗水漁唱」、1855「並木栗水日記」55-56「安政二乙卯日新録」著、
[栗水(;号)の名/字/通称/別号]名;正韶まさつぐ、字;久成、通称;左門、別号;潜庵
立錐軒(りっすいけん) → *如濃*(じょのう・刑部おさかべ、家司/記録) Ｍ２２７５
C4906 **立静**(りっせい) ？－ ？ 俳人;1672?重徳「続独吟集」上巻独吟百韻入
L4908 **栗性**(りっせい) ？－ ？ 江後期安藝仁方の俳人;
[春雨や降こんだほど野の青み](短冊)
葎生(りっせい) → *高世*(たかよ・物集もずめ、国学/歌) Ｅ２６０３
立斉(りっせい・並河) → *尚教*(ひさのり・並河なみかわ・なびー/平、医者)Ｂ３７８０
立誠(りっせい・伊藤) → *固庵*(こあん・伊藤いとう、儒者) Ｈ１９０４
立誠堂(りっせいどう) → *鞆足*(ともたり・岡本、左官業/郷土史) Ｐ３１７３
立誠堂(りっせいどう) → *九方*(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) Ｉ１６７７
栗生坊(りっせいぼう・若拙堂)→ *負米*(ふまい・棗由亭そうゆうてい、狂歌作者)Ｄ３８７７
C4907 **立石**(りっせき・末包すえかね、玉山男)?-? 江後期江戸の儒者/1818頃本所南割下水に住、
「志学階梯」著
[立石(;号)の名/字]名;文事/世彦、字;孟俊/文郁
立碩(りっせき・景山) → *粛*(しゅく・景山かげやま、医者/漢学/教育)Ｙ２１６１
C4908 **立節**(りっせつ;通称・川井/河井かわい、名;義真)?-1730 大阪の医者/歌人、「玉津島紀行」著、
養子;立珪(実際の後継は立珪の長男立牧りゅうぼく)
立節(りっせつ・中村) → *義竹*(ぎちく;号・中村なかむら、書家) Ｌ１６２４
立節(りっせつ・小林/久保田)→ *東鴻*(とうこう・小林、医/本草) Ｄ３１８７
立節(りっせつ・山下) → *玄和*(はるかず・山下やました、医者) Ｇ３６１１
立節(りっせつ・林) → *淡水*(たんすい・林はやし、医者/教育) Ｉ２６９０
立設(りっせつ・熊谷) → *活水*(かっすい・熊谷くまがい、漢学者) Ｈ１５４９
葎雪庵(初世りっせつあん・岩波)→ *午心*(ごしん・岩波、俳人) Ｄ１９０１
葎雪庵(2世りっせつあん・鴨)→ *北元*(ほくげん・鴨,俳人) Ｄ３９０３
C4909 **立詮**(りっせん・りゅうせん;法諱・泉秀せんしゅう;字)1598-1663*66* 和泉の真言僧:高野山興山寺4世、
1635諸流伝法阿闍梨諸位を道意に稟承する、高野山行人頭;学侶方と訴訟で争う、
寺社奉行の裁定により1659高野を追放;伊勢に退院、詩歌:木下長嘯子門、林鵞峰らと交流、
武家故実に精通:「本朝武家大系図」撰に参画、1653「倭漢十題雑詠」編/「月題詩百首」著、
「釣命撰武家系譜」編、
[立詮(;法諱)の別法諱/号]別法諱;了益、号;文殊院/見樹院
L4976 **立川**(りっせん・吉本よしもと) ？－ ？ 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第二初能発句入(脇句は井原西鶴[靏永])、73西鶴「物種集」入、
[初能やまだ踏みも見ぬ橋がかり](生玉万句;初能発句/新年最初の催能、
金葉;小式部内侍;大江山生野の道の遠ければまだふみも見ず天橋立)
栗千(りっせん) → *白鯉館卯雲*(はくりかんぼううん、木室、狂歌/噺本)３６１２
立仙(りっせん・松原) → *一鳳*(いっぽう・松原まつばら、藩医) Ｈ１１９１
立仙(りっせん・小野) → *好純*(よしずみ・小野おの/安福、国学/歌学)Ｄ４７８４
立僊(立仙りっせん・佐久間)→ *太華*(大華たいか・佐久間、藩士/儒者)Ｂ２６０６
立川(りっせん・歌川) → *国郷*(くにさと・歌川うたがわ、絵師) Ｃ１７７４
立禅(りっぜん→りゅうぜん;号)→ *卓中*(たくちゅう:法諱・立禅、浄土僧) Ｏ２６１２
立川斎(りっせんさい) → *国郷*(くにさと・歌川うたがわ、絵師) Ｃ１７７４
立川舎(りっせんしゃ) → *素栄*(もとひで・佐藤さとう、国学者) Ｋ４４０１
栗窓(りっそう→くりまど) → *栗間戸*(栗窓くりまど・桃李園、大阪狂歌)Ｄ１７５１
C4910 **律蔵**(りつぞう・手塚てづか/一時;金刺、医者手塚治孝[寿仙]2男)1822-78*57* 周防の洋学者:
西洋兵学;長崎で高島秋帆門/蘭学;江戸で坪井信道門、下総佐倉藩の招聘;

江戸本郷に又新堂を開塾/1856蕃書調査所教授、1862-71佐倉住、
維新後開成所教授/外務省勤務;日露貿易促進にウラジオストック赴任;帰国船中病没、
門人;西周・神田孝平・木戸孝允・手塚節蔵ら多数、「海防心得草」「横座弁慶」「煩手要覧」著、
「海防火攻新覧」訳、1858「諸外国別段風説書」「蘭人風説書」訳、62「万国図誌」訳、
[律蔵(;通称)の幼名/名/別通称]幼名;源吾、名;好盛、
別通称;謙蔵/雪航/顕/旧太郎/良弼/良人/光寿/光長、瀬脇寿人(;晩年)

立蔵(りつぞう・芳野) → *金陵*(きんりょう・芳野よしの、儒者) E１６９３
栗蒼下(りつそうか) → *宇考*(うこう・佐々木、俳人) １２１８

C4911 **葎窓貞雅**(りっそうさだまさ) ? - ? 幕末期江戸?の戯作者、
1860(万延元)「滑稽質屋雀」/62-67「蘇防染桜模様」著

栗村(栗邨りっそん・宮原)→ *節庵*(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E２４０３
栗帯霞(りったいか・原田) → *永寛*(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌)O３２４６
立沢(りったく・藁科時雍)→ *立沢*(りゅうたく・藁科、医者)
立卓(りったく・黒川/服部)→ *雄節*(ゆうせつ・服部はっとり/黒川、棋士;碁)D４６１２
立達(りったつ・綾部/麻田)→ *立達*(りゅうたつ・麻田あさだ/綾部、天文暦学者)F４９１５
律太郎(りったろう・堀内) → *千稲*(ちしね・堀内ほりうち、庄屋/商家/歌)N２８４８
立地庵(りっちあん) → *可因*(かいん・大葦原/司馬、俳人) J１５１７
律中(りっちゅう・岡本、「耳勝手」編)→ *ばく*(・松田、雑俳/酒本/浄作)C３６４９

K4911 **立朝**(りっちょう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入

C4912 **立兆**(りっちょう・酒巻さかまき/本姓:源)1791-1857*67* 武洲埼玉郡花崎村の生の絵師、
江戸下谷池之端に住、1835「酒巻立兆展観録」編/38銀鶏編読本「書画談叢之図」画、
「佳景日渉」「画題名数」「庚申山国志」著/「絵事類聚」「倹約重宝記」「写生帖初集」画、
「諸国奇談遊覧噺」著/「燕集不忍池」画、
[立兆(;名)の字/号]字;天瑞、号;釣翁ちょうおう/簑笠釣者さりゅうちょうじゃ、法号;万象院

立蝶楼(りっちょうさい) → *国久*(2世くにひさ・歌川うたがわ、絵師) D１７１３
葎亭(りってい・三宅) → *嘯山*(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S２２５０
立庭(りってい・小出) → *永安*(えいあん・小出こいで/修姓;出、儒者)C１３３４
立亭(りってい・川北) → *朝鄰*(ちょうりん・川北かわきた、数学者) K２８１３
立徹(りってつ・橋本) → *因碩*(11世いんせき・井上、棋士) D１１５６

C4913 **栗嶝**(りっとう・韓果亭) ? - ? 狂歌作者、1767「狂歌肱枕」編

C4914 **栗洞**(りつどう・如棗亭じょそうてい、通称;和泉屋藤兵衛)1720-91*72* 大阪の狂歌作者:木端門、
「狂歌板橋集」、1783「宇奈為草紙」/「狂歌続宇奈為草紙」著、89「狂歌つのくみ草」編、
「狂歌夜光珠」編、仙郷亭棗風(和泉屋藤次)の父

立道(りつどう・;法諱) → *立道*(りゅうどう・;法諱、浄土僧/詩歌) F４９３３
栗島入道(りっとうにゅうどう)→ *聖統*(しょうとう:法諱、僧/歌人) R２２５２
立悳(りっとく・谷) → *斗南*(となん・谷たに、医者/詩人) O３１６３
立徳(りっとく・多田) → *海庵*(かいあん・多田ただ、儒者/砲術) I１５３５
立徳(りっとく・立林) → *何帋*(かげい・立林たてばやし、絵師) F１５７７
葎屠蘇(りっとそ) → *北元*(ほくげん・鴨、国学/俳人) D３９０３
立墩(りっとん・杉) → *孫七郎*(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記)４０７２
立馬(りつば・藤野) → *海南*(かいなん・藤野ふじの、儒/蘭学) H１５７６
立伯(りっぱく・饗庭) → *東庵*(とうあん・饗庭あえば、医者) ３１７５

C4915 **栗飯**(りっぱん・翠柳軒すいりゅうけん)?- ? 文化1804-18頃大坂阿波町の狂歌作者:
如棗亭栗洞門;栗柯亭系狂歌、1811「狂歌萩の折はし」編

立舞(りつぶ・雲津) → *水国*(すいこく・雲津くもづ、俳人) ２３５４
立夫(りっぷ・福田/木下)→ *梅庵*(ばいあん・木下きのした、医/狂詩) ３６５０
慄夫(りっぷ・芳村) → *恂益*(じゅんえき・芳村よしむら、医者) M２１４７
栗父坊(りっぷぼう) → *桃祖*(桃鼠とうそ・二階堂、修験者/俳) G３１２６
立平(りつへい・武元) → *北林*(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者) E３９０８
立圃(りつほ・野々口) → *立圃*(りゅうほ・野々口、俳人/和学) ４９１３

立甫(りつほ・嶋しま)　→　*立甫*(りゅうほ・嶋しま、医者)
立甫(りつほ・綺田)　→　*義路*(よしみち・綺田きだ/源/谷屋、藩士/歌)Ｍ４７４４
栗甫(りつほ・長谷川)　→　*寛*(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育)　Ｆ３７８８
栗甫(りつほ・和気)　→　*寛*(ひろし・和気わけ、藩士/儒者)　Ｆ３７９１
栗甫(りつほ・鳥羽/乙骨)→　*耐軒*(たいけん・乙骨おっこつ/鳥羽、儒/詩)　Ｂ２６３０
栗蒲(りつほ;号)　→　*常庵*(じょうあん;道号・竜崇、東常縁男/臨済僧/詩文)Ｇ２２６６
立卜(りつぼく/りゅうぼく・半井)→　一六(いちろく・半井なからい、医者/俳人)Ｃ１１６７
立牧(りつぼく・川井)　→　*桂山*(けいざん・川井/川合/河合、医/詩歌)１８５９
立木(りつぼく・谷)　→　*斗南*(となん・谷たに、医者/詩人)　Ｏ３１６３
立民(りつみん・三谷)　→　*景信*(かげのぶ・三谷、藩士/医者)　Ｌ１５１５
立夢(りつむ・植木/武宮)→　*加兵衛*(かへえ・武宮たけみや、砲術家)　Ｐ１５２８
立命(りつめい・小川)　→　*宗本*(そうほん・小川おがわ、医者)　Ｉ２５９３
葎[律]門亭(りつもんてい)　→　*蘆本*(ろほん・浦田うらた、俳人)　Ｃ５２４２

C4916 **栗野**(りつや・小野おの)　1783-　1826*44*　陸中盛岡の酒造業の家の生/漢学を修学、
有栖川宮に出仕;歌・書法を修学、詩文;三輪秀福・日野資枝・清田竜川門、
「小野栗野詩稿」「小石湖堂詩集」著、
[栗野(;号)の名/字/別号]名;勝興(;初名)/包竜/立礼、字;子潜/名竹/青郷、
別号;宝善斎主人/寵善斎主人?/小石湖堂

C4917 **律友**(りつゆう・萩野はぎの、琴枝亭)?-?　阿波徳島の俳人:宗因門?、1683大坂で西鶴門、
1691再度上方訪問、才麿・言水・団水と交流、1691「四国猿」編(;西鶴と両吟半歌仙など)、
1691賀子「蓮実]1句/92団水「くやみ草」3吟/1702轍士「花見車」1句入、
[花薄はなすすきちよいと招いた飛脚哉](花見車;105)
立雄(りつゆう・神保)　→　*立雄*(たつお・神保じんぼ、国学者)　Ｒ２６５６
立雄(りつゆう・堀内)　→　*立雄*(たつお・堀内ほりうち、藩士/国学/歌)Ｚ２６４３
立祐(りつゆう・小島)　→　*立祐*(たちすけ・小島/小嶋、歌舞伎作者)Ｒ２６４６

L4984 **立歟**(立欤りつよ・吉田よしだ)?-　?　江前期大阪の俳人、
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[今宵もや神代のむかし女男めをと星](手鑑)
立誉(りつよ・浄蓮社)　→　*堅卓*(けんたく;法諱・慧巌、浄土僧)　Ｋ１８９３
立誉(りつよ・一蓮社)　→　*貞極*(ていごく;法諱、浄土僧/道場開設)３０７５
立誉(りつよ・常蓮社)　→　*大基*(だいき;法諱、浄土僧)　Ｊ２６５７
栗里(りつり:号)　→　*龍沢*(りゅうたく:法諱、天隠:道号、臨済僧)４９０９
栗里(りつり・安藤)　→　*為実*(ためざね・安藤、国学/歌人)　Ｇ２６８６
栗里(りつり・栗田)　→　*寛*(ひろし・栗田、国学者)　Ｆ３７９５
立礼(りつれい・金谷)　→　*興詩*(おきうた・金谷かなや、儒/国学/歌人)Ｃ１４８６
立礼(りつれい・鏑木/八木)→　*静修*(しずさね・八木/鏑木/橘、国学者)　Ｕ２１０１
立礼(りつれい・小野)　→　*栗野*(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌)Ｃ４９１６
立和(りつわ・横井)　→　*立和*(りゅうわ・横井、俳人)
立和(りつわ・燕)　→　*立和*(りゅうわ・燕、2世師竹庵、俳人)

C4918 **籬亭**(りてい・秋岡あきおか、通称;田七/素菊そきく)1765-1809*45*　近江彦根の本屋、歌人・狂歌作者、
菊を好み多く歌に詠む、「秋の手折」著

C4919 **理貞**(りてい・松秀斎しょうしゅうさい)?-　?　江後期華道家:松盛斎理遊門/古流生花に長ず、
石州流茶道・光悦流砂画・復古盆石盆景を嗜む、1818(文化15)刊「生花千代の松」著、
[松秀斎理貞(;号)の別号]　貞観楼じょうがんろう/蝶夢庵
利貞(りてい・紀)　→　*利貞*(としさだ・紀、廷臣/歌人)　Ｍ３１４０
利貞(りてい・高志)　→　*利貞*(としさだ・高志、儒者/禅僧)　Ｍ３１４７
利貞(りてい・高志)　→　*利貞*(としさだ・高志たかし、惣年寄/儒/禅僧)Ｍ３１４６
利貞(りてい・永山)　→　*利貞*(としさだ・永山、儒者/逸話蒐集)　Ｍ３１４７
利貞(りてい・世良)　→　*利貞*(としさだ・世良、国学者)　Ｍ３１４９

利貞(りてい/としさだ・高橋)→　*白山*(はくざん・高橋たかはし、儒者)　Ｄ３６１２
利貞(りてい/としさだ・菅)　→　*周泰*(しゅうたい・菅すが/藤野/橘、藩士)　Ｉ２１４１
利貞(りてい/としさだ・中村)→　*焉馬*(初世えんば・烏亭うてい、落語/戯作)Ｂ１３３３
利貞(りてい/としさだ・児玉)→　*金鱗*(きんりん・児玉こだま、藩士/儒者/詩)Ｊ１６０９
利貞(りてい/としさだ・篠岡)→　*謙堂*(けんどう・篠岡ささおか、儒者)　Ｅ１８９７
利貞(りてい/としさだ・世良)→　*利貞*(としさだ・世良せら、藩士/国学)　Ｍ３１４９
利貞(りてい/としさだ・大内)→　*清衛門*(清右衛門せいえもん・大内、問屋/藩士)Ｈ２４４５
利貞(りてい/としさだ・上村)→　*利貞*(としさだ・上村うえむら/源、歌人)　Ｔ３１５６
利定(りてい/としさだ・成田)→　*蒼虬*(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人)　２５０７
李庭亭(りていてい)　→　*ゆき町*(ゆきまち・恋川、医/絵/戯作)　Ｆ４６６０

C4920 **鸝彳**(りてき)　？－　？　江中期俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
[はつ秋や旅だつ朝の心ばへ](月の夜;33/朝の涼気のすがすがしさ)

C4921 **李天**(りてん・河本かわもと、扶翠堂)?-?　江中期大坂江戸堀の俳人:来山門;高弟、
文十と共に病床の来山を見舞い後事を託される、1705「俳諧登梯子」に宗匠として入集、
1706「もとの水」10「誹諧名月三十六歌仙」編、
1713「誹諧続八百韻」編(;旧徳「浪花八百韻」を継承)、1717「木葉こま」編、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[新道のその名も久し鴨の声](伊丹発句合 ; 冬)

理伝(りでん;法諱)　→　*全禎*(ぜんてい;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｍ２４９８
理伝(りでん;字)　→　*游湛*(ゆうたん;法諱、真言律僧)　Ｄ４６３８
吏登(りと・桜井)　→　*吏登*(りとう・桜井、俳人)　４９０４

C4922 **李東**(りとう、通称;源六)　？－　？ 1726存　加賀石川郡淵上村の庄屋の家の生、俳人、
1680(延宝8)淵上村十村役(庄屋)を父より継嗣;1697(元禄10)致仕、俳人、
1687尚白「孤松ひとつまつ」入/1691北枝「卯辰集」21句入、秋の坊と交流、
[毒だちに障さはらぬ梅のにほひかな](卯辰集;一32/病中吟/庭先の梅が香は障りなし)

C4923 **李桃**(りとう)　？－　？　美濃岐阜の俳人、1689「あら野」3句入、
[うつかりとうつぶきゐたり時鳥](あら野;巻一)

C4924 **里東**(りとう)　？－　？　近江膳所の俳人;芭蕉門、
1689挙白「四季千句」初出、1690珍碩(洒堂)「ひさご」連衆10句入、90「花摘」入、
1691「猿蓑」2句/94「炭俵」3句/98「続猿蓑」3句入、
[立ちざまや蚊屋かやもはづさぬ旅の宿](猿蓑;巻二餞別/早朝の旅立ちの別れ)

4904 **吏登**(りとう/りと・桜井さくらい)1681-1755*75*　江戸深川の俳人:嵐雪門、湖十の義弟;
湖十に従い江戸座俳人と交流、1732師の別号雪中庵を継承し周竹から嵐雪の点印を受、
病弱を理由に江戸深川に二畳の陋巷に卜居/1747庵号を門弟蓼太に譲渡、
隠逸謙虚で名利を好まず老年に生涯の詠草・撰集を焼却、
1732「或問診わくもんちん」33「嵐雪廿七周忌」35「ぬかぶくろ」37「野あそび」41「田舎烏帽子」編、
「吏登句集」(三駱編)、追善集;「古茄子」「俳諧十三条」「続水の面集」、
[尾の下に我が想ふ人や鳳巾いかのぼり](吏登句集/少年の初恋;尾の下辺りにあの人の家が)
[竹の子や身の毛ぞよだつ星明り](吏登句集/微細な毛の力に命の無気味さ)、
[吏登(号)の別号]李峒りとう(;初号)/人左/斑象はんぞう/後嵐雪/乱雪/花千/雪中/雪中庵2世

C4925 **里冬**(りとう・和泉屋)　？－　？　江前中期加賀小松の俳人;
1714(正徳4)北越行脚の涼菟を迎え「七さみたれ」編

C4926 **理当**(りとう)　？－　？　大阪俳人;1751春耕「あふ夜」入

C4927 **吏東**(りとう)　？－　？　草双紙作者;1774黒青本「曾我一代記」著;清経画

C4928 **籬島**(りとう・秋里/穐里あきさと;号、姓;池田)?-1830?　京の読本作者/名所図会作、諸国行脚し取材、
俳人、1776「俳諧早作伝」77「宮駅珍話」86「都名所図会」87「虚空解紐」94「住吉名勝図会」著、
1794「源平盛衰記図会」著/95作法「俳翼」編/1800「絵本朝鮮軍記」02「絵本年代記」著、
1804「木曾路名所図会」編/05「唐土名所談」10「秋里名嶋随筆集書」著/20「早引道中記」編、
「天橋立紀行」「新花月名所」「中国名勝図絵」「住吉名勝図会」著、外編著多数、
[秋里籬島(;号)の名/字通称/別号]名;舜福、字;湘夕、通称;仁左衛門、別号;籬島軒

C4929 李東(りとう・鈴木すずき)1781 － 1838*58*　　伊勢四日市浜一色の代々里長；
伊勢神戸藩主本多家の賄御用を務める、俳人；1799(19歳)以来士朗門、茶；不識庵宗元門、
「続猿蓑」所収四吟歌仙「八九間」の巻の芭蕉添削草稿を入手；士朗の勧めで模刻出版；
1811(文化8)「八九間雨柳はっくけんあめやなぎ」編(自跋)、「小草亭句集」「俳人の稀人」著、
[李東(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；徳次郎、字；千房、通称；要蔵/吉兵衛、
別号；一円斎/小草亭
李峒(りとう・初名)　→　*吏登*(りとう・桜井、俳人)　４９０４
C4930 里洞(りどう・佐伯さえき)　？－　？　　江前期安藝広島俳人；1691賀子「蓮実」2句入/
1693荷兮「曠野後集」/94休計「俳諧難波置火燵」/95支考「笈日記」/96涼兎「皮籠摺」入
[隠こもり江やあやめに垢離こりを取る女](蓮実；224、
外から見えない沼の入江の菖蒲の側でこっそり水ごりを取る女)
C4931 利道(りどう；法諱)　？－　？　　曹洞僧：駿河大林寺住持槐国万貞[1652-1727没]の侍者、
1727(享保12)「槐国和尚大林語録」編
C4932 履堂(りどう・田中たなか、青山常喬男)1785-1830*46*　田中適所の養嗣子、越前福井の儒者：皆川淇園門、
のち京で開塾/伊勢津藩の儒員；講官/まもなく致仕、講説業で生計、1810「学資談」著、
1816「世説講義」19「論語集註解辨正」「論語講義」、「字義」「文章規範講義」外著多数、
[履堂(；号)の名/字/通称/諡号]名；頤、字；大壮、通称；大蔵、諡号；修道先生
C4933 履堂(りどう・神じん、晋斎の長男)1824-1904*81*　京の儒者：佐藤一斎・市河米庵門、
父と共に丹波篠山藩主の江戸詰抱え儒者、1861講堂学頭見習/67英仏学を修学、
維新後；行政官筆政/成城学校講師/伏見宮貞愛親王家で漢学を講ず、「西省録」著、
[履堂(；号)の名/通称/別号]名；惟徳、通称；斧三郎、別号；秋洞
里同(りどう・菊池)　→　*宗雨*(そうう・菊池きくち、俳人)　Ｇ２５０４
李童(りどう：俳名)　→　*仁左衛門*(8世にざえもん・片岡、歌舞伎役者)３３１７
梨堂(りどう・三条)　→　*実美*(さねとみ・三条/転法輪三条、尊攘/歌)Ｌ２００６
履道(りどう・神田)　→　*白龍子*(はくりゅう・神田、兵学/談義本)　Ｅ３６０８
履道(りどう・西田)　→　*耕耘*(こううん・西田にしだ、医者/茶道)　Ｈ１９４７
履道(りどう・木村)　→　*清蔭*(せいいん・木村きむら、商家/詩歌)　Ｈ２４４０
履道(りどう・田中)　→　*岣嶁*(こうろう・田中たなか、藩士/詩人)　Ｌ１９６５
李洞軒(りとうけん)　→　*我黒*(がこく・中尾、俳人)　Ｃ１５０３
籬島軒(りとうけん)　→　*籬島*(りとう・秋[穐]里、読本/図会)　Ｃ４９２８
吏登斎(りとうさい)　→　*嵐雪*(らんせつ・服部、俳人)　４８０６
李桃亭(りとうてい)　→　*闌更*(蘭皐らんこう・高桑、俳人)　４８０３
利篤(りとく/としあつ・前田)→　*重教*(しげみち・前田/菅原、藩主)　Ｓ２１８０
利徳(りとく・土井)　→　*利徳*(としなり・土井どい/源/伊達、藩主/歌)Ｎ３１３３
利徳(りとく・木下)　→　*利徳*(としのり・木下きのした/藤堂、藩主)　Ｕ３１９１
履徳(りとく・志村)　→　*履徳*(のりよし・志村しむら、国学/歌人)　Ｉ３５６８
利敦(りとん・南部)　→　*利剛*(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌)　Ｔ３１７７
C4934 李南(りなん)　？－　？　　尾張熱田の俳人；1695「熱田皺筥しわばこ物語」入
里女(りにょ)　→　*里女*(りじょ/りにょ、美濃牧田の俳人)　Ｂ４９２４
里仁(りにん・村尾)　→　*景美*(かげよし・村尾むらお、国学者)　Ｖ１５９０
履仁(りにん・天沼/伊藤)→　*恒庵*(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書)　Ｅ１９８５
M4908 りの(里乃・片桐かたぎり、桃沢匡逸[夢宅孫]の女)1797-1850*54*　信濃伊那郡の片桐源一げんいちの妻、
歌；曾祖父夢宅門/義父片桐源栄門、片桐家は山吹藩家老の家
C4935 李坡(李破りは・中村なかむら)?－　？　　江中期享保延享1716-48頃和泉堺の俳人：才麿門、
享保頃大坂雑俳界で大立・房麿らと活躍、1743(寛保3)「誹諧桜狩」評、「誹諧心の種」評、
1744(延享元)「奉納家原文殊堂五千句集」評、「奉納明石人丸大明神三万句集」撰、
[李坡(；号)の別号]　瓦竹堂/竹尊者
K4941 里馬(りば)　？－　？　　江中期京の俳人；淡々門、
1728柳岡「万国燕」入；竟宴百韻脇句、
[花又さくら要かなめ織る水](万国燕；百韻脇句、花や桜は水景でも連俳でも大切、

発句;淡々;はたまきや千々をみつ葉の浅香山/20巻2千句満尾は手本となろう)
C4936 李沛(りはい)　？－　？　尾張俳人;暁台門、1774美角「ゑぼし桶」1句入、
[菊に暮れて月見るも菊のあたり哉](ゑぼし桶;93)
C4937 李梅(りばい)　？－　？　江前期京の高倉の俳人;隣家の北条団水と親交、
1701(元禄14)撰集「いふもの」編(;団水跋/李梅・団水らの四歌歌仙と四季発句)
利博(りはく・藤原)　→　*利博*(としひろ・藤原、漢学者・歌人)　Ｎ３１５９
C4938 梨白散人(りはくさんじん)　？－　？　江中期江戸本郷の戯作者、
1780洒落「喜夜来大根きよくだいこ」著(:堂駄先生「奴通やっこつう」の改作)
利八(りはち・倉手)　→　*潔雄*(きよお・倉手くらて、和漢学者)　Ｕ１６２３
利八(りはち・後藤)　→　*蛙水*(あすい・後藤ごとう/桐山、国学/歌)　Ｈ１０５２
理八(りはち・貴志)　→　*沾永*(せんえい・貴志きし、俳人)　Ｅ２４９０
理八郎(りはちろう・福田)　→　*理軒*(りけん・福田ふくだ、和/洋算)　４９９４
理八郎(りはちろう・粟生)　→　*正孝*(まさよし・粟生あお、藩士/国学)　Ｍ４０９７
理八郎(りはちろう・中野)　→　*惜我*(せきが・中野/平、兵法・神道家)　Ｊ２４９８
利八郎(りはちろう・土屋)　→　*宗鑑*(宗監そうかん・土屋、役人/書家)　Ｇ２５７１
里美(りび/さとみ・吉田)　→　*謙斎*(けんさい・吉田よしだ、藩士/詩文)　Ｉ１８９０
里美(りび・関屋)　→　*嶺南*(れいなん・関屋せきや、藩医)　５１５９
里美(りび・秋本)　→　*里美*(さとみ・秋本あきもと、医者/歌人)　Ｎ２０７０
C4939 利品(りひん・久米、名;升顕/通称;諸左衛門)?-?　去来の母の兄弟(去来のおじ)、俳人、
1705息子元察げんさつの編集した去来追善選集「誰身の秋」に去来への追悼句入
C4940 李賦(りふ)　？－　？　大阪の俳人;淡々門、
1719「花月六百韻」大圭と共編
利武(りぶ・堅山)　→　*利武*(としたけ・堅山たてやま、藩士/記録)　Ｍ３１６７
C4941 李風(りふう)　？－　？　尾張の俳人;1686「春の日」9句入、
[麓寺ふもとでらかくれぬものは桜かな](春の日/桜だけははっきり遠望できる)
C4942 利風(りふう)　？－　？　江中期享保1716-36頃江戸の雑俳点者、
1723(享保8)「俳諧和哥みとり」著、「田植笠」入
C4943 利風(りふう・奥村おくむら)1713-　1763*51*　江中期京の俳人:蘆中門、師の芸暉堂を継嗣、
1758(宝暦8)「芸暉堂除元集」著、
[利風(;号)の別号]梨風/2世芸暉堂うんきどう
C4944 梨風(りふう・土田つちだ、随之軒、杜若[土田小左衛門正祇]男)?-1772　伊賀上野の俳人:土芳門、
1770近江義仲寺歌仙堂落成に際し同門の如滴に土芳の肖像額を描かせる、
1767「無名庵の記並桃青由緒」著
裏風(りふう・井口)　→　*機山*(きざん・井口いぐち/青山、儒者)　Ｋ１６６２
鯉鮒蔵(りふぞう/りゅうぞう・田井)→　*元陳*((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士)Ｄ４４７４
利物(りぶつ・前田)　→　*利物*(としたね・前田、藩主/武術)　Ｍ３１７７
C4945 理文(りぶん)　？－　？　連歌;1551義隆「宮島千句」参/55公条「石山千句」執筆、
1555「梅千句」参加/57公条催「弘治三年千句」参加;紹巴らと
利文(りぶん/としふみ・向井/久米)→*牡年*(暮年ぼねん・久米くめ/高木、俳人)Ｅ３９７６
理平(りへい・三統)　→　*理平*(まさひら・三統みむね、廷臣/詩歌)　Ｇ４０８１
理平(りへい・矢野)　→　*拙斎*(せつさい・矢野やの、儒者/教育)　Ｅ２４２９
理平(りへい・三坂)　→　*美信*(よしのぶ・三坂/三阪みさか、心学者)　Ｆ４７６４
理平(りへい・但馬屋)　→　*公棟*(きんむね・木村きむら、町年寄/歌人)　Ｔ１６５０
理平(りへい・長谷川)　→　*保樹*(やすき・長谷川はせがわ/宇都宮、国学/歌)Ｆ４５３３
理平次(りへいじ・佐治)　→　*竹暉*(ちくき・佐治さじ、儒者/彰考館総裁)Ｃ２８８１
理平次(りへいじ・金子)　→　*宗周*(そうしゅう・金子、俳人)　Ｈ２５７９
理平治(りへいじ・川端)　→　*理翁*(りおう・川端かわばた、村肝煎/教育)　４９４０
利平太(りへいた・三木)　→　*受益*(つぐます・三木みき、藩士/国学者)　Ｇ２９４３
C4946 理兵衛(りへえ・石川いしかわ、名;信安、理右衛門2男)1668-1741*74*　仙台藩士;1689金間の役人、
藩財政立て再建に尽力;のち勘定奉行、数学に通ず、財政策「石川理兵衛献策」著

理兵衛(りへえ・内山)　→　*眞弓*(まゆみ・内山うちやま、歌人)　４０３３
理兵衛(りへえ・泉屋)　→　*友俊*(ともとし・入江いりえ/住友、商家/家法書)Ｐ３１９５
理兵衛(りへえ・上田)　→　*咸之*(しげゆき・上田/藤原、書家/茶人)　Ｔ２１０６
理兵衛(りへえ・紙屋)　→　*理然*(りぜん・紙屋かみや、商家/俳人)　Ｂ４９４１
理兵衛(りへえ・千足)　→　*眞言*(まこと・千足ちたり、国学者)　Ｑ４０８７
理兵衛(りへえ・三坂)　→　*美信*(よしのぶ・三坂/三阪みさか、心学者)　Ｆ４７６４
理兵衛(りへえ・畑井)　→　*正英*(まさひで・畑井/畠井はたい/畑屋/度会、国学)Ｇ４０７０
理兵衛(4世りへえ・宮永)→　*嘉告*(よしつぐ・宮永みやなが、藩士/郷土史)Ｅ４７６８
理兵衛(りへえ・鳴海屋)　→　*吉賢*(よしかた・藤森ふじもり、商家/歌人)　Ｏ４７９０
理兵衛(りへえ・長治)　→　*祐義*(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人)　Ｄ２３２６
理兵衛(りへえ・大鳥居)　→　*信臣*(のぶおみ・大鳥居おおとりい/真木、神職)Ｈ３５７３
理兵衛(りへえ・宮沢)　→　*敬宗*(たかむね・宮沢みやざわ、国学者/歌)　Ｚ２６８３
利兵衛(りへえ・長束)　→　*正家*(まさいえ・長束なつか、武将)　Ｂ４０３０
利兵衛(りへえ・本間)　→　*宗利*(そうり・久田ひさだ;2世、茶人)　Ｆ２５８６
利兵衛(りへえ・寺井)　→　*養拙*(ようせつ・寺井てらい、書家)　Ｂ４７３０
利兵衛(りへえ・吉井)　→　*正周*(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道)Ｔ４０１６
利兵衛(りへえ・池田)　→　*利牛*(りぎゅう・池田、商家支配人/俳人)４９６０
利兵衛(理兵衛りへえ・丹波屋、書肆)→*多田爺*(ぎただのじじい・田舎老人、姓;人見、俳/戯作)２６３０
利兵衛(りへえ・桐淵)　→　*貞山*(ていざん・桐淵きりぶち、医者/俳人)　３０９１
利兵衛(りへえ・鹿島屋)　→　*糠人*(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人)　３４０５
利兵衛(りへえ・香山)　→　*文圭*(ぶんけい・香山かやま、歌人)　Ｉ３８１０
利兵衛(りへえ・小西)　→　*長弘*(ながひろ・小西こにし/大原、歌人)　Ｍ３２０９
利兵衛(りへえ・吉田)　→　*業忠*(なりただ・吉田よしだ、歌人)　Ｐ３２３２
利兵衛(りへえ・清水)　→　*佩香園蘭丸*(はいこうえんらんまる、狂歌作者)Ｂ３６２１
利兵衛(りへえ・佐野屋)　→　*天津未曽良*(あまつみそら、狂歌作者)　Ｂ１０４１

C4947 **李圃**(りほ)　？－　？　加賀鶴来の俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、
[古畑ふるはたや所々ところどころに麻の花](卯辰集;三292)

C4948 **里圃**(りほ・別号;柵松軒、宝生友春orその息子主馬か?)?-?　江戸の能役者/俳人:1693芭蕉門、
1696芭蕉一周忌追善「翁艸」編、1698(元禄11)「続猿蓑」編発起に参加;36句入、
[夜涼よすずみやむかひの見世みせは月がさす](続猿蓑;巻下)
利甫(りほ・としすけ・高志)　→　*泉溟*(せんめい・高志たかし/修姓;高、儒者)Ｇ２４６５
利保(りほ・前田)　→　*利保*(としやす・前田、藩主/本草/歌)　Ｏ３１０１
履甫(りほ・池口)　→　*杏圃*(きょうほ・池口いけぐち、藩士/儒者)　Ｏ１６５１

C4949 **利峰**(りほう;道号・東鋭とうえい;法諱)?-1643　京の臨済僧:建仁寺291世梅仙東逋門;法嗣、
のち建仁寺297世、「片雲稿」「片雲藁」「片雲四六」著、「利峰和尚語録」著、
1622「翰林五鳳集」;崇伝らと共編、「利峰和尚遺稿」

C4950 **利方**(りほう・広嶋ひろしま)　？－　？　大阪の俳人;宗因門、1676?「天満千句」参加,
1673西鶴「生玉万句」第八色かへぬ松第三句入、
[雲の袖一尺三寸霧たちて](色かへぬ松第三句/一尺三寸;袖下の寸法、
脇句井田正春;定紋まるき山下の月)

L4981 **利方**(りほう・三好みよし)　？－　？　江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[点取の巻向の山月に雲](物種集/前句;神鳴すさまじはなす爪形、
爪形を批点の印に取りなす;大和巻向山に掛る)、
広嶋利方と同一？

C4951 **理峯**(りほう;法諱・春応房;号、俗姓;赤坂)1677-1758*82*　大和五条の生/紀伊に移住、1689高野山入、
真言僧;高善院長誉の室入/北室院伝昌門:受戒、1693高善院住/のち寿福院・普門院に転住、
京・奈良に遊学/帰山後に晃朝・祐算・快雄に野沢の法流を修学、梵曲を修学;西禅院栄融門、
梵唄・歌讃・講式・伽陀等を修得/1726栄融より三階の秘韻を受、1752寺務検校職に補任、
1753灌頂院再建時に結縁灌頂の旧儀を復し門室数十名に秘讃・乞戒大阿の声明を授与、
1750「諸伽陀」、「魚山私鈔略解」著、

[理峯(;法諱)の別法諱/別号]別法諱;伝養(;初法諱)/太侃、別号;長任房/伝璟房
C4952 李峰(りほう・宮本みやもと/五味ごみ、浜中吉蔵3男)1790-1867*78* 紀伊引本町の生、
相賀村五味治右衛門の養子、さらに下総銚子今宮町の宮本多右衛門家を継嗣、
文化1804-18頃江戸に出て俳人:成美門、宮本家家督を嗣子藤蔵に譲渡;諸国遊歴、
晩年は門人指導、1823「ひとりたち」、「山影集」著、
[李峰(;号)の幼名/通称/別号]幼名;多四郎、通称;左平二/太左衛門、
別号;孤立斎/現在庵/長生窟
利包(りほう/としかね・前田)→ *知好*(ともよし・前田まえだ、藩士/城代) Ｑ３１９０
利邦(りほう・堀) → *利邦*(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌) Ｔ３１３９
C4953 利房(りぼう) ? - ? 江前期京の俳人;
1633重頼「犬子えのこ集」4句入/72顕成「手繰舟」入
[山彦を弟子にとりたか郭公](犬子集;705/一声が山々に響く)
利房(りぼう)訓読はすべて→ *利房*(としふさ)
利鉾(りぼう;法名) → *三益*(さんえき・小河/源、幕臣/書/連歌)Ｌ２０７８
C4954 李部大王(りほうのおおきみ) ? - ? 親王/「在良朝臣集」詞書入(;恋人の女御の悲歌)
女御の歌[宮城野に枯れにし花の悲しきは折られぬ萩のうへも露けし]
敦賢親王と同一? → *敦賢親王*(あつかたしんのう、歌人) Ｂ１０２５
理法房(りほうぼう) → *珍海*(ちんかい・理法房、三論画僧) Ｋ２８６１
理法房(理峰房/理宝房りほうぼう;号)→ *顕覚*(けんかく;法諱、真言僧)Ｉ１８１７
李北(りほく・梶村) → *高朗*(たかあき・梶村/柁村かじむら、儒者) Ｌ２６４８
M4915 利朴(りぼく・後藤ごとう、)1680-1759*80* 陸奥弘前津軽藩士;1692(元禄5)近習坊主で出仕、
1706(宝永3)野本道元に随行し上京;茶道修学/1725(享保10)御茶道頭、1742藩命で還俗、
小姓組御近習番、神道;吉川家入門、1745高岡宮惣司/高照神社祭司役、1759(宝暦9)病没、
[利朴(;名)の字/通称]字;奇酉きゆう、通称;理右衛門/兵司ひょうし
李牧(りぼく・成田) → *蒼虬*(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) ２５０７
離牧子(りぼくし) → *定清*(さだきよ・服部はっとり、俳人) Ｂ２０８２
里木予一(りぼく-/さときよいち)→ *道元*(道玄どうげん・野本、茶人/養蚕)Ｄ３１６０
梨本(りほん) → *茂睡*(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) ４４０５
理本(りほん・高蓮社) → *良栄*(りょうえい;法諱、浄土僧名越派) Ｇ４９４６
利麿(りま・佐伯) → *利麿*(としまろ・佐伯さえき、国学/神職) Ｖ３１２５
利満(りまん・中村) → *利満*(としみつ・中村なかむら、藩士/彫刻/歌)Ｖ３１９２
李満(りまん・吉見) → *経武*(つねたけ・吉見よしみ、藩士/弓術家) Ｃ２９３９
理明房(りみょうぼう;字) → *興然*(こうぜん・こうねん;法諱、真言僧) Ｋ１９２２
利民(りみん・前田) → *利民*(としもと・前田、藩士/絵師) Ｎ３１９５
C4955 吏明(りめい) ? - ? 美濃の俳人;1696可吟「浮世の北」入
利明(りめい・前田) → *利明*(としあき・前田まえだ、藩主) Ｌ３１９０
利明(理明りめい・大原) → *利明*(理明としあき・大原/会田、和算家)Ｌ３１９５
驪溟(りめい・熊谷くまや) → *五右衛門*(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、商家/藩政)Ｌ１９７４
離明翁(りめいおう) → *梅軒*(ばいけん・南村みなみむら、儒/南学祖) Ｂ３６０６
理明房(りめいぼう;字) → *興然*(こうぜん・こうねん;法諱、真言僧) Ｋ１９２２
利茂(りも) → *利茂*(としげ、狂歌作者) Ｓ３１５１
利茂(りも・森川) → *利茂*(としげ・森川もりかわ、歌人) Ｔ３１５７
L4910 鯉門(りもん) ? - ? 江戸俳人;沾洲座点者、1754竹翁「誹諧童の的」点句入
利門(りもん・田村) → *利門*(としかど・田村たむら、国学者) Ｖ３１５７
李門(りもん・伊東) → *祐相*(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) Ｇ２３６８
李門(りもん・松井) → *宗瑞*(3世そうずい・松井まつい、俳人) Ｉ２５１３
理益(りやく;法名) → *通胤*(みちたね・中院/源、廷臣/日記) Ｂ４１８１
二亭(りゃんてい) → *垂穂*(たりほ・石井、藩士/儒/俳諧) Ｎ２６５０
4905 李由(りゆう・俗姓;河野、亮雄男)1662-1705*44* 近江犬上郡平田村月沢の真宗本願寺派僧;
光明遍照寺(明照寺)14世住職、律師、俳人;芭蕉門、許六と親交;芭蕉没後の彦根蕉門中心、

1696「韻塞いんふたぎ」98「篇突へんつき」02「宇陀法師」(以上許六と共編)、
1690其角「いつを昔」嵐雪「其袋」入/91「猿蓑」1句/94「炭俵」2句/98「続猿蓑」2句入、
自蹊の父、没後追善13回忌「昼寐随筆」、
33回忌追善「笠の影」(自蹊編;芭蕉ゆかりの渋笠を乞受け寺内に笠塚を築いたのに因む)、
[草刈よそれが思ひか萩の露](猿蓑;巻三/お前も萩の露を惜しみ刈りかねているのか)
[李由(;号)の法諱/字/別号]法諱;通賢、字;買年、
別号;四睂[梅]廬しばいろ/孟耶観/月沢道人、法名;亮隅
息子 → *自蹊*(じけい・河野、真宗僧/俳人) Ｂ２１８８

C4956 **利友**(りゆう) ？－ ？ 京俳;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[撫子なでしこは踏まじ妹がりゆく堤](都曲;上194、古今集躬恒の歌を踏まえる;
塵をだに据ゑじとぞ思ふ咲きしより妹とわが寝るとこなつの花)

C4957 **里右**(りゆう) ？－ ？ 京の俳人;1702轍士「花見車」1句入、
[釈迦の目やわれて帰らぬ煎りがはら](花見車;141、
焙烙の割れ目は別離を惜しむ涅槃の釈迦の目に似る)

C4958 **里遊**(りゆう・加藤かとう、正峰[巨橙]男)?-? 尾張佐屋本陣宿の生、俳人;父門、
安永天明1772-89頃佐屋俳壇の連衆:1772父巨橙三回忌追善集「さとの梅」編

C4959 **里雄**(りゆう・英亭;別号) ？－ ？ 江中期肥前長崎の俳人:淡々門、
1776(安永5)「其梁追善集」編(其梁は同門の堺の俳人)

C4960 **里由**(りゆう・宮田みやた) ？－ ？ 摂津兵庫の俳人;1782蕪村「花鳥篇」1句入、
[遠里とおざとの花静さよ午の貝](花鳥篇;63/静寂の花里に正午を知らせる法螺貝の音)

C4961 **理遊**(りゆう・松盛斎しょうせいさい、関本せきもと、名;以貫)1772-1849*78* 華道家:古流三代家元、安藤涼宇門、
古流花型の基礎を築く;江戸・北陸を中心に全国的規模に拡大、法眼、
1803「古流生花百瓶図」40「古流生花再撰百瓶図」48「古流生花門中百五十瓶図」編、
[松盛斎理遊(;号)の別号]松応斎、養嗣子;松盛斎理恩りおん

4906 **竜**(りゅう・長尾ながお) ？－ ？ 歌謡:1825「和漢連珠朗詠」編

M4903 **柳**(りゅう・小川おがわ、通称;美濃)1801-71*71* 筑後上妻郡の神職;北川内村神官、
国学;小川和泉門、小川好幸とは別人

柳(りゅう・小川) → *好幸*(よしゆき・小川おがわ、神職/国学) Ｌ４７７９
柳(りゅう・吉田) → *天梁*(てんりょう・吉田、儒者) Ｅ３０５７
竜(りゅう・一字名/連歌)→ *実枝*(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) ２０３３
竜(りゅう・秋月/劉) → *橘門*(きつもん・秋月、儒者) Ｉ１６６６
竜(りゅう・星野) → *東里*(とうり・星野、儒者) Ｉ３１０４
竜(りゅう・山本) → *南陽*(なんよう・山本やまもと、儒者) Ｊ３２６０
竜(りゅう・太田/池守) → *秋水*(しゅうすい・池守いけもり/太田、儒者) Ｘ２１７０
竜(りゅう・三浦) → *桜所*(おうしょ・三浦みうら、医者/詩) Ｃ１４５０
竜(りゅう・矢橋) → *赤水*(せきすい・矢橋やばし、詩人) Ｋ２４３０
竜(りゅう・鈴木) → *蘭園*(らんえん・鈴木すずき/源、医者/音律) Ｂ４８５７
竜(りゅう・長尾/井田) → *赤城*(せきじょう・井田いだ/長尾、儒者) Ｋ２４１９
竜(りゅう・小出) → *君徳*(くんとく・小出こいで、医者/解剖) Ｃ１７１７
竜(りゅう・安部) → *竜平*(りゅうへい・安部/安倍あべ/安、藩士/蘭学) Ｆ４９５２
竜(りゅう・直海) → *元周*(げんしゅう・直海なおみ、本草家) Ｊ１８５９
竜(りゅう・小石) → *元瑞*(げんずい・小石こいし、医者/詩文) Ｅ１８２２
竜(りゅう・渡橋/宮原) → *節庵*(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) Ｅ２４０３
鏐(りゅう/りょう・山口/佐藤)→ *尚中*(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医) Ｍ２６５９
鉚(りゅう・間部) → *止子*(とめこ・板倉いたくら、藩主夫人/歌) Ｕ３１２２
隆(りゅう・北島) → *雪山*(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) Ｅ２４３７
隆(りゅう/たかし・辻) → *好庵*(興庵こうあん・辻つじ、儒者) Ｈ１９１９
隆(りゅう/たかし・野呂) → *介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) Ｂ１５０９
隆(りゅう・荒木田) → *麗女*(れいじょ・荒木田、歌/物語作者) ５１０２
隆(りゅう・原) → *隆*(たかし・原はら、藩士/剣術家) Ｚ２６０９

騮(りゅう・中山)　→　*鼇山*(ごうざん・中山なかやま、漢学者)　Ｊ１９３８
笠(りゅう・戴たい)　→　*独立*(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧)Ｌ３１５６
利雄(りゅう・南部)　→　*利雄*(としかつ・南部、藩主/俳人)　Ｍ３１２６
利雄(りゅう・山口)　→　*利雄*(としお・山口やまぐち、歌人)　Ｔ３１４７
利有(りゅう・前田)　→　*治脩*(はるなが・前田、藩主/日記)　Ｇ３６６３
利友(りゅう・高田)　→　*利友*(としとも・高田、国学者)　Ｎ３１０５
里有(りゅう・山村)　→　*良喬*(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人)Ｍ２６３４

C4963 立阿(りゅうあ;法諱・法師)? - ?　南北期室町幕府奉行人、連歌;菟玖波集1句入、
歌人;1387浄阿勧進奉納「隠岐高田明神百首」入の立阿と同一か?、
[誰か知る二の河の中のみち](菟;釈教668/前句;たゝ一声にいたる彼国)、
[秋霧の浪立ちこめて勝間田の池の堤も見えぬころかな](高田明神歌;51/堤上霧、
勝間田の池;万葉に詠/枕草子入/大和説が有力;水のない池として詠まれる)

C4964 隆庵(りゅうあん・小野おの)1713- ?　岩代伊達の医者:宝暦1751-64頃江戸の望月三英門、
生涯独身;風雅を楽しむ、1763「飛鳥山館炮炙抄」著/82「飛鳥山館医法輯要」編、
1782「飛鳥山館丸散家蔵方」1808「飛鳥館書籍記」、「小野隆庵常建家訓」著、外編著多数、
[隆庵(;通称)の名/字/号]名;建/常建、字;子葉、号;飛鳥山人あすかさんじん/飛鳥山館

C4965 柳安(りゅうあん・畑はた、安藤碩翁男)1721-1804*84* 京の医者;医者畑柳景の婿養嗣子;柳景女と結婚、
1745法橋/57法眼/87法印、尚薬奉御となる;医学院の号を受、1767後桜町天皇の侍医、
1781(天明元)私財を投じ学館(医学院)を建設/儒学を修得、組織的教育実施;門弟2千余、
1762「斥医断」77「保寿論」83「医学院学範」98「医学院学範二編」1800「辨温疫論」外著多数、
[柳安(;通称)の名/字/号]名;惟和/維和、字;厚生、号;黄山/医学院、
養子;鶴山・柳啓・柳泰

C4966 立安(りゅうあん・山口やまぐち)1745-1820*76*　陸中気仙郡盛町の医者;代々探生堂経営;5世、
医の傍ら私塾開設;教授、1815(文化12)「雞窻録」著、
[立安(;通称)の名/号]名;済、号;探生堂5世

C4967 隆庵(りゅうあん・石井いしい、山田梁山3男)1811-84*74* 尾張医者;父梁山・兄貞石門、浅井貞庵・紫山門、
1828(18歳)尾張藩奥医石井恕庵の養子/31(天保2)養家を継嗣/藩医師;のち奥医師、
西洋医学;吉雄常庵門、詩文:貫名海屋門、種痘に尽力/1852藩種痘所開設時に取締に当る、
維新後;1870病院開業掛・種痘所頭取、詩;「隆庵詩藁」著
[隆庵(;号)の名/字/別号]名;超/絢、字;廷礼、別号;見隆/澹翁/澹雅楼、法号;順興院

C4968 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき、青山延于3男)1816-71*56* 常陸水戸の儒者/佐々木家の養子、
1842彰考館入、45弘道館訓導、「古史通韵例証」「絶句通韵例証」「律詩通韵例証」、
「錚光集」「柳菴文集」「和漢一轍」著、
[柳庵(;号)の名/字/通称]名;寛/延之のぶゆき/重之しげゆき、字;子容/叔卿、
通称;七右衛門/鉄三郎/六大夫

M4953 龍菴(りゅうあん・吉松よしまつ、)1823-92*70*　大和郡山藩士、国学・歌;伴林光平門、
国学/歌;三陰顕遠けんおん門、医者・茶人?
[龍菴(;名)の字/通称/号]字;忠順、通称;周得、号;不失

C4969 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、洞庵の長男)1825-90*66* 周防三田尻の医者(家業)/句読;今津桐園門、
習字;矢野括山門、1842儒学;長門萩の藩儒山県太華門、家学の医業を継嗣、
1852世子の侍講兼侍医、1855西洋学所師範掛/63藩主毛利敬親の侍医、蘭語の研究、
維新後;山口医院訳書校正掛・山口県師範学校教諭、「墨香文詩」著、
[隆庵(;通称)の名/字/別通称/号]名;遠、字;子静、別通称;富吉、
号;雪水/五市居士/竜溟/墨香/三十禄湾漁人

M4929 柳庵(りゅうあん・村林むらばやし、)1839- ?　江戸の医者、国学・歌;伊能穎則ひでのり門、
下総香取郡佐原で医業、
[柳庵(;号)の名/通称/別号]初名;景興/名;**繁枝**しげえ、通称;伊之助、別号;春斎

C4970 竜庵(りゅうあん・中村なかむら)? - ?　江後期江戸の医者:対馬藩江戸藩邸出仕、
江戸下谷三味線堀住、画;谷文晁門、「奥里樵歌」著、
[竜庵(;号)の名/字/通称/別号]名;鉉、字;君鼎、通称;太玄、別号;楽只園

竜杏(りゅうあん;号)　→　賢江(けんこう;道号・祥啓;法諱、絵師/臨済僧)Ｉ１８６３
笠庵(りゅうあん)　→　蒼狐(そうこ・小菅、俳人)　Ｂ２５３１
笠庵(りゅうあん)　→　鳥吟(ちょうぎん、俳人)　Ｈ２８８９
笠庵(りゅうあん)　→　逸志(いっし・木村・笠家、俳人)　Ｂ１１４３
笠庵(りゅうあん・森脇)　→　軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌)　Ｂ１７１３
笠庵(りゅうあん・肥田)　→　景粛(かげたか・肥田ひだ、国学/歌人)　Ｖ１５４５
隆安(りゅうあん・伊東)　→　隆安(たかやす・伊東いとう、歌人)　Ｖ２６４３
隆安(りゅうあん・三井)　→　士復(ことまた・三井みつい、医者/和学)　Ｒ１９３９
隆庵(りゅうあん・橘)　→　元周(もとちか・橘たちばな/吉田、幕府医者)Ｄ４４０４
柳庵(りゅうあん)　→　道寿(初世どうじゅ・長沢、医者)　Ｅ３１８６
柳庵(柳闇りゅうあん・栗原)→　信充(のぶみつ・栗原、幕臣/故実家)　３５１５
柳庵(りゅうあん)　→　紅月楼主人(こうげつろうしゅじん、洒落本)　Ｉ１９５０
柳暗(りゅうあん・庄原)　→　篁墩(こうとん・庄原しょうばら、儒者/詩)　Ｋ１９８４
立安(立庵りゅうあん・寿命院)→　宗巴(そうは・秦はた、医者/仮名草子)　Ｃ２５６８
立庵(りゅうあん・奥山)　→　立庵(りつあん・奥山おくやま、医者/歌人)　Ｍ４９５５

4907　立以(りゅうい・喜多村/北村きたむら)?-?　江前期大坂備後町の俳人;令徳・貞徳・西武門、
連歌誹諧を修学/万治1658-61頃に立圃門、1661(寛文元)「烏帽子箱」編、「入婿集」編、
「長かもし」「長ばなし」著、立圃「あだ花千句」入/1672可常「誹諧法農華のりのはな」入、
1673「哥仙大坂誹諧師」入/75西鶴「独吟一日千句」巻末入、1681賀子「山海集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[月や絵師庭木をうつす障子帋しやうじがみ](大坂誹諧師/山海集;右4)
[立以(;号)の名/別号]名;宗清、別号;休斎きゅうさい/剃髪号;立斎
☆歌人の休斎(1670下河辺長流[林葉累塵集]入)と同一?
[秋風の吹くにも中の絶えゆくかさすがにめには嶺の白雪](林葉累塵;恋975)

C4971　柳意(りゅうい;法諱、俗姓;浜松)1665-1736*72*　佐渡両津湊の真宗勝広寺6世住職/詩文に長ず、
「選択集微考」著

C4972　立意(りゅうい・若山わかやま)　? - 1793　江戸中期の医者;三河吉田藩の儒医、
1773「天文医案」注、
[立意(;通称)の名/字/別通称/号]名;如登、字;士善、別通称;直彦、号;敬斎

C4973　立意(りゅうい・多田ただ、名;秀是)1828-1916*89*　尾張名古屋の商家/本町・転馬町・愛知町牧野に住、
俳人;梅裡門/のち芹舎門;芹舎の執筆を3年務む、二条家に参向;列衆宗匠格を免許される、
1862(文久3)「こふくろ」編、
[立意(;号)の名/字/通称/別号]字;士交、通称;雛屋利七、別号;竹林居/向鏡園
立意(りゅいい・堀)　→　槐庵(かいあん・堀ほり、儒者)　Ｉ１５３２
隆意(立意りゅいい・福富)→　江庵(興庵/幸庵/好庵こうあん・福富ふくとみ、医者/歌)Ｒ１９７６
隆逸(りゅういつ・小出)　→　君徳(くんとく・小出こいで、医者/解剖)　Ｃ１７１７
柳逸(りゅういつ・朝山)　→　重直(しげなお・朝山あさやま/勝部、国学)　Ｎ２１１８

M4975　立印(りゅういん;法諱/初諱;隆印・道号;心源)?-?　近江の臨済宗永源寺で修行;初め隆印、
永源寺17世如雪文巌より嗣法、1652(承応元)曹源寺住寺/65(寛文5)永源寺維那、
1665烏丸資慶に法雲院の祖因と共に随行し高野山参詣(資慶[三行記]入;詩1・歌31首)、
[すつる身はうきたる雲か行くみづかいちの仮屋のしばしとまらで]、
(三行記;河内三日市泊/身は市場の仮小屋のように落着かない/みつかいちを隠す)

C4974　柳陰(りゅういん)　? -　?　江前期江戸の俳人;1691(元禄4)までに没、
1691「猿蓑」1句入/91不角「二葉之松」入,
[しづかさは栗の葉沈む清水哉](猿蓑;巻六/亡人とある)

C4975　柳因(りゅういん・長生亭ちょうせいてい、姓;永田、間瀬徳左衛門2男)?-1742　大和郡山藩士の家、
大阪に出て医業、1734(享保19)由縁斎永田貞柳の婿養子、狂歌作者、
1734「置みやげ」35「狂歌机の塵」37「戎の鯛」41「狂歌落葉嚢」編、
[長生亭柳因(;号)の別号]　貞竹ていちく

C4976　柳蔭(りゅういん・滝本たきもと)1717-1785*69*　江中期肥後熊本の柏原家家臣、

歌人/儒者;門人多数、「和歌名苑録」著、
[柳蔭(;号)の名/通称/別号]名;**昌充**まさあつ、通称;伊右衛門、別号;伊秦
柳陰(りゅういん・野中) → *婉*(えん・野中、医者/詩歌) E１３３８
柳陰(りゅういん・茨木) → *素因*(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F２５８３
柳陰(りゅういん・関) → *尚之*(ひさゆき・関せき、商家/歌人) I３７２３
柳陰(りゅういん・八木) → *雕*(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌) I１０５７
柳隠(りゅういん・那波) → *蕉牕*(しょうそう・那波なば、漢学者/詩歌) K２２５３
柳隠(りゅういん・大谷) → *紫陌*(しはく・大谷、俳人) V２１４５
立允(りゅういん・細川) → *立孝*(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人) R２６６５
隆蔭(りゅういん・油小路) → *隆蔭*(たかかげ・油小路あぶらのこうじ、廷臣/日記) C２６５６
隆印(りゅういん;初法諱) → *隆法*(りゅうほう;法諱・道慶坊、真言僧) F４９６２
柳陰庵[軒](りゅういんあん[けん]) → *句空*(くくう、俳人) １７４４
柳隠観(りゅういんかん) → *蟻道*(ありみち・森本、酒造家/俳人) B１０９５
柳陰漁者(りゅういんぎょしゃ) → *師古*(しこ・**磵**はざま、絵師) T２１２９
柳陰子(りゅういんし) → *水色*(すいしょく・柳陰子、俳人) ２３７１
柳隠子(りゅういんし) → *信意*(のぶのり・馬場、軍記作者) C３５７１
柳陰堂(りゅういんどう) → *了壽*(りょうじゅ・柳陰堂、歌人) H４９８２

C4977 **柳雨**(りゅうう) ? - ? 俳人;1686「春の日」入、
[箒木ははきぎの微雨こさめこぼれて鳴く蚊哉](春の日;夏/夏夕暮の繊細な静寂)

C4978 **立宇**(りゅうう・島田しまだ、鴫立庵10世)1779-1866*88* 越後の俳人、相模大磯に住、
1842鴫立庵を継承、1842「小余綾集」編/46「春の詠」著
柳搗(りゅうう・牧) → *蔭路*(かげみち・牧まき、国学/歌) V１５６８
柳雨軒(りゅううけん) → *宗信*(そうしん;号、広岡、俳人) C２５２０

C4979 **柳雨亭種安**(りゅうううていたねやす)?- ? 江末期戯作者:柳下亭種員門、
1852「春の早蕨」53「浮世文庫」、「春の雨眠気さまし」「眠気ばなし」「絵本武勇伝」著

C4980 **竜雲**(りゅううん;字・空性くうしょう;法諱)?-? 高野山真言学僧、1682「仁王経集要鈔」91「科註心経」、
1692「科註般若心経玄談」94「般若心経秘鍵略註詳解」1721「地蔵本願経集要記」外著多数

C4981 **留雲**(りゅううん・対馬つしま)1796-1858*63* 江後期讃岐の詩人;菊池五山門、書画を嗜む、
1846「留雲集手抄百絶」著、
[留雲(;号)の名/通称]名;世鼎、通称;新太郎/新
留雲(りゅううん・松尾) → *相永*(すけなが・松尾まつお、廷臣/尊攘) J２３２６
竜雲(りゅううん;法諱) → *法天*(ほういてん;道号・竜雲、曹洞僧) C３９３８
竜雲院(りゅううんいん) → *日珖*(にちこう;法諱、仏心院、日蓮僧) B３３７７
凌雲院(りゅううんいん) → *直寄*(直奇なおより・堀ほり、藩主/兵学) D３２０４
竜雲院(りゅううんいん) → *親義*(ちかのり・堀、親害男/藩主/日記) B２８６４
竜雲閣(りゅううんかく;号) → *聞生*(もんしょう;法諱、真宗本願寺派僧) I４４６４
竜雲軒(りゅううんかく) → *頼重*(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) I４７７３

K4988 **竜雲斎**(りゅううんさい・遠山とおやま)? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入、
[世の中の誰もほしがる色なれや金かねと螢は摑みつくほど](才蔵集;146、
卑俗な金儲けと優雅な蛍狩り)

C4982 **隆恵**(りゅうえ;法諱、藤原隆忠男?)?-? 1138存 天台宗叡山延暦寺僧:1138行玄の推挙で阿闍梨、
歌人:詞花集1首入(189)、後葉集・続詞花集・夫木抄入集、藤原顕季の甥か?
[かくとだに言はで儚はかなく恋ひ死なばやがて知られぬ身とやなりなん]、
(詞花;恋189/自分の気持はこうだとだけでも言えない)
立慧(りゅうえ;字) → *日祐*(にちゆう;法諱・収玄院、日蓮僧) D３３３３
隆慧(りゅうえ;法諱) → *隆英*(りゅうえい;法諱、謙敬院、真宗僧) L４９２８
竜恵(りゅうえ;字) → *日快*(にっかい;法諱、求子、日蓮僧) D３３７７

C4983 **柳栄**(りゅうえい・桃田ももた、名;守光)1647-98*52* 江戸桶町の絵師:狩野探幽門、探幽四天王の1、
医術も修得、「宇津保物語絵巻」画、
[柳栄(;通称)の別通称/号]別通称;武左衛門、号;幽香斎、柳昌(守明)の父

C4984 立詠(りゅうえい・松井まつい) ? - ? 江中期江戸の俳人、1722(享保7)「俳諧絵文匣」編、
[立詠(;号)の別号] 松玉舎/兎睡堂
C4985 立栄(初世りゅうえい・野村のむら、高須藩士舎人宇右衛門男)1751-1828*78* 美濃高須藩医野村立見養子、
医修学;1770(20歳)領内徳田村に本道兼外科金瘡医として開業/長崎に遊学;
蘭学・蘭方医学;吉雄耕牛門;1783免許を得て帰国、尾張名古屋城下で医開業、
1794尾張藩出張調御用御用医師に採用/1794御用縣医師/1826致仕、「しきのくさくさ」著、
「野村方彙」「三扇堂随証方」「三扇堂方考」「免帽降乗録」「医家姓名録」「方鑑并口中細簡」著、
1828「枇杷島互市産物考」著、1834「医家姓名録」息刊、水谷豊文・原道円・小川守中の師、
[立栄(初世;通称)の名/字/別通称/号]名;元幸/劉瑛、 字;子宝/伯正、 別通称;舎三郎、
号;三学堂/高洲翁/健翁/見能庵/三扇堂一作、法号;瑛玉院、立栄2世の父
C4987 立栄(2世りゅうえい・野村のむら/修姓;野、初世立栄男)?-1846 尾張藩医者;父継嗣、
雅楽・狂歌・川柳を嗜む、1834父の「医家姓名録」を刊行、「千歳草」「玉石雑誌」「カベニ耳」著、
「岩塚田祭略抄」「狂哥人」著/「名古屋医家姓名録」編/「朧闇集二編」校訂、
[立栄(2世;通称)の名/字/号]名;元幸/立伯、字;伯正、
号;方円斎/三学堂/山水/莞爾亭一笑/大方有益おおかたのゆうえき、法号;伯正院
C4986 隆栄(りゅうえい;法諱・竜謙;字、俗姓;石井)1809-67*59* 安房長狭郡打墨真言僧;1822華蔵院隆典門、
華蔵院で出家、1825(文政8)京の智積院で性相学を究明/1850智積院首座/62能化、僧正、
宥性・旭雅の師、「阿毘達磨倶舎論玄談」「倶舎法相見聞記」「五合記」「諸律戒数集」著、
「大小乗戒袖珍」「小乗法相通鑑」「唯識三類境選要記」、1844「法宗源私記」著/外著多数、
L4928 隆英(りゅうえい;法諱/別法諱;隆慧、諡号;謙敬院、俗姓;瓜生津)1820-1903*84* 近江の真宗僧、
真宗本願寺派南法寺住職;断鎧門、勧学となる、「十二礼通講」著
立詠(りゅうえい・高井) → *立志*(2世りゅうし・高井、立宜の弟、俳人)Ｅ４９２８
立詠(りゅうえい・高井) → *立志*(3世りゅうし・高井、2世男/俳人) Ｅ４９３５
立英(りゅうえい;初法諱) → *雲堂*(うんどう;法諱・乗音、真言僧) Ｅ１２０１
隆永(りゅうえい・中御門/四条)→ *隆永*(たかなが・四条/中御門、廷臣)Ｍ２６６１
隆英(りゅうえい・八条) → *隆英*(たかひで・八条/藤原、廷臣/故実) Ｍ２６９９
竜衛(りゅうえい・田辺) → *明庵*(めいあん・田辺たなべ、儒者) ４３０５
劉瑛(りゅうえい・野村) → *立栄*(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) Ｃ４９８５
隆栄院(りゅうえいいん;法号)→ *広定*(ひろさだ・蒔田まいた、武将/藩主) Ｆ３７８３
隆英房(りゅうえいぼう;字) → *寛光*(かんこう;法諱、真言僧/声明) Ｑ１５３９
C4988 立易(りゅうえき・高橋たかはし)? - ? 江戸初期の歌人、1649長嘯子「挙白集」入
隆益(りゅうえき・中井) → *乾斎*(けんさい・中井、漢学者/詩人) Ｅ１８１２
隆益(りゅうえき・樋口) → *三益*(さんえき・樋口ひぐち/清水、幕府侍医)Ｎ２０４７
柳右衛門(りゅうえもん・是枝)→ *貞至*(さだのり・是枝これえだ、商人/勤王) Ｊ２０３０
竜右衛門(りゅうえもん・田辺)→ *明庵*(めいあん・田辺たなべ、儒者) ４３０５
C4989 隆縁(りゅうえん;法諱、通称;伯耆公、伯耆守藤原隆忠男)?-? 1149存 母;若狭守藤原通宗女、
天台宗比叡山僧、忠兼の兄弟/顕季の甥/顕輔の従兄弟、
歌人:1134顕輔家歌合/49家成家歌合・山路歌合参、1145-54頃「教長家廿五名所歌会」参加、
「詞花集」撰歌に協力、後葉集・続詞花集・夫木抄入、
顕昭「古今集註」「袖中抄」に隆縁の説が引用、袋草紙に[おほをそどりの僧]との逸話、
詞花集3首(103/209/210)、
[秋の夜の露もくもらぬ月をみて置きどころなきわが心かな](詞花;秋103)
C4990 隆円(りゅうえん;法諱、通称;文机房)?-? 鎌倉期三河の芸能僧;14-5歳で出家/諸国修行、
1248上京;琵琶:1248藤原孝時(法深房)門、
文永弘安1264-88頃「文机談」著;琵琶相承に関する記事
C4991 隆宴(りゅうえん・紀き、石清水別当幸清ぎょうしょう[1177-1235]男)?-? 鎌倉期石清水護国寺の僧、
歌人:1248「明恵上人歌集」入(;明恵が八幡宮参詣し父幸清宅で月夜閑談各々歌を詠む)、
[今宵聞く御法みのりを月のゆかりとてのちの世深き闇や晴れなむ](明恵集;遣心集9)
C4992 隆淵(りゅうえん;法諱、号;大納言法印)?-? 鎌倉期1316-56頃僧;法印/二条派歌人:為世門、
1316(正和5)二条為藤より古今集・後撰集の伝授を受、権大僧都、

1325為世・為忠と鴨家祠官の月次歌会に参加(;飛月集入)、1335(建武元)内裏千首に参加、
1350為世十三回忌詠法華経和歌に出詠、二条派法体歌人として活躍、
続現葉集・臨永集・松花集・藤葉集(4首)入集、
勅撰11首;続千載(951)続後拾遺(420/1092)風雅(157)新千載(488/1356/1782/1807)、
新拾遺(354/1163)新後拾遺(668)、
[しばしこそかげをもかくせわしの山たかねの月はいまもすむなり]、
(続千載;951/方便現涅槃而実不滅度/鷲の峰は霊鷲山りょうじゅせん)
[心こそ外にうつらね色も香もおなじむかしの花の下かげ](藤葉;春67)

C4993 **隆縁**(りゅうえん;法諱) ? - ? 南北期僧都/権大僧都、歌人:新後拾遺1343、
[住むからにうき世とならばなほ深くいりても山のかひやなからん](新後拾;雑1343)

C4994 **隆円**(りゅうえん;法諱・法師)?- ? 南北期真言宗醍醐寺三宝院の僧/連歌作者、
1346(貞和2)賢俊に随行し伊勢参宮(;賢俊僧正日記入)、菟玖波2句入、
[待ときや人のうきをも忘るらむ](菟;恋773/前句;頼む心にいつはりもなし)

C4995 **柳宴**(りゅうえん) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」4句入、
[ゆく路みちの野菊の果ては湊みなと哉](卯辰集;三380/乗船する湊に続く野菊の道)

C4996 **柳燕**(りゅうえん) ? - ? 京の四条西洞院西入ルの俳人;似船門、
1691江水「元禄百人一句」目録入

C4997 **竜淵**(りゅうえん・紀) ? - ? 儒者/白話翻訳者;
1770(明和7)「通俗孝粛伝」訳(;明の裁判小説「竜図公案」の6話翻訳/江戸三田屋喜八刊)

C4998 **立遠**(りゅうえん・藁科わらしな)? - 1801 藁科立沢の養子;羽前米沢藩士、
養父立沢が重臣7人の嗷訴(七家騒動)に座し1773斬首;立遠は隠居囲人となる、
1790「管見談」を著し米沢藩政の得失を論ず;藩主上杉鷹山治憲に嘉賞され記録係に登用、
「井蛙鄙談」「代眠録」「柳園雑話」著、
[立遠(;号)の通称/別号]通称;玄敬、別号;東廓山人

C4999 **竜淵**(りゅうえん・尾本おもと/本姓;大江、正房男)1742-1827*86* 越後新発田藩士/儒;祖父富則・父門、
浅見東皐門、祖父と同じ右筆となる/江戸で儒学:安達清河門、詩に長ず、1785近習;80石、
1789(寛元化)事に座す;蟄居/1794赦免、「古人吟稿」「亡友詩稿」編、「芝田古人唫稿」著、
[竜淵(;号)の名/字/通称/別号]名;元遜、字;公謙、通称;喜次郎、
別号;鷦鷯亭しょうりょうてい主人

D4900 **竜淵**(りゅうえん・湯口ゆくち)1763-1833*71* 秋田藩領羽後平鹿郡横手の儒者:京の皆川淇園門、
1804頃帰郷;私塾三畏堂を開設、文政1818-30頃教育功労により藩主より2人扶持を受、
「百家史子自鈔」「竜淵詩文稿」著、
[竜淵(;号)の名/通称/別号]名;嗣久、通称;正司/荘司しょうじ、別号;午睡廬

D4901 **隆円**(りゅうえん;法諱、俗姓;長井)?-1834 江後期京北野の浄土僧;9歳で帛水智覚門;得度、
仏定門;江戸芝増上寺に修学/隆善・円宣両大僧正より受法、檀林武蔵滝山大善寺の上首、
のち帰京;北野回向院住/専念寺に移住;寺門興隆に尽力、諸国の念仏往生者の伝記を著作、
1790「大原問答」1803「地獄実有説」1806-30「近世念仏往生伝」17「法岸和尚行業記」著、
1820「中将姫法語」編/25「淡海往生伝」著/26「鎌倉法語集」29「鎮西法語集」編/外編著多数、
[隆円(;法諱)の法名]託蓮社調誉・順阿・知周・託静

D4902 **竜淵**(りゅうえん・桜井さくらい、名;安亨、安信男)1766-1805*40* 常陸水戸の儒者:立原東里門、
1790彰考館入;門下を指導、詩歌に長ず、「竜淵詩稿」「大日本史天文志稿」著、
「陰陽志」編/「竜淵先生詩集」著、「居易堂遺稿」、
[竜淵(;号)の字/通称/別号]字;君節/通卿、通称;彦之允、別号;居易堂

D4903 **榴園**(りゅうえん・江馬えま/初姓;飯尾いいお)1804-90*87* 美濃の蘭方医者;江馬蘭斎門、宇田川榕庵門、
江馬松斎(蘭斎の養嗣/1820没)の嗣、上京;仁和寺宮の侍医、
嘉永1848-54頃有信堂を開設;種痘術の普及、「内外方府」「窒速篤内科書」著、
「模斬篤薬剤書」著/「和蘭局方」訳/1867「穆氏薬論」訳、
[榴園(;号)の名/字/通称/別号]名;修、字;士得、通称;権介/権之助ごんのすけ、別号;静安居

D4904 **竜淵**(りゅうえん・安藤あんどう)1806-1884*79* 幕臣;寄場奉行、書:市河米庵門、古器鑑賞に長ず、
「竜淵吟藁」著、

[竜淵(;号)の名/通称/別号]名;宜、通称;伝蔵、別号;晩翠塾
M4935 隆円(りゅうえん;法諱、号;紹空)1819-1879*61*　紀伊海部郡の浄土宗西山派僧、国学者、
有田郡箕島の常楽寺20世住職
柳園(りゅうえん・石川)　→　*依平*(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人)　４７３５
柳園(りゅうえん・海野)　→　*游翁*(ゆうおう・海野幸典ゆきのり、歌人)
柳園(りゅうえん・村田本成)→　*春馬*(初世しゅんば・三亭、戯作/狂歌)　２１６５
柳園(りゅうえん・青柳)　→　*種信*(たねのぶ・青柳、国学)　Ｒ２６９３
柳園(りゅうえん・黒川)　→　*滝津*(たきつ・黒川、歌人)　Ｎ２６８８
柳園(りゅうえん・小林)　→　*斐成*(あやなり・小林、歌人)　Ｂ１０６０
柳園(りゅうえん・加藤)　→　*忠俊*(ただとし・加藤、里正/国学/歌人)　Ｆ２６９６
柳園(りゅうえん・青柳)　→　*種信*(たねのぶ・青柳、藩士/国学者)　Ｒ２６９３
柳園(りゅうえん・伊東)　→　*祐命*(すけのぶ・伊東/藤原、藩士/歌人)　Ｃ２３１３
柳園(りゅうえん・海野)　→　*遊翁*(ゆうおう・海野うんの/滋野、幕臣/歌)４６８４
柳園(りゅうえん・柳河)　→　*春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１
竜園(りゅうえん・座光寺)　→　*南屏*(なんぺい・座光寺ざこうじ、儒/医者)　Ｊ３２４０
竜園(りゅうえん・佐久間)　→　*義済*(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇)Ｍ４７９７
竜淵(りゅうえん:法諱)　→　*文思*(もんし:道号・竜淵、寛永寺僧吏)　Ｉ４４２３
竜淵(りゅうえん:号)　→　*主一*(殊意痴しゅいち;法諱、浄土宗西山派僧)Ｗ２１５０
竜淵(りゅうえん・松崎)　→　*明*(あきら・松崎まつざき、医者/詩文)　Ｅ１０１８
竜淵(りゅうえん・村田)　→　*氏章*(うじあき・村田、藩士/文筆家)　Ｃ１２３０
竜淵(りゅうえん)　→　*織仁親王*(おりひとしんのう、書/歌人)　Ｄ１４３５
竜淵(りゅうえん・三井)　→　*之孝*(ゆきたか・三井、書家/篆刻)　Ｅ４６６２
竜淵(りゅうえん・広川)　→　*獬*(かい・広川ひろかわ、医者;蘭漢医)　Ｅ１５３１
竜淵(りゅうえん・松井)　→　*元絢*(げんけん・松井まつい、医者/古医法)　Ｉ１８５７
竜淵(りゅうえん・安東)　→　*貞敏*(さだとし・安東あんどう、藩士/国学/詩)Ｎ２０７４
竜淵(りゅうえん・岡村)　→　*有長*(ありなが・岡村おかむら/源、藩士/歌)　Ｈ１０３４
竜淵(りゅうえん・大金)　→　*玄僊*(げんせん・大金おおがね/黒川、歌/俳人)Ｎ１８６４
立円(りゅうえん;字)　→　*日受*(にちじゅ;法諱・永昌院、日蓮僧)　Ｃ３３１０
隆遠(りゅうえん・鷲尾)　→　*隆遠*(たかとお・鷲尾わしのお/わしお、廷臣)　Ｍ２６３７
隆延(りゅうえん・阿部)　→　*隆延*(たかのぶ・阿部あべ、神職/国学)　Ｖ２６０３
竜困室(りゅうえんしつ)　→　*綾山*(りょうざん;道号・宜禎、臨済僧)　Ｌ４９４３
柳煙舎(りゅうえんしゃ、柳烟亭/柳烟楼)→　*国直*(くになお・歌川、絵師)　１７７９
D4905 柳園石門(りゅうえんせきもん、姓;千葉)?-?　陸前仙台の狂歌作者;千柳側判者、
1863(文久3)「狂歌千本桜」編、「魚鳥道化百人一首」著、
[柳園石門(;号)の別号]　柳下窟/悟容人
柳園種春(りゅうえんたねはる)→*種春*(たねはる・柳園、小沢種春、藩士/戯作者)Ｒ２６９７
D4906 柳煙亭種久(柳烟亭-りゅうえんていたねひさ)?-?　江末期戯作者:柳煙亭種員門、
1852-66「仮名反古一休草紙」/53「滝桜花渦浪」「春霞五色彩絵」/54-65「風俗浅間嶽」、
1859「蝶衝裾野皐月雨」/59-66「伊呂波文庫」、1862「桜陰花の関守」
柳烟楼(りゅうえんろう、柳烟亭)→　*国直*(くになお・歌川、絵師)　１７７９
柳塢(りゅうお・山口)　→　*触山*(しょくざん、山口、寛之助、浄瑠璃)　Ｃ２２３１
柳搗(りゅうお/りゅうう・牧)　→　*蔭路*(かげみち・牧まき、国学/歌)　Ｖ１５６８
D4907 隆雄(りゅうおう;法諱・覚山;字)?-1786　下総の真言僧:下野伏木の大政院で出家、
京の智積院で研鑽;湛慧・洞泉門/中性院流;竜天門/伝法院流及び灌頂を相承、
1766(明和3)江戸真福寺住/69下野大政院に退隠;著述専念、「玄秘抄聞記」「金宝鈔聞記」、
1773「密行要集」78「伝法院流灌頂私志記」80「伝法院流灌頂法机編」84「伝流灌頂血脈記」著
D4908 竜翁(りゅうおう・近藤こんどう、名;重道しげみち/通称;大隅守)?-?宝暦1751-64頃没　大和の神職;
大和高市郡神備飛鳥神社神主、のち摂津東生郡浪華森之神社神主、
占部流神道を主唱;門弟教育、1721「徒然草器物図」/39「檍原艸」45「恵美須艸」著、
1752「神道伊勢物語」、「住吉岸の忘草」「中臣祓御蔭艸」著、

D4980 **柳泓**(りゅうおう・鎌田かまた、久保又右衛門男/伯父一窓養嗣)1754-1821*68* 紀州生/京で医業:養父門、心学:富岡以直門、儒仏老荘を中心とした[敬]の主張;京心学界の中心、医は古医法と蘭法、「敬説」「朱学辨弁」「心学五則」「理学秘訣」「心学奥の桟」「心苑余材」「擬水滸伝」、「詩文鈔」著、[柳泓の名/字/通称/別号]名;鵬、字;図南、通称;玄珠、別号;曲肱庵

立翁(りゅうおう) → *如風*(じょふう・文英和尚、俳人) Ｃ２２９３
笠翁(りゅうおう・林) → *良通*(よしみち・岡村、随筆家)
笠翁(りゅうおう) → *破笠*(はりゅう・小川、蒔絵象眼/俳人) Ｆ３６８４
笠翁(りゅうおう・今村) → *長順*(ながより・今村、医者/俳人) Ｇ３２５８
笠翁(りゅうおう・滝沢) → *馬琴*(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) ３６０７
笠翁(りゅうおう・森) → *玉岡*(ぎょくこう・森もり、医者/詩人) Ｏ１６９１
笠翁(りゅうおう・田能村) → *直入*(ちょくにゅう・田能村たのむら、絵師) Ｋ２８３２
笠翁(りゅうおう・林) → *良通*(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典)Ｈ４７３８
笠翁(笠鶯りゅうおう・佐藤)→ *尚中*(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医) Ｍ２６５９
柳翁(りゅうおう・柄井) → *川柳*(3世せんりゅう、2世弟/川柳点者) ２４４１
柳翁(りゅうおう・人見) → *川柳*(4世せんりゅう、幕臣/雑俳点者) ２４４２
柳翁(りゅうおう・東条) → *舜清*(しゅんせい;法諱・東条、修験僧) Ｚ２１４７
竜王院(りゅうおういん・号) → *智韶*(知韶ちしょう;法諱、天台僧) Ｅ２８４１
柳王舎(りゅうおうしゃ) → *直弼*(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) Ｂ３２３９
隆屋(りゅうおく・浦井) → *有国*(ありくに・浦井うらい、商人/俳人) Ｂ１０６７
柳屋(りゅうおく・柳河) → *春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１
柳塢堂(りゅうおどう) → *正秋*(まさあき・臼田うすだ/鷲見、国学者) Ｎ４０９６

D4909 **竜音**(りゅうおん;法諱) ? - ? 江後期豊後真宗光蓮寺住僧、1795(寛政7)刊「仮名遣秘伝鈔」、「三紀問答」著

D4910 **竜温**(りゅうおん;法諱・雲解;字、俗姓;樋口、会津西光寺義教男)1800-85*86* 真宗大谷派学僧:1818越後無為信寺徳竜門;真宗学を修学、唯識・倶舎にも通ず/1839(天保10)京円光寺入寺、1865講師/66大経を講ず、護法場運営に尽力、1846「成唯識論講録」52「執持鈔探要記」著、1863「コハイコト知ラズ」「倶舎論聞記」/64「観無量寿経講義」67「安心争論雑語」外著多数、[竜温(;法諱)の号] 香山院

L4989 **隆音**(りゅうおん;法諱) ? - ? 江後期;僧/歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[数ならぬ吾が身なりとは思ひしに恋すてふ名は世にたちにけり]、(大江戸倭歌;恋1456/名立恋)、[世のうきに思ひかへてもみ山辺はあまりさびしきむささびの声](同;雑1735)

隆音(りゅうおん・杉/細井)→ *隆音*(たかね・細井/杉、廷臣/歌人) Ｃ２６５５

D4911 **榴窠**(りゅうか・川村かわむら、理門男)1826-68*43* 陸奥津軽の儒者:津軽弘前藩藩校稽古館に修学、江戸の昌平黌に修学;佐藤一斎・安積艮斎門/弘文館詩文掛;幕府の扶持を受、1855弘前藩江戸藩邸学問所教授/58帰国;稽古館学士、維新後貢士として京都に赴く、「榴窩遺稿」(;今幹斎・手塚元瑞編纂)、[榴窠(;号)の名/字/通称]名;直良、字;仲甫、通称;善之進/彰之助、善一の父?

竜華(りゅうか)すべて → *竜華*(りゅうげ)
柳下(りゅうか・岩波) → *午心*(ごしん・岩波、俳人) Ｄ１９０１
柳夏(りゅうか・細谷) → *成元*(せいげん・細谷/柳夏、俳人) Ｂ２４３２
柳窩(りゅうか・岡村) → *御蔭*(みかげ・岡村、神職/歌人) Ｈ４１４１
隆謌(りゅうか・四条) → *隆謌*(たかうた・四条、廷臣/七卿落の1) Ｌ２６５９
竜家(りゅうか・小沢) → *郷助*(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) Ｋ１９０３
竜柯[主人](りゅうか[しゅじん])→ *貞庵*(ていあん・窪津くぼつ、医者) ３０２４

D4912 **隆雅**(りゅうが;法諱) ? - 1357 山城の真言僧;山科安祥寺成恵門;伝法灌頂を受、安祥寺20世を継承/1310権律師/16光誉より灌頂を受/30法印/32法琳寺別当、1333より大元帥法を修す/1339東寺二長者/44僧正/光明峯寺に没、追贈大僧正、興雅(愛代丸)の師、「三宝院伝法灌頂私記」「伝法灌頂私記」著

K4989 **柳賀**(りゅうが・近江屋おうみや、伊平次)?-? 1772-89頃江戸札差/二三治「十八大通」入

竜河(りゅうが・大蔵)　→　*謙斎*(けんさい・大蔵おおくら、儒者)　Ｉ１８９２
竜我(りゅうが・林屋)　→　*正蔵*(3代しょうぞう・林屋はやしや、噺家)　Ｋ２２６３
柳下庵(りゅうかあん)　→　*志水*(しすい、俳人)　Ｅ２１２２
柳下庵(りゅうかあん)　→　*寸昌*(すんしょう・柿崎かきざき、俳人)　Ｈ２３４０

D4913 **隆海**(りゅうかい;法諱、俗姓;清海)815-886*72*　平安前期摂津の三論僧:摂津の講師薬円により出家、三論;願暁門;835満分戒を受、法相;仲継門/密灌;真如法親王門、864大極殿最勝講の問者、868大和の講師/874維摩会の講席に就く/885(仁和元)律師;元興寺住、「方言義」「因明九句義」「四諦義」「二諦義」「二智義」著

D4914 **隆海**(りゅうかい;法諱、藤原家隆男)1120-77*58*　平安後期真言僧;1146紀伊円明寺の兼海門、伝法灌頂を受、高野山大伝法院6代学頭となる、釈迦院住;法印、「御質抄」「灌頂印明」著、「十八道金界口伝私記」「尊法鈔」「要尊法」「胎蔵界次第」「仏智常住記」著、[隆海(;法諱)の通称]大夫法印(;父家隆が太皇太后宮権大夫のため)/釈迦院法印

D4915 **隆快**(りゅうかい;法諱)　？－　？　室町期真言僧;山城山科安祥寺興厳門;出家、安祥寺で修学、宝性院成雄に受法、安祥寺を継承、1479高野山より来寺の仟遍に安祥寺流を伝授、光意も付法の弟子、「安祥寺伝授日記」「実円隆巌相承事」「神道諸流目六」「金剛界小次第安」外著多数

D4916 **隆海**(りゅうかい;法諱)　？－　？ 1468存　能登の天台僧;法印/権少僧都、武州喜多院住、1457(康雅3)「止観見聞」、「問要賢林廿六ケ条」「玄義私見聞」著

D4917 **竜海**(りゅうかい;法諱)　？－　？　江前中期真宗大谷派学僧:肥後延寿寺月感門、1706(宝永3)「四十八願之略鈔」/12「山分大概鈔注」、「教行信証義考」著

D4918 **流海**(りゅうかい;法諱)　？－　？　江中後期伊勢の真宗本願寺派正覚寺の住僧:功存門、功存の「願生帰命弁」を弁護、1789(寛政元)「排謬翼宗篇」著、「大蔵虫払目録」編、[流海(;法諱)の別法諱] 莱洲/了恵

D4919 **竜海**(りゅうかい;法諱・密乗房;字、俗姓;古川)1756-1820*65* 江中後期但馬美含郡竹野村の真言僧、1767(12歳)美含郡蓮華寺の舜詠門;出家/1777(22歳)高野山入;密門に入門;求寂戒を受、1780苾芻戒を受/1788丹後松尾寺に住、密門没後;高野山真別所円通寺11世を継承、1793「顕密学処日月章」「陀羅尼宗所学有部律義」著/1808「理源大師寔録」編、外編著多数

L4929 **竜海**(りゅうかい;法諱)　？－　？　江中後期近江の真宗僧、1799(寛政11)易行品を講ず;「易行品講録」著

D4920 **笠界**(りゅうかい・摩空庵)　？－　？　江後期俳人;虚白晩年の俳友、1848虚白1周忌「蔭涼虚白家集」「虚白句集」編

L4930 **竜海**(りゅうかい;法諱)　？－　？　江戸期尾張の真宗大谷派勝隆寺住僧、「往生要集講義」「安楽集私考」「易行品私考」「小経私考」「三経文類解」著

竜海(りゅうかい;字)　→　*日裕*(にちゆう;法諱・見竜院、日蓮僧)　Ｄ３３３５
竜海(りゅうかい;道号)　→　*竜海*(りょうかい;道号・実珠、黄檗僧)　Ｌ４９３５
隆誨(りゅうかい・横山)　→　*隆誨*(たかこと・横山よこやま、藩士/記録)　Ｌ２６８６

D4921 **柳涯**(りゅうがい・曾根そね、名;漸)?－ ？　江後期嘉永1848-54頃京寺町姉小路北の篆刻家、「浅草繁盛記」「悟面南詞続々吉原詞」著、[柳涯(;号)の字/別号]字;剛中、別号;風山房/風山楼

竜涯(りゅうがい・堀)　→　*陳斯*(のぶのり・堀ほり、和算家)　Ｃ３５７８
竜涯(りゅうがい・松井)　→　*惟貞*(これさだ・松井まつい、国学/詩歌)　Ｏ１９３３
竜涯(りゅうがい・・沼尻)　→　*修平*(しゅうへい・沼尻ぬまじり、書家)　Ｙ２１３０
竜崖(りゅうがい・下田)　→　*直樹*(なおき・下田しもだ、国学者)　Ｎ３２３４
柳厓(りゅうがい・久貝)　→　*正典*(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人)　Ｇ４０２３
柳厓(りゅうがい・嫩柳舎どんりゅうさい)→*将茂*(まさしげ・石附いじづき、商家/歌/能)Ｎ４０６０
柳厓(りゅうがい・村田)　→　*素行*(もとゆき・村田むらた/大沢、商家/詩文)Ｌ４４６７
柳崖(りゅうがい・山岸)　→　*梅塵*(ばいじん・山岸、醸造業/俳人)　Ｂ３６６４
柳外(りゅうがい・長谷川)　→　*杏所*(きょうしょ・長谷川はせがわ、医者)　Ｏ１６０２
柳外(りゅうがい・寺尾)　→　*元長*(げんちょう・寺尾てらお、医者/本草)　Ｌ１８４１
柳外庵(りゅうがいあん・赤沼)→　*節山*(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者)　Ｅ２４３８

柳外園(りゅうがいえん)　→　*元長*(げんちょう・寺尾てらお、医者/本草)　Ｌ１８４１
瀧海園春(りゅうかいえんしゅん)→ *春平*(春比良はるひら・太田おおた、狂歌師)Ｋ３６７６
柳下園(りゅうかえん)　→　*寸昌*(すんしょう・柿崎かきざき、俳人)　Ｈ２３３０
柳花園(りゅうかえん)　→　*宜昌*(よしまさ・革嶋かわしま、絵師)　Ｈ４７１３
柳華園(りゅうかえん)　→　*東吾*(とうご・柳華園、俳人)　Ｄ３１６８
柳花園山形(りゅうかえんさんけい)→ *秋鯉*(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌)Ｉ２１３９

D4922 **隆覚**(りゅうかく;法諱、源隆国男or藤原隆忠男)?-? 平安後期僧:阿闍梨/天台延暦寺僧?、
歌人;金葉715(詞花集では隆縁法師[隆忠男/隆覚の兄]作となっている)、
[身の程を思ひ知りぬる事のみやつれなき人の情けなるらん]、
(金葉;715/山の歌合;恋の心/詞花集;恋209;隆縁法師と同歌)

M4965 **隆覚**(りゅうかく;法諱、六条右大臣源顕房[1037-94]男)1074-1158 平安後期;興福寺法僧;
興福寺大乗院の隆禅門/1106維摩会講師:薬師寺・法華寺の別当兼任/権僧正、
1138興福寺別当;寺内の争いで退任/のち再任/1158(保元3)没、通称;**密厳院僧正**、
雅実・顕仲・国信・雅兼・雅光・信雅・顕雅・定海・覚樹・中宮賢子・師子の兄弟、
定耀[-曜](興福寺法眼)の父、歌;檜葉集・雲葉集入、
[六条右大臣没後にいとほしくしていた童が出家した際に、
ふじ衣ぬれし袂をほしもあへずかさねてかかる涙とをしれ](檜葉;童742)、
[沖つ風ふくるもしらず漕ぐふねの月影ながらかくるしらなみ](雲葉;秋574/海路月)

L4911 **柳角**(りゅうかく)　？－　？　江前期江戸の俳人;1691不角「二葉之松」5句入、
1711「花畠」入、[のつしりと　裸　丹前　土俵入](花畠/裸の上に派手な丹前を掛け入場)

L4912 **竜角**(りゅうかく)　？－　？　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」4句入
[まゝならば主しゅうの齢よはひに身を足さん](二葉之松;40、
前句かはゆがられて暮すなりけり/自由になるなら病気の主人に私の命を足したい)

L4970 **柳郭**(りゅうかく)　？－　？　江中期摂津桜塚の俳人、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[いてやけさ酒の記を書く竹の雪](伊丹発句合;冬)
竜覚(りゅうかく;法名)　→　*竜秋*(たつあき・豊原とよはら、楽人:笙)　Ｒ２６５３
隆覚(りゅうかく;法名)　→　*定雅*(さだまさ・花山院/藤原、右大臣/歌)Ｃ２０４３

D4923 **竜嶽**(りゅうがく;道号・宗劉そうりゅう;法諱)1557-1628*72* 石見の臨済僧;大徳寺142世月岑宗印門;法嗣、
のち大徳寺164世/江戸広尾の興雲寺(後の祥雲寺)開山、1626(寛永3)禅師号を贈られる、
「葛藤」「碧巌録秘解」「臨済録秘辨」著、[竜嶽宗劉の号] 半隠/竺仙大法禅師
竜岳(りゅうがく・長崎)　→　*亀洞*(きどう・長崎ながさき、医者/詩人)　Ｌ１６６１
竜岳(りゅうがく・渡辺)　→　*成従*(しげつぐ・渡辺/渡部、藩士/書家)　Ｒ２１５１
隆岳(りゅうがく:字)　→　*月暁*(げつぎょう:号・栄侃;法諱、天台僧)Ｇ１８９６
隆覚大禅師(りゅうかくだいぜんじ、古今夷曲集入)→ *道隆*(どうりゅう・蘭渓、臨済僧)３１２８
柳下窟(りゅうかくつ)　→　*柳園石門*(りゅうえんせきもん、狂歌作者)　Ｄ４９０５
柳下軒(りゅうかけん)　→　*不荃*(不筌ふせん・立羽たちば、俳人)　Ｄ３８０３
柳下居士(りゅうかこじ)　→　*元弘*(もとひろ・藤門ふじかど、歌人)　Ｅ４４１０
柳下斎(りゅうかさい)　→　*風草*(ふうそう・林はやし、商家/俳人)　３８８８
柳下舎(りゅうかしゃ)　→　*定雅*(ていが・西村、俳/狂歌/戯作)　３０４１
柳窩主人(りゅうかしゅじん)　→　*烏涯*(うがい・坂上さかがみ、儒者/詩人)　Ｃ１２０７
竜柯主人(りゅうかしゅじん)　→　*貞庵*(ていあん・窪津/久保津/窪わ、医者)３０２４
柳下泉未竜(りゅうかせんみりゅう)→*未竜*(見竜みりゅう・柳下泉、狂歌作者)４１４７

D4924 **流霞窓広住**(りゅうかそうひろずみ、姓;山田)?-?　江戸の狂歌作者/読本作者、
1798「深山鶯」編/99「秋雨物語」1800「怪談破机帳」03「古今奇談蜑捨草」著
[流霞窓広住(;号)の通称/別号]通称;彦六、
別号;山家やまがの広住・山家人(;狂名)/流霞窓主人
流霞亭(りゅうかてい)　→　*重章*(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者)　Ｂ２１７８

D4925 **柳下亭曙雀**(りゅうかていしょじゃく)?-　？　江後期大阪の狂歌作者、1859「狂歌柳下戯草集」著
柳下亭種員(りゅうかていたねかず)→ *種員*(たねかず・柳下亭、長編合巻作者)２６４２

柳下亭嵐翠(りゅうかていらんすい)→ *嵐翠*(らんすい・柳下亭、茶人/翻訳)　Ｃ４８７７
柳花堂(りゅうかどう)　→　*重信*(しげのぶ・川島かわしま、絵師)　Ｃ２１７２

D4926 **隆寛**(りゅうかん;法諱、藤原資隆男)1148-1227*80*　京の天台横川僧;叔父功徳院皇円門・慈円門、
浄土宗:源空(法然)門;門下の長老、権律師、東山長楽寺来迎房住;多念義(長楽寺流)の祖、
1294小松殿裏堂で師より選択集の伝授を受/法然没後五七忌の導師、
天台僧定照じょうしょうの専修念仏攻撃書に対し反駁し「顕選択」著;叡山の強訴で嘉禄法難、
専修念仏停止の綸旨;奥州に配流/途中森入道西阿の配慮で相模飯山に滞在;帰依を受、
念仏を弘通し相模飯山で没、「弥陀本願義」「一念多念分別事」「捨子問答」「念仏得失義」、
「法然上人秘伝」「念仏同法要記」外著多数、
歌人:1200若宮歌合参/玉葉2676・新後拾1083、雲葉集入、
[物ごとに思ひしとけば跡もなし夢さめはつる曙あけぼのの空](玉葉;釈教2676/心経の心)
[隆寛(;法諱)の法名]皆空/道空/無我、配流名;山遠里、
参考　→　*定照*(じょうしょう;法諱、天台僧)　Ｊ２２８２

D4927 **竜澗**(竜間りゅうかん・徳力とくりき、徳力有隣良顕男)1707-77*71*　母;布施藤左衛門政利女、儒者、
幕臣;1730(享保15)家督継嗣/1734評定所勤役儒者/57奥儒者/62書物奉行、77致仕;没、
「古文孝経外伝」「寺社総録」「守成編」「政要策」「菔園雑鈔」著、
[竜澗(;号)の名/字/通称/別号]名;良弼/茂弼、字;子静、
通称;十五郎/藤八郎/十兵衛/十之丞、別号;菔園ふくえん/混々翁、法号;仁勇院

D4928 **柳磵**(りゅうかん・恩田おんだ、倉右衛門男)1809-87*79*　代々高知藩国老深尾家の重臣、儒;藩校に修学、
深尾重教・重先に出仕/文武頭取職に就任、詩文に長ず、「従旄日記」「文亥吟稿」著、
[柳磵(;号)の名/字/通称/別号]名;就正、字;道郷、通称;徳太郎/淳三郎、
別号;春水/梅顛ばいてん

竜閑(りゅうかん・中野)　→　*竜田*(りゅうでん・中野なかの、儒者)　Ｋ４９８５
竜寛(りゅうかん;字)　→　*日慧*(にちえ;法諱、日蓮僧)　３３５６
竜観(りゅうかん・深淵)　→　*龍観*(りょうかん・深淵ふかぶち/畠山、真言僧/歌)Ｍ４９２５
柳間契民(りゅうかんけいみん)→　*鉄石*(てっせき・藤本、勤王/天誅組)　Ｃ３０５１

D4929 **龍喜**(りゅうき;法諱・熙春きしゅん;道号、清渓;号)1511-94*84*　三河の臨済僧:天覚宗綱門/嗣法、
近江勝楽寺・京の東福寺竜吟庵住持、1572(元亀3)東福寺214世、1589南禅寺の公帖を受、
文之玄昌の師、「枯木集」「笑闇しょうぎん集」「清渓稿」「熙春和尚疏藁」「法語」著

D4930 **柳几**(りゅうき・横田よこた、名;盛央、柳盛男)1716-88*73*　武州鴻巣の酒造業/俳人:乙由・柳居[麦阿]門、
各地歴遊、紀行;1745「伊勢紀行」47「二笈にきゅう集」編/48「鎌倉紀行」50「草津紀行」
1751「上毛紀行」55「しほの細道」55「筑波紀行」57「東海北国紀行」64「室八島紀行」、
1772「古河わたり」編、73「鉢形紀行」77「伊香保紀行」78「鹿島紀行」79「筑紫紀行」、
撰集;1760「七時雨」7社中と歌仙/70「大和耕作集」82「百花集」、追善;「春眠集」息柳也編、
[菜の花や門々かどかど覗く神楽獅子](布袋庵発句集)
[柳几の通称/別号]通称;三九郎(代々の称)、別号;柳緑(;初号)/布袋庵、福島東雄の師

隆季(りゅうき・藤原)　→　*隆季*(たかすえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｃ２６８３
隆基(りゅうき・大中臣)　→　*隆基*(たかもと・大中臣おおなかとみ、神職/歌)Ｄ２６８９
隆基(りゅうき・油小路)　→　*隆基*(たかもと・油小路あぶらのこうじ/藤原/広橋、廷臣)Ｖ２６２７
隆琦(りゅうき:法諱)　→　*隠元*(いんげん:道号・隆琦、日本黄檗宗祖)Ｃ１１０３
隆紀(りゅうき・長滝)　→　*隆紀*(たかのり・長滝ながたき、商家/国学)　Ｙ２６７１
隆熹(りゅうき・宍戸)　→　*方鼎*(ほうてい・宍戸ししど/宍、医者/俳)　Ｃ３９３３

D4931 **立宜**(りゅうぎ・高井たかい、初世立志りゅうし男)?-?　江戸前期江戸の俳人;
1672頃「女夫草めおとぐさ」編、「桜か岡」、2世立志の兄、
[立宜(号)の別号]　立儀(;初号)/窓梅そうばい/艾葉軒がいようけん/松雨軒

D4932 **竜義**(りゅうぎ・河井かわい、来鮮堂)?-　?　江戸中期俳人、1794「多田みやけ」編、竹里・柳支の父

隆義(りゅうぎ・油小路/藤原)→　*隆前*(たかちか・油小路あぶらのこうじ、廷臣/歌)Ｍ２６２４
隆義(りゅうぎ・富塚)　→　*隆義*(たかよし・富塚とみづか、藩士/歌人)　Ｙ２６４１
隆儀(りゅうぎ・川勝)　→　*隆儀*(たかのり・川勝かわかつ、養蚕)　Ｍ２６８５
柳菊(りゅうぎく・萍亭)　→　*菊彦*(きくひこ・柳屋やなぎや、合巻作者)　Ｋ１６２２

隆吉(りゅうきち・仙石)　→　*専尭*(もろたか・河合/仙石、藩士/教育)　Ｈ４４３４
竜橘(りゅうきつ・南合)　→　*果堂*(かどう・南合なんごう、藩士/儒者)　Ｈ１５５１
D4933 **柳居**(りゅうきょ・佐久間さくま、名;長利、長恒男)1686or95-1748*63or54* 母;小川長左衛門女、
幕臣/御家人;江戸四谷のち本所石原住、俳人:沾徳・乙由門、俳諧改革運動、
1731「五色墨」共編(:宗瑞・蓮之・咫尺しせき・素丸らと)、1733頃美濃派に接近、
のち伊勢派(麦林流)に転ず、1740美濃・伊勢行脚/41剃髪、42奥羽行脚、43芭蕉50回忌主催、
1734「高鼾たかいびき」37「世中百韻」43「芭蕉翁同光忌」「あみだ笠」/45「藤中記」、「柳居発句集」、
追善集;「三景集」「百蓮香」「五七記」「ふた木の春」など、鳥酔・秋瓜2世・門瑟の師、
[青柳や二筋三すぢ老木より](柳居発句集/古木にもわずかな新鮮な青葉が出ている)、
[柳居の通称/別号]通称;三之丞/三郎左衛門、別号;専鯉(せんり;初号)/椿子/藜雨(蓼雨)/長水、
麦阿/秋瓜/門瑟/眠柳/痩居士/霜後/眠流/眠斎/黙斎、
庵号;蕗霞窓/落霞窓/松籟庵/鷗心亭/春日庵/抱山宇/括嚢庵/三斛庵(初世)/守黒庵、
一円窓/繊月窓
D4934 **柳居**(りゅうきょ・上条かみじょう、柳廬男)1778-1843*66*　母;多鶴子、和泉堺の奉行所の与力、
国学:1833平田篤胤門、「柳居随筆」「陵墓考」著、
[柳居(;号)の名/字/通称]名;良材よしき/応物、字;伯方、通称;周平/作之右衛門(父の称)
柳居(りゅうきょ・葛飾)　→　*北嵩*(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師)　Ｄ３９５１
竜居(りゅうきょ・越前屋)　→　*大常*(だいじょう;号、商家;越前屋/俳人)Ｂ２６６１
柳魚(りゅうぎょ・白頭子)　→　*駒人*(こまんど・駅亭、歌舞伎・合巻作者)　Ｆ１９８７
D4935 **柳橋**(りゅうきょう・小川おがわ)？-　？　奥州岩城の俳人;
1669風虎催「百番俳諧発句合」右方参加;玖也判
D4936 **竜橋**(りゅうきょう・中島なかじま、藤吾[藤吉]男)1786-1857*72* 近江彦根藩士;1810父の跡を継嗣、
儒;大菅南坡門、藩校稽古館素読方加役/1834騎馬徒士/儒官;弘道館教授、
詩文;「竜橋詩文集」著、
[竜橋(;号)の名/字/通称/別号]名;泰之やすゆき/恭之/世績/正績、字;通卿、
通称;禎介/忠右衛門、別号;蓬壺
K4980 **柳橋**(りゅうきょう・春風亭)？- 1840　江後期噺家
竜杏(りゅうきょう)　→　*賢江*(けんこう;道号・祥啓、臨済絵師)　Ｉ１８６３
竜興(りゅうきょう)　→　*竜興*(りゅうこう、縁起作者)
竜橋(りゅうきょう)　→　*昌綱*(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学)　Ｅ４０００
竜郷(竜卿りゅうきょう・石原)→　*桂園*(けいえん・石原いしはら、医者/儒者)Ｆ１８２９
柳橋(りゅうきょう)　→　*豹*(はだら・飯田、詩歌)　Ｅ３６８１
隆共(りゅうきょう・西大路)→　*隆共*(たかとも・西大路にしのおおじ/藤原、廷臣)Ｙ２６８１
隆教(りゅうきょう;字)　→　*道順*(どうじゅん:法諱、天台学僧)　Ｆ３１１５
隆教(りゅうきょう・九条)　→　*隆教*(たかのり・九条くじょう、廷臣/歌人)　Ｄ２６４２
隆恭(りゅうきょう・牛島/梯)→　*箕嶺*(きれい・梯かけはし、藩士/漢学者)　Ｑ１６５６
隆鏡(りゅうきょう)　→　*隆然*(りゅうねん;法諱・勇心房、真言僧/声明)Ｆ４９３６
D4937 **隆尭**(りゅうぎょう;法諱、号;浄厳坊、俗名;佐々木隆頼、義成男)1369-1449*81* 近江栗田郡河辺浄土僧、
初め1377(9歳)比叡山に登り出家;天台僧/修学し法印大和尚位、
のち1403石山観音の霊告を感得;向阿「三部仮名鈔」を読み浄土宗に改宗、
浄土華院の定玄門;浄土宗義を修学、帰国後;金勝阿弥陀寺・安土浄厳院を開山、
日課念仏八万四千遍を誦し自行化他を事とす、1423「念仏安心大要抜書」著、
1433「十王讃嘆修善鈔」、「大原問答起御書」「浄土諸要文集」「称名念仏奇特現証集」外著多
D4938 **竜暁**(りゅうぎょう;法諱、号;志勤堂)?-?　江末期河内の真宗僧、1866(慶応2)「諭童辨」著
隆暁(りゅうぎょう;法諱)　→　*春色*(しゅんしょく;号、僧/俳人)　Ｊ２１９８
D4939 **竜玉**(2世りゅうぎょく・金沢かなざわ)?-1842　上方の歌舞伎作者:初世奈河篤助[一洗]門、
1820(文政3)師と江戸に下り3世坂東三津五郎の庇護を受/1829江戸市村座の立作者、
1835帰坂;3世中村歌右衛門より竜玉の号を受け2世金沢竜玉を襲名、
京の南座・北座・大坂角座で脚本、上方劇界の重鎮、1829「浮名草紅のべ紙」著、
1829「色一座曾我大寄」33「鳴門染色絵白波」34「三幅対書始曾我」37「けいせい玉手綱」著、

1837「稲雀誰来観」39「伊勢平氏恵顔鏡」/41「廓獅花富草」外著多、1832長唄「江口の君」作詞、
[2世金沢竜玉(;号)の前号]奈河元助(;初号)/奈河本助(;江戸市村座)/蓬たく(;俳名)
竜玉(初世りゅうぎょく・金沢、歌舞伎作者)→*歌右衛門*(3世うたえもん・中村、役/作者)１２６４

D4940 **立吟**(りゅうぎん・森もり/小野川)?-　?　元禄期江戸銀町二丁目の俳人;初世立志りゅうし門、
のち京に移住;地唄の名手;三味線・小歌に長ず、1681言水「東日記」入、
1691「餞別五百韻」編(;江戸より京移住のとき立志・不角・嵐雪らと両吟百韻興行ほか)、
1694不角「蘆文船」/1702轍士「花見車」1句入、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[のがれても世にかしまし き紙子かみこ哉](花見車;126)
[立吟(;号)の通称/別号]通称;七郎兵衛/小野川検校、別号;恵鳳軒/糸耕軒、

D4941 **柳吟**(りゅうぎん・花紅葉堂はなもみじどう)?-?　江前期越前敦賀有乳山あらちやまの俳人、
近江大津の我笑の協力で1711(正徳元)撰集「安良智山あらちやま」編
劉琴渓(りゅうきんけい)　→　*琴渓*(きんけい・劉、田村元高、儒者/詩)Ｄ１６９４
竜吟斎(りゅうぎんさい)　→　*景山*(けいざん・大野、俳人)　１８５８
竜吟子(りゅうぎんし)　→　*君山*(くんざん・松平、儒者/詩)　１７２８
流近舎(りゅうきんしゃ)　→　*恵迪*(けいてき・菅原すがわら、和算家)　Ｇ１８３９
竜吟社(りゅうぎんしゃ)　→　*広海*(ひろみ・益岡ますおか、国学者)　Ｋ３７９９
竜駒(りゅうく・福島)　→　*末茂*(すえしげ・福島/度会、神職/詩文)Ｂ２３１７
竜駒(りゅうく・伊地知)　→　*正治*(まさはる・伊地知いぢち、藩士/兵学)Ｇ４０４５
竜空(りゅうくう;号)　→　*臥雲*(がうん;法諱・知空、浄土宗西山派僧)Ｊ１５２０
竜空(りゅうくう;字)　→　*瑞山*(ずいざん;法諱・竜空、浄土宗西山派僧)Ｅ２３５８
竜宮亭玉守(りゅうぐうていたまもり)→　*堪忍舎二字守*(かんにんしゃにじもり、狂歌)Ｒ１５５９
隆訓(りゅうくん・野呂)　→　*松廬*(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人)　Ｃ２２１２
柳薫閣主人(りゅうくんかくしゅじん)→　*直弼*(なおすけ・井伊、大老/国学)　Ｂ３２３９

D4942 **竜華**(りゅうげ;法諱)　?-　?　江後期美濃の真宗大谷派宗徳寺の住職、
1813(文化10)「出世元意聞記」、「出世元意講貫」「正信偈講貫」「正信念仏偈講義」著
竜華(りゅうげ)　→　*曇竜*(どんりゅう・子雲、真宗本願寺派僧)Ｓ３１４９
竜華(りゅうげ;初法諱)　→　*曇秀*(どんしゅう;道号・道一;法諱、曹洞僧)Ｓ３１２８
竜華庵(りゅうげあん)　→*鳳鳴閣思文*(ほうめいかくしぶん、天台僧/狂歌)Ｃ３９５８
竜華庵老人(りゅうげあんろうじん)→*虎云*(こうん;道号・郁繍;法諱、曹洞僧)Ｌ１９６８

D4943 **竜渓**(りゅうけい;道号・等聞とうぶん;法諱)?-?　臨済僧;絶海中津・鄂隠慧奫がくいんえかつ門、
1403絶海の「蕉堅藁」「絶海語録」を携え将軍義満の遣明船で入明;
明僧道衍・如蘭の序跋を請う

D4944 **流憩**(りゅうけい・野尻のじり、名;一成、一利男)1640-1713*74*　熊沢蕃山の弟、豊後岡藩儒;陽明学修学、
藩主中川久清に出仕/子弟教育、「良知実記」「王学辨答」「賤嶽戦闘筆記」著、
[流憩(;号)の通称/別号]通称;藤助/藤兵衛、別号;三楽軒

D4945 **隆慶**(りゅうけい;法諱・専順;字、俗姓;田原口)1649-1719*71*　大和添下郡の真言僧;
1657(9歳)宝光院実源門:1661出家/1673長谷寺に入;頼意・英岳門、81仁和寺亮汰門、
1703江戸本所弥勒寺・浅草大護院に歴住/1708長谷寺小池坊に転住;長谷寺17世、権僧正、
1712僧正/15江戸護国寺住職;1712(享保2)大火で護持院類焼し護国寺に移動;
護持院住職を兼任、1689「般若理趣経純秘鈔授決」1713「豊山伝通記」著

D4946 **竜渓**(りゅうけい・奥田おくだ、名;士礩しけん、宜休の長男)?-?　元禄享保1688-1736頃伊勢櫛田の大庄屋、
弟三角が津藩に登用に伴い竜渓は封疆庶政廉事となる;藩士/のち税監に就任;禄百石、
詩文・歌・画を嗜む、1730「存心」62「勧孝歌」著

D4947 **竜渓**(りゅうけい・股野またの、名;廷幹/通称;貞七)?-?　播磨竜野の農家の生/儒者;
藩費を支給され伊藤仁斎門、のち藩主脇坂安照に出仕;儒官、傍ら家塾開設;子弟教育、
晩年;世子の傅職、息子玉川以後も順軒・竜軒・藍多と家学を継嗣;竜野藩教学の主流、
1713頃「播磨国古城記」補訂、「竜渓書目」著

D4948 **竜渓**(りゅうけい・八田はった、長興4男)1692-1755*64*　代々備前岡山藩士/儒者/1714士分;江戸留守居役、
藩主池田綱政に出仕/1731大目付/史館総裁、

1742藩財政窮迫に増税なき財政再建を主唱;重臣に疎まれ鉄砲頭に左遷/1752病で致仕、
荻生徂徠に私淑;朱子学から古文辞学に転ず/詩文に長ず、天文・兵学に通ず、
湯山常山と交流、「呉子解」「孫氏解」「墨子解」「竜渓筆記」著、「竜渓遺稿」、
[竜渓(;号)の名/字/通称]名;憲章、字;子漢、通称;五郎八

M4979 **柳渓**(りゅうけい・姓不詳) ? - ? 江前中期;儒者/江戸住?、詩人、
1728宝山板「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(;前畦落雁ぜんけいらくがん)、
[無辺の秋色天と斉ひとしく 万里の望中東ひんがし復また西、
落日数声すせい鴻雁こうがんの影 一行いっかう字を作なして前畦を度わたる](八景詩)

D4949 **柳渓**(りゅうけい・清水しみず)1692-1762*71* 播磨網干の茶人;杉本普斎門/讃岐丸亀藩の茶職、
1743(寛保3)「茶の式」著/43「茶道五度之書」編、
[柳渓(;号)の別号] 東門/善淵/敗素庵/探芳庵

D4950 **柳谿**(柳渓りゅうけい・小川おがわ)1694?-1756*63?* 羽後横手の儒者/文:片山北海門/書;山県峯雪門、
詩人;「いろは歌」「漢詩七絶」著/「梅隣先生事状」著(;平元梅隣は秋田の儒医・詩歌人)、
[柳谿(;号)の名/字]名;舜夫、字;通玄

D4952 **竜渓**(りゅうけい;法諱) ? - ? 江中期近江の真宗大谷派長円寺僧:
京誓願寺円智門、恵空の先輩、1714「浄土疑問釈答」50「破邪顕正五要問答」、「帰命問辨」著

D4951 **竜冏**(りゅうけい;法諱・号;見翁)?-1782 浄土宗西山派深草流の僧、
「深草帰命法門義」「当麻曼荼羅口訣関門略録」「観無量寿経四帖疏楷定記講録」著

D4953 **竜渓**(りゅうけい・巌[岩]垣、本姓;三善)1741-1808*68* 京儒者;宮崎筠圃門/のち清原家入門;古注学、
修学後に清原家大舎人、さらに明経学;伏原宣条/古学;皆川淇園門、京に私塾を開設、
歌人澄月と交流、「松羅館詩文稿」「松羅館随筆」「抱関集」「青雲図賛」「論語折衷」著、
1781「十八史略標記」、「竜渓見聞記」「見聞志」著、「松羅館詩集」(;養子東園編刊)著外著多、
[竜渓(;号)の名/字/通称]名;彦明、字;亮卿/孟厚、通称;長門介ながとのすけ

D4954 **柳啓**(柳敬りゅうけい・畑はた、南山武川2男)1756-1827*72* 京の医者;畑柳安の養子/1776法橋/77法眼、
1814尚薬奉御/18南宮奉御/19法印、養父柳安(黄山)の志を継ぎ医学院の後嗣、
1803「麻疹聚英」著、
[柳啓(;通称)の名/字/号]名;惟亮、字;明卿、号;恒山・晞陽、
法号;医学院法印恒山宗順居士
同じ柳安(黄山)養子の鶴山(柳敬/維竜これとき/1748-1827/旧姓元木)とは別人

D4955 **竜谿**(りゅうけい・黒岩くろいわ、雲東男)1774-1834*61* 土佐の儒者/医学を修学、
高知藩家老深尾家に抜擢され郷校佐川名教館教授/儒員に昇進、上京し皆川淇園門、
小石大愚門、帰郷後;深尾家の侍読、篠崎小竹と交流、
「横倉山記」「横倉山考証記」/1834「竜谿小藻」著、
[柳谿(;号)の名/字/通称]名;順、字;子進、通称;順之進

D4956 **竜渓**(りゅうけい・氏家うじえ、名;清)1775-1834*60* 庄内藩士;1805藩校致道館詞書/普請場目付、
中間頭/御供目付/大納戸、1831致仕、文芸全般に通ず/画;常南元政門、篆刻・弾琴を嗜む、
語学;「荘内方音攷」(;庄内地方音韻)、
[竜渓(;号)の通称/別号]通称;剛太夫、別号;天爵てんしゃく/麁人そじん

D4957 **柳渓**(りゅうけい・神田かんだ、名;充、孟察2男)1796-1851*56* 美濃不破郡岩手村の医者/儒者、
医:小石元瑞・奥劣斎門/儒詩;京の頼山陽塾入門、1824帰京;医を開業/私塾も開き教育、
頼山陽・村瀬藤城・柴山老山・江馬細香と交遊/兄没後に甥の神田孝平を扶助、
1831「南宮詩鈔」48「蘭学実験」著、
[柳渓(;号)の字/別号]字;実甫、別号;南宮山房

B4968 **立卿**(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男:54歳の時の子)1786-1845*60* 江戸浜町の蘭医者(家学)、
和蘭語;馬場佐十郎貞由門、眼科;土生玄碩門;西洋眼科を専科とす、
既に父には養嗣子伯元があったので別に一家を立てる、若狭小浜藩医、成卿せいけいの父、
1808「和蘭瘍科大成」著/15「和蘭眼科新書」25「遭厄日本紀事」訳/32「手術纂要」著、
「荷蘭語林集解」「和蘭瘍医方範」「間隔堡縮図」「眼球啓微」「外科纂要」「原病新書」外著多数、
[立卿(;通称)の名/別通称/号]名;豫/預、別通称;甫仙、号;錦腸/泉堂/天眞楼、
法号;寿泉院

D4958 **柳渓**(りゅうけい・石川いしかわ、名;則正/澹)1798-1864*67* 儒者:野村篁園門/昌平黌修学;助教を務める、
林檉宇ていうの命で「奚所須窩遺稿」編纂、1844「篁園全集」編纂、
[柳渓(;号)の字/通称/法号]字;若水、通称;次郎作、法号;柳渓院

M4936 **隆慶**(りゅうけい;法諱・玉露;号)1804-66*63* 三河八名郡宇利高田の真言宗冨賀寺ふかじ住僧、
権大僧都、国学/歌;石川依平よりひら門

D4959 **柳渓**(りゅうけい・安川やすかわ)1820-1898*79* 上総山武郡福俵の儒者/詩人、画を嗜む、
詩;「南総鈔絶」(1858刊)入集、1865(慶応元)「刀禰之河ふね」著、
[柳渓(;号)の幼名/名/字]幼名;八三郎、名;惟礼/礼、字;子恭

竜渓(りゅうけい・性潜) → *竜渓*(りょうけい・性潜しょうせん、黄檗僧) Ｈ４９２１
竜渓(りゅうけい・服部/服)→ *寛斎*(かんさい・服部はっとり、幕臣/儒) Ｈ１５５８
竜渓(りゅうけい・栗崎) → *履斎*(りさい・栗崎くりさき、儒者) Ｂ４９０６
竜渓(りゅうけい・柴田) → *弘器*(ひろき・竜廼屋・柴田、藩医/狂歌)Ｆ３７７５
竜渓(りゅうけい・五十嵐) → *光春*(みつはる・五十嵐いがらし/武田、藩士/儒者)Ｌ４１１３
竜渓(りゅうけい・塩沢) → *亮雄*(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌)Ｉ２３５８
竜渓(りゅうけい・小富士) → *慈意*(じい・小富士こふじ、僧都/歌人) Ｏ２１４２
竜渓(りゅうけい・名倉) → *千金*(ちかね・名倉なくら、国学者) Ｎ２８１０
竜慶(りゅうけい;剃髪号) → *重保*(しげやす・大橋、書家/右筆/歌) Ｓ２１９５
竜卿(りゅうけい・石原) → *桂園*(けいえん・石原いしはら、医者/儒者) Ｆ１８２９
竜卿(りゅうけい・伊東) → *祐相*(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) Ｇ２３６８
柳渓(りゅうけい・佐々木) → *陽綱*(あきつな・佐々木、医者/篆刻) Ｄ１０５４
柳渓(りゅうけい;号) → *柔遠*(にゅうおん;法諱、真宗僧) Ｆ３３７
柳卿(りゅうけい・馬淵/馬)→ *文邸*(ふみいえ・馬淵まぶち/馬、和算家) Ｄ３８８０
柳敬(りゅうけい・畑) → *鶴山*(かくざん・畑はた/銭/元木、医者/儒)Ｊ１５９１
榴渓(りゅうけい・新宮) → *涼介*(りょうかい・新宮しんぐう/松山、医者) Ｇ４９８１
隆圭(りゅうけい・今木) → *隆圭*(たかかど・今木いまき、医者/歌人) Ｖ２６７０
隆恵(りゅうけい・水沢) → *隆恵*(たかよし・水沢みずさわ、商家/国学者)Ｚ２６７３
隆経(りゅうけい・藤原) → *隆経*(たかつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｄ２６０８
隆経(りゅうけい・城) → *隆経*(たかつね・城じょう、藩士/馬術) Ｍ２６３０
隆継(りゅうけい・内藤) → *存守*(ありもり・内藤ないとう、神職/国学) Ｆ１０９０
隆卿(りゅうけい・福家) → *大有*(たいゆう・福家ふけ、儒者) Ｌ２６１４
隆景(りゅうけい)すべて → *隆景*(たかかげ)
流形庵(りゅうけいあん) → *舟泉*(しゅうせん・永田ながた、俳人) Ｈ２１９１
柳兮舎(りゅうけいしゃ) → *月杵*(げっしょ・椿つばき、俳人) Ｈ１８０９
竜華院(りゅうげいん) → *日教*(にちきょう;法諱、日蓮僧) Ｂ３３２７
竜華院(りゅうげいん) → *日具*(にちぐ;法諱・寒松軒、日蓮僧) Ｂ３３４５
竜華院(りゅうげいん) → *日紹*(日韶にっしょう・星陽、日蓮僧) Ｅ３３１７
竜華院(りゅうげいん) → *日霽*(にっせい;法諱、日蓮僧) Ｅ３３６０
竜華院(りゅうげいん) → *日芳*(にっぽう;法諱、日蓮僧) Ｆ３３５５
竜華院(りゅうげいん) → *雲渓*(うんけい;法諱、真宗僧) Ｄ１２６７
竜華院(りゅうげいん) → *見瑞*(けんずい;法諱、真宗大谷派僧) Ｋ１８２５
竜華院(りゅうげいん) → *良恕法親王*(りょうじょほっしんのう、天台座主/歌人)４９１９
竜華寿院(りゅうげじゅいん) → *日像*(にちぞう;法諱、肥後房、日蓮僧) Ｃ３３７０
柳月(りゅうげつ・安達) → *月讖*(げっしん・安達あだち、俳人/教育) Ｎ１８５６
柳月庵(りゅうげつあん) → *鷺洲*(鷺舟/魯洲ろしゅう・長野ちょうの、俳人)Ｂ５２６４
柳月庵(りゅうげつあん) → *常島*(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) Ｆ２９４６
留月老人(りゅうげつろうじん)→ *周曮*(しゅうげん;法諱・東沼;道号、臨済僧)Ｈ２１２７

D4960 **隆憲**(りゅうけん;法諱) ？－ ？1484存 美濃の天台僧;美濃勧学院で「摩訶止観」を講ず、
法印、常陸行方の円長寺円海の師、「止観大綱秘要集」著

D4961 **竜賢**(りゅうけん;法諱) ？－1700 真言僧:高野山前左学頭、
「安血脈」「八家」「安流灌頂私集記庭儀」「灌頂夜讃安流」「受者加持安」「伝法安」外著多数

D4962 **隆見**(りゅうけん・吉田よしだ) ? - ? 江中期江戸の医者、
1794(寛政6)「神国むかし形気」/96「麻疹良方」、「痘瘡治法」「医事漫筆」著、
[隆見(;名)の字/号]字;元維、号;旭庵

D4963 **柳軒**(りゅうけん・儘田ままだ/藤原、重之の長男)1728or23-1795*68or73* 上州碓氷郡松井田宿坊役、
問屋業;継嗣、歌;上京;賀茂真淵・日野資枝・飛鳥井雅重・澄月門、大坂高津で歌塾を開く、
1774帰郷/のち江戸佐久間町住;歌道に専念、1783(天明3)「重明和歌集」、「梅柳軒家集」、
妻;誓恂せいじゅん(誓順/名;さと)も澄月門歌人、息子;彦太郎、
[柳軒(;号)の名/通称/別号]名;重明しげあき、通称;主水、別号;梅柳軒、
法号;白翁宗雅居士/皆妙院

柳軒(りゅうけん・藤田) → *貞固*(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P２０８７
柳軒(りゅうけん・加藤) → *致隆*(むねたか・加藤かとう、医者/国学者) D４２７０
隆賢(りゅうけん・藤原) → *隆資*(たかより・藤原、安隆男?) E２６０９
隆賢(りゅうけん・鷲尾) → *隆資*(たかます・鷲尾わしのお、廷臣/記録) N２６２５
隆建(りゅうけん・鷲尾) → *隆建*(たかたけ・鷲尾わしのお、廷臣/記録) M２６１５
隆兼(りゅうけん・大江) → *隆兼*(たかかね・大江おおえ、廷臣/詩人) L２６７７
隆兼(りゅうけん・高階) → *隆兼*(たかかね・高階たかしな、大和絵師) C２６６６
隆顕(りゅうけん・四条) → *隆顕*(たかあき・四条しじょう、廷臣/記録) L２６４１
隆軒(りゅうけん・長久保) → *暘谷*(ようこく・長久保ながくぼ/長、儒者) ４７８３
流謙(りゅうけん・坂場) → *与蔵*(よぞう・坂場さかば、藩士/奉行) I４７１０
竜謙(りゅうけん;字) → *隆栄*(りゅうえい;法諱、真言僧/能化) C４９８６
竜見(りゅうけん・林) → *彦兵衛*(7代ひこべえ・林はやし、農/教/歌) K３７６７
竜研[堂](りゅうけん[どう])→ *道雲*(どううん・池永、書/篆刻) B３１２７

4908 **隆源**(りゅうげん;法諱・若狭阿闍梨、若狭守藤原通宗男)?-? 1110存 叔父;藤原通俊、天台僧/歌人、
叡山僧or園城寺僧?、阿闍梨大法師、歌;叔父通俊の後拾遺撰集編纂に協力;
奏覧本の清書をす、家実いえざねの弟、歌学書「隆源口伝」著、
1086「若狭守通宗女子達歌合」(父没後)参加、堀河百首/寂超「後葉集」/夫木抄に入集、
勅撰10首;金葉(67/230/291/431)詞花(115)千載(277/422/916)玉葉(806)新千載(1031)、
[ころもでに昼はちりつむ桜花夜よるは心にかゝるなりけり](金葉;春67/夜落花を思ふ)

D4964 **隆厳**(りゅうげん;号) ? - ? 平安後期加賀白山比咩しらやまひめ神社の長吏、
白山諸社の縁起・霊験などを調査し著述;1163(長寛元)「白山しらやま之記」著

M4968 **隆玄**(りゅうげん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[楢葉集]2首入、
[しぐれつるをのへの雲はかつ消えてまつの嵐にのこる月影](楢葉;冬306/雨後冬月)
☆藤原隆保男の叡山天台僧隆玄(少僧都)とは別人

D4965 **隆源**(りゅうげん;法諱・水本僧正、油小路隆家男)1341-1425*85* 祖父権大納言油小路隆蔭の猶子、
真言僧;醍醐山釈迦院経深の室入;出家/伝法職位を受、諸尊の聖教・密軌・梵讃を修学、
報恩院10世院主/1412(応永19)東寺長者136代法務、大僧正に至る、隆寛・隆増の師、
1374「応安七年曼荼羅供見聞略記」、「四度大体」「表白集」「法中装束抄」外著多数、
歌人;1396「隆源僧正五十首」、「陪水本松房詠八景和歌」著、新続古今(320)、
[夏の日もかたぶく池のはちす葉に夕波こゆる風ぞ涼しき](新続古;夏320/蓮を詠む)

F4920 **柳元**(りゅうげん) ? - ? 備後三原の僧/俳人;貞門系、
1659梅盛「捨子集」入、1679宗臣「詞林金玉集」入

D4966 **竜原**(りゅうげん/りょうげん・佐々木ささき、名;俊信、国重恒久5男)1750-1800*51* 周防都濃郡鹿野の生;
幼児に痘瘡病む;武術に堪えず/1765頃儒者;萩藩校明倫館入学;都講に抜擢、
勤業の功;毎年米若干を賜る、1795萩藩儒員佐々木家の跡を継嗣/97講師、
「睡余録」「文章韻句法」「竜原先生文集」著、
[竜原(;号)の字/別号]字;逸平、別号;逍遥/其園/鹿野山人、法号;逍遥園篤叟

D4967 **立愿**(りゅうげん・難波なんば、篠野ささの貞文2男)1791-1859*69* 備前岡山の医者;難波立元の養嗣子、
代々備前国老日置家の侍医、1805(15歳)上京し医学;服部星渓門/内科;吉益南涯門、
産科;賀川蘭斎門/外科;華岡清洲門、帰郷後;備前津高郡金川村に医を開業・門人多数、

1850緒方洪庵より種痘術を修得;備前に広める/流行のコレラを治療中自ら感染し没、
「鳩窠見聞録」「鳩窠随筆事物淵」「鳩窠襍言きゅうかざつげん」「鳩窠雑選」「医学範」「種痘伝習録」、
「千緑万絮」「先春叢談」「方極集覧」「医林聚集」「環翠叢談」/1850「散花新書」外著多数、
[立愿(;通称)の名/字/別通称/号]名;経恭、字;子敬、初通称;本立、
号;抱節/鳩窠きゅうか/玉松子/清風軒/柯集庵/環翠楼主人

柳原(りゅうげん) → *公持*(きんもち・清水谷しみずたに、廷臣) R１６８９
龍玄(りゅうげん) → 梵舜(ぼんしゅん;法諱、神道家/臨済僧) ３９７２
竜原(りゅうげん) → *玄珠*(げんしゅ:法諱・藤井、真宗僧) J１８４８
竜厳(りゅうげん;法諱) → *竜厳*(りゅうごん;法諱、真言僧) D４９９５
隆元(りゅうげん・毛利) → *隆元*(たかもと・毛利もうり、武将/守護) N２６３７
隆玄(りゅうげん・太田) → *玩鷗*(がんおう・太田おおた、儒者/詩人) G１５１４
隆源(りゅうげん・巨勢) → *秀信*(ひでのぶ・巨勢こせ、絵師) D３７５８
隆源院(りゅうげんいん) → *日筵*(日延にちえん;法諱、日蓮僧) ３３７７
柳原書屋(りゅうげんしょおく)→ *抽斎*(ちゅうさい・渋江しぶえ、医者/考証学) G２８０９

L4983 **りう子**(りゅうこ・吉村よしむら)?- ? 江中期歌人;冷泉家門、田安家に出仕、
幕臣与力の吉村重次郎の母、1768広通「霞関集」初撰本/98再撰本入、
[海原や雲井につづく浪のうへに入り日をおくる沖つ潮風](霞関;995/眺望)、
[あまの子の我さへ稀にわびて住む夕ゆふべさびしき須摩の浦松](同初撰;海辺松)

D4968 **竜湖**(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部、吉成茂光2男)1771-1807*37* 羽後秋田の生/谷田部忠経の養子、
京で儒;皆川淇園門、1798逐電;石見浜田に行く/のち大阪で講席を張る;岡島姓を名乗る、
「漪々斎いいさい吟稿」「学庸註解」「周易註解」「周易註疏」「臭蘭稿」著、「漪々斎先生遺稿」、
[竜湖(;号)の名/字/通称/別号]名;忠済/樗、字;君美/櫟夫、通称;官蔵、別号;漪斎いさい

D4969 **竜湖**(りゅうこ・阿久津あくつ、旧姓;大田原)1799-1825早世*27* 下野太田原藩士阿久津忠景の養子、
太田原藩士;のち役を罷免、江戸で儒者;佐藤一斎・古賀精里門、昌平黌入学/林述斎門、
「竜湖遺文」、
[竜湖(;号)の名/字]名;致忠ときただ、 字;元治

D4970 **隆古**(りゅうこ・高久たかく/高こう/本姓;秦、川勝隆任男)1800-58*59* 下野の絵師、
南画;依田竹山(;谷文晁高弟)門、大和絵;京の浮田一蕙・渡辺清門、
南画大和絵を折衷した独自の画境を開く、歌;香川景樹・穂井田忠友・山科元幹門、
白河藩主阿部家の命で高久靄厓家を継嗣、江戸住/利根川渡航中に没、「年中行事図」画、
[隆古(;名)の字/通称/号]字;述而、通称;斧四郎、号;梅斎/迂道者/無道山史、
法号;興道隆古居士

D4971 **柳壺**(りゅうこ・宇野うの)1815- 1874*60* 加賀金沢の俳人:巴石門/836圃辛亭を継承1、
1851「何たわら」62「小きくしふ」編、
[柳壺(;号)の通称/別号]通称;吉左衛門/六兵衛/八兵衛/碌郎/六郎、
別号;圃辛亭ほしんてい5世/守泉堂/六陽軒、屋号;越前屋、法号;六陽軒観月宗延居士

竜湖(りゅうこ・三井) → *親和*(しんな・三井、書家/篆刻) P２２５０
竜湖(りゅうこ・大村/大邨)→ *成富*(しげとみ・大村/大邨おおむら、古銭研究) R２１７３
竜湖(りゅうこ・北本) → *栗*(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B４９５４
隆古(りゅうこ・高野) → *隆古*(たかひさ・高野たかの、廷臣/神道) Y２６０２
柳湖(りゅうこ・松浦) → *武四郎*(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E２６３８
柳子(りゅうこ・青山) → *柳子*(りゅうし・りゅうこ・青山あおやま、歌人) L４９９６
竜吾(りゅうご・大黒) → *泰然*(たいぜん・大黒おおぐろ、医者/歌・俳) W２６１２
柳吾(りゅうご・花岡) → *直弘*(なおひろ・花岡はなおか、国学/歌人) O３２３８

D4972 **隆光**(りゅうこう・粟田口あわたぐち、名;以盛)?-? 室町期京の粟田口住の絵師、民部少輔/法眼、
南都に住したこともあるか、出家;隆光の号、1415(応永22)「融通念仏縁起」の筆者に1、
永享1429-41ころ活躍、「一遍上人縁起」画

D4973 **柳江**(りゅうこう;法諱) ? - ? 大徳寺塔頭真珠庵の臨済僧、
戦国期連歌師;肖柏[1443-1527]門、山崎の薪衆(:多門院日記入)

M4974 **龍惶**(りゅうこう;法諱・蟬闇ぜんぎん)?-? 室町期;臨済僧、

詩人;1448賢良「畠山匠作亭詩歌」に出詠、
[楚水東西岸岸楓 飄零十月捲寒風 誰知雲幕画堂上 錦樹長留霜後紅]、
(匠作亭詩歌;19/檜頂落葉/対するは畠山持純[僊空]の歌)

D4974 **竜興**(りゅうこう) ? - ? 天台宗園城寺僧;
1606(慶長11)「園城寺縁起(三井寺金堂東大門勧進帳)」著(国文東方仏教叢書入)

D4975 **隆光**(りゅうこう;法諱・栄春えいしゅん;字、河辺重次男)1649-1724*76* 大和添下郡二条村の真言僧、
1658(10歳)唐招提寺の朝意門/60出家/61真言宗長谷寺の亮汰門、真言宗新義派、
1667興福寺の宥専より両部灌頂を受/1686筑波山知足院住寺;江戸の同別院入、
1688(元禄元)知足院を江戸神田橋外に移し護持院と改称:江戸護持院の祖、
1691僧正/95大僧正;僧録司に就く、
将軍綱吉・その生母桂昌院の信任を得る;綱吉に生類憐令発布を促す?、
河内通法寺・筑波神社・熱田神宮・長崎大徳寺など再興、1707成満院入、
1709綱吉没;大和超昇寺に退隠、1686-1709「隆光僧正日記」/1704「筑波山縁起」著、
「護持院日記抄」「護持院隆光記」「十巻章玄談」「科註尊勝陀羅経玄談」外著多数、
歌;1690南部家桜田邸詩歌会参加、
[はるばると晴れ行く空の村雨に涼しさそふる夏の夜の月](桜田邸;雨後夏月/冒頭歌)、
[隆光(;法諱)の初法諱/初字]初法諱;隆長、初字;俊宣

D4976 **柳江**(りゅうこう) ? - ? 加賀鶴来俳人;
1690北枝「卯辰集」1句入、
[かしましく桜いためそてらつゝき](卯辰集;136、
てらつつきはキツツキ/桜の木は痛めないでくれ)

F4929 **柳江**(りゅうこう;号、大津屋おおつや十右衛門)?-? 安藝広島の商家/蕉門系俳人;
1691賀子「蓮実」/95支考「笈日記」/96涼兎「皮籠摺」/1702白雪「三河小町」入、
1702吾仲「柿表紙中」/05支考「三日歌仙」/06支考「東山万句」涼兎「潮とろみ」入、
[梟の寒き夢うつ霰あられかな](蓮実;395)

D4977 **柳岡**(りゅうこう;号) ? - ? 江前期京俳:淡々門、
1728「万国燕ばんこくつばめ」編(;淡々第2句集/序文筆)、
[眉に千里をつなぐ暁](万国燕;竟宴百韻12句目/
前句/玉枝;氈せん浅き小田原口の坂迎ひ、
(北条氏に迎えられた旅人の顔に長旅の思いが出るその夜明)

D4978 **榴岡**(りゅうこう・林はやし、名;信充/忿、鳳岡男)1681-1758*78* 林家4代/幕府儒官/1723大学頭、24家督、
1753御小姓組番頭次席、1704「本朝世説」21「詩海蠡測」29「馴象編」、「一歩千里集」、
「雲峰聞見録」「榴岡詩集」1731「飛鳥山十二景詩」、1744「鳳岡林先生全集」編、外著多数、
1727夢沢「熙朝文苑」入、
[突兀とつこつたり筑波雲霧を開き 晴明旧に依りて蓬萊に擬す、
深く知る君徳の光輝遍あまねくして 飛鳥山頭ひてうさんとうより掩映えんえいして来たる]、
(飛鳥山十二景;筑波茂陰/冒頭;神仙伝承を君徳と結合し幕臣として君恩讃仰)、
[榴岡の字/通称/別号]字;士厚/士僖/春察、通称;七三郎、
別号;快堂/復軒/翼斎/彩雲峰、諡号;正懿、鳳谷/鳳池の父
☆**飛鳥山十二景**(林榴岡信充の設定)
筑波茂陰つくばのもいん・秩父遠影・滝野川夕照・梶原村田家・王子深樹・平塚落雁・
鵠台こうのだいの秋月・染井夜雨・黒髪山残雪・豊島川としまがはの帰帆・中里晩鐘・
西原にしがはらの晴嵐

D4979 **竜光**(りゅうこう;法諱・文俊;字)?- ? 江中期武州葛飾郡杉戸の真言宗来迎院の住職、
1762(宝暦12)「華香山来迎院縁起」著

D4981 **柳郊**(りゅうこう・式上亭しきじょうてい/北尾)?-? 江後期天明寛政1781-1801頃の絵師:北尾重政門、
黄表紙の挿絵などを描く、1785「大通成茲止」87「古道具穴掃除」「面向不背御年玉」画、
1789「親之敵現歟夢也」90「本能見世物」91「直読見台萩」画など、
[式上亭柳郊(;号)の別号] 北尾柳郊/柳郊山人/竜向斎/柳々山人郊子

D4982 **柳郊**(りゅうこう・青木あおき、名;求順)1761-1829*69* 陸前仙台藩支藩岩出山藩青木滄海の義弟となる、

陸中磐井郡保呂羽村に住;家貧しく気仙郡稲子沢の豪農鈴木家の許で働く、
独学で学問を修学;郷里で子弟教育、俳人:東皐門、
1812(52歳)上京;医学修行/帰郷し医を開業、傍ら俳諧指導、1817(文化14)「柳郊句集」著、
1822師東皐追善「不二煙ふじけむり集」楳山らと共編、24「山若葉」編、
[柳郊(;号)の別号]春曙亭/愚沸庵

D4983 立綱(りゅうこう;法諱・泰張;字、号;大寂庵)1763-1824*62* 近江犬上郡開出今村の真宗本願寺派僧;
覚勝寺住職、歌僧海量の甥/国学・歌人;海量・大菅中養父門、諸国行脚/1810江戸深川住、
屋代弘賢と交流、1817「辨棟梁集」/17随筆「萍の跡うきくさのあと」/18「三哲小伝」著、
「伊勢物語昨非抄」「しのぶ草」「真宗問答録」「真宗めさまし草」「萍跡紀聞」「更さら日記」、
「雪月花愚草」「立綱自筆歌集」、家集「浮草廼余留倍うきくさのよるべ」(門人江沢講修ときながの版行)、
外著多数、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[山河や霧の底にてわかねどもうたふにしるき瀬々のいかだし]、
(大江戸倭歌;秋818/霧底筏)

D4984 隆杲(りゅうこう;法諱・輝嶽/輝岳きがく;道号)?-? 江戸中期曹洞僧;隠之道顕門/法嗣、
武州瑞光寺住持、1767「投子録序辨」著、67「瑞光隠之和尚年譜」編

D4985 竜郊(りゅうこう・上田うえだ、清右衛門貞固2男)1787-1864*78* 加賀の儒者;藩校明倫堂に修学、
1809父の仕える金沢藩老臣本多利明の婿への要請を断りその儒臣となる、
小松習学所教授;致仕、私塾拠遊館を開設;子弟教育、金沢藩老長連弘に意見上申;
1854(安政元)連弘失脚により禁足/63赦免、松崎慊堂こうどう・横井小楠と交流、
1827「南面論」32「拠遊館学則」35「老の道くさ」36「蛙鳴草」37「論語類編」40「天報論」著、
1852「言泉集」編、「竜郊集」「陽炎草」「因果物語」「心の塵塚」「寤悶草」「闇路の松明」著、
「南柯談」「花月談」「道之記」「聖学悝譚」「万円譚」「竜郊雑著」「幻斎遺訓」外著多数、
[竜郊(;号)の名/字/通称/別号]名;貞幹さだもと/耕、 字;叔稼、 通称;虎之助/作之丞、
別号;竜野/幻斎/拠遊館

D4986 柳好(りゅうこう) ? - ? 川柳作者;1851緑亭川柳選「柳風群燕」入

竜岡(りゅうこう・屋代) → *師道*(しどう・屋代、書家)
竜岡(りゅうこう・谷) → *以燕*(いえん・谷たに、暦算家) Ｆ１１０９
竜岡(りゅうこう・大橋) → *訥庵*(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩)Ｏ３１４１
竜岡(りゅうこう・屋代) → *師道*(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家)Ｖ２１２６
竜岡(竜崗りゅうこう・河野)→*通礼*(みちあや・河野/越智、廷臣/暦算家)Ｂ４１１４
竜江(りゅうこう;字) → *日生*(にっしょう;法諱・竜江院、日蓮僧) Ｅ３３２７
竜江(りゅうこう・赤沢) → *竜江*(たつえ・赤沢まあかざわ、神職/歌) Ｖ２６１７
滝江(りゅうこう・堀田) → *稲足*(いなたり・堀田ほった、国学者) Ｋ１１６３
竜吼(りゅうこう;号) → *宗朗*(しゅうろう;法諱・若拙、本願寺派僧)Ｙ２１５２
隆公(りゅうこう・大森) → *隆公*(たかきみ・大森おおもり/藤原/大守、神職/国学)Ｗ２６２０
隆功(りゅうこう・板倉/中嶋)→*隆功*(たかこと・中嶋/藤原、幕臣;領主/日記)Ｌ２６８７
隆光(りゅうこう)訓はすべて→ *隆光*(たかみつ)
隆光(りゅうこう;字) → *日陳*(にっちん;法諱・隆光院、日蓮僧) Ｆ３３２３
隆光(りゅうこう・加藤) → *亮全*(りょうぜん・加藤かとう、浄土僧/歌人)Ｍ４９０６
隆行(りゅうこう・四条) → *隆行*(たかゆき・四条/藤原、廷臣/記録) Ｎ２６５９
隆好(りゅうこう・塩) → *隆好*(たかよし・塩しお、藩士/蝦夷地誌) Ｎ２６７３
隆好(りゅうこう・辻) → *隆好*(たかよし・辻つじ、商家/国学/勤王) Ｙ２６２９
隆衡(りゅうこう・四条) → *隆衡*(たかひら・四条/藤原、廷臣/歌人) Ｄ２６６２
隆康(りゅうこう・四条) → *隆康*(たかやす・四条/藤原、廷臣/歌人) Ｄ２６９４
隆康(りゅうこう・四辻/鷲尾)→ *隆康*(たかやす・鷲尾わしのお、廷臣/連歌)２６２０
隆幸(りゅうこう・九鬼) → *隆幸*(たかゆき・九鬼くき、文筆) Ｎ２６６０
隆興(りゅうこう・横山) → *隆興*(たかおき・横山よこやま、和漢学/実業家)２７２９
柳郊(りゅうこう・岩井田) → *尚行*(ひさゆき・岩井田/荒木田、神職) Ｃ３７１２
柳宏(りゅうこう・柳廷遠) → *召波*(しょうは・黒柳、詩/俳人) Ｂ２２１８
柳泓(りゅうこう→りゅうおう) → *柳泓*(りゅうおう・鎌田、医/心学者) Ｄ４９８０

柳江(りゅうこう・天野)　→　*謙吉*(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩)　Ｉ１８４０
D4987 **竜剛**(りゅうごう;法諱・真海;字、俗姓;坂東)1701-88*88* 阿波徳島真言僧:1711(11歳)潮明寺竜真門、
1714地蔵寺の普雄門/のち高野山入;1739理性院住/47釈迦文院住、
1766(明和3)宝性院29世兼山階安祥寺43世、1777-80高野山324世寺務検校、
「祖師影讃報恩鈔」著、「釈迦文院外典日録」編
柳江庵(りゅうこうあん)　→　*雁紗*(がんさ・鸞亭、雑俳/笠付;冠句)　Ｇ１５２７
柳江庵(りゅうこうあん)　→　*鸞亭*(らんてい・柳江庵、雑俳点者)　Ｄ４８０２
瀏岡庵(りゅうこうあん)　→　*双鳧*(そうふ・瀬上せがみ、俳人)　Ｉ２５７９
竜興院(りゅうこういん)　→　*日陵*(にちりょう;法諱・観朗、日蓮僧)　Ｄ３３６５
竜江院(りゅうこういん)　→　*日生*(にっしょう;法諱・竜江、日蓮僧)　Ｅ３３２７
竜光院(りゅうこういん)　→　*孝高*(よしたか・黒田くろだ/源、武将/連歌)Ｄ４７９３
隆光院(りゅうこういん)　→　*日陳*(にっちん;法諱・隆光、日蓮僧)　Ｆ３３２３
隆光院(りゅうこういん)　→　*広誉*(ひろやす・久世くぜ/源、藩主)　Ｆ３７０３
隆興院(りゅうこういん)　→　*忠朝*(ただとも・青山あおやま、藩主)　Ｖ２６０８
留耕閣(りゅうこうかく)　→　*道雲*(どううん・池永、書/篆刻)　Ｂ３１２７
竜向斎(りゅうこうさい)　→　*柳郊*(りゅうこう・式上亭/北尾、絵師)　Ｄ４９８１
流光斎如圭(りゅうこうさいじょけい)→　*如圭*(じょけい・多賀、絵師)　Ｃ２２３６
柳郊山人(りゅうこうさんじん)→　*柳郊*(りゅうこう・式上亭/北尾、絵師)　Ｄ４９８１
D4988 **流行舎**(りゅうこうしゃ;梅室門人の匿名)?-?　梅室系俳人;
1841「霽々志はればれし」著(;天来「誹諧七草」への反駁書)
隆興堂(りゅうこうどう)　→　*谷峨*(2世こくが・梅暮里、俳/音曲/人情本)　Ｃ１９３５
柳後園(りゅうごえん)　→　*吾仲*(-中ごちゅう・渡辺、仏画師/俳)　Ｄ１９２９
D4989 **柳陪**(りゅうこく・奥田おくだ)　？－　？　江中期享保1716-36頃和泉堺の雑俳点者、
「和州初瀬寺奉納五千句集」評/「両奉納五千句集」評/「春」評
D4990 **柳谷**(りゅうこく・西田にしだ、名;栄欣)?-?　江中期志摩の医者、
1728(享保13)「中華古今分国大成図説」著
D4991 **立国**(りゅうこく・柴田しばた、腐草庵)?-?　江戸の俳人:沾洲・平砂・湖十・青峨と交流、
1737奥羽地方を歴遊行脚、1737「つきみがさき」38「ねふの雪」編
D4992 **竜谷**(りゅうこく)　？－　？　江中期京の俳人:正業門/のち淡々門、
1744(寛保4)「老の手まわし」編、1728柳岡「万国燕」11句入/29隆志「俳諧草結」2句入、
[ずんずんに引き裂き直す嵐山](万国燕;493/四季変化の嵐山を画絹の絵に喩える)
[馬に愛あい人に初音の冬がまへ](草結;234/冬籠の家の馬に声・炉開の茶釜の音)
D4993 **竜谷**(りゅうこく・佐藤さとう、辛島平馬2男)1749-1827*79* 越前鯖江の生;幼時に母方佐藤家を継嗣、
1753(5歳)父と共に肥後熊本に移住、養家を出たが復姓許されず、儒;草野潜渓門、
高瀬に開塾;子弟教育/のち熊本藩巡按司属吏に採用/横目/藩校時習館句読師、国学者、
御本丸御座敷支配役、「閑窓夜録」「国字解」「潜渓遺事」「有余力斎漫録」「竜谷歌集」著、
「練兵日記」「湍川私記」著、
[竜谷(;号)の名/字/通称/別号]名;**親安**ちかやす、字;仲和、通称;敬助、別号;南関
D4994 **柳谷**(りゅうこく・西島/西嶋にしじま)1760-1823*64*　江戸芝西久保も儒者;倉光亀峰門のち林述斎門、
三礼を専攻;講説業、詩文を著述、蘭渓の養父、「柳谷文集」「柳谷詩文稿」「観頤堂筆記」著、
1807「西嶋柳谷蘭渓自筆書」14「学宮略記」、「吉凶冠服図」「周易講義備要」外著多数、
[柳谷(;号)の名/字/通称/法号]名;惟英/謙/準、字;処平/子雄、通称;準造、
法号;岳誉欽靖柳谷居士、諡号;欽靖先生
柳谷(りゅうこく・野間)　→　*静軒*(せいけん・野間、医/詩文)　２４０８
柳谷(りゅうこく・菱川)　→　*春喬*(春橋しゅんきょう・勝川かつかわ、絵師)　Ｊ２１３８
隆国(りゅうこく・九鬼)　→　*隆国*(たかくに・九鬼くき、藩主/歌)　Ｕ２６２８
竜谷(りゅうこく・佐藤)　→　*親安*(ちかやす・佐藤さとう/辛島、藩士/国学)Ｍ２８５９
竜谷(りゅうこく・藤由)　→　*維清*(これきよ・藤由ふじよし、国学者)　Ｒ１９２５
竜谿(りゅうこく・中村)　→　*安清*(やすきよ・中村なかむら、和算家)　Ｂ４５２８
竜護山人(りゅうごさんじん)　→　*覚応*(かくおう;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｊ１５６０

竜虎真人(りゅうこしんじん) → *正豊*(まさとよ・橘たちばな、廷臣/兵学者) Ｅ４０８３
竜根(りゅうこん/たつね・小沢)→ *さゝを*(鎮盈ささお・小沢/山川、藩士/俳人)Ｈ２０４５
D4995 **竜厳**(りゅうごん;法諱) ? - ? 江前期讃岐大川郡丹生谷の真言僧:屋島寺竜範門;剃髪、京の戎光寺・泉涌寺に修学、阿波板野郡上板の大山寺住職、徳島観音寺・小松島法輪寺歴住、1611「屋嶋寺竜厳勧進帳」著
D4996 **立些**(りゅうさ) ? - ? 俳人;1694不角「蘆分船」連句入
D4997 **立砂**(りゅうさ;号・糸瓜坊/柏日庵)?-1799 下総葛飾郡馬橋の俳人:元夢門、一茶と旧知、1687重厚編「もとの水」刊(;芭蕉遺句集)、1782(天明2)「まつの色」編、98「元夢発句集」編
隆佐(りゅうさ;号) → *宗継*(むねつぐ・立入たてり、廷臣/和議奔走)Ｂ４２６３
隆佐(りゅうさ/たかすけ・内山)→*良隆*(よしたか・内山うちやま、藩士/医・儒・兵学)Ｅ４７１１
D4998 **隆済**(りゅうさい;法諱、松木宗宣男)1409-70*62* 真言僧;醍醐寺釈迦院の隆寛門;得度、報恩院主、1427(18歳)権律師/51権僧正、将軍足利義教の請で伊豆箱根密厳院別当/僧正、1469(文明元)東寺長者法務;護持僧の宣下、1445「紀伊国根来寺聖天院伝法灌頂雑記」著、[隆済(;法諱)の通称] 水本法務僧正
D4999 **流済**(りゅうさい・山内やまうち)1612-1673*62* 備前岡山の武芸者/剣術家;新陰流・富田流修得、漢学;熊沢蕃山門、京の妙心寺白厳に参禅、1662(寛文2)平常無敵流剣術を創始、法集流剣術の祖とも称される、京都所司代板倉重矩に出仕、晩年は出家、相模日蓮宗妙福寺28世を継嗣;堂塔を修営;妙福寺中興開山、「谷神伝平生無敵流」著、[流済(;号)の名/法諱/通称/別号]名;直一/一真、法諱;日清/蓮真、通称;甚五郎、別号;蓮真斎/八流斎/心量院
E4900 **竜斎**(りゅうさい・山本やまもと、百卉ひゃっき)?-? 江中期江戸の書家/俳人;鳥酔門、1757鳥酔「夏炉一路」入、巣兆の父
E4901 **立斎**(りゅうさい/りっさい・川井/川合/河井かわい、立牧[桂山けいざん]長男)?-? 1803存 大坂尼ヶ崎町の医者、年寄役、漢学;三宅正誼門、歌;父桂山の歌集「桂山集」刊・「和歌掌中まさな草」編纂、1798(寛政10)「熊野紀行」著、1812(文化9)今宮に歌仙堂建設、秋成と親友、菊舎尼の歌の師、[立斎(;通称)の名/字/別通称/号]名;鬯ちょう、 字;伯英、別通称;玄郁、号;江隠/不関/竜潭/肖翁/停雲館(;父の号)/歌仙堂
E4902 **柳斎**(りゅうさい・渡辺わたなべ、荒井武太夫男)1762-1824*63*(一説1763生/62歳) 実父は讃岐高松藩士、讃岐丸亀藩士渡辺包雅の養子、渡辺家は井上通女の母の生家、丸亀藩儒:1781藩主京極高中に随い江戸へ;稲葉黙斎門、のち大阪の中井竹山門、1794藩校正明館創設に当り初代教授/1802法官;裁判法制定参加、1818致仕/西讃の村を巡り経書を講ず/歌人、「道体論」著、[柳斎(;号)の名/字/通称]名;**浩**ひろし、字;以直、通称;半八/半七
E4903 **柳斎**(りゅうさい・松本まつもと)? - 1814 讃岐香川郡の生;高松藩士/播磨赤穂・京に住、国学者・歌人:小沢蘆庵・上田秋成・小川布淑・前波黙軒門、晩年の秋成と親交、1808(文化5)「文反故」清規と共編、1812「山家集類題」編/「六帖詠草解難」著、歌;1827光英「類台若菜集」入、[柳斎(;号)の名/通称/別号]名;良春よしはる、通称;和右衛門、別号;吾有/玄道
E4904 **柳斎**(りゅうさい・和気わけ/初姓;半井)1777-1853*77* 江戸の儒者;本姓の和気を称す、文政天保1818-44頃上総一宮藩主加納久徴に招聘され藩儒、関口金水・広沢文斎の師、1797「松島紀行」1805「柳斎筆記」10「聖学」「聖学講義」「聖学大意」/33「聖学或問」、「苑園文集」「古文学則」「作文連語大成」「遊湘詩稿」「論孟異同編」著、[柳斎(;号)の名/字/通称/別号]名;行藏、字;古道/大道、通称;行三、別号;尚古道人
E4905 **隆斎**(りゅうさい・三井みつい)1795-1851*57* 讃岐那珂郡田村の生/讃岐琴平の医家三井家継嗣、医業の傍ら儒学修学/詩文:菅茶山門、頼山陽・篠崎小竹・後藤松陰と交流、晩年に学舎正風館を興し子弟教育、1849「釈奠式並十哲従祀図」、「芳怨伝」「雪航詩鈔」著、「雪航翁遺集」、[隆斎(;通称)の名/字/別通称/号]名;重清、字;子潔、別通称;潔、号;雪航
E4906 **立斎**(りゅうさい・頼らい) ? - ? 山陽再従弟、篆刻家;林谷[1782-1842]門
E4907 **柳斎**(りゅうさい・瀬尾/妹尾せのお/本姓;藤原)?-? 江中期享保1716-36頃大阪の古銭学者、

「皇朝泉譜」「漢土真偽銭」「世宝録」「板児録抜萃」/1731「和漢歴代泉考附録」著、
[柳斎(;号)の名/別号]名;嘉冬、別号;桓翁
E4908 **竜斎**(りゅうさい・高橋たかはし)? - ? 幕末期江戸の武士;記録者、「西行日記」、
「小田原紀行出多羅免艸稿」、「旧麓叢書及附録」(諸見聞記を蒐集;1870息子矩正編)、
[竜斎(;号)の名/字/通称/別号]名;矩林、字;静篤、通称;長宜、別号;醒眠/囈喰げいかん
民斎矩正の父
竜斎(りゅうさい・後藤) → *日蒼*(にっそう、日蓮僧/還俗仏教) E３３９３
竜斎(りゅうさい・溝口) → *素丸*(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人)E２５３６
竜斎(りゅうさい・小淵) → *湛水*(たんすい・小淵おぶち、医者/俳人) I２６９３
竜斎(りゅうさい・大高) → *竹操*(ちくそう・大高おおたか、藩家老/詩) D２８３９
立斎(りゅうさい;剃髪号) → *立以*(りゅうい・喜多村/北村きたむら、俳人)４９０７
立斎(りゅうさい・歌川) → *広重*(初世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G３７０２
立斎(りゅうさい・歌川) → *広重*(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G３７０４
立斎(りゅうさい・歌川) → *広重*(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G３７０５
柳斎(りゅうさい・滝沢) → *正樹*(まさき・滝沢たきざわ、国学者) Q４０７７
柳斎(りゅうさい) → *重春*(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師)C２１８６
柳哉(りゅうさい・東条) → *舜清*(しゅんせい;法諱・東条、修験僧) Z２１４７
柳斎重春(りゅうさいしげはる・山口)→ *重春*(しげはる・柳斎、浮世絵) C２１８６
柳斎正澄(りゅうさいまさずみ)→ *正澄*(いまさずみ・柳斎、挿絵師) D４００４
立斎光彦(りゅうさいみつひこ)→ *光彦*(みつひこ・立斎/立亭/三亭、合巻作者)E４１５５
柳左衛門(りゅうざえもん・首藤)→*允中*(允仲まさなか・首藤/末長/山高、故実)F４０１１
隆左衛門(りゅうざえもん・池田)→ *重安*(しげやす・池田いけだ/今村、歌人) N２１３１
E4909 **竜朔**(りゅうさく) ? - ? 俳;梅盛門、1663「木玉千句」参:倫員「木玉こだま集」所収
竜朔(りゅうさく・高橋) → *赤水*(せきすい・高橋たかはし、医者/儒者) K２４２７
柳作(りゅうさく・近松) → *柳*(やなぎ・近松/並木/錺屋久兵衛、歌舞伎・浄瑠璃作者)D４５８９
隆策(りゅうさく・佐々木) → *雄斎*(ゆうさい・佐々木ささき、医者/歌人) B４６７５
隆察(りゅうさつ;宇) → *日諦*(にったい;法諱・観具院、日蓮僧) F３３０３
隆三郎(りゅうざぶろう・上田)→ *碧水*(へきすい・上田うえだ、儒者/教育) ２７９０
隆三郎(りゅうざぶろう・寺西)→ *元永*(元栄もとなが・寺西、幕臣/国学) D４４５５
竜参(りゅうさん・田島) → *養元*(ようげん・田島たじま、医者) ４７７８
E4910 **竜山**(りゅうざん) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[里人や菰こもにつつみし杜若](蓮実;228)
E4911 **柳山**(りゅうざん) ? - ? 京の俳人;雑俳/1696円水「住吉おどり」入
E4912 **竜山**(りゅうざん) ? - ? 実録作者;
1718「訂考仙台騒動記」著(無一校訂;初期の伊達騒動物)
E4913 **竜山**(りゅうざん・水音堂) ? - ? 江中期大阪の雑俳点者、
1729(享保14)笠付会所本「田植笠」魚江ぎょこうと両評
M4933 **竜山**(りゅうざん;法諱・斎田さいた)1695-1770*76* 筑前遠賀郡の真言宗蓮光寺住職、歌人
E4914 **竜山**(りゅうざん・左合さごう/修姓;左)1729-1754早世*26* 江中期美濃岐阜の詩人、能書家、「竜山遺稿」、
[竜山(;号)の名/字/通称]名;九成、字;元鳳、通称;大進
E4915 **竜山**(りゅうざん・桂田かつらだ、名;**棟吉**むねよし、棟政2男)1749-1810*62* 大坂の医者、国学者、
古を好み済世の志あり、余財で書を買い人に施す、「照類通義」「天和余慶年中行事考」著
E4916 **竜山**(りゅうざん・三浦みうら、黒坂三五郎男)1755-1837*83* 陸前石名坂村の生/藩家老北条家に出仕、
儒者;江戸で昌兵黌に修学/高羽翼之門、羽前新庄藩町に出仕;藩士/諸役歴任後;町奉行、
記録係、1810(文化7)頃より藩学の経営に尽力;1828致仕、講説を業とす、「竜山遺稿」、
[竜山(;号)の名/通称]名;貞寛、通称;寛右衛門/浅右衛門/新八/政右衛門、葛山の父
E4917 **竜山**(りゅうざん・魏ぎ、喜的[伍平治]男)1757-1834*78* 長崎の東京(ﾍﾞﾄﾅﾑのﾄﾝｷﾝ)通事の家の生;
1781父没;第4代東京通事となる、「東京異詞相譏解」「南詞譏解」著、
1796「訳詞長短話」著(語学書;中華・安南・東京とんきん・ﾓｳﾙ・阿蘭・ｲﾝﾃﾞｱ等の会話・語彙集)、
[竜山(;号)の名/通称/法号]名;喜輝、通称;五左衛門/伍左衛門、法号;喝雲院

E4918 竜山(りゅうざん・三上みかみ)1759-1823*65* 丹波亀山藩の儒者:柴野栗山門、
藩儒として藩主松平信直から信忠まで4代に出仕、「竜山堂叢書」「竜山堂古詩分類」編、
[竜山(;号)の名/通称]名;休復/徳彦、通称;忠八郎、休享の父/淵の祖父

E4919 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、直成の長男)1760-1811*52* 父は伊予桑村郡高知村の祠官、
神道;上京し松岡雄淵門/儒学;西依成斎門/江戸の服部栗斎の麹渓書院に修学、
帰郷後;伊予松山藩主松平定通に出仕:儒臣となる、江戸藩邸内の学問所学事を掌る、
「竜山詩文集」「名称通考」「講堂私議」「竜山存稿」著、「竜山遺稿」、炳友あきともの父、
[竜山(;号)の名/字/通称/別号]名;斌ひん/彬あきら/義房、字;楽大/楽太/子徳、
通称;文太/泰助、別号;六竹軒/桑県

E4920 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、名;順/久亮)1774-1831*58* 播磨東畑の医者:加古茂仙門、
大坂東天満壺屋町で医開業/易学:真勢中洲門、易占も修学、1818「左国易一家言」著、
1819「円著筮法指南」20「周易本筮指南」23「易原図略説」28「易学階梯附言」著、
「医易本義」「周易象解」「静座集説」「普徳摩尼附亀卜占」著、
[竜山(;号)の字/通称/別号]字;祐信、通称;順助/順祐、別号;含章堂

L4968 竜山(りゅうざん;法諱・俗姓;永谷)?-? 江中期駿河藩駿府坊主、稲川「思旧漫録」記事入、
飲酒により病没

E4921 笠山(りゅうざん・雨森あめのもり/修姓;雨、名;征煥/通称;大章)?-? 江後期儒者/詩人;
1820谷斗南「唐宋元明変体偽集」「偽唐詩」校訂/跋文執筆、
1828鈴木正長(武助)「農民懲誡篇」跋文執筆

E4922 竜山(りゅうざん;法諱・実応院;諡号)?-1850 越後真宗大谷派双林寺の生:遠江正福寺に入、
公厳・深励・宣明門/寮司となる、異義唱え1824徳竜に領解書を提出;25法海の教誡を受、
「御文竜山録」「御文講義」「言南無者筆記」「浄土論註提要」「教行信証化身土巻講義」著、
「論註他利々他深義聞記」、1848「教行信証行巻講義」49「教行信証信巻聴記」著

E4923 竜山(りゅうざん・宇都宮うつのみや、原田東一郎男)1803-86*84* 伊予喜多郡新谷村の儒者;
伊予大洲藩儒山田東海門/大津藩支藩の新谷藩主の侍講、江戸で古賀侗庵門、藩校教授、
篠崎小竹・帆足万里門、1835脱藩;改姓;宇都宮竜山/備後尾道に開塾;備後三原藩に招聘、
1844三原郷校学頭、維新後は中学校教員、1862「竹雪山房詩鈔」、「興学通信」「芳山遊記」著、
「格致抄説」「開港夜話問答」著、
[竜山(;号)の名/字/通称/別号]名;靖、字;好直/清記、通称;弥惣、
別号;竹雪山房/百八山人/白茅生、法号;英寿院

E4924 笠山(りゅうざん・篠原しのはら、風早直賀2男)1805-59*55* 豊前小倉藩士篠原家の養嗣子、儒;石川彦岳門、
江戸で皇典・本草・兵学を修学、1840(天保11)藩校思永館助教/57学頭助役、
家塾開設;子弟教育、「亀卜伝」「防国兵談」「雲窓捃摭くんせき」「旗式器考」「笠山文集」外著多数、
[笠山(;号)の名/字/通称]名;級長しなが、字;小卿、通称;良輔

E4925 竜山(りゅうざん・木内きうち/きのうち、小橋静学2男)1810-67*57* 讃岐香川郡円座村の生/木内茂邦の養子、
書;福江六山門/儒;伊藤南岳・三野謙谷門;経史・文章を修学/南学;岡内綾川門、
郷里で著述に専念/勤王思想を主唱、兄小橋香水の意を承け国事に奔走、小橋橘陰の兄、
1853「撃攘録」、「杞天録」「近世紹運録」「今世紀略」「竜山漫録」「竜山文章」「竜山吟草」著、
「岳論語国字解」「南岳論語題解」「紫文抄」「時賢文抄」「賞眞亭雑記」「賞眞亭叢書」外著多数、
[竜山(;号)の名/字/通称/別号]名;倫、字;仲和、通称;順二、別号;竜三/賞眞亭

E4926 笠山(りゅうざん・斎藤さいとう、名;寛、藩校教授金壺男)?-? 江後期の儒者(家学);備前岡山藩校書物方、
「遺愛志」「五経音訓訳」著、
[笠山(;号)の字/通称]字;子信、通称;万三郎

竜山(りゅうざん;道号) → *徳見*(とくけん;法諱・竜山;道号、臨済僧)Ｋ３１６３
竜山(りゅうざん・東求院/龍山公)→ *前久*(さきひさ・近衛、関白/歌) ２０１２
竜山(りゅうざん:号) → *覚応*(かくおう;法諱、真宗本願寺派僧) Ｊ１５６０
竜山(りゅうざん・山田) → *復軒*(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者) Ｄ３８３２
竜山(りゅうざん・小林) → *風徳*(ふうとく・小林こばやし、俳人) ３８９７
竜山(りゅうざん・伊達) → *斉邦*(なりくに・伊達、藩主/謡曲/歌) Ｈ３２３１
竜山(りゅうざん・張/藤堂)→ *梅花*(ばいか・藤堂、儒者/詩人) ３６７８

竜山(りゅうざん・新井)　→　*白蛾*(はくが・新井あらい、儒者)　Ｃ３６８３
竜山(りゅうざん・山根)　→　*済洲*(せいしゅう・山根やまね、藩士/儒者)　Ｂ２４９８
竜山(りゅうざん・山梨)　→　*亮平*(りょうへい・山梨やまなし、医者)　Ｅ４９４４
竜山(りゅうざん・横池)　→　*春斎*(しゅんさい・横池/横地、藩士/兵学)Ｊ２１６９
竜山(りゅうざん・前田)　→　*貞一*(さだかず・前田、藩家老/記録)　Ｈ２０９３
竜山(りゅうざん・中条)　→　*勝次郎*(かつじろう・中条ちゅうじょう、藩士/武術)Ｎ１５４７
竜山(りゅうざん・座光寺)→　*為忠*(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人)Ｘ２６２７
竜山(りゅうざん;号)　→　*亮盛*(りょうせい;法諱・大仙、真言僧)　Ｉ４９４８
竜山(りゅうざん;号)　→　*虎云*(こうん;道号・郁繍;法諱、曹洞僧)Ｌ１９６８
竜山(りゅうざん・増田)　→　*基明*(もとあき・増田ますだ、国学者/歌)　Ｌ４４３５
柳山(りゅうざん・中内)　→　*樸堂*(ぼくどう・中内なかうち/島川、藩儒)　Ｄ３９８３
笠山(りゅうざん・河北)　→　*景楨*(かげえだ・河北かわきた、藩士/儒者)　Ｆ１５０１
笠山(りゅうざん・大倉)　→　*笠山*(りつざん・大倉おおくら、絵師/詩人)　Ｍ４９０４
笠山(りゅうざん・本多)　→　*助成*(すけなり・本多ほんだ、藩主/詩歌)　Ｊ２３２２
珊山(りゅうざん・井坂)　→　*徳辰*(あつとき・井坂、神職/歌人)　Ｅ１０７０
流山(りゅうざん・千葉)　→　*胤道*(たねみち・千葉ちば、胤秀男/和算家)Ｓ２６０９
隆山(りゅうざん;字)　→　*慈光*(じこう;法諱・隆山、真言僧)　Ｔ２１３８
竜山徳見(りゅうざんとくけん・千葉)→　*徳見*(とくけん・竜山,臨済入元僧)　Ｋ３１６３

E4927 **立志**(初世りゅうし・高井たかい)?-1681　紀州和歌山藩の畳職高井伊兵衛男か?/浪人し江戸へ、江戸本町四丁目住/俳人;立圃門、のち石出帯刀の家臣、立宜(窓梅)・立詠(2世立志)の父、1674「思出千句」、「樗木集」著、没後;1691江水「元禄百人一句」・1702轍士「花見車」入、
俳系は4世まで継嗣される、
[書初や去年こぞを今年にうつしもの](花見車;66/うつしは移しと写しの掛詞)、
[立志(初世;号)の通称/別号]通称;左馬之介(助)、別号;望志/松楽軒

E4928 **立志**(2世りゅうし・高井たかい、名;吉章、初世立志男)1658-1705*48* 立宜(窓梅)の弟、江戸石町の俳人、俳諧点者/薙髪、1692「難波の枝折」「宮古のしをり」編、1704「立志門前句附点取句帳」編、「根なし草」評、1680心友「江戸宮笥」・1702轍士「花見車」入、
[人の手も只はあそばぬ火鉢哉](花見車;74)、
[立志(2世;号)の幼名/別号]幼名;大松、別号;立詠/松雨軒/和諧堂(:薙髪後)、
法号;高林院

E4929 **柳糸**(りゅうし)　?-　?　江前期金沢の俳人;
1683友琴編「金沢五吟」連句の発句入(友琴・正勝・一風・一烟と)

E4930 **流志**(りゅうし)　?-　?　俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[笹の家やのひくさや空に鳴く蛙](卯辰集;一91/屋根低く蛙も空で鳴くように聞える)

E4931 **柳子**(りゅうし)　?-　?　京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

E4932 **柳枝**(りゅうし)　?-　?　大阪の俳人;1691賀子「蓮実」5句入、
[牛の喰ふ舌より余る蔓つばな哉](蓮実;145)

L4913 **流枝**(りゅうし)　?-　?　江戸の俳人;1691不角「二葉之松」/93不角「一息」「二息」入、
[討ち棄てはむごし返してとゞめさせ](一息/切り捨ては残酷;相手を呼び戻す断末魔)

E4933 **柳枝**(りゅうし・白井しらい、名;信利)?-1721　上総埴生郡本村支配の代々代官の家;家業を継嗣、俳人;江戸の調和門、雑俳点者:1703冠付「俳諧なげ頭巾」点入、「広峰山奉納三千句集」編、鳥酔の父

E4934 **柳士**(りゅうし・石崎いしざき、平兵衛男)?-1783?　越中礪波郡福光の酒造業;1701(元禄14)継嗣、麻布の販売も継嗣、俳人:北枝門、1708(宝永5)「桃盗人」編、
[柳士(;号)の屋号/法号]屋号;中酒屋、法号;釈了廓

E4935 **立志**(3世りゅうし・高井たかい、名;心保、立志2世男)1683?-1724?*42?*　江戸の俳人/俳諧点者、1705「立志終焉記」編/08「庭の巻」編/15「はいかい時雨の窓」編/16沾徳点「豆腐百韻」参加、1717「丁酉之歳旦」21「享保辛丑春歳旦」編、「俳諧画讃」「絵本謡俳諧」「立志点取帖」著、
[立志(3世;号)の別号]　立詠/春水/和嘯堂/和散歳/和散才

E4936 **柳枝**(りゅうし・松代まつしろ、鼠鬚子そしゅし)?-?　江中期大阪の浮世草子作者:

1712「好色入子枕」1716「庭訓染匂車」著
E4937 立子(りゅうし)　？－　？　江中期雑俳点者;
1723撰集「和哥みどり」点句入
E4938 立志(4世りゅうし・浅見あさみ、如格/和楽園)?-?　江中期江戸飯田町の俳人:介我門・3世立志門、
1734襲名(立志4世)、「如格息追善集」編(享保1716-36年間刊)
E4939 柳枝(流枝りゅうし・伊藤いとう)?-　?　江中期;1735(享保20)頃まで浄瑠璃作者、
1736-40(元文元-5)京で歌舞伎作者、1719「宇治頼政歌道扇」36「御祝能錦幔」著、
1737「八幡太郎伝授の」40「けいせい宇治見山」、「寿命髪置」「契情我立杣」著
E4940 隆志(りゅうし・北村きたむら、別号;錦花堂/信安斎、植村信安男)1695-1764*70*　京の俳人;植村信安門、
狂歌も嗜む、1729「俳諧草結」編;序跋/「冬牡丹」編、37「籬下」47「あはせ鏡」49「百郭公」編、
「御祓川」「古版俳諧」「月の宴」「滝桜」「田植笠」「初代草」「冬牡丹」「夕紅葉」編、外評多数、
1763三宅嘯山「俳諧古選」入、一周忌追善集「宵月夜」(錦志編)、
[青柳やなの字捨てたる人心ひとごころ](俳諧草結;223/省略させたいのが人情)
[玉箒雪はく朝の名なるべし](俳諧古選)
L4902 柳詞(りゅうし)　？－　？　広島蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、
1706涼兎「潮とろみ」/支考「東山万句」入
L4996 柳子(りゅうし・りゅうこ・青山あおやま)?-　?　江中期;京の歌人;日野資枝すけき・職仁よりひと親王門
E4941 立志(5世りゅうし・関せき、大中庵)?-?1764-72頃没　江戸の俳人:4世立志門、1761「腐縵ふべき集」編
E4942 立此(りゅうし・川北)　？－　？　大阪雑俳;1757律中「耳勝手」入
M4924 柳子(りゅうし・林はやし、旧姓;平沢)1728-97*70*　信濃伊那郡の農業林恵忠しげただ(1724-88)の妻、
歌人;澄月・桃沢夢宅門(夫と同門)、恵信しげのぶ・飯島為仙ためのり(名主/歌人)の母
夫　→　*恵忠*(しげただ・林はやし、農業/歌人)　Ｚ２１７３
長男　→　*恵信*(しげのぶ・林、歌人/妻は夢宅女ひさ)Ｚ２１７４
次男　→　*為仙*(ためのり・飯島いいじま、名主/歌人)　Ｈ２６３３
E4943 柳志(りゅうし)　？－　？　丹波多紀郡丹南町の俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
[東風こち吹いて梅のあたりをめぐる哉](誹諧月の夜;87/道真の歌を踏む)
L4905 柳枝(りゅうし)　？－　？　広島俳人;1785刷物「人来よと」入(窓五らと)
E4945 柳之(りゅうし・斎藤/修姓;藤とう)?-?　江後期江戸神田明神下の女流絵師/能書家、
1811(文化8)「雪下園画梅譜」編、
[柳之(;名)の字/通称/号]字;淑英、通称;都容、号;翠塢
E4946 立志(6世りゅうし・関せき、雨雪/梢月庵/青松庵/松斎/雛屋)?-1829　俳人:徳器門/1795頃襲名
E4947 立志(7世りゅうし、雪志/綰斎わんさい/九瓠坊/洞斎)?-?1830-44頃没　俳人;1821頃襲名
E4948 流芝(りゅうし・鈴木すずき)　？－ 1848　三河岡崎の俳人:卓池門/随念寺門前に住、
のち江戸に出て鳳飛一社を結ぶ、1846卓池没;後継者に推薦され師三回忌に岡崎に帰郷;
1848急逝、1833「三よき舞」38「まくら紙集」編/43「弥生日記」著/44「半毛集」45「植継集」編、
1846「其あと集」「雲あかり」編、「ふらつき」「はつ鴈集」「卜晴集」「東都名所発句集」編、
[流芝(;号)の通称/別号]通称;大和屋源右衛門、
別号;柏声舎/三秀園/青々処2世/柳堤/柳塘
E4949 龍子(りゅうし・竹斎ちくさい・歌川うたがわ)?-　?　江後期武州春日部の絵師:歌川国直門、挿絵、
1815合巻「男梅ケ枝花魁」「天岩戸初日門松」挿絵
L4987 柳子(りゅうし・堀ほり)　？－　？　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[足引きの山田の稲のほのぼのと明け行く空を渡る初雁](大江戸倭歌;秋922/暁初雁)
M4900 立祀(りゅうし;法諱/玄旨法師/号;櫻壺)?-1869　近江膳所の最勝院住僧;勤王派、歌人、
生駒秀一の師
隆子(りゅうし・源)　→　*顕房室*(あきふさのしつ・源、六条右大臣北方)１０８１
隆子(りゅうし・源)　→　*源三位*(げんさんみ、源致時女/女房歌人)Ｂ１８９５
隆子(りゅうし)　→　*隆子*(たかこ、松平康定側室/歌人)　Ｌ２６８３
隆子(りゅうし・井関)　→　*隆子*(たかこ・井関いせき、国学/歌人)　Ｌ２６８４
隆子(りゅうし・鷹司/前田)→　*隆子*(たかこ・前田、歌人)　Ｌ２６８５

隆之(りゅうし/たかゆき・小島/滕)→ *橘洲*(きっしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌) １６２２
隆師(りゅうし・四条) → *隆師*(たかかず・四条しじょう、廷臣/記録) Ｌ２６７２
隆資(りゅうし・藤原) → *隆資*(たかより/たかすけ・藤原、廷臣/歌人) Ｅ２６０９
隆資(りゅうし・四条) → *隆資*(たかすけ・四条、南朝廷臣/歌人) Ｃ２６８７
柳子(りゅうし・星野) → *良悦*(りょうえつ・星野、医/身幹儀製作) Ｇ４９５２
柳糸(りゅうし・座光寺) → *ハナ*(はな・座光寺ざこうじ、為明女/為礒妻/歌人)Ｋ３６２２
柳枝(りゅうし・梅沢) → *青海舎主人*(せいかいしゃしゅじん、書肆/洒落本)２４８８
李雄子(りゆうし) → *拳六*(けんりゅう・最一もいつ、洒落本作者) Ｅ１８６１
E4950 **龍耳**(りゅうじ) ？－ ？ 俳人;白雄門?、追善「保吉やすよし句集」編;雑誌「半面」所収
隆時(りゅうじ・藤原) → *隆時*(たかとき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｄ２６１４
竜治(りゅうじ・福島) → *順棊*(じゅんき・福島ふくしま、将棋士) Ｍ２１６６
竜司(りゅうじ・新村) → *美英*(よしひで・新村にいむら、医者/歌人) Ｏ４７３１
柳思庵(りゅうしあん) → *川柳*(4世せんりゅう、人見、雑俳点者) ２４４２
龍耳庵(りゅうじあん) → *二承*(にしょう・山県やまがた、絵師/俳人) ３３２２
竜司園(りゅうしえん) → *梅信*(うめのぶ・雲井園くもいえん、狂歌) Ｄ１２４０
柳糸園(りゅうしえん) → **春路**(しゅんろ・柳糸園、俳人) Ｋ２１２２
竜子温(りゅうしおん) → *日蒼*(にっそう、後藤竜斎、日蓮僧/還俗仏教)Ｅ３３９３
柳枝軒(りゅうしけん) → *多左衛門*(2世たざえもん・小川、書肆小河屋)Ｅ２６５７
柳子軒(りゅうしけん) → *松根*(しょうこん・柳子軒、浮世草子作者)Ｓ２２１９
竜枝軒(りゅうしけん) → *直矩*(なおのり・松平、藩主/日記/歌) Ｃ３２０５
E4951 **立耳軒**(りゅうじけん) ？－ ？ 軍記作者;1771「石山軍記(石山軍鑑)」著
量七(りゅうしち・千葉) → *常一*(つねかず・千葉ちば、和算家) Ｂ２９８８
M4980 **隆実**(りゅうじつ;法諱、従三位大蔵卿源道良[1050-1111]男?)?-? 平安後期の僧/歌人、
1122(保安3)2月[無動寺歌合]参加(袋草紙)、
[八瀬川やせがはをせぜのゐせきに堰せき止めて水ひきかくる小野の苗代](無動寺;苗代)、
[人しれぬ身のみ思へばうしまどにひきほすあみのいはですぎぬる](同;恋、
牛窓は備前邑久郡の港、あの人に知ってもらえぬ身の憂さ/心を告げず過ぎた)
M4967 **隆実**(りゅうじつ;法諱、) ？－ ？ 鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[楢葉ならのは集]10余首入、1231(寛喜3)春日社に歌奉納に参加(禅遍らと)、
貞永(1232-33)頃 宇智郡御霊社歌合参加、
[寛喜三(1231)年春日の社に奉りける歌の中に冬日、
かくしつつさてしもとしやつもりなむくれやすき日のけふぞかなしき](楢葉;冬350)
隆実(りゅうじつ・藤原) → *隆実*(たかざね・藤原、廷臣/歌人) Ｌ２６９２
隆実(りゅうじつ・大中臣) → *隆実*(たかざね・大中臣、神職/歌人) Ｃ２６７９
柳糸亭三楽(りゅうしていさんらく)→*三楽*(さんらく・柳糸亭、常盤津/三味線)Ｇ２０１０
E4952 **柳糸堂**(りゅうしどう・夏目なつめ)?- ？ 江前期江戸向島牛島住の浮世草子作者、
1703(元禄16)「拾遺御伽婢子」著
柳糸堂(りゅうしどう) → *麟子*(りんし・柳糸堂、俳人) Ｋ４９３８
柳斜亭布悦(りゅうしゃていふえつ)→ *布悦*(ふえつ・柳斜亭、狂歌作者) Ｂ３８１７
E4953 **龍守**(りゅうしゅ) ？－ ？ 江後期期俳人;
1851(嘉永4)「校正七部集」仙鳧せんぷと共編;
最初1732頃柳居編「俳諧七部集」;1774子周(安永3)が同名で編;以後種々異本など刊行;
それらを校訂し1845(弘化2)蘿斎が「校正七部集」編;さらに龍守・仙鳧が同名で校訂刊行、
のち1863(文久3)五律編「正改新刻七部集」・64(元治元)西馬「標注七部集」などが刊行
竜首(りゅうしゅ) → *棐*(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) Ｐ２６０４
竜寿(りゅうじゅ) → *西南院龍壽*(せいなんいんのりゅうじゅ、童/歌) Ｏ２４９３
隆壽(りゅうじゅ・篠沢) → *隆壽*(たかひさ・篠沢しのざわ/前田、里正/歌)Ｘ２６４６
E4954 **柳舟**(りゅうしゅう・町田まちだ、窓令斎)1676-? 1745存 羽前松ヶ崎の生/米沢の俳人:「柳舟発句集」著、
1704「浜荻」編(;伊勢詣記念)、05「賀之満多知かしまだち」/45「わか柳」編、1712知足「千鳥掛」入
E4955 **竜洲**(りゅうしゅう・伊藤いとう/初姓;清田)1683-1755 *73* 播磨明石の儒者;京で伊藤坦庵門/師の養嗣子、

1709義兄伊藤平庵の跡継嗣;越前福井藩儒、程朱学を宗、1718藩主松平吉邦命で藩史編纂、
1749致仕、1718「越前家御世譜」編、「源家伝統録」編、1749「三余清事」10巻著、
「居閑集」8巻/「四書通辨」19巻/「師心亭記」著、「荀子全書」校訂
[竜洲(;号)の名/字/通称/別号]名;元基/道基、字;子崇、通称;荘司、別号;宜斎、
諡号;荘粛先生、法号;眞誉竜洲諦応居士、錦里・江村北海・清田儋叟たんそうの父

E4957 **竜洲**(りゅうしゅう・柘植つげ/修姓;柘)1770-1820*51* 河内国分村の医者:浅井図南門/大和高取藩医、
のち大阪で医開業;特に虫病・温泉療法に精通、儒;中井竹山門;経営学・詩文に長ず、
1802「蔓難録」04「医療万難録」、「有馬温泉記」「温泉論」「温泉足もと話」「温泉小話」著、
「火鍼論」「産論」「産語」「三省堂方函」「折肱余筆」「柘植氏医叢」「労瘵新書」著、
[竜洲(;号)の名/字/通称/別号]名;常彰、字;叔順、通称;中務、別号;光天堂

E4958 **竜洲**(りゅうしゅう・高木たかぎ)? - ? 江後期文化1804-18頃丹後の詩人:大窪詩仏門、
1811(文化8)「棲鳳園詩集」、「棲鳳園百絶」著、
[竜洲(;号)の名/字/別号]名;信鞭、字;士羊、別号;棲鳳園せいほうえん

竜秋(りゅうしゅう・豊原) → *竜秋*(たつあき・豊原とよはら、楽人:笙) Ｒ２６５３
龍湫(りゅうしゅう;道号) → *周沢*(しゅうたく;法諱・龍湫りょうしゅう、臨済僧)Ｉ２１０６
竜湫(りゅうしゅう・南宮) → *藍川*(らんせん・南宮なんぐう、儒者) Ｃ４８８４
竜州(りゅうしゅう・中谷) → *雲漢*(うんかん・中谷なかたに、儒者) Ｄ１２６５
竜州(りゅうしゅう・中谷) → *雲漢*(うんかん・中谷なかたに、儒者) Ｄ１２６５
竜州(りゅうしゅう・西尾) → *公龍*(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) Ｋ１６４６
竜洲(りゅうしゅう・文海) → *竜洲*(りょうしゅう;道号・文海もんかい;法諱、曹洞僧)Ｈ４９８４
竜洲(りゅうしゅう・岡部/岡)→ *白駒*(はっく・岡部/修姓;岡、儒/語学) ３６２１
竜洲(りゅうしゅう・成島) → *和鼎*(かずかね・成島・秦、幕臣/儒/歌) Ｃ１５１７
竜洲(りゅうしゅう・能美) → *友庵*(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) ４６５２
竜洲(りゅうしゅう・奥瀬) → *清簡*(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、藩士/儒者)Ｑ１６２３
竜洲(りゅうしゅう・鈴木) → *迪吉*(みちよし・鈴木すずき、国学/歌人) Ｊ４１３８
竜洲(りゅうしゅう・藁科) → *松伯*(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) Ｌ２２３６
柳洲(りゅうしゅう・中山) → *信名*(のぶな・中山、国学者) ３５１２
柳洲(りゅうしゅう・柳原) → *紫峰*(しほう・柳原/小西/柳、国学者) Ｖ２１６９
流舟(りゅうしゅう) → *流宣*(とものぶ・石川、画/俳/浮世草子) Ｑ３１１９
隆脩(りゅうしゅう・水無瀬/七条)→ *隆脩*(たかなが・七条/水無瀬、歌人)Ｄ２６３６
隆従(りゅうじゅう・西山) → *隆従*(たかより・西山、藩士/歌人) Ｎ２６８２
隆重(りゅうじゅう)訓はすべて→ *隆重*(たかしげ)
隆従(りゅうじゅう・横山) → *隆従*(たかより・横山よこやま、藩士) Ｎ２６８１
龍湫院(りゅうしゅういん) → *長清*(ながきよ・黒田くろだ、藩主/詩歌) Ｍ３２０４
竜舟軒(りゅうしゅうけん) → *重右*(しげすけ・大和田おおわだ、藩士/歌人)Ｎ２１８３
竜珠館(りゅうじゅかん) → *修理*(しゅり・桑山くわやま、兎園社友) Ｊ２１１２
竜寿軒(りゅうじゅけん) → *雲漢*(うんかん・中谷なかたに、儒者) Ｄ１２６５
留守斎(りゅうしゅさい) → *隆勝*(たかかつ・建部たけべ、香道家) Ｌ２６７６
龍樹寺(りゅうじゅじ;法号)→ *経氏*(つねうじ・細川/源、武将/歌人) Ｂ２９７３
隆術(りゅうじゅつ・四条) → *隆術*(たかみち・四条、廷臣/歌) Ｄ２６８１
隆俊(りゅうしゅん)すべて → *隆俊*(たかとし)
隆純(りゅうじゅん・油小路/鷲尾)→ *隆純*(たかいと・鷲尾わしのお/油小路、廷臣/記録)Ｌ２６５８

E4959 **龍渚**(りゅうしょ・倉成くらなり/くらなし、実常男)1748-1812*65* 豊前上田村宇佐の農家の生;早く父と死別、
儒;1765豊前中津藩儒の藤田敬所門/京の藤田東所門、1771(明和8)中津藩に出仕、
のち儒儒;世子侍読/1790藩校進脩館創設に参画/教授、竜渚号は藩主奥平昌高の命名、
教育の傍ら遊山を好む;細井平洲・樺島石梁・頼杏坪ら文人と交流、自嬉斎じきさいの父、
1802「游嚢叙録」、「儀礼綱」「周易守翼」「対鷗楼閑話」「対鷗楼詩集」「道のうはさ」外著多数、
「倉成竜渚先生遺稿」、
[龍渚(;号)の名/字/通称]名;亟[茎]、字;善卿、通称;善治/善司

E4960 **柳所**(りゅうしょ・藤井ふじい) ? - 1867 長門の儒者/陸中盛岡藩主南部利済の招聘;藩儒、

1860藩校明義堂助教、1865三戸に藩校の分校為憲場設立時に教授として巡遣、
1849「創業録」、「消夏茶談」著、
[柳所(;号)の名/字/通称/法号]名:穆/基邦、字;伯彦、通称;又蔵、法号;柳所院
竜渚(りゅうしょ・入江) → *東阿*(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) ３１７０
柳処(りゅうしょ・岡田) → *清*(きよし・岡田おかだ、藩士/国学/地誌) Ｈ１６４０
柳処(りゅうしょ・芝原) → *恒久*(つねひさ・芝原しばはら/岡、国学者) Ｆ２９７８
E4961 **柳絮**(りゅうじょ) ? - ? 江前期俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、
[提灯に散りかゝるまで花見哉](卯辰集;一125/時を忘れての花見)
E4962 **柳女**(りゅうじょ・笹部ささべ) ? - ? 山城伏見の鶴英の妻/賀瑞がずいの母、俳人;蕪村門、
1772几董「其雪影」1句/74美角「ゑぼし桶」1句/76几董「続明烏」1句/77蕪村「夜半楽」2句入、
1782「花鳥篇」1句入、
[老ひて猶さくらは花に訪とはれける](花鳥篇;36/老木と花の使い分けの妙)
L4906 **柳絮**(りゅうじょ) ? - ? 江後期備後の俳人;1795一茶「たびしうゐ」入、
1803若翁長月庵「浄和良」入
隆恕(りゅうじょ;字) → *日遅*(にっせん;法諱・智見院、日蓮僧) Ｅ３３７４
隆恕(りゅうじょ・岩城) → *隆恕*(たかのり/たかひろ・岩城いわき、藩主/歌)Ｄ２６４６
隆叙(りゅうじょ・四条) → *隆叙*(たかのぶ・四条/正親町、廷臣/日記)Ｍ２６６８
E4963 **隆昭**(りゅうしょう;法諱、越後法橋俊暹男)?-? 鎌倉期真言仁和寺僧:八幡法師仁隆門、権律師、
歌人;順徳天皇内裏歌壇参加、1218-19「道助法親王家五十首和歌」参加、「詠十首和歌」参加、
夫木抄入、続古今集(1062;不逢恋の心)、
[死ぬばかり思ひけりとも逢ふことに身をかへてこそ人に知られめ](続古;恋1062)
E4964 **隆聖**(りゅうしょう;法諱、西行男か?)?-? 1206存 鎌倉期1192-1206頃高野山真言僧/権律師/僧都、
歌人、新古今700(;残りの人生の短さの感慨)、
[朝ごとの閼伽井あかゐの水に年くれてわが世のほどの汲まれぬるかな](新古;冬700)
E4965 **隆承**(りゅうしょう・藤原南家、聖覚しょうがく[1167-1235]男)?-? 天台僧法印/安居院あぐい流の唱導家、
流祖澄憲ちょうけんの孫、安居院流は息子憲実けんじつ・孫憲基けんきへと継承される
E4966 **隆勝**(りゅうしょう;法諱、権大納言四条[藤原]隆行男)1264-1314*51* 真言僧;報恩院憲淳門;出家、
修行、1297憲淳より具支灌頂を受く;その秘密宝蔵悉く付嘱される、醍醐報恩院7世継承、
権僧正、憲淳没後その聖教の後宇多法皇よりの借覧要請に応ぜず;法皇の逆鱗:鎌倉下向、
伊豆の走湯山般若院別当/1313東寺三長者に補せられるが辞退、
「奥秘抄」「醍醐寺代大付法事」著、歌人;続門葉集入、風雅集(1610)、
[さゆる夜の入うみかけてとも千鳥月にとわたる天の橋立](風雅;雑1610)、
[隆勝(;法諱)の通称] 釈迦院僧正/水本宰相
E4967 **竜菖**(りゅうしょう;法諱・石霜せきそう;道号、俗姓;梅小路)1678-1728*51* 臨済僧:聖一派、
雲巌竜楚門;法嗣、江戸大慈寺4世/京の東福寺254世、
1716(享保元)対馬以酊庵に日韓書契を司る、
「石霜和尚語録」「石霜所集疏藁」「石霜竜菖和尚秉払法語」著/「本邦朝鮮往復書」編、
[石霜竜菖の通称] 梅州/宜黙
L4931 **隆性**(りゅうしょう;法諱/or隆仁)?-1818 江後期真宗本願寺派僧;居敬門、
江戸築地本願寺派安養寺8世、詩文に長ず、「巻荷派遺香」著
E4968 **柳昌**(りゅうしょう・朝岡あさおか、正章の長男)1823-89*67* 尾張藩士/儒者:一門/細野要斎門、
子弟教育/俳諧を嗜む、古銭を愛好、「岐蘇路日記」「江戸邸日記」著、
[柳昌(;号)の名/通称/別号]名;正博まさひろ(;初名)/正毓まさたつ、
通称;久米一郎(;初通称)/久斎(;隠居後)、別号;寂然堂じゃくねんどう、法号;本覚院
柳梢(りゅうしょう・高山) → *麋塒*(びじ・高山、藩家老/俳人) Ｃ３７３３
隆昌(りゅうしょう)すべて → *隆昌*(たかまさ)
隆章(りゅうしょう・横山) → *隆章*(たかあきら・横山、藩家老/記録) Ｌ２６５２
隆勝(りゅうしょう・建部) → *隆勝*(たかかつ・建部たけべ、香道家) Ｌ２６７６
隆章(りゅうしょう・藤原) → *隆章*(たかあき・藤原ふじわら、絵師) Ｃ２６４６
隆韶(りゅうしょう・岩城) → *隆韶*(たかつぐ・岩城いわき、藩主/学問/歌)Ｖ２６７２

竜章(りゅうしょう・野呂)　→　*深処*(しんしょ・野呂のろ、藩儒)　　Ｏ２２８１
竜生(2世りゅうしょう・司馬)→*竜馬*(りう馬りょうま・土橋亭どばしてい、落語/講談)Ｊ４９４６
竜生(3世りゅうしょう・司馬)→　*扇好*(せんこう・土橋亭どきょうてい、落語家)　Ｍ２４２６
竜嘯(竜昇/竜昌りゅうしょう・島本)→　*誠*(まこと・島本、医者/蘭学)　４０７９
劉韶(りゅうしょう・町口)　→　*是村*(これむら・町口/坂上、廷臣/明法家)Ｏ１９９０

E4969 **柳条**(りゅうじょう・織田おだ)　？－　？　　江中期江戸の俳人:柳居(麦阿)門、
1735(享保20)柳居「一筆鴉」編参加、
[柳条(;号)の通称/別号]通称;長次郎、別号;雪外楼

E4970 **柳条**(りゅうじょう・江見えみ、名;秀就)1729-87*59*　美作英田郡作東町鯰の俳人:五始門、
1781(天明元)立机/五始の自省堂の号を継承、1781「開構篇」82「三朝唸」著、
「奥の枝折」編(;没後1803刊)、三回忌追善集「土まんぢう」(息子亀猷編)、
[柳条(;号)の通称/別号]通称;十郎右衛門、別号;玉照庵/自省堂

E4971 **竜乗**(りゅうじょう;法諱・一雲;字、医者野上隆仙男)1774-1844*71*　備中都羅郡島江長村の真言僧:
備中法輪寺竜弁門;出家/宝島寺真染門;伝法灌頂を受、河内高貴寺で律典密学を研究、
享和1801-04頃洛西阿弥陀寺の輪番職、のち辞して求法に勉める、洛西三宮寺に隠棲、
「真正出家弁」「表無表章玄談」著

柳条(りゅうじょう・松宮)　→　*俊英*(としひで・松宮、兵学/儒)　　Ｎ３１４９
隆定(りゅうじょう;法諱)　→　*増隆*(ぞうりゅう;法諱・智瑞、真言僧/神道)Ｊ２５１６
竜照院(りゅうしょういん;号)→　*準海*(じゅんかい;法諱、融通念仏僧)　　Ｍ２１６１
隆升軒(りゅうしょうけん)　→　*信階*(のぶしな・伊沢いざわ、蘭軒父/医者)　Ｂ３５６２
流上斎(りゅうじょうさい)　→　*百二*(ひゃくじ・山下、酒造業/俳人)　　Ｅ３７５３
流上斎(りゅうじょうさい)　→　*百慈*(ひゃくじ・山下、百二男/俳人)　　Ｅ３７５４
竜城院(りゅうじょういん)　→　*僧亮*(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧)Ｊ２５１９
竜城主人(りゅうじょうしゅじん)→　*忠民*(ただもと・本多、藩主/老中/日記)Ｒ２６０１
柳条亭(初世りゅうじょうてい・小道)→　*小道*(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌)Ｆ１９８８

E4972 **柳条亭**(2世りゅうじょうてい・満丸まんまる、姓;馬場ばば)?-?1861-4没　京朱雀千本の狂歌作者:
柳条亭小道こみちを継承、「狂歌桂の於母影」著、
[柳条亭満丸の別号]　杯月舎(初号)、屋号;丹波屋

E4973 **竜章堂**(りゅうしょうどう・西川にしかわ)?-?　　江後期京の書家/六角富小路西に住、
1772「女用文章糸車」1821「商家通用自在文章」27「日本往来」書/28「商人書翰便覧」著、
1829「百姓往来」31「大成用文章」34「女風月往来」37「年中用文章」書、「文章大全」書、
「商家往来」「諸職往来」「新幼学往来」「文章往来」「日本用文章」書、外書・著多数、
[竜章堂(;号)の名/通称/別号]名;源祐げんすけ、通称;正造/正蔵、別号;美暢/閑斎

隆職(りゅうしょく・藤原)　→　*隆職*(たかより/たかもと・藤原、廷臣/詩人)　Ｎ２６８０
留女之女郎(りうぢよのいらつめ)→　*家持妹*(やかもちのいろと・大伴宿禰、歌人)４５４１
留次郎(りゅうじろう・成田屋)→*留次郎*(留治郎とめじろう・成田屋/成田、朝顔屋)Ｐ３１０１

E4975 **立心**(りゅうしん・小出こいで)　？－　？　　尾張熱田の俳人、1671友次「誹諧藪香物」入、
1689「続阿波手帳」入、1696「袖みやげ」、1710「老木の花」著、
[立心(;号)の別号]　遠中軒/遠木軒

L4982 **龍信**(りゅうしん・木本きもと)　？－　？　　江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[せいらすじやがたら晒さらす細布](物種集/前句;橘の小嶋が崎を渡り者、
宇治川宇治橋下流の洲崎;佐々木高綱が渡った所、せいらすじゃがたら;舶来の縞織物、
せいらすは茜・白の二色で縦横の縞模様/じゃがたらは紺・浅黄の二色縞、
類似品を京で産す;宇治川で晒す)

隆親(りゅうしん・藤原)　→　*隆親*(たかちか・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｃ２６９８
隆親(りゅうしん・四条)　→　*隆親*(たかちか・四条しじょう、廷臣/歌人)　Ｃ２６９９
隆真(りゅうしん・油小路)　→　*隆眞*(たかざね・油小路あぶらのこうじ/藤原、権大納言)Ｖ２６２４
隆信(りゅうしん・藤原)　→　*隆信*(たかのぶ・藤原、廷臣/絵師/歌人)　２６１４
隆信(りゅうしん・蘆村)　→　*隆信*(たかのぶ・蘆村あしむら、国学/歌人)　Ｖ２６２１
立信(隆信りゅうしん;法諱)→　*円空*(えんくう;字・立信、浄土僧/歌人)　１３９３

留神舎(りゅうしんしゃ)　→　*義親*(よしちか・山田やまだ、医者)　Ｅ４７５３
竜心亭(りゅうしんてい)　→　*海旭*(初世かいぎょく、和田、俳人)　Ｉ１５０３
L4972 流水(りゅうすい・田中たなか) ? - ?　江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」頭巾脇/流水脇/苔発句等入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[大晦日ただ何となく宮寺は](難波色紙;19/宮寺は神宮寺)
E4976 流水(りゅうすい) ? - ?　江前期江戸の俳人;1686仙化「蛙合」入
[藻がくれに浮世を覗く蛙哉](蛙合;22)
E4977 流水(りゅうすい・吉田よしだ、友次男)?-?　尾張名古屋の俳人;梅盛門、
1688「包井」、「都百歌」著
E4978 流水(りゅうすい・那須なす) ? - ?　江前期京の西洞院丸田町上ルの俳人;
1690順水「誹諧破暁集」/90言水「新撰都曲」4句入、
[暮れゆくや歯朶しだは昔の山桜](都曲;上105/夕暮山陰の裏白は山桜のよう)
E4979 柳水(りゅうすい・中路なかみち)? - ?　江前期京の神楽岡の俳人;貞木門、
1691鋤立「六歌仙」入、1691句集「大元式だいげんしき」、「富士綿」編、宝永年間「職人尽句合」入
L4914 柳水(りゅうすい) ? - ?　上州松井田の俳人、1691不角「二葉之松」1句入、
[剃る髪は世の馬　珠数じゅずは法の綱](二葉之松;176釈教、世の馬は世人の竜馬心猿=煩悩、
前句;心任せに独り行く道、
出家し煩悩を捨て数珠で心を制御して独りで歩いて行く)
E4980 柳水(りゅうすい) ? - ?　江前中期京の俳人;風水門、1702轍士「花見車」入、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[春立つや女房が尻もあたたまり](花見車)、那須流水と同一説あり
K4990 流水(りゅうすい) ? - ?　安藝海田の蕉門系俳人;1699支考「西華集」入、
1705支考「三日歌仙」06支考「東山万句」入/涼兎「潮とろみ」入
L4925 柳水(りゅうすい) ? - ?　岩代会津の俳人;1704不角「瀬取船せどりぶね」入
L4927 流水(りゅうすい) ? - ?　京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入、
[雨の日やあくびのうつる桜花](俳諧草結;227/花見が出来ず退屈;隣人に欠伸が移る)
L4966 りう水(りゅうすい;組連) ? - ?　江戸牛込の雑俳の組連、
取次;1766「露玉評万句合」入;
取次例;[千早ちはや勢鼻をつまんでざぶりかけ](前句;迷惑な事々々)
(楠木正成の命令に雑兵の歎き/城壁から熱湯かけ[太平記」/糞尿にしたのは講釈師)、
E4981 柳水(りう水りゅうすい) ? - ?　江中期麻布永坂町の雑俳点者;柳水連を主催、
取次;1770-85「川柳評万句合」入、83-86柳水連の月次例会句集「柳筥やないばこ」(初-四篇)刊、
1788「老の柳」編、
[かんざしを借てかゆくもないにかき](柳筥;初篇)、
E4982 瀧水(りゅうすい・坂上さかのうえ)?-?　戯作者;信陽大飯喫しなののおおめしぐらい門、
1780洒落本;信陽大飯喫「娼註銚子戯語しょうちゆうちょうしけご」(同門伊丹七梅と校合)
E4983 流水(りゅうすい・前田まえだ、別号;少々館)?-?　江戸後期俳人、1793「俳諧扶桑車」著
E4984 流水(りゅうすい・犬塚いぬづか)? - ?　紀伊和歌山の国学者:本居大平門、
「和歌山風俗記」編;弘賢「諸国風俗問状答」入
E4985 流水(りゅうすい・岡本おかもと)? - ?　狂歌・如瓶[永井走帆]門、
1737李郷「狂歌たねふくべ」入
E4986 柳水(りゅうすい・為永ためなが)? - ?　人情本作者、
1838為永春水「於元亀松於富茂平祝井風呂時雨傘いわいぶろしぐれのからかさ」初編補、
春水「黄金菊こがねぎく」三編校合
E4987 流翠(りゅうすい・時田ときた、名;光稲)1836-77*42*　尾張名古屋大船町の商家、俳人;士前門、
のち呂川・月底門、画;森高雅・土佐光文門;土佐派の画を嗜む、1862「活動集」編、
1866「とりおとし」編、
[流翠(;号)の字/通称/別号]字;寛卿、通称;鉞えつ太郎/金右衛門/秋介、別号;松蔭斎
竜水(りゅうすい・吉川よしかわ)→　*崇広*(たかひろ・吉川、医/俳人)　Ｎ２６０６
竜水(りゅうすい・勝間)　→　*龍水*(りょうすい・勝間、絵師・絵俳書)　Ｉ４９３０

竜水(りゅうすい;道号)　→　*如得*(にょとく;法諱・竜水、曹洞僧)　Ｇ３３０８
竜水(りゅうすい・吉川)　→　*崇広*(たかひろ・吉川よしかわ、医者/俳人)　Ｎ２６０６
竜水(りゅうすい・池上)　→*邦孝*(邦考くにたか・池上いけがみ、商家/国学)Ｅ１７００
柳水(流水りゅうすい・狂名)→ *静山*(せいざん・松浦、藩主/詩歌)　Ｂ２４７６
柳水(りゅうすい・宮崎)　→　*雲台*(うんだい・宮崎みやざき、医者/儒者)　Ｄ１２９２
流水(りゅうすい・松浦)　→　*静山*(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌)Ｂ２４７６
流水(りゅうすい・早野)　→　*橘隧*(きっすい・早野はやの、儒者/講説/詩)Ｉ１６６５
流水(りゅうすい・堀)　→　*流水軒*(りゅうすいけん・堀ほり、手習師匠)　Ｅ４９８８
柳水庵(りゅうすいあん)　→　*仙路*(せんろ・伴、藩士/俳人)　Ｎ２４３９
柳水園(りゅうすいえん)　→　*梅臣*(ばいしん・亀山、俳人)　Ｂ３６６１
流水園(りゅうすいえん)　→　*仲舒*(なかのぶ・田沢、医者/歌人)　Ｆ３２１３
流水居(りゅうすいきょ)　→　*二洲*(じしゅう・尾藤びとう、商家/儒者/詩)２１２１
E4988 **流水軒**(りゅうすいけん・堀ほり)？－　？　京の手習の師匠、16938元禄6)「商売往来」著、1714「寺子往来」「寺子教訓往来」、「正徳御条目」「増続商売往来」「女要都色紙」外著多数、［流水軒(;号)別号］流水/観中
柳翠軒(りゅうすいけん)　→　*光信*(みつのぶ・長谷川、絵師/絵本)　Ｅ４１３７
流水斎(りゅうすいさい)　→　*二洲*(じしゅう・尾藤孝肇たかもと、儒者)　２１２１
柳水亭種清(りゅうすいていたねきよ)→*種清*(たねきよ・柳水亭、時宗僧/戯作者)Ｇ２６３６
柳水亭種清(りゅうすいていたねきよ)→*種清*(たねきよ・柳水亭・桜沢堂山、合巻作者)Ｇ２６３６
竜水(りゅうすい;道号)　→　*如得*(にょとく;法諱・竜水;道号、曹洞僧)Ｇ３３０８
竜助(りゅうすけ・石川)　→　*侃斎*(かんさい・石川いしかわ、絵師)　Ｄ１５６７
竜助(りゅうすけ・大滝)　→　*光賢*(みつかた・大滝おおたき、商家/国学)　Ｉ４１３７
竜助(りゅうすけ・平山)　→　*季雄*(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/絵師)Ｊ２３０６
柳助(柳輔りゅうすけ・並木)→*柳*(やなぎ・近松/並木/錺屋久兵衛、歌舞伎・浄瑠璃作者)Ｄ４５８９
柳助(りゅうすけ・渡辺)　→　*条*(たりえ・渡辺わたなべ、藩士/儒/国学)　２７４８
柳輔(りゅうすけ・巻)　→　*鷗洲*(おうしゅう・巻まき、書家/歌人)　Ｃ１４４８
柳介(立介りゅうすけ・福井/福)→　*楓亭*(ふうてい・福井/福、医者)　３８９５
隆介(りゅうすけ・沢辺)　→　*北溟*(ほくめい・沢辺さわべ、藩士/儒者)　Ｄ３９９５
隆介(りゅうすけ・吉村)　→　*秋陽*(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人)Ｅ２１１２
竜甫(りゅうすけ・田中)　→　*蘭斎*(らんさい・田中たなか、藩士/書家)　Ｃ４８１５
龍助(りゅうすけ・羽田)　→　*利見*(としみ・羽田はねだ/藤原、幕臣/歌)　Ｔ３１３３
劉助(りゅうすけ・金子)　→　*鶴村*(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒)　Ｈ１５３３
E4989 **立静**(りゅうせい)　？－　？　俳人;1667-70頃重徳「続独吟集」独吟百韻入
隆清(りゅうせい・九条)　→　*隆清*(たかきよ・九条くじょう、廷臣/歌人)　Ｃ２６６７
隆清(りゅうせい・香西)　→　*隆清*(たかきよ・香西こうざい/かさい、藩家老/僧)Ｌ２６７８
隆正(りゅうせい・今井/大国/野之口)→*隆正*(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌)２６１７
隆聖(りゅうせい;法諱)　→　*隆聖*(りゅうしょう;法諱、真言僧)　Ｅ４９６４
隆盛(りゅうせい)　すべて　→　*隆盛*(たかもり)
笠栖(りゅうせい:号)　→　*素行*(そこう:号、俳人)　Ｊ２５７１
流西(りゅうせい・阿部)　→　*重道*(しげみち・阿部あべ、藩士/和算家)　Ｓ２１８１
竜誠(りゅうせい・蜂須賀)　→　*吉武*(よしたけ・蜂須賀はちすか/源、歌人)　Ｅ４７１６
龍惺(りゅうせい・仲健)　→　*禅慶*(ぜんけい・一笑、臨済僧)　Ｆ２４２５
竜惺(りゅうせい;法諱)　→　*瑞巌*(ずいがん;道号・竜惺;法諱、臨済僧)Ｅ２３２８
柳井隣(りゅうせいりん)　→　*治助*(初世じすけ・桜田、歌舞伎作者)　２１２３
L4901 **霤石**(りゅうせき)　？－　？　安藝広島の蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、1706凉兎「潮とろみ」/支考「東山万句」入
E4991 **竜石**(りゅうせき:号・兼円;法諱、既白男?)?-?　加賀能美郡寺井の僧;小松建聖寺住僧、諸国行脚;1774-5(安永3-4)頃伊勢朝熊山麓の西行庵に居住(6年間)/伊勢楠部に移住/内宮に関係?、1792帰郷;再び伊勢に向かう、俳人:1777「藁とぢ」編:伊勢/92「ふるさと集」編;帰郷、「藜庵歳旦」編、1776樗良「月の夜」入、

[手遅れの稲に雪降る山田哉](月の夜;98)
流石庵(りゅうせきあん)　→　*羽積*(はづみ・河村/川村、俳人/歌謡)　Ｅ３６６８
L4915 **笠雪**(りゅうせつ)　？－　？　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入、
[酒に浸ひたし花にさらせる我われが世話](二葉之松;253/春の日常)
E4992 **竜雪**(りゅうせつ・柳田やなぎだ、鉄之助男)1833-82*50* 父は薩摩鹿児島藩士で刀具彫刻師、彫刻;父門、
鹿児島藩の銅版彫刻師、書画;江戸の狩野勝川門、帰藩後1861(文久元)奥絵師、
1871東京で西洋画法を修得;印刷局石版科長に就任、「山川港海岸形勢図写図」画
竜雪(りゅうせつ・平山)　→　*季雄*(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/絵師)Ｊ２３０６
E4993 **隆専**(りゅうせん;法諱、藤原家隆男?)?-? 1265存 天台宗園城寺の僧;法師、
歌人:現存和歌六帖・秋風抄・秋風集・拾遺風体集入集、続古今(759)、
[さとりゆく心のうちにすむ月は出でて入るべき山の端もなし](続古;釈教759)
尊卑分脈では家隆男は隆尊、隆尊と同一?
E4994 **隆洊**(りゅうせん/りゅうそん)　？－　？　室町期醍醐寺僧正/歌、「隆洊百首」著、
[行く年の跡も残らぬ雪のうちに同じ道とや春のきぬらむ](隆洊百首;巻頭歌)
E4995 **柳川**(りゅうせん)　？－　？　加賀松任の俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、
[花や雲橋よりわかる道の数](卯辰集;一113、
雲のごとき峰の桜に麓の橋からいくつもの道)
姉も俳人　→　*柳川姉*(りゅうせんのあね)　Ｆ４９０２
L4916 **柳専**(りゅうせん)　？－　？　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
[君に逢ふ時は聾に成り替はる](二葉之松;209/逢引では別れを促す音は聞こえない)
L4917 **柳線**(りゅうせん)　？－　？　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」5句入、
[いらはねば蠅にひとしき蜂の形なり](二葉之松;123)
E4996 **柳線**(りゅうせん)　？－　？　京雑俳;1696円水「住吉おどり」入
江戸俳人柳線と同一?　→　*柳線*(りゅうせん、二葉之松俳人)Ｌ４９１７
E4997 **竜仙**(りゅうせん・田舎斎でんしゃさい)?- ?　1826講談調実録「依田捌よださばき五人男」編
竜川(りゅうせん・清田せいた/きよた、江村)→　*公績*(こうせき・清田、儒/詩)　Ｆ１９２２
竜川(りゅうせん・藤田)　→　*嘉言*(よしとき・藤田ふじた、藩士/和算家)　Ｅ４７８７
竜川(りゅうせん・寺部)　→　*屯麿*(たむろまろ・寺部てらべ、書/手習師匠)Ｙ２６３４
竜川(りゅうせん・由良)　→　*時諶*(ときざね・由良ゆら、藩士/暦算家)　Ｊ３１１６
竜川(りゅうせん・今村)　→　*信行*(のぶゆき・今村いまむら、国学/司法官)Ｈ３５４５
竜川(りゅうせん・寺部)　→　*屯麿*(たむろまろ・寺部てらべ、書/手習師匠)Ｙ２６３４
竜泉(りゅうせん・令淬)　→　*竜泉*(りょうせん;道号・令淬、臨済僧)　Ｉ４９６２
竜泉(りゅうせん・今田)　→　*頼武*(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政)　Ｉ４７９４
竜泉(りゅうせん・重野)　→　*成斎*(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学)Ｂ２４６５
竜泉(りゅうせん・篠野)　→　*一方*(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩)Ｈ１１９２
竜扇(りゅうせん・豊玉;歌伎作)→*歌右衛門*(3世かうたえもん・中村/金沢竜玉:作者名)　１２６４
立詮(りゅうせん)　→　*立詮*(りっせん;法諱・泉秀/真言僧/詩歌)Ｃ４９０９
柳川(りゅうせん・榎本)　→　*武揚*(たけあき・榎本、幕臣/海軍)　Ｏ２６２３
柳川(りゅうせん・勝俣)　→　*秀安*(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学)　Ｊ３７０７
柳泉(りゅうせん・恩田)　→　*貫実*(つらざね・恩田おんだ、藩家老/国学)　Ｆ２９５２
隆仙(りゅうせん・吉原)　→　*元棟*(げんとう・吉原よしわら、拳法/整骨医)Ｌ１８８２
隆仙(りゅうせん・岡本)　→　*秋暉*(しゅうき・岡本おかもと、絵師)　Ｈ２１０４
流宣(りゅうせん)　→　*流宣*(とものぶ・石川、画/俳/浮世草子)　Ｑ３１１９
E4998 **隆禅**(りゅうぜん;法諱、藤原政兼男)1038-1100*63* 母;源済政女、興福寺別当、法印/権大僧都、
大乗院本願
E4999 **隆禅**(りゅうぜん;法諱) 1260 －　？　天台宗叡山竹林院の住僧、権律師/僧正、
「窮源尽性抄」「住心品義釈七帖抄」「菩提心論記」著
隆前(りゅうぜん・油小路/藤原)→　*隆前*(たかちか・油小路あぶらのこうじ、廷臣/歌)Ｍ２６２４
隆善(りゅうぜん・長滝)　→　*隆善*(たかよし・長滝ながたき、商家/国学者)Ｙ２６７２
隆善(りゅうぜん・菊池)　→　*隆善*(たかよし・菊池きくち、神職/歌人)　Ｗ２６７３

立禅(りゅうぜん;号)　→　*卓中*(たくちゅう:法諱・立禅、浄土僧)　Ｏ２６１２
竜仙院(りゅうせんいん)　→　*汶庵*(文菴ぶんあん・小川、幕府医者)　Ｅ３８７６
竜髯館(りゅうぜんかん)　→　*宗賢*(そうけん・服部はっとり、医師)　Ｈ２５０６
柳前斎(りゅうぜんさい)　→　*蒼狐*(そうこ・小菅、俳人)　Ｂ２５３１
F4900 **柳川亭**(りゅうせんてい;姓名不詳)?- ?　巷談筆記;1803「享和雑記」編
竜泉亭(りゅうせんてい)　→　*正直*(まさなお・吉田/正村、神道家)　Ｆ４００２
F4901 **柳泉亭種正**(りゅうせんていたねまさ)?-　?　戯作者;柳亭種彦門、人情本/合巻作者、
1827(文政10)「春駒駅談初編」/30「紅白菊蝶の曲舞」著
竜髯館(りゅうぜんかん)　→　*宗賢*(そうけん・服部はっとり、医者/藩政)　Ｈ２５０６
流泉堂賜渓(りゅうせんどうしけい)→*保村*(やすむら・狩野かのう、神職/国学者)Ｆ４５７１
F4902 **柳川姉**(りゅうせんのあね)　? -　?　加賀松任の俳;1691北枝「卯辰集」1句入、
[起きもせず寝いもせぬ雨の薄すすきかな](卯辰集;374、秋の雨に濡れた穂すすき、
古今集業平;起きもせず寝もせで夜をあかしては春のものとて眺め暮らしつ;を踏む)
F4903 **柳荘**(りゅうそう・今井いまい、名;成章、代官今井磯右衛門男)1751-1811*61* 信濃善光寺代官;
1780家督嗣、35年間善光寺代官を勤める、俳諧;蓼太門/歌;慈延門,
詩文;冢田大峯・皆川淇園門、画・茶にも通ず、一茶と交流、几董舎中、
1794「水薦苅みすずかり」編、1798「百物語」著、1799「今ものがたり」著、
「俳諧かたつぶり集」「旅日記」「むめ柳」「冬扇」「雀芝二編」著、
磯右衛門錦江の父、
[柳荘(;号)の字/通称/別号]字;叔達、通称;磯右衛門、別号;市中庵/古松亭/鷗翁
F4904 **榴荘**(りゅうそう・井口いぐち、名;重直、機山の長男)1822-1903*82* 越後南魚沼郡塩沢町の大庄屋の家、
幼時に父死別/句読;1832(11歳)郷里の僧祖海門/1839(18歳)父を継嗣;大庄屋役、
漢学詩人:郷里の子弟に教授、維新後;1875権少講に任命/79塩沢戸長に就任、
「青霞村舎詩鈔」著、
[榴荘(;号)の字/通称/別号]字;士温、通称;祖之太郎/弥右衛門、
別号;樹庵/霞村楓館/石猊せきげい、法号;貫誉院
竜崇(りゅうそう;法諱)　→　*常庵*(じょうあん;道号・竜崇;法諱、臨済僧/詩文)Ｇ２２６６
竜艸(りゅうそう・渡辺)　→　*規綱*(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸)　Ｆ３５０９
竜湊(りゅうそう・幡野)　→　*忠孚*(ただざね・幡野はたの、藩士/国学者)　Ｐ２６５２
柳荘(りゅうそう・山県)　→　*大弐*(だいに・山県、儒医/尊王家)　Ｃ２６０３
柳窓(りゅうそう・陸)　→　*可彦*(よしひこ・陸くが、医者)　Ｇ４７２３
柳窓(りゅうそう・押上)　→　*直泰*(なおやす・押上おしあげ、国学者)　Ｌ３２５４
笠窓(りゅうそう・鈴木)　→　*呉雪*(ごせつ・鈴木すずき、俳人)　Ｍ１９９１
2789　**隆宗**(たかむね・藤原のふじわら、

隆宗(りゅうそう・佐野)　→　*隆宗*(たかむね・佐野さの、歌人)　２７６３
F4905 **隆増**(りゅうぞう;法諱・戒光;字、俗姓;木寺)?-?　室町期美濃十八条の真言僧;
京の東寺の隆源門;伝法灌頂を受/最上乗心印を得る、醍醐寺戒光坊に住、法印、
「勝地私記」「諸流血脈」「醍醐無量寿院法流相承」「祖師御忌日」著
F4906 **竜蔵**(りゅうぞう・高橋たかはし)1771-1827*57*　讃岐小豆郡の儒者・高松の菊池高洲門、
数年後帰郷;のち三都に遊学、「白鶴楼詩集」著、
[竜蔵(;通称)の名/字/号]名;篤、字;子敬、号;中谷ちゅうこく
竜蔵(りゅうぞう・田中)　→　*謙斎*(けんさい・田中たなか、藩儒者)　Ｅ１８９８
竜蔵(りゅうぞう・本田)　→　*東陵*(とうりょう・本田、儒者/詩文)　Ｉ３１２９
竜蔵(りゅうぞう・日下)　→　*世傑*(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩)　Ｂ２４１７
竜三(りゅうぞう・木内)　→　*竜山*(りゅうざん・木内/小橋、儒者/尊王)Ｅ４９２５
柳三(りゅうぞう・矢田)　→　*葛原勾当*(くずはらこうどう、琴の名手)　Ｃ１７４４
柳三(りゅうぞう・村上)　→　*義曜*(よしあき・村上むらかみ、名主/歌人)　Ｐ４７５２
隆蔵(りゅうぞう・賀茂)　→　*経春*(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学)　Ｄ２９２９

隆蔵(りゅうぞう・服部/中村)→　*世潭*(せいたん・中村/服部、藩儒)　Ｃ２４５７
隆蔵(りゅうぞう・吉村)　→　*斐山*(ひざん・吉村よしむら/中村、儒者)　Ｃ３７２４
隆蔵(りゅうぞう・竹内)　→　*重意*(しげおき・竹内、郷土史家/詩歌)　Ｑ２１７２
隆蔵(りゅうぞう・井上)　→　*瑞枝*(みずえ・井上いのうえ、藩士/国学)　Ｌ４１１４
隆蔵(りゅうぞう・杉原)　→　*光基*(みつもと・杉原すぎはら/村井、国学者)Ｊ４１３４
柳蔵(鯉鮒蔵りゅうぞう・田井)→　*元陳*((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士)　Ｄ４４７４
柳操庵(りゅうそうあん)　→　*幸盈*(ゆきみつ・浦野うらの、和算家/狂歌)　Ｆ４６７６
良則(りょうそく・大郷)　→　*信斎*(しんさい・大郷おおごう、藩士/儒者)　Ｅ２２１８
流俗亭珍重(りゅうぞくてい)→　*夢羅久*(むらく:初世・朝寝房、落語家)　Ｄ４２１２

F4907 **隆尊**(りゅうそん;法諱・仰高院;法号、鷹司房輔男)1689-1764*76* 法相僧;興福寺大乗院門主、大僧正、法印、再度興福寺別当、「仰高院殿御在京日次記」著
柳村(りゅうそん・奈須)　→　*恒徳*(つねのり・奈須、幕府医者)　Ｄ２９１８
柳村(りゅうそん・西田)　→　*直養*(なおかい・西田にしだ、国学/歌人)　３２８１
柳村(りゅうそん・若林)　→　*靖亭*(せいてい・若林友輔、藩士/詩人)　Ｊ２４２６
柳村(りゅうそん・葛井)　→　*文哉*(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌)　Ｆ３８２９
隆洊(りゅうそん)　→　*隆洊*(りゅうせん、僧/歌人)　Ｅ４９９４
隆存房長盛(りゅうそんぼうちょうせい)→*寂然*(じゃくねん;法諱・円白;字、真言僧)Ｗ２１１５

F4909 **竜太**(りゅうた/りょうた・志筑しづき/しつき)1802-68*67*　長崎通事/46大通詞;外国船艦渡来時に活躍・「和解書」著、辰一郎・竜三郎の父

F4910 **柳圮**(隆太りゅうた・八代やしろ)1814-1904長寿*91*　羽後横手の儒;湯口竜淵門/横手郷校教授見習、尊攘論者、「八代柳圮日記」「北征紀行」著、二階堂謙山の弟、
[柳圮(;号)の名/字/通称/別号]名;元通、字;武元/公長、通称;隆太、別号;閑々桑者
柳圮(りゅうた・大窪)　→　*詩仏*(しぶつ・大窪おおくぼ、儒者/詩人)　２１３２

F4911 **柳泰**(りゅうたい・畑はた、上林尚兵衛政郷男)1771-1832*62* 山城宇治儒者;幼少より読書;江戸に遊学、帰郷後1792(寛政4)医者畑柳安の養子;医学の研究・教育に従事、1803法橋/27法眼
詩人、「峨眉草堂集」「心医方考」「素問槎識」「古詩叢」著、1823「六如菴詩鈔遺編」校・序、
[柳泰(;通称)の名/字/号]名;維禎/元禎/徴、字;世吉/緑猗りょくい、号;橘洲/橘州
隆泰(りゅうたい・源)　→　*隆泰*(たかやす・源みなもと、廷臣/歌人)　Ｄ２６９３
竜泰(りゅうたい・武)　→　*仙慶*(せんきょう;法諱・武たけ、真宗僧)　Ｏ２４２７
竜廼門(りゅうだいもん)　→　*檜園梅明*(かいえんうめあき、狂歌)　Ｉ１５４２
柳雫園(りゅうだえん)　→　*嵐歩*(らんぽ・柳雫園、俳人)　Ｄ４８１７

4909 **龍澤**(りゅうたく:法諱・天隠てんいん:道号、初道号;天岩)1422-1500*79* 播磨揖西郡栗栖村千本の生、1428上京/31(10歳)臨済宗建仁寺の大昌院で修学/28薙髪/75十刹真如寺住寺、
天柱竜済の嗣法/1482建仁寺218世;87南禅寺公帖を取得、三条西実隆と親交、詩に秀づ、
「翠竹真如集[天隠語録]」「天隠和尚疏稿」「黙雲稿」「黙雲文集」「黙雲詩藁」「点鉄集」、
1456「錦繍段」編/「錦繍段考」、「錦繍段鈔」編/「天隠和尚闍維法語」「古文鈔」「聯句鈔」、
[天隠龍沢の号]　黙雲/栗里

F4912 **立澤**(りゅうたく・藁科わらしな)? - 1773斬首　羽前米沢藩医/文学に通ず:
重臣7人の嗷訴(七家騒動)の教唆人として捕縛;1773(安永2)斬首、
1768「楽律瑣語」70「米沢四時歌」著、立遠りゅうえんの養父、
[立沢(;号)の名/通称/別号]名;時雍、通称;玄泉/源時雍、別号;東皐

F4913 **笠澤**(りゅうたく・岩井いわい/本姓;源)?-?　江中期儒者;荻生徂徠門?、「可成三註」著、
[笠沢(;号)の名/字/通称]名;清則、字;子養、通称;金弥/安金吾

F4914 **龍澤**(りゅうたく・松本まつもと)1760-1834*75*　江戸の書家・1832(天保3)「小学題辞」書、
[龍沢(;号)の名/字/通称]名;就章、字;知道、通称;主税ちから

M4930 **龍澤**(りゅうたく・本山もとやま、名;**茂任**しげとう、茂養[伊平]男)1826-87*62* 母;五藤正静女、土佐高知藩士、馬廻格、板垣退助の親族、勤皇派、1834父没;家督嗣/国学者;鹿持雅澄門/砲術;田所寧親門、
坂本龍馬や中岡慎太郎を庇護、1853藩主山内豊信の側小姓/56幡多奉行/59安芸郡奉行、
1861藩主山内豊範の御側物頭役/参政吉田東洋が暗殺された後;豊範に随い上洛、
三条実美らの江戸下向を斡旋/1866大目付/68鳥羽伏見戦に東征の藩兵[迅衝隊]編成、

茂任は土佐藩への錦旗伝達者;神戸占領中のフランス兵に錦旗を櫃ごと奪われる;
中島信行・伊藤博文らの仲介で仏国公使に陳情し返還される、
維新後;松山県参事/白峯神社・春日大社・下鴨神社・大神神社の宮司、大講義、
[竜沢(;号)の初名/通称/別号]初名;茂樹、通称;只一郎、別号;白髪山樵/木一山人
笠沢(りゅうたく・多賀) → *磐鴻*(ばんこう・多賀、文筆家) Ｈ３６６１
笠沢(りゅうたく・千村) → *鵞湖*(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) Ｃ１５０１
龍沢院(りゅうたくいん:諡号)→ *利保*(としやす・前田、藩主/歌人/本草) Ｏ３１０１
竜沢院(りゅうたくいん;法号)→ *綱元*(つなもと・毛利/大江、藩主/歌人) Ｂ２９３８
龍沢公(りゅうたくこう) → *利保*(としやす・前田、藩主/歌人/本草) Ｏ３１０１
龍沢公(りゅうたくこう) → *正倚*(まさより・稲葉いなば、幕臣/歌人) Ｉ４０８１

4910 **隆達**(りゅうたつ;字・法諱;日長/印達、高三たかさぶ隆喜男)1527-1611*85* 和泉堺の薬種問屋の生、
日蓮宗顕本寺で出家/父が隠居後に建設した顕本寺内の高三坊[自在庵]を嗣;住職、
1590兄隆徳没し相続した甥の道徳の後見のため還俗;家業薬種問屋に復帰、
音曲家;小歌の名手;1599(慶長4)百章本「隆達小歌集」著;
隆達節と称される独特の曲調を生み出す;隆達節の祖、
堺流書道にも長ず、信長に小歌で召され秀吉に書で出仕、
[夢になりとも情はよいが 人のつらさは聞くもいや](隆達小歌集)
[隆達(;字)の号]号;自在院/已成院いせいいん/月楽院、法号;自在院隆達

F4915 **立達**(りゅうたつ・麻田あさだ、綾部妥胤男)1771-1827*57* 天文暦学:叔父麻田剛立門;剛立家を継嗣、
暦法に精通、剛立の門弟にも指導を受け天文器械の制作に従事、
「地動機答書」「海潮略考」著、
[立達(;字)の名/号]名;直、号;永年堂/俊翁、法号;俊翁立達居士
柳韡林千条(りゅうたりんせんじょう)→ *一葉*(いちよう・千菊園、狂歌作者) Ｇ１１５５
竜太郎(りゅうたろう・仙石)→ *政和*(まさかず・仙石/源、幕臣/和漢学) Ｂ４０７６
竜太郎(りゅうたろう・山口/佐藤)→*尚中*(たかなか・佐藤、藩士/蘭医) Ｍ２６５９
竜太郎(りゅうたろう・西郷/保科)→ *近悳*(ちかのり・保科ほしな/西郷、藩家老/神職)Ｂ２８６５
竜太郎(りゅうたろう・伊藤)→ *祐之*(すけゆき・伊藤いとう/広沢、剣道/歌)Ｌ２３３７
柳太郎(りゅうたろう・大窪)→ *詩仏*(しぶつ・大窪おおくぼ、儒者/詩人) ２１３２

F4916 **竜潭**(りゅうたん;法諱・別法諱;霊澄)?-? 江中期大和芝邑の広読寺の僧、
1768「融通円門章幽玄記」、「観所縁縁」「観所縁縁論講録」著

F4917 **竜潭**(りゅうたん・林はやし、名;信愛、鳳谷の長男)1744-71早世*28* 母;高木守興女、儒者;父門、
幕臣;1760中奥小姓次席、1762住五下/図書頭、父に先立ち没、「韓客唱和」著、鳳潭の父、
[竜潭(;号)の通称/諡号]通称;又四郎/内記、諡号;孝悼
竜潭(りゅうたん;号) → *祐可*(ゆうか;法諱・唯浄坊、真宗僧/歌)４６８７
竜潭(りゅうたん・川井) → *立斎*(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) Ｅ４９０１
竜団斎(りゅうだんさい) → *茂善*(しげよし・小西こにし、町役/歌人) Ｏ２１３８

F4918 **竜池**(りゅうち・猨山さやま、名;周暁/字;爽卿、叡麓男)?-1792 江戸書家、1776「都名所往来」書、
1779「猨山詩歌帖」82「猨山尺一集」83「猨山庭訓往来」、「猨山難波往来」「猨山かな文章」
[竜池の通称/別号] 通称;巫江/多宮/右膳、別号;太平山人/不言斎/不信斎
竜池(りゅうち・松永) → *良弼*(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)Ｄ４７７８
竜池(りゅうち・猨山) → *叡麓*(えいろく・猨山さやま、父子同号/書家)Ｄ１３４４
竜池(りゅうち・細木) → *仙塢*(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌) Ｌ２４６７
竜池院(りゅうちいん:諡号)→ *尊朝親王*(そんちょうしんのう、青蓮院門跡/書家)２５３３
竜池堂(りゅうちどう) → *日蒼*(にっそう、後藤竜斎、日蓮僧/還俗仏教)Ｅ３３９３

F4919 **龍忠**(りゅうちゅう) ? - ? 室町期連歌作者、
1449時述催「広柏ひろがしわ千句」発句/52宝徳千句第八発句
竜仲(りゅうちゅう・松下) → *烏石*(うせき・松下まつした、書家) Ｂ１２７７
竜忠(りゅうちゅう) → *龍忠*(たつただ、連歌) Ｇ２６２３
隆中(りゅうちゅう・溝口) → *幽軒*(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌) Ｂ４６４４
隆仲(りゅうちゅう・西大路)→ *隆仲*(たかなか・西大路にしおおじ、廷臣/日記)Ｍ２６５８

隆冲院(りゅうちゅういん)　→　*日船*(にっせん;法諱・察問、日蓮僧)　３３８１
F4921 **隆澄**(りゅうちょう;法諱、藤原長信男)1181-1266*86* 真言僧;1219仁和寺理智院良遍門;伝法灌頂受、
1246山城開田の秘密荘厳院の道深親王門;伝法灌頂を受、1255(建長7)権僧正、
1262東寺三長者/62僧正/66東寺長者法務;護持僧を勤める、
1241「光明峯寺殿[九条道家]伝法灌頂記」、「仁王経法」著、
[隆澄(;法諱)の通称]三位僧正さんみのそうじょう/理智院僧正
L4918 **柳蝶**(りゅうちょう)　？－　？　江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
[鈍き予われも皺と白髪は世の加増かぞう](二葉之松;393/苦労の功績の加増)
E4990 **竜重**(りゅうちょう;道号・旭泉きょくせん;法諱、俗姓;中島)1719-98*80* 尾張愛知郡平針村の曹洞僧;
1731(13歳)名古屋の秀伝寺柏林芳樹門;出家/嗣法、尾張竜源寺・尾張円通寺住持、
名古屋法正寺に没、1763(宝暦13)「三足鼎儀軌」編
隆朝(りゅうちょう・九条)　→　*隆朝*(たかとも・九条くじょう、廷臣/歌人)　Ｄ２６２２
隆朝(初代りゅうちょう・桑原)→　*如璋*(じょしょう・桑原くわばら、藩医)　Ｍ２２４４
隆朝(2代りゅうちょう・桑原)→　*如宣*(じょせん・桑原くわばら、藩医)　Ｍ２２６５
隆朝(3代りゅうちょう・桑原)→　*如則*(じょそく・桑原くわばら、藩医/文学)　Ｍ２２６７
隆朝(4代りゅうちょう・桑原)→　*承庵*(しょうあん・桑原くわばら、藩医男)　Ｇ２２６３
隆晁(りゅうちょう・玉造)　→　*小右衛門*(しょうえもん・玉造たまつくり、藩士)Ｈ２２２３
隆長(りゅうちょう;初法諱)→　*隆光*(りゅうこう;法諱・栄春、真言大僧正)Ｄ４９７５
隆長((りゅうちょう)訓はすべて　→　*隆長*(たかなが)
隆暢(りゅうちょう・松井)　→　*隆暢*(たかのぶ・松井まつい、里正)　Ｚ２６５３
F4922 **流長軒**(りゅうちょうけん・堀ほり、通称;杢之丞)?-?　江中期大坂高麗橋二丁目の文筆家、
1729刊「増続商売往来」「当用手紙文章」著
柳蝶斎(りゅうちょうさい)　→　*国孝*(くにたか・歌川うたがわ、絵師)　Ｃ１７８３
隆直(りゅうちょく・四条)　→　*隆直*(たかなお・四条しじょう、廷臣/歌人)　Ｄ２６３２
隆直(りゅうちょく・内崎)　→　*隆直*(たかなお・内崎うちざき、兵学者)　Ｍ２６５６
F4923 **隆鎮**(りゅうちん;法諱、俗姓;阿部)1783-1854*72* 阿波徳島の真言僧:徳島来福寺隆敞門;得度、
高野山に修学/竜海門;事相を受、事教二相に通ず、阿波荘厳院21世住持、「諸儀軌伝授記」、
1835「西大寺流伝授記」45「法華施三昧文殊師利大菩薩摩頂之法」、「安流多聞天大事」外著多
竜睨(りゅうちん;法諱)　→　*九淵*(きゅうえん;道号・竜睨、臨済僧)　Ｍ１６３０
F4924 **柳娣**(りゅうてい)　？－　？　京の俳人;雑俳/1696円水「住吉おどり」入
F4925 **柳亭**(りゅうてい・生駒いこま、直政男)1695-1762or1693-1760*68* 加賀金沢藩士;
藩重臣の父を継嗣;禄3千石、儒:伊藤莘野門/朱子学を修学、公事場奉行/寺社奉行を歴任、
「柳亭集」、「観文書堂四書講義」「四書朱註四声弁疑」著、
[柳亭(;号)の名/字/通称/別号]名;直武、字;君烈、通称;内記/監物/右近/内膳、
別号;万松楼
F4926 **竜貞**(りゅうてい・立野たつの、名;敬之)?-?　江後期下総の農業/どくがくで古医方を修学、
賀川元悦「産論」・片倉鶴陵「産科発蒙」を精読:会得、江戸木挽町住;
難産を救うため和製鉗子包頭器を創作、「折肱斎医談」/1820「産科新論」著、
[竜貞(;通称)の字/号]字;子履、号;南堂/折肱斎せっこうさい
隆貞(りゅうてい・油小路)　→　*隆貞*(たかさだ・油小路あぶらのこうじ、故実/香)Ｌ２６８８
隆貞(りゅうてい/たかさだ・山本)→　*極斎*(きょくさい・山本やまもと、和算家)　Ｏ１６９３
隆貞(りゅうてい・阿部)　→　*隆貞*(たかさだ・阿部あべ、神職)　Ｖ２６０２
柳貞(柳亭りゅうてい・山本)→　*極斎*(きょくさい・山本やまもと、和算家)　Ｏ１６９３
柳亭(りゅうてい・春木)　→　*煥光*(あきみつ・春木はるき、神職/本草家)　Ｄ１０９８
柳堤(りゅうてい・鈴木)　→　*流芝*(りゅうし・鈴木すずき、卓池門俳人)　Ｅ４９４８
柳堤(りゅうてい・土岐)　→　*頼旨*(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉)Ｊ４７８２
柳堤居(りゅうていきょ)　→　*皆阿*(かいあ・柳堤居、俳人/滑稽本)　１５８６
立亭京楽(りゅうていきょうらく)→　*京楽*(きょうらく・立亭、人情本)　Ｈ１６０３
F4927 **柳亭琴繁**(りゅうていことしげ)　？－　？　江後期合巻作者:柳亭種彦門、
1853(嘉永6)「亀鑑浦島草紙」著

笠亭仙果(初世りゅうていせんか)→ *種彦*(2世たねひこ・柳亭、高橋次房、戯作者) ２６４４
笠亭仙果(2世りゅうていせんか・篠田)→ *仙果*(2世せんか・笠亭、戯作者) Ｆ２４００
柳亭左楽(2世りゅうていさらく・林屋)→ *正蔵*(3代しょうぞう・林屋はやしや、噺家)Ｋ２２６３
柳亭種彦(初世りゅうていたねひこ)→*種彦*(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作)２６４３
柳亭種彦(2世りゅうていたねひこ)→*種彦*(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者)２６４４
柳亭種秀(りゅうていたねひで)→ *種彦*(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者)２６４４
立亭光彦(りゅうていみつひこ)→ *光彦*(みつひこ・立斎りゅうさい/立亭/三亭、合巻作者)Ｅ４１５５
滝亭鯉丈(りゅうていりじょう・池田)→ *鯉丈*(りじょう・滝亭、戯作者) ４９０２

F4928 **流滴**(りゅうてき) ？－ ？ 京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

L4919 **柳的**(りゅうてき) ？－ ？ 江前期江戸の俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
[気き活かすは飼はず植ゑずの花と鳥](二葉之松;461/気持を活かすのは自然の花鳥)

L4926 **柳滴**(りゅうてき) ？－ ？ 江戸永田馬場の俳人;1703不角「広原海わたつうみ」入、
[花嫁といふは衣裳か顔かほばせか](広原海/前句;白い事かな白い事かな/すべてが白い花)

L4932 **竜哲**(りゅうてつ;法諱) ？－ ？ 摂津住吉の一運寺の僧、「一枚起請之註管解」編、
[竜哲(;法諱)の別法諱/法名]別法諱;愚道、法名;広誉

竜天(りゅうてん;字) → *善譲*(ぜんじょう;法諱・竜天、本願寺派僧)Ｍ２４６０
隆典(りゅうてん・油小路城)→*隆典*(たかつね・油小路城あぶらのこうじ/藤原、権大納言)Ｖ２６２５

K4985 **竜田**(りゅうでん・中野なかの)1756-1811*56* 尾張海西郡立田村の儒者、
伊勢桑名藩儒の兄春洞に随い桑名に移住/上京し儒を業とす/名古屋の岡田新川門、
1780三河岡崎藩儒;2年で尾張に戻る、1782四辻大納言の師、十時梅厓と交流、詩・書に通ず、
1783「桜花百絶」、「桜花百律」「梅花百絵」「増韻大成」、1792「四声玉篇和訓大成」著、
[竜田(;号)の名/字/通称/別号]名;煥あきら、字;季文、通称;煥三郎/新吾、別号;竜閑、
法号;耕吟院

L4990 **隆殿**(りゅうでん/たかどの?・藻刈もかり)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[あまりにも思ふ心の深ければ夢にも見ゆる君がおもかげ](大江戸倭歌;恋1514/恋夢)

柳田(りゅうでん・松浦) → *武四郎*(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親)Ｅ２６３８
柳田(りゅうでん・三上) → *明声*(名声めいせい・三上みかみ、僧/歌人) ４１６２
柳甸井(りゅうでんせい) → *丁知*(ていち・村林/高柳、札差/俳人) ３０４４
隆都(りゅうと・九鬼) → *隆都*(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城)Ｎ２６０９

4911 **龍統**(りゅうとう;法諱・正宗しょうじゅう;道号、美濃の領主東とう益之男)1429-98*70* 臨済僧;建仁寺で修学、
のち瑞巌竜惺門/法嗣、1480建仁寺217世;7度同寺住持、詩文;江西竜派・希世霊彦門、
蔵書家:秘密の蔵を造築、「禿尾長柄帚とくびちょうへいそう」「禅僧詩集」「東野州墳記」「村庵行状」著、
「瑞巌和尚語録」編/「瑞巌禅師道行記」「禿尾帚集」「蒲葉」「野州太守東益之墳記」外著多数、
江西竜派・慕哲竜攀の甥、南叟竜朔の弟、
[正宗龍統の初道号/号]初道号;公緒、号;蕭庵

F4930 **柳塘**(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/本姓;藤原、藩家老匹田定静男)1750-1800*51* 羽後秋田藩士;
1765初出仕、大番頭/1781世子佐竹義和の傅役/家老に昇進/佐竹義敦・義和２代に出仕、
執政;窮乏した藩財政を再建/藩校開設に尽力;国学総裁、文人家老として知られる、
「自怡斎吟稿」「自怡斎随筆」、1791「東海道中日記」、「東游記」「江戸供連方定書」著、
[柳塘(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;鶴治、名;定常/定志、字;考祥、通称;斎、
別号;自怡斎じいさい/聴松館/称斎/九華,法号:愿恭院

M4934 **竜登**(りゅうとう;法諱、号;解脱味/花蔭亭)1807-54*48* 讃岐小豆郡大部村の真言宗観音寺11世、
国学/歌人

L4909 **柳塘**(りゅうとう) ？－ ？ 江後期安藝仁方の俳人;
[目さましに蚊屋引き外す別れかな](短冊)

柳塘(りゅうとう) → *直清*(なおきよ・竹垣、幕臣/書画骨董) Ｂ３２１２
柳塘(りゅうとう) → *熊文*(くまぶん・生駒/土師はじ維熊、国学)Ｄ１７４３
柳塘(りゅうとう) → *流芝*(りゅうし・鈴木すずき、俳人) Ｅ４９４８
柳塘(りゅうとう) → *為雄*(ためかた・土屋、藩士/歌人) Ｇ２６６８
柳東(りゅうとう・日柳) → *燕石*(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派)Ｂ１３８１

柳東(りゅうとう・三角)　→　*有孝*(ありたか・三角みすみ、廷臣/医官)　Ｉ１０５０
隆董(りゅうとう・油小路)　→　*隆董*(たかなお・油小路あぶらのこうじ、廷臣)　Ｖ２６２６
竜統(りゅうとう→りょうとう:道号)→　*元棟*(げんとう;法諱・竜統、黄檗僧)Ｌ１８７８
竜韜(りゅうとう・前田)　→　*重靖*(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌)　Ｒ２１９６
F4931 **竜堂**(竜道りゅうどう;法諱・行空;号)?-1635　浄土宗西山派西谷流の僧;京禅林寺39世,
「曼荼羅抄」著
F4932 **竜洞**(りゅうどう・鈴木すずき、名;**行義**ゆきよし/字;子達、別号;好古軒)?-?　武蔵の和漢学者、
1770「神道書目集覧」編、「論語朱氏新注正誤」「旧事大疑」「古文中臣祓正文」「射具本語考」、
「大学祓諸集覧」「二書辨」「卜筮論」「好古軒譫語辨」「好古軒随筆」「竜洞随筆」外著多数
F4933 **立道**(りゅうどう;法諱、俗姓;黒川)1755-1836*82*　京の浄土僧:聖光寺良瑞門;得度、
江戸芝増上寺に修学/豊誉霊応門;宗戒両脈の伝授を受/長泉院普寂門;唯識・華厳研究、
恵照院悦運門;菩薩戒を受、河内往生院・京嵯峨正宗院に歴住、聞証・湛慧の学風を慕う、
浄土の祖釈を講ずる傍ら華厳・唯識・起信・天台など疏章を講述、選択集を晩年まで講ず、
歌;小沢蘆庵門/詩;学信門、詩歌に長ず、「選択集十一箇条」「往生浄土論開題条」、
「群疑論懸叙」「群疑論探要記略抄」「十八通玄談」「都部第五重私記」「論註講録」外著多数、
[立道(;法諱)の法名] 心蓮社得誉尚阿慧玄
F4934 **竜堂**(りゅうどう;法諱)　?-　?　江後期寛政1789-1801頃比叡山延暦寺僧、
諸書を博捜;天台祖師先徳94人の著作目録編纂:「山家祖徳撰述篇目集」編
F4935 **竜道**(りゅうどう;字・鹹海かんかい;法諱)?-?　伊勢津の天台宗雲華堂住僧、
1832(天保3)刊「恵心僧都念仏法語便蒙」著
竜堂(りゅうどう→りょうどう;道号)→　*如珠*(にょしゅ;法諱・竜堂、黄檗僧)　Ｆ３３９６
竜堂(りゅうどう・赤沢)　→　*竜江*(たつえ・赤沢まあかざわ、神職/歌)　Ｖ２６１７
竜洞(りゅうどう・内山)　→　*眞龍*(またつ・内山うちやま、国学者)　４０３０
隆道(りゅうどう・油小路)　→　*隆道*(たかまさ・油小路あぶらのこうじ/藤原/山科、廷臣)Ｎ２６２１
柳島庵(りゅうとうあん:俳名)→　*半四郎*(5世はんしろう・岩井、歌舞伎役者)Ｉ３６０４
柳塘閑人(りゅうとうかんじん)→　*金峨*(きんが・井上、儒;折衷学者)　１６５８
瘤道人(りゅうどうじん・「吹寄蒙求」序)→　*敬雄*(けいゆう・金竜道人、天台僧/詩人)Ｄ１８６５
竜道人(りゅうどうじん;号)　→　*竜霊瑞*(りゅうれいずい、曹洞僧)　Ｆ４９８６
竜洞亭(りゅうどうてい)　→　*幸和*(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学)４７０６
竜道霊瑞(りゅうどうれいずい)→　*竜霊瑞*(りゅうれいずい、曹洞僧)　Ｆ４９８６
L4925 **隆徳**(りゅうとく;号・申斎しんさい)?-　? 1728存　江中期の歌人;葛岡宣易門、
1714「古今和歌集見聞記」、「百人一首函底記」「反故攫」著、
隆徳(りゅうとく・影田)　→　*蘭山*(らんざん・影田かげた、藩儒/歌人)　Ｃ４８３５
隆徳(りゅうとく・九鬼)　→　*隆徳*(たかのり・九鬼くき、藩主/歌)　Ｕ２６１５
竜徳(りゅうとく;法諱・明庵)→　*明庵*(みょうあん;道号・竜徳、曹洞僧)　Ｇ４１１０
竜徳(りゅうとく・安芸)　→　*増吽*(ぞううん・虚空蔵院、真言僧)　Ｇ２５１０
竜徳院(りゅうとくいん;法号)→　*利与*(としとも・前田、藩主/詩/算学興隆)Ｎ３１０４
竜徳院(りゅうとくいん;法号)→　*忠精*(ただきよ・牧野まきの、藩主)　Ｆ２６０２
竜徳院(りゅうとくいん;法号)→　*昌高*(まさたか・奥平/島津、藩主/蘭学)Ｄ４０２３
竜徳院(りゅうとくいん;法号)→　*頼常*(よりつね・松平/徳川、藩主/学問)Ｊ４７０８
隆徳院(りゅうとくいん;法号)→　*正方*(まさかた・阿部あべ、藩主)　Ｃ４００２
隆徳院(りゅうとくいん;法号)→　*道美*(みちよし・本庄ほんじょう、藩主/歌)　Ｈ４１６３
隆徳院(りゅうとくいん;法号)→　*利徳*(としのり・木下きのした/藤堂、藩主)　Ｕ３１９１
留犢堂(りゅうとくどう)　→　*氏美*(うじよし・久世/佐脇、藩士/儒/歌)Ｃ１２８４
竜得坊(りゅうとくぼう)　→　*増吽*(ぞううん・虚空蔵院、真言僧)　Ｇ２５１０
隆内(りゅうない・沢辺)　→　*北溟*(ほくめい・沢辺さわべ、藩士/儒者)　Ｄ３９９５
流南(りゅうなん・千葉)　→　*胤道*(たねみち・千葉ちば、胤秀男/和算家)Ｓ２６０９
流入軒不埒庵童落院(りゅうにゅうけんふらちあんどうらくいん)→*都の錦*(みやこのにしき、浮世草子作者)４１３９
隆任(りゅうにん;初法諱)　→　*最寛*(さいかん;法諱、真言僧)　Ｇ２０６０
F4936 **隆然**(りゅうねん;法諱・勇心房;号)1258-1341*84*　真言僧:1292高野山持明院の賢任門;声明を修学、

1325最勝院の瓊算門;持明院庭儀灌頂を受、諸声明の略頌文を撰す;進流声明の達匠、
覚証院方の祖、「声明略頌」「声明集私案記」「乞戒導師作法」「乞戒導師声明進流」外著多数、
[隆然(;法諱)の別法諱] 覚暁/覚鏡/隆鏡
竜年(りゅうねん・鷹羽) → *雲淙*(うんそう・鷹羽たかのは、藩士/詩人) Ｂ１２８６
隆年(りゅうねん/たかとし・野呂)→ *介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) Ｂ１５０９
隆能(りゅうのう・藤原) → *隆能*(たかよし・藤原ふじわら、廷臣/絵師) Ｅ２６０５
F4937 **笠之助**(りゅうのすけ;通称・蓑みの/巳野みの、名;正高、小沢庄兵衛男)1687?-1771*85?* 蓑兼正養嗣子;
蓑家は宝生座配下の猿楽師;1716家督、29大岡忠相配下幕臣;酒匂川堤川除普請、
田中冠帯[邱愚]と親交;勧農家/1732支配勘定格/39代官;49罷免/56致仕、
相模に薩摩芋・鳩麦栽培普及、1736「農家貫行」/49「続農家貫行」、
[笠之助の別通称] 庄次郎、 妻は農政家田中冠帯[邱愚]女
柳之助(りゅうのすけ・宮井)→ *安泰*(やすひろ・宮井みやい、藩士/和算家) Ｃ４５８８
柳之助(りゅうのすけ・高柳;変名) → *長英*(ちょうえい・高野、蘭医) Ｈ２８３９
鉚之助(りゅうのすけ・近藤)→ *眞琴*(まこと・近藤こんどう、洋学/海軍) ４０８０
竜之助(りゅうのすけ・野村)→ *藤陰*(とういん・野村のむら、藩士/儒者) Ｂ３１０８
竜之助(りゅうのすけ・赤沢)→ *竜江*(たつえ・赤沢まあかざわ、神職/歌) Ｖ２６１７
4912 **龍派**(りゅうは;法諱・江西こうせい/こうぜい;道号、遠藤[遠東]師氏男)1375-1446*72* 京臨済僧;天祥一麟門、
天祥の法嗣、詩文;絶海中津門、建仁寺霊院塔主/続翠軒を開/1441南禅寺144世、
美濃に木蛇寺建立、「豫庵ひんあん集」「続翠詩集」「続翠集」「新選集」「江湖集鈔」「天葩雑集」著、
「天馬玉津沫」著、慕喆ばてつ竜攀の兄、正宗竜統・南叟竜朔の伯父、
[龍派の号] 木蛇[黙蛇]/豫庵ひんあん/続翠/晩泊老人、霊泉和尚
F4938 **龍派**(りゅうは;道号・禅珠ぜんしゅ;法諱、俗姓;金子)1549-1636*88* 相模大住郡田村の臨済僧、
1552(4歳)父没;鎌倉円覚寺の奇文禅才門;出家(or円覚寺三伯昌伊門で出家;嗣法)、
1573(天正元)足利学校入学;玉崗瑞璵門、1582武蔵足立郡芝村の長徳寺12世、
1602徳川家康の命で足利校10世庠主、1610鎌倉建長寺178世、1628長徳寺臥雲軒に退隠、
1613-32(慶弔18-寛永9)「寒松日記」著、「龍派和尚詩文集」「祖語字箋」著、
「大智山長徳寺由緒」「古鈔寒松和尚発蒙文字説」著、
[龍派(;道号)の別法諱/号]別法諱;玄珠、 号;寒松/鉄子
F4939 **柳坡**(りゅうは・堀木ほりき、春里庵)?-? 江中期京の俳人:仙径門、羅院と親交、
1775(安永4)「俳諧さぼてん」編
F4940 **柳波**(りゅうは) ? - ? 近江の俳人;雪門系、京住、雑俳点者、
1758(宝暦8)「辛崎三吟」編;蓼太・湖涼と歌仙、1729隆志「俳諧草結」1句入、
[酌とらば世を桜にぞ天赦日てんしやにち]、
(俳諧草結;236/天赦日は年4度の大吉日;何をしても吉/酒を進めたら世が明るい)
F4941 **柳巴**(りゅうは) ? - ? 大阪の俄芸人;1775「未年俄選ひつじのとしにわかせん」入
F4942 **柳坡**(りゅうは・中村なかむら、麻場五右衛門男)1822-80*59* 越後中頸城郡下黒川村の医者:
米山寺村の中村淳良門;師の没後に中村家を継嗣、江戸で儒;井部香山門/医;戸塚静海門、
帰郷し医を開業、1868越後高田藩儒;廃藩により帰郷、1876中魚沼郡秋成校の教員、
傍ら家塾を開設;経史を講ず、「紅杏碧桃書屋詩鈔」「紅杏碧桃書屋文稿」、
[柳坡(;号)の名/字/通称/別号]名;安、 字;吉士、 通称;太玄、 別号;緑筠りょくいん
柳坡(りゅうは・松尾) → *宗甫*(むねとし・松尾まつお、藩医/国学/歌)Ｅ４２２６
F4943 **柳梅**(りゅうばい) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」2句入、
[とまりても翅つばさは動く胡蝶かな](続猿蓑;巻下/詞書;白日しづか也)
F4944 **隆珀**(隆伯りゅうはく・菅すが、名;周士、立安男)1699-1772*74* 京の医者:玄篤門、
師玄篤父の名古屋玄医の秘要を会得、「金匱要略注解」著、
[隆珀(;号)の字/別号]字;士産/子産、 別号;鳴鶴、 清璣せいきの父
立伯(りゅうはく・野村) → *立栄*(2世りゅうえい・野村/野、初世男/医者)Ｃ４９８７
竜伯(りゅうはく・島津) → *義久*(よしひさ・島津、貴久男/武将/連歌)Ｇ４７２７
隆珀(りゅうはく;父号嗣・菅)→ *清璣*(せいき・菅すが、医者) Ｈ２４８４
隆博(りゅうはく・九条) → *隆博*(たかひろ・九条くじょう、廷臣/歌人) Ｄ２６６４

粒麦(りゅうばく)　→　*芝山*(しざん・斎藤、儒/詩歌)　Ｄ２１７４
劉跛子(りゅうはし)　→　*琴渓*(きんけい・劉、田村元高、儒者/詩)　Ｄ１６９４
L4980 **柳般**(りゅうはん・小嶋こじま)　？－　？　江前期俳人、1678西鶴「物種集」入、
[錦木にしきぎも今は雑木ざふきに立ちかえて](物種集/前句;しのぶ夕に七貫くさつた、
後拾遺;恋651能因;錦木は立てながらこそ朽ちにけれけふの細布ほそぬの胸にあはじや、
陸奥で男が求愛のしるしに女の門に立てた彩色の木/陸奥で鳥の毛で織った細布)
細くて胸元が合わないように彼女は逢ってくれないのだろうか)
柳汸(りゅうはん・多紀)　→　*元胤*(もとつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩)Ｄ４４０８
竜攀(りゅうはん;法諱)　→　*慕哲*(慕喆ぼてつ;道号・竜攀、臨済僧/詩人)Ｅ３９７１
柳樊(りゅうはん・松井)　→　*蝸庵*(かあん・松井邦彦、儒者)　Ｈ１５１１
柳樊(りゅうはん・杉、柳**樊斎**)→　*亨二*(こうじ・杉すぎ、蘭学者)　Ｊ１９４３
隆範(りゅうはん・藤原)　→　*隆範*(たかのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｍ２６７３
隆範(りゅうはん・荒木田)　→　*隆範*(たかのり・荒木田あらきだ、神職/歌人)２７７４
隆丕(りゅうひ;字)　→　*彦岑*(げんしん:法諱・隆丕、真言僧)　Ｋ１８１７
F4945 **柳尾**(りゅうび・内田うちだ、初号;渉十、三瓜庵さんかあん)?-?　江中期江戸の俳人;3世湖十門、
江戸其角座平砂側の点者、1768「明和5戊子歳旦」編、1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入、
1754竹翁「誹諧童の的」点句入
F4946 **流美**(りゅうび・間野まの、芦竹庵、三瓜庵)1831-92*62*　俳人:肖年のあと八千房7世を継承
竜尾(りゅうび・喜多村)　→　*香城*(こうじょう・喜多村、幕府医官)　Ｆ１９１２
竜鼻翁(りゅうびおう)　→　*物外*(ぶつがい・谷川たにがわ、心学者)　Ｄ３８２７
龍鼻館尺彦(りゅうびかんせきげん)→　*尺彦*(せきげん・龍鼻館、語学者)　Ｄ２４４２
隆苗(りゅうびょう/りゅうみょう:法諱)→　*吐丈*(とじょう・六不庵、浄土僧/俳)Ｏ３１１８
F4947 **柳布**(りゅうふ)　？－　？　近江八幡の俳人;1777江涯「仮日記」1句入、
[春雨に話しみけり美濃近江](仮日記;119/寐物語、国境の春雨の宿で心のしみいる話)
F4948 **竜父**(りゅうふ・峰岸みねぎし)　？－　？ 1804-30頃存　大阪の書家、
紀州和歌山藩の招聘で「貞観政要」開版に従事、晩年難波村住;朝顔栽培に専念、
当時流行の変化朝顔の図譜を著作/1815「朝鮮珍花蕣集」編、「庭訓往来」「校本庭訓往来」著、
[竜父(;字)の名/通称]名;正吉、通称;慶造
笠父(りゅうふ・田中)　→　*本孝*(もとたか・田中たなか、商家/歌人)　Ｃ４４８６
立舞(りゅうぶ・雲津)　→　*水国*(すいこく・雲津、俳人)　２３５４
F4949 **柳風**(りゅうふう)　？－　？　俳人;1689「あら野」3句入、
[ほとゝぎすどれからきかむ野の広さ](あら野;巻一/焦点合せに迷う広さ)
F4950 **柳風**(りゅうふう・村上むらかみ、名;玄忠)?-?　江中期享保1716-36頃京の医者、
1723(享保8)「薬性採要」著
L4969 **龍風**(りゅうふう)　？－　？　俳人;1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[見せばやの蚊の血を花に待夜哉](伊丹発句合;夏)
竜風(りゅうふう・黒田)　→　*長溥*(ながひろ・黒田、藩主/連歌)　Ｆ３２５９
柳風庵(りゅうふうあん)　→　*一雪*(いっせつ・椋梨/成田、俳人/実録)　Ｂ１１５４
M4919 **龍文**(2代りゅうぶん・四方よも、)1780-1841*62*　京の鋳物工龍文堂第2代;1805(文化2)富小路四条に住、
鉄瓶・文具・香炉など有名、晩年;安平と改名;陶器を焼く、山陽・木米菘翁と風雅に遊ぶ、
[龍文(代々の号)の名/字/通称/号]名;波雄、字;鼎介、通称;安之助、号;龍文堂
法名;釈瑞華
隆文(りゅうぶん・四条)　→　*隆文*(たかとも・四条、廷臣)　Ｎ２６１４
立分軒(りゅうぶんけん)　→　*深真翁*(じんしんおう、仮名草子作者)　Ｅ２２７１
龍文堂(2代りゅうぶんどう)　→　*龍文*(2代りゅうぶん・四方よも、鋳物工)　Ｍ４９１９
F4951 **蛻平**(りゅうへい;号・大江おおえ)?-　？　江前期豊後高田の俳人、「豊後俳諧掃除坊主」著
F4952 **竜平**(りゅうへい・安部/安倍あべ/修姓;安)1784-1850*67*　筑前名島村の生/福岡藩士安部忠内の養子、
蘭学:藩士青木興勝門/のち志筑忠雄門、1819福岡藩士;長崎詰方;20免職、
1828(文政11)藩主黒田斉清に随い長崎へ;斉清とシーボルト殿問答を筆録、
1815「田島石経記」著/49「新宇小識」訳、「水虎説」「安倍氏水虎説」「海冦窃策」「下問雑載」著、

昭陽「空石日記」入、養子;藤井忠吉、
[竜平(;通称)の名/字/号]名;正能/竜、字;士魚、号;蘭圃/蘭畝
竜平(りゅうへい・服部) → *広布*(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学) Ｉ３７３４
柳平(りゅうへい・隅田屋) → *直胤*(なおたね・正宗まさむね、国学/俳狂歌) Ｂ３２６２
柳平(りゅうへい・池田) → *明清*(あききよ・池田いけだ、国学者) Ｇ１０９８
柳坪(りゅうへい・青島) → *貞賢*(さだかた・青島あおしま、神職/国学) Ｉ２０００
隆平(りゅうへい・城) → *長洲*(ちょうしゅう・城じょう、医者/詩人) Ｉ２８７５
隆平(りゅうへい・海保) → *酔茗*(すいめい・海保かいぼ、篆刻家) Ｆ２３０３
隆平(りゅうへい・別府) → *安宣*(やすのぶ・別府べっぷ、藩士/国学者) Ｃ４５５８
隆平(りゅうへい・野口) → *通孝*(みちたか・野口のぐち、藩士/国学) Ｋ４１０３
留兵衛(りゅうへえ・八幡屋)→ *留兵衛*(るへえ・田口たぐち、養蚕家) ５００１

F4953 **隆逼**(りゅうへん;法諱、藤原光房男)1145-1205*61* 内大臣中山忠親の猶子、真言僧:仁和寺の尭真門、
1174保寿院覚成より伝法灌頂を受/1183貞観寺別当/1202権大僧都、
1205(元久2)東寺三長者/慈尊院法印、「諸尊法」「諸尊法目録」「広保諸尊次第」著、
歌;津守集入、新後撰823(;隠名読人しらず/津守集;隆逼)、
[しのぶるは思ふ中だに苦しきをつらきにそへてせく涙かな](新後撰;恋823)
[隆逼(;法諱)の通称] 弁法印/弁阿闍梨/大蔵卿法印

F4954 **竜逼**(りゅうへん;法諱) ? - 1840 真言僧;金剛峰寺検校、「五重唯識」「経部覚天」、
「西大寺流伝授記」「西大寺流伝授目録」「三時教披蒙辨」「唯識論述記玄談」外著多数

F4955 **隆弁**(りゅうべん;法諱) 1198?- ? 1239存 華厳僧:1214紀伊有田郡成道寺の浄覚房行慈門、
行慈より不動護摩伝授を受、1217(建保5)高弁(明恵)門;種々の伝授を受;其の聞書を著;
「真聞集」著(:明恵聞書)、さらに空達上人(定真)より伝授を受、「護身法功能鈔」著

F4956 **隆弁**(りゅうべん;法諱、権大納言四条[藤原]隆房男)1208-83*76* 母;葉室光雅女、
1220天台宗園城寺入、1243法印/45若宮別当/47鶴岡八幡宮若宮社別当/64園城寺別当、
1265(文永2)大僧正、67園城寺長吏/68(文永5)大阿闍梨、1283(弘安6)没、
歌人;宗尊親王の将軍時代の鎌倉歌壇に出詠、徒然草216段に鎌倉幕府との親密さ入、
1261宗尊親王百五十番歌合参加、「隆弁法印西上記」著、東撰和歌六帖・閑月集・新三井集入、
勅撰25首;続後撰(620/1049)続古(781/809/1722/1812)続拾(7首)新後撰(3首)玉(2首)以下、
[何ゆゑかうき世の空にめぐりきて西を月日のさしてゆくらん](続後撰;釈教620)、
[隆弁(;法諱)の初法諱/通称]初法諱;光覚、通称;大納言法印/如意寺/聖福寺殿

F4957 **竜甫**(りゅうほ;法諱) ? - ? 江前期真宗大谷派僧;京の浄徳寺住職、
「浄土和讃記」著

4913 **立圃**(りゅうほ・野々口ののぐち、名;親重ちかしげ)1595-1669*75* 丹波桑田郡保津の出身/京の人形細工師:
絵師;狩野探幽・俵屋宗達門、和学、紅粉染が巧み、連歌;猪苗代兼与門/歌;烏丸光広門、
俳人:貞徳門7俳仙の1、1633重頼と「犬子えのこ集」編輯中に確執が生じ重頼が独断で完成;
対抗して11933「誹諧発句帳」を刊行、(犬子集には親重名で120句入)、1640江戸/48筑前住、
1651備後福山藩主水野勝俊に出仕(51勝成公追善「独吟50韻」)、各地行脚後に1661帰京、
1636「はなひ草」(作法書)、46「鵜鷺うさぎ俳諧」編(;門人の句を撰)、49「花月千句」「道の記」、
1649家句集「そらつぶて」、52「誹諧万句」、53「河船付徳万歳かわぶねつけたりとくまんざい」、
1656「草戸記」(;福山明王院縁起)/「野々口立圃俳句」、63「むらさき」68「浜荻」、
「あだ花千句」「こきりこ千句」「老鳥千句」「立圃万句」「立圃集」「雛屋立圃絵入書巻」外多数
[あらはれて見えよ芭蕉の雪女ゆきおんな](そらつぶて、芭蕉の精の女よ雪女の姿で現れよ)、
(謡曲「芭蕉」のシテと王摩詰の「雪中の芭蕉」の故事)、
[立圃(;号)の通称/別号]通称;庄右衛門/庄一/宗右衛門/宗左衛門/市兵衛/次郎左衛門、
作太夫、屋号;雛屋/紅粉屋
別号;松翁/松斎/如入斎/無文 、法号;松翁庵立圃日英

F4958 **柳浦**(りゅうほ) ? - ? 豊前大橋の俳人;
1689言水「誹諧前後園」/90言水「新撰都曲」1句入、
[螺さざえ空に入るべき月の渚かな](都曲;395/美しい渚は栄螺も空に登ってゆくようだ)

F4959 **柳圃**(りゅうほ・須藤すどう)1719- ? 1771存 下野越名の河岸問屋の生/儒者;中根東里門、

1771師東里[1694-1765]の遺稿を刊行;「東里遺稿」校、1766「東里先生行状」著、
桃井白鹿と交流;毎年自宅で講書を依頼、
白鹿の推薦で紫野栗山門;栗山の著作を自費出版、「新瓦」校、須藤恵典よしのりの一族?、
[柳圃(;号)の名/字/通称]名;温、字;子直、通称;理右衛門

F4960 **立甫**(りゅうほ・嶋しま、名;澄/別号;玄澄、維山男)1807-7367 代々陸奥盛岡の医者;藩医、
1846昆布の焼灰より沃度抽出に成功、
1855江戸本所巴麻油焼灰製所でタール抽出;居宅のガス灯点灯に成功、1864盛岡藩医、
「石炭説」著、法号;仁徳院、通虎みちとらの父

立圃(2世りゅうほ) → *沾圃*(せんぽ、宝生/服部、能楽師/俳人)Ｇ２４６０
立甫(りゅうほ・竜田/飛騨)→ *大立*(たいりゅう・竜田/飛騨、俳人) Ｃ２６３１
立甫(りゅうほ・綺田) → *義路*(よしみち・綺田きだ/源/谷屋、藩士/歌)Ｍ４７４４
竜甫(りゅうほ・田中) → *蘭斎*(らんさい・田中たなか、藩士/書家) Ｃ４８１５
竜甫(りゅうほ、内田) → *実務*(さねかね・内田うちだ、儒医/歌) Ｎ２０９８
隆保(りゅうほ・藤原) → *隆保*(たかやす・藤原、廷臣/歌人) Ｎ２６４９
隆輔(りゅうほ・八条) → *隆輔*(たかすけ・八条はちじょう/藤原、国学) Ｘ２６８５
柳圃(りゅうほ・林) → *通幸*(みちゆき・林はやし、子平甥/文筆家) Ｃ４１７６
柳圃(りゅうほ・志筑/中野)→ *忠雄*(ただお・志筑/中野、蘭学者) Ｅ２６８５

F4962 **隆法**(りゅうほう;法諱・道慶坊;字)?-? 南北室町期真言僧;高野山覚証院住、
1376大智院の源宝に従い秘讃など受く、1447(文安4)高野山検校135世、48退職;90余歳没、
「声明集」「声明口決」著、[隆法(;法諱)の初法諱] 隆印

F4963 **流芳**(りゅうほう・大枝おおえだ、本姓;大江/修姓;巌)?-1750? 摂津の香道家:御家流大口含翠保高門、
御家流皆伝血脈を継嗣、御家流を基盤に蜂谷流・米川流を参考に大枝流を創始・祖、
一方で茶道・華道に精通;特に煎茶道確立に寄与、享保1716-36頃を中心に活躍、
高遊外・上田秋成・都賀庭鐘と交流、1734(享保18)「香道千代の秋」「香道秋の光附香志」著、
1735「香道秘伝」「雪月花集」編/35「香道滝之糸」/1737「香木達味考」「香道軒の玉水」著、
1745「香道拾玉」49「五月雨日記」著・「貝尽浦の錦」編(;貝歌仙)/55「雅遊漫録」著、
1756「青湾茶話」著(;煎茶の書)、「御家流香道百ケ条」「本朝瓶史抛入岸之波」著、外編著多、
[流芳(;号)の名/通称/別号]名;信安、通称;岩田信安/岩田漱芳、
別号;四川/脩然翁/青湾/釣隠/漱芳

F4964 **竜峰**(りゅうほう) ? - ? 江前期越後高田藩士;藩主松平光長の家臣、
藩命で奥羽地方の要害を調査:「奥羽道程記」著、1681(天和元)主家改易により浪人、
鶴岡七日市に移住/のち盲目となり医者深野道固より伝授された薬を商う、
元禄1688-1704頃没

F4966 **龍廏**(りゅうほう/りゅうろう;道号・道海どうかい;法諱、俗姓;正木)1764-1830*67* 尾張の曹洞僧:
1796(寛政8)尾張春日井郡平田寺14世、1804「竜道人語録」著

F4965 **流芳**(りゅうほう;号・村田むらた、通称;七左衛門)?-? 江後期伊勢四日市の俳人、1844「あさかは」編

流芳(りゅうほう) → *一慶*(いっけい;法諱・雲章、臨済僧) Ｂ１１３９
流峯(りゅうほう・千葉) → *胤秀*(たねひで・千葉ちば、和算家) Ｇ２６４２
竜峯(りゅうほう・竹尾) → *正鞆*(まさとも・竹尾たけお/大江、神職) Ｅ４０７６
竜峯(りゅうほう・井手) → *伊明*(これあき・井手/山内、藩士/歌) Ｑ１９２８
笠峰(りゅうほう・堀口) → *多狆*(多仲/多沖たちゅう・堀口、藩士/蘭学)Ｒ２６４９
隆彭(りゅうほう・藤原/油小路)→ *隆彭*(たかもり・油小路あぶらのこうじ、廷臣)Ｎ２６４７
隆方(りゅうほう・藤原) → *隆方*(たかかた・藤原、廷臣/詩歌人) Ｃ２６６２
隆方(りゅうほう・有田) → *隆方*(たかかた・有田ありた/源、歌人) Ｕ２６６９
隆房(りゅうぼう・藤原) → *隆房*(たかふさ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｄ２６６６
柳法印(りゅうほういん;号) → *耀清*(ようしょう;法諱、社僧/歌人) Ｂ４７２４
流芳園(りゅうほうえん) → *東山*(とうざん・稲垣/佐久間、儒者) Ｅ３１６５

F4967 **柳北**(りゅうほく・成島なるしま/源本姓、稼堂[筑山]3男)1837-8448 江戸浅草の幕臣;代々奥儒者の家、
幼時より祖父東岳・父筑山門、1853家督継嗣/4侍講見習/56奥儒者、詩文に長ず、

将軍家定・家茂に経学を講義、東岳編「徳川実記」・筑山編「後鑑」の訂正作業を総裁、
1863幕閣への献策を却下され不満の狂詩を詠む/閉門、この間洋学を修学、
1865再用;騎兵奉行・外国奉行・会計副総裁を歴任、維新後;新聞界で活躍、
1854(嘉永7)9月19日自邸で先祖錦江の忌日和歌会を催;佐々木江州/稲垣欽丞など参加、
1854-57(安政元-4)「寒檠小稿」59戯著「柳橋新誌」、64「海外宝鑑略」、「海外貨幣小譜」著、
日記「硯北日録」「投閑日録」(孫の大島隆一編「柳北談叢」所収;散佚/前二者のみ現存)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;父筑山と共に入集)、妻;狩野董川女瀏、
[たが袖の夜寒をわびてよひよひにはたおり虫の月に鳴くらし](大江戸倭歌;901)、
[柳北(;号)の名/字/通称/別号]名;惟弘/弘/和温/温、字;叔厲/確堂/保民、
通称;甲子麻呂/甲子太郎/大隅守、別号;何有仙史/墨上ぼくじょう漁史/我楽多堂/不可抜斎、
法号;文靖院

竜北(りゅうほく) → *環中*(かんちゅう;法諱・道枢、真宗本願寺派僧)Ｒ１５３６

F4968 **竜ト**(りゅうぼく・千葉ちば) ？－ ？ 江中期播州赤穂の華道家;源氏流を主唱、
大和・摂津の間を巡歴し広める、1757(宝暦7)法橋、
1762江戸下向;浅草並木の茶屋や扇屋で花展を開催、抛入花を排し書院の源氏活花主唱、
江戸の生花流行の萠芽を作る、1765刊「源氏活花記」著・「活花百瓶図」編、
1773「百器図解」「生花枝折」/75「盆石手引」著、
[竜ト(;字)の名/号]名;胤綱たねつな、号;松翁斎

F4969 **立朴**(りゅうぼく・山崎やまざき、名;顕甫)1747-1805*59* 陸奥津軽郡館越村の医者、
1794弘前藩校稽古館創設時に藩主津軽寧親の要請で蔵書「山崎立朴文庫」数千巻を献納、
家は北畠具統の後裔で一族の家記を改編し「館越日記(永禄日記)」編纂

F4970 **留木**(りゅうぼく・井上いのうえ、俳人福芝斎得蕪の女)?-? 江後期女流俳人:
1859(安政6)父得蕪の一周忌追善集「あさゆふべ」編

立ト(りゅうぼく・半井) → 一六(いちろく・半井なからい、医者/俳人) Ｃ１１６７
立牧(りゅうぼく・川井) → *桂山*(けいざん・川井/川合・河合、医者/詩歌)１８５９
柳北釣人(りゅうほくちょうじん)→ *春水*(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者)２１５８
流木堂(りゅうぼくどう) → *江水*(こうすい・華山叟、俳人) Ｂ１９４６
流木堂(りゅうぼくどう) → *琢石*(たくせき・菅原、俳人) Ｅ２６２５
柳本坊(りゅうほんぼう) → *専順*(せんじゅん・春楊坊、僧/華道/連歌)２４３３

J4946 **竜馬**(りう馬りょうま・土橋亭どばしてい、姓;浅井)1804-51*48* 江戸日本橋材木町の呉服商、
家業を嫌い落語家;司馬竜生りゅうしょう門;竜生2世を名乗り一枚看板となる、
のち自ら落語を嫌い講釈師/講談;正流斎南窓門、和漢滑稽軍談に長ず、
1836刊「木像談語」42「百面相仕方はなし」46「噺の大よせ」著、
[土橋亭竜馬(;号)の通称/別号]通称;善五郎、別号;司馬竜生2世/調子房沓々、
法号;釈徹道信士

竜馬(りゅうま・坂本) → *竜馬*(りょうま・坂本さかもと、国事奔走) Ｊ４９４７
竜馬(りゅうま・西城戸) → *正直*(まさなお・西城戸にしきど、神職/国学) Ｒ４０３７

F4971 **流味**(りゅうみ・井野口いのくち)?- ？ 俳人;1663定清さだきよ「尾蠅集」歌仙発句入、
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[絵にかくや冬も櫻のかへり花](手鑑)

F4972 **隆明**(りゅうみょう;法諱、中納言藤原隆家男)1019-1104*86(諸説あり)* 天台宗園城寺僧;心誉・明尊門、
1074権少僧都/75法印;白河・堀河両朝の護持僧、1096僧正/98園城寺長吏、
1100(康和2)園城寺の大衆と対立;房舎を焼かれる/1102大僧正、
歌人:万代集入、続後撰(1172)、
[山がはのおなじ流れにすみながらわが身ひとつぞしづみはてぬる](続後撰;雑1172)
[隆明(;法諱)の別法諱/通称]別法諱;隆命/劉明、通称;御室戸僧正/羅惹院僧正

隆苗(りゅうみょう:法諱) → *吐丈*(とじょう・六不庵、浄土僧/俳) Ｏ３１１８

F4973 **竜眠**(りゅうみん) ？－ ？ 江戸の旗本?/俳人/宝暦明和1751-72頃に在京;
1772几董「其雪影」入、1756春来(2世青峨)編「東風流あづまぶり」に春来との両吟歌仙入、
[初雪や道がわるいとぬかしおる](其雪影;巻尾406/風流を解せぬ困ったやつ)

F4974 **竜眠**(竜珉りゅうみん・正木まさき)1787-1859*73*　　江戸浅草並木町の海苔商/書家、
「大日本国州名名頭字彙」著、
[竜眠(;号)の名/字/通称/別号]名;瑣吉さきち、字;青羊、通称;四良右衛門、
別号;王淵堂/墨斎

F4975 **竜眠**(りゅうみん・村上むらかみ、中江蓮翁2男)1797-1835*39* 因幡鳥取川端の生/幼時;伊良子大洲門、
医:村上潜竜門、1817上京し宇津木昆台門;古医方を修学、帰国後;蘭方;土佐孝思門、
1822潜竜の8女と結婚し村上家の養子/1824家督継嗣、鳥取藩主池田斉稷・斉訓を診療、
藩主の子女付を勤める、「傷寒論提要」「張志」「医適」「評論四十六士論」「和汗吐下」著、
[竜眠(;字)の名/通称/号]名;淵、通称;春亭/晋亭、号;厚生館

柳眠舎(りゅうみんしゃ)　→ *波響*(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師)　Ｃ３６４６
離有無院(りゆうむいん;諡)→ *恵辨*(えべん;法諱、真宗高田派僧)　Ｅ１３２３
竜夢館(りゅうむかん)　→ *武曰*(ぶえつ・宮沢/宮本/春日、長翠門俳人)Ｂ３８１８
隆明(隆命/劉明りゅうめい)→ *隆明*(りゅうみょう;法諱、天台大僧正/歌)Ｆ４９７２
隆明(りゅうめい・仙石)　→ *隆明*(たかあき・仙石せんごく、藩士/尊攘)　Ｘ２６８３
竜溟(りゅうめい・能美)　→ *隆庵*(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医)　Ｃ４９６９
隆茂(りゅうも・藤原)　→ *隆茂*(たかしげ・藤原、廷臣/歌人)　Ｌ２６９９

F4980 **竜門**(りゅうもん・宮瀬みやせ、遠祖姓;劉、宗確の長男)1719-71*53* 代々紀伊和歌山藩医の家、
士を除籍し紀伊那智郡竜門山に隠棲;勉学に励む、儒;荻生徂徠学を慕う、
1741江戸湯島に住;私塾を開く/のち服部南郭門/六経を修学し古文辞学で名声、
詩人、音楽;簫を嗜む、門弟多数、「金蘭集」「竜門集」「壎篪けんち集」「古文孝経国字解」著、
1750「明李王七言律解」著/64「東槎余談」編/1753-68「竜門先生文集」(;門弟編)、
「劉氏無尽蔵」「明七子七言律解」「竜門絶句」著、「竜門遺草」、
[竜門(;号)の名/字/通称/別号]名;維翰(これたか?)、字;文翼、通称;三右衛門、
別号;竜門山人

F4976 **竜門**(りゅうもん;道号・承猷しょうゆう;法諱、従三位四辻実長2男)1734-1800*67* 臨済僧;1742出家、
無聞承聡・梅荘顕常門/1759無聞の法嗣、1789病により退隠;巣松軒に寓居/詩人、
「冥鴻詩集」「冥鴻余稿」著、
[竜門承猷の初道号/号/通称]初道号;春峡、号;対雲/冥鴻、通称;惟宣

F4977 **柳門**(りゅうもん・井口いぐち)　？－　？　　江中期俳人:2世宗瑞門、
1778(安永7)刊「五色墨三篇」(;梅人らと共編)、
[柳門(;号)の通称/別号]通称;新右衛門、別号;道迎庵

F4978 **竜門**(りゅうもん・渡辺わたなべ、名;珪/珪甫、作右衛門男/本姓;源)1764-1831*68* 紀伊和歌山藩士、
1791和歌山藩学校授読助/98御広敷御用達詰所勤/1804御広敷番格/番同様勤、
1823不心得にて小普請末席に貶せらる、1826「龍門随筆」、「龍門漫録」「瑞徳記」、
[竜門(;号)の字/別号]字;半平/弥平、別号;弁癖/禹爵堂、法号;如臨院

竜門(りゅうもん)　→ *暁台*(きょうたい・加藤/岸上、俳人)　１６３６
竜門(りゅうもん;号)　→ *普厳*(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｂ３８９３
竜門(りゅうもん・南部)　→ *伯民*(はくみん・南部なんぶ、医者)　Ｄ３６９５
竜門(りゅうもん・松崎)　→ *明*(あきら・松崎まつざき、医者/詩文)　Ｅ１０１８
竜門(りゅうもん・松永)　→ *花遁*(かとん・松永まつなが、商家/詩人)　Ｏ１５２３
竜門(りゅうもん;号)　→ *都西*(とさい;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｌ３１７９
竜門(りゅうもん;道号)　→ *元沢*(げんたく;法諱・竜門、黄檗僧)　Ｋ１８９６
竜門(りゅうもん・河津)　→ *祐邦*(すけくに・河津かわず/藤原、幕臣/奉行)Ｈ２３９５
柳門(りゅうもん・広岡)　→ *宗瑞*(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人)Ｉ２５１２
竜門軒悶道隠(りゅうもんけんもんどういん)→*元門*(もとかど・三輪/長尾、藩老/兵学)Ｃ４４４０
竜門山人(りゅうもんさんじん)→ *幸混*((ゆきむら・吉見、幸和男/神職)　Ｆ４６７９
竜門山人(りゅうもんさんじん)→ *竜門*(りゅうもん・宮瀬みやせ、劉、儒者/詩)　Ｆ４９８０
竜門司(りゅうもんし)　→ *閑叟*(かんそう・九々庵、俳人)　Ｒ１５２４
竜門老人(りゅうもんろうじん)→ *春澤*(しゅんたく;道号・宗晃、臨済僧)　Ｌ２１４７

L4920 **柳也**(りゅうや)　？－　？　　江前期江戸の俳人;1691不角「二葉之松」2句入、

[殿様にお身といはれし我が妹いもと](二葉之松;41/腰元奉公の妹が主君の寵愛を受ける)
F4981 柳也(りゅうや・横田よこた、名;盛房、柳几男)?-1804? 武州鴻巣酒造業、俳人:父柳几門、
1789「天明九年歳旦」編/1794父追善集「春眠集」「布袋庵句集」編、1803「楚歌追善集」編、
[柳也(;号)の通称/別号]通称;茂左衛門/三九郎(;代々の称)、号;2世布袋庵、
竜野(りゅうや・上田) → *竜郊*(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育) Ｄ４９８５
F4982 隆瑜(りゅうゆ;法諱・唯明;字、俗姓;佐野)1773-1850*78* 安房安房郡波佐間村の真言僧、出家後上京、
京の智積院で修学/のち安房宝珠院に住/1831江戸愛宕円福寺に転住、1834智積院33世、
1837大報恩寺(千本釈迦堂)に退隠、1847智積院に常盤蔵(秘庫)建設;閲覧の制を定める、
1795「要用記」1802「秘蔵宝鑰補記」14「住心品疏講記」19「西谷名目減縁減行抜萃録」、
1837「理趣釈拾要記」42「秘蔵記拾要記」43「普門品拾要記」44「阿弥陀経拾要集」外著多数
隆有(りゅうゆう・四条) → *隆有*(たかあり・四条/西大路、廷臣/記録)Ｌ２６５４
隆祐(りゅうゆう・藤原) → *隆祐*(たかすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｃ２６８６
隆祐(りゅうゆう・八条) → *隆祐*(たかさち・八条、廷臣) Ｌ２６９０
隆友(りゅうゆう・吉田) → *浄友*(じょうゆう・吉田よしだ、幕府医官) Ｌ２２７７
隆雄(りゅうゆう・興野) → *隆雄*(たかお・興野おきの、造林業) Ｌ２６６１
竜雄(りゅうゆう・雲井) → *竜雄*(たつお・雲井くもい、藩士/詩人) Ｇ２６１７
竜雄院(りゅうゆういん) → *日叡*(にちえい;法諱、日蓮僧) ３３６６
F4983 立歟(りゅうよ) ？- ？ 大阪俳人;立圃門、1660頃立圃「あだ花千句」参加
F4984 隆誉(りゅうよ;法諱・慈雲房;字)1653-1711*59* 江前期京の真言宗六波羅蜜寺の学僧、
元禄1688-1704頃山科妙智院・六波羅蜜寺に住、釈迦院大僧正の法を受、
智山における事相の達匠として知られる、「四度幸聞記」「薄草子二重幸聞記」著、
「護摩幸聞記」「十六道幸聞記」「伝法灌頂幸聞記」、1700「要法授訣鈔」08「智山法則集」外著多
竜誉(りゅうよ・吟蓮社) → *霊雲*(れいうん;法諱、浄土僧) ５１１３
隆膺(りゅうよう・楢山) → *隆膺*(たかむね・楢山ならやま、国学/歌人) Ｎ２６３４
柳葉軒(りゅうようけん) → *似船*(じせん・富尾、俳人) Ｅ２１４０
柳羊子(りゅうようし) → *十口*(じっこう・青木/柳/広瀬、俳人) Ｅ２１８５
竜翼(りゅうよく・伊東) → *祐雄*(すけお・伊東、藩士/武芸;泳法) Ｇ２３０９
隆頼(りゅうらい)すべて → *隆頼*(たかより)
竜雷神人(りゅうらいしんじん)→ *貫道*(つらみち・大神おおが/山口、神職) Ｅ２９４８
柳々居(りゅうりゅうきょ) → *宗理*(初世そうり・俵屋たわらや、絵師) Ｄ２５１２
柳々居辰斎(りゅうりゅうきょしんさい)→ *辰斎*(しんさい・柳々居、絵師) Ｅ２２２０
柳々斎(りゅうりゅうさい) → *春亭*(初世しょんてい・勝川、絵師) Ｋ２１３０
柳々山人郊子(りゅうりゅうさんじんこうし)→*柳郊*(りゅうこう・式上亭、絵師) Ｄ４９８１
柳々子(りゅうりゅうし) → *種彦*(2世たねひこ・柳亭、仙果、合巻) ２６４４
柳々人(りゅうりゅうじん) → *青千*(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) Ｊ２４０５
F4985 柳良(りゅうりょう;号・片岡かたおか)1714-78*65* 羽後阿仁吉田の肝煎、俳人:窪田の俳僧也柳門、
阿二美濃派とも称すべき一派を広める、「落葉集」著、良旦の兄
隆量(りゅうりょう・四条) → *隆量*(たかかず・四条しじょう、廷臣/連歌) Ｌ２６６８
隆量(りゅうりょう・鷲尾) → *隆量*(たかかず・鷲尾わしのお/広橋、廷臣) Ｌ２６６９
隆良(りゅうりょう・四条) → *隆良*(たかよし・四条/鷲尾、廷臣/歌) Ｅ２６０６
隆亮(りゅうりょう・荻野) → *隆亮*(たかあき・荻野おぎの、藩士/本草学) Ｌ２６４２
竜霊瑞(りゅうりょうずい) → *竜霊瑞*(りゅうれいずい、曹洞僧) Ｆ４９８６
柳緑(りゅうりょく) → *柳几*(りゅうき・横田よこた、酒造業/俳人) Ｄ４９３０
F4987 留倫(りゅうりん・無極庵) ？- ？ 俳人:旨原門、旨原没後の草稿を校訂整理;
1778「屠竜工とりょうこう随筆」として刊行、1776「風月集」(;去留と共編)、「安永句合」編
隆林(りゅうりん・山本) → *隆林*(たかしげ・山本やまもと、国学者/歌人)２７２０
柳隣(りゅうりん) → *寥和*(りょうわ・大場、咫尺、俳人)
龍鱗(りゅうりん・笠原) → *雲渓*(うんけい・笠原/小笠原、儒詩人) Ｂ１２１０
龍鱗庵(りゅうりんあん) → *素月*(そげつ・藤井ふじい、華道家/俳人) Ｄ２５６７
龍鱗庵(りゅうりんあん) → *義端*(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学)Ｌ１６１８

柳隣庵(りゅうりんあん)　→　*国甫*(こくほ・吉田、俳人)　Ｍ１９２１
龍鱗翁(りゅうりんおう)　→　*義端*(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学)Ｌ１６１８
竜鱗館(りゅうりんかん)　→　*雅徳*(まさのり・松本まつもと、藩士/歌人)　Ｓ４０７７
竜鱗亭(りゅうりんてい)　→　*士前*(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人)　Ｕ２１１８
竜鱗亭(りゅうりんてい)　→　*千年*(ちとせ・今村いまむら、神職/国学/歌)Ｍ２８１２
隆礼(りゅうれい・稲葉)　→　*蔦蹊*(ちょうけい・稲葉、儒者)　Ｈ２８９８
隆礼(りゅうれい・高野)　→　*隆礼*(たかのり・高野たかの、、和算家/教育)Ｍ２６８８

F4986 **竜霊瑞**(りゅうれいずい/りゅうりょうずい、田中平八郎重胤男)1740-1804*65* 尾張春日井郡上原の曹洞僧:
1750(11歳)名古屋霊源寺2世物道茂桂門;出家/下野成高寺27世温霖岱潤門;嗣法、
名古屋観音寺・大光院・万松寺・春日井郡平田寺を歴住、
その間に名古屋梅屋寺・万年寺・安栄寺を開山、長門萩の亨徳寺に没、
1804(文化元)「竜道人語録」「霊瑞和尚語録」著、
[竜霊瑞(;通称)の幼名/法諱/号/別通称]幼名;竜之進、法諱;霊瑞れいずい/りょうずい、
号;竜道人、別通称(後世);竜道霊瑞/竜霊瑞太

隆廉(りゅうれん・西大路)　→　*隆廉*(たかかど・西大路にしのおおじ/藤原、廷臣)Ｙ２６８０
隆璉(りゅうれん・榎並)　→　*隆璉*(たかてる・榎並/源、国学者/歌)　Ｄ２６０９

F4908 **柳廬**(りゅうろ・上条かみじょう、横井弥三右衛門男)1755-1820*66*　和泉堺の奉行所付与力、
儒;橘庵北山元章門、兵法家;信玄流刀槍騎射など、父(横井家養子)の本姓上条家を継嗣、
妻;上条多鶴(字;子禽、画/書に長ず)、門前の柳樹に因み柳廬と号す、
儒医;橘庵北山元章門;1788「橘庵詩鈔」跋文執筆の一人、
兵学;信玄流を修学/文章・詩賦に長ず、奉行所属吏の子弟教育、致仕後は一絃琴を能くす、
上條家は甲斐武田家出身;5世可一の時堺奉行所与力;以後和泉堺に定住、
父弥三右衛門は上条五兵衛の弟で横井家の養子/五兵衛の息子兵太郎が夭折、
柳廬が上条家を継嗣;兵太郎の娘多鶴を妻とす、
[柳廬(;号)の幼名/名/字/通称]幼名;山三郎、名;公美きみよし、字;賓王、通称;作之右衛門

F4988 **柳浪**(りゅうろう・馬田うまた、広津藍渓2男)?-?　筑後久留米の医家の生/長崎の医者馬田家の養子、
摂津大坂米屋町で医業、和漢学;特に中国白話小説に精通/戯作者;読本・滑稽本作者、
銅座役人で大阪滞在の大田南畝と親交/曲亭馬琴と交流、1801(享和元)「本道医療近路」編、
1810(文化7)「朧月夜物語」11「朝顔日記」20「朧月夜恋香繍史」21(文政4)「滑稽臍磨毛」著、
[柳浪(;号)の名/字/別号]名;昌調/弘麟/光昇、字;国端、
別号;天洋/稗海亭/雨香園/嘴天狗百癡くちばしてんぐひゃくち

F4989 **柳浪**(りゅうろう・松崎まつざき、商山男)1801-54*54*　江戸の儒者;林述斎門/1843昌平黌学問所儒員、
文章家、嘉永頃アメリカ大使浦賀来航時に林復斎大学長と外交交渉に当る;文書作成、
「柳浪日抄」「寄吾軒日抄」「懐松先生文」「松崎柳浪文稿」著、
[柳浪(;号)の名/字/通称/別号]名;純倹、字;子屋、通称;満太郎、別号;懐松/拙修主人、
法号;真竜院

龍龐(りゅうろう・道海)　→　*龍龐*(りゅうほう;道号・道海、曹洞僧)　Ｆ４９６６

F4990 **立和**(りゅうわ)　？－　？　江戸雑俳点者、1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」入

F4991 **立和**(りゅうわ・横井よこい)1691-　1767*77*　尾張名古屋藩士、俳人:巴静門、
1758(宝暦8)「梶のふな手」編、
[立和(;号)の通称/別号]通称;市右衛門、別号;樗散房ちょさんぼう

F4992 **立和**(りゅうわ・燕)　？－　？　江後期の俳人:吾山門、師没後;師竹庵を継承、
1790「東海藻」編、　[立和(;号)の別号]　師竹庵2世

柳和軒(りゅうわけん)　→　*幾音*(器音きおん・中堀、俳人)　１６８４
柳和舎(りゅうわしゃ)　→　*直弼*(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学)Ｂ３２３９

F4993 **柳湾**(りゅうわん・館たち、小山安兵衛男)1762-1844*83* 越後新潟大川端の廻船問屋の生、
父の実家の館源右衛門徳信の養子、1771(10歳)江戸の亀田鵬斎門、幕府勘定方の役人、
1800飛騨郡代小出大助の元締手付として高山に赴任;04江戸に帰る/1827(57歳)致仕、
詩作・詩の添削・篆刻・著述に専念、1807「晩唐十家絶句」編・「授時図略解」/10「四詠唱和」著、
1821-41(文政4-天保12)「柳湾漁唱」、1831「林園月令」編/33「荒年充糧志」「山村充糧志」著、

「詠茶詩録」編/「柳湾詩鈔」「柳湾余唱」「茶山集」「三余堂詩集」「雙畳集」「晩唐詩腋」著、外多、
[柳湾(;号)の名/字/通称/別号]名;機、字;枢卿、通称;雄次郎/雄二郎、
別号;石香斎/駟台耄叟ぎょだいぼうそう/賞雨老人、法号;温静院

利与(りよ・前田) → *利与*(としとも・前田、藩主/詩) Ｎ３１０４
旅(りょ;一字名) → *雅親*(まさちか・飛鳥井/藤原、歌/蹴鞠/連歌)４０１１
侶(りょ・溝口、侶姫) → *観如夫人*(かんにょふじん・溝口みぞぐち/松平、歌)Ｖ１５８５

F4994 旅庵(りょあん・新納にいろ、康久男)1553-1602*50* 初め時宗僧;肥後八代の荘厳寺住職;長住名、
1587島津義久の要請で還俗/島津義弘に出仕;武将として地頭職・家老職;新納旅庵と称す、
1592文禄の役・1600関ヶ原戦に従軍;関ヶ原敗戦後に島津家本領安堵に尽力、
1591-1602(天正19-慶長7)「新納旅菴自記」、「新納旅庵勤功記」「新納旅庵記」著、
[旅庵(;号)の法諱/通称/別号]法諱;長住、通称;久右衛門、還俗後の別号;休閑斎、
法号;天誉昌運居士

慮庵(りょあん) → *季吟*(きぎん・北村、古典学/俳/歌人) １６０６

F4995 良(りょう・秋元あきもと、徳裕男)1773-1824*52* 常陸笠間藩士、儒;年少時吉田立節・依田松軒門、
1793中小姓;江戸の関松窓門/1794(寛政6)家督継嗣/のち再び江戸で古屋昔陽門、
笠間に開設した欽古塾は1817藩校時習館に昇格;初代教授に就任/兵学・馬術に通ず、歌人、
1823「時習館功令学則」「欽古遺稿」著、
[良(;名)の幼名/通称/号]幼名;忠蔵、通称;純一郎/武兵衛、号;浚郊

M4927 亮(りょう・町原まちはら、号;圯橋いきょう)?-1904 越前鯖江の国学者、近江高島郡に住、
歌;[鳰のうみ]入

了(りょう・渡辺) → *吉光*(よしみつ・渡辺わたなべ、武将) Ｈ４７５１
良(りょう・宮村/杉本) → *樗園*(ちょえん・杉本、幕府侍医) Ｋ２８１７
良(りょう・大塚おおつか) → *同庵*(どうあん・大塚、幕臣/蘭学) ３１９３
良(りょう・加藤) → *竹窓*(ちくそう・加藤かとう、儒者/詩人) Ｄ２８３７
良(りょう・西沢) → *子温*(しおん・西沢にしざわ、書家) Ｐ２１７５
良(りょう・中川) → *楽郊*(らくこう・中川なかがわ、藩士/学問) Ｂ４８１２
良(りょう・寺門) → *静軒*(せいけん・寺門てらかど、儒者、文筆家)２４０９
良(りょう・池部) → *清真*(せいしん;名・池部いけべ、和算家) Ｉ２４８７
良(りょう・木村) → *履軒*(りけん・木村きむら、儒者/書家) ４９９５
良(りょう・黒田) → *綾山*(りょうざん・黒田くろだ、絵師) Ｅ４９２２
良(りょう・笠原) → *白翁*(はくおう・笠原かさはら、医者/種痘) Ｃ３６７７
亮(りょう・並河なみかわ・なびかわ)→ *天民*(てんみん・並河、儒者/医/神道) Ｅ３０３４
亮(りょう・山本) → *梅逸*(ばいいつ・山本やまもと、絵師) ３６５３
亮(りょう・武田) → *梅竜*(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) Ｃ３６２０
亮(りょう・蒔田) → *雲処*(うんしょ・蒔田まきた、詩文/仏道) Ｄ１２８１
亮(りょう・坂本) → *葵園*(きえん・坂本さかもと、儒者) Ｉ１６４４
亮(りょう・渋谷) → *松堂*(しょうどう・渋谷しぶや、儒者;古義学)Ｏ２１９２
亮(りょう・原田) → *優游*(ゆうゆう・原田はらだ、医者/詩文) Ｄ４６９４
亮(りょう・池野) → *大雅*(たいが・池/池野、絵;文人画) Ｂ２６１２
亮(りょう・豊田) → *松岡*(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) Ｓ２２１５
亮(りょう・今村/山県) → *了庵*(りょうあん・今村いまむら/山県、医者) Ｇ４９０９
亮(りょう・上月) → *亮*(あきら・上月こうづき、地役人/歌人) Ｈ１０５３
亮(りょう・鈴木) → *亮*(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) Ｈ１０７５
涼(りょう、源範頼女) → *涼*(すずし/すずしき、源範頼女/女房歌人) Ｄ２３３５
諒(りょう・安部) → *惟貞*(これさだ・安部、国学/連歌) Ｏ１９３４
諒(りょう・太田) → *春平*(春比良はるひら・太田おおた、狂歌師)Ｋ３６７６
梁(りょう・日下くさか) → *陶渓*(とうけい・日下、儒者) Ｄ３１１６
梁(りょう・水原) → *宗梁*(むねはり・水原みずはら、神職/歌) Ｃ４２２５
梁(りょう・飯田) → *梁*(うつぱり・飯田いいだ/奥村、国学者) Ｅ１２４９
梁(りょう・烏谷) → *美教*(よしのり・烏谷からすや、神職/歌人) Ｍ４７３１

稜(りょう・佐伯)　→　*稜威雄*(いずお・佐伯さえき、神職/尊攘)　Ｋ１１２６
量(りょう・今田)　→　*量*(はかる・今田いまだ、藩士/国学・歌)　Ｊ３６７２
陵(りょう・浅野)　→　*主計*(かずえ・浅野あさの、医者)　Ｆ１５１８
領(りょう・後藤/安武)　→　*厳丸*(いずまる・安武やすたけ、藩士/儒者)　Ｆ１１７３
瞭(りょう・生田)　→　*万*(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)　４７４２
鏐(りょう/りゅう・山口/佐藤)→*尚中*(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医)　Ｍ２６５９
遼(りょう・小野寺/山口)→　*泰款*(たいかん・山口やまぐち、藩士/記録)　Ｊ２６５２
漁(りょう・山本)　→　*桃谷*(とうこく・山本やまもと、絵師)　Ｓ３１８９
漁(りょう・中島)　→　*雪楼*(せつろう・中島なかじま、藩儒/詩人)　Ｅ２４７２
利容(りよう・上田)　→　*利容*(としひろ・上田うえだ、藩士/漢学者)　Ｎ３１６１
利容(りよう・渡辺)　→　*利容*(としかた・渡辺、藩士)　Ｍ３１１８
利庸(りよう・堀)　→　*利庸*(としつね・堀/岡田、幕臣/歌人)　Ｍ３１９３
利庸(りよう・黒須)　→　*利庸*(としつね・黒須くろす、和算家)　Ｍ３１９５
利庸(りよう/としつね・木下)→　*台定*(きんさだ・木下、藩主/文教奨励)　Ｒ１６０２
利雍(りよう・滝川)　→　*南谷*(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人)　Ｊ３２００

F4996 **陵阿**(りょうあ:法諱/法師)　？－　？　南北期歌僧・頓阿と交友、極楽院に住?、
新続古今集(1876)、
[常に聞く世のうきことや山郷に住みはてぬべきたよりなるらむ](新続古:雑1876)

4914 **了阿**(りょうあ:法諱、俗姓;和田わだ)?-?　南北期僧;法師、佐々木高氏[道誉]の家臣、
連歌作者:菟玖波集2句入、
[月にこそともに見し夜は残りけれ](菟;恋873/前句;いにしへ人はまたもかへらず)

F4997 **良阿**(りょうあ:法諱、源全男?)?-　？ 1373存　時宗僧:法師/京金蓮寺の僧?/四条道場の時衆?、
連歌作者:善阿門、二条良基から古今伝授を受、大田垣忠説「砌塵抄ぜいじんしょう」入、
「慈元抄」に河内で切字無しの発句に長点をした逸話入、菟玖波集20句入、犬子集4句入、
[散らすなと風に物いふ花もがな](菟玖波集;二十発句/花下の連歌に)
[良阿(:法諱)の通称]四条の良阿(;馬上集入)/筑紫良阿(;筆のすさび入)/河内良阿

F4998 **量阿**(りょうあ:法諱)　？－　？　京五条堀川踊道場の時宗僧/連歌作者;
1453之基催「小鴨千句」参加:賢盛らと/1466(寛正7)心敬宗祇と「賦何人連歌」参加;7句入、
[人の声する村のはるけさ](賦何人;初表8/声はするが村は遠い、
前句宗祇;主ぬし知らぬ蘆火あしびは松に木陰こがくれて)

F4999 **凉阿**(りょうあ・野垣のがき/布垣ぬのがき、別号;凉阿坊)?-?　江中期俳人:美濃派五竹坊門、
1774(安永3)「五竹菴口訣」編/1775「神の桜」編

G4900 **蓼阿**(りょうあ・卯喬亭、葵山の弟)?-?　江中期俳人:1787兄葵山一周忌追善集編纂;
「一夏いちげ百歩(百歩集)」編(:1785蓼太「一夏百句」を所収)

M4922 **良阿**(りょうあ・野田のだ、通称;長十郎)1768-1834*67*　美濃岐阜の酒造業、
歌人;冷泉為則・為全ためたけ門

G4901 **了阿**(りょうあ・村田むらた、名;高風/直温)1772-1843*72* 江戸浅草黒船町煙管問屋村田屋の生(次男)、
1796出家;下谷坂本に退隠/一切経通読;和漢梵の書籍渉猟/歌;清原雄風門/書;沢田東江門、
俳諧/詩歌/絵画、1815「花鳥日記」18「おいまつ考」、「了阿墨叢」「了阿漫録」「了阿雑録」、
「了阿雑筆花鳥集」「村田了阿随記」「仏法随筆」「一枝堂全書」「墨林一枝」「異域事考」、
「考証千典」「感興漫録」、「現存童謡」編、箏曲;「吾嬬箏譜あずまことうた考証」、「了阿遺書」外著多数、
[了阿(:法名)の字/通称/号]字;春山、通称;小兵衛/小左衛門、
号;如春じゅしゅん/台麓/春枝堂/一枝堂/花鳥長老、法号;顕徳院

G4902 **亮阿**(りょうあ:法諱・実戒:字、俗姓;有沢)1800-82*83*　越中佐野天台僧;1817(18歳)比叡山に登る、
西塔金光院亮照門;出家、智積院学寮で倶舎・法相を修学、金峰山・金剛山で修行、
尾張長栄寺の亮潮門/1835長栄寺2世、名古屋藩主の帰依を受、維新後;1874大講義、
1877大阪四天王寺入;権大教正、「台密加持録」著、
[亮阿(:法諱)の号]　洞松/剛愚

量阿(りょうあ)　→　*智得*(ちとく;法諱、時宗3代遊行上人)　Ｆ２８０２
了阿(りょうあ・小泉)　→　*養正*(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶)　Ｈ４７０２

了阿(りょうあ・那波/吉川)→　*五明*(ごめい・吉川、商家/俳人)　Ｄ１９９３
良阿(りょうあ)　→　*通明*(みちあき・林はやし、藩士/歌人)　Ｂ４１０８
了阿一夢(りょうあいちむ)　→　*定広*(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人)　Ｊ２０５７
亮阿闍梨(りょうあじゃり/すけのあじゃり?)→　*兼意*(けんい;法諱・成蓮房、真言僧)Ｈ１８６５
凉阿坊(りょうあぼう)　→　*凉阿*(りょうあ・野垣のがき/布垣ぬのがき、俳人)Ｆ４９９９

G4903 **良庵**(りょうあん・片山かたやま、正盛男)1601-68*68*　父正盛(法橋/通仙院)は京の医者、
漢学;林道春と共に藤原惺窩門、武田流兵学を修学:兵学者として八家の奥旨を修学、
信濃松代藩主松平忠昌の招聘で藩士/藩主の移封で越前福井に移る、
幕府に招聘されたが応ぜず剃髪;医服を着す、1638「古戦場夜話」「古今兵歌集」、
「武鑑師伝」「奇正或問」「一騎受用抄」「一騎武者受用師鑑考訂抄」外著多数、
[良庵(;剃髪号)の幼名/名/号]幼名;源四郎、名;三盛、号;秋扇、法号;清澄院

G4904 **良庵**(良菴りょうあん・西村にしむら)?-　?　江前期備前の俳人・
1658梅盛「鸚鵡集」・63「落穂集」入、69維舟「筑紫紀行」入、76西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[月に光なき螢火や石河原](手鑑/石瓦[粘板岩で作った屋根瓦]をきかす)

G4905 **良安**(りょうあん/よしやす・寺島てらしま、字;尚順、号;杏林堂)?-?　江中期羽後能代の問屋尾張屋出身、
株を売却;大阪で医学/本草;伊藤良玄門/和気仲安門、お城入医官/法橋、和漢学、
1712「和漢三才図絵」105巻、22「済世宝」23「通俗三才諸神本紀」「諸宗管見」、「武徳安民記」編、
息　→　*潤流子*(潤流子かんりゅうし・寺島、医者/謡研究)Ｇ１５７３

G4906 **良庵**(りょうあん;通称・河口かわぐち、名:春益、良庵男)1670-1746*77*　伊予大洲の医者/のち長崎住、
1649来航のカスパル門?;アルマンス流の西洋医学を修学、「阿蘭陀和語集以呂波寄」編、
「加須波留流十七方」編、「阿蘭陀外療集」/1736「阿蘭陀外科正伝」46「アルマンス伝方」著

G4907 **梁庵**(りょうあん・)　?-　?　読本作者・都賀庭鐘門、
1771都賀庭鐘「四鳴蝉しめいぜん」校訂、都賀大陸「投壺今格とうこきんかく」校合

G4908 **良庵**(りょうあん・田中たなか)　?-　?　江中期書家;滕とう永孚えいふ門、篆刻;「笠沢印譜」著

G4909 **了庵**(りょうあん・今村いまむら/山県、今村長順3男)1814-90*77*　上州医者:1830江戸で漢学;佐藤一斎門、
医学;幕府の侍医多紀安叔門/外科術;紀伊の華岡清州門、
1858(安政5)江戸瀬戸物町で医を開業、兄長教の跡を継嗣;伊勢崎藩侍医、
維新後大学で皇漢医術を教授、晩年に祖父山県大弐の山県姓に改姓、浅田宗伯と交流、
1854「医穀いこう」61「脚気鉤要」62「医事啓源」64「鍼灸指掌」65「医事問答」、「古大医道史」著、
「医戒」「医学野稿」「脚気病考」「杏林余興」「諸家伝記」「水銀」「治痢論」「馬脾風考」外著多数、
[了庵(;号)の名/字/別号]名;亮、字;祇卿、別号;復庵

G4910 **良安**(りょうあん・黒川くろかわ、黒川治助玄竜男)1817-90*74*　越中新川郡の医者;父門、
1828(12歳)父に随い長崎:蘭語修得/医学;シーボルト門/諸国周遊/江戸の坪井信道門、
緒方洪庵と交流/1840帰郷、加賀金沢に赴き加賀藩老青山将監に出仕/1846藩主侍医、
藩校壮猶館創立に参画/種痘などに尽力/軍艦御用も兼務、維新後;金沢医学館設立に参画、
医学館教授、1844「医理学源」訳/52「蓮湖魚毒説」著、「医理学論」著、
[良安(;通称)の名/号]名;弼、号;静淵/自然、法号;良安院

G4911 **良庵**(りょうあん・宇佐美うさみ)?-　?　江戸の医者、「養生自得説」「冷飲自得説」著、
「蘄年堂雑記」「刺絡自得説附痧病説」著、
[良庵(;通称)の名/字/号]名;珍、字;子珠、号;蘄年堂きねんどう

了庵(りょうあん;道号)　→　*桂悟*(けいご;法諱・了庵、臨済僧/遣明使)１８４９
了庵(りょうあん;道号)　→　*慧明*(えみょう;法諱・了庵、曹洞僧)　Ｅ１３２８
了庵(りょうあん・熊谷)　→　*荔斎*(れいさい・熊谷くまがい、儒者/詩文)　５１２８
了庵(りょうあん・五十川)　→　*春昌*(はるまさ・五十川[河]いそかわ、医者)　Ｇ３６８３
了庵(りょうあん・新井)　→　*玄圭*(げんけい・新井あらい、医者)　Ｉ１８５２
漁庵(りょうあん;号)　→　*宗沅*(そうげん・南江、臨済僧)　Ｂ２５２９
良安(りょうあん・岡本)　→　*蘭斎*(らんさい・岡本、浄瑠璃)　Ｃ４８１４
良安(りょうあん/よしやす・狩野)→　*間斎*(かんさい・狩野かのう、儒者)　Ｑ１５６０
良安(りょうあん・井沢)　→　*榛軒*(しんけん・井沢いざわ、蘭軒男/医者)　Ｏ２２１５
良安(りょうあん・江川)　→　*松濤*(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人)　Ｌ２２１３

良庵(良安りょうあん・西村)→　*竹翁*(ちくおう・西村、俳人)　Ｃ２８６９
良庵(りょうあん・本間)　→　*俊安*(しゅんあん・本間ほんま、医者)　２１９２
良庵(りょうあん・杉田)　→　*玄与*(げんよ・杉田、書肆)　Ｍ１８６８
良庵(りょうあん・中村)　→　*知至*(ともゆき/ともなり・中村、国学/歌人)　Ｑ３１８８
良庵(りょうあん・松岡)　→　*雄淵*(おぶち・松岡、神道家)　Ｂ１４９１
良庵(良安/亮安/亮庵りょうあん・大村/村田)→*益次郎*(ますじろう・大村、藩士/兵学)Ｊ４００４
凉庵(りょうあん・鯉郷)　→　*鯉郷*(りきょう・凉庵、俳人)　４９６５
両庵(りょうあん・宮崎)　→　*睡鷗*(すいおう・宮崎/野田、藩士/武芸家)Ｅ２３１７
了庵慧明(りょうあんえみょう)→　*慧明*(えみょう・了庵、曹洞僧)　Ｅ１３２８
了庵桂悟(りょうあんけいご・仏日禅師)→　*桂悟*(けいご・了庵、臨済五山僧)１８４９
竜安寺仁栄(りょうあんじにんえい;法名)→　*勝元*(かつもと・細川、武将/連歌)Ｆ１５４８

G4912 **良意**(りょうい:法諱、法師)? -　?　平安後期叡山僧;阿闍梨/歌人;
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、
[山風に梢ひびきて鳴く蝉の声にや秋の色を染むらん](賢聖院歌合;七番左13)

M4963 **良伊**(りょうい:法諱、伊時これとき[従三位中将/1237没]男)?-?　鎌倉期;興福寺僧;権律師/少僧都、
伊長これなが(正四下中将)の弟/房禅(法印権大僧都)の父、歌人;1237刊楢葉集2首入、
[たがやどのふるきまがきのあとならむあるじもしらぬとこなつ花](楢葉;夏170)

G4913 **良懿**(りょうい:法諱)　? - 1544　戦国期浄土僧:磐城専称寺7世、
名越派相伝の奥義書目をまとめる;「月形函重書之目記」著

G4914 **了意**(りょうい::法諱)　? -　?　安桃期天正1573-92頃成田氏長の家臣、僧、
連歌:紹巴門、1586「天正十四年了意独吟何船百韻」88「了意千句」、「了意独吟懐旧百韻」著、
「紹与了意両吟百韻」「了意宗務等百韻」「了意能札両吟百韻」参加、
連歌作法書「連歌初心抄」1627刊(;宗碩?著の同名別本あり)
[梅が香かや更に天みつ時津風](了意千句;第一発句)

4915 **了以**(りょうい・吉田・角倉すみのくら、名;光好、吉田宗桂男)1554-1614*61*　京豪商・和算/地理、素庵の父、
安南と朱印船貿易;角倉船/大堰川富士川天竜川などの河川水路開削、京高瀬川開削

G4915 **両以**(りょうい・中島なかじま、長右衛門[3代目美濃屋助右衛門]2男)1604-? 1675存　京の質商の生、
祖父中島両佐の養子;祖父没後1619(16歳)美濃長良で商売(;家はもと長良の地侍)、
1639材木商に転換;尾張藩御用を務める、さらに美濃茶・北国の材木・俵物取引に拡大、
大阪・江戸・敦賀に定手代を置く豪商に成長、1675(延宝3)「中島両以記文」著、
[両以(;名)の幼名/通称]幼名;次良助、通称;美濃屋助右衛門(4代目)

G4916 **了意**(りょうい・鷺さぎ、伝右衛門政俊、長命又之丞男)1608-80*73*　鷺流狂言師;右衛門家の祖

4916 **了意**(りょうい・浅井あさい)1610?-1691*82?*　父は摂津三嶋江の真宗大谷派本照寺住職;
宗門から追放される、了意は容膝(天海僧正の高弟)門/儒仏神参教に精通、
出家;京の真宗正願寺2世住職、唱導家として布教活動、仏典訓詁、著作活動、
亡父の摂津本照寺再興を本山に願出て同音の本性寺の紙寺号を許可;署名は本照寺とす、
仮名草子30余著・俗解仏教書15余著、
仮名草;「御伽婢子」「狗張子」「堪忍記」「東海道名所記」「浮世物語」「孝行物語」「狂歌咄」等、
仏書;「浄土三部経鼓吹」「浄土三部経註解鈔」「説法々語鼓吹」「法林樵談」等、
[いとおしき子には旅をさせよといふ事あり、万事思ひ知るものは旅にまさる事なし]
(東海道名所記)
[了意(;号)の別号]　松雲/瓢水子/羊岐斎、晩年;本性寺昭儀坊了意と称す

G4917 **良意**(りょうい・本木もとき、祐斎[林治作]男)1628-97*70*　肥前長崎阿蘭陀通詞の本木家の祖、
1664(寛文4)小通詞/66大通詞役/95辞職を願出;新たに通詞目付を命ぜらる、
剃髪し良意と改称、通詞職の傍ら商館付医師ライネらから西洋医学を修学、
ドイツ医師ヨハネス=レムメリンの解剖書の蘭訳本により解剖図と説明書「験号」訳;
「和蘭全躯内外分合図及験号」訳;刊行、良固の父、
[良意(;剃髪後通称)の名/別通称/法号]名;栄久、別通称;庄太夫、法号;良意栄久居士

G4918 **了為**(りょうい;法諱・絶学ぜつがく;道号)?-1726　肥前の曹洞僧;肥前高伝寺兀山恵光門;嗣法、
1709加賀大乗寺30世住寺、

「宝鏡三昧猶耳」「参同契宝鏡三昧猶耳」著/「参同契宝鏡三昧随聞記」編
G4919 **良以**(りょうい・野間のま)　？－　？　江前期;詩人、
1700三千風「倭漢田鳥でんちょう集」漢和半歌仙入
G4920 **了怡**(りょうい・鳥羽とば)　？－　？　江中期備中の故実家、
1771刊「婚礼祝儀箱」、「嫁入談合柱」著
G4921 **了意**(りょうい・古筆こひつ;家名、姓;平沢、神田道僖[定武]男)1751-1834*84* 鑑定家;古筆家8世了泉門、
8世了泉没後師家を相続;古筆家9世/琴山の印を継承、「探幽臨画」編、了伴りょうはんの父、
[了意(;号)の名/通称/別号]名;定常/最長、通称;半之丞、
別号;琴山(了佐以来の印名)/鑑覚庵道古、　古筆家系図→[了佐りょうさ]参照
了意(りょうい;法名)　→　*重経*(しげつね・高階たかしな、廷臣/歌人)　Ｃ２１４８
良以(りょうい・贄川)　→　*良以*(よしもち・贄川にえかわ、儒/地誌家)　Ｏ４７３２
良為(りょうい・日比野)　→　*良為*(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算家)４７２２
良意(りょうい・笹山)　→　*東明*(とうめい・度会わたらい、藩絵師)　Ｔ３１４４
良意(りょうい・小豆沢)　→　*良意*(よしのり・小豆沢あずきざわ、歌人)　Ｌ４７２６
良偉(りょうい;初法諱)　→　*性激*(しょうとん;法諱・高泉;道号、黄檗僧)Ｐ２１５７
稜威神習所(りょうい[みいつ]しんしゅうじょ)→*豊嗣*(とよつぐ・岡本わおかもと、商家/歌人)　Ｕ３１６０
稜威雄(りょういゆう・佐伯)→　*稜威雄*(いずお・佐伯さえき、神職/尊攘)　Ｋ１１２６
G4922 **良印**(りょういん;法諱、衣笠家良男)?-?　鎌倉期天台園城寺の僧:法印、
歌人;万代集入、続古今集(1268)、
[われながらかはる心のゆくすゑを知らでや人の契りおきけん](続古今;恋1268)
M4966 **良胤**(りょういん;法諱、)　？－　？　平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[楢葉集]8首入、
[光明院にて人々秋の歌よむ　秋の関、
山の端に待ちいづるかげも深き夜を月にかこちてあくるせきのと](楢葉;羈旅642)、
[不退寺(業平寺)にて六首歌　業平故事、
こけのしたにわが身ひとつはくちぬれどはるやむかしの名こそふりせね](楢葉;930)
G4923 **良胤**(りょういん;法諱・大円;字)1212-91*80*　丹後三重郷の真言僧:1227宮津大谷寺閑観門;
出家/1237上京;醍醐寺金剛王院の実賢門;三宝院・金剛王院両流の伝授を受、
1268洛東観勝寺に移住;亀山天皇の帰依を受く、三宝院流岩蔵方の祖、
「野沢大血脈」「秘蔵雑記」「許可口伝」著、「塵袋」著?、
[良胤(;法諱)の通称]　観勝寺上人/岩倉上人
G4924 **良筠**(りょういん;法諱・節庵せつあん;道号、俗姓;岡部)1458-1541?*84*(1544or45没説あり)武州足立郡生、
曹洞僧;18歳の時武州越生の竜穏寺3世泰叟妙康門;出家、同寺4世天庵玄彭門;得度、
諸師に歴参後;江戸芝青松寺2世喜州玄欣門;嗣法、青松寺3世となる、武州大泉寺7世、
1530越生の竜穏寺7世、武州大宮万年寺・武州川口金剛寺など開創、
「節庵良筠禅師語録」「龍穏寺境地因縁記」著、
[良筠(;法諱)の別法諱説]　良均りょうきん/良拘りょうこう
G4925 **良隠**(りょういん;法諱・温山;字、俗姓;曾和/修姓;岨1748-97*50歳*　伊勢松阪愛宕町曹洞僧;
養泉寺に養育、画;安永天明1772-89頃京誓願寺の佚山黙隠門/篆刻:高芙蓉門、
帰郷;養泉寺・常足庵に住、書にも長ず、1762「百福寿印譜」著、
[良隠(;法諱)の通称/号]通称;利右衛門、号;松城/枇杷庵/晩翠庵
G4926 **了允**(りょういん・岡おか、医官森正義男)1791-1830*40歳*　幕府医官;/西丸侍医/詩歌を嗜む、
安積艮斎と交流、1820「小児戒草」21「育嬰窺斑」、「義士談叢」「痘診一家言」著、
[了允(;号)の名/字/別号]名;茲、字;子明、
別号;勁斎けいさい/靠天こうてん/櫟仙れきせん院、法号;靠天院
良尹(りょういん・月輪)　→　*良尹*(よしまさ/よしただ・月輪つきのわ/藤原、廷臣/歌人)Ｇ４７９５
良印(りょういん;法諱・月泉)→　*月泉*(げっせん;道号・良印、曹洞僧)　Ｈ１８１３
良因(りょういん・榎並/永田)→*貞柳*(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、商家/狂歌)３００９
良蔭(りょういん・井桁)　→　*良蔭*(よしかげ・井桁いげた、庄屋/国学)　Ｌ４７３９
良胤(りょういん・森)　→　*良胤*(よしたね・森もり/源、国学者)　Ｅ４７３８

了因(りょういん・藤本)　→*箕山*(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/俳人)１６１３
椋蔭(りょういん・田中)　→　*義村*(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌)Ｎ４７６４
良因朝臣(りょういんあそん→よしよりのあそん)→*素性*(そせい;法諱、廷臣/僧/歌人)２５２３
了因坊(りょういんぼう)　→　*日求*(にちぐ;法諱、智門院、日蓮僧)　Ｂ３３４６

G4927 **了雨**(りょうう・吉田よしだ、戸枢庵)?-? 1749存　京の俳人:才麿門、大阪住、
1734「誹諧松影」編(;了雨社中の歳旦帳)//35「此君集」「除元詠」編、「梅の朝」著、
師才麿追善集;40三回忌「波の入日」/44七回忌「俳諧梅の手本」/49十三回忌「二日影」編
1749(寛延2)「蕉翁十三回忌追福」編

L4921 **良雨**(りょうう)　?-　?　江中期江戸俳人;旧室門、宗因座沾涼側点者、
1754竹翁「誹諧童の的」点句入

G4928 **凉宇**(りょうう・根岸ねぎし、名;保固)1732-94　武蔵青梅の豪農;代々青梅縞の仲買商、
俳人:1759頃涼袋(建部綾足)門、師没後;吸露庵2世を名乗る、
1793頃京の二条家より花の下の称号を許可、晩年は闌更・重厚と交流、
1763涼袋「古今俳諧明題集」40句入、1781「春興窓の梅」編、
[凉宇(;号)の通称/別号]通称;孫兵衛、別号;吸露庵2世/黄橘楼/風後
蓼雨(りょうう)　→　*柳居*(りゅうきょ・佐久間、俳人)　Ｄ４９３３
凌宇(りょうう・伊東)　→　*燕凌*(えんりょう・伊東[2世]、講釈師)　Ｂ１３３８

G4929 **了雲**(りょううん;法諱、国造済氏男)?-?　鎌倉末-南北期の歌僧、拾遺現藻集・続現葉集入、
藤葉集入、勅撰3首;続千載(818)続後拾(580)新千載(1852)、
[旅衣夕ゆふ越えかかる山の端はにゆく先見えていづる月影](続千載;羈旅818)
[霜はらふあしのかれ葉の風さえてひまなくこほる昆陽こやの池水](藤葉;冬347)

G4930 **良雲**(りょううん;法諱)　?-　?　南北期歌僧、権大僧都、歌;続千載集1847、
[山かげはうき世のほかと思へども涙はなれぬ墨染の袖](続千;雑1847)

G4931 **亮運**(りょううん;法諱)　?-　? 1637存　天台僧;常陸黒子千妙寺17世、僧正、
「三識記」「得縄」「仏舎利之功徳」著

G4932 **良運**(りょううん;法諱・自証;字、号;月心)1635-1704*70* 江前期天台僧;幼時に三光院良賢門;出家、
常陸月山寺で修学/1662叡山僧:西塔本住院に住、1674武蔵金鑽山に転ず/下野宗光寺33世、
1697(元禄10)幕命で上野世良田の長楽寺に移住;権僧正、良然の師、
1669「十不二門指要鈔竹隠草書」、「儒仏論肝要鈔」「修験行満雑記」「童蒙策励」外著多数

G4933 **凌雲**(りょううん・関矢せきや)　?-　?　江前期寛文1661-73頃;越後東頸城郡松之山郷の国学者、
広く古典に通ず/詩歌・書を嗜む、生涯不眠の奇人北越の凌雲と称される、
「越後風土考」「政道要覧」著、[凌雲(;号)の通称]　源之助

G4934 **良雲**(りょううん)　?-　?　江前期俳人;1683自悦「空林風葉くうりんふうよう」入

G4935 **了雲**(りょううん・小栗おぐり)　?-　?　謡曲研究、1729以前「謡註解」著

G4936 **了雲**(りょううん;法諱)　?-　?　江中期真宗大谷派僧:近江西覚寺住職、贈擬講、
1722(享保7)刊「親鸞聖人行状記」、「往相行信論」「正信偈観瀾記」「浄土無尽燈録」、
「浄土和讃鑑醜記」「愚禿鈔登高賛」「一枚起請文岐帰」「帰命或問」「浄土一念業成訣」外著多

G4937 **亮吽**(りょううん;法諱)　?-　? 1807存　江後期天台僧:播磨加西郡道山村の林谷庵住、
1741「十八道真言句義」/1804「法曼流印信」、「秘山灌印信」「三部血脈私集相伝」著

G4938 **凌雲**(りょううん・柳田やなぎだ)1797-1859*63*　尾張中島郡馬寄村の医者/上京:中神琴渓門、
帰郷し医を開業/永田徳本に私淑/1844(弘化元)名古屋藩に出仕;用人支配、蘭方も修学、
1859寄合医、「丸散技術活用経験方」「薩摩物語」/1858「医方要略」著、
[凌雲(;号)の名/字/通称]名;政矩、字;鵬巣、通称;良平

M4946 **霊雲**(りょううん;法諱、号;栗棘庵りっきょくあん)?-1851　下総の時宗僧、歌人;神山かみやま魚貫なつら門、
下総香取郡名古屋村の時宗乗願寺住職

G4939 **凌雲**(りょううん・羽生はにゅう)1823-1900*78*　初め伊勢桑名藩士/医者;東西の医術を修学、
弘化1844-48頃陸前登米に住;医者羽生玄探の養子;羽生家を継嗣、
登米伊達家当主邦教の命で時勢探査のため京に派遣される;広く列藩俊傑と交流、
佐久間象山と親交、維新後;桃生郡十五浜村長面浜に移住;自適の生活、
「時事雑纂」編/「秋宵閑話」著、

[凌雲(;号)の名/字/通称]名;致矯/雛、字;千年、通称;玄栄
G4940 凌雲(りょううん・田岡たおか、藩士田岡忠眞男)1833-8553 讃岐丸亀藩士/儒者;藩儒吉良鶴山門、
江戸で安井息軒門、勤王家;尊攘の志士と交流/帰藩後幽閉される、維新後1868赦免、
藩校助教/廃藩後は郡書記/塾開設;子弟教育、「禁錮詩存」著、
[凌雲(;号)の名/字/通称]名;賚、字;夢弼、通称;小輔
了雲(りょううん・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) Ｄ３７１５
了雲(りょううん;号) → 藤吉(とうきち・本屋ほんや、道具商/茶器鑑定)Ｃ３１６１
良運(りょううん・吉井) → 良運(よしかず・吉井よしい、神職/歌人) Ｑ４７０４
梁雲(りょううん;剃髪号) → 半太夫(はんだゆう・江戸、浄瑠璃太夫) Ｉ３６３９
凌雲(りょううん;字) → 在庵(ざいあん;道号・普在;法諱、臨済僧)Ｈ２００１
凌雲(りょううん・沼田) → 月斎(げっさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) Ｈ１８０５
凌雲(りょううん・服部) → 菅雄(須賀雄すがお・服部、国学/歌) Ｂ２３６１
凌雲(りょううん・松岡) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) Ｐ２０４０
霊雲(りょううん) → 霊雲(れいうん、説話伝承)
霊雲院(りょううんいん) → 宣紀(のぶのり・細川ほそかわ、藩主/詩人) Ｃ３５７２
凌雲院(りょううんいん) → 日尚(にっしょう;法諱、日蓮僧) Ｅ３３３０
涼雲斎(りょううんさい) → 門瑟(もんしつ・小宮山こみやま、俳人) Ｉ４４２４
G4941 凌雲亭和海(りょううんていわかい、姓;佐羽さば/名;重久)?-? 江後期上野桐生の狂歌作者:江戸浅草住、
壺側判者、「狂歌花鳥画集」編、
[凌雲亭和海(;号)の通称/別号]通称;桐屋源七、別号;茅月園ぼうげつえん守丸
凌雲堂(りょううんどう) → 自笑(3世じしょう・八文字屋、書肆/俳) Ｅ２１０９
凌雲堂(りょううんどう) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) ４６２８
凌雲堂(りょううんどう) → 尺竜(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) Ｄ２４９６
了雲坊(りょううんぼう) → 泰道(たいどう・林はやし、俳人) Ｂ２６９３
G4942 良恵(りょうえ;法諱・厳賢ごんけん;字、俗名;橘たちばな輔元)1089-1148 60 摂津茅原の融通念仏僧、
1126摂津神峰山寺に病気平癒を祈願;平癒後伽藍を建立、山城大原の良忍門、
融通念仏の聖となる、晩年神峰山阿路ケ谷に結庵、のち宗派では大念仏寺2世とす、
「融通念仏和讃」著
L4967 良恵(りょうえ;法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧;大法師/歌人;
1295以前「伊勢新名所絵歌合」参加、1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加、
[里の名を秋まで花に桜木とあだに頼むの雁やゆくらん](伊勢新名所;八番右16)、
[涙そふ老のながめのつらさにも今夜ぞ月の秋はしらるる](朝棟亭歌会;87)
G4943 了恵(りょうえ;法諱・大雲;号)?- ? 1362存 鎌倉南北期;上州の天台僧;上野崇福寺住、
のち上野世良田の長楽寺真言院住/了忍より都率流を受、了義の師、
1334「了因決」/62「離作業灌頂私記」、「蓮華院流灌頂私記」著
M4960 良恵(りょうえ;法諱) ? - ? 南北室町期の僧;法師、
歌人;1400(応永7)頃成立[菊葉きくよう集];2首入、
[けさ見れば夜の間に露や染めつらむ時雨も待たぬ薄紅葉かな]、
(菊葉;秋724/六十番歌合に)
G4944 良恵(りょうえ;法諱・舜空;字)1599-1674 76 摂津北花田の融通念仏僧:摂津大念寺42世良実門、
のち1660大念仏寺を継承;住職、在職時に山城大原の来迎院南之坊との本末争議あり;
幕命で大念仏寺が一宗の本山となる、1667本堂建立、1669退職/生家に舜空庵を結び隠居、
「法明上人記」著
G4945 亮恵(りょうえ;法諱) ? - ? 江後期大和の真宗本願寺派僧、
1839(天保10)「易行為品探要」/51(嘉永4)「観所縁々論記」、
「改悔文記」「浄土論随聞記」「唯識二十論術記聴記」「七祖開蘊録」外著多数
了恵(りょうえ;字・道光) → 道光(どうこう;法諱・了恵、浄土僧) Ｄ３１９９
了恵(りょうえ;法諱) → 流海(りゅうかい;法諱、真宗本願寺派僧)Ｄ４９１８
了恵(りょうえ;法諱) → 梅翁(ばいおう;号、真宗僧/俳人) ３６６７
良恵(りょうえ・土橋) → 良恵(りょうけい・土橋、連歌) Ｈ４９２２

G4946 **良栄**(りょうえい;法諱・高蓮社理本;法名、俗姓;石川)1342-1428*87*　陸奥小川浄土僧:良尊喜円門;
出家、成徳寺聖観門;名越派の奥義を受、奥羽・関東を遊化、
1402(応永9)下野芳賀郡舟橋に虎渓院創建・同郡大沢に円通寺建立、名越派の教化活動、
名越派中興の祖、聖冏と親交;白旗流義に通ず/藤田流義にも精通、聖欽・宥乾の師、
「浄土宗要集見聞」「往生要集見聞」「安楽集私記見聞」「往生論註記見聞」外著多数

G4947 **良永**(りょうえい・本木もとき、医者西にし松仙2男)1735-94*60*　1748肥前長崎阿蘭陀通詞本木良固の養子、
1749(寛延2)稽古通詞/87小通詞/88大通詞、年番通詞/江戸番通詞を勤める;
幕府の洋書舶載許可で多数の蘭書が輸入;その翻訳に没頭(吉雄耕牛・西善三郎らと)、
1790(寛政2)誤訳事件に連座;蟄居、のち幕命で「新制天智二球用法記」を翻訳;93呈上、
1787「地図国名訳」90「江戸道中日記」92「太陽窮理了解説」著(;地動説紹介の最初)、
「和蘭陀全世界地図書訳」「和蘭海鏡諸和解」訳、「本木家之日記」著、外翻訳書多数、
[良永(;名)の字/通称/号]字;士清、通称;栄之進/仁太夫、号;蘭皐、法号;清凛院

G4948 **亮英**(りょうえい;法諱・円空;字)?-?　1806存　天台宗小見富光山25世、
1784「出家功徳集」著/98「小見富光山縁由」著/98「良運伝記」編/1806「法華経談義本」著、
「亮英一代修善記」「要句雅語篇」著
[亮英(;法諱)の号]　蓮台庵/涅槃院/天竜堂/遊西子

G4949 **良英**(りょうえい・大石おおいし、本木昌造2男)?-1865　佐賀藩医/シーボルト門、1843医学校好生館の教導、
のち教頭、福地道林没後;藩主の執匙を務める、1849疱瘡流行に際し佐賀藩初の種痘接種、
「西医毘私格弗先生治験四条」訳、通称;小太郎

M4928 **了英**(りょうえい;法諱・松林まつばやし)1816-80*65*　武蔵比企郡松山町の真宗大谷派浄福寺住職、
京で修学/自坊に私塾[三要社]を開設;仏教・漢学を教授、平松理英・嵩かさみ俊海の師、
のち川越藩藩校松山分校博喩はくゆ堂の助教授、
[了英の字/号]字;墨鶏、号;松陵/夢自在/双清窩主人

G4950 **了栄**(りょうえい;法諱・広陵ひろおか)1817-1900*84*　能登広岡の真宗大谷派満覚寺の生、
近江愛知郡の宝満寺住職、1899講師、「改邪鈔講義」著、
[了栄(;法諱)の別法諱/諡号]別法諱;戒忍、諡号;開神院

了栄(りょうえい)　→　*少汝*(しょうじょ;号、小見山、真宗僧/俳人)Ｔ２２１４
良永(りょうえい・宇佐美)　→　*良永*(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者)Ｆ４７２８
梁穎(りょうえい・野田)　→　*石陽*(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学)　Ｄ２４９３

G4951 **了益**(りょうえき・赤松あかまつ、竜野城主赤松政秀男)1534?-1595*62*　播磨竜野の医者:久保玄静門、
歌/古典に精通、「古所歌寄集」、「播陽あだ物語」「播陽うつつ物語」「竜城聞書」著
[了益(;号)の名/別号]名;貞秀、別号:了斎

了益(りょうえき)　→　*立詮*(りっせん;法諱・泉秀、真言僧/詩歌)Ｃ４９０９
良益(りょうえき・坪井)　→　*信良*(しんりょう・坪井、医者)　Ｅ２２４３
良益(りょうえき・丸尾)　→　*清貞*(きよさだ・丸尾まるお、医者/歌人)　Ｖ１６３０

G4952 **良悦**(りょうえつ・星野ほしの、知近男)1754-1802*49*　安藝広島の医者:父門、
1791(寛政3)藩許を得て刑屍二体を解剖;工人原田孝次宣之に木製骨格を模作させた、
この骨格が[解体新書]の図と合致し蘭学の正確さを知る、
1798養子六石りっこく・中沢厚沢らとこの骨格見本を持って江戸の大槻玄沢に入門、
骨格見本は「身幹儀」と呼ばれ評判/原田孝次にさらに一体を制作させ幕府に献上、
1798「身幹正的」編/1802「身幹儀説」編、「木骨附説」著、
[良悦(;通称)の名/字/号]名;寧やすし/範寧、字;子康、号;柳子、法号;智徳院

G4953 **了悦**(りょうえつ;通称・丸山まるやま)?-?　江後期加賀金沢の医者;代々了悦を名乗る、
金沢藩御医師、1824「麻疹ニ付御食禁相調候帳面」著

良悦(りょうえつ・星野)　→　*六石*(りっこく・星野ほしの/土岐、良悦の養子、藩医)Ｂ４９７９
了右衛門(りょうえもん・今井)→　*宣政*(のぶまさ・今井いまい、医者/歌人)　Ｈ３５４１
良右衛門(りょうえもん・里見)→　*栄倫*(ひでとも・里見さとみ、料理人)　Ｄ３７３７
良右衛門(りょうえもん・若菜)→　*基輔*(もとすけ・若菜わかな/平/野城、国学)Ｌ４４９２
亮右衛門(りょうえもん・野本)→　*雪巌*(せつがん・野本のもと、藩儒/詩人)　Ｅ２４１２

M4964 **良円**(りょうえん;法諱、摂関九条兼実[1149-1207]男)?-?　母;藤原頼輔女、平安鎌倉期;興福寺僧、

一乗院僧正、禅定院住/興福寺別当/大僧正、後鳥羽天皇中宮任子(宜秋門院)の兄弟、
良通(内大臣)・良経(摂政)・良平(太政大臣)・良尋・良快(天台座主/大僧正)・良恵の兄弟、
歌人;1237刊素俊撰[楢葉集]2首入、
[たちかへるなみのたえまにきこゆなり秋風そよぐ伊勢のはまをぎ](楢葉;雑817)

G4954 **良縁**(りょうえん;法諱・無著むぢゃく;道号)?-? 鎌倉末期臨済僧;一山一寧門/入元20年、
清拙正澄・古林清茂に参禅/帰国後;既に渡来の清拙が1327鎌倉建長寺住持;その首座、
のち山城西善寺住持、「新羅箭」著

G4955 **良縁**(りょうえん;法諱) 1366 - 1421*56* 南北室町期の修験僧、
大峰山と葛城山で灌頂を始めた聖護院門跡良瑜の相伝を記述;
「大峰修行灌頂式」(:聖護院良瑜相伝筆記)

M4937 **了円**(りょうえん;法諱) ? - 1746 遠江周智郡の僧、国学・歌;依田正純(梅山)門、
信濃飯田の黄梅院住職

G4956 **了延**(りょうえん・古筆こひつ;家名、姓;平沢ひらざわ、古筆6世了音男)1704-74*71* 京の鑑定家;
古筆家7世を継嗣、「古筆類葉集」著、
[了延(;号)の名/別号]名;長泰/最門/市太郎、別号;玄仲庵/琴山(古筆家相伝の印名)
法号;玄仲庵長泰了延居士、古筆家系図→[了佐]参照

M4945 **亮衍**(りょうえん;法諱・歙浦きゅうほ;字、)1737-1806*70* 上野群馬郡の法雲山華蔵寺8世、修験僧、国学、
[亮衍の号/法名/法号]号;仮司馬/窺竜きりゅう/随応/獅子園、法名;良演、法号;浄聖院

菱園(りょうえん・宮村) → *定満*(さだみつ・宮村みやむら、商家/国学者)Ｐ２０５４
蓼園(りょうえん・藍沢) → *無満*(むまん・藍沢あいざわ、国学/俳人) Ｄ４２０１
蓼園(りょうえん) → *幸文*(たかぶみ・木下、歌人) ２６１５
蓼園(りょうえん・野矢) → *常方*(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌) Ｂ２９９６
蓼園(りょうえん・高橋) → *残夢*(ざんむ・高橋、国学/歌学) ２０５７
蓼園(りょうえん・村瀬) → *澹*(あわし・村瀬むらせ、製造業/歌人) Ｈ１０３８
蓼園(りょうえん・木村) → *千斎*(儼斎せんさい・木村きむら、医者/歌) Ｏ２４０９
蓼園(りょうえん・吉田) → *貞*(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師) ２７３０
良延(りょうえん・吉田) → *兼雄*(かねお・吉田/卜部、神道) Ｃ１５７０
良延(りょうえん・原/勝田)→ *五岳*(ごがく・勝田/原、藩士/儒者/医) Ｌ１９９２
良遠(りょうえん・松本) → *良遠*(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌)Ｐ４７２６
良縁(りょうえん;字) → *恵旭*(えぎょく;法諱、真宗僧/親鸞研究)Ｄ１３７２
良円(りょうえん・藤原) → *行意*(ぎょうい、天台園城寺僧/歌人) Ｃ１６１６
良演(りょうえん・浄聖院) → *亮衍*(りょうえん;法諱・歙浦きゅうほ、修験) Ｍ４９４５
良淵(りょうえん;字) → *宗淵*(しゅうえん;法諱、天台僧/声明) Ｇ２１８６
了遠(りょうえん/りょうおん;字)→ *日遵*(にちじゅん;法諱・長遠院、日蓮僧)Ｃ３３２４
了遠院(りょうえんいん/りょうおんいん)→ *日鋭*(にちえい;法諱、日蓮僧) ３３６５
良円房(りょうえんぼう) → *英明*(えいみょう;法諱、真言僧) Ｄ１３３８

G4961 **了翁**(りょうおう;道号・道覚どうかく;法諱、鈴木重孝男)1630-1707*78* 羽後雄勝郡八幡村の黄檗僧、
1631(2歳)母を喪い養子に出される/1641(12歳)曹洞宗竜泉寺に出家、臨済僧雲居希膺門、
のち黄檗僧;隠元隆琦・即非如一・高泉性**激**しょうとんに参禅;高泉の法を嗣ぐ、
霊夢に授与された錦袋円を販売する薬舗を1665江戸不忍池畔に開業;巨富を得る、
その利益で諸寺へ一切経納置・文庫設置・伽藍修復を援助/江戸大火罹災者の救済・施薬、
民衆より[菩薩]として崇拝、1691(62歳)山城宇治万福寺内に天真院を開創、
1702(元禄15)「了翁禅師語録」、「了翁自伝」著、
[了翁道覚の初道号] 祖休

G4957 **良応**(りょうおう;法諱、俗姓;大沢)?-1786 上州群馬郡貝沢村の真言僧;同村専福寺で得度、
1759佐波郡五料宿の常楽寺住職、「至徳山縁起」著

G4958 **了睦**(りょうおう;法諱・香流院;号)1756-1826*71* 加賀川北郡南森下の真宗大谷派光円寺に養わる、
奈良に遊学:寺務を顧みなかったため寺を放逐、のち加賀金沢の林幽寺に入;住職、
東本願寺高倉学寮に修学/1816(文化13)擬講、「改悔文録」「末燈鈔従解誌」著

G4959 **良応**(りょうおう;法諱) ? - ? 江戸後期加賀江沼郡山中の真言宗医王寺14世、

1812(文化9)「山中温泉縁起」/13「山中温泉湯治養生巻」著
G4960 **良翁**(りょうおう;法諱)　? -　?　江戸後期上州高崎の真言宗延養寺住僧、
1816「光明真言和解鈔」18(文政元)「真言日課鏡」27「以呂波便蒙抄」著
了翁(りょうおう;道号)　→　*祖因*(そいん;法諱・了翁、臨済僧/詩人)Ｌ２５３６
了翁(りょうおう;字)　→　*義教*(ぎきょう;法諱・了翁、真宗僧)　Ｊ１６９４
了翁(りょうおう・香取)　→　*明之*(てるゆき・香取かとり、狂歌作者)　Ｄ３００４
蓼翁(りょうおう・堀口)　→　*藍園*(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者)Ｂ４８６１
良屋(りょうおく・佐原)　→　*良屋*(かたすえ・佐原、幕臣)　Ｍ１５９６
稜屋(りょうおく・荒川)　→　*秀種*(ひでたね・荒川あらかわ、宿老/歌人)　Ｄ３７１７
L4933 **了音**(りょうおん;法諱)　? -　?　鎌倉期浄土僧;法興門;西山派を修学、
山城称名寺・本願寺の学頭、山城八幡・京の六角に住、1265「観経玄義分抄出」著、
「観経定善抄出」「観経序文義抄出」「観経散善義抄出」「観経疏鈔」著
G4962 **了音**(りょうおん・古筆こひつ;家名、姓;平沢、了珉2男)1674-1725*52* 鑑定家/古筆家6世を継嗣、
1713(正徳3)「手鑑代附目録」、了延りょうえんの父
[了音(;号)の名/別号]名;才三郎/最博、別号;琴山(古筆家相伝の印名)
法号;即悟庵真叟了音居士、古筆家系図→[了佐]参照
G4963 **亮恩**(りょうおん;法諱)　? - 1871　筑後久留米の高良山座主57世:僧正、
のち高良山三井寺(御井寺)51世住職、詩人:1858「也足窩詩鈔」著
了遠(りょうおん;字)　→　*日遵*(にちじゅん;法諱・長遠院、日蓮僧)　Ｃ３３２４
良音(りょうおん・石金)　→　*音主*(おとぬし・石金いしがね、国学/古言)　Ｂ１４８７
良温(りょうおん・八角)　→　*穆斎*(ぼくさい・八角やすみ、医者/歌・俳人)Ｄ３９１８
良温(りょうおん・河合)　→　*良温*(よしはる・河合かわい、藩士/医/儒/能)Ｇ４７１１
良温(りょうおん・水田)　→　*良温*(よしはる・水田みずた、和算家)　Ｇ４７１７
了遠院(りょうおんいん)　→　*日鋭*(にちえい;法諱、日蓮僧)　３３６５
G4964 **了可**(りょうか;法諱)　? -　?　鎌倉期近江の真宗大谷派徳満寺の僧、
1319「親鸞聖人行状記」著、「御絵伝私考」著
G4965 **梁瓜**(りょうか、土丸どがん;初名)?-　?　俳人;1772几董「其雪影」1句/73「あけ烏」歌仙7句入、
[蝙蝠かうもりに人商人あきんどの噂かな](あけ烏:122/夕涼み;昼間やって来た商人の噂話)
G4966 **凉花**(りょうか、別号;夏葉亭)?-1786　下総佐倉の商家/俳人:玄武坊門、
1786(天明6)「蓮の話」編
[凉花(;号)の通称]　小間物屋新兵衛
G4967 **蓼花**(りょうか・太田おおた/改姓;武市、主信男)1770-1840*71* 阿波徳島藩士;1790家督継嗣、
大坂藩邸留守居役、のち板野・勝浦・名東・名西の郡代を歴任、歌;外山光施門/俳諧;松後門、
大滝山に俳諧結社平生社を結成;阿波正風の祖の藤井機因の道統を興隆、
「阿波正風年譜」「祖谷山日記」、1824「俳諧附合日記」29「阿波国正門年譜」著
[蓼花(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;虎八、名;信孝/信圭、通称;章三郎/左兵衛、
別号;小春園/以旧堂
良嘉(りょうか・森)　→　*忠照*(ただてる・森もり、歌)　Ｕ２６９６
良華(りょうか・永野)　→　*通久*(みちひさ・永野ながの、医者・国学)　Ｊ４１９７
量夏(りょうか・津守)　→　*量夏*(かずなつ・津守、神職/歌人)　Ｃ１５２５

G4968 **良賀**(りょうが;法諱、秦道武男)1073前生?-?　尾張知多郡富田村の天台宗比叡山僧;
経蔵坊厳算阿闍梨門、比叡山東塔檀那院住/弟良忍の師、通称;持乗坊阿闍梨、
「註釈抄」「四相違指事」著
蓼莪(りょうが・穂井田)　→　*忠友*(ただとも・穂井田、幕臣/国学・歌)　２６２７
了我(りょうが・太田)　→　*惣吉*(そうきち・本屋ほんや/太田、茶道具鑑定)Ｇ２５７６
了我(りょうが;法名)　→　*貞佐*(ていさ・桑岡、初世平砂、俳人)　３００３
了我(りょうが・河田)　→　*安親*(やすちか・河田かわだ、藩士/歌人)　Ｃ４５０２
了雅(りょうが;字)　→　*先啓*(せんけい;法諱、真宗大谷派僧)　Ｆ２４２４
菱賀(りょうが・俳名)　→　*新五郎*(しんごろう・生島、歌舞伎役者)　２２２２

G4969 良海(りょうかい;法諱、治部大輔源雅光男)?-?　平安鎌倉期の僧;権僧正、歌人:風雅集1755、
[ひともとと思ひて植ゑし呉竹の庭見えぬまでしげるふるさと](風雅;雑1755)
G4970 良快(りょうかい;法諱、九条兼実男)1185-1242*58* 母;藤原頼輔女、九条良経の弟、1197(13歳)出家、
尊忠・慈円・覚什・性舜門;天台教学を修学、青蓮院門跡/1229天台座主75世/30天台大僧正、
1231四天王寺別当、晩年は比叡山飯室谷に退院/山城愛宕郡康楽寺に没、
「地蔵駆策法」「諸尊法私」「仏眼私上」「曼荼羅供私」「熾盛光私」「大随求法私」外著多数、
[良快(;法諱)の通称] 飯室僧正/妙香院僧正/本覚院僧正
G4971 了海(りょうかい;法諱)1213(or39)?-1306(or20)?*94?(or82)* ;出生・家系・経歴に諸説、
武蔵の真宗仏光寺派僧/武蔵児玉郡荒木門徒の光信(源海)より法義を受;麻布門徒を形成、
仏光寺派仏光寺4世、興正寺派興正寺4世、
麻布(阿左布)で親鸞に帰依し善福寺を開創したとの説あり、願念・明光の師、
「了海七首和讃」「他力信心聞書」/1300(正安2)「還相回向聞書」著、
[了海(;法諱)の幼名/号/諡号]幼名;松君、号;願明、諡号;華徳院
G4972 亮海(りょうかい;法諱) 1326 - 1399*74*　南北室町期常陸の天台僧;黒子千妙寺の亮澄門、
同寺寺務30年間、権僧正、一時葛川明王院住/師没後;千妙寺3世/千妙寺三昧流を相伝、
1371「十八道見聞」/87「諸国一見聖物語」「諸尊略要」、「三昧流由来事書」著
G4973 了海(りょうかい;法諱)　? - 1674　江前期肥後熊本の真宗本願寺派西光寺の住僧:
熊本延寿寺の月感門、[西吟月感諍論]を機に大谷派に転向、学寮開設に初代講者となる、
1666「浄土文類聚鈔直解」、「説法明眼論大疏」著
L4935 竜海(りょうかい;道号・実珠じっしゅ;法諱)?-? 1691存　江前期黄檗僧;10歳で江南門/出家、
のち桂巌明幢門;1691(元禄4)嗣法、肥前佐嘉郡三満村の大興寺2世;即宗寺開山、
「即宗開山大興二代竜海珠大和尚偈語」著
G4974 亮海(りょうかい;法諱・広山こうざん;号)1647-? 1699存　江前期天台宗叡山妙音院の住僧、
「辨財天修儀指南」「慈恵大姉二童子秘決」著
L4934 亮海(りょうかい;法諱・理覚院;号)?-?　江前期天台宗園城寺理覚院の住僧;権僧正、
1686「後光明院三十三回忌御忌御八講御経供養法則」著
G4975 亮快(りょうかい;法諱・存心;字)1661-1746*86*　新義真言宗の学僧、享保1716-36頃京の清和院住、
僧正、1735「顕密威儀便覧」/43「顕密威儀便覧続編」著
G4976 了海(りょうかい;法諱・単阿たんな;字)1663-1719*57*　武州浄土僧;春了上人門/1671小石川伝通院入、
のち芝増上寺に移住/山城紫竹の光念教寺に住、大坂和光寺で布教;本堂建立のため勧進、
妙蓮庵を中興、日蓮を攻撃した談義説法を上方で行う、施米をし人々を救済、
「垂示難波語録」著/1709「紫竹書翰往復」12「摧碾再難条目鈔」著、
[了海(;法諱)の法名] 照蓮社遍誉
G4977 亮海(りょうかい;法諱・如実にょじつ;字)1698-1755*58*　上州の真言僧:出家後京の智積院に修学、
故あって智積院を去る/大和東大寺・紀伊根来寺に住/のち紀伊荒川の法林寺住、著述専念、
1729「如実堂試問」41「因明論大疏判談記」/45「吽字義講筵」「秘蔵宝鑰講筵」「華厳五教章録」、
1746「菩提心論講筵」48「三論玄義抜出記」49「減縁減行闢異翼正記」53「冠註十住心論」、
「伝流耳底記」「因明三十三過本作法纂解講録」梵網経私見聞記」外著多数
G4978 亮海(りょうかい;法諱) 1708 -　? 1781存　江戸千駄木の天台宗大保福寺10世、阿闍梨、
「舎利行法秘記」「偈頌勘注不足追加」、1776「瑜祇切文秘決」79「不動能延六月法」著
G4979 亮海(りょうかい;法諱・行厳院ぎょうごんいん;号)?-?　京の天台宗白雲山勝軍地蔵院の長床坊住僧、
法印/大僧都、1845「愛宕大権現五大明王堂大護摩法則」/57「最秘類聚私抄」著
G4980 両檜(りょうかい・堀ほり、麦水男)?-　?　江中期俳人;
父麦水の7回忌追善集;八水編「阿羅屋[新亭]あらや」(1789刊)に追悼句入
G4981 凉介(りょうかい・新宮しんぐう/初姓;松山)1822-75*54*　紀伊荒川の生/1848上京;医者:新宮凉庭門、
凉庭の第3義子となる、越前福井藩に出仕、
1861-63「駆竪斎くじゅさい詩文鈔」校(;駆竪斎は凉庭)、「篠崎小竹篠崎竹陰新宮瓶城書翰」、
[凉介(;字)の名/別字/号]名;貞亮、初字あざな;文郷、号;瓶城/榴渓
参考　駆竪斎(くじゅさい)→　*凉庭*(りょうてい・新宮、蘭医)　Ｉ４９９９
G4982 凌海(りょうかい・司馬しば、島倉栄助男)1839-79*71*　佐渡新町の蘭医/1850江戸で初め儒;山田寛門、

蘭方医;松本良甫・佐藤泰然門、1857松本良順に随い肥前長崎へ/西洋医学;蘭医ポンペ門、
1861平戸藩医岡口等伝の女婿;離別し佐渡に帰郷;医を開業、
司馬に改姓/1868東京医学校教授、文部省・宮内省に出仕/語学;蘭・英・独語に精通、
私塾春風社を開設;独語を教授、1860「七新薬」著、
1872「和洋独逸辞典」著(;日本初の独和対訳辞書)、
[凌海(;通称)の名/字/別通称/号]名;盈之/津、字;士虧しき/士虖しこ/大伝、
別通称;亥之吉/亥之助/太仲、号;揖軒ゆうけん/無影樹下船楼/五洋学人/挹堂ゆうどう/蘭衝
了介(りょうかい・蕃山しげやま;変名)→ *蕃山*(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) ３６４２
了海(りょうかい・野尻/熊沢)→ *蕃山*(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) ３６４２
良懐(りょうかい・堤) → *良懐*(よしかね・堤つつみ、医者/歌人) Ｎ４７９３

G4983 **量外**(りょうがい;道号・寛江かんこう;法諱、俗姓;弘部)?-? 1802存 近江の曹洞僧;
近江高島郡今津の曹沢寺14世良関門/得度、曹沢寺17世大参使成門;嗣法、
1772(安永元)曹沢寺住寺、1787能登総持寺普蔵院に輪住、のち山城宇治興聖寺住、詩人、
丹波真福寺住、1797「寛江和尚語録」(没後刊)/1800(寛政12)「寛江詩集」著、

G4984 **菱涯**(りょうがい・長山ながやま、名;盛徳)?-? 江後期羽後秋田の文筆家、「秋城花街竹枝詞」、
[菱涯(;号)の字/通称]字;子明、通称;直記
両崖(りょうがい・岡原) → *常島*(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) Ｆ２９４６
蓼花園(りょうかえん) → *長延*(ながのぶ・中川、歌人) Ｆ３２１９
菱花園(りょうかえん) → *信人*(のぶひと・板垣いたがき、商家・狂歌) Ｈ３５３８

G4986 **亮廓**(りょうかく;道号・普宗ふしゅう;法諱、俗姓;鈴木)1709-69*61* 岩代小幡郷の曹洞僧:
1718(10歳)岩代仙林寺梅翁門;出家、1724江戸吉祥寺に修学/のち長門雲上寺住持、
岩代竜泉寺・竜穏院を歴住、1762(宝暦12)越後雲洞庵に住;没、
1737「紫芝林稿」編、「雲洞亮廓禅師語録」著

G4987 **凉閣**(りょうかく・新宮しんぐう、丹後田辺藩主古河主馬[白勝]5男)1828-85*58* 医者、
医;1841(14歳)新宮凉庭門、1847(20歳)凉庭の第二義子、
第一分家を立て在京のまま伊勢津藩医、幕末期に三国大学らと国事奔走、
維新後は京都医学界の重鎮、
1858「コレラ病論」共著(新宮凉閣と)、「コロリ記事」「熱病正義」「外用方府複方篇」著、
「鬼国先生(凉庭)言行録」著、
[凉閣(;字)の名/別字/号]名;柔吉、初字あざな;義健、号;白雲/寧寿堂先生

G4988 **寥廓**(りょうかく・飯川いいかわ)1838- 1902*65* 陸前仙台藩医;伊達慶邦夫人の侍医、
維新後海軍省に出仕/1871退職;医を開業、故実典故に精通/古文書画を蒐集、
1860「刀圭余録」、「冷廓詩文稿」「星孫兵衛家譜」「軍器秘数」著、
「蠖斎文詩稿」校訂(勝村蠖斎かくさいは仙台で講説した儒者)、
[寥廓(;号)の名/字/通称]名;勤、字;久中、通称;玄要
了廓(りょうかく;法諱) → *林篁*(りんこう、真宗僧/俳人) Ｋ４９２４

M4972 **良覚**(りょうがく;法諱、) ? - ? 平安後期;僧/法師、歌人;1165刊[続詞花集]入、
[八月十五夜頼基僧都まうでこむと申しておともせざりければつかはしける、
君まつと月をながめて明けぬればたのめてこぬもうれしかりけり](続詞花;788)
☆頼基らいき僧都(1051-1134/源基平男/園城寺僧/権大僧都/金葉集歌人)４８２９

G4985 **良覚**(りょうがく;法諱、右中将藤原実俊男)?-? 1303頃存(90余歳) 天台宗比叡山僧;公源法印門、
叡山東南院住;法印/大僧正、徒然草45段[堀池ほりけの僧正]のモデル、藤原公世の兄、
歌人:1292「厳島社頭和歌」/「嘉元百首」出詠、
勅撰16首;続古(785/1544)続拾(1101/1377)新後撰(4首)続後拾(1180)風(2087)以下、
[かしつつながきねぶりの覚めやせん待つ暁ははるかなれども]、
(続古今;釈教785/三会暁を思ひて)

G4989 **梁岳**(りょうがく;法諱・号;紫竹庵/七九庵)1748-1821*74* 摂津伊丹の稲寺の僧、
猪名川東畔中村の紫竹庵に住、のち三番(田簑)に移住、1800香川景樹に会う;01入門、
歌人;木下幸文・桃沢夢宅と交流、「関の山ふみ」、1809「よし野の山ふみ」著、「汐干」評
良覚(りょうがく;法名) → *公澄*(きんずみ・滋野井、廷臣/故実家) Ｉ１６０７

良岳(りょうがく・平山)　→　*良岳*(よしたけ・平山ひらやま、藩士/国学)　Ｏ４７８１
了覚(りょうがく;法名)　→　*為久*(ためひさ・冷泉[上冷泉]、歌人)　２６７２
蓼花巷(りょうかこう)　→　*也有*(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌)　４５１７
蓼華斎玉峰(りょうかさいぎょくほう)→　*玉山*(ぎょくざん・石田、絵師)　Ｄ１６０１
菱花山人(りょうかさんじん)　→　*嶺南*(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家)５１５８
涼花堂(りょうかどう)　→　*斧麿*(おのまろ・山本、俳/浮世草子)　１４９９
涼華房(りょうかぼう)　→　*吾山*(ござん・会田、俳人)　Ｃ１９６６
流霞楼(りゅうかろう)　→　*宗政*(むねまさ・池田、藩主/日記)　Ｃ４２４８

G4990 **良観**(りょうかん;法諱)　？－　？　室町期京六角堂筋の天台宗照護寺住僧;権律師、
1407(応永14)「御伝和讃」「親鸞上人伝和讃」、「聖徳太子奉讃」著

G4991 **亮桓**(りょうかん;法諱・本実坊;号)?-?　江中期紀伊天台宗天曜寺の住僧、
1719「明匠口決抄」著

G4992 **良観**(りょうかん;法諱)　？－　？　江中期常陸の天台宗鹿島補陀山安福寺の僧、
1749「高僧季譜略史」著

G4993 **亮歓**(りょうかん;法諱)　？－　？ 1757存　江中期江戸の天台宗東叡山浄名院の住僧:
智幽(玄門)門、「玄門和尚釈籤講録」「法華私記」「縁起法談聞記」著、
1725「略教誡経聞辨私記」「釈籤縁起序法談録」/57「浄土十六観略頌」著

G4994 **亮寛**(りょうかん;法諱)　？－　？ 1786存　江中期天台宗比叡山延命院の住僧、
1782「桜町院三十三聖忌洞中御法会記」85「後桃園院七回忌御懺法記」著、
1786「輪王寺公延親王御拝堂記」、「妙法院三品真仁親王御灌頂記」「摩多羅神由来記」著

G4995 **了閑**(了寛りょうかん・谷たに、名;義信、義行男)1747-1805*59*　代々伊予宇和島藩医、儒;安藤陽洲門、
医学;幕府医官秦寿命院・典薬頭法印三角業統・菅隆珀門/蘭方も修得、1774家督継嗣、
1779(安永8)代々の了閑を襲名/1783錦小路家の推挙で法橋/藩主伊達村侯・村寿の侍医、
詩・蹴鞠・茶・書・篆刻を嗜む、中山大納言愛親と親交、1784「医蹊」/1801「養生談」著、
[了閑(;通称)の字/別通称/号]字;伯行、別通称;哲斎、号;槐堂/南岳、
法号;定誉法橋谷信大徳

4917 **良寛**(りょうかん;法諱・大愚;道号、俗名;山本文孝、山本以南[泰雄]の長男)1758-1831*74*　母;秀子、
越後出雲崎町の里正(名主)の橘屋の生、出家/曹洞僧:1775(18歳)隣町尼瀬の光照寺玄乗門、
1779(22歳)備中玉島の円通寺国仙門、諸国行脚/帰郷;越後国上山くがみやま五合庵住、
また山麓の乙子おとご神社境内にも庵住;1827貞心尼との出会、清高な人柄は人々から敬愛、
書/詩/歌:1816「草堂詩集」、「久駕美の宇多」「万葉短歌抄」「法華讃」「良寛詠歌」著、
自撰歌集「布留散東ふるさと」、「良寛和尚草庵集」「良寛和尚一口戒語」著、
「良寛禅師奇語」著、唱和集「蓮はちすの露」(貞心尼編;1835成立)、
「良寛禅師歌集」(林甕雄みかお編)、「良寛歌集」(吉野秀雄編)、
[水や汲まん薪やこらん菜や摘まん秋の時雨の降らぬその間に](良寛歌集:秋)
[良寛の幼名/字]　幼名;栄蔵、字;曲、　由之よしゆき・香かおる・みか子(妙現尼)の兄、
貞心尼　→　*貞心尼*(ていしんに;法諱、奥村ます/歌人)Ｂ３０２９
妹　→　*妙現尼*(みょうげんに;法諱、山本きみ子/歌)Ｋ４１６５

G4996 **量観**(りょうかん;法諱)　？－　？　江後期真言僧:飲光の雲伝神道相承:天如門、
1840「神道或問」著/27「神道伝授目録并折紙類聚」編/58「神道印信等」著

M4925 **龍観**(りょうかん・深淵ふかぶち、旧姓;畠山)1820-84*65*　信濃安曇郡の真言僧/伊那郡久米の光明寺住職、
歌人、
[龍観(;法諱)の号]顕照/無庵/無染/清風

了閑(りょうかん・三宅)　→　*康高*(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人)　Ｇ４５８１
了観(りょうかん)　→　*漸空*(ぜんくう、浄土僧/歌/早歌作者)　Ｆ２４１９
了観(りょうかん;法諱)　→　*林篁*(りんこう、真宗僧/俳人)　Ｋ４９２４
良観(りょうかん・忍性)　→　*忍性*(にんしょう、真言律僧/社会事業)　Ｇ３３５０
良観(りょうかん・藤原)　→　*行意*(ぎょうい、天台園城寺僧/歌人)　Ｃ１６１６
良観(りょうかん;初法諱)　→　*無幻*(むげん;法諱、修験僧/書家)　４２４９
良観(りょうかん;号)　→　*芳猷*(ほうゆう;法諱、真宗僧)　Ｃ３９６２

良閑(りょうかん・木俣)　→　*守長*(もりなが・木俣きまた/橘、藩老/歌)　Ｊ４４７７
良寛(りょうかん・民上)　→　*良寛*(よしひろ・民上たみのえ、神職/国学)　Ｎ４７８９
良翰(りょうかん→よしたか・桜井)→*舟山*(しゅうざん・桜井さくらい、医者/藩儒)Ｈ２１４６
良翰(りょうかん・徳力)　→　*桃渓*(とうけい・徳力とくりき、儒者)　Ｄ３１１０
良翰(りょうかん・原)　→　*子蔵*(しぞう・原はら、医者/俳人)　Ｅ２１４７
良翰(りょうかん・河合)　→　*良翰*(さとたか/よしさと・河合かわい/松下、藩老/勤王)Ｏ２０３５
良幹(りょうかん/よしもと・姓不詳)→　*観遊*(観游かんゆう;号、藩士/随筆)　Ｇ１５６７
良鑑(りょうかん;法諱)　→　*中叟*(ちゅうそう;道号・良鑑、期臨済僧)　Ｇ２８５５
亮貫(亮寛りょうかん;法諱)→　*千春*(ちはる・三芳野みよしの、天台僧/神職/寺再興)Ｎ２８５９
G4997 **良含**(りょうがん;法諱、通称;円光上人)?-?1 280存　天台宗比叡山白毫院に住僧:
台・東両密に達す、八宗兼学として知られる、1265「理趣醍聞鈔」75「阿娑縛三国明匠略記」、
1279「悉曇灌頂私記」80「阿字不生灌頂私記」、「立印儀軌抄」「不動事」「秘蔵白譚」著
G4998 **了願**(りょうがん;法諱・法雲庵;号)1766-1822*57*　真宗大谷派僧;三河吉田の浄円寺住職、歌人、
「蠡海和讃」著
M4938 **了願**(りょうがん;法諱・黒川、号;長松彦)1780-1862*83* 近江栗太郡真宗本願寺派玉川山浄泉寺住職、
歌[鳰のうみ]入
両眼(りょうがん・服部)　→　*義路*(よしみち・服部はっとり、藩士/歌人)　Ｏ４７５５
了閑亭(りょうかんてい)　→　*五明*(ごめい・吉川、商家/俳人)　Ｄ１９９３
良観房(りょうかんぼう)　→　*忍性*(にんしょう・良観、真言僧)
G4999 **良喜**(りょうき;法諱・のち良基に改名?、藤原通基男?)?-? 平安末鎌倉期天台僧;僧都仁操門?、
六波羅蜜寺の講の導師、比叡山檀那院・阿弥陀院に住、歌人:千載集1194(続詞花集677)、
[人の足を抓むにて知りぬ我がかたへふみおこせよと思ふなるべし](千載;雑1194、
六波羅蜜寺の講の導師にて高座に上る時に聴聞の女房が足をつねるので詠/誹諧歌)
H4900 **良季**(りょうき;法諱)　1251 -　? 1302存　京の真言僧:池の坊不断光院僧/東山観勝寺住僧、
「即身成仏義抄」、詩文「玉沢不渇鈔」、1302「普通唱導集」著(;1297起筆)
H4902 **良基**(りょうき;法諱、藤原又右衛門男)1803-77*75*　備後浜津郡下岩成村の真言僧:
1812(10歳)備後芦田郡信光寺に剃髪;法光寺などで修学、1823高野山宝亀院光盛門、
竜華院・宝亀院・正智院を歴住/1856(安政3)碩学、勤王論者;僧月照・信海らと国事奔走、
1858近衛忠熙の命で尊王攘夷の祈祷を修す;幕府の処罰;1862赦免/63在学頭に昇進、
維新後;真言宗管長/大教正、華厳宗学に精通/神道にも通ず、歌;香川景樹門、
「両部神道概要」「意教慈猛方伝授記」「金剛頂経開題玄談」「神道雑聚」「保寿院流伝授」、
1867「五教章随聞記」外著多数、
[良基(;法諱)の別法諱]　覚如/英澄
H4903 **良毅**(りょうき・村岡むらおか、良温男)?-?　江後期紀伊和歌山藩士、父早世;祖父の跡継嗣、
禄8百石、祖父良長は5石2人扶持の坊主から一代で千石の重臣となった人物、
家老に昇進;菊の間詰/禄千5百石、1847致仕、
文学に長ず、「麟徳記」著、「類聚天明大政録」補、
[良毅(;名)の通称]　豊之丞/六蔵
良季(りょうき・清原)　→　*良季*(よしすえ・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｄ４７７０
良季(りょうき・大宮)　→　*良季*(よしすえ・大宮おおみや/藤原/日野、廷臣/記録)Ｄ４７７３
良紀(りょうき・水野)　→　*良紀*(よしのり・水野みずの、国学者)　Ｐ４７３３
良機(りょうき;法諱)　→　*蔵山*(ぞうざん;道号・良機、曹洞僧)　Ｈ２５５２
良祺(りょうき・山村やまむら、良喬男)→　*良祺*(たかのり・山村、儒者/教育)Ｍ２６７８
良熙(りょうき/よしひろ?・鷲見)→　*東柯*(とうか・鷲見すみ、儒者/教育者)　Ｂ３１７０
良熙(りょうき・川田)　→　*喬遷*(きょうせん・川田かわだ、藩士/儒者)　Ｏ１６２５
良熙(りょうき→よしひろ・戸部)→　*愿山*(げんざん・戸部とべ、藩士/儒者)　Ｅ１８８８
良熙(りょうき・羽生)　→　*良熙*(よしひろ・羽生はにゅう/堀川/萩原、藩医)Ｇ４７７０
良輝(りょうき・古田)　→　*良輝*(よしてる・古田ふるた/源/萱野、藩士/歌)Ｏ４７９４
良貴(りょうき・小原おはら)　→　*桃洞*(とうどう・小原、医者/本草)　Ｇ３１７７
良基(りょうき・関島)　→　*良基*(よしもと・関島せきじま、医者/教育)　Ｎ４７５８

良基(りょうき)訓読すべて→　*良基*(よしもと)
了軌(りょうき;法諱)　→　*雲室*(うんしつ;号、真宗僧/絵師)　Ｂ１２１６
亮喜(りょうき・井上)　→　*喜文*(よしふみ・井上いのうえ、国学/歌人)　Ｌ４７３５
H4904 **了義**(りょうぎ;法諱)　1315 －　？1388存　上州世良田の天台宗長楽寺住持:了恵門、
台密蓮華流の名匠、「灌頂持誦秘録」「比叡山興顕密寺両宗決」著、了長尊誉の師
H4905 **良義**(りょうぎ;法諱・宮蓮社商誉;法名)?-1768　下総生実の浄土宗大巌寺の住持、
1748(延享3)京の清浄華院52世;在職7年で退隠、「十頌念仏義」「五会法事讃名義数」著、
1753(宝暦3)「四十八願五会念仏名義数義」著
M4939 **了義**(りょうぎ;法諱・橘、了超男)1791-1868*78*　近江坂田郡鳥居本村専宗寺住職、
了観(林篁りんこう)の孫、歌人;[鳰のうみ]入
L4936 **了義**(りょうぎ;法諱・芸成;号、俗姓;椿原)1832-79*48*　近江の真宗本願寺派真福寺に生、
法雲門;宗学を修学/のち真福寺住職、雄弁で布教活動/権大講義、
「観経四帖疏愛戴記」「愚禿鈔愛戴記」「六合釈講解」著、諡号;広宣院
良義(りょうぎ・皆川)　→　*広達*(ひろみち・皆川みながわ、幕臣/馬術)　Ｈ３７２４
了義院(りょうぎいん)　→　*日達*(にちだつ;法諱・運智、日蓮僧)　Ｃ３３８４
良菊(りょうきく;法諱)　→　*金堂*(きんどう;道号・良菊、曹洞僧)　Ｒ１６５０
了巍居士(りょうぎこじ)　→　*重政*(初世しげまさ・北尾、絵師)　２１１５
良吉(りょうきち・長尾)　→　*名鳥*(なとり・長尾ながお、国学者)　Ｇ３２７８
良吉(両吉りょうきち・荒木)→　*半山*(はんざん・荒木、俳人)　３６８０
良吉(りょうきち・加藤)　→　*竹窓*(ちくそう・加藤かとう、儒者/詩人)　Ｄ２８３７
良吉(りょうきち・景山)　→　*豊城*(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌)Ｕ３１７１
亮吉(りょうきち・井上)　→　*喜文*(よしふみ・井上いのうえ、国学/歌人)　Ｌ４７３５
鐐吉(りょうきち・金子)　→　*時中*(ときなか・金子かねこ、国学者)　Ｕ３１７８
良久(りょうきゅう・鈴木)　→　*寛藤*(ひろふじ・鈴木すずき、幕臣/国学者)　Ｋ３７００
良久(りょうきゅう・野田)　→　*良久*(よしひさ・野田のだ、国学/歌人)　Ｏ４７４３
良休(りょうきゅう・高橋)　→　*良休*(よしやす・高橋たかはし、歌人)　Ｌ４７０９
量久(りょうきゅう・森)　→　*量久*(かずひさ・森もり、神職)　Ｍ１５４１
凉及(りょうきゅう・有馬)　→　*存庵*(そんあん・有馬ありま、医者/奇行)　Ｃ２５５０
凉及(りょうきゅう・有馬)　→　*元函*(玄函げんかん・有馬、存庵男/医者)Ｉ１８３２
了窮(りょうきゅう)　→　*陶巨*(とうきょ:号、僧/俳人)　Ｃ３１７３
凌虚(りょうきょ・長浜)　→　*尚次*(ひさつぐ・長浜/藤原、幕府連歌衆)Ｂ３７３７
H4906 **良恭**(りょうきょう;法諱・孝完;字、俗姓;高梨)1720-99*80*　安房長狭郡吉保村の真言僧:
1749京の智積院に修学/果春門;伝法灌頂を受、安房大聖院に住;1787千光院宥俊の法嗣、
1788(安永8)智積院に再修学/動潮門;両部灌頂を受、1790越前竜谷寺住/安房宝珠院住、
1799(寛政11)幕命で江戸円福寺に移住;没、1754「西谷名目講録」58「天台教儀集註私記」、
1780「二経論講述」85「釈論敲推録」86-89「華厳五教章拾義」88「菩提心論講讃」著、
「薄初重耳底記」「四度耳底記」「薄二重鈔」「般若心経秘鍵講述」「秘蔵宝鑰講録」外著多数
良喬(りょうきょう・山村)　→　*良喬*(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人)Ｍ２６３４
良恭(りょうきょう・深町)　→　*北荘*(ほくそう・深町ふかまち、商家/詩文)　Ｄ３９６８
良恭(りょうきょう・今井)　→　*随庵*(ずいあん・今井、藩医/儒者)　Ｅ２３０３
良恭(りょうきょう・伊庭)　→　*良恭*(よしたか・伊庭いば/大月、国学者)　Ｌ４７４６
良郷(りょうきょう・吉井)　→　*良卿*(良郷よしのり・吉井よしい、神職)　Ｑ４７０３
良興(りょうきょう・小鹿)　→　*存*(そん・小鹿こしか、医者/詩人/狂歌)　Ｏ２４１７
良教(りょうきょう・粟田口/二条)→*良教*(よしのり・粟田口/藤原/二条、大納言/歌人)Ｆ４７７６
良郷(りょうきょう・森田)　→　*良郷*(よしさと・森田/山川、藩士/文筆)　Ｄ４７４２
H4907 **良暁**(りょうぎょう;法諱、円尊男or良忠[円尊男]男)1251-1328*78*　石見三隅の浄土僧:初め比叡山入、
仙暁門;天台を修学、1272同郷で鎌倉の浄土宗第三祖良忠(然阿1199-1287)門;
悟真寺(光明寺)の房地と鳩井免田を譲渡される/1286良忠より宗戒両脈・相伝什具を授与、
後継者の地位を確立;鎮西流教団の交流に尽力、晩年は白旗住;この流義を白旗流と称す、
三祖良忠門下六流の1、1305「選択決疑鈔見聞」10-12「伝通記見聞」24「浄土述聞見聞」、

1325「浄土述聞制文」、「意楽用心記」「浄土宗要集見聞」「観念法門見聞」「重書裏書」外著多、
[良暁(;法諱)の法名/通称]法名;寂恵/智慧光、通称;白旗上人しらはたのしょうにん/坂下上人

H4908 **了暁**(りょうぎょう;法諱、法名;聖蓮社慶善)?-1483 和泉の浄土僧:聖聡門、下総飯沼の弘経寺2世、
東国浄土宗の基盤づくりに貢献/三河御津の大運寺(大恩寺)中興開山、
「安心請決略抄」「決疑鈔直牒見聞」「五重指南目録集」「米金鈔」「選択料簡抄」外著多数、
愚底・珠琳・訓公・存冏の師

L4937 **亮顒**(りょうぎょう;法諱、別法諱;豪忠)?-? 江中期京の天台僧;京極通綾小路の法然寺住、
1727(享保12)「菅大臣宮正遷座法則」、「円光大師開眼法則」「泉州巻尾山鐘供養法則」著

良業(りょうぎょう・清原) → *良業*(よしなり・清原、廷臣/漢学;明経道)Ｆ４７３７

L4938 **亮謹**(りょうきん;法諱) ? - 1483 天台僧;江戸寛永寺住心院住、
1843「論義故実条々」著

良琴(りょうきん・丸山) → *霞江*(霞紅かこう・丸山まるやま、俳人) Ｌ１５５９

良近(りょうきん・神田) → *良近*(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) Ｅ４７４９

良近(りょうきん・山形) → *良近*(よしちか・山形やまがた、国学者) Ｐ４７８１

良均(りょうきん;法諱) → *良筠*(りょういん;法諱・節庵;道号、曹洞僧)Ｇ４９２４

H4909 **了吟**(りょうぎん;法諱ん、法名;転蓮社漸誉風航)1728-1802*75* 大阪の浄土僧;団誉了風門;得度/受法、
大坂大福寺10世、詩文・国学・伝記に精通;浄土宗史を専門、
1790「新撰往生伝」77「浄土布薩広戒儀尽規」82「四十八願題詠鈔」84「鎮西禅師絵詞伝」著、
「元祖二十五霊場記」「浄土布薩戒本伝考」「蓮門雑談集」著/「風航記事目録」編、外編著多数

良吟(りょうぎん・丸山) → *霞江*(霞紅かこう・丸山まるやま、俳人) Ｌ１５５９

H4910 **良矩**(りょうく・与那原よなばる、称:親方、唐名;馬国器、良暢男)1718-97*80* 母;真加戸樽、
馬氏与那原殿内9世/琉球廷臣;1762進貢正使として中国渡航/65薩摩へ報告/69三司官、
漢学者/琉歌作者;「琉歌全集」44首入、「琉球科律」編纂に参加、君子親方と称される、
[宵も暁も馴れし面影の/立たぬ日や無さめ塩屋の煙]、
[うつおとのたえだえなるは小夜衣月にねられぬすさみなるらし](月下擣衣;
宜湾朝保[沖縄集]入)
[良矩(;名)の幼名/号]幼名;思亀、号;仁嶽

良矩(りょうく・板倉) → *良矩*(よしのり・板倉いたくら、郷土史家) Ｆ４７８３

H4911 **了倶**(了具りょうぐ;号・石井いしい)?-? 陸前仙台藩連歌師:昌叱門、了心の父、
「漢和三吟五十韻」「紹由昌俔等何人百韻」参加/1604紹由宗順と「人何百韻」、
1612西洞院宰相と「何衣百韻」/19慶純昌俔と「何人百韻」/22昌琢らと百韻、など多数

H4912 **了倶**(りょうぐ) ? - ? 京住の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、
[楓かへでさへまけん漆のもみぢかな](犬子集;1255/負けには皮膚のかぶれる意をきかす)
石井了倶と同一?

良倶(りょうぐ・吉田) → *兼隆*(かねたか・吉田/卜部、歌人) Ｃ１５８１

H4913 **良空**(りょうくう・真観;法諱、俗名;源雅重/兼親、源雅康男)?-? 右衛門督局(如真尼)の孫、
鎌倉南北期廷臣;右近衛少将/1335(建武2)出家/法印、祖母より琵琶の口伝を伝受、
のち崇光・後村上天皇に伝授、「三曲秘譜並三極秘決」「一人口決小形巻物」著

H4914 **良空**(りょうくう・融観;法諱、内大臣三条公秀男)?-? 南北期浄土宗西山派嵯峨流の僧:覚観清空門、
歌:新千載集2226(良空上人名/師覚観上人との死別)、
[ありはてぬならひはさぞと知りながら別にたへぬわが涙かな](新千;哀傷2226)

H4915 **良空**(りょうくう;法諱・五天;号、諡号;慧日院)1669-1733*65* 伊勢河原田の真宗高田派常超院住職、
高田派の伝統に基づく親鸞の詳細なる伝記を企図し伝記・古記録・聞書を蒐集編纂、
1715(正徳5)「親鸞聖人正統伝」/「親鸞聖人正統伝後集」、1722「聖徳太子伝暦補註」著

H4916 **了空**(りょうくう;法諱・号;観月/僧祇そうこく/恵盛)1750-1814*65* 越後蒲原郡鎧郷村押付の真宗僧、
本願寺派本念寺の子院念称寺住、1768上京/69近江彦根の中根東皐門;経史を修学、
1781越中浦山善巧寺の僧鎔門;真言の内典を修学/詩人、歌;新潟の松浦季直門、
藤田鷗洲・片桐敏・僧大舟と交流、1801-14頃本山学頭智洞の異安心説に反論、
羽前最上に客死、「安心左券」著

H4917 **了空**(りょうくう;法諱) ? - ? 江中期讃岐の真宗本願寺派常教寺住職、

1768「入出二門偈参考」「観経四帖疏郢匠記」「観経疏玄義分郢匠記」「真宗択善録」外著多数
H4918 亮空(りょうくう;法諱)　? - 1831　越中高岡の真宗大谷派光誓寺住職:高倉寮に修学、
1818寮司/20擬講、「言南無者亮空録」「帰命字訓亮空録」「信行一念章言亮空録」著
了空(りょうくう;出家号) → *良枝*(よしえだ・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｃ４７２６
良空(りょうくう;字) → *浄勝*(じょうしょう;法諱、浄土宗西山派僧)Ｊ２２８４
霊空(りょうくう:字) → *是湛*(ぜたん;法諱・霊空、浄土西山派僧)Ｉ２４６８
亮隅(りょうぐう:法名) → *李由*(りゆう・河野、真宗僧;通賢、俳人)４９０５
了空院(りょうくういん;法号)→ *重道*(しげみち・板倉いたくら、藩主/詩) Ｓ２１７７
H4919 良訓(りょうくん;法諱)　? -　?　元禄享保1688-1736頃大和法隆寺中院の僧、
「法隆寺記補忘集」編/「斑鳩寺雑記」「台覧記並諸堂仏体数量記」、1746「古今一陽集」著
H4920 良慶(りょうけい;法諱・明心;法名、入江三位入道男)1269-1336 鎌倉南北期浄土僧;
名越派尊観門、名越派第二祖となる、信濃善光寺南大門に月形房談所を開設、
心具不生義を説く;敬智・慈観・慧観・門真に付法、1323良山(妙観)に付法状を授与、
「安養抄」1324「口伝題下」25「果分不可説」著
H4921 竜渓(竜谿りょうけい;道号・性潜しょうせん;法諱、俗姓;奥村)1602-70水難*69* 京の僧;臨済/のち黄檗僧、
初め1617(16歳)臨済宗妙心寺派僧;摂津富田の普門寺籌室玄勝門;出家;師没後同寺9世、
伯蒲慧稜門;嗣法、1651妙心寺住持/54再住、渡来した隠元隆琦に傾倒;
1664(寛文4)黄檗僧;隠元最初の和僧嫡嗣とし嗣法/法諱を性潜に改む、65妙心寺より排除、
黄檗開宗の中心的活動;後水尾院に黄檗宗の付法/1669禅師号を受、
摂津九条島の九島院で説法中水難;没、「宗統録」「鉄眉録」著
[竜渓性潜の別法諱/号] 初法諱;宗琢/宗潜、号;如常老人/大宗性統禅師
L4939 亮慶(りょうけい;法諱)　? - 1685　天台宗園城寺の僧/法印、性慶・亮照の師、
「悉曇十八章反音相通私」著
H4922 良恵(りょうけい;号・土橋、名;正俊、宗静そうじょう男)1659-1711*53* 摂津平野郷の合薬商、
歌;河瀬菅雄門、連歌:宗春門、
1697(元禄10)「柴屋寺さいおくじ奉納発句」編(父宗静輯/発句短冊127枚を翻刻)、
[良恵(;号)の通称] 三郎右衛門
M4954 了慶(りょうけい;法諱・山室やまむろ、法橋、号;蘆翁)?-? 江前中期;歌人、戸田茂睡・菅沼定忠と親交、
茂睡編[鳥の迹]5首・[不求橋梨本家隠家勧進百詠]入、一族の山室五郎兵衛政春も歌人、
[芳野山高根の雪も消えなくに気色ばみぬる花ぞ待たるる]([鳥の迹]春81/望山待花)、
菅沼定忠の[鳥の迹]雑下725の歌に;
[山室法橋蘆翁難波の片葉の蘆を庭に植ゑたるを聞きて読みて遣しける
難波がたもてこし道は遠き江の蘆の若葉を近く詠めて]
M4901 了珪(りょうけい;号・石井いしい、別号;菊水亭)1783-1842*60* 京の歌人/連歌、法橋
L4986 良敬(りょうけい・庄野しょうの)? -　?　江後期;歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、
[うき身には待つことひさの世の中に花さへものを思はするかな](大江戸和歌;春232)
H4923 良敬(りょうけい・沢田さわだ)? -　1871　下総印旛郡久住村飯岡の医者、
1867(慶応3)「傷寒論大意」著、
[良敬(;通称)の名/号]名;致道/曲肱、号;東嶺
M4931 良敬(りょうけい・森もり、東溟男)1809-1880*72*　土佐派絵師;土佐光文門、松平頼該に招聘;
高松藩絵師;故実画に長ず、森直樹なおき(高松藩絵師)の父、中村良谿の師、
[良敬(;号)の名/別号]名;鼎、別号;不知斎/石腸
良圭(りょうけい・丁野) → *遠影*(とおかげ・丁野ちょうの、藩士/官吏/歌)Ｖ３１７５
良経(りょうけい・藤原) → *良経*(よしつね・良源、天台僧)　４７１６
良景(りょうけい・山村) → *良景*(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官)　Ｌ２６６７
良継(りょうけい・野中) → *兼山*(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者)　１８１４
良啓(りょうけい;法諱) → *公啓親王*(こうけいしんのう、天台僧)　Ｉ１９４６
良啓(りょうけい・山村) → *良啓*(よしひろ/たかひら・山村やまむら、代官/和学)Ｐ４７９３
良卿(りょうけい・吉井) → *良卿*(良郷よしのり・吉井よしい、神職)　Ｑ４７０３

了啓(りょうけい:法諱)　→　*泰運*(たいうん:道号・了啓、曹洞僧)　Ｊ２６０７
了渓(りょうけい;道号)　→　*蘭桂*(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧)Ｄ４８３３
亮卿(りょうけい・岩垣)　→　*竜渓*(りゅうけい・巌[岩]垣/三善、儒者)　Ｄ４９５３
蓼渓(りょうけい・津田)　→　*致令*(むねのり・津田つだ、儒者)　Ｃ４２２４
梁渓(りょうけい・山内)　→　*広通*(ひろみち・山内やまのうち/藤原、家老)　Ｈ３７２６
H4924 **良藝**(りょうげい;法諱)　1353 －　?　山城大原no天台僧:魚山声明の大家、
「魚山書」/1419「普賢菩薩開眼并十羅刹女称揚」/24「懺法私」「両界讃並懺法口決」著
亮輗(りょうげい・河野)　→　*自蹊*(じけい・河野、真宗僧/俳人)　Ｂ２１８８
蓼渓書屋(りょうけいしょおく)→　*経春*(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学)　Ｄ２９２９
H4925 **了月**(りょうげつ;法諱・上蓮社英誉;法名)?-1504　常陸の浄土宗常福寺良慶門/のち常福寺6世、
「顕授手印請決邪正義」/1492「破清濁」著
凉月院(りょうげついん/凉月尼)→　*余野子*(よのこ・鵜殿うどの/村尾、歌人)４７３１
涼華坊(りょうげぼう・会田/越谷)→　*吾山*(ござん・会田/越谷、俳人)　Ｃ１９６６
H4926 **良賢**(りょうけん)　? －　?　平安後期僧/歌人;1178顕昭判「廿二番歌合」参加、
[とふ人もなきふる里に荻風をぎかぜのそよいかにして秋は来ぬらん](廿二番歌合;11番右)
M4962 **良兼**(りょうけん;法諱、藤原兼光[-1176]男)?-1227　平安鎌倉期;興福寺僧/少僧都、
1209(承元3)維摩堅義、歌人;楢葉集入(権少僧都良兼名)、1227(嘉禄3)没、
附弟に勘解由小路頼資男の頼円、
[みのうさをしばしわするるほどな□やまだ風たたぬはなのしたかげ](楢葉;春63)
H4927 **良兼**(りょうけん;法諱、権大僧都厳恵男)?-?　1334存　天台宗園城寺の僧/法印、
歌人:1318(文保2)二条派和歌所歌会始に出詠、拾遺現藻集・藤葉集入集、
勅撰2首;続千載(1334)新千載(1530)、
[かりそめの今宵ばかりの夢ならでまた見るまでの契ともがな](続千;恋1334)
H4928 **了賢**(りょうけん;法諱/了厳りょうげん、毛利親宗男)1279-1347*69*　真言僧;仁和寺菩薩院の了遍門、
1299了遍より灌頂を受/宝光院住、頼宝門;教相を修学、1334(建武元)東寺勧学院学頭、
仁和寺・大覚寺の学頭、僧正、1330「般若心経秘鍵東聞記」31「灌頂口決」32「他師破決集」著、
「釈論聞書」「信助僧都入壇記」「菩提心論三摩地段鈔」外著多数、
[了賢(了厳;法諱)の通称]　空覚上人/侍従僧正
H4929 **良憲**(りょうけん;法諱、法印澄俊男)?-?　南北期比叡山僧/権律師/法印、僧正、歌人、
勅撰4首:新千載(878)新拾遺(1064)新後拾遺(742/1490)、
[山の端にまよふとみえし雲ながらよもにへだてぬ月の影かな]、
(新千載;釈教878/止観不二境智宜一の心を)
M4973 **良顕**(りょうけん;法諱、)　? －　?　南北期僧;権少僧都、
歌人;1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、
[そことしもしられぬ里のしるべとや初瀬ぢ遠くにほふ梅かな](大山祇百首;2)
H4930 **亮憲**(りょうけん;法諱)　1539 － 1617*79*　安桃江前期天台僧;出家;初め肥前有馬金蔵寺住、
比叡山入;天台教学を研鑽/次に園城寺入;1601長吏道澄門;灌頂を受/三院の首座、
のち東下;常陸黒子千妙寺15世、1595「維摩経品釈」96「胎蔵界曼荼羅尊位抄」、
1610「証義集」、「秘要抄」「禁中八講記」「不動明王立印秘記私記」「群玉類要集」外著多数
H4931 **亮研**(良憲りょうけん;法諱・円覚院;号、俗姓;成田)1626-91*66*　武蔵埼玉天台僧;武蔵慈恩寺亮雄門、
;出家、のち慈恩寺住持、東叡山現竜院4世兼任/1681東叡山執当、84出羽羽黒山学頭、
1689常陸黒子千妙寺住持/権僧正、1665「別請立義記」著、　初法諱;公雄
M4942 **良賢**(りょうけん;法諱、)　? －　?　江後期;飛騨高山の僧;桜山八幡神社社僧、
国学者・歌人;田中大秀(1777-1847)門、桜山八幡神社別当長久寺(廃寺後の相応院)住職
H4932 **良堅**(りょうけん;名・猪ちょ/猪飼?、字;子駿)1804?-?　江戸の儒(神童)/3歳で千字文・大学章句を誦す、
6歳で詩作/8歳で文に通ず、1815(10歳)「桃郎伝とうろうでん」(桃太郎を漢訳:滄浪序)
良見(りょうけん・森田)　→　*良見*(良美よしみ・森田、藩士/国学者)　Ｈ４７２９
良顕(良賢りょうけん・跡部)→　*良顕*(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌)　Ｃ４７０４
良顕(りょうけん・勧修寺)　→　*良顕*(よしあき・勧修寺かじゅうじ、廷臣)　Ｂ４７９３
良顕(りょうけん・中村)　→　*良顕*(よしあき・中村なかむら、国学/歌人)　Ｃ４７０２

良顕(りょうけん・岩永)　→　*良顕*(よしあき・岩永いわなが、国学者)　Ｌ４７６９
良顕(りょうけん・滝沢)　→　*良顕*(よしあき・・滝沢たきざわ、神職/国学)　Ｎ４７７８
良兼(りょうけん・清原)　→　*良兼*(よしかね・清原きよはら、廷臣/歌)　Ｃ４７９８
良賢(りょうけん・清原)　→　*良賢*(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｃ４７６２
良賢(りょうけん・宇佐美)→　*良賢*(よしかた・宇佐美うさみ、兵学者)　Ｃ４７６３
了賢(りょうけん;号・太愛)→　*太愛*(たいあい;法諱・了賢、真宗僧)　Ｊ２６００
亮軒(りょうけん・陶山)　→　*槁木*(こうぼく・陶山すやま、藩士/磯釣)　Ｌ１９２７
量軒(りょうけん・鈴木/鈴広)→　*重栄*(しげひで・鈴木、飛脚業/和算家)Ｓ２１４１

E9456 **良源**(りょうげん;法諱、諡号;**慈恵**じえ大師、俗姓;木津)912-985*74* 近江浅井郡の天台僧;923比叡山入
理仙・尊意・覚慧・喜慶・相応門/935興福寺維摩会で義昭を・963応和宗論で法蔵を論破、
964内供奉十禅師/966天台座主18世/971法務/981大僧正、教学の振興/堂塔の再建、
徒然草205段には[大師勧請の起請]文の始祖としている、
日本天台中興の祖、「九品往生義」「九帖鈔」「本覚心要和讃」著、「日吉神社七社祭礼船謡」伝
「一代決疑集」「宗要集」「惑智相対集」「指要記」「仏土義私記」「山王七者権現船謡」外著多数、
歌人/勅撰2首;続後撰(584)続古今(818)、
[そのかみのいもひの庭にあまれりし草のむしろも今日や敷くらん](続後撰;釈教584)、
(天台大師の忌日に詠む/斎いもひは斎戒)
[良源の通称]**元三大師**/御廟大師/角大師、
[良源の門弟];[四哲];源信/覚運/尋禅/覚超

H4933 **良玄**(りょうげん;法諱)　？－　？　鎌倉期僧;大法師/歌人;
1295以前「伊勢新名所絵歌合」参加、
[咲き続く花よりほかは桜木の里には雲もかｋらざりけり](伊勢新名所;五番右10)

H4934 **了源**(りょうげん;字・空性くうしょう;法諱、俗名;金森弥三郎宗広、了海男)1295-1333(or35)*39(41)*、
京の真宗僧、1307得度;南都北嶺に修学/16仏光寺7世;20寺を東山渋谷に移転/27少僧都、
仏光寺派教団を築き各地を遊化巡教:1332遠江・三河・尾張に遊化、
1333(正慶2)伊賀で巡教中襲撃され没(1335没説も)、
「算頭録」「一流相承系図」「勧進帳」/1319「山科創寺募縁疏」著

H4935 **了玄**(りょうげん;号・石井いしい、日幽;法諱)?-?　京の連歌宗匠/日蓮僧、
1571幽斎「大原野千句」・73幽斎「大覚寺千句」参加、
日遠にちおんの父　→　*日遠*(にちおん・堯順、日蓮僧)　３３７４

H4936 **亮元**(りょうげん;法諱)　1631 － 1706*76*　伊勢真言宗真常院の住僧、
1693-97(元禄6-10)頃真常院及び志摩丸高山で「大日経疏蒿測鈔」を撰述、
「扛鼎記」注/「扛鼎記追検」「星宿供評義」「知元辰星事」「大日経疏爛脱辨」外著多数

H4937 **良元**(りょうげん;号・村上むらかみ、名;信之、養純男)?-?　江中期幕府医官;父を継嗣/1742(寛保2)法眼、
1719「慈幼密旨」27「嬰竜或問」著

H4938 **良玄**(りょうげん;法諱・無住庵;号、俗姓;平山)1730-85*56* 備中西阿知村の曹洞僧;1737(8歳)出家、
玉島円通寺の梅橋和尚門、歴遊参禅/玉島柏島の海徳寺住持、のち柏島臨海庵に退隠、
詩歌を嗜む、西山拙斎と親交、「秋夕和歌」著

H4939 **令玄**(りょうげん;法諱・慧灯院;号)1775-1849*75*　越中の真宗本願寺派照蓮寺の住職、
越中明楽寺柔遠門;真宗学を修学、一方で天台学を修学;空華学派に属す、
照蓮寺に学寮を開設;子弟教育、1843(天保14)勧学、1842「観無量寿経講録稽古」著、
「般舟讃採聴」/1845「選択集二行章記」著

H4940 **了玄**(りょうげん;法諱・津梁房しんりょうぼう;号)1786-1866*81* 肥後の真宗本願寺派真覚寺19世住職、
肥後東光寺環中門;真宗学を修学、助教・学林監事/1862司教、
「法事讃講録」「本典録」「選択集聴記」「帰三宝偈聴記」著

量原(量元りょうげん・吉田/町尻)→　*量原*(かずもと・町尻、廷臣/記録)　Ｍ１５５３
了源(りょうげん)　→　*宥範*(宥鑁ゆうばん;法諱、真言僧)　Ｄ４６６１
了源(りょうげん・田中)　→　*友鶴*(ともつる・千歳軒せんざいけん、狂歌)　Ｐ３１８９
了玄(りょうげん;字、了玄院)→　*日精*(にっせい;法諱・了玄院、日蓮僧)Ｅ３３６５
了幻(りょうげん;号)　→　*妙快*(みょうかい;法諱・古剣;道号、臨済僧)Ｇ４１８９

了厳(りょうげん→りょうごん;法諱)→　了賢(りょうけん;法諱/了厳、真言僧)Ｈ４９２８
良厳(りょうげん)　すべて　→　良厳(りょうごん)
良玄(りょうげん;法諱)　→　古璞(こぼく;道号・良玄;法諱、曹洞僧)Ｎ１９６５
良玄(りょうげん;法号)　→　親繁(ちかしげ・由良ゆら、幕臣/奥高家)　２８９５
良玄(りょうげん・丸山)　→　良玄(よしはる・丸山まるやま、和算家)　Ｇ４７１０
良言(りょうげん・野村)　→　有信(ありのぶ・野村のむら/竹村、藩士/国老/歌)Ｉ１０２４
竜原(りょうげん・佐々木)　→　竜原(りゅうげん/りょうげん・佐々木/国重、儒者)Ｄ４９６６
了源院(りょうげんいん)　→　日応(にちおう;法諱、日蓮僧)　３３８７
涼源院(りょうげんいん;法名)→　資勝(すけかつ・日野/藤原、廷臣/歌人)　Ｃ２３０１
了幻院法侶上人(りょうげんいんほうりょしょうにん)→文暁(ぶんぎょう;法諱、真宗僧/俳人)Ｆ３８０４

H4941 菱湖(りょうこ)　？－　？　京の俳人;1783以後の几董門/春夜楼の有力俳人、
1783維駒「五車反古」2句入、
[袷あはせ着て雨に寒がる僕しもべかな](五車反古;179/主からの袷に着替の日;まだ寒い)

H4942 菱湖(りょうこ・巻まき/池田/小山、館たち徳信男)1777-1843*67* 越後蒲原郡福井村の生、
池田中七の養子、幼時に義父没/母と小山家に寄寓/1795江戸で出て巻を名乗る、
儒:亀田鵬斎門、詩に長ず、書家;欧陽詢・趙子昂・董其昌の書風を修学/仮名にも長ず;
のち菱湖流を立てる、1808江戸築地に書塾の蕭遠堂を開設;のち鉄砲町に移る、
幕末唐様三名筆の1、館柳湾の従弟、
「菱湖漁人集」「菱湖偶筆」「菱湖櫂歌」「蕭遠堂書学説」「蕭遠堂詩鈔」「行書蘭亭」、「篋中集」編、
「一呼千麾帖」「草書帖」「菱湖楷書帖」「和文尺牘帖」「小倉百首」「磯字往来」書、外編著・書多数、
柳湾と交流/「柳湾漁唱」跋文;交友記事入、門人多数;中沢雪城・大竹蒋塘ら、鷗洲の父、
[菱湖(;号)の名/字/通所/別号]名;大任/任、字;致遠/起巌、通称;喜藤太/右内、
別号;弘斎

H4943 了古(りょうこ;号・叟斎そうさい)?-　？　幕末期江戸の絵師、隅田住;歌川風の作品を描く、
維新後は諷刺画・風俗画、1861「どゝいつづけ」-66「町火消市中之組」画
良古(りょうこ・井岡)　→　良古(よしふる・井岡いおか/松沢、神職)　Ｌ４７３８

H4944 了悟(りょうご;法諱)　？－　？　鎌倉期京の僧/和漢学に精通、
衣笠家良・藤原光俊・六条知家らと交流、1288-93頃「幻中類林」(序「光源氏物語本事」)著、
藤原基家と同一説あり?→　基家(もといえ・九条、歌人、1203-80)Ｃ４４１２

H4945 良悟(りょうご;法諱・無得むとく;道号、俗姓;山口)1651-1742長寿*92* 岩代会津の曹洞僧:
1664(14歳)出家;会津天寧寺忠方門/江戸吉祥寺離北良重門/加賀実性印海翁潤補門;嗣法、
1690加賀実性院4世、1718長門大寧寺住持/24大寧寺檀那の開く周防法泉院開山に招聘、
石見瑞巌寺・攝津慈願寺開山、無隠道費の師、
「無得良悟和尚法語」、1732「無得悟禅師語録」、38「洞上仏祖源流影讃」編
良伍(りょうご・林)　→　通明(みちあき・林はやし、藩士/歌人)　Ｂ４１０８
良悟(りょうご・宅間)　→　憲連(のりつら・宅間たくま/西村、幕臣)　Ｉ３５９８

M4970 良高(りょうこう;法諱)　？－　？　平安鎌倉期;南都(興福寺?)の僧;法師、
歌人;1237刊[楢葉集]入、
[明石潟月のでしほになりにけりほのめきよわる漁り火のかげ](楢葉;雑880)

L4940 良光(りょうこう;法諱)　？－　？　江前期天台僧;江戸仏眼院住、「天台教儀略解」著

H4946 良弘(りょうこう・平野ひらの)1635-? 1707存　大和葛城山麓御所町の俳人:貞徳門、雑俳点者、
万治1658-61頃堺の成之ら創案の六句付の清書所を開設、寛文1661-73頃大和俳壇の名士、
1705同郷の雲鼓が来訪、晩年は前句付作者;京・大坂に投句、前句付の奉納興行の願主、
1696「俳諧高天鶯たかまのうぐいす」[まめ男]編、1702「誹諧替狂言」03「富の市」編、05「宝の市」撰、
1705「誹諧三番続」06「富の札」編、1694「奈良土産」(田宮言籠禎撰)も実際は良弘の著か?、
[良弘(;号)の別号/]別号;鶴寿軒/不数、法名;門誉誓岸
「奈良土産」編者の田宮禎と同一?　→　禎(てい・田宮たみや、号;言籠ごんかい)３０００

L4941 亮幸(りょうこう;法諱)　？－　？ 1742存　江中期近江天台宗園城寺の僧、
「御長吏円満院祐常御門跡御拝堂記」著

H4947 良広(りょうこう;法諱)　？－　？　江中期上州群馬郡箕輪の天台宗極楽院住職、

1746「道中在京奥駈日記」75「道中在京日記」、「無常用集」著、良厳の父
H4948 良更(りょうこう)　？－　？　近江石部の俳人;1777江涯「仮日記」1句入、
[濡れ色や陽炎かげらふ消えし草の上](仮日記;82/陽炎のあと鮮やかな草になる)
H4949 良交(りょうこう・南無庵;別号)?－　？　江中期俳人:闌更門、南無庵一派の俳諧撰集編纂、
1786(天明6)「たねたはら」編/序(:一門の撰集)
H4950 蓼江(りょうこう・馬場ばば)　？－　？　俳人;存義の甥、
「有無庵存義小伝」著(存義追善集「かれ野」所収);沾徳座・其角座の対立過程を記録
M4916 了綱(りょうこう;法諱・佐々木ささき、了天男)1826-1901*76* 母;文子、信濃松本の真宗僧;10歳で父没、
1836(11歳)病で右目失明・正行寺22世住職を継嗣、祖父の代に火災した寺を1858再建、
1847上京し大徳寺に参禅;歌や万葉集を修学/国学;千種有功・八条院隆祐門、
松本藩の激しい廃仏毀釈・廃寺帰農勧誘に反対運動を続ける、
1871(明治4)真宗寺院集会を開き本山に嘆願;真宗寺院は帰農廃寺から免れる、
その間の日記「護法録」著、中教院の権少講義、1883(58歳)失明、
1890(明治23)竹壺会を組織;歌の指導、詠歌1万首、
[了綱(;法諱)の通称/号]通称;富士麿、号;竹壺/松園/篤友
量光(りょうこう;号)　→　*尊通*(そんつう;法諱、時宗44代遊行上人)Ｆ２５６４
量光(りょうこう・柳原)　→　*量光*(かずみつ・柳原やなぎはら、廷臣/日記)Ｍ１５５１
量弘(りょうこう・村上)　→　*量弘*(かずひろ・村上むらかみ、藩士/儒者)Ｍ１５４６
量高(りょうこう・万里小路)→　*文房*(ふみふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/日記)Ｅ３８０１
量綱(りょうこう・渡辺)　→　*吉光*(よしみつ・渡辺わたなべ、武将)Ｈ４７５１
量興(りょうこう・今村)　→　*村雄*(むらお・今村いまむら、国学/寺子屋)Ｄ４２６７
良光(りょうこう;字)　→　*聞証*(もんしょう;法諱、浄土学僧)Ｉ４４２６
良光(りょうこう;法諱)　→　*定山*(じょうざん;道号・良光、曹洞僧)Ｊ２２３３
良高(りょうこう;法諱)　→　*徳翁*(とくおう;道号・良高、曹洞僧)Ｈ３１２１
良香(りょうこう・都)　→　*良香*(よしか・都みやこ、廷臣、詩歌人)４７０３
良香(りょうこう・画号)　→　*嵐雪*(らんせつ・服部、俳人)４８０６
良広(りょうこう・樋口/中村)→　*良広*(よしひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌)Ｇ４７６９
良弘(りょうこう/よしひろ・井口)→　*如貞*(じょてい・井口いぐち、俳人)Ｃ２２８１
良弘(りょうこう/よしひろ・奥野)→　*保悟*(ほうご・奥野おくの、歌人)Ｆ３９１７
良行(りょうこう・吉井)　→　*良行*(よしゆき・吉井よしい、神職/神道学)Ｑ４７０１
良孝(りょうこう・小林)　→　*良孝*(よしたか・小林こばやし/鴨、廷臣)Ｅ４７１４
良拘(りょうこう;法諱)　→　*良筠*(りょういん;法諱・節庵;道号、曹洞僧)Ｇ４９２４
良梗(りょうこう;字)　→　*日雄*(にちおう;法諱、日蓮僧)３３９１
良綱(りょうこう・藤原)　→　*良綱*(よしつな・藤原、廷臣/歌人)Ｑ４７３７
良興(りょうこう・小鹿)　→　*存*(そん・小鹿こしか、医者/詩人/狂歌)Ｏ２４１７
了孝(りょうこう;字)　→　*日耀*(にちよう;法諱・宣示院、日蓮僧)Ｄ３３４９
龍惶(りょうこう;法諱)　→　*龍惶*(りゅうこう;法諱・蟬闇ぜんぎん、臨済僧/詩)Ｍ４９７４
蓼光庵(りょうこうあん)　→　*月底*(げってい・三輪みわ、大工/俳人)Ｈ１８２６
両高斎(りょうこうさい)　→　*永錫*(えいしゃく・狩野かのう/三谷、絵師)Ｕ１３０７
H4951 涼谷(りょうこく・河野こうの、名;通恭、河野新之右衛門主馬男)1762-1835*74* 常陸行方郡帆津倉村名主、
醤油醸造業、俳人:下総佐原の恒丸門、洞海舎中の中心として月並の句会を催行、
一茶・一具と交流、1818「ありのまゝ」編/24「ほと拍子」著/28「俳諧発句吾都麻布理」編、
1830「俳諧立待集」編/33「十万発句集初篇」編、「俳諧もゝ鼓」(初編-九編)編、
[涼谷(;号)の通称/別号]通称;新太郎/新之右衛門、別号;理石/李尺/洞海舎、
屋号;稲荷屋/亀甲正、法号;心恭随和居士
柳後亭(りゅうごてい)　→　*其雪*(きせつ・鶴和、商家/俳人)Ｌ１６１１
梁古楼(りょうころう)　→　*古風*(ひさかぜ・加藤、歌人)３７９１
H4952 良厳(りょうごん;法諱)　？－　？　室町期の僧、歌人;1487「竹内僧正句題和歌」入
H4953 亮厳(りょうごん;法諱)　？－　？ 1732存　薩摩の天台宗大雄山南泉教院の住僧:光謙門、
僧正、1731(享保16)刊「天台伝心印記講録」、「浄土教観要門講録」著

H4954 **良厳**(りょうごん;法諱・霊玉;字、良広or良応男)1742-1814*73* 上州群馬郡箕輪の天台宗極楽院住僧、
大和奈良に遊学;法相を修学/1793近江園城寺法明院の敬光門;顕密二教を研鑽、修験、
大雲寺正教院住、経疏の注釈を著述、歌;澄月門、「日蔭草」「恵心僧都法語三刀抄」著、
「観世音菩薩和讃海適鈔」「斎食儀分陰録」「四教儀集註分陰録」「略述法相義分陰録」著、
1806「不動尊和讃浅略鈔」07「法華三昧懺儀分陰録」外著多数、
[良厳霊玉の号]極楽院/不二房/向西道人

H4955 **了厳**(りょうごん;法諱) 1811 - 1868*56* 安藝の真宗本願寺派西光寺住職:頓乗・普厳門、
石泉門下の護命と信相成施論争、「信相論」「信心成施問答」「対論記」「方丈夜話」外著多数

良厳(りょうごん;初法諱) → *慈運*(じうん;法諱、天台大僧正/歌・連歌)Ｂ２１１３

良厳(りょうごん;字) → *慈観*(じかん;法諱・良厳;字、浄土僧) Ｐ２１９０

H4956 **了佐**(りょうさ・古筆こひつ:家名、姓;平沢)1572-1662長寿*91* 近江西川の生、
京で古筆目利;近衛前久門、古筆鑑定家の始祖となる;
関白豊臣秀次が藤原惺窩を使とし家名古筆と琴山の印を授与、茶道/歌;烏丸光広門、
1651(慶安4)「古筆鑑」著、箕山の師、俳諧;1633重頼「犬子集」3句入、
西鶴「古今誹諧師手鑑」入(;没後1676)、連歌;黄・了佐等「何葉百韻」、
[夏来ては古筆こひつとや見ん土筆つくづくし](犬子集巻三835;一村名)
[了佐(;号)の名/通称/別号]名;範佐/節世、通称;弥四郎、
別号;正覚庵しょうかくあん櫟材れきざい/琴山/古筆勘兵衛/一村(;俳号)

古筆家系図

- **了佐**(初世)
  - 了栄 - 了祐 - 了周 [*古筆宗家*] 5世 6世 7世 8世 9世 10世 11世 12世 13世
  - 了雪(初代)
    - □-了珉-了音-了延-了泉-了意(養子)-了伴-了博-了悦-了信
    - [*古筆別家*] 2代 3代 4代 5代 6代
    - 一村 - 了任-了仲-了仲-了仲-了任(最後の古筆家)

H4957 **涼渉**(りょうさ・佐々木ささき、栗斎3世、俳人宇喬[?-1838]男)?-? 宇考の孫、江後期羽前米沢の俳人、
宇濤の父、1844(天保15)「ひとつくり」編

良佐(りょうさ;初法諱) → *汝霖*(じょりん;道号・妙佐;法諱、臨済僧)Ｍ２２９０

良佐(りゅうさ→よしすけ) → *二洲*(じしゅう・尾藤びとう、儒者/詩) ２１２１

良佐(りゅうさ・窪井) → *鶴汀*(かくてい・窪井くぼい、藩士/儒者) Ｈ１５３４

良佐(りゅうさ/しすけ・小野)→ *栄重*(よししげ・小野おの/須藤、和算家) Ｄ４７６１

良佐(りゅうさ→よしすけ・桜田)→ *簡斎*(かんさい・桜田、儒者/勤王派) Ｑ１５６１

良佐(りゅうさ・三浦) → *葛山*(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者) Ｎ１５３５

良佐(りゅうさ・島/中島) → *玄谷*(げんこく・中島/修姓;島、儒者) Ｉ１８８７

良佐(りゅうさ・西島) → *蘭渓*(らんけい・西島にしじま/下条、儒者) Ｂ４８８７

L4942 **亮済**(りょうさい;法諱) ? - ? 江前期真言僧;亮淳門;
師の醍醐寺光大院を譲り受け住、律師、1603師の一周忌仏事を執行、
1618尊慶に両部大法を授与、1624先師尭雅(東寺長者)33回忌の導師、
1602(慶長7)「仏経供養表白」編

M4976 **良済**(りょうさい;法諱) ? - ? 江中期;京の真言宗金蔵院僧/歌人;宮川松堅門、
1722松堅[倭謌五十人一首]入、
[五月雨の日かずをふれば早苗もやふしみの里にふしだちてとる](五十人一首;26、
水郷早苗/ふしだつは茎が伸び節が現れる、続後撰集149;土御門院の歌;
[早苗取る伏見の里に雨過ぎてむかひの山に雲ぞかかれる])

H4958 **良哉**(りょうさい:道号・元明げんみょう:法諱/号;自笑軒、俗姓;山田)1706-86*81* 尾張の臨済僧;
名古屋総見寺の大竜門/日向大光寺の古月禅材門/白隠慧鶴門;嗣法、
三河幡豆郡の華岳寺住持、三河宗徳寺に没、1793「自笑録」、「瑞竜集」「良哉和尚語録」著

H4958 **了斎**(りょうさい・竹村たけむら)?- 1767 羽後仙北郡六郷の農業/詩歌人:

歌;京の風早公雄門、「了斎燼余稿」(遺稿;旧友吉田謙斎らが編纂)、
魯洲碩愚の父/吉明の祖父、
[了斎(;号)の名/通称]名;吉泰よしやす、通称;治左衛門

H4960 **亮斎**(りょうさい・須賀すが、精斎[誼安よしやす]男)1724-1804*81* 尾張の儒者;藩儒の父門/
国学;吉見幸和門(父と同門)、闇斎学/垂加神道修学、尾張藩儒;1754藩主徳川宗勝の侍講、
1755父没後;10人扶持支給/1757(宝暦7)儒官に任官、加増され禄2百石・扶持米百石、
藩主から信頼;7-9代藩主墓誌撰,息子衡斎(安重)も藩儒、父著「始学猫眼ねこまなこ」序文執筆、
1770「好学論付考」、「大学講義」「本註小学」著、
[亮斎(;号)の名/字/通称/別号]名;**安貞**、字;順次、通称;順次郎/図書、別号;玉潤/澄心斎

H4961 **良斎**(りょうさい・乾坤坊;号、通称;梅沢屋良助/菅良助、梅沢寛平男)1769-1860長寿*92* 江戸貸本屋、
落語家;三笑亭可楽門/剃髪/講釈師;自作講談、戯作者;滑稽本/合巻、料理が得意、
1828「黒雲太郎雨夜譚」/29合巻「傾城怪談冬廼月」、滑稽本「浮世笑談穴さかし」

H4962 **亮斎**(りょうさい・平山ひらやま) ? - ? 江後期文政1818-30頃常陸水戸藩に出仕、
1828(文政11)「鳩民邇言」著、
[亮斎(;号)の名/字/通称]名;貞、字;仲亮、通称;貞介/貞助

H4963 **了斎**(りょうさい・佐々木ささき、西村広2男)1793-1846*54* 佐々木重遠の養子、1828常陸水戸藩士、
国学/詩歌、9代藩主徳川斉昭付き;1832(天保3)神書取調懸/46(弘化3)小姓頭取;没、
1818「六如淇園和歌題百絶」編/27「和歌御会始の記」33「南極老人星鈔説」「了斎詩話」著、
[了斎(;通称)の名/字]名;重晁しげあき、字;明候

H4964 **良斎**(りょうさい・高こう、山崎好直男)1799-1846*48* 阿波徳島藩士の生/眼科医の高こう錦国の養嗣子、
医学;養父門/本草;乾純水門/1817長崎で蘭語・西洋医学;吉雄如淵門、
1823(文政6)シーボルト門;高弟、28(文政11)シーボルト事件に連座;のち赦免、
師より娘おいねの養育を託される、帰国後;徳島藩医/のち大阪で眼科医を開業/子弟教育、
晩年播磨明石藩に招聘される、緒方洪庵・篠崎小竹と交流、1826「薬品応手録」著、
1828「西説眼科必読」36「薬能識」、「医学捷径」「眼科便要」「外科精義」「薬品摘要」外著多数、
[良斎(;通称)の名/字/号]名;淡、字;子清、号;輝淵、法号;淡生院

H4965 **良斎**(りょうさい・小泉こいずみ)? - ? 江戸期羽後の儒者/詩人、「考槃堂詩稿」著、
[良斎(;号)の名/字/別号]名;濤、字;泊元、別号;素白道人

H4966 **良斎**(りょうさい・林はやし、讃岐多度津藩家老時重3男)1808-49*42* 母;讃岐丸亀藩家老佐脇家の女、
儒者;丸亀藩校正明館入学/儒・詩文を修学、1817(文化14)家督継嗣;多度津藩士、
1823多度津藩家老職政事方見習/25政事方;家老;江戸勤番、政務の傍ら儒者長野豊山門、
帰郷時に豊山より「陽明文録」を贈与され陽明学を知る、藩校自明館設立に尽力、1831辞職、
1834隠居;35大阪の大塩平八郎中斎門;陽明学を修学/文通により交流、
1837大塩の乱後;但馬の池田草案・京の春日潜庵・安藝の吉村秋陽と交流、
1846多度津堀江に私塾弘浜書院を開設;子弟教育/陽明学興隆に尽力、養嗣子;求馬、
「類聚要語」「学徴」「四書略講主意」「良斎文稿」「自明軒文鈔」著、「自明軒遺稿」、
[良斎(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;牛松、名;時壮/久中/林壮、字;子虚、
通称;求馬/直記、別号;自明軒

H4967 **諒斎**(りょうさい・北城/北条ほうじょう、北条元立一善男)1822-91*70* 母;黒羽藩士町井弥右衛門女の意能、
下野大田原の医者(家学);大田原藩医の父門、1845江戸で下野烏山藩医伊東玄珉門;
泰西医術を修学/1847帰郷;48父没;家職の大田原藩侍医と継嗣、
1849江戸で種痘法を修学;鏑木仙安・串戸瑞軒門、「種痘三祖伝」を著し種痘普及に尽力、
1859幕府種痘館・68東京種痘館の免許を取得/75大田原種痘所診察鑑定方に就任、
政府による種痘の義務化を建議;志半ばで没、
[諒斎(;通称)の別通称/別号]初通称;亮采、号;一行/能済堂

良済(りょうさい) → *良済*(りょうせい、僧/)
良哉(りょうさい・松岡) → *経平*(つねひら・松岡、医者/国学) Ｄ２９５２
良哉(りょうさい/よしや・飯島/佐久良)→ *東雄*(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌)１０５０
良斎(りょうさい・中村) → *武右衛門*(ぶえもん・三星屋みつぼしや、商家/和学)Ｉ３８７９
良斎(りょうさい・佐々木) → *長秀*(ながひで・佐々木/吉田、幕臣天文)Ｆ３２４９

良斎(りょうさい・菊池)　→　*正古*(まさひさ・菊池きくち、医者/教育)　Ｇ４０６２
良載(りょうさい・関島)　→　*良載*(よしのり・関島せきじま、医者/歌人)　Ｎ４７５７
涼斎(りょうさい・野矢)　→　*常方*(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌)　Ｂ２９９６
涼斎(りょうさい・中川)　→　*鯉淵*(りえん・中川/越智、藩士/儒者)　４９３９
涼斎(りょうさい・安倍)　→　*直貞*(なおさだ・安倍あべ、和学者)　Ｋ３２７０
涼斎(りょうさい・横田)　→　*定堅*(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人)Ｐ２０７７
亮采(りょうさい・沢田)　→　*吉左衛門*(きちざえもん・沢田、藩士/暦算家)Ｌ１６２６
亮采(りょうさい・諏訪)　→　*純次郎*(じゅんじろう・諏訪すわ、歌人)　Ｔ２１６２
亮斎(りょうさい・戸塚)　→　*静海*(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医)　Ｈ２４７０
亮斎(りょうさい・会田)　→　*素山*(そざん・会田、藩士/御風門俳人)　Ｊ２５７８
了斎(りょうさい・赤松)　→　*了益*(りょうえき・赤松あかまつ、医者/古典)　Ｇ４９５１
了斎(りょうさい)　→　*八亀*(はっき・時節庵、商人/俳人)　Ｆ３６０９
鶏斎(りょうさい・小森)　→　*桃塢*(とうう・小森、蘭方医/御典医)　Ｂ３１１８
良材(りょうざい・梶野)　→　*良材*(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行)Ｄ４７０７
良材(りょうざい・上条)　→　*柳居*(りゅうきょ・上条かみじょう、与力/国学)Ｄ４９３４
良左衛門(りょうざえもん・大塚)→　*松処*(しょうしょ・大塚おおつか、藩儒/剣術)Ｔ２２１２
良左衛門(りょうざえもん・佐野屋)→*淡雅*(たんが・菊池/大橋、商家/儒者)Ｔ２６２１
良左衛門(りょうざえもん・久保)→　*正臣*(まさおみ・久保くぼ、藩士/国学者)Ｐ４０３６
亮左衛門(りょうざえもん・椿)→　*蓼村*(りょうそん・椿つばき、書家)　Ｉ４９７６
量左衛門(りょうざえもん・武田)→　*定周*(さだちか・武田たけだ、和算家)　Ｉ２０５２

M4952 **良作**(りょうさく・吉海よしかい、)1837-1876*40*　肥後熊本藩士、国学;林有通(桜園)門、
1871(明治4)応変隊の小河真文らの反政府運動[久留米藩難事件]に連座/敬神党の中心、
1876(明治9)神風連の乱で太田黒伴雄を支援し熊本鎮台を攻撃中に戦死

了作(りょうさく・高宮)　→　*環中*(かんちゅう・高宮たかみや、医者/国学)　Ｇ１５５３
良作(りょうさく・原)　→　*坦山*(たんざん・原、儒/医/曹洞僧)　Ｉ２６７８
良作(りょうさく・佐川)　→　*久連*(ひさつら・佐川さがわ、藩士/歌人)　Ｂ３７４３
良作(りょうさく・河合)　→　*正阿*(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人)　Ｑ２２７０
良作(りょうさく・関)　→　*養軒*(ようけん・関せき、儒/藩校創設)　４７７４
良作(りょうさく・尾台)　→　*榕堂*(ようどう・尾台おだい/小杉、医者)　Ｂ４７５１
良作(りょうさく・影田)　→　*蘭山*(らんざん・影田かげた、藩儒/歌人)　Ｃ４８３５
良作(りょうさく・福田)　→　*文哉*(ぶんさい・福田/源、医者/画/歌人)Ｆ３８２８
良作(りょうさく・市村)　→　*章*(あきら・市村いちむら、国学/歌人)　Ｈ１０００
良策(りょうさく・末松)　→　*房泰*(ふさやす・末松すえまつ、国学者)　Ｉ３８３６
良朔(りょうさく・橘)　→　*峻江*(しゅんこう・橘たちばな、書家/文筆家)　Ｋ２１６８
良策(りょうさく・津軽)　→　*季詮*(すえのり・津軽つがる/村尾、奥医/国学)Ｉ２３８２
良策(りょうさく・笠原)　→　*白翁*(はくおう・笠原かさはら、医者/種痘)　Ｃ３６７７
亮策(りょうさく・建部/杉田)→　*伯元*(はくげん・杉田、蘭医者)　Ｄ３６０２
亮三郎(りょうざぶろう・間野)→　*慶明*(よしあき・間野まの/小野、庄屋/歌)　Ｐ４７０３

H4968 **良算**(りょうさん;法諱)　?-　?　鎌倉期法相興福寺僧;貞慶門、
1202(建仁2)「因明観学抄」/04・13「局通対」、1206「有法自相所立法」、
「因明四種相違略文集」「言許対」「言陳意許対」「真理抄」著/「成唯識論同学鈔」編、外著多数

H4969 **良算**(りょうさん;法諱、法印慶算男)?-1244?　鎌倉期天台僧/法印/権大僧都、
父以来:宿曜師道で有名;算明の兄/息子の聖算・賢算に相伝/子孫も相承、陀羅尼丸の父、
歌人:万代集入、勅撰2首;新勅撰(462)続後撰(416)、
[伏しておもひ仰あふぎて祈るわが君のみ世は千歳にかぎらざるべし](新勅;賀462)

良三(りょうさん・西村)　→*春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１

H4970 **竜山**(りょうざん:道号・元騰げんとう:法諱)?-?　江前期黄檗僧:良寂道明門/1679嗣法、
1682「良寂禅師語録」編、「竜山和尚語録」著

H4971 **梁山**(りょうざん:道号・元秀げんしゅう:法諱)?-?　江前期黄檗僧:鉄岩道廓門/1681嗣法、
「東武行日記」「吉野山水庵日記」、「梁山禅師語録」著

H4972 **霊山**(りょうざん;法諱・懐誉;法名)?-?　　江前中期;元禄寛保1688-1744頃の浄土僧:
京の帰命院懐山門、江戸芝増上寺に遊学/のち帰命院住、鎮西流白旗派、
師懐山の著作に師贈与の浄土宗書物の人名・用語を解説増補して1705「浄土源流解蒙」著、
さらに補訂;1734(享保19)「浄統略讃」とす、霊忠の師

H4973 **梁山**(りょうざん・中村/中邨なかむら、篤舒男)1731-1801*71* 長門萩藩の儒者;山県周南門、学館都講、
1766藩の木曾川工事に際し功績/のち儒職を兼ねる/1770江戸の祇役し侍講、
「道之記」「元日稿」著、
[梁山(;号)の名/字/通称]名;恭、字;子順、通称;幾之進/九郎兵衛/八郎兵衛

M4943 **良山**(りょうざん;法諱・河野、字;妙高、来光寺住職了春男)?-? 江中後期;讃岐の真宗本願寺派僧、
讃岐阿野郡の天台宗鷲津寺じゅうぶじ住僧、国学
固浄こじょう(1744-1802/僧/仏典/和漢学/歌/俳諧/狂歌)の弟

E4922 **綾山**(りょうざん・黒田くろだ、)1755-1814*60*　讃岐高松田町の町人/絵師;加藤文麗門、池大雅に私淑、
1775(安永4)大坂で福原五岳(大雅の高弟)門、1780(安永9)備中玉島に遊歴;売画で生計、
諸国歴遊後に1785(天明5)海運で栄える玉島に永住を決意;居を起雲屈と称し画業、
天明飢饉に画で援助/名声上がり丹波篠山亀山藩に招聘されるが辞退;画の出仕はする、
玉島に文化的集団の基礎形成、菅茶山・西山拙斎・頼春水・皆川淇園・横溝藿里らと交流、
妻子に先立たれる、病没、門人岡本綾江が建碑企画;没後34年後[綾山黒田翁之碑]完成、
「繊手抱細児図」「楼閣山水図」「祖谷鳴瀧図」「蝦蟇仙人図」「群鶴図」など画多数、
門人;白神皡々・白神皡々・小野雲鵬・岡本綾江・守屋中岳ら、
[綾山(;号)の名/字/別号]名;良/良甫りょうすけ、字;亮輔/**忠良**ただよし、
別号;起雲廬/応祥/石隠居廬良

H4974 **良山**(りょうざん・阿部あべ、嘉藤太男)1773-1821*49* 讃岐山田郡六条村の篆刻家;
父と大坂阿波橋に移住、詩/画を嗜む、細川林谷の師、
「良山堂印譜」/1818「扇面印」著、縑州けんしゅうの父、
[良山(;号)の名/通称/別号]名;世良、通称;良平、別号;良山堂、

L4943 **綾山**(りょうざん;道号・宜禎ぎてい;法諱、号;竜囦室りゅうえんしつ)1806-74*69*　臨済僧;太元門;法嗣、
1835(天保6)美濃安八郡中川村の慈渓寺住持;1870退隠、「綾山宜禎禅師語録」著

霊山(りょうざん・道隠)　→　*霊山*(りんざん;道号・道隠どういん;法諱・臨済僧)Ｋ４９３５
令山(りょうざん;法諱)　→　*峻翁*(しゅんのう;道号・令山、臨済僧)　Ｌ２１７１
了山(りょうざん;道号)　→　*元見*(げんけん;道号・了山、黄檗僧)　Ｂ１８８７
涼山(りょうざん・富坂)　→　*涼山*(りょうせん・富坂、医者/記録)
良山(りょうざん・高蓮社)　→　*妙観*(みょうかん;法諱、浄土僧)　Ｇ４１２４
良山(りょうざん・堀)　→　*直虎*(なおとら・堀ほり、藩主/桜研究)　Ｂ３２９０
良山(りょうざん;字)　→　*行観*(ぎょうかん;法諱・良山、融通念仏僧)Ｎ１６５６
良山(りょうざん・有馬)　→　*頼永*(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文)　Ｊ４７１３
良山(りょうざん・的場)　→　*勝督*(かつただ・的場まとば、藩士/歌人)　Ｖ１５７９
梁山(りょうざん・河野)　→　*通儀*(みちのり・河野こうの、町役/歌人)　Ｊ４１１０
良杉斎(りょうさんさい)　→　*秀富*(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人)　Ｄ３７３６
良山堂(りょうざんどう)　→　*良山*(りょうざん・阿部あべ、篆刻家)　Ｈ４９７４
良山堂(りょうざんどう)　→　*縑州*(けんしゅう・阿部、良山男/篆刻家)　Ｊ１８５２
霊山坊(りょうざんぼう)　→　*公誉*(こうよ;法諱、天台僧)　Ｂ１９９９

H4975 **蓼之**(りょうし)　？-　？　　俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[芭蕉葉ばせうばに露大き也まばら也](月の夜;143)

良之(りょうし・黒木/三井)→ *良之*(よしゆき・三井みつい/黒木、眼科医)　Ｈ４７８９
良史(りょうし・菅)　→　*良史*(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学)　Ｎ４７４２
良枝(りょうし・清原)　→　*良枝*(よしえだ・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｃ４７２６
良資(りょうし・大宮)　→　*良季*(よしすえ・大宮おおみや/藤原/日野、廷臣/記録)Ｄ４７７３
良資(りょうし・植木/大河内)→*恬逸*(てんいつ・荘しょう/大河内/藤原、幕臣儒官)Ｄ３０１３
量子(りょうし・藤堂)　→　*量子*(ますこ・藤堂とうどう/蜂須賀、藩主室/歌)Ｒ４００５
梁子(りょうし・臼田)　→　*梁子*(あやこ・臼田うすだ、歌人)　Ｈ１０１３

了爾(りょうじ・寺村)　→　*三貫*(さんかん・寺村、商家/俳人)　Ｅ２０２０
良治(りょうじ・夏目)　→　*成美*(せいび・夏目、札差/俳人)　２４１２
良治(りょうじ・村尾)　→　*元融*(げんゆう・村尾、医/儒/国学者)　Ｄ１８１７
良治(りょうじ・目々沢)　→　*樗軒*(ちょけん・目々沢めめざわ、漢学者)　Ｋ２８３５
良次(りょうじ・萩原)　→　*良次*(よしつぐ・萩原はぎわら/中臣、神職)　Ｏ４７５０
良時(りょうじ・崎山)　→　*良時*(よしとき・崎山さきやま、歌人)　Ｋ４７４１
聊爾斎(りょうじさい・板垣)→　*宗憺*(宗胆そうたん・板垣/中村/源、国学者)Ｃ２５４７
良室(りょうしつ;初道号)　→　*玉甫*(ぎょくほ;道号・紹琮;法諱、臨済僧)Ｐ１６３４

H4976 **了実**(りょうじつ;法諱・法名;盛蓮社成阿じょうあ)1303-86*84* 浄土宗第六祖、常陸太田法然寺蓮勝門;
出家、鎌倉の光明寺定恵門;修学、1358(延文3)常陸太田城主佐竹義篤の帰依;
常陸常福寺を創建、1385門弟の聖冏に常福寺を譲渡;86没、「選択集肝要儀」著
良実(りょうじつ・九条/二条)→*良実*(よしざね・二条/藤原/九条、関白/歌)Ｄ４７４９
量実(りょうじつ・小槻)　→　*量実*(かずざね・小槻おづき/壬生、連歌)　Ｍ１５２４

H4977 **良子内親王**(りょうしないしんのう、後朱雀天皇皇女)?-?　斎宮/1040「斎宮貝合」催
亮子内親王(りょうしないしんのう)→　*殷富門院*(いんぶもんいん、後白河皇女)１１１０
綾子播磨(りょうしはりま)　→　*東南*(とうなん・近松、浄瑠璃作者)　Ｇ３１８２

H4978 **凌舎**(りょうしゃ・伊東いとう)　？－　？　江後期講釈師・伊東派、
1835-6紀行「鹿児島ぶり」著

H4979 **良寂**(りょうじゃく;道号・道明どうみょう;法諱、俗姓;中沢)1622-89*68* 信濃小県の僧/幼時父と死別、
1631(10歳)曹洞僧の大承門;出家、江戸・京で修学、1654隠元渡来により長崎に参禅;随従、
黄檗僧:木庵性瑫しょうとうにも入門;1673嗣法、恵明寺を建立、福昌寺・寄幻庵の招聘開山、
1686(貞享3)羽前新庄藩主戸沢正誠の招聘で最上郡大田村の福聖寺開山;同寺に没、
1682「良寂禅師語録」著、
[良寂道明の初道号/初法諱] 慧端性明(;曹洞僧)
了雀(りょうじゃく・中村)　→　*清五郎*(初世せいごろう・中村、歌舞伎役・作者)Ｂ２４４８
了寂院(りょうじゃくいん)　→　*光悦*(こうえつ・本阿弥、鑑定/書/茶人)　１９０５
梁雀州(りょうじゃくしゅう)　→　*雀州*(じゃくしゅう・梁、滑稽本作者)　Ｇ２１２１
良者性光(りょうしゃしょうこう)→*大眉*(だいび;道号・性善;法諱、渡来黄檗僧)Ｋ２６９７

H4980 **良守**(りょうしゅ;法諱、近衛基良or良平男)?-1264? 天台園城寺住僧;法印/熊野那智で3年の滝垢離、
歌人:藤原為家門;三代集を修学、1256「熊野山二十首」勧進/1260「僻案抄」の奥書執筆、
万代集・秋風集入、勅撰5首;続後撰(617)続古(875)続拾(1380)新後撰(1310)玉葉(2784)、
[秋の夜は心の雲もはれにけりまことの月のすむにまかせて](続後撰;釈教617、
大日経・心無所畏・故能究竟・浄菩薩心のこころを月によせて詠む)

H4981 **良守**(りょうしゅ;法諱、太政大臣久我こが長通男)?-? 南北期真言宗仁和寺理智院住僧;法印、
良誉僧正より御室御教書の管領を委託される;のち隆寛法印にこれを委ね隠居、
歌人:1360(正平15)「句題百首(五玉集)」入(5人の歌僧集;頓阿・良守・良春・頓宗・周嗣)
[くれかゝる遠山どりの尾上よりまだき隔てて立つ霞かな](句題百首;春)
梁守(りょうしゅ・加藤)　→　*梁守*(やなもり・加藤かとう/藤原、神職)　Ｆ４５７０

H4982 **了壽**(りょうじゅ;法諱・柳陰堂;号)?-?　江前中期歌人:戸田茂睡門、
茂睡「鳥の迹」「梨本隠家勧進百首」入、1703「和歌さざれ石」編(:茂睡「鳥の跡」の続集)、
[ぬぎかふるけさの衣も身にしらぬ心ぞやすき墨染の袖](茂睡[鳥の迹]夏191)
良寿(りょうじゅ;法諱・万極)→　*万極*(まんごく;道号・良寿、曹洞僧)　Ｋ４０５３
良寿(りょうじゅ・仙翁、真言僧)→　*監物*(けんもつ・佐野、郷土史家)　Ｍ１８４９
良寿(りょうじゅ・及川)　→　*良寿*(よしひさ・及川おいかわ、医者/国学)　Ｇ４７３３
良寿(りょうじゅ・戸田)　→　*満寿女*(ますじょ・戸田とだ、藩老の妻/歌)Ｍ４０１０
良樹(りょうじゅ・田中)　→　*良樹*(よしき・田中たなか、国学者)　Ｋ４７４８
良樹(りょうじゅ・原)　→　*良樹*(よしき・原はら、国学者/歌人)　Ｏ４７６５
亮寿(りょうじゅ・井伊)　→　*徹*(とおる・貫名ぬきな/井伊、家老/歌)　Ｗ３１０３

L4999 **量寿院**(りょうじゅいん、井伊おかよ/旧姓;大武)1741-1803*63*　近江彦根藩主井伊家に出仕;
藩主直幸なおひで(1729-1789)の側室(妾)、直中の母、歌人

M4969 梁秀(りょうしゅう:法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[楢葉集]入、
[秋深くなりゆくほどあづまの方に思ひたつ事侍るけるが都遠くなる程心細くおぼえ、
ゆめぢさへみやこはとほくなりねとやたびねのとこに秋風ぞ吹く](楢葉;羈旅637)
H4983 良秀(りょうしゅう;法諱)1414 - ? 1485存 天台僧;法印、京の魚山来迎院で声明本を書写;
校合を行う、「唱導拾玉集巻上」「引声」「読経作法」/1482「来迎院略縁起記」著
H4984 竜洲(りょうしゅう;道号・文海もんかい;法諱、号;樵汲)1480-1541or1550*62or71* 下野都賀郡の曹洞僧、
同郡大中寺の圭庵伊白門;法嗣、1538大中寺住持/40相模最乗寺住持、
「竜洲代」「洞家代語」著
4967 了秀(りょうしゅう:法諱、法名;憲蓮社章誉至眞)?-1710 京の浄土僧;江戸芝増上寺智哲門、
武蔵岩槻の浄国寺住職、1698(元禄11)幕命で京の清浄華院40世、1707「法事讃私記撿要」著
L4994 了周(りょうしゅう・古筆こひつ;家名/姓;平沢、旧姓;小川、名;重忠)1670-86夭逝*17歳* 母;古筆了佐女、
古筆鑑定家;古筆宗家3世了祐りょうゆうの養子;古筆4世継承するも夭逝、
別号;不妙庵法宜、古筆宗家は了佐の孫了珉は5世嗣、 古筆家系図→[了佐]参照
1773几董「明烏」1句/76樗良「月の夜」1句/77江涯「仮日記」1句入、
[和らぎし水より出いでて芦の角](あけ烏;186/春の川面の景)
L4944 亮周(りょうしゅう:法諱) ? - ? 江後期寛政文化1789-1818頃の天台僧;法印、
1803(享和3)「法華三昧敬白」著
H4986 梁洲(りょうしゅう・黒田くろだ、旧姓;森もり)1792-1857*66* 近江膳所藩士黒田家を嗣、儒;京の猪飼敬所門、
膳所藩馬廻格に列す;70石/のち藩校遵義館の学頭、師敬所の伊勢津藩儒の就任に尽力、
「暦数解」「大学章句筆記」「論語訂誤」、膳所藩儒森鼎の弟、
[梁洲(;号)の名/字/通称]名;善/扶善、字;元民、通称;五平次、
H4987 梁洲(りょうしゅう・鎌田かまた、定好男)1813-1873or75?*61or63* 代々伊賀名張の藤堂家儒官、
句読;井上貞頭門、儒;1827(15歳)小谷巣松門、36家督継嗣;藤堂長徳に出仕/53家老職、
1857訓蒙寮を開設;教授、
維新後;伊勢津藩の漢学一等教師兼国学教師/崇広堂講官/思斎舎教頭兼典籍を歴任、
「論孟私説」「梁洲文稿」「随山詩鈔」「白采軒日記」「周易講案」「読左随録」「読論私記」、
1839「書名随聞録」42「諸方音信覚帖」56「諸方消息記」63「観瀑図誌」、「香落澗記」、
「衝口俳句録」「赤目滝謡」「田獵ノ記」「謡曲指要」「歴史抄録」「習文雑録」外著多数、
[梁洲(;号)の名/字/通称/別号]名;重節/政挙、字;翔甫、通称;外記、別号;楽山院

良秀(りょうしゅう:法諱)	→	*実峰*(じっぽう:道号、南北期曹洞僧)	Ｖ２１０８
良舟(りょうしゅう・中臣)	→	*良舟*(よしふね・中臣/大中臣、廷臣/詩人)	Ｇ４７８０
良修(りょうしゅう・別所)	→	*良修*(よしなが・別所べっしょ、藩士/歌人)	Ｏ４７９７
良檝(りょうしゅう・中臣)	→	*良檝*(よしかじ・中臣/大中臣、廷臣/詩人)	Ｃ４７４６
梁臭(りょうしゅう・大谷)	→	*栄庵*(えいあん・大谷、天台僧/書/記録)	Ｃ１３４９
龍湫(りょうしゅう;道号)	→	*周沢*(しゅうたく;法諱・龍湫、臨済僧)	Ｉ２１０６
量秋(りょうしゅう・豊原)	→	*量秋*(かずあき・豊原とよはら、楽人/笙)	Ｍ１５０２
量琇(りょうしゅう;法号)	→	*俊量*(としかず・綾小路、廷臣/郢曲/歌)	Ｍ３１１３
亮周(りょうしゅう;号)	→	*宏観*(こうかん;法諱・亮周、天台僧)	１９９２
蓼州(りょうしゅう・山田/岩波)	→	*其残*(きざん・山田/岩波、俳人/画)	Ｋ１６６８
蓼州(りょうしゅう・森)	→	*春樹*(はるき・森もり、商人/画/俳人)	Ｇ３６２５

H4988 良重(りょうじゅう;法諱・尭智房;号)?-1491 戦国期越中の真言僧:長任門;付法、
高野山無量寿院住、1488(長享2)金剛峯寺165世検校、「宗義初心鈔」著、
[良重の初法諱] 重誉
H4989 良重(りょうじゅう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」2句入、
[俳諧は蚊が嬉しがる夜の席](蓮実;254)
H4990 了重(りょうじゅう・佐崎さざき)1827-1888客死*62* 越後高田の真宗本願寺派竜巌寺の住職、
国学;中根善右衛門門、歌学;因幡鳥取光輪寺の無蓋門、維新に勤王派で奔走、
1875少講義/新潟県各宗教導取締/のち真宗教導取締、布教中;信越国境平丸嶺に凍死、
「越後名所旧跡略記」著、

[了重(;名)の別名/通称]別名;宗鱗、通称;宰相
良住(りょうじゅう;字)　→　*日演*(にちえん;法諱、日蓮僧)　３３７８
良充(りょうじゅう・小豆沢)→　*良充*(よしみつ・小豆沢あずきざわ、歌人)　Ｌ４７２７
良重(りょうじゅう・平塚)　→　*良重*(よししげ・平塚ひらつか、古筆鑑定/歌)Ｑ４７４５
良重(りょうじゅう・犬塚)　→　*良重*(よししげ・犬塚いぬづか、幕臣/国学者)Ｌ４７６２
良什坊幸貫(りょうじゅうぼうこうかん)→*正也*(まさなり・高根たかね、修験奉行/尊攘)Ｑ４０６７
了叔(りょうしゅく・御廚)　→　*景恒*(かげつね・御廚みくりや、医者)　Ｌ１５０４
良樹斎(りょうじゅさい・橋爪)→　*文徳*(ふみのり・橋爪はしづめ、和漢学)　Ｉ３８６１

H4991 **良舜**(りょうしゅん;法諱、通称;伊勢室山入道)?-? 平安後期伊勢の僧/歌人;源俊頼と伊勢で交流、「亀鏡抄」撰(散佚)

H4992 **良春**(りょうしゅん;法諱)　?-　?　南北期僧;権大僧都/僧正、歌人、1360「句題百首(五玉集)」共編(5人の歌僧集;頓阿・良守・良春・頓宗・周嗣)、1364-65「一万首作者」入、「新玉津島社三十首」参加、新続古今(2首502/1123)、[あす知らぬ狩場の小野に鳴く鹿はこよひばかりと妻や恋ふらん](新続古;秋502)

H4993 **良舜**(りょうしゅん;法諱)　?-　? 1581存　常陸牛久の天台宗円通寺住僧/常陸黒子千妙寺住、法印、1544「仏土義分段捨不」著

H4994 **良春**(りょうしゅん・森田もりた)?-　?　京の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」8句、「誹諧百人一句」入、[草も木もめでたさうなりけふの春](犬子集;19/新年;芽が出そうを掛る)

H4995 **良俊**(りょうしゅん;法諱・実体;字)?-1821　尾張の真言僧;長久寺24世、1809(文化6)智積院28世謙順より伝法灌頂を受、「阿字観口決」「起信義記決択鈔」著、1788「宗輪論述記転輪鈔」「月輪観頌消釈」/1814「五字真言纂述」66「科註因明入正理論」著

H4996 **亮春**(りょうしゅん;通称・坂本さかもと、名;丹治)1772-1857*86* 上州群馬郡棟高村の和算家:石田玄佳門、息子豊春と共に石田算学を継承;発展に尽力、1847「当世塵劫記解」「探会術解」著、1853「自問自答政」編、「角術演段」「垜畳招差だじょうしょうさ」著/「諸約術解」編
了俊(りょうしゅん・今川)　→　*貞世*(さだよ・今川、武将/歌/連歌)　２０２８
了春(りょうしゅん;号)　→　*覚芳*(かくほう;字、天台僧)　Ｋ１５４５
良春(りょうしゅん・本間)　→　*俊安*(しゅんあん・本間ほんま、医者)　２１９２
良春(りょうしゅん・松本)　→　*柳斎*(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌)　Ｅ４９０３
良俊(りょうしゅん・惟宗これむね)→　*行蓮*(ぎょうれん、惟宗これむね、僧/歌人)　Ｃ１６９０
良俊(りょうしゅん・中川)　→　*良俊*(よしとし・中川なかがわ、商家/儒者)　Ｏ４７１４

H4997 **良順**(りょうじゅん;法諱、法名;円蓮社聖満しょうまん、安東信親男)1328-1409*82* 相模鎌倉の浄土僧、鎌倉光明寺3世定慧門/のち1356光明寺4世となる;武蔵鴻巣勝願寺4世を兼任、1361定慧より宗戒両脈を受;相伝書多数筆録、学徳高く聖冏「教相十八通」に了実と連署、「批判付十八通」著

H4998 **良順**(りょうじゅん;法諱、養春;字/法名;旭蓮社)1463-? 1514存 戦国期浄土僧:名越派の学僧、1487(長享元)下野大沢の円通寺6世住持、1495下総を念仏勧進する、「一夏百条論義」著

H4999 **亮淳**(りょうじゅん;法諱、天神崗城主一色[本姓;源]国朝男)1537-1602*66* 下総葛飾真言僧;1549出家、1561醍醐山の亮恵僧正門;伝法灌頂を受、のち仁和寺の任助門;減俸職位を蒙る、1577(天正5)伝法壇を関東に建設/1583法印/92権僧正、1601覚深親王出家の戒師を務める、醍醐寺義演准后の師、晩年;仁和寺真光院主に補される、「灌頂外儀法則」「諸尊法肝心鈔」、「御流御聖教事」「祖師書籍事」「伝授目録」外著多数、連歌;1583(天正11)紹巴と「正月一日何垣百韻」

I4900 **了純**(りょうじゅん)　?-　?　江初期連歌作者;玄的[1593-1650]口述「漢和差合かんなさしあい」を筆記

I4901 **良順**(りょうじゅん・宮竹みやたけ/初姓;今井)1743-1810*68* 讃岐の医者/儒;伊藤蘭嵎門、幕府に出仕、「医事一家言」「脚気辨語」「脚気臆説」著、[良順(;通称)の名/字/号]名;重善/唯善、字;子徳、号;器川

M4926 **了潤**(りょうじゅん・本荘ほんじょう、号;文哉/**松籟**)1796-1868*73* 佐渡金井町本屋敷の真宗得勝寺住職、絵師;加藤文琢門、京の四条派服部元戴(1801-1882)門、詩歌人、縫子ぬいこの父

孫の本荘了寛(1847-1920/笠野典蔵男/母が了潤女/縫子の甥)を養子とし縫子が養育、
1858得勝寺を嗣いだ子が没/了寛は得勝寺の田鶴(従妹)と結婚、
1868(慶応4)了潤没、
※了寛は得勝寺住職を継嗣;廃仏廃寺令で越後で儒を修学し小学校教師;「竹窓日記」著、
北溟雑誌を発刊・物産品評会の開催・佐渡地図を出版・[佐渡水難実記]発刊

I4902 **良順**(りょうじゅん・松本まつもと、佐倉藩医佐藤泰然2男)1832-1907*76* 江戸麻布の医者;父門、
1849(18歳)幕医松本良甫の養子/1857幕命で肥前長崎に留学;蘭医ポンペ門、
長崎養生所設立に尽力、1862江戸に帰る;将軍徳川家茂の侍医/法眼、洪庵没後医学所頭取、
戊辰戦争で会津軍側で治療;朝敵として捕縛/維新後;兵部省出仕;初代軍医総監に就任、
貴族院議員、1864「養生法」、「外科手術篇」「外科則条楳毒篇」「眼療則」「朋百氏眼療則」著、
「コレラ病説」「マーゼレン病説」「麻疹療法」「病原学」「内科学説」外著多数、
[良順(;名)の別名/字/号]別名;順之助/順、字;子良、号;蘭疇/楽痴、法号;大生院

L4946 **良潤**(りょうじゅん;法諱、俗姓;蜂屋)?-? 江後期近江の真宗大谷派満徳寺住職、
1846(弘化3)「講演法華儀講義」/1860(万延元)「観経疏散善義庚申録」著

L4945 **了順**(りょうじゅん;法諱、最勝院;号)?-? 江戸期三河の真宗大谷派満徳寺住職、贈擬講、
「浄土安心五流略記」著/「末法燈明記講義」編

亮潤(りょうじゅん;法諱) → *亮潤*(りょうにん;法諱、天台僧/大僧正) Ｊ４９１８
良純(りょうじゅん・伊藤) → *維寧*(これやす・伊藤いとう/藤原、家人/歌)Ｐ１９８９
良淳(りょうじゅん・平間) → *長雅*(ながまさ・平間ひらま、歌人) ３２１８
良順(りょうじゅん・島本) → *誠*(まこと・島本しまもと、医者/蘭学) ４０７９
良順(りょうじゅん・勝野) → *良順*(よしより・勝野かつの/田宮、藩士/和漢学)Ｍ４７２２
了純(りょうじゅん;字) → *貫三*(貫山かんさん;法諱、真言宗智山派僧)Ｑ１５７６
了淳(りょうじゅん;字) → *義譲*(ぎじょう;法諱・了淳、真宗僧) Ｋ１６９５
了春庵(りょうしゅんあん) → *鋪綱*(のぶつな・朽木くつき、藩主/教育) Ｃ３５１１

I4903 **良純親王**(りょうじゅんしんのう、後陽成天皇第8皇子)1603-69*67* 母;庭田重具女の典侍具子、
1614親王宣下、二品/1615徳川家康の猶子、19浄土宗知恩院入室;尊照門;得度、
知恩院初代門跡、1643故あって甲斐天目山に配流;興因寺に蟄居、
1659赦免;京の泉涌寺山内新善光寺住、1664(寛文4)還俗;北野に住/以心庵と号す、
「大日本国帝王紀」、1652「和歌詠草」、「良純消息」著、
[良純親王(;法諱)の幼名/号/法号/諡号]幼名;直輔、号;以心庵、諡号;無礙光院、
法号;専蓮社行誉心阿自在良純

良順先生(りょうじゅんせんせい)→ *簡斎*(かんさい・田辺、藩士/儒者) Ｑ１５５４

I4904 **蓼処**(りょうしょ・鈴木すずき、名;魯/字;敬玉、福井藩士鈴木準貞男)1833-78*46* 越前福井藩士、
儒:森春濤の茉莉吟舎入門;経史/詩文に長ず、1857藩校明道館の句読師、1874東京移住、
教部省権大丞、「蓼処詩文稿」「大雲山房文鈔」著、川田甕江・鈴木松塘・三島中洲と交流

了所(りょうしょ・今川) → *忠懿*(ただよし・今川いまがわ、絵師) Ｒ２６３４

I4905 **亮恕**(りょうじょ;法諱) ? - ? 1740存 真言宗東寺金剛珠院の住僧:1740(元文5)正僧正、
「胎蔵諸尊」「十金胎護」「曼荼羅供作法」「九百年忌大曼荼羅供法会梗概日記」著

I4906 **良恕**(りょうじょ・曼殊院/東)?- ? 連歌作者、1818「後集発句帳」入

良助(りょうじょ;法諱) → *良助法親王*(りょうじょほっしんのう、天台僧) Ｉ４９１９
良助(りょうじょ・村瀬) → *櫟園*(れきえん・村瀬むらせ、儒者) ５１７２
良如(りょうじょ:号) → *光円*(こうえん;法諱・良如、真宗本願寺派僧)Ｈ１９６３

I4907 **良勝**(りょうしょう;法諱・蓮光;字、大蔵卿源道良男)?-? 真言宗醍醐寺阿闍梨、
1114-15勧修寺厳覚より伝法灌頂受/1159興然より伝法灌頂受/厳覚の病床に侍し看護:
寅時の印明を受、のち良勝方の祖、書画に長ず、「寅時印信」受、
[良勝(;法諱)の通称/号]通称;桜町三位重士律師、号;蓮光房

I4908 **良聖**(りょうしょう;法諱・聖忍房;号)?-? 鎌倉期建長康元1249-57頃浄土僧:良忠門、
師良忠の下総匝瑳そうさ郡福岡郷での観経疏講述の時に筆録役を務める、
金沢文庫に筆録や手沢の典籍多数現存、「群疑論見聞」「観経玄義分聞書」「観経疏聞書」、
「観経定善義分聞書」著

I4909 **良清**(りょうしょう;法諱・田中;号、俗姓;紀/竹、行清男)1258-99*42* 母;若宮巫女万歳、
父は石清水八幡宮寺別当、1268(11歳)出家/社僧;権別当/権少僧都/法印、
石清水八幡宮寺別当45世、東宝塔院院主、歌;和漢兼作集入、「鳩嶺集」著
I4910 **良聖**(りょうしょう;法諱・玄僊;字、左近中将二条為道男)1299-? 二条為世の孫、鎌倉南北期天台僧、
日本天台廬山寺流の学僧、京中に住;天台三大部等を講ず、権少僧都/法印/僧正、
1314「明星抄」16「即身成仏義聞書」49(51歳)「止観猪熊抄」、「猪熊問要止観」「十界互具」著、
歌人:1335「内裏千首」・50「為世十三回忌和歌」参加、続現葉集入、
勅撰4首;続後拾遺(1198)/新千載(512/919/2345)、
[さても世に有るべきものをなかなかにうき身を憂しと何思ふらむ](続後拾;雑1198)、
[良聖(;法諱)の通称/号]通称;猪熊僧正、号;宝地房
I4911 **梁清**(良清りょうしょう;法諱)?- ? 鎌倉末南北期社僧;石清水八幡宮権別当/法印、
歌人;1364-65(貞治3-4)頃成立「一万首作者」入、新拾遺集(1818)、
[尋ね入る太山の奥のかくれがは世のうき事やしるべなるらん](新拾;雑1818)
行清男良清と混同されやすい→ *良清*(りょうしょう・田中:1258-99) Ｉ４９０９
L4947 **亮照**(りょうしょう;法諱)1382 - ? 1454存 南北室町期常陸黒子の天台宗千妙寺の住僧、
三昧流血脈を亮英に伝授、1430(正長3)「四度聞書」、「深行支度私」著
I4912 **良証**(りょうしょう;法諱) ? - ? 室町戦国期享徳文明1452-87頃天台宗比叡山僧;
檀那院大僧正、1454「瑜記」著
I4913 **嶺松**(りょうしょう) ? - ? 江戸俳人;1644重頼・玄札・徳元らと一座
I4914 **寥松**(りょうしょう・巒みね)1761 - 1832*72* 江戸の俳人:蓼太門、のち本所の総録屋敷に住む、
検校の株を持ち裕福、1804「槇の小庭」05「古いばら」著/06「寥松撰集」編、06「魚の宮殿」編、
1807「俳諧発句類聚」16「源氏五十四帖」著/26「露陀羅尼纂」(梧井と共編)、
1827「安岐あきの山道」31「八朶園句纂」、「八朶園寥松日記」「絵空言」「木かくれ集絵空言」著、
「八朶園評」「文政亥乃年俳諧連歌集」著/「反故集」「亀戸奉納発句抜萃」編、
追善集「峰の雪」、[あらぬもの見ゆらむ何をみねの雪]、
[寥松(;号)の別号] 草露/八朶はちだ[園]/太年廬/米隣翁/東隣居/氷黒井/氷黒庵/鉢華居士
I4915 **寥松**(りょうしょう・一宮いちのみや)?- ? 江後期文化文政1804-30頃上州榛名神社の社家、
「寥松雅帖」著
I4916 **了祥**(りょうしょう;法諱、万徳寺義陶男)1788-1842*55* 三河岡崎の真宗大谷派万徳寺住職;父継嗣、
学僧:香月院深励門/教義と歴史両面から宗学の解明に努力;特に源空・親鸞の実証的研究、
「歎異抄」の従来の覚如・如信著作説を否定;河和田の唯円説を提起、没後;嗣講を追贈、
「歎異鈔聞記」「異義考」「歎異鈔法話」「一念帰命蘭菊」「御蔭物語」/1836「後世物語録」、
「評弥陀経義」「再評弥陀経義」「真影銘文宗源録」「略文類講義」「論註耳飡ろんちゅうじさん」外著多、
[了祥(;法諱)の号] 亀水/管水、諡号;妙音院
L4985 **良正**(りょうしょう;法名・坂西、良正尼)?-? 江後期;尼僧、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[佐保姫の霞の衣かさねてもなほきさらぎの風ぞさむけき](大江戸倭歌;春115/余寒)
M4920 **了証**(りょうしょう;法諱)1818 - 1894*77* 三河宝飯郡の真宗大谷派の正法寺31世、本堂改築、
歌人;[四季歌会]を自宅催、1892境内に芭蕉句碑(新碑)基台石を寄付(花井汲古が建設)

亮章(りょうしょう・上田) → *亮章*(すけあき・上田うえだ、藩士/洋学者) Ｆ２３９８
亮昌(りょうしょう・田原) → *亮昌*(すけまさ・田原たわら、神職/歌人) Ｉ２３７３
良章(りょうしょう・池原) → *雲山*(うんざん・池原いけはら、医者/詩人) Ｄ１２７４
良昭(りょうしょう/よしあき・佐藤)→ *眠郎*(みんろう・佐藤さとう、俳人) Ｇ４１９６
良昭(りょうしょう→よしあき・高橋)→ *新吉*(しんきち・高橋、蘭学/実業家)２２７４
良照(りょうしょう;字) → *義山*(ぎざん;法諱・良照;字、浄土僧) Ｋ１６７６
良照(りょうしょう;法名) → *不能*(ふのう;法諱・良照、浄土僧) Ｄ３８６１
良勝(りょうしょう・宇佐美)→ *良勝*(よしかつ・宇佐美うさみ/藤原、兵学者)Ｃ４７８２
良尚(りょうしょう・清原) → *良季*(よしすえ・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｄ４７７０
良尚(りょうしょう・丹波) → *良尚*(よしひさ・丹波たんば、廷臣/医/連歌)Ｇ４７２４
良尚(りょうしょう・檜垣) → *貞蔭*(さだかげ・檜垣/度会わたらい、神職/歌)Ｈ２０８８

良尚(りょうしょう・法諱)　→　*良尚法親王*(りょうしょうほっしんのう、曼殊院門跡/歌)Ｉ４９１８
良昌(りょうしょう・笹村)　→　*良昌*(よしまさ・笹村ささむら、藩侍医/歌人)Ｎ４７２１
良承(りょうしょう・杉本)　→　*良承*(よしつぐ・杉本すぎもと、藩士/国学)　Ｎ４７４７
良声(りょうしょう;法諱)　→　*岩通*(がんつう;法名・応蓮社、浄土僧)　Ｒ１５４４
了昭(りょうしょう;法諱)　→　*法住*(ほうじゅう:法諱、真宗僧)　Ｆ３９０６
了照(りょうしょう;剃髪号)→　*自笑*(じしょう・岡島おかじま、刀鍛冶/俳人)Ｅ２１０８
了性(りょうしょう;法名)　→　*雅喬*(まさたか・白川しらかわ、神祇伯/歌人)Ｄ４０１５
了性(りょうしょう;法諱)　→　*霊潭*(れいたん;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｂ５１４５
凌霄(りょうしょう・狩野)　→　*養長*(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学)Ｆ４５７２
涼松(りょうしょう・桑原)　→　*黙斎*(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家)４４８５
綾尚(りょうしょう・檀園)　→　*清篤*(きよあつ・糠沢ぬかざわ、商家/歌人)　Ｕ１６９８
寮菖(りょうしょう・松井)　→　*峩山*(がざん・松井まつい、絵師)　Ｌ１５７４
菱沼(りょうしょう・小室)　→　*元貞*(げんてい・小室こむろ、医者/俳人)　Ｌ１８６０

4918　**良定**(りょうじょう;法諱、佐藤定衡男)1552-1639*88*　磐城菊多郡岩岡の浄土僧;西郷の能満寺存洞門、
存洞の許で出家、浄土宗名越派檀林の如来寺・専称寺・円通寺に修学、
1576(25歳)芝増上寺で修学/80帰郷;成徳寺13世、1603(慶長8)明国を目指すが琉球漂着、
尚寧王の帰依を受け那覇桂林寺住持;沖縄に浄土宗を伝える、1606帰国;筑紫善導寺住、
山城山崎の大念寺・橋本西遊寺に逗留、京の檀王法林寺を復興/東山菊ケ谷に結庵、
山城などに20余か寺建立、山城飯岡の西方寺に没、安藝厳島光明院以八(存易)の弟、
1603「琉球往来」08「琉球神道記」19「評摧邪輪」21「選択之伝」22「降魔山善光寺舎利記」、
1634「泥洹でいえん之道」、「寤寐集」「青天集」「真宗要文集」「五重要釈」「随自意要釈」外著多数
[良定(;法諱)の法名]弁蓮社べんれんしゃ入観袋中たいちゅう

L4948　**亮譲**(りょうじょう;法諱、慈心庵;号)?-?　江後期天台僧;
正観院大僧正円如の命で1853(嘉永6)「三陀羅尼句義対註」著
良丈(りょうじょう・方寸庵)→　*命尭*(のぶたか・北村きたむら、里正/歌人)　Ｉ３５２２
良乗(りょうじょう;法名)　→　*通重*(みちしげ・中院なかのいん、内大臣/歌人)Ｂ４１６０
良譲(りょうじょう→よしまさ・成島)→*筑山*(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者)Ｄ２８０７
凌霄院(りょうしょういん)　→　*日鶴*(にちかく;法諱、日蓮僧)　３３９９
良正尼(りょうしょうに)　→　*良正*(りょうしょう・坂西、歌人)　Ｌ４９８５

I4917　**亮性法親王**(りょうしょうほっしんのう、後伏見天皇第9皇子)?-1363　母;正親町実明女、天台僧;
妙法院二品親王性守門、1346(貞和2)天台座主129世;67辞任、1362「亮性親王御遺状」著

I4918　**良尚法親王**(りょうしょうほっしんのう、八条宮智仁親王2男)1622-93*72*　母;京極高知女、天台僧;
1627曼殊院宮良恕親王の付弟として入室/34親王宣下;得度、曼殊院(竹内)29世門跡、
1639伝法灌頂を受/46(正保3)天台座主175世、47二品/50座主を辞任、
曼珠院移転整備に尽力;同院中興開山、1692(元禄5)退隠;天松院と号す、
詩文・書道・水墨画・華道など諸芸に通ず、1665「遷宮作法」、「良尚親王書状」著、
歌;1638後鳥羽院四百年忌御会参加、93(元禄6)没、智忠親王の弟、
[とことはに同じ色なる松が枝も春は一ひとしほ緑なるらん](後鳥羽院忌;68)
[良尚法親王(;法諱)の幼名/名/号]幼名;二宮、名;勝行、号;天松院

I4919　**良助法親王**(りょうじょほっしんのう、亀山天皇皇子)1268-1318*51*　母;藤原実平女の大納言典侍(三条局)、
宗尊親王の猶子、1279天台宗青蓮院で尊助親王門;出家、84一身阿闍梨/99天台座主100世、
1300(正安2)妙法院門跡/01青蓮院門跡、無動寺・三昧院検校、02座主を辞任/03諸職退任、
鎌倉の北条氏から謀反加担の嫌疑をかけられ多武峰に隠棲、
「枕月集」「天台一宗超過達磨章」(ともに尊賀説あり)、「止観坐禅記」「台密問要集」著、
「円頓戒脈口決」「普賢観経疏」「仏土義座主伝法記」「良助座主私記」外著多数、
歌人;勅撰3首;新後撰(1242)玉葉(2428・2752)、
[九重に色をかさねて匂ふらし花も時しる御代にあひつつ](新後撰;雑1242、
正安三年[1301]の春桜枝につけて内裏へ奏す)
[良助法親王の法諱/号]法諱;良助、号;成就院/静蓮院じょうれんいん/常寿院、
通称;姉小路宮/多武峯優婆塞とうのみねのうばそく

尊賀と著書が重複? → *尊賀*(尊雅そんが;法諱、多武峯優婆塞)Ｆ２５２２
4919 **良恕法親王**(りょうじょほっしんのう、誠仁親王さねひとしんのう[陽光太上天皇]男)1574-1643*70* 天台座主170世、
母;新上東門院藤晴子(勧修寺晴右女)、後陽成天皇の弟、1585曼殊院入/86親王宣下/得度、
尊朝親王門/95伝法灌頂受/1639天台座主、1596「教観傍正」、1628「良恕親王厳島参詣記」、
歌学/歌:「覚円詠草」「良恕百首」「良恕親王詠東下和歌」「良恕親王和歌詠草」「覚円回章」、
連歌;昌琢・弟八条宮智仁親王としひとしんのうらと百韻・和漢聯句多数、
1598「何木百韻」1604「何木百韻」09「山何百韻」11「何船百韻」15「何路百韻」、
1616「何水百韻」22「何人百韻」など/1629光勝慶純等漢和聯句・35友和東漢和聯句など
[良恕法親王の名/法諱/号]名;三宮/勝輔、法諱;覚円/良恕、号;忠桓、法号;竜華院
量四郎(りょうしろう・青山)→ *延寿*(のぶひさ・青山あおやま、儒者/槍術) Ｃ３５９６
量二郎(りょうじろう・佐藤)→ *松渓*(しょうけい・佐藤さとう/青山、儒者/絵師)Ｉ２２２３
I4920 **良心**(りょうしん;法諱、左近将監久秋男)?-? 鎌倉期歌僧;法師/連歌作者;菟玖波集5句入、
歌;人家集・閑月集・拾遺風体集入集、勅撰3首;続拾遺(1311)新後撰(1449)新続古(631)、
[雪深き苔の下にもわすれずはとふべき人の跡や待つらん]、
(続拾遺;雑1311/雪の朝父の墓所に参るに詠む)
I4921 **良心**(りょうしん;法諱、藤田行重男)?-1314/23? 鎌倉期武蔵藤田庄の浄土僧:名越派尊観門;修学、
上京し良忠門;師没後帰郷;藤田派性心門、性心の後継者として同地に善導寺創建、
下総猿島郡高声寺2世;葛飾郡小福田に無量寿寺創建;寺中に土塔を造り相伝の秘書埋む、
故に土塔派と称される、「播州法語集」「播州問答集」「論註持阿見聞」「東宗要見聞」、
「観経玄義分伝通記受決鈔」「観経四帖疏伝通記受決抄縁起」外著多数、
[良心(;法諱)の法名]持阿/持阿弥陀仏
I4922 **良信**(りょうしん;法諱、関白太政大臣鷹司基忠男)1277-1329*53* 母;衣笠経平女、法相僧;覚昭僧正門、
興福寺一乗院住;権少僧都/法印/大僧正、1307(徳治2)興福寺別当/1310・16・23還任、
「大疏抄題語録」著/「春日権現験記」書、歌人;続現葉集入、
勅撰15首;新後撰(709)玉(978/2692)続千(5首261以下)続後拾(3首)新千(2首)新拾(2首)、
[こほりしもおなじ心の水なればまたうちとくる春にあふかな]、
(新後撰;釈教709/唯識論の由此有諸趣及涅槃証得の心を)
I4923 **梁心**(りょうしん) ? - ? 室町期連歌作者;1452「宝徳千句」参加
L4949 **良信**(りょうしん;法諱) ? - ? 戦国安桃期天台僧;近江願成就寺大教院住、
1576(天正4)「大黒一時千座法」著
I4924 **亮信**(りょうしん;法諱・満蔵院;号)1535-91*57* 常陸黒子の天台宗千妙寺の住僧、
比叡山解脱谷満蔵院に転住、1571比叡山焼討に遭う;一時離山/勅命で横川再興に着手、
豊臣秀吉ら外護により堂塔・法華会・竪義等復興、探題/権僧正、「例講法則」「逆修法則」著、
I4925 **了心**(りょうしん;号・石井いしい、了倶男)?-? 江前期代々陸前仙台藩の連歌師/京に在住、
同職の猪苗代兼寿らと七種連歌会の運営に参画、「了心独吟懐旧百韻」著、了牧の父
I4926 **良信**(りょうしん;法諱・直然;法名)?-? 江中期上野高崎の浄土宗大信寺の住僧:
1710(宝永7)観徹の「浄宗護国篇」の書記役を勤める、香衣を勅許される、
1716(享保元)「往生正因集」、「蓮阿菩薩伝」著
I4927 **良謙**(りょうしん;法諱) 1713-1803長寿*91* 天台宗比叡山横川恵心院住僧:叡山学頭、大僧正、
「御加持之記」「所依摂題示処」、1772「悉曇字記筆記」95「法華経入疏筆記」外著多数
I4928 **良辰**(りょうしん・鈴木すずき) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃伊予松山藩士、
風山流兵学学:鈴木遂良門、1746「風山先生伝脈」/61「松山勧善録」著
了心(りょうしん;法諱) → *大歇*(だいけつ;道号・了心;法諱、臨済僧)Ｊ２６７９
了心(りょうしん;法名) →*資季*(すけすえ・二条/平松/藤原、廷臣/歌)Ｃ２３２５
亮信(りょうしん・狩野) → *春笑*(しゅんしょう・狩野かのう、絵師) Ｌ２１０３
亮真(りょうしん;法諱) → *亮貞*(りょうてい;法諱・自春、真言僧) Ｉ４９９７
亮親(りょうしん・厳瑤坊) → *織江*(おりえ・佐竹さたけ、巌瑤房、修験/尊攘)Ｄ１４９３
良深(りょうしん・藤原) → *珍海*(ちんかい・理法房、三論画僧) Ｋ２８６１
良深(りょうしん;字) → *慶盤*(けいばん;法諱・良深、真言僧) Ｈ１８３１
良臣(りょうしん/よしおみ・山本)→ *簡斎*(かんさい・山本/館たち、医者/本草)Ｑ１５７０

良臣(りょうしん・中村)　→　*良臣*(よしおみ・中村、藩士/国学/歌)　Ｃ４７４１
良臣(りょうしん・河合)　→　*良臣*(よしおみ・河合かわい、家老)　Ｍ４７３３
良親(りょうしん・藤原)　→　*行意*(ぎょうい、天台園城寺僧/歌人)　Ｃ１６１６
良真(りょうしん;字)　→　*兼澄*(けんちょう;法諱・良真;字、真言僧)Ｌ１８２９
良信(りょうしん・狩野)　→　*洞春*(とうしゅん・狩野かのう、絵師)　Ｆ３１０７
良信(りょうしん・狩野)　→　*良信*(よしのぶ・狩野かのう、絵師)　Ｆ４７５７
良信(りょうしん・鶴沢)　→　*探山*(たんざん・鶴沢つるさわ、絵師)　Ｔ２６０７
良信(りょうしん・渋谷)　→　*良信*(よしのぶ・渋谷しぶや、幕臣)　Ｆ４７５８
良信(りょうしん・石川)　→　*良信*(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人)　Ｆ４７７２
良信(りょうしん・羽倉)　→　*可亭*(かてい・羽倉はくら、書画/篆刻)　Ｏ１５０９
良辰(りょうしん・林出)　→　*良辰*(よしたつ・林出はやしで、国学者)　Ｏ４７６３
了信(りょうしん;法号)　→　*信俊*(のぶとし・綾小路、廷臣/郢曲)　Ｃ３５３１
了信(りょうしん・門阪)　→　*誠愚*(せいぐ・門阪かどさか、商家/国学/歌)Ｆ２４７８

I4929 **良尋**(りょうじん;法諱)　？－　？　僧;法師/連歌作者、菟玖波集3句入、
[待つときの心は月の影更ふけて](菟;恋782/前句;涙なそへそ我袖の露)
良人(りょうじん・手塚)　→　*律蔵*(りつぞう・手塚てづか、洋学者/訳書)　Ｃ４９１０
亮人(りょうじん・あきと?・熊谷)→*一澄*(かずみ・熊谷くまがい、藩士/歌人)　Ｕ１５５３
綾人(りょうじん→あやんど)　→　*綾人*(あやんど・庭訓舎、書家/狂歌)　Ｃ１０７８
梁塵軒(りょうじんけん、浄瑠璃作者)→　*越前少掾*(えちぜんのしょうじょう・豊竹)１３０９
梁塵軒(2世りょうじんけん、浄/歌伎浄作者)→　*応律*(おうりつ・豊竹)　Ｂ１４６７
良臣三介(りょうしんのさんすけ)・・・江戸後期に通称に「介」のつく功績のあった家老
河合隼之介(じゅんのすけ)→　*道臣*(ひろおみ・河合かわい、姫路藩主酒井家の家老)Ｆ３７６１
丹羽久馬介(くまのすけ)　→　*貴明*(たかあき・丹羽にわ、二本松藩主丹羽長富の家老)Ｌ２６４７
土方縫殿介ぬいのすけ)　→　*有経*(ありつね・土方ひじかた、沼津藩主水野忠成の家老)Ｇ１０５３

I4930 **龍水**(りょうすい・勝間かつま)1697-1773*77*　江戸新和泉町住の絵師/家主・町役人/寺子屋師匠、
書;池水道雲・佐々木文山門、篆刻/俳諧を嗜む、絵俳書を制作;彩色画の元祖と称される、
晩年出家、1745寥和「誹諧職人尽」画、48果然「時津風」画入、50「古章印譜」著/56「わかな」画、
1756「鎌倉詣」著、「江之嶋文章」著、1762秀国「海の幸」画/65「絵本山の幸」画、
「商民職人往来」「名産諸色往来」著、
[龍水(;号)の名/通称/別号]名;定安、通称;利右衛門、別号;新泉/松葉軒

I4931 **良水**(りょうすい)　？－　？　山城寺田の俳人;1777江涯「仮日記」1句入、
[にはの蝶またもや蝶のさそひ行く](仮日記;庭に舞う蝶の番い)

I4932 **量水**(りょうすい;号・堤つつみ、通称;宗平/字;子厚)?-?　江後期近江彦根藩士/和算家、
1831(天保2)「算学初例」/37「解象算法初篇」著

I4933 **蓼水**(りょうすい・松田まつだ、名;和孝かずたか、理兵衛和良男)1837-59切腹*23*　母;神主小泉勝永女の喬子、
父は越前福井藩士、儒者:小野軍九郎門/のち芳野金陵門、福井藩儒、
橋本左内・久坂玄瑞と交流;勤王派/皇威回復に奔走、安政の大獄に悲憤;発病、
1859(安政6)江戸藩邸で切腹、「朱竹垞しゅちくだ**文抄**」編、「蓼水存稿」著、
[蓼水(;号)の字/通称]字;誠道、通称;東吉郎
良水(りょうすい・丸山)　→　*霞江*(霞紅かこう・丸山まるやま、俳人)　Ｌ１５５９
良水(りょうすい・杉本)　→　*近直*(ちかなお・杉本すぎもと、商家/国学)　Ｍ２８７１
良穂(りょうすい・村田)　→　*良穂*(よしほ・村田むらた、国学者)　Ｇ４７９１
良穂(りょうすい・富田)　→　*良穂*(よしほ・富田とみた、藩士/神職)　Ｏ４７０４
凌水(りょうすい;号)　→　*僧鎧*(そうがい;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｇ２５５１
綾水(りょうすい・土川)　→　*軌鎮*(のりしず・土川つちかわ、役人/国学)　Ｊ３５１８

I4934 **亮邃**(りょうずい;法諱)　？－　？　江後期天台宗叡山安楽律院の僧、
「台嶺安楽院六景詩」「一向大乗弾妄論」「金光明玄記助覧」「授戒懺法要決」「広布薩要録」、
「非時漿如非正決」「維那請説戒対答差異」外著多数
霊瑞(りょうずい;法諱)　→　*竜霊瑞*(りゅうれいずい、曹洞僧)　Ｆ４９８６
令淬(りょうずい;法諱)　→　*竜泉*(りょうせん;道号・令淬、臨済僧)　Ｉ４９６２

亮瑞(りょうずい;法諱)　→　*亜元*(阿元/唖言/阿幻あげん;号、真宗僧/歌)１０９１
I4935 **両助**(りょうすけ・鳴見なるみ) ? -　?　江中期歌舞伎作者;1738(元文3)から京で立作者、1738「不老門珠階」40「珍宝三代刀」「双ツ紋浪花ノ絵艸紙」/41「徒髪双腹帯」著
I4936 **良輔**(りょうすけ・並木なみき、俳名:蛙柳)?-?　江中期大阪の浄瑠璃作者;並木宗輔門、豊竹座付、のち江戸下向;肥前座勤務/1751(宝暦元)歌舞伎作者に転向;評判、1750「新板累物語」著、1751「合槌十二段」53「鐘入妹背俤」55「大伴黒主東帯鑑」58「恋染隅田川」59「淡島園生竹」著、1760「聖花弓勢鑑みよのはなゆんぜいかがみ」63「四海濤和しかなみやわらぎ太平記」64「留袖浅間嶽」外著多数
I4937 **良助**(りょうすけ・弘田ひろた) ? -　?　江中期土佐藩老深尾家預りの郷士、1770(明和5)「霊亀之事書付」著
I4938 **良助**(良介りょうすけ・秋田屋あきたや)?-?　絵後期文化嘉永1804-54頃営業の大阪の書肆、南瓦屋町・のち丸之助町一丁目住、道中案内記出版;「東海道名寄」「中仙道荷送所名前」編「金比羅道中記」版
I4939 **良輔**(りょうすけ;通称・田辺たなべ、名;雅好)?-?　幕末期幕臣;幕府歩兵差図役頭取、和蘭兵学修学、のち仏蘭西兵学を修学、維新後;明治政府の軍部に出仕、1867「仏蘭西令言図解」著、1867「生兵号令並小隊号令図解」「法国新式生兵小隊令言図解」、「歩操新式附録」著
了介(りょうすけ・蕃山しげやま;変名)→ *蕃山*(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学)３６４２
良助(りょうすけ・佐川)　→　*久連*(ひさつら・佐川、文筆/歌人)　Ｂ３７４３
良助(りょうすけ・菅/梅沢屋)→ *良斎*(りょうさい・乾坤坊、講釈師/戯作)Ｈ４９６１
良助(りょうすけ・多田)　→　*誠明*(ともあき・多田ただ、藩士/儒者)　Ｐ３１１１
良助(りょうすけ・邨田/村田)→　*眉山*(2世びざん・邨田/村田、俳人)　Ｃ３７２６
良助(りょうすけ・佐川)　→　*久連*(ひさつら・佐川さがわ、藩士/歌人)　Ｂ３７４３
良助(りょうすけ・伊東)　→　*勃海*(ぼっかい・伊東いとう、儒者)　Ｅ３９５４
良助(りょうすけ・下元)　→　*西洲*(せいしゅう・下元しももと、郷士/書家)　Ｉ２４６３
良助(りょうすけ・菊池)　→　*正古*(まさひさ・菊池きくち、医者/教育)　Ｇ４０６２
良助(りょうすけ・宮川)　→　*孟弼*(たけすけ・宮川みやがわ、製糸/和算)　Ｏ２６４１
良助(りょうすけ・渡辺)　→　*光枝*(てるえ・渡辺わたなべ、商家/狂歌)　Ｆ３０２７
良助(良輔りょうすけ・松倉)→ *恂*(じゅん・松倉まつくら、藩士/財政/記録)２１８７
良介(良助りょうすけ・和田/平部)→ *嶠南*(きょうなん・平部、藩士/儒者)Ｏ１６４０
良介(りょうすけ・友安)　→　*三冬*(みふゆ・友安ともやす、儒者/国学/歌)Ｆ４１７８
良介(良助りょうすけ・横川)→ *直胤*(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家)Ｐ２６７９
良介(りょうすけ・安本屋) → *訥庵*(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩)Ｏ３１４１
良介(りょうすけ・友安)　→　*盛敏*(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者)Ｋ４４７４
良介(りょうすけ・野矢)　→　*春隣*(はるちか・野矢のや、歌人)　Ｋ３６５６
良甫(亮輔りょうすけ・黒田)→　*綾山*(りょうざん・黒田くろだ、絵師)　Ｅ４９２２
良甫(りょうすけ・小島)　→　*知策*(ちさく・小島こじま/塩谷、茶人/歌人)Ｍ２８５０
良輔(良弼りょうすけ・泉川)→　*星堂*(せいどう・泉川いずみかわ、儒者/詩人)Ｊ２４３１
良輔(りょうすけ・河原)　→　*雄蔵*(ゆうぞう・太田/河原、商人/棋士)　Ｄ４６３３
良輔(りょうすけ・篠原)　→　*笠山*(りゅうざん・篠原しのはら/風早、藩士/儒/兵学)Ｅ４９２４
良輔(りょうすけ・関島)　→　*良基*(よしもと・関島せきじま、医者/教育)　Ｎ４７５８
良輔(りょうすけ・後藤)　→　*象二郎*(しょうじろう・後藤、藩士/政治家)Ｊ２２９１
良輔(りょうすけ・林)　→　*春郷*(はるさと・林はやし/児玉、藩士/歌)　Ｋ３６６６
良輔(りょうすけ・大木)　→　*正之*(まさゆき・大木おおき、村役/国学)　Ｏ４０３０
良佐(りょうすけ・河崎)　→　*敬軒*(けいけん・河崎/川崎かわさき、儒者)　Ｆ１８５０
良弼(りょうすけ・並河)　→　*天民*(てんみん・並河なみかわ、儒者/雅楽)　Ｅ３０３４
梁助(りょうすけ・藤井/羽倉)→　*惟得*(いとく・羽倉/荷田、国学/歌)　Ｂ１１６９
量介(りょうすけ・青山)　→　*拙斎*(せっさい・青山延于のぶゆき、儒者)　Ｅ２４３３
正蔵(しょうぞう・木幡)　→　*栄周*(えいしゅう・木幡こばた、藩儒/歌人)　Ｕ１３０９
亮助(りょうすけ・片山)　→　*恬斎*(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌)　Ｄ３０４７
亮助(りょうすけ・山本)　→　*緑陰*(りょくいん・山本やまもと、儒者/詩人)　Ｊ４９７２
料介(料助りょうすけ・藤井)→ *暮庵*(ぼあん・藤井ふじい、大庄屋/詩人)　３９０７

I4940 良勢(りょうせい;法諱・大門供奉;号)998?-1064?67?　平安中期比叡山天台宗延暦寺の僧、
鎮西(筑紫)に住、歌人;続詞花集入、後拾遺集(481)、
[なごりある命と思はばともづなのまたもやくると待たましものを](後拾;別481/返歌、
艫綱と友・繰ると来るを掛る;老後の離別の悲しさ、
贈歌;筑紫より上京した友(読人不知)より筑紫の良勢に送る歌480;
別るべく仲と知る知る睦ましくならひにけるぞ今日はくやしき)

I4941 良済(りょうせい;法諱)　1298 -　? 1349(52歳)存　真言僧;1335(建武2)慈尊院で太元法を受、
1335・49「慈尊院伝授口記」著

I4942 良済(りょうせい)　? -　?　証真如院大僧都/歌人;
1443前摂政家(一条兼良邸)歌合参加、
[もろ人の梅が枝うたふこの宿に声をそへたる春の鶯](前摂政家歌合;三番右6)

I4943 良世(りょうせい;法諱)　? -　?　室町期僧;法眼、歌人;
1473飛鳥井雅康家歌会/75甘露寺親長催「公武歌合」/87甘露寺親長家歌会参加、
[諏訪すはの海や秋は氷を月影のまづしきそむる波のうへかな](公武歌合;四番湖上月左)

I4944 梁盛(りょうせい・藤坊ふじのぼう、通称;兵部卿)?-? 1530存　戦国期僧;常光院堯恵門、法印権大僧都、
師堯恵の旅に随行;屢々歌書を書写(「百人一首詠歌大概」「鷹百首奥書」など)、
常光院流歌学者、和泉堺に住

I4945 良成(りょうせい)　? -　?　京の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、
[目のうへの露は涙か鬼あざみ](犬子集;188/鬼薊の若芽の露;鬼の目に涙)

I4946 良政(りょうせい)　? -　?　伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、
[みめいづれ花の姫ゆり美人草びじんさう](犬子集;839/美人草はひなげし/美容比べ)

L4977 良正(りょうせい・行沢なめさわ/ゆきざわ)?-?　江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第七月脇句入、
[浪の鞁つづみやうち渡る雁かり](月脇句/謡曲東岸居士;
波の鼓や風のささら　打連れ行くや橋の上、
発句一詠;サシニ曰く然は一舛の月見酒)

L4978 良清(りょうせい・行沢なめさわ/ゆきざわ)?-?　江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第七月第三句入、
[子持筋尾花か袖や染めぬらん](月第三句/子持筋;太い筋と細い筋が平行した縞模様、
脇句良正;浪の鞁つづみやうち渡る雁かり)

M4941 了清(りょうせい;法諱・中川、)1640-1728*89*　甲斐の生/近江彦根の真言宗北野寺きたのじの役僧、
江戸護持院の長老、歌人;[彦根歌人伝・続寿]入、
[了清の字/通称/法名]字;嵐意、通称;亀吉、法名;清壽/観行/誉道/幹倫/卓道

I4947 了静(りょうせい)　? -　?　出羽の俳人;1681清風「おくれ双六」入

I4948 亮盛(りょうせい;法諱・大仙;字、号;上生庵/竜山)?-? 江中期武州入間郡山口村真言宗観音堂住僧、
「観音霊験記」/1771「坂東三十三所観音霊場記」73「筑波山名跡誌」75「三社託宣一毛鈔」著、
1793「大黒宝嚢記」/1806刊「東武六地蔵巡礼記」著

了誓(りょうせい・桜井)　→　*要道*(としみち・桜井さくらい、代官/歌人)　Ｔ３１３７
良世(りょうせい・藤原)　→　*良世*(よしよ・藤原、左大臣/文筆)　Ｉ４７０３
良世(りょうせい・清水)　→　*宗川*(そうせん・清水しみず、歌人)　Ｃ２５３６
良声(りょうせい/りょうしょう;法諱)→*岩通*(がんつう;法名・応蓮社、浄土僧)Ｒ１５４４
良正(りょうせい・藤原)　→　*良正*(よしまさ・藤原、歌人)　Ｑ４７２３
良正(りょうせい/よしまさ・坂井/小瀬)→　*復庵*(ふくあん・小瀬/坂井、医者・詩)Ｂ３８４７
良成(りょうせい・高橋)　→　*良成*(よしなり・高橋たかはし、廷臣/歌人)　Ｆ４７３６
良成(りょうせい・安部井)　→　*磐根*(いわね・安部井あべい/源、藩士)　Ｊ１１７５
良政(りょうせい・神戸)　→　*良政*(よしまさ・神戸かんべ、武家/軍記作者)Ｇ４７９９
良政(りょうせい・飯田)　→　*良政*(よしまさ・飯田いいだ、幕臣/歌)　Ｋ４７６２
良清(りょうせい・藤原)　→　*良清*(よしきよ/よしすけ・藤原、廷臣/歌人)　Ｄ４７１２
良清(りょうせい)　→　*良清*(りょうしょう;法諱、社僧/歌人)　Ｉ４９０９
良清(りょうせい・岸田)　→　*良清*(よしきよ・岸田きしだ、歌人)　Ｑ４７２７

良精(りょうせい・藤堂)　→　*良精*(よしきよ・藤堂とうどう、城代/大将)　Ｎ４７９９
良済(りょうせい・山村)　→　*良喬*(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人)Ｍ２６３４
亮生(りょうせい・あきお?・熊谷)→*一澄*(かずみ・熊谷くまがい、藩士/歌人)　Ｕ１５５３
蓼生園(りょうせいえん)　→　*良臣*(よしおみ・中村、国学、良顕叔父)　Ｃ４７４１
蓼生園(りょうせいえん)　→　*良顕*(よしあき・中村、国学/歌、良顕甥・嗣)Ｃ４７０２
霊星閣(りょうせいかく)　→　*石陽*(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学)　Ｄ２４９３
了雪斎(りょうせっさい)　→　*清晃*(きよあきら・星川、藩士/国学者)　Ｎ１６０５

I4949 **亮碩**(りょうせき;法諱・苓道;字)1760-92*33*　京の天台僧;幼時に園城寺亮恭門;出家、
大仙院住;天台学を修学/1782(23歳)講師に任ぜらる/のち比叡山双厳院で天台教学修学、
出雲鰐淵寺の敬光門、1791(寛政3)京南禅寺に招聘;経疏を講ず/92頂法寺で罹病;没、
1787「一乗戒金籌抄」88「一乗戒開雲章」「一乗戒撮要論」「円宗三式染指鈔」/90「円戒十要」、
「北嶺三式汲海鈔」「法華仏性論」「梵網宗待絶二妙論」「十善沙弥戒論」外著多数

I4950 **良碩**(りょうせき:通称・宮原みやばら)1806-86*81*　信州更級郡上山田村の医者;
1817松代藩典医阿藤通逸門/1826肥前長崎の吉雄種道門;蘭学・西洋医学を修学、
帰郷し開業/1862信濃松代藩医/63御側医、息子良逸の不行跡で譴責;辞任/江戸へ出府、
1827「シーボルト直伝方治療方写取同治療日誌」著

M4902 **了碩**(りょうせき・板倉いたくら/旧姓;奥、中野奥善右工門3男)1838-1904*67* 近江愛智郡の生、
幼児に仏門/1850近江野洲郡北里村江頭の浄土宗長光寺誓誉門;得度、増上寺学寮で修学、
1866(慶応2)長光寺住職、歌人;美濃の越智路次門、1883中講義/93京都支校第四校長、
のち大本山知恩寺の要職に就任、万葉集・二十一代集の研究/歌・俳句を嗜む、
[了碩(;法諱)の通称/法名]通称;覚阿、法名;法蓮社性誉覚阿至道

良碩(りょうせき;法諱)　→　*大仙*(だいせん;道号・良碩、曹洞僧)　Ｔ２６８３
良碩(りょうせき・多々羅)　→　*正誠*(まさのぶ・多々羅たたら、医者/歌人)　Ｑ４０６２

I4951 **良節**(りょうせつ・藤井ふじい、井上祐住男)1817-76*60* 父は薩摩鹿児島諏訪神社神職、井上石見の兄、
鹿児島藩士/1850(嘉永3)嘉永朋党事件(お由羅騒動)に際に福岡藩主黒田長溥を頼り亡命、
藤井に改姓/1862(文久2)以降京で長州・土佐藩の尊攘派に対抗し鹿児島藩の利益を代表、
1866(慶応2)弟石見と共に岩倉具視の側近として活動/維新後;鹿児島の照国神社社司、
1862「藤井良節書翰」著、
[良節(;名)の別名/通称]初名;経徳、初通称;井上出雲

良説(りょうせつ・大島)　→　*半隠*(はんいん・大島、藩士/儒者)　Ｈ３６２１
凌雪亭(りょうせつてい)　→　*麦吟*(ばくぎん・凌雪亭、俳人)　Ｃ３６９５

I4952 **良仙**(りょうせん;法諱、惟宗これむね 時助男)?-?　鎌倉期の僧;権少僧都、
歌人/勅撰3首:新勅撰(1067)続後撰(572)続拾遺(1447)、
[世をいとふすみかは人に知られねど荻の葉風はたづね来にけり](新勅撰;雑1067)

I4962 **竜泉**(りょうせん;道号・令淬りょうずい;法諱、後醍醐天皇皇子)?-1365 母;源某に再嫁;
尾張海東郡で竜泉を出産、幼時に上京し臨済僧虎関師錬門/出家;虎関の嗣法、諸学芸修学、
諸山・十刹の住持/1364京万寿寺住持/虎関の「元亨釈書」を大蔵経に納れることの尽力、
臨済宗東福寺海蔵院塔主;同寺に没、「松山集」「竜泉録」「釈疑論」著、
「海蔵和尚紀年録」編(;海蔵和尚は師の虎関師錬)

I4953 **良詮**(良佺りょうせん:号・中村なかむら、別号;有朋軒)?-?　京の俳人:
1688其角上京の時に如泉・言水らと興行、1691「遠目鏡」編、1689言水「誹諧前後園」入、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句/91江水「元禄百人一句」/92助叟「釿初ちょうなはじめ」入、
[豊国とよくにや夜よるの椿の落る音](元禄百人一句23/都曲49;なんと豊で穏やかな国よ)

M4957 **了絟**(りょうせん;法諱、法師)?-　?　江前期;京の歌僧/1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、
[夏草の葉末おしなみ吹く風にしばし休らふ野べの旅人](麓の塵;夏165)

I4954 **涼仙**(りょうせん・富坂とみざか、涼庵男)?-?　江中期陸前九戸郡の町医;父継嗣、
1755-56(宝暦5-6)の宝暦飢饉の記録「耳目凶歳録」著、父が安藤昌益の隣に住す記録あり、
[涼仙(;号)の通称]　南坡斎子竜

L4903 **涼川**(りょうせん)　?-　?　安藝広島の蕉門系俳人;1705支考「三日歌仙」入、
1706涼兎「潮とろみ」入

M4947 **霊泉**(りょうせん;法諱・恵本;道号、)1733-1806*74*　陸奥仙台の臨済宗東昌寺27世/国学者
M4905 **了仙**(りょうせん・加倉井かくらい、)1748?-?　信濃諏訪藩医、歌人;桃沢夢宅門
[了仙(;号)の通称/別号]通称;元珍、別号;了僊楼
I4955 **綾川**(りょうせん・岡内おかうち、延の長男)1764-1832*69* 父は讃岐高松藩弓道師範、儒者;斎静斎に私淑、
高松藩儒:1827記録所総裁、講道館総裁を務める、三野謙谷と交流、
「綾川先生文集」「静斎先生余稿」「世説参注」著、
[綾川(;号)の名/字/通称/別号]名;棣てい、字;伯華、通称;甚蔵、別号;槐園/半隠舎
M4941 **了鮮**(りょうせん;法諱・橘、了観[林篁]2男)?-1831 近江坂田郡鳥居本村真宗本願寺派僧;
了超(1747-1819)の弟、父・兄は専宗寺僧(父が住職)、歌人;[鳰のうみ]入
H4901 **了宣**(りょうせん;法諱、)　? - 1850　摂津八部郡和田宮(神社)の隣松院院主、
国学者/歌人
M4948 **霊泉**(りょうせん;法諱・三輪、名;正信)1792-1864*73*　紀伊牟婁郡白浜の湯崎金徳寺5世、霊峰の父
I4956 **良仙**(りょうせん・菊地きくち)1825-1863*39*　陸中東磐井郡奥玉村の医者:
一関藩侍医笠原耨庵門/江戸の多紀安琢門、儒;昌平黌に修学、一関医学館長に就任、
のち帰郷し医業、詩歌を嗜む、「素問講義」「傷寒論講義」著、
[良仙(;通称)の名/号]名;盛清、号;棗園そうえん

了詮(りょうせん;法名)　→　*昇道*(照道しょうどう、枕雲、真宗僧/漢学/歌)Ｒ２２６１
良洗(りょうせん)　→　*遜阿*(そんあ;法諱、僧侶/俳人)　Ｂ２５４３
良宣(りょうせん・安倍)　→　*良宣*(よしのぶ・安倍あべ、陰陽頭/歌人)　Ｑ４７３４
涼仙(りょうせん)　→　*京山*(きょうざん・山東、合巻作者)　１６３３
梁川(りょうせん・榎本)　→　*武揚*(たけあき・榎本、幕臣/海軍)　Ｏ２６２３
猟川(りょうせん;号)　→　*百霊*(ひゃくりょう;法諱、僧/詩人)　Ｅ３７８５

4924 **良暹**(りょうぜん/りょうせん;法諱、源道済男?)998?-1065?*68?* 母;藤原実方家の童女白菊?、
平安中後期天台僧、比叡山祇園社別当、晩年;永承1046-53頃大原・雲林院隠遁、
「良暹打聞」編(散佚)、橘俊綱の伏見山荘に出入、袋草紙・古今著聞集に逸話、菟玖波1句入、
歌人;1037「源大納言家歌合」/51「内裏歌合」参加、後葉/続詞花/万代/秋風/雲葉集入、
勅撰32首;後拾(15首111/123/159/211/278/308/330/333/355/457/513/659/836/以下)、
金葉(18/87/422/523)詞花(6首69/91/100以下)千載(1124)新古(153/600)続後撰以下、
[さびしさに宿を立ち出でてながむればいづくも同じ秋の夕暮れ](後拾遺333)
I4957 **良禅**(りょうぜん;法諱、法師)?-　?　平安後期天台叡山僧;慶意きょういん門、歌人;
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、
[灯し火の消えみ消えずみ見えつるは草の螢のまがふなりけり](賢聖院歌合;八番右16)
I4958 **良禅**(りょうぜん;法諱・解脱房;字、俗姓;阪上/阪上)1048-1139長寿*92* 紀伊神崎の真言僧、
1058(11歳)高野山任尊門;剃髪/北室院行明門;四度加行を修す、1088明算門;両部灌頂受、
1099(or1108)高野山検校、1115高野山中門を再興;香色法服を賜る、1124法眼、
1134検校を辞任;引接院に退隠、1137(保延3)高野山検校再任、
付法の門弟;行慧・琳賢・日禅・教覚など、「中院流許可之事」「中院許可前後之事」著、
[良禅(;法諱)の通称]　北室聖きたむろのひじり(小聖)
I4959 **亮禅**(りょうぜん;法諱)　1258 - 1341*84*　鎌倉南北期真言僧;東大寺の能禅門、
1279東寺大悲心院で能禅より伝法灌頂を受/宝菩提院創建/1333東寺二長者・権僧正、
以後も長者を務め一山の興隆に尽力、「掌口抄」「白宝口抄」「灌頂掌中鈔」「西院流式」、
1306「灌頂作法西院流」、「灌頂掌中鈔」「伝法灌頂初後夜」「伝法灌頂三初後私記」著
I4960 **亮禅**(りょうぜん;法諱)　? -　?　戦国期天台僧:常陸黒子千妙寺住僧、
亮英門;三昧院流血脈を受、法印、1529(享禄2)「深行支度」、「三昧流竪梯登私記」著
I4961 **霊全**(りょうぜん、銀杏いちょう和尚)?- ?　宝永享保1704-36頃江戸の講釈師、
浅草寺境内によしず張りの小屋を設けて辻談義・笑わらい談義で有名、深井志道軒の師
M4977 **了善**(りょうぜん・中嶋なかじま)　? -　?　江中期;歌人、伝不詳、
1722頃内海顕糺[倭謌五十人一首追加]入、
[軒に落つる滝の白糸繰返し繰返し降る五月雨のころ](五十人一首追加;五月雨)
M4906 **亮全**(りょうぜん・加藤かとう)1802-1876*75*　三河の僧/信濃伊那郡中村の浄土宗惣教寺20世、

歌人;伊那歌壇で活動、
[亮全(;法諱)の号/法名]号;隆光、法名;声誉
了禅(りょうぜん;法号) → *敦有*(あつあり・綾小路あやのこうじ、廷臣/郢曲)Ｂ１０２３
了然(りょうぜん) 僧は → *了然*(りょうねん)
亮善(りょうぜん・福島) → *秋郷*(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人) Ｉ１０３６
領全(りょうぜん) → *道竹*(どうちく・石河いしかわ、儒;陽明学) Ｇ３１３９
良然(りょうぜん→りょうねん;法名)→ *後鳥羽天皇*(ごとばてんのう、承久乱/歌人)１９３７
綾川観(りょうせんかん) → *鷺貫*(ろかん・綾川観、俳人) ５２５９
了僊楼(りょうせんろう) → *了仙*(りょうせん・加倉井かくらい、藩医/歌) Ｍ４９０５
I4963 **良礎**(りょうそ・皆川みながわ) ? - 1834 越前府中の医者;福井藩家老本多家の医者、
本多家の命で上京;端座流鍼法を修学、俳人:1830立机、越前の美濃派友左坊系俳諧の祖、
「一夜百吟」「野遊の駕」「東北紀行」「発句集」著、
[良礎(;号)の通称/別号]通称;幸庵/のち貞庵/沢庵/宅庵、別号;蔵充閣/風花坊
I4964 **亮素**(りょうそ;法諱・慧敦えとん;字)?-? 江後期山城宇治郡山科の天台宗元慶寺の住僧、
「秘教雑記」著
鶉鼠(りょうそ・巣飲叟そういんそう)→ *成方*(しげかた・野田のだ、地誌/俳人) Ｃ２１０５
I4965 **良宋**(りょうそう;法諱) ? - ? 鎌倉期;熊野の権僧正/法印、
歌人:1327(嘉暦2;70歳前後)熊野関係の打聞「新浜木綿和歌集」撰、藤葉集・続現葉集入、
勅撰7首;玉葉(1945)続千載(1846/1901)続後拾遺(1151)新千載(1795/1940)新後拾(767)、
[山郷に秋を知らするはげしさも昨日にまさる軒の松風](玉葉;雑1945)
I4966 **椋窓**(りょうそう) ? - ? 江後期の俳人:
1822撰集「おくの細道」編(:交山・香雪の28図入)
良相(りょうそう・藤原) → *良相*(よしみ・藤原ふじわら、右大臣/歌) Ｈ４７２５
良宗(りょうそう・大炊御門)→ *良宗*(よしむね・大炊御門おおいみかど/藤原、廷臣/故実)Ｈ４７５７
廖叟(寥叟りょうそう) → *玄門*(げんもん・山下/福沢、修験/医/俳)Ｍ１８５２
蓼窓(りょうそう・関川) → *砂山*(さざん・関川せきかわ、俳人) Ｈ２０４７
鶉巣(りょうそう・久須美) → *疎安*(そあん・久須美/久須見、茶人) Ｆ２５８１
鶉巣(りょうそう・山田) → *翠雨*(すいう・山田、儒者/詩人/教育) ２３２８
I4967 **良蔵**(りうぞう・中条ちゅうじょう)1800-68*69* 大和の江戸幕臣;奈良奉行所与力、
山稜調査と補修、1864山陵奉行の召により上京;神武陵補修の功で褒賞を受、
1855「大和国諸陵」「御陵取調復命書」/67「神武天皇御陵儀御沙汰之場所奉見伺候書付」著、
[良蔵(;名)の通称/号]通称;正言、号;芳渓
I4968 **良蔵**(りょうぞう・来原くりはら/くるはら、福原光茂男)1829-62切腹*34* 来原盛郷(母方のおじ)の養子、
萩藩士/学問;吉田松陰門、幕府及び萩藩の軍制改革に尽力、浦賀警備に当る、
長崎で海外情報収集/京で公武合体の長井雅楽に賛同/1862藩論が攘夷となり非難される、
攘夷を示すため江戸で横浜異人館襲撃を計画;藩世子毛利元徳に過激を戒められる;
江戸桜田の藩邸で切腹、「寝られぬまゝ」著、妻は桂小五郎の妹ハル(春子)、
[良蔵(;通称)の名/別通称/法号]名;盛吉/盛功、別通称;幸四郎、法号;松水義烈居士
良蔵(りょうぞう・伊藤) → *東皐*(とうこう・伊藤、儒者) Ｄ３１９１
良蔵(りょうぞう・杉山) → *篤信*(あつのぶ・杉山すぎやま、廷臣/医者) Ｅ１０７３
良蔵(りょうぞう・高橋) → *種芳*(たねよし・高橋、藩士/兵学) Ｓ２６１５
良蔵(りょうぞう・平井) → *樗堂*(ちょどう・平井ひらい、藩士/詩人) Ｋ２８４４
良蔵(りょうぞう・近藤/桜井)→ *東門*(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) Ｈ３１４７
良蔵(りょうぞう・大藤) → *正糾*(まさただ・大藤おおふじ、藩士/文筆家)Ｄ４０５２
良蔵(りょうぞう・岡宗) → *泰純*(たいじゅん・岡宗おかむね、医者) Ｋ２６３０
良蔵(りょうぞう・後藤) → *東庵*(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者) Ｉ３１９５
良蔵(りょうぞう・沢田) → *眉山*(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) Ｃ３７３０
良蔵(りょうぞう・前田) → *守常*(もりつね・前田おかだ、代官手代/歌) Ｌ４４３１
良蔵(りょうぞう・草場) → *晋水*(しんすい・草場くさば、書家/歌人) Ｕ２２８０
良蔵(りょうぞう・竹村) → *篤実*(あつざね・竹村たけむら、歌人) Ｈ１０９７

良蔵(良造/良三りょうぞう・宮永)→*正純*(まさずみ・宮永、医者/勤王家)Ｄ４００９
良蔵(りょうぞう・東綿屋) → *兼留*(かねとめ・中原なかはら、商家/歌人) Ｖ１５２１
良蔵(りょうぞう・小関) → *三英*(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) Ｅ２０１３
良三(りょうぞう・西村) →*春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１
良造(りょうぞう・柏木) → *是心軒*(4世・一斎いっちょう、医者/華道家)Ｋ２４６３
良造(りょうぞう・吉村) → *久治*(ひさはる・吉村よしむら/藤原、神職/国学)Ｍ３７３５
量蔵(りょうぞう・小野寺) → *道孝*(みちたか・小野寺おのでら、藩士/歌人)Ｉ４１２８
猟蔵(きりょうぞう・山崎) → *恭禮*(たかひろ・山崎やまざき、藩士/尊攘運動)２７１１
鐐蔵(りょうぞう・伴) → *信近*(のぶちか・伴ばん、国学者/歌) Ｃ３５００
鶉巣子(りょうそうし) → *竹暉*(ちくき・佐治さじ、儒者/彰考館総裁)Ｃ２８８１
蓼蔵舎(りょうぞうしゃ) → *雄淵*(おぶち・松岡、神道家) Ｂ１４９１
蓼蔵舎(りょうぞうしゃ) → *菘廬*(すうろ・松田まつだ、藩士/儒者/詩) Ｂ２３０６
蓼倉精舎(りょうそうしょうしゃ)→ *雄淵*(おぶち・松岡、神道) Ｂ１４９１
亮僧都(りょうそうず) → *光賢*(こうけん;法諱、真言僧) Ｉ１９５２
良足(りょうそく・吉井) → *良足*(よしたり・吉井よしい、神職/和学者) Ｑ４７００

I4969 **霊尊**(りょうそん) ? - ? 奈良期法隆寺の高僧;三綱、
747(天平19)「法隆寺・大安寺・元興寺伽藍縁起并流記資財帳」共著(:隣信・玄鏡らと)

I4970 **了尊**(りょうそん;法諱) ? - ? 鎌倉期和泉神於寺の住僧:明了房信範に随侍、
信範より悉曇の伝授を受、1287(弘安10)「悉曇輪略図抄」著

L4950 **良尊**(りょうそん;法諱・相円房;号)?-? 室町期丹後の真言僧;高野山大楽院に住、
1459(長禄3)高野山検校/法印/大和尚、1414(応永21)「梵網経開題鈔」著

I4971 **良尊**(りょうそん;法諱・教順;字)1522-1602*81* 関東出身;真言宗高野山遍照光院20世、大学頭、
1590陸奥根城南部家の祈願寺東善寺に愛染王供を執行、「綵絵形像之事」/1595「諸秘讃」著

I4972 **亮尊**(りょうそん;法諱) 1557 - 1666長寿*110歳* 天台宗叡山極楽房・歓喜院学僧:天台教学に達す、
美濃勧学院で道俗を化導、擬講/法印、1582「遷宮相伝私神地鎮遷宮」1611「問要抄私」著、
1620「惣許可印信大原流」、「問要抄」「法華品々大綱集」著/「四度加行日記」編、外編著多数

I4973 **良尊**(りょうそん;法諱・長深;字)?-1616 甲斐の真言僧;法華寺で出家/21歳で高野山入、
玄仙門、のち南都北嶺に遊学、帰山し多聞院住、慶長1596-1615頃江戸・駿府に下向、
徳川家康に法義・法談を講ず、1615(元和元)西南院主、
1616「阿字観鈔」注/17「五字鈔」著、「五字説処義」「理趣経鈔疏」著

I4974 **了尊**(りょうそん;法諱、性応寺住職了寂男)1582-1638*57* 母;坪坂因幡守孝貞女の妙用、
紀伊和歌浦の真宗本願寺派性応寺の住職継嗣:1594本願寺12世光昭門;得度、
1616本山に召され一家衆に加入、1617光円の侍講を務め御堂衆に列す、法印、
1612「慶長十七年正月より日次之記」/13「慶長十八年正月より月次之覚」、
1616「元和二載日次之記」、「常楽寺顕恵葬礼記」「久宝寺治兵衛往生之記」著、一雄の父、
[了尊(;法諱)の幼名/号]幼名;玉千代、 号;一以斎/虚舟、 諡号;法灯院

I4975 **両村**(りょうそん・伊藤いとう、池田平左衛門久永男)1796-1859*64* 尾張中島村儒者:1817昌平黌に修学、
帰郷;父を継嗣し里正、1849辞職;私塾を開設;子弟教育、塩谷宕陰・大槻磐渓と交流、
「芳野紀行」「南都遊記」「両村詩文集」「老荘考」「左国考」「群雄割拠録」「豊川三日吟」著、
「玉野紀行」「二村山栽花の記」著、
[両村(;号)の名/字/通称]名;逸彦、 字;民卿、 通称;民之輔

I4976 **蓼村**(りょうそん・椿つばき)1806 - 1853*48* 江戸二番町の書家、「論語註」著、
[蓼村(;号)の名/字/通称/別号]名;真和、 字;子和、 通称;亮左衛門、 別号;荷斎

菱邨(りょうそん・岡本) → *常彦*(つねひこ・岡本おかもと、絵師) Ｄ２９３３
亮尊(りょうそん;法諱) → *尊舜*(そんしゅん;法諱、常陸天台僧) Ｆ２５４９
良尊(りょうぞん;法諱) → *成源*(成厳じょうげん;法諱、天台僧/歌人)Ｒ２２４５
良尊(りょうぞん;法諱) → *勝国*(しょうこく;道号・良尊、曹洞僧) Ｉ２２８５

4920 **蓼太**(りょうた・大島おおしま/本姓;吉川、吉川平左衛門男)1718-87*70* 信州伊那郡飯島村大島の生、
幼時に江戸住;幕府御用縫物師[藤屋平助名]、1732(15歳)頃点取誹諧を始める、
俳人:吏登門、奥州・諸国行脚/1747師の雪中庵3世継承、51「雪おろし」編で江戸座と論争、

以後江戸俳壇で地位確立、1751「続五色墨」結成;編、門人3千人、芭蕉顕彰事業;
1771深川要津寺に芭蕉庵再興、1741「春の月」編、43「ほうぐ袋」編47「皆白妙」58「墨絵合」編、
1763「俤塚」66「俳諧今はむかし」69「雪門十二歌仙」「歌仙風月帳」編、69-「蓼太句集」、
1771「芭蕉庵再興集」81「七柏集」83「百羽かき」編、「朝起集」「髭箒」「雪門七部集」外多数、
妻の鏡台(1808没)も俳人、
[世の中は三日見ぬ間に桜かな](蓼太句集)、[わが影の壁にしむ夜やきりぎりす]、
[ともしびを見れば風あり夜の雪](蓼太句集)、
[蓼太(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;平八、名;陽喬、通称;藤屋平助、
別号;蓼太郎/宜来ぎらい/豊来/里席/老鳥/雪中庵3世/老鶯巣/空摩くうま居士/時雨窓

I4977 **亮太**(りょうた;法諱、諡号;浄輪院)1747-1836長寿*90歳* 伊勢四日市の真宗高田派光源寺住職、
駿河浄円寺の慧海門、1791講師;10年間在職/学生を教導、称名願体説を主唱、
「教行信証私解」著

竜太(りょうた・志筑しづき/しっき)→ *竜太*(りゅうた・志筑、通事) Ｆ４９０９

I4978 **亮汰**(りょうたい;法諱・字;俊彦/浄泉)1622-80*59* 薩摩田布施高橋の真言僧;1630(9歳)出家、
1639上京/近江園城寺で倶舎を修学/高野山・室生寺に修学/鷲尾の興法寺に住、
亮典を頼り伊勢に赴く/1648豊山長谷寺の尊慶門、1669近江総持寺住/71京般若寺に退隠、
1680(延宝8)長谷寺11世;僧正、1648「阿字義鈔」58「阿字観鈔」69「両界礼懺文鈔」著、
1672「薬師経纂解」77「菩提心論教相記」80「菩提心論第三段秘記」、「性霊集序講要」外著多、

I4979 **良岱**(りょうたい・千野せんの、邦浩[標浩]男)1750-1816*67* 讃岐高松藩奥医師;
兄元琳早世のため家督嗣、内外科に長ず/詩文を嗜む、元琳・乾弘かたひろ(医者/和算家)の弟、
1802-05「禁方小牘」/05「和蘭制剤」09「名家載覧」、「医按裁断」「大東類方」著、
[良岱(;号)の名/別号]名;元達、別号;卉畹きえん

涼袋(涼帒りょうたい・喜多村)→ *綾足*(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) １０２８
寥岱(りょうたい・惟草庵) → *惟草*(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人) Ｂ１１０４
了諦(りょうたい;字) → *慧友*(えゆう;法諱、真宗本願寺派僧) Ｅ１３３４
了体(りょうたい;法名) → *定能*(さだよし・加藤かとう/黒沢、幕臣/国学)Ｏ２０２３
竜泰(りょうたい・武) → *仙慶*(せんきょう;法諱・武たけ、真宗僧) Ｏ２４２７

I4980 **凉台**(りょうだい・日高ひだか)1797-1868*72* 安藝山県郡新庄の医家の生、医者;家学、
1817大阪の高須琴渓門/京の福井棣園・新宮凉庭門;医学・儒を修学、1823帰郷:開業、
1825(文政8)長崎でシーボルト・吉雄如淵門;蘭学を修学、1828大阪で開業、
1842安藝竹原で眼科専門医として開業、詩に長ず;篠崎小竹・広瀬旭荘と交流、
1822「変通三十方」37「和蘭用薬便覧」47「和蘭用薬便覧附録」、「蘭書筆記」「眼療提耳」、
「格物究理学磁石話」「種痘新書」「瘍科精義」「六六堂療法家言」著、外訳著多数、
[凉台(;号)の名/字/別号]名;精/惟一、字;子精、別号;六六堂/玄花道人/忘斎/遯叟/寛山

了泰庵(りょうたいあん) → *鋪綱*(のぶつな・朽木くっき、藩主/教育) Ｃ３５１１

I4981 **良沢**(りょうたく・前野まえの、筑前福岡藩士谷口新介男)1723-1803*81* 福岡藩江戸藩邸に生、
豊前中津藩医前野東元の養嗣子/医;吉益東洞門/1748(26歳)家督嗣;藩医、蘭学を志す、
青木昆陽門/肥前長崎に遊学/「ターヘル・アナトミア」を入手;1771小塚原の腑分を実験、
同書の正確さに驚き杉田玄白・中川淳庵らと翻訳を企画;3年後に「解体新書」刊、
早期出版に反対し訳者記載を拒む、以後も蘭学研究に専念;その普及に尽力、
大槻玄沢・江馬蘭斎の師、高山彦九郎・最上徳内と親交、一節切の秘曲を極む、
猿若狂言を嗜む、1777「管蠡秘言」著/89「東砂葛記」編/90「和蘭訳文略艸稿」著、
1791「東察加志」、「蘭訳大成」「蘭語随筆」「海外事験筆録」「西洋紀聞」「駁庸医」著/外訳著多、
[良沢(;通称)の名/字/号]名;熹/達、字;子悦/士章、号;楽山/蘭化、
法号;楽山堂蘭化天風居士

良卓(りょうたく・小畑) → *詩山*(しざん・小畑おばた、医者/詩人) Ｄ２１７７
良宅(りょうたく・喜多村) → *鼎*(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) Ｏ１５２５

M4909 **良達**(りょうたつ・東向ひがしむき)?- ? 摂津西宮神社の社家、
歌人;太田道雄(1671-1751)門;歌会参加、
1749(寛延2)[西宮八景]の歌を主唱;同門の人達と詠進、

西宮八景とは;武庫暮雪・神呪晩鐘・広田夕照・名次秋月・津努晴嵐・御前帰帆・曲江夜雨・
鳴尾落雁
良達(りょうたつ:法諱)　→　*巨海*(こかい:道号・良達、曹洞僧)　Ｌ１９８１
良達(りょうたつ・田中)　→　*貞老*(さだおい・新あたらし/衣笠、藩士/国学)Ｂ２０７３
良達(りょうたつ・波多野)　→　*維徳*(これのり・波多野はたの、神職/国学)　Ｒ１９１２
了達(りょうたつ・柏木)　→　*是心軒*(4世・一扇いっちょう、医者/華道家)Ｋ２４６３
了達房(りょうたつぼう)　→　*円弁*(えんべん・了達房、華厳僧/歌人)　Ｂ１３３９
蓼太郎(りょうたろう)　→　*蓼太*(りょうた・大島、俳人)　４９２０
良太郎(りょうたろう・森田)→　*梅磵*(ばいかん・森田もりた、儒者/詩)　３６９１
良太郎(りょうたろう・館)　→　*通因*(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌)　Ｊ４１７０
亮太郎(りょうたろう・桃井)→　*左内*(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家)Ｋ２０６１
亮太郎(りょうたろう・安岡)→　*良亮*(よしすけ・安岡やすおか、郷士/国事奔走)Ｄ４７８１
L4951 **亮湛**(りょうたん;法諱)　？－1632　常陸黒子の天台宗千妙寺の住僧/僧正、
1607(慶長12)「両世灌頂引入次第」著
I4983 **良旦**(りょうたん;号・片岡かたおか)?-　?　江中期羽後秋田の俳人、「紅華図文庫」著
I4982 **菱潭**(りょうたん・布川ぬのかわ)？－　?天保1830-44頃没?　江戸蠣殻町の儒者/兵学者、
高坂昌信(1577著)「練兵要録」校訂・序(1781伊勢貞丈注/1845刊)、
「海岸備要」校訂(ゲルリットハンゲル・トルレン作/本木正栄しょうえい訳/1852刊)、
[菱潭(;号)の名/字/通称/別号]名;通璞、字;子琢、通称;源吾/弦吾、
別号;益堂/向春居
良湛(りょうたん;字)　→　*妙宏*(みょうこう;法諱、天台僧/国学)　Ｇ４１３７
I4984 **了智**(りょうち;法諱)　？－　?　江前期京壬生の浄土宗安養庵の住僧、
往生伝記の編纂がないのを歎き広く道俗から見聞;1688(元禄元)「緇白往生伝」3巻編纂;
江戸期往生伝の最初となる、1693「四聖念仏讃勧記」著
I4985 **良知**(りょうち・鈴木すずき、名;素行)1761-1816*56*　江戸の医者;田村藍水・西湖門、儒;片山兼山門、
伊勢桑名藩・山城淀藩の儒医/1791幕命で小笠原・伊豆諸島を巡検、晩年は開業医、
「医海蠡測」「医海蠡測称書」「本草紀聞」「神農本経」「神農本経解故」「目耕余筆」外多数、
[良知(;字)の通称/号]通称;文/維正、号;目耕/暘谷、法号;準縄院
I4986 **良知**(りょうち・狩野かのう、間斎男)1829-1906*78*　母;山田勝証女の水子(美津)、羽後秋田藩士、
儒者;前小屋上総・中田錦江門、藩校明徳館聴講生に抜擢/江戸の佐藤一斎門/昌平黌入学、
戊辰戦争時に大館城代家老として活躍/本藩詰/明徳館詰役師範を歴任/1874内務省出仕、
1886退官、1858「三策」著;吉田松陰より認められ松下村塾より出版、旭峰の兄/亨吉の父、
[良知(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;国松、字;君達、通称;深蔵、号;羽北/広居
参照　→　*水子*(みずこ・狩野かのう、歌人)　Ｉ４１６５
霊致(りょうち/れいち:法諱)→　*天境*(てんきょう:道号・霊致、臨済僧)　Ｄ３０３３
良知(りょうち・広部)　→　*鳥道*(ちょうどう・広部、儒者/陽明学)　Ｊ２８５７
良知(りょうち・齋藤)　→　*操*(みさお・齋藤さいとう、神職/国学者)　Ｊ４１１６
良知(りょうち・吉井)　→　*良知*(よしとも・吉井よしい、神職/和学)　Ｑ４７０２
良致(りょうち・関)　→　*良致*(よしむね/りょうち・関せき、医者/教育)　Ｎ４７５６
良致(りょうち・宮川)　→　*良致*(よしむね・宮川みやがわ、茶道/歌)　Ｐ４７３７
良智(りょうち;法名・然蓮社)→　*道残*(どうざん;法諱、浄土僧)　Ｅ３１６９
亮致(りょうち・平尾)　→　*魯仙*(魯僊ろせん・平尾ひらお、絵師/国学)Ｃ５２０５
菱池(りょうち・奥)　→　*並継*(なみつぐ・奥おく/漆島/藤波、神職/勤王/官僚)Ｌ３２５２
了智院(りょうちいん;号)　→　*南嶽*(なんがく;法諱、日蓮僧)　Ｉ３２７５
I4987 **良忠**(りょうちゅう;法諱、俗姓;藤原、円尊男)1199-1287*89* 浄土宗第三祖、石見三隅庄の僧、
初め天台僧;1211鰐淵寺信暹門/1214比叡山で受戒/天台・倶舎・法相・禅・律を修学、
1232(貞永元)帰郷;多陀寺で不断念仏、1236生仏の勧めで筑後上妻の浄土第2祖弁長門;
印可を受、1248上京;信濃・常陸・上野・下野・上総・下総に浄土宗布教、1259鎌倉に入る、
大仏朝直の帰依を受;左介谷に悟真寺を創建、専修念仏を広める、再度上京;門弟に布教、
1286鎌倉に帰る;良暁に付法状を授与;87鎌倉に没、

良忠没後;良暁・性心・良空・尊観・然空・道光の門弟6人が各々一流を立てる、
1223「阿毘達磨品類足論摂出」50「浄土大意鈔」54「浄土三心私記」63「往生論註記」著、
1282「安楽集私記」、「足立鈔」「往生詮句」「往生要集鈔」「鎌倉法語集」「臨終用心抄」外著多、
[良忠(;法諱)の法号/通称]法号;然阿/然阿弥陀仏、通称;佐介上人、諡号;記主禅師

L4952 **亮忠**(りょうちゅう;法諱) ? - 1375 京の真言宗東寺宝菩提院の住僧、法印、
「釈経伝受口筆」著

L4993 **了仲**(りょうちゅう・古筆こひつ;家名/姓;平沢、旧姓;清水)1656-1736*81歳* 古筆鑑定家、
古筆別家2代了任の養子;3代目継嗣、幕府寺社奉行支配古筆見に就任;
本家古筆5世了珉と共に幕府出仕、以後別家5代まで[了仲]の号を継承、
[了仲(;号)の名/初号/通称]名;守直、初号;了印(;清水姓)、通称;務兵衛
古筆家系図→[了佐]参照

I4988 **了忠**(りょうちゅう・安井やすい)? - ? 狂歌;1671正式まさのり「堀河狂歌集」に古典狂歌師として入

I4989 **良忠**(りょうちゅう;道号・如隆にょりゅう;法諱、渡辺専修男)1793-1868*76* 近江愛知郡水口村の黄檗僧:
1803(11歳)山城伏見の西照寺観令門;出家/諸師に参禅/1837因幡鳥取の顕巧寺住持、
のち伯耆米子の了春寺住持/1850(嘉永3)山城宇治万福寺33世、1858退院;顕巧寺に没、
「良忠禅師語録」著、[良忠如隆の号] 松寿

I4990 **了仲**(りょうちゅう・古筆こひつ;家名/姓;平沢)1820-91*72歳* 母;蘆雪尼(歌人)、鑑定家;古筆別家5代目、
「熊野懐紙」「紫巌印章花押譜」「筆蹟流儀景図」「竜宝山大徳禅寺世譜」編、
「名物切控」著/1885「新撰古筆名葉集」編/88「扶桑画人伝」著、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(母の蘆雪尼と共に入集)、
[寝ても又夢にや見えん山桜この夕ばえの花の面影](大江戸倭歌;257夕花)、
[了仲(;号)の名/別号]名;栄村、別号;釣玄斎俊翁/閑事庵/北斗庵
古筆家系図→[了佐]参照

良中(りょうちゅう;法諱) → *大本*(たいぼん/だいほん;道号・良中、臨済僧)L２６０４
良中(りょうちゅう・安藤) → *昌益*(しょうえき・安藤、医者/思想家) F２２４７
良忠(りょうちゅう) → *良忠*(よしただ、俳人/狂歌) K４７１７
良忠(りょうちゅう・神尾) → *良忠*(よしただ・神尾かみお/織部、藩士/歌)M４７２８
良忠(りょうちゅう・神尾) → *良忠*(よしただ・神尾かみお/他一郎、藩士/歌)M４７２９
了仲(りょうちゅう・末永) → *虚舟*(きょしゅう・末永すえなが、藩士/地理) P１６６３
了忠(りょうちゅう;法名) → *一朝*(かずとも・猪子いのこ、幕臣/国学) T１５５８
亮仲(りょうちゅう・岸田) → *茂篤*(しげあつ・岸田/由良、医者/歌人) Q２１５５
亮仲(りょうちゅう・山口) → *亮仲*(すけなか・山口/安倍、廷臣/官人) G２３７０
蓼注(りょうちゅう・桑原) → *北林*(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E３９０９
蓼虫子(りょうちゅうし) → *敬忠*(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家)B３５８３
梁仲墨(りょうちゅうぼく) → *梁仲墨*(うつぼりのなかずみ、狂歌) B１２８０

I4991 **良澄**(りょうちょう;法諱) ? - ? 1352存 南北期梶井門跡坊官;京の油小路に住、
1352法橋/法眼、連歌作者:菟玖波8句入、
[心とゝむる花の木かくれ](菟;春128/前句;旅寝する夢には関もなかりけり)

L4953 **良長**(りょうちょう;法諱) ? - ? 戦国江戸前期天台僧;京の魚山大原寺南坊に住、
「融通念仏法則」著

L4954 **聊朝**(りょうちょう;法諱、通称;聊朝房)?-? 江前期大和御所の修験僧;高天寺明王院住、
1656(明暦2)「金剛山内外両院代々古今記録」

M4944 **良超**(りょうちょう;法諱、号;北陽/箕山叟)?-1725 出羽の修験/和学者、
1698(元禄11)秋田保戸野に行者堂を建立、1725(享保10)没

M4940 **了超**(りょうちょう;法諱・橘、了観[林篁]長男)1747-1819*73* 近江坂田郡鳥居本村真宗本願寺派僧;
専宗寺住僧(父が住職)、了鮮の兄/了義の父、歌人;[鴉のうみ]入

M4907 **涼潮**(りょうちょう;法諱・賀島かしま)1839-95*57* 美濃岐阜の即得寺住職、歌人

亮澄(りょうちょう・石津) → *亮澄*(すけずみ・石津いしづ、国学/歌人) C２３２６
亮長(りょうちょう・氷室) → *亮長*(あきなが・氷室ひむろ、神職/和学/歌) I１０３０
亮長(りょうちょう/すけなが・小西)→ *長左衛門*(ちょうざえもん・小西、本草家) I２８４２

亮長(りょうちょう・富田/代島)→ *亮長*(すけなが・代島だいじま・富田、測量)Ｇ２３７６
亮長(りょうちょう・赤尾) → *亮長*(すけなが・赤尾あかお/西山/平、家司/歌人)Ｌ２３２０
良澄(りょうちょう;字) → *日兼*(にちけん;法諱・性衍院、日蓮僧) Ｂ３３６１
良澄(りょうちょう・玉沢) → *良澄*(よしずみ・玉沢たまざわ、藩士、歌人) Ｄ４７８５
良澄(りょうちょう・野々村)→ **良澄**(よしずみ・野々村ののむら、藩士/儒者)Ｏ４７４５
良潮(りょうちょう;字) → *日進*(にっしん;法諱・本妙院、日蓮僧) Ｅ３３４９
良暢(りょうちょう・田中) → *蘭陵*(らんりょう・田中たなか、儒者/講説) Ｄ４８２３
良暢(りょうちょう・尾崎) → *良暢*(よしのぶ・尾崎おざき、神職/国学) Ｌ４７８９
良澂(りょうちょう・安岡) → *良亮*(よしすけ・安岡やすおか、郷士/国事奔走)Ｄ４７８１
良長(りょうちょう/よしなが・藤堂)→ *探丸*(たんがん/たんまる・藤堂とうどう、俳人)Ｉ２６０４
良直(りょうちょく/よしなお・松井)→ *可楽*(からく・松井、藩士/詩歌/紀行)Ｈ１５５４
良直(りょうちょく/よしなお) → *吾扇*(ごせん・中野なかの、俳人) Ｄ１９１７
良直(りょうちょく・岩月) → *良直*(よしなお・岩月いわつき、藩士/歌人) Ｌ４７６８

I4992 **良珍**(りょうちん;法諱、藤原高実男?)?-? 鎌倉期天台園城寺僧?:法眼、
歌人:1278刊「続拾遺集」(1133)、
[うき世をばいでて入りぬる山かげに心をかへて月を見るかな]、
(続拾;雑1133/山里に籠りゐて詠む)

I4993 **良珍**(りょうちん) ? - ? 室町期連歌作者;
1445伊勢日晟亭「文安月ぶんあんつき千句」参加;第四何人発句

I4994 **良鎮**(りょうちん;法諱、通称;竹内僧正、一条兼良男or兼良弟)?-1516 天台曼殊院門跡(竹内門跡)、
曼殊院良什准后の法嗣/のち大僧正、北野社別当、1504「愚見抄」05「法華経頌」06「加持抄」、
1510「身如意抄」12「信受抄」13「意行抄」、「欲欲抄」「真妙抄」「妙法蓮華経無名抄」外著多数、
歌・連歌作者:1487「竹内僧正家句題歌」著/87連歌「朝何百韻」参加、
1492(明応元)「竹内僧正五十五番歌合」主催

I4995 **亮珍**(りょうちん;法諱、諡号;性空金剛院)1660-1741*82* 天台宗園城寺勧学院の学僧;
1690亮海より灌頂を受/1716僧正/39園城寺別当/長吏御預、護持僧、
1722「伝法灌頂阿闍梨譜」、「十不二門指要鈔私記」著

I4996 **了珍**(りょうちん・石井いしい、了瑄男)?-1752 陸前仙台藩連歌師/1749(寛延2)法眼、
歌;冷泉為久門、1738「石井三家系図」著

良椿(りょうちん;法諱・寿雲)→ *寿雲*(じゅうん;道号・良椿、曹洞僧) Ｙ２１５４
良珍(りょうちん・皐月) → *平砂*(2世へいさ・皐月さつき、俳人) ２７３１

M4917 **涼通**(りょうつう・佐々木ささき)1816-1889*74* 美濃岐阜の真宗本願寺派蓮生寺住職、国学/歌人

L4998 **亮通**(りょうつう・荒谷あらたに)1860-1883早世*24歳* 尾張知多郡の僧/歌人、歌集「閑居詠草」著?、
[亮通(;法諱)の名/通称/号]名;芳高、通称;浅次郎、号;瑞光庵

良通(りょうつう・林) → *良通*(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典)Ｈ４７３８

I4997 **亮貞**(りょうてい;法諱・自春;字、松岡国弘男)1648-1719*72* 父は伊勢度会郡宇治の年寄会合所役人、
宇治の真言僧:1658(11歳)菩提山光算門、1661(14歳)微雲院兼意門;出家、真常院亮元門、
1669(寛文9)大和長谷寺に修学/1703(元禄16)長谷寺15世、権僧正、1707江戸護国寺転住、
大僧正に至る、1705「自証説法十八段私記」09「歎徳総標新艸」13「還辨折暁論篇」外著多数、
[亮貞(;法諱)の別法諱/号]別法諱;教春/亮真、号;温如

I4998 **了貞**(りょうてい;法諱) ? - ? 江後期河内の真宗大谷派専教寺住職、
1803-9「二十四輩順拝図会」著

I4999 **涼庭**(りょうてい・新宮しんぐう、義憲[道庵]長男)1787-1854*68* 母;浜屋市郎右衛門女の春枝、
丹後由良の医者;初め漢方医;伯父涼築門、のち蘭方医学;1810長崎の吉雄如淵門、
オランダ医師にも師事;蘭語・天文学も修学、1818(文政元)帰郷/19京で医を開業、
京の東山に1839順正書院を創設;医学生教育に尽力、儒;巌渓嵩台門、
1840理財家として南部藩財政再建のため盛岡に赴任、妻;伯父福知山藩主有馬涼築の女、
男子なく門弟柚木涼民を養子とす/さらに涼閣・涼介りょうかいを義子とし4分家を立てる;
学系の維持を図る、1815「窮理外科則」訳/1824・35「泰西疫論」訳/36「順正楼丙申集」著、
1842「療治瑣言」46「但泉紀行」、「西遊日記」「灌腸論」「駆豎斎詩文鈔」「駆豎斎家訓」著、

「方府私記」「駆竪斎随筆」「破レ家ノツヽクリ話」著、外著訳多数、
[涼庭(;字)の幼名/名/別字/号]幼名;織造、名;碩、初字;涼亭、
号;鬼国/鬼国山人/大愚/市井痴人/順正主人/駆竪斎くじゅさい、法号;順正院

J4900 **椋亭**(りょうてい・阿部あべ)1787- 187084　阿波市場町粟島の代々庄屋の家、
儒者:石黒篁渓・鉄復堂門、民政の治績により郷士;苗字帯刀を許可、詩・書・俳諧を嗜む、
1806「阿波志抄」/64「阿波温故録」「温故録」、「阿波統計雑録」著、
[椋亭(;号)の名/字/通称]名;憲章/憲、字;成夫、通称;亀三郎

良貞(りょうてい・藤原)　→　*良貞*(よしさだ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)　Ｄ４７３４
良貞(りょうてい;法名)　→　*重通*(しげみち・庭田/源、大納言/歌人)　２１１６
良貞(りょうてい・木戸)　→　*良貞*(よしさだ・木戸きど、郷士/歌人)　Ｍ４７３８
良定(りょうてい;法諱)　→　*良定*(りょうじょう;法諱、浄土僧/琉球に布教)４９１８
良鼎(りょうてい・藤堂)　→　*巴陵*(はりょう・藤堂とうどう、絵師/詩文)　Ｆ３６８９
良亭(了亭りょうてい)　→　*公軌*(こうき/きんのり・打它うだ/うつだ、歌人)　Ｅ１９９４
良亭(りょうてい・藤江)　→　*熊陽*((ゆうよう・藤江ふじえ、藩儒/地誌)　Ｄ４６９９
涼亭(りょうてい・新宮)　→　*涼庭*(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医)　Ｉ４９９９
椋亭(りょうてい・武谷)　→　*灃蘭*(れいらん・武谷たけや、蘭医)　５１７０

J4901 **了的**(りょうてき;法諱・導故;字)?-1630　甲斐の浄土僧:1567甲斐府中の瑞泉寺の順的門;
出家、存応門;1594五重血脈と円頓戒を受;常随の弟子、1608日蓮宗との江戸城宗論に出席、
徳川家康との法談にも参加、小田原大蓮寺住/京金戒光明寺の復興に尽力、
1616後陽成天皇より紫衣の綸旨を賜る/1625存応門下で双璧の廓山の跡継嗣;増上寺14世、
「大原問答講録」「円覚経抄」「供奉記」著、
[了的(;法諱)の法名]　伝蓮社桑誉道故

J4902 **良適**(りょうてき・林はやし、名;完熙、医官伴道与2男)1695-173137 林重熙良喜の養嗣子、
林家は元紀州和歌山藩医;徳川吉宗将軍就任に伴い江戸の幕府医官、1721(享保6)家督嗣、
小普請入/小石川養生所出役/1726番医、幕命で丹波正伯と救急医療「善救類方」を共編、
オランダ人より油製法修得;梅花・菊花・丁子等より油製造、茂承良適(奥医師)の父、
[良適(;通称)の別通称/法名]別通称;道二、法名;楽軒

L4984 **亮迪**(りょうてき:法諱、慎誉;法名)?-?　江後期;江戸の浄土僧、増上寺子院源興院僧、
法誉了瑩りょうえい(1780-1854)門;嗣没後1854源興院院主、絵師狩野[逸見]一信を了瑩と援助、
師了瑩没後も3千両提供し「五百羅漢図」制作を後援、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[涼しやとみるほどもなく小余綾こよろぎのいそぎて沖にかへる月かな](大江戸倭歌;夏547、
(小余綾;こゆるぎとも;相模大磯付近の浜;[いそ]にかかる枕詞/磯と急ぐを掛る)

了的(聊適りょうてき・辻)　→　*端亭*(たんてい・辻つじ、藩士/儒者)　Ｉ２６５３
涼滴斎(りょうてきさい)　→　*宗悦*(そうえつ・久田ひさだ、茶人)　２５５６

M4958 **良哲**(りょうてつ;号・林はやし)　?-　?　江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、
[心なき名に立つ程ぞしられける今宵の月にかかる浮雲](麓の塵;秋249/八月十五夜曇)

L4955 **亮徹**(りょうてつ;法諱、俗姓;高木)?-?　下野宇都宮の浄土僧;下野慈光寺の雲頂門;出家、
檀林修学/のち江戸芝増上寺に修学;浄土宗学の外唐詩・国学にも通ず、
「往生論註正義叙説」/1717刊「祈祷百万護念消災章」著、
[亮徹(;法諱)の法名]　青蓮社忍誉雲洞暁山

J4903 **良哲**(りょうてつ;号・村山むらやま)?-　?　江後期美作津山藩医;禄75石、「西行紀程」編

J4904 **涼哲**(りょうてつ・新宮しんぐう)1832-186231　蘭医:新宮涼庭の義子?、1861-3「駆竪斎詩文鈔」校、
[涼哲(;字)の名/号]名;義悟、号;翠崖
参考　駆竪斎(くじゅさい)→　*涼庭*(りょうてい・新宮、蘭医)　Ｉ４９９９
了徹(りょうてつ;法諱・慈雲)→　*治重*(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行)　Ｇ３６３９
了徹居士(りょうてつこじ)　→　*治重*(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行)　Ｇ３６３９

J4905 **亮典**(りょうてん;法諱・文性もんじょう;字、俗姓;倉垣内)1607-5246 江前期伊勢度会郡宇治の真言僧;
1618伊勢建国寺の憲式・空鏡門、のち久留山の融鑁門/1623(17歳)高野山に修学、
のち智積院の日誉・元寿門、1640(寛永17)伊勢宮崎に隠棲;真常院を建設:学問道場とす、
仁和寺密蔵院宥雄より地蔵院流を伝承/心蓮院宥巌より広沢流を伝承、亮汰・亮元の師、

仁和寺性承法親王より上人号を受、「古文真宝家伝受集附弟子職」「阿字観鈔」「扛鼎記」著、
1639「般若心経秘鍵文林」(;運敞序)/47「大報父母恩重経鈔」、「科鈔説法明眼論」外著多数、
[亮典(;法諱)の別法諱] 幸養/空式

J4906 **亮天**(りょうてん;法諱・海外かいげ;道号、俗姓富田)1726-1800*75* 長門下関曹洞僧:大実蔵海門、
長門功山寺/信濃全久院住持、晩年;摂津法華寺退院、「海外かいげ亮天禅師録」著

良天(りょうてん;字) → *聖観*(しょうかん:法諱、良天、浄土名越派僧)Ｈ２２８０
良典(りょうてん・小林) → *良典*(よしすけ・小林、官人/尊皇/歌人) Ｌ４７８５
良典(りょうてん・井桁) → *良蔭*(よしかげ・井桁いげた、庄屋/国学) Ｌ４７３９
竜田(りょうでん・中野) → *竜田*(りょうでん・中野なかの、儒者/詩人) Ｋ４９８５
霊伝(りょうでん:法名) → *義門*(ぎもん・霊伝、東条、真宗僧/国学) Ｂ１６８７

4921 **凉菟**(りょうと・岩田いわた、名;正致)1659-1717*59* 伊勢神宮祠官/俳人;芭蕉門/伊勢派の基礎を築く、
神風館3世;団友斎凉菟を名乗る/支考と親交、1699「皮籠摺」1704「山中集」05「中やどり」編、
1706「潮とろみ」14「あさがり」「安宅懐旧」/17「簗普請」編、「凉菟句集」、1691「続猿蓑」1句入、
「伊勢新百韻」「三疋猿」連句入/句集「それも応」芦本編、追善集;「其暁」「此のあかつき」、
[かたびらに越こしの日数や後のちの月](山中集/夏かたびら姿で越路行脚;もう9月13夜)、
[凉菟(;号)の通称/別号]通称;亦次郎/権七郎、別号;団友/団友斎/神風館3世

良度(りょうど・簗田) → *義重*(よししげ・簗田/梁田、家老/測量) Ｄ４７６０
了兎庵(りょうとあん) → *顧言*(こげん・松本、樨柯男/医者/俳人)Ｃ１９４６

J4908 **菱塘**(りょうとう・島方しまかた、松蔭男)?-? 江後期上州碓氷郡板鼻の詩人、
1846(弘化3)刊「尚歯放生詩集」編

竜統(りょうとう・元棟) → *元棟*(げんとう;法諱・竜統、黄檗僧) Ｌ１８７８
良冬(りょうとう・二条) → *良冬*(よしふゆ・二条/藤原/今小路、廷臣/歌)Ｇ４７８４
良当(りょうとう・大田原) → *良当*(よしまさ・大田原おおたはら/内田、国学)Ｌ４７９６
良棟(りょうとう・丸山) → *元純*(げんじゅん・丸山まるやま、医者/地誌) Ｊ１８７７

J4911 **了堂**(りょうどう;道号・真覚しんかく;法諱、俗姓;平)1330-99*70* 大和結崎の曹洞僧:
1346(17歳)奈良竜華院で出家/京東山永久寺で三密を修学/紀伊能仁寺の孤峰覚明門、
能登総持寺峨山韶碩門、1363太原宗真の近江報恩寺での開法参加;加賀仏陀寺開山に随侍、
太原宗真の法嗣/奈良補巌寺・加賀瑞川寺を開山、「了堂真覚禅師語録」著、
[了堂真覚の別法諱] 覚真

L4956 **良道**(りょうどう:法諱・道号;? 観)?-? 1677存 陸中黒石の曹洞宗正法寺の輪番住持、
のち世代から排除、1348創建の正法寺の由来記著述;1677(延宝5)「正法寺由来書」著

J4909 **亮堂**(りょうどう:法諱) 1703 - 1755*53* 播磨の天台宗随願寺金剛院の住僧、
「増位山集記」著

L4957 **良道**(りょうどう:法諱) ? - ? 1772存 天台宗比叡山法曼院の住持、
1772(安永元)戸津説法勤仕、1764「法曼百寿和尚六百回忌常行三昧法則」著、
1766「章安講法則」67「建立大師八百五十回忌常行三昧法則」、「元亀二百年忌法則」著

J4910 **了道**(りょうどう;法諱、俗姓;山田、東光寺住職了義男)1804-76*73* 近江真宗僧;
初め大谷派香樹院徳量門;宗学を修学/のち近江の仏光寺派東光寺住職;父継嗣、
仏光寺派教学の研鑽布教に尽力、「渋谷宝鑑」著

了道(りょうどう;字) → *日東*(にっとう;法諱・唯妙院、日蓮僧) Ｆ３３４７
苓道(りょうどう;字) → *亮碩*(りょうせき;法諱・苓道、天台僧) Ｉ４９４９
良道(りょうどう:初法諱) → *智得*(ちとく;法諱、時宗3代遊行上人) Ｆ２８０２
良道(りょうどう・立野) → *良道*(よしみち・立野たつの、代官/国学者) Ｈ４７４５
竜堂如珠(りょうどうにょしゅ)→ *如珠*(にょしゅ;法諱・竜堂、黄檗僧) Ｆ３３９６

4922 **令徳**(りょうとく・鶏冠井かえでい)1589-1679*91*(1674没説*86*) 京俳人:貞門七俳仙;最古参門人、
貞徳より「天水抄」受、1646「切紙秘伝良薬抄」著、1651「崑山こんざん集」57「崑山土塵どじん集」編、
「挙直きょちょく集」「俳諧六芸集」「親灸おややいと」編、貞徳「天水抄」識語、
1633重頼「犬子えのこ集」49句入、
[柴にまた餅花もちばな咲くや二度の春](詞書;年明けて春立ちけるに、崑山集)、息;令富りょうとみ、
[令徳の通称/別号]通称:九郎右衛門、別号;良徳(初号)/謙頭庵/陀隣軒[庵]/梨柿園

了徳(りょうとく・遠山)　→　*伊清*(これきよ・遠山とおやま、幕臣/歌研究)Ｅ１９１６
良篤(りょうとく・高木)　→　*篤庵*(とくあん・高木たかぎ、儒者)　Ｋ３１４２
霊督(りょうとく;字)　→　*鳳山*(ほうざん:法諱、融通念仏僧)　Ｂ３９１２
良徳院(りょうとくいん;法号)→　*正弘*(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約)Ｈ４００１
聊得軒(りょうとくけん)　→　*雪柯*(せっか・松田、神職/儒/書家)　Ｋ２４７７

J4912 **令富**(りょうとみ/りょうふ・鶏冠井かえでい、通称;作兵衛/半七、令徳男)?-1704?(*60余歳没*)　京の歌人/俳人、
「山城年中行事」著、1702轍士「花見車」入、
[耳正月宝ぞ延ぶるとしの春](花見車入)

J4913 **梁南**(りょうなん;道号・禅棟ぜんとう;法諱、後藤不干斎男)1552-1638*87*　伊勢桑名の臨済僧;
伊勢少林寺の希庵に預けれる/1566(15歳)美濃の臨済僧蘭畹門/総見寺忠嶽門;印を承く、
陽岩院住;忠嶽に随い妙心寺住/1611(慶長16)名古屋総見寺2世;寺を移転;中興となる、
美濃に光国寺を開山、元和1615-24頃妙心寺に光国院を創建;開基、
詩人;「従尾州熱田迄藝陽広嶋路行之詩」著、
[梁南禅棟の通称/法号]通称;中有道人、法号;霊寿

両二(りょうに・山崎)　→　*常美*(つねよし・山崎やまざき、藩士/国学者)Ｅ２９２６
了日(良日りょうにち;法名)→　*静見*(じょうけん;法諱、浄土西山派僧)　Ｉ２２６２
良入(りょうにゅう;法名)　→　*良重*(よししげ・犬塚いぬづか、幕臣/国学者)Ｌ４７６２

J4914 **良如**(りょうにょ;法諱・知水[智水];字、専修寺住職如道男)1344-1412*69*　越前府中の浄土僧、
平泉寺で出家/天台宗比叡山で修学/のち浄土教に傾注;京の清浄華院8世の敬法門、
融通念仏布教/頭陀行により北国行脚、1368越前敦賀に西福寺創建(;後光厳天皇勅額賜)、
敦賀宝国寺に隠棲、「融通讃」著

良如(りょうにょ・光円)　→　*光円*(こうえん・良如、西本願寺13世)　Ｈ１９６３

J4915 **霊仁**(りょうにん)　?-　?　奈良期大安寺僧;三綱、
747「大安寺伽藍縁起并流記資財帳」:教義・尊耀と共編

J4916 **良忍**(りょうにん;法諱、秦はた道武男)1073-1132*60*　母;熱田社大宮司の女、融通念仏宗の開祖、
天台声明中興の祖、尾張知多郡富田村の生;1083天台宗比叡山東塔檀那院良賀門;出家、
近江園城寺禅仁・仁和寺永意門;顕密二教を究明/山城大原に隠棲;来迎院・浄蓮華院創建、
浄業に尽力;天台声明を復興/中興、1117(永久5)融通念仏宗を開く、
摂津大念仏寺を中心に貴顕道俗に布教、来迎院に没、良賀の弟、
1117「伝法要文」、「止観指事」「布薩略作法」著
[良忍(;法諱)の幼名/初法諱/号]幼名;音徳丸、初法諱;良仁、号;光静房こうじょうぼう/光乗房、
諡号;聖応大師

M4971 **良仁**(りょうにん;法諱、)　?-　?　平安鎌倉期;僧/法師/歌人、
1233刊[御裳濯集]入、
[鹿のねは涙ながらやかよふらむきくよそ人の袖のつゆけき](御裳濯集;秋347)

J4917 **了任**(りょうにん;法名・通称;仁木伊賀入道)?-?　安桃江前期和泉堺の医者/連歌作者、右京亮、
1582紹巴・細川藤孝・日野輝資らの連歌会に参加、1599・1601和漢聯句催

J4918 **亮潤**(りょうにん;法諱、俗姓;半田or佐山)1668-1750*83*　下州佐野の天台僧;
1680(13歳)日光輪王寺門跡天真親王門;出家、1688比叡山西楽院で修学;西塔執行代、
1711江戸寛永寺常照院・常陸小野逢善寺を兼務、諸寺で天台教学を講義、
比叡山に帰り1718西塔執行、24比叡山正覚院に転住/東塔執行・元応寺戒和尚・吉野山学頭、
探題/大僧正、1695「観音籤註」1725「観音経玄義記顕宗解」39「弥陀報応」45「東渓講外集」、
1745「根本中堂仏名会法則」、「恵心檀那異義辨」「薬師本願講法則」外著多数、
[亮潤(;法諱)の字/号]字;東渓/眞詣/大雲/豪雲、号;妙禅房/一雨堂

良仁(りょうにん・かたひと)　→　*覚深親王*(かくじんしんのう、真言僧)　Ｋ１５１２
良仁(りょうにん→ながひと)　→　*後西天皇*(ごさいてんのう、詩歌人)　Ｃ１９６０
良任(りょうにん・遠藤)　→　*良任*(よしとう・遠藤えんどう、歌人)　Ｋ４７７７
亮仁(りょうにん;号)　→　*円遵*(えんじゅん;法諱、真宗高田派僧)　Ｅ１３９３
良任房(りょうにんぼう;号)　→　*廉峯*(れんぽう;法諱、真言僧/声明)　Ｂ５１３３

J4919 **了然**(りょうねん;法諱・自性房、藤原光家男)?-?　定家の孫、鎌倉期光明寺の三論僧、上人、

徳治1306-08頃八十余歳で辞世の頌を制作、歌人;続門葉集入、
勅撰8首;新後撰(610/691)続千載(795/934/1837)続後拾(1281)新千載(838/2184)、
[たづねつる雲より高き山越えてまたうへもなきはなをみるかな](新後撰;釈教610、
今得無漏無上大果/了然上人名)

J4920 **了然**(りょうねん;道号・永超えいちょう;法諱)1471-155*181* 壱岐の曹洞僧:幼時に出家、
長門大寧寺天甫存佐門;法嗣、肥前慈恩寺住持、1519後藤純明再興の肥前武雄円応寺住持、
円応寺中興の祖、晩年慈恩寺に退隠、「了然超禅師語録」著

L4958 **良然**(りょうねん;法諱・道水;字、号;楽只庵、塗工清水家3男)1842-76*35* 越後古志郡六日市村蛇山生、
曹洞僧;福生寺智賢門;出家/竜昌寺栗園学堂に修学、1858(17歳)江戸の吉祥寺学寮で研鑽、
比叡山で台教を究明/諸寺で講説中に罹病;越後竹沢の慈海庵さらに福生寺に療養、
栗園学堂を督す、長岡長福寺住;没、「維摩経註釈」「老子道徳経註釈」「閑余吟」「竹里集」著

良然(りょうねん;法名) → *後鳥羽天皇*(ごとばてんのう、承久乱/歌人) １９３７
良然(りょうねん;法諱) → *灯誉*(とうよ;号・良然、浄土僧/連歌) Ｈ３１６６
良然(りょうねん;号) → *慧観*(えかん;法諱・聖弁、浄土僧) Ｄ１３５６
良然(りょうねん;名) → *靱麿*(ゆきまろ・釈;法諱、僧/歌人) Ｈ４６５１
了然(りょうねん;法諱) → *月峰*(げっぽう;道号・了然、臨済僧) Ｈ１８３７
了然(りょうねん;字) → *日禅*(にちぜん;法諱・守玄院、日蓮僧) Ｃ３３６４
亮年(りょうねん・小野) → *亮年*(すけとし・小野おの/原、国学者) Ｉ２３１８

J4921 **了然尼**(りょうねんに;道号・元聡;法諱、俗名;葛山ふき、葛山為久長女)1646-1711*66* 武田信玄の玄孫、
京泉涌寺門前に生/東福門院女房/その孫好君にも出仕、京の儒医松田晩翠の妻;離婚、
宝鏡寺宮理忠尼の許に出家;27歳、江戸に出て黄檗僧鉄牛道機の法弟白翁道泰門;33歳、
白翁入門に当り美貌の面皮を熱した銅で焼いてその意思を示した事件は有名、
1680印可を受/1701武州落合村泰雲寺を開き白翁を勧請開山とし2世住持となる、
詩歌・書に長ず、1691私撰「若むらさき」編(戸田茂睡編「紫の一本」より一書とする)、
禅僧の雲峰言沖・大随元亀の姉、
[生ける身の捨てて焼く身のうからまし終っひのたきゞと思はざりせば]、
(入門時に絶句[燎面皮頌めんぴをやくじゅ]に添えた歌)
[君があたりさらぬ心を残し置く筆のあとまで形見とも見よ]、
(若むささき;最終歌/撰集を託す歌)、
[了然(;道号)の女房名/別道号]女房名;やどり木、別道号;大休/知眞、
法号;泰雲院元総

J4922 **良能**(りょうのう・前田まえだ) ? - 1772? 大阪の俳人:芳室門、1760「おさな杖」「稚方集」編、
1763「除元集」/「宝暦十三年歳旦」編
[良能の別号] 桂室/蝦尺えびたけ/半折房/勃翁/勃叟/勃父/勃々庵

良能(りょうのう・三浦) → *竹渓*(ちくけい・三浦、儒者) Ｃ２８８４
良能(りょうのう・大塚) → *孝綽*(たかやす・大塚おおつか、儒者) Ｃ２６８４
良之進(りょうのしん・千葉)→ *正中*(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌)Ｑ４０８９
亮之進(りょうのしん・作並)→ *鳳泉*(ほうせん・作並さくなみ、藩儒者) Ｆ３９３５
良僧正(りょうのそうじょう) → *遍昭*(遍照へんじょう;法諱、廷臣/天台僧正/歌人)２７０５

J4923 **亮之介**(りょうのすけ・松本まつもと)?- ?1845頃没 備前岡山藩士;官船手組/御船奉行;
沿海・封内等の地理調査、武芸に通じ兵書研究;特に海軍術に精通、「東備郡村誌」著

亮之助(りょうのすけ・津田)→ *梧岡*(梧崗ごこう・津田つだ、漢学/史学) Ｇ１９４７
亮之助(りょうのすけ・上月)→ *亮*(あきら・上月こうづき、地役人/歌人) Ｈ１０５３
亮之介(りょうのすけ・菅) → *政友*(まさとも・まさすけ・菅かん、儒/国学者) Ｅ４０７８
良之助(りょうのすけ・伊東) → *鼇岳*(ごうがく・伊東いとう、藩儒/詩) Ｇ１９２２
良之助(りょうのすけ・畠山)→ *義成*(よしなり・畠山、藩士/渡航日記) Ｆ４７４５
蔭の屋(りょうのや・林) → *養老館路産*(ようろうかんろさん、林波臣、狂歌)Ｂ４７６５

J4907 **了派**(りょうは・石井いしい) ? - 1559 戦国期連歌作者;宗祇門、1536(天文5)法橋、
三条西実隆より古今伝授を受、
[了派(;号)の名/通称]名;慈久、通称;弥三郎

J4924 了派(りょうは、鉄鐸;初号)? - ? 俳人;宋屋[1688-1766]門
了派(りょうは;法諱) → *如宗*(にょじゅう;道号・了派、曹洞僧) Ｆ３３９７
J4925 良伯(りょうはく;通称・藤林ふじばやし)?-? 江後期山城伏見の医者;按摩術による治療を主唱、
1799(寛政11)「按摩手引」
L4992 了博(りょうはく・古筆こひつ、本姓;平沢/名;最信/別号;即修庵、了伴4男)1836-62早世*27* 古筆鑑定家、
古筆家11代、 古筆家系図→[了佐]参照
良伯(りょうはく・深沢) → *高直*(たかなお・深沢ふかざわ、医者/歌人) Ｄ２６３３
良白(りょうはく・加藤) → *善庵*(ぜんあん・加藤かとう、藩士/医者) Ｌ２４６０
了伯(りょうはく・佐川) → *其鳳*(きほう・大雅舎、浮世草子作者) Ｂ１６７７
良八(りょうはち・北林) → *大古*(たいこ・北林きたばやし、商家/俳人) Ｇ２６４４
L4926 良範(りょうはん:法諱) ? - ? 平安後期叡山僧/歌人、
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、
[月見つついつともわかぬ我が宿に秋の光はすみまさりけり](賢聖院歌合;五番左9)
M4961 良範(りょうはん:法諱、乗信[興福寺別当]男)?-? 鎌倉期;興福寺僧/権大僧都/法印、
承明門院(能円女の在子1171-1257/後鳥羽院妃/土御門天皇母)の甥、能円の孫、
玄尊(興福寺喜多院/権律師)の弟、
☆藤葉集入集の良範(法師)と同一か?
[せめてただ後の世とだにいひてましみしを限りの別とおもはば](藤葉;恋530)
L4959 良範(りょうはん:法諱、号;海岸房)?-1625 下野梁瀬の天台宗宝蔵寺住僧/のち比叡山入、
横川華厳院に住、恵心院主/首楞厳院別当/探題/権僧正、甥に叡山東塔恵光院良珍、
1609「自性院尊儀二十七回忌御忌頓写供養表白」、「三観義所依」「釈籤縁起序註」著
J4927 亮範(りょうはん;法諱・岳泉がくせん;字、俗姓;竹内)1670-1739*70* 越前新保浦の真言僧;
1680(11歳)滝谷寺慶範門;出家/京・奈良・江戸に遊学;江戸で柳沢吉保・徳川綱吉の帰依受、
1703山城蟹満寺住/12集議/18京六波羅蜜寺住/21江戸眞福寺転住、
1728(享保13)智積院15世、権僧正に至る、「曼陀羅供私」1716「幸心法流印決」著、
1734「東寺大曼陀羅供私記」著
J4928 亮範(りょうはん;法諱・妙厳みょうごん;字)?-? 江中期山城の天台宗元慶寺の僧、
洛東大仏浄妙立院に住:著述に専念、慈周・亮雄の師、1731「聖観自在菩薩修行次第」、
1743「八千枚深秘録西山63「不動立印十四妙契」」75「不動立印記」76「施餓鬼法」外著多数
J4926 良範(りょうはん・よしのり・山田やまだ)?- ? 江前中期;文政1818-30頃佐渡相川の佐渡奉行所の地役人、
辻守遊と交流、「佐渡音頭」(相川音頭)の内通称「源平軍談」の作詞(中川赤水説もある)、
歌人、武道の故実に通ず、「雲萍雑誌諺解」著、
[良範(;名)の通称/号]初通称;吉平/のち;典膳、 号;静黙堂
J4929 亮範(りょうはん;法諱・闡空せんくう;字)?-1852 尾張の浄土宗祐福寺住僧;西山流の布教に尽力、
1831(天保2)山城粟生の光明寺住職、西山派の教学振興のため各地の典籍・記録を収集,
1831「円頓戒律要鈔」著/40「浄土西山流秘要蔵」編、「往生論註管窺抄」外著多数
良璠(りょうはん;字) → *尊眞親王*(そんしんしんのう、青蓮院門跡) Ｆ２５６０
J4930 了伴(りょうばん・古筆こひつ:家名、姓;平沢、古筆9世了意男)1790-1853*64* 鑑定家;古筆家10世・
1848(嘉永元)「思ひよる日(思比寄日)」「みるままの日記」、「古筆鑑定家印譜」著、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[いとせめて名だに伝へん世にたえずありし昔の水茎のあと](大江戸倭歌;雑1965、
御本城煙上のとき過ぐる年献上せし公任卿自筆朗詠集の焼けぬれば)、
[了伴(;号)の名/通称/別号]名;最恒、 通称;弥太郎、 別号;一蓬庵夢翁
古筆家系図→[了佐]参照
良弼(りょうひつ・伊東) → *鼇岳*(ごうがく・伊東いとう、藩儒/詩) Ｇ１９２２
良弼(りょうひつ/りょうすけ・並河)→ *天民*(てんみん・並河なみかわ、儒者/雅楽)Ｅ３０３４
良弼(りょうひつ・松永) → *良弼*(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)Ｄ４７７８
良弼(りょうひつ・徳力) → *竜澗*(竜間りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者)Ｄ４９２７
良弼(りょうひつ・乗竹) → *東谷*(とうこく・乗竹のりたけ、藩老/儒者) Ｅ３１１０
良弼(りょうひつ・奥田) → *勾堆*(こうたい・奥田おくだ、藩士、詩文) Ｋ１９４７

良弼(りょうひつ・跡部)　→　*良弼*(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌)Ｋ４７９５
良弼(りょうひつ・神林)　→　*復所*(ふくしょ・神林かんばやし、藩士/儒者)　Ｂ３８５８
良弼(りょうひつ・手塚)　→　*律蔵*(りつぞう・手塚てづか、洋学者/訳書)　Ｃ４９１０
良弼(りょうひつ・菅)　→　*良弼*(よしすけ・菅すが/菅原、藩士/歌人)　Ｎ４７４３
良弼(りょうひつ・船越)　→　*良弼*(よしすけ・船越ふなこし/北条、剣術/歌)Ｏ４７９２
良弼(りょうひつ・中村)　→　*良顕*(よしあき・中村なかむら、国学/歌人)　Ｃ４７０２
良弼(りょうひつ・村岡)　→　*良弼*(よしすけ・村岡/平/渋谷、儒/詩歌/官僚)Ｐ４７５０
J4931 **良敏**(りょうびん;法諱)　？－　？　平安後期;天台園城寺僧;大法師、歌人;
1166-80頃「山家さんか歌合」親盛らと参加、1173「三井寺新羅社歌合」講師/俊成判、
[さらぬだに玉とあざむく蓮葉の露をもみがく夜半の月かな](山家歌合;夏月五番右)
量敏(りょうびん・村上)　→　*量敏*(かずとし・村上むらかみ/岡本、藩士/地誌/画)Ｖ１５９２
令富(りょうふ・鶏冠井かえでい)→　*令富*(りょうとみ・鶏冠井かえでい、歌/俳人)Ｊ４９１２
良富(りょうふ・那古屋)　→　*良富*(よしとみ・那古屋なごや、藩士/詩人)　Ｅ４７９８
良阜(りょうふ・山本)　→　*安良*(鶚寮あんりょう・山本、医者)　Ｇ１０２２
L4975 **良風**(りょうふう・片山かたやま)？－　？　江前期;上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第五白雨第三句/月脇句等入、
[樗あふちの木手桶の内に影かげ見えて](生玉万句;白雨第三、脇;柄杓えしゃくにかゝる黒雲の峰、
玉葉;秋院御製;宵の間の村雲伝ひ影見えて山の端めぐる秋の稲妻)
J4932 **涼風**(りょうふう)　？－　？　京俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
J4933 **良風**(りょうふう)　？－　？　俳;1774美角「ゑぼし桶」1句入、
[雨の日や昼を下がりの鉢叩はちたたき](ゑぼし桶;
59/11月13日より48日間念仏を唱え墓巡りの半俗僧;暗い雨の今日はもうやってきた)
良風(りょうふう・村田)　→　*良風*(よしかぜ・村田むらた、藩士/歌人)　Ｐ４７５５
涼風軒(りょうふうけん)　→　*提要*(ていよう・菊池、能登俳人)　Ｂ３０７６
J4934 **涼風子**(りょうふうし)　？－　？　江戸雑俳宗匠;
1730吟蝉「俳諧塵塚」入;蝶々子らと
涼風亭(りょうふうてい・細井)→　*金吾*(きんご・細井ほそい、藩士/儒・国学)Ｑ１６８６
良福(りょうふく・三井)　→　*良福*(よしとみ・三井みつい/;平、幕臣/歌)　Ｋ４７９３
良福(りょうふく・尾崎)　→　*良福*(よしとみ・尾崎おざき、神職/歌人)　Ｌ４７８７
聊復爾軒(りょうふくじけん)　→　*雨橘*(うきつ・戸原とばら、医/儒/尊王)　Ｃ１２０９
了浮斎(りょうふさい・狩野)→　*安信*(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師)Ｃ４５５４
良文(りょうぶん・藤井)　→　*良文*(好文よしふみ・藤井ふじい松林、藩絵師)Ｏ４７８６
良文(りょうぶん・宮下)　→　*良文*(よしぶみ・宮下みやした、国学/歌)　Ｐ４７４４
J4935 **量平**(りょうへい・鹿子木かのこぎ、庄屋弥左衛門男)1753-1841*89*　肥後飽田郡吾丁手水鹿子木村の庄屋、
同村の相符役/1773庄屋を継嗣、さらに惣庄屋・御郡吟味役・新地築立根役を勤務、勧農家、
多くの新地開墾に尽力、「勧農富民録」「座右手鑑」「清正遺業記」/1783「藤公遺業記」著、
[量平(;通称)の名/字/初通称]名;維善、字;伯祥、初通称;幸平
E4944 **亮平**(りょうへい・山梨やまなし、維亮3男)1767-91早世*25歳*　母;志賀、駿河庵原郡西方村の豪農の家、
稲川の兄、漢学;周防の一麟門、上京し医者;畑黄山(柳安/1721-1804)門、江戸・日光に遊ぶ、
弟の山梨稲川「思旧漫録」に記事入、
[亮平(;名)の字/号]字;公明/行、号;竜山
J4936 **亮平**(りょうへい;名・庵原いはら)?-　？　文化文政1804-30頃江戸の幕臣/御家人、
国学:1817平田篤胤門、1827「農事辨略」、「稼穡篇油草仕立之部」著
亮平(りょうへい・片山)　→　*恬斎*(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌)　Ｄ３０４７
良平(りょうへい・九条)　→　*良平*(よしひら・九条/藤原、太政大臣/歌)Ｇ４７４９
良平(りょうへい・佐沢)　→　*広胖*(こうはん・佐沢さざわ、藩士/儒者)　Ｌ１９００
良平(りょうへい:通称・大川)→　*滄洲*(そうしゅう・赤松、儒者)　Ｂ２５８２
良平(りょうへい・赤松)　→　*大庾*(だいゆ・赤松あかまつ/大川、儒者)　Ｃ２６２５
良平(りょうへい・赤松)　→　*滄洲*(そうしゅう・赤松/大川/舟曳、儒者)Ｂ２５８２
良平(りょうへい・小田)　→　*海僊*(かいせん・小田おだ、絵師)　Ｉ１５８５

良平(りょうへい・柳田)　→　*凌雲*(りょううん・柳田やなぎだ、医者/藩士)　Ｇ４９３８
良平(りょうへい・服部)　→　*広布*(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学)　Ｉ３７３４
良平(りょうへい・華岡)　→　*鹿城*(ろくじょう・華岡はなおか、医者/清洲の弟)５２９４
良平(りょうへい・阿部)　→　*良山*(りょうざん・阿部あべ、篆刻家)　Ｈ４９７４
良平(りょうへい・阿部)　→　*縑州*(けんしゅう・阿部、良山男/篆刻家)　Ｊ１８５２
良平(りょうへい・中島)　→　*積水*(せきすい・中島/中嶋なかじま、藩儒)　Ｋ２４２８
良平(りょうへい・石井)　→　*択所*(たくしょ・石井、藩儒/学制)　Ｏ２６０４
良平(りょうへい・穂積)　→　*良平*(とよひら・穂積ほずみ、国学者)　Ｏ４７９８
良平(りょうへい・安藝)　→　*眉山*(びざん・安藝あき、医者)　Ｃ３７２９
良平(りょうへい・中川)　→　*紫山*(しざん・中川なかがわ、医者)　Ｔ２１６１
良平(りょうへい・牧田)　→　*成越*(なりおき・牧田まきた/徳岡、国学/歌)Ｏ３２７５
良平(りょうへい・田中/千葉)→*正中*(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌)Ｑ４０８９
良平(りょうへい・田中)　→　*照*(しょう・田中たなか、藩士/参政)　Ｖ２２１１
良炳(りょうへい・川越/伊藤)→　*蘆汀*(ろてい・伊藤/川越、藩儒者)　Ｃ５２１７
梁平(りょうへい・大田)　→　*稲香*(とうこう・大田おおた、儒者/砲術)　Ｄ３１９４
量平(りょうへい・塩谷)　→　*簣山*(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣)　Ｊ１６１１
量平(りょうへい・佐伯)　→　*正臣*(まさおみ・佐伯さえき、国学者/歌)　Ｂ４０６０
量平(りょうへい・三木)　→　*広隆*(ひろたか・三木みき、神道家)　Ｇ３７２３
量平(りょうへい・菊池/河原)→　*容斎*(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師)４７９５
量平(りょうへい・佐藤)　→　*松渓*(しょうけい・佐藤/青山、儒者/絵師)Ｉ２２２３
量平(りょうへい・遠藤)　→　*訒斎*(じんさい・遠藤えんどう、儒者/詩文)　Ｏ２２５５
量平(りょうへい・中川)　→　*世量*(せいりょう・中川なかがわ、医者)　Ｊ２４８３
量平(りょうへい・高橋)　→　*武之*(たけゆき・高橋たかはし/紀、医者/歌)　Ｙ２６０４
量平(りょうへい・岩田)　→　*幸通*(ゆきみち・岩田いわた、幕臣/和算家)　Ｆ４６６９
量平(りょうへい・福本)　→　*春雄*(はるお・福本ふくもと/秦、国学者)　Ｋ３６７３

J4937 **良遍**(りょうへん;法諱・信願;字、丹波入道藤原盛実男)1196or1184-125257or69　鎌倉期南都の僧、
幼時;興福寺に出家;法相僧、勝願院の覚遍門;法相を修学、
1230維摩会の講師;法印権大僧都に昇進、唐招提寺の覚盛門;具足戒を受;戒律興隆に尽力、
東大寺戒壇院円照と交流、1243(寛元元)生駒山に竹林寺を再興、
東大寺知足院を復興;戒律の道場とす、浄土教にも精通/竹林寺に没、
付法の弟子;密厳・宗性・賢恩・良忠など、歌人;覚遍催行[光明院歌会]に参加、
1244「観心覚夢鈔」47「応理大乗伝通要録」50「厭欣抄」/51「奥理抄」「念仏往生決心記」、
「眞心要訣」「法相大乗伝通要録」「不思議」「唯識般若義」「唯識観要心集」外著多、
1237刊楢葉集3首入(権少僧都名)、
[光明院月次の歌に寒草、
　をぎはらや枯葉に秋のこゑとめて霜さへそよぐのべのゆふ風](楢葉;雑883)
[良遍(;法諱)の号/通称]号;蓮阿、通称;生駒僧都/蓮阿菩薩

J4938 **亮遍**(りょうへん;法諱・宥円;字)?-1517　真言宗高野山宝性院主、金剛峯寺検校、法印大和尚、
「二教論宗広鈔」「悉曇考覈しったんこうかく抄」編/「大日経開発鈔」「大悲即根事」著、外著多数

J4939 **亮弁**(りょうべん;法諱)　?-　?　安桃期天正1573-92頃下野長沼天台宗宗光寺住僧、
実全門;恵心流血脈を受/僧正、「文義集」編/「文言雑々集」著

J4940 **了弁**(りょうべん;法諱・道眼;字)?-?　江中期比叡山安楽律院の天台僧、
1766「土砂加持秘法」79「法曼流護摩法私記」83「印仏作法」89「両頭愛染秘法」外著多数
良弁(りょうべん)　→　*良弁*(ろうべん、華厳僧第2祖)　Ｃ５２５７
良弁(りょうべん;字)　→　*尊観*(そんかん;法諱、浄土宗名越派僧)　Ｆ２５２７
亮辨(りょうべん)　→　*慧任*(えにん;法諱、真言僧)　１３８２

J4941 **良甫**(りょうほ・兪ゆ)　?-　?　元の混乱を逃れ集団で福建より渡来の明の彫工の1人、
京の嵯峨住/五山版の漢籍・禅籍の木版刊行;特に直接関与の版は[兪良甫版]と称さる;
1370(建徳元)「月江和尚語録」87「新刊五百家註音辯唐柳先生文集」など

J4942 **良保**(りょうほ・片桐かたぎり、名;政恒まさつね)?-?　江前期京の俳人:令徳門/のち貞徳の直門、

1661「辨説集」編/62「良保千句」著、63「破枕集」66「風俗集」67「たはむれ草」76「独歩集」編、
1651良徳「崑山集」入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[弓始め千年ちとせのつるをはる日哉](崑山集/弦つると鶴・張ると春を掛る)、
[良保(;号)の通称/別号]通称;清右衛門、別号;三夢/亡元子

J4943 **了輔**(りょうほ・野村のむら)1755- 1836*82* 江戸の俳人:蓼太門、
1807(文化4)「俳諧発句類聚ほっくるいじゅう」編、
[了輔(;号)の別号] 青顧廬/青顧庵/暁阿/雨静

F4961 **梁甫**(りょうほ;字・尾崎おざき、名;貞幹さだみき)?-? 江後期武州の儒者:久保盅斎門、忍藩に出仕、
1852(嘉永5)「左伝標識」編、「日の枝折」著
忍藩の国学者尾崎貞幹(石城)と同一?
参照 → *貞幹*(さだみき・尾崎おざき、藩士/国学/画)Ｏ２００８
了甫(りょうほ・栗田) → *政均*(まさひら・栗田くりた/松田、国学/歌)Ｐ４０４８
了圃(りょうほ・竹村) → *吉明*(よしあき・竹村たけむら、郷土史家) Ｂ４７９２
良甫(りょうほ/よしすけ?・村井)→ *正純*(まさずみ・村井むらい、儒者/教育) Ｄ４００６
良輔(りょうほ・九条/藤原)→ *良輔*(よしすけ・九条くじょう/藤原、左大臣/詩)Ｄ４７７６
良輔(りょうほ/よしすけ・田辺)→ *損斎*(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者) Ｆ２５３８
亮甫(りょうほ・浅井) → *紫山*(しざん・浅井あさい、藩医者/詩・書) Ｔ２１５９
蓼圃(りょうほ・萩原) → *信芳*(のぶよし・萩原はぎわら、和算家) Ｅ３５０１

J4944 **良宝**(りょうほう;法諱、関白二条良実[1216-70]男)?-? 鎌倉期山科の真言宗勧修寺の住僧、
法印/権大僧都、歌人;続拾遺(714)、
[今もなほ昔のあとをしるべにてまた尋ねいるみ吉野の山](続拾;羈旅714/大峰にて詠)

L4960 **良邦**(りょうほう;法諱) ? - ? 江後期武蔵足立郡片柳村の曹洞宗万年寺の住僧、
1809(文化6)「万年禅寺略詩吟」著

M4949 **霊峰**(りょうほう;法諱、霊泉[三輪正信]男)1821-96*76* 紀伊牟婁郡白浜の僧、国学・歌;熊代繁里門
良方(りょうほう・徳田) → *良方*(よしかた・徳田とくだ、藩士/故実家) Ｃ４７６６
良芳(りょうほう:法諱) → *蘭洲*(らんしゅう:道号・良芳:法諱、臨済僧)Ｃ４８５０
亮方(りょうほう・南みなみ) → *亮方*(すけかた・南みなみ、和算家) Ｇ２３１９
良朴(りょうぼく・三谷) → *宗鎮*(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) Ｉ２５４９
了本(りょうほん;字) → *日珠*(にっしゅ;法諱・本妙院、日蓮僧) Ｄ３３９４
良本(りょうほん・林) → *良本*(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) Ｈ４７７０

J4945 **良品**(りょうぼん・友田ともだ)1666-1730*65* 伊賀上野藤堂藩士;町奉行/普請奉行、禄350石、
俳人;芭蕉門、妻;梢風(智周尼、小川風麦ふうばく女/芭蕉門俳人)、
1691「猿蓑」1句/95浪化「有磯海」/98「続猿蓑」2句入/1722巻耳「北国曲ほっこくぶり」入、
[膳まはり外ほかに物なし赤柏あかがしは](猿蓑;巻二/詞書;霜月朔旦、
朔旦冬至は20年に一度の祥瑞/何はなくとも赤飯で祝う)、
[良品(;号)の通称/別号]通称;角左衛門、別号;投帥子
妻 → *梢風*(松風しょうふう、智周尼、俳人) Ｂ２２３５

J4947 **竜馬**(りょうま・坂本さかもと、直足2男)1835-67暗殺*33* 土佐高知の豪商才谷家の分家で藩の郷士の生、
剣術;日根野弁治・千葉貞吉門/ペリー来航を機に土佐勤王党に参加/1863(文久3)脱藩、
江戸の勝海舟の許に住;1648(慶応元)長崎に海援隊創立;薩長同盟成立に関与、
幕府は長州再征に失敗/独自の国家構想「船中八策」を後藤象二郎に提示;大政奉還に導く、
その直後1867.11月15日京の近江屋で暗殺、幕末の英雄として伝説化、
[竜馬(;通称)の名/変名]名;直陰なおかげ/直柔なおなり、変名;才谷さいだに梅太郎
竜馬(りょうま・土橋亭) → *竜馬*(りゅうま・土橋亭、落語/講釈師) Ｊ４９４６
梁満(りょうまん・鈴木) → *梁満*(梁万呂やなまろ・鈴木、神職/国学)Ｄ４５９２

J4948 **了味**(りょうみ) ? - ? 俳人;1672高政「誹諧絵合」独吟百韻入

J4949 **良命**(りょうみょう;法諱) ? - ? 鎌倉後期叡山阿闍梨/歌;比叡社歌合参加、
[よそにのみながめし雲のおもがはり花にわけぬるかづらきの山](比叡社歌合;五番左)

L4995 **了珉**(りょうみん・古筆こひつ;家名/姓;平沢、名;重政、了雪男)1645-1701*57* 古筆別家一村の孫、
古筆鑑定家;宗家4世了周早世のため古筆宗家5世を継承、別家の了仲と共に幕府出仕;

ともに寺社奉行支配古筆見こひつみに就任、
[了珉(;号)の通称/別号]通称;六蔵。別号;即空庵玉翁、古筆家系図→[了佐]参照
J4950 **良珉**(りょうみん・塩田しおだ、文庵男)?-1825　讃岐高松の蘭医;1814父の跡を継嗣;高松藩出仕、
1817「和蘭外科全書」訳、「和蘭内外全書」訳、「医方握機」著、
[良珉(;通称)の名/法号]名;時敏、法号;良翁自然居士
J4951 **涼民**(りょうみん・新宮しんぐう、柚木直助男)1820-75*56* 備中淺口郡黒崎の農商の家の生、
蘭医:京の新宮涼庭門/涼庭女と結婚;婿養子、
1865(慶応元)京に医学研究会を組織(;蘭医の新宮涼閣・柏原学介・明石博高らと)、
新宮4分家の中心として京都医学会の創設・京都療養病院設立などに尽力、
1857「小児全書」訳、58「コレラ病論」共著(;新宮涼閣と)
[涼民(;字)の名/別字/通称/号]名;慎/義慎、別字;子淳、通称;新太郎/舜民、
号;燕石/雲渓/聴雪/薇山、法号;春月院
J4952 **亮珉**(りょうみん;法諱・石澗せきかん;道号、葛谷勘兵衛長男)1837-74*38* 美濃羽栗郡徳田村の臨済僧;
1844(8歳)美濃江月寺要明門;出家/遠州奥山の方広寺蔵竜院竜水宗貴門;印可を受、
中津自性寺住/儒;広瀬林外門、1872(明治4)妙心寺方猷院司講/盛徳院住、
「石澗亮珉和尚偈頌集」著、石澗亮珉の号;雪耕軒
了民(りょうみん・田中)　→　*世顕*(つぐあき・田中たなか、医者)　Ｆ２９９１
涼岷(りょうみん・池田、藩士/絵師)→*糟句斎余丹坊*(かすくさいよたんぼう、狂歌)Ｆ１５２０
良民(りょうみん・桂/樋口)→　*東里*(とうり・樋口ひぐち、医/儒者)　Ｉ３１０９
良珉(良民りょうみん・井上)→　*杉長*(さんちょう・井上いのうえ、医者/俳人)Ｅ２０５８
良夢(りょうむ・狩野)　→　*間斎*(かんさい・狩野かのう、藩士)　Ｑ１５６０
良名(りょうめい・物部)　→　*吉名*(良名よしな・物部もののべ、歌人)　Ｆ４７１３
良明(りょうめい・松永)　→　*道斎*(どうさい・松永、文筆家)　Ｅ３１３６
良明(りょうめい・吉井)　→　*良明*(よしあき・吉井よしい/萩原、神職)　Ｐ４７９９
良明(りょうめい・山村)　→　*良喬*(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人)Ｍ２６３４
良命(りょうめい;法諱)　→　*良命*(りょうみょう、僧/歌人)　Ｊ４９４９
良茂(りょうも・鈴木)　→　*良茂*(よししげ・鈴木すずき、和算家)　Ｄ４７６９
良聞(りょうもん;法名)　→　*東暉*(とうき;法諱・良聞、浄土僧)　Ｃ３１４６
J4953 **了也**(りょうや;法諱・法名;念蓮社貞誉自然、俗姓;大八木)1629-1708*80* 下総の浄土僧、
小金の東漸寺中浄嘉院の了聞門;出家・修行、江戸芝の増上寺位産より五重を相承、
貴屋より宗戒両脈を相承/古厳より布薩戒を相承、下総大巌寺住持/下総弘経寺住持、
江戸小石川伝通院住持、1692(元禄5)増上寺32世、将軍家綱と桂昌院の帰依を受、
美作誕生寺を復興/1704江戸湯島に隠棲;05桂昌院葬儀に導師、大僧正、「伝書聞書」著
了也(りょうや・今西)　→　*小道*(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌)　Ｆ１９８８
J4954 **良瑜**(りょうゆ;法諱、初;静助せいじょ、摂政関白二条兼基男、良基の叔父)?-1397 天台僧;良慶/道瑜門、
常住院住/権僧正/大僧正、1363園城寺長吏(3度)/熊野三山新熊野検校/90准三后、
歌人:「一万首作者」「新玉津島三十首」入、連歌;菟玖波集5句入、
勅撰6首;新千載(960)新拾遺(547/1427)新続古今(706/1766/2118)、
[おのづから神は知るらんいはた川いはねど深く頼む心を](新千;神祇960)
L4961 **亮輸**(りょうゆ;法諱)　?-　?　南北期常陸下妻の天台宗千妙寺安楽坊の住僧、
1383「曼荼羅供初心用心抄」著
J4955 **良祐**(りょうゆう;法諱、通称;三昧阿闍梨)?-?　平安後期寛治1087-94頃叡山天台僧:
谷阿闍梨皇慶の甥、出家/安慶・長宴門;受法、台密谷流三派の1の三昧流を創始、
比叡山北谷桂林房に住;三昧流を弘通、行玄・忠尋・相実の師、「三昧流口伝集」著、
「仏眼口決三昧阿闍梨」「類聚次第」「安鎮随要記」「護摩末記」「熾盛光堂私記」外著多数
J4956 **良雄**(りょうゆう;法諱・無等むとう;道号、俗姓;藤原)?-1362 出羽の曹洞僧:幼時に出家、
出羽補陀寺の月泉良印門/嗣法、補陀寺住持/陸奥の正法寺住持/出羽の正応寺開山、
「月泉禅師語録」編
L4962 **良猷**(りょうゆう;法諱)　?-　?　江中期真言宗高野山正智院の住僧、「章疏録」編
J4957 **亮雄**(りょうゆう;法諱・恵実;号)1740-1802*63*　天台僧:亮範門、覚千の師、

京妙法院尭恭親王の遺命で師亮範と元慶寺を再興;開山遍昭に倣い遮那・止観両業を復す、
1780「胎蔵界大法私記」81「胎私記」83「止風雨経法」「請雨法」/87「降三世明王法」著、
1798「山家一乗戒儀」、「護摩記資行鈔」「普賢延命法」「金壇再問答」「法華法私記」外著多数
J4958 **良佑**(りょうゆう;通称・吉川よしかわ、名;定)?-?　江後期陸中一関の蘭学者:1795大槻玄沢門、
1811(文化8)「蘭学佩觿はいけい」編
J4959 **良雄**(りょうゆう;法諱・徳母とくも;字、憶念寺良観男)1780-1839*60* 越前南条の真宗大谷派憶念寺の生、
越前永臨寺の深励門;宗学を修学/上京し顕密の諸教を修学、1808東本願寺高倉学寮寮司
1828(文政11)擬講、1814「成唯識論述記講義」28「御文科解」38「最要鈔良雄記」著、
「浄土見聞集聴記」「浄土見聞集講義」「浄土論発起録」「蓮如上人御文科解」外著多数、
[良雄(;法諱)の別字/号]別字;金洲、号;仏行房
J4960 **亮勇**(りょうゆう;法諱・義山;道号・図南斎;号)?-?　江末期尾張曹洞僧/大聖寺2世、「水月菴語録」編
J4961 **了祐**(りょうゆう;法諱、俗姓;野村、正覚寺行輪2男)1810-89*80* 越中真宗本願寺派正覚寺の生、学僧、
1828上京;漢学;田中履堂門、1830美濃願誓寺行照門;真宗学を修学、1844美濃長慶寺住職、
寺内に学寮を創設;後進の指導、1867勧学となる、「観心覚夢鈔記」「二河白道譬文聞書」著、
「讃阿弥陀仏偈和讃講録」/1862「天台四教儀諦観録聞書」著、
[了祐(;法諱)の別法諱/号/諡号]別法諱;博仁、号;遠照、諡号;遠照院
良由(りょうゆう→たかよし・山村)→ *蘇門*(そもん・山村良由たかよし、家老/儒)Ｅ２５４３
良由(りょうゆう・加藤)　→　*善庵*(ぜんあん・加藤かとう、藩士/医者)　Ｌ２４６０
良由(りょうゆう・武藤)　→　*良由*(ながよし・武藤むとう、修験/国学/教育)Ｐ３２０２
良祐(りょうゆう;法名)　→　*重保*(しげやす・庭田/源、大納言/日記)　Ｐ２１３６
良祐(りょうゆう・栗田)　→　*直政*(なおまさ・栗田くりた、藩士/国学/歌)Ｃ３２４６
良祐(りょうゆう/よしすけ・南小柿)→*寧一*(やすかず・南小柿みながき/南、藩医)Ｂ４５１２
良猷(りょうゆう/よしのり・松村)→ *九山*(きゅうざん・松村/松邨、医/儒)　Ｃ１６０２
了雄(りょうゆう;字)　→　*頓成*(とんじょう;法諱、真宗大谷派僧)　Ｓ３１３１
亮雄(りょうゆう・下郷)　→　*亀章*(きしょう・下郷しもさと、医者/俳人)　Ｋ１６９１
亮雄(りょうゆう・塩沢)　→　*亮雄*(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌)Ｉ２３５８
J4962 **良譽**(りょうよ;法諱)　？-　？　鎌倉期僧;大法師/歌人;
1295以前「伊勢新名所絵歌合」参加、
[尋ねゆく道はまよはず咲く花の盛に見ゆる桜木の里](伊勢新名所;七番右14)
J4963 **良譽**(りょうよ;法諱・尭温;字、俗姓;奈良生)1590-1657*68* 下野都賀真言僧:1600高島宝蔵院応誉門、
出家/諸方遊学、智山の元寿門/1623醍醐の尭円門;両部許可及び諸尊印契を受、
1632後水尾上皇の命で元寿が宮中論筵を開く際に講師を勤める、
1632尊性法親王より広沢一流の伝授を受、37宝蔵院に帰院/武蔵愛阜寺・江戸円福寺移住、
京六波羅蜜寺に移住/1652尊慶より秘訣を受/1653(承応2)大和長谷寺6世能化、
「大日経不思議疏四重秘釈」著
了誉(りょうよ;法名・西蓮社)→ *聖冏*(しょうけい;法諱、浄土僧/宗学)　Ｑ２２９６
良誉(りょうよ・仏蓮社)　→　*定恵*(定慧じょうえ;法諱、浄土僧)　Ｈ２２１０
J4964 **涼葉**(りょうよう・上田うえだ、通称;儀太夫)?-?　美濃大垣藩士、1692(元禄5)頃江戸深川に住
俳人:芭蕉門、芭蕉に涼葉亭の作もある、晩年は帰郷?、句は「耳袋」初出、
1694其角「枯尾花」/95如行「後の旅」/98「続猿蓑」2句/1704岱水「木曾の谷」入
[風流のまことを啼くや時鳥]
[星合ほしあひを見置きて語れ朝がらす](続猿蓑;巻下、
人の逢瀬を邪魔する朝烏よ;せめて昨夜の星合の様子を語れ)
良要(りょうよう;法諱・黙室)→　*黙室*(もくしつ;道号・良要、曹洞僧)　４４９３
良容(りょうよう・徳力)　→　*桃渓*(とうけい・徳力とくりき、儒者)　Ｄ３１１０
良容(りょうよう・羽生)　→　*良容*(よしまさ・羽生はにゅう、藩医)　Ｈ４７１０
良容(りょうよう・福島)　→　*秋郷*(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人)　Ｉ１０３６
4925 **綾瀬**(りょうらい・亀田かめだ、鵬斎男)1778-1853*76* 江戸の儒者(家学);父門/文化1804-18頃木材町住、
天保1830-44頃駿河台雁木坂袋町住/嘉永1848-53頃深川佐賀町住、15歳より父代行の講義、
1818下総関宿藩主久世家の儒臣;教倫館学範を作成/さらに羽後新田藩主佐竹義純に招聘、

折衷学を講ず、芳野金陵の師、「学易万録」「綾瀬漁漚」「綾瀬漁漚外集」「綾瀬文集」、
「十二章服攷」「学易漫録」「綾瀬漁漚」「綾瀬文鈔」「綾瀬談」「仏樹斎随筆」外著多数、
「綾瀬先生遺文」(嗣子の鶯谷編)
[綾瀬(;号)の名/字/通称/別号]名;長梓、字;木王、通称;三蔵、別号;学経堂/仏樹斎
良頼(りょうらい・菅原) → *良頼*(よしより・菅原すがわら、大学頭/詩人)Q４７４０
良頼(りょうらい・三木) → *良頼*(よしより・三木みつき/姉小路、武将) Ｉ４７０４
良頼(りょうらい・山村) → *良景*(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官) Ｌ２６６７
遼来山人再児(りょうらいさんじんさいじ)→*月歩*(げっぽ・田中たなか、俳人/文人)Ｈ１８３６
聊楽園(りょうらくえん) → *中立*(なかたつ・岡野おかの、歌人) Ｌ３２４６
良隆(りょうりゅう・跡部) → *良隆*(よしたか・跡部あとべ、幕臣/歌人) Ｄ４７９５
良隆(りょうりゅう・内山) → *良隆*(よしたか・内山うちやま、藩士/医・儒・兵学)Ｅ４７１１
J4965 **良梁**(りょうりょう・岡崎おかざき、名;康邦、直孝男)1722-98*77* 父は播磨姫路藩士、古兵法;渡辺調門、
大久保資茂門;手鑑流を修学/さらに矢田政興門、1754(宝暦4)江戸で亢竜亭を開塾、
兵法を講ず、「兵家古戦伝」「軍器要法」「細津夜話」/1756「漢楚秘訣評林」著、
1772「源平盛衰記評判」94「漢楚軍談評林」著、
[良梁(;号)の通称] 主税ちから/次郎右衛門/主馬しゅめ
良亮(りょうりょう・赤堀) → *良亮*(よしすけ・赤堀あかぼり、藩士/鷹匠/史家)Ｌ４７１３
良亮(りょうりょう・安岡) → *良亮*(よしすけ・安岡やすおか、郷士/国事奔走)Ｄ４７８１
良亮(りょうりょう・櫛原) → *良亮*(よしあき・櫛原くしはら、国学/歌人) Ｍ４７５４
良亮(りょうりょう・浜中) → *良亮*(よしすけ・浜中はまなか/源、名主/国学)Ｏ４７５７
寥々庵(りょうりょうあん、寥々斎)→ *観山*(かんざん、茶人) Ｑ１５７７
漁々翁(りょうりょうおう) → *文山*(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士)Ｆ３８４２
稜々軒(りょうりょうけん) → *牧山*(ぼくざん・三井みつい高就、詩歌人) Ｇ３９４０
亮々舎(りょうりょうしゃ/さやさやのや)→ *幸文*(たかふみ・木下、歌人) ２６１５
寥々亭(りょうりょうてい) → *青牛*(せいぎゅう、寥々亭、俳人) Ｈ２４８８
霊麟(りょうりん/れいりん;字)→ *光遜*(こうそん;法諱・霊麟、真言僧) Ｋ１９４０
良林(りょうりん・山村) → *良景*(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官) Ｌ２６６７
量令(りょうれい・村井) → *量令*(かずのり・村井、幕臣/典籍編集) Ｆ１５２２
良連(りょうれん・卜部) → *良連*(ながつら・卜部、神道家) Ｅ３２５９
J4966 **寥和**(初世りょうわ・大場おおば、名;森茂)1677-1759*83* 江戸の俳人;嵐雪門、宗瑞らと俳諧改革運動、
1731「五色墨」共編、1739師33回忌追善「風のすゑ」編、1734「柿むしろ」(宗瑞と共編)、
1745・49「俳諧職人尽前・後編」、1752「一丁墨」54「富士拾遺」編、「江の島紀行」著、
[城一つ暮れ残したるもみぢかな](竹朗「茶話稿」入)、
[初世寥和(;号)の通称/別号]通称;仁左衛門、
別号;青夢(;初号)/咫尺/只尺しせき、咫尺斎、万里亭、茶酒隣、規矩庵、柳隣、
参照 → *五色墨の五人*(ごしきずみのごにん)
J4967 **寥和**(3世りょうわ・浅井あさい)1761-1803*43* 対馬の俳人・素丸門、江戸住、
「俳諧しがらみ」「寥和追善集」著、
[3世寥和(;号)の通称/別号]通称;半左衛門、
別号;宝雪庵/海鶴庵/咫尺斎しせきさい3世/飛摩窓/風葉/宗瑞4世、
J4968 **寥和**(5世りょうわ・羽鳥、名;方英)1794-1858*65* 江戸の俳人・4世寥和門、自ら蕉門と称す、
「俳道便覧」著/「続百家集」編、1831「晋子一伝録」編、「芭蕉其角二翁正伝」(竹二坊と共編)、
[5世寥和(;号)の字/通称/別号]字;豊山、通称;三次郎、別号;咫尺斎5世、法号;栄林院
良和(りょうわ・小南) → *五郎右衛門*(ごろうえもん・小南こみなみ、藩士)Ｐ１９０５
良和(りょうわ・奥山) → *良和*(よしかず・奥山おくやま、幕臣/国学者)Ｍ４７０８
了龢(りょうわ;字) → *円環*(えんかん;法諱・了龢、真宗大谷派僧)Ｅ１３５４
寥和堂(りょうわどう) → *花城*(かじょう・三橋、俳人;3世寥和門) Ｌ１５９６
J4969 **蓼湾**(りょうわん・久貝くがい、又三郎男)1819-61*43* 幕臣;書院番組の隊士/詩人;乙骨耐軒と並称、
一時昌平黌助教、1852甲府徽典館学頭、
「蓼湾詩抄」著/1852「集社五言詩」編、「昌平茗談」入、

[蓼湾(;号)の名/字/通称/法号]名;岱、字;宗之、通称;金八郎/伝太夫、法号;即心院
J4970 **侶岸**(りょがん)　？－　？　越中魚津の俳人:1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[吹きあらす園そのの柳の秋の風](月の夜;49)
J4971 **侶業**(りょぎょう・水鯉亭すいりてい)?－　？　江後期上州伊勢崎の狂歌作者:五側判者、
1810「狂歌合」著、
[水鯉亭侶業(;号)の別号]　植木園
緑庵(初世りょくあん・川柳)→　*太橘*(たいきつ・竹田たけだ、俳人)　Ｊ２６６０
緑猗(りょくい・畑)　→　*柳泰*(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩)　Ｆ４９１１
緑陰(りょくいん・近藤)　→　*芳樹*(よしき・近藤/田中、国学者/歌)　４７０９
緑蔭(りょくいん・内山)　→　*知澄*(ともずみ・内山うちやま、国学/歌人)　Ｕ３１３５
緑園(2世りょくえん)　→　*文秀*(ぶんしゅう・竹田、川柳)　Ｆ３８７０
緑漪斎(りょくいさい)　→　*灞山*(はざん・田阪たさか/竹中、儒者)　Ｅ３６３１
緑一斎(りょくいっさい)　→　*貞信*(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師)　Ｆ２０４３
J4972 **緑陰**(りょくいん・山本やまもと、名;信謹、北山男)1777-1837*61*　江戸下谷の儒者(家学);父門、詩人、
1793「臭蘭稿甲集」著/1803「宋絶句箋解」編、学半・素堂の父、
[緑陰(;号)の字/通称/別号]字;公行、通称;亮助、別号;緑翁/汎居/茶仏老人、
法号;諦全院
緑陰(りょくいん・常盤)　→　*謙斎*(けんさい・常盤ときわ、儒者)　Ｉ１８９６
緑陰(りょくいん・長島)　→　*宜青*(よしはる・長島ながしま、歌人)　Ｏ４７２４
緑蔭(りょくいん・巨勢)　→　*建冬*(たけふゆ・巨勢こせ、国学者)　Ｅ２６５０
緑蔭(りょくいん・町原)　→　*熙麿*(ひろまろ・町原まちはら/甲斐、藩士/儒)Ｌ３７０２
緑筠(りょくいん・中村)　→　*柳坡*(りゅうは・中村/麻場、医者/儒者)　Ｆ４９４２
緑蔭舎(りょくいんしゃ)　→　*経一*(つねかず・宮川みやがわ/山部、神職/国学)Ｇ２９５１
柳陰堂(りょくいんどう)　→　*了壽*(りょうじゅ・柳陰堂、歌人)　Ｈ４９８２
緑雨(りょくう・山岡)　→　*次隆*(つぎたか・山岡、藩士/詩人)　２９５２
緑塢(りょくう・尾見)　→　*緑塢*(りょくお・尾見、儒者)　Ｊ４９７４
緑芋村荘(りょくうそんそう)　→　*石秋*(せきしゅう・劉りゅう/合谷ごうや、儒者)　Ｄ２４５２
緑雲庵(りょくうんあん)　→　*経平*(つねひら・土肥/平、藩士/故実家)　Ｄ２９５１
緑雲軒(りょくうんけん)　→　*阪桑*(阪叟はんそう・清水しみず、俳人)　Ｉ３６３１
緑園(りょくえん)　→　*元徳*(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人)　Ｄ４４８６
J4973 **緑園守清**(りょくえんもりきよ・姓;高橋たかはし/通称;豊八)?-1835(*50余歳没*)　上州高崎田町の狂歌作者;
六帖園社中、のち高崎水魚連判者、「狂歌七福集」編
J4974 **緑塢**(りょくお・尾見おみ/初姓;飯原)1806-66*61*　丹後宮津藩士の家の生/尾見家の養嗣子、
儒:藩校礼譲館に修学/句読師、1830江戸の山口菅山門、1851宮津藩校礼譲館学頭、
闇斎学を主唱、詩人、「靖献遺言略解」著、
[緑塢(;号)の名/通称]名;忠鵠、通称;亀之助
緑翁(りょくおう・山本)　→　*緑陰*(りょくいん・山本やまもと、儒者/詩人)　Ｊ４９７２
緑个(りょくが・三宅)　→　*鴨渓*(おうけい・三宅みやけ、絵師/歌人)　Ｅ１４１８
緑華(花)亭(りょくかてい)　→　*六花亭富雪*(りっかていとみゆき、絵師)　Ｂ４９６４
緑亀庵(りょくきあん)　→　*有国*(ありくに・浦井、商人/俳人)　Ｂ１０６７
緑亀園(りょくきえん)　→　*正明*(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌)　Ｂ４００７
緑猗堂(りょくきどう)　→　*自蹊*(じけい・河野、真宗僧/俳人)　Ｂ２１８８
緑郷(りょくきょう・下田)　→　*桂屋*(けいおく・下田しもだ、藩士/詩文)　Ｆ１８３３
緑玉(りょくぎょく・江馬)　→　*細香*(さいこう・江馬えま、絵師/詩人)　２０７５
緑兮(りょくけい・千坂)　→　*畿*(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者)　Ｆ４１９２
J4975 **緑系子**(りょくけいし)　？－　？　江戸俳人:芭蕉門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入
1685風瀑「一楼賦」入、
[野は秋に牛の眠れる姿さへ](一楼賦)
緑谷(りょくこく・千坂)　→　*畿*(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者)　Ｆ４１９２
J4976 **緑山**(りょくざん・氏家うじえ)1797-1847*51*　陸前仙台藩お茶坊主の家、儒:江戸の佐藤一斎門、

昌平黌に修学/舎長、兵法;清水赤城門、帰藩後;仙台藩の儒員/藩校養賢堂指南役、
「緑山分抄」「緑山堂文稿」著、
[緑山(;号)の名/字/通称]名;参、字;瑛、通称;雲喜/省吾
緑山(りょくざん・吉見) → *幸和*(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) ４７０６
緑山(りょくざん・青方) → *運善*(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) ４６２８
緑山(りょくざん) → *政辰*(まさとき・浅井、俳人) Ｅ４０３７
緑日園(りょくじつえん) → *稚篁*(ちこう・若竹、俳人) Ｅ２８１５
J4977 **緑樹園**(りょくじゅえん・小林こばやし元有もとあり)?-1861 常陸稲敷郡江戸崎の豪商、
狂歌:六樹園石川雅望(1753-1830)門、五側の判者、狂詩・古書画・挿花・茶を嗜む、
桜を愛し**桜所**と名付け桜王連社中とす;門人多数、
1827「狂歌続万代集」34「あなうのはな」35「狂歌鯉鱗集」編、
1836「狂歌十符の菅薦とふのすがごも」「狂歌和漢名数抄」/38「桜間狂歌集」55「狂歌杉木蔭」編、
[緑樹園(;号)の字/通称/別号]字;隣卿/悳斎とくさい、通称;平七郎、
別号;桜所/商元有あきないのもとあり/元有もとあり/幹有/杜惚山人/商山人/立言亭、
屋号;釜屋、法号;仁道宗義信士
☆国学者の小林元有(1760－1795/桜所・緑樹園)とは別人;同族/父か?
緑樹園(りょくじゅえん・小林)→ *元有*(もとあり・小林こばやし/林、国学者) Ｊ４４９５
緑樹軒松順(りょくじゅけんしょうじゅん)→ *豪寛*(ごうかん;法諱、天台僧/狂句)Ｅ１９９３
緑珠尼(りょくしゅに) → *喜勢子*(きせこ・稲村いなむら/稲次、歌人) Ｌ１６１０
J4978 **緑水**(りょくすい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[白壁に目を休めけり山桜](蓮実;185)
緑静堂(りょくせいどう) → *心斎*(しんさい・杉原すぎはら、幕府儒官) Ｏ２２５４
緑雪書屋(りょくせつしょおく)→ *端隠*(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻)Ｔ２６１５
J4979 **緑泉**(りょくせん・中村なかむら/修姓;中、名;惟禎)1747-1805*59* 尾張名古屋九十軒町の酒造業、
詩人、神谷天遊・内田宣経・小林香雪らと蓬瀛勝会を開く、磯谷滄洲とも交流、
「松筠詩稿」「緑泉園吟稿」、1801「歳旦詩集」02「緑泉園壬戌詩集」、「麗沢唱和」著
[緑泉(;号)の字/通称/屋号/法名]字;祥卿、通称;清左衛門、屋号;佐野屋、法名;祐証
緑川(りょくせん・中山) → *黙斎*(もくさい・中山/藤原、儒者/教育) ４４８４
緑窓(りょくそう・高橋) → *正直*(まさなお・高橋、医者/歌)) Ｆ４０７８
緑桑園(りょくそうえん・中村)→ *里旭*(りきょく・中村なかむら、俳人) ４９６２
緑地(りょくち・菅原) → *洞斎*(とうさい・菅原、絵師/鑑定家) Ｅ３１２２
緑竹庵(りょくちくあん) → *遠明*(とおあき・下野しもの、藩士/攘夷論) Ｉ３１５７
緑竹園(りょくちきえん) → *正輔*(まさすけ・大堀おおぼり/源、藩士/歌) Ｏ４０４５
緑竹園(りょくちきえん) → *正忠*(まさただ・堀内ほりうち、名主/和漢学)Ｓ４０４５
緑竹園主人(りょくちくえんしゅじん)→ *元丈*(げんじょう・野呂、医/狂歌) Ｃ１８２６
緑竹軒(りょくちくけん) → *栄秀*(えいしゅう・田村、書肆/浮世草子作)Ｃ１３００
緑竹斎(りょくちくさい) → *延年*(えんねん・山口墨山・余、篆刻/俳) Ｃ１３１９
緑竹舎(りょくちくしゃ) → *篤山*(とくざん・近藤、儒者) Ｋ３１７７
緑苔窩(りょくたいか) → *竹田*(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師)Ｄ２８５４
緑亭(りょくてい) → *川柳*(初世せんりゅう、名主/前句付点者)２４３９
緑亭(りょくてい) → *川柳*(5世せんりゅう、雑俳点者/草双紙) ２４４３
緑亭可山(りょくていかざん・小林)→ *可山*(かざん・緑亭、戯作) Ｆ１５０７
緑天(りょくてん・西山) → *拙斎*(せっさい・西山/坂本、医儒/詩歌) Ｅ２４３０
緑堂(りょくどう・介川) → *通景*(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文) Ｂ４１３１
緑堂(りょくどう・鈴木) → *重嶺*(しげね・鈴木/穂積/小幡、幕臣/歌)Ｃ２１６５
騄之尉(りょくのじょう・毛利)→ *元徳*(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人) Ｄ４４８６
緑之助(りょくのすけ/ろくのすけ・中沢)→ *凡化*(ほんげ・中沢なかざわ、俳人) Ｆ３９２８
緑峯(りょくほう・門田) → *樸斎*(朴斎ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者)Ｄ３９１６
緑舫(りょくほう・宇田川) → *榕庵*(ようあん・宇田川、医者・蘭学者) ４７５７
緑麿(りょくま・竹川) → *竹斎*(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家)Ｄ２８０６

J4980 **緑毛館亀雄**(りょくもうかんきゆう・姓:武沢/通称;金助)?-? 江後期大坂追手錦町三丁目の狂歌作者:
蜻蛉館姫丸社中、1848(嘉永元)「出雲廼波津夢」編

J4981 **緑野**(りょくや・川口かわぐち)1773-1835*63* 代々常陸水戸の医者;家業継嗣、儒;大内熊耳門、
経史に通ず/1793立原翠軒の推薦で水戸藩に出仕/彰考館入;藩主徳川治保の侍講を兼任、
1808彰考館総裁代役/1815(文化12)総裁に就任;侍講兼任、書院番/1834小納戸、
1798「侍読退録」1802「紀元通覧」06「三朝宝訓」10「水城行役日記」11「緑野園随筆」、
1828「史館事記」「台湾鄭氏紀事」30「吟風弄月」、「琉球伝」「緑野園聞見録」「緑野文鈔」、
「芸苑小説」「緑野園随筆」「食貨志稿」「新撰清朝名家小伝」「征韓偉略」「海防微言」外著多数、
[緑野(;号)の名/字/通称/別号]名;長孺、字;嬰卿、通称;三省/助九郎/九郎、別号;緑野園

J4982 **緑野**(りょくや・萩原はぎわら、大麓2男)1796-1854*59* 江戸の儒者(家学)、楽亭の弟/1823(28歳)分家、
江戸日本橋葺屋町住;講説業、詩文に長ず/門弟多数;牧野忠恭・安藤信正・松平直諒など、
「会心歯事」「唐詩鈔」「読易課鈔」「鹿鳴吟社集」「静軒筆記」、1853「石桂堂詩集」外著多数、
[緑野(;号)の名/字/通称/別号]名;承/公寵、字;公寵、通称;鳳二郎、
別号;静軒/敬斎/一枝庵/石桂堂、法号;緑野院

緑野(りょくや・柴) → *秋村*(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒) Ｉ２１０５
緑野園(りょくやえん) → *緑野*(りょくや・川口かわぐち、医/藩儒) Ｊ４９８１
緑蘿洞(りょくらどう) → *公美*(きんえ・竜りゅう・たつ草廬、儒・国学) Ｅ１６８７

M4923 **りよ子**(りよこ・野原のはら、)1711-1756*46* 江戸の歌人;賀茂真淵門

M4910 **里世子**(りよこ・鎌田かまた、)? - ?明治1868-1912頃没 讃岐高松の歌人;尾崎宍夫1825-1911門
慮得斎(りょとくさい・岡田)→ *華陽*(かよう・岡田おかだ、医者/詩) Ｐ１５６０
侶之允(りょのすけ→とものすけ・松平)→*定能*(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) Ｊ２０７０
旅泊坊(りょはくぼう・近藤)→ *曲浦*(きょくほ・近藤、俳人) Ｐ１６３３
旅泊老衲(りょはくろうのう) → *万宗*(まんしゅう;道号・中淵/中囡、臨済僧)Ｋ４０６４
侶姫(りょひめ・溝口) → *観如夫人*(かんにょふじん・溝口みぞぐち/松平、歌)Ｖ１５８５

J4983 **慮呂**(廬呂りょろ・今成いまなり)1756-1825*70* 越後魚沼郡六日市町の酒造業兼質商、
読書を好み江戸で俳諧;樗良門、能書家、妻;鈴木牧之の姉、
1793「山里集」編、94「おくの信折」著/1817「雪の手向」編/18「雪の峠」著、
[慮呂(;号)の名/通称/別号]名;武章/武啓、通称;善蔵/喜左衛門、別号;桃盟/無事庵

J4984 **李里**(りり) ? - ? 俳人;1698沾圃「続猿蓑」1句入
[蒟蒻の名物問はん山桜](続猿蓑;巻下/詞書;田家でんか/ここでの蒟蒻料理は何かね)

J4985 **狸々**(りり;号) ? - ? 江前期伊勢松坂の俳人;1702轍士「花見車」入、
[あっさりとすましの汁や年忘れ](花見車)

J4986 **梨里**(りり・西川にしかわ) ? - ? 肥前長崎の商家/俳人・野坡門、
1719(享保4)「寒菊随筆」編、「渡雁」著、
[梨里(;号)の通称/別号]通称;四郎兵衛、別号;櫟夫

利里(りり・土井) → *利里*(としさと・土井どい、藩主/法典編纂)Ｍ３１５０

J4987 **李竜**(りりゅう) ? - ? 岩代須賀川の俳人:調和門、1689等躬「荵摺しのぶずり」入

J4988 **里竜**(りりゅう) ? - ? 俳人:1692遠舟「八重一重」独吟入

J4989 **李流**(りりゅう・三宅みやけ、嘯山[1718-1801]の2男)?-? 江後期京の俳人、1798「寛政十年歳旦帖」編、
1801嘯山「葎亭画讃集」編/02「かれ蘆」編、12「漢和二躰葎亭画讃集附録」編、
1818「俳諧悟りの道」評、
[李流(;号)の別号] 友干亭ゆうかんてい/滄浪居

里竜(りりゅう) → *十内*(じゅうない・小野寺、義士/歌人) Ｉ２１１８
利竜(りりゅう・五味) → *貞之*(さだゆき・五味ごみ、藩士/故実家) Ｋ２０１１
李竜(りりゅう・百瀬) → *吉員*(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) Ｐ４７６１
梨隆庵(りりゅうあん) → *美英*(よしひで・西田にしだ、郷土史家/俳) Ｇ４７３８

J4990 **李亮**(りりょう・渡辺わたなべ) ? - ? 江中期越後岩船郡関谷下関の素封家三左衛門5世、
博学・能文・詩で知られる、美濃派俳諧を嗜む:1751頃桂車堂を起し門弟多数、
1764(宝暦14)「松の友」編、李卿(りきょう・松下堂/桂車堂2世/藩士)の父、
[李亮(;号)の通称/別号]通称;三左衛門、別号;松下堂/桂車堂(初世)

利亮(りりょう・酒井)　→　*利亮*(としすけ・酒井さかい、医者/歌人)　Ｖ３１３４
利亮(りりょう・引田)　→　*利亮*(としすけ・引田ひきた、藩士/神職/歌)Ｗ３１１７
鯉陵(りりょう・堀家)　→　*徳政*(のりまさ・堀家ほりけ、神職/歌人)　Ｊ３５３８

J4991 **李琳**(りりん・田中たなか、固有庵)1724-74*51*　京の俳人;宋専門、772几董「其雪影」1句入、
[ともし火の命の長き涼すずみかな](其雪影;319/はかない灯火も意外と長いと気付く)
李林(りりん;俳号)　→　*春章*(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師)　Ｊ２１９４
利隣(りりん/としちか・津田/高林)→　*利直*(としなお・高林、幕臣)　Ｎ３１１１
利廉(りれん・服部/駒沢)→　*利廉*(としかど・駒沢/服部、藩士/兵農学)Ｍ３１２８
利鎌の舎(りれんのや)　→　*万*(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)　４７４２
里路(りろ・加藤)　→　*里路*(さとみち・加藤かとう、藩士/神職/歌)Ｏ２０２４

J4992 **李朗**(りろう・原沢はらさわ、善兵衛男)1797-1865*69* 越後魚沼郡十日町の俳人、
漢学;桑原濤斎・黒田玄鶴門、俳人;吉川知可良門、各地行脚;俳諧を修学;墨跡を蒐集、
帰郷;天保安政1830-60頃庄屋役、晩年は寺子屋で子弟教育、「文音録」「還翠舎発句集」著、
[李朗(;号)の幼名/通称/別号]幼名;富次郎、通称;六右衛門、別号;還翠舎

L4991 **利龢**(利和りわ・としかず?・細川ほそかわ/本姓;源、利庸男)?-? 江後期;肥後熊本新田藩の漢学者、
新田藩の7代藩主細川利国・8代藩主細川利愛の弟、歌人、能書家、義以の父、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いつまでも心にこめて忍ぶ草露のなさけを頼むものから](大江戸倭歌;恋1566)、
[老が身になれぬ鎧もとり着つつすすむ心は人におくれじ](同;雑1936、
初めて亜米利加の船浦賀湊に来りしころ[1853]世のなか騒がしければ)
利和(りわ・松平/巨勢)　→　*利和*(としより・巨勢、幕臣/歌人)　Ｏ３１２２
利和(りわ・土井)　→　*利厚*(としあつ・土井どい、藩主/建議書)　Ｍ３１０３
利和(りわ・前田)　→　*利和*(としかず・前田まえだ、加賀騒動連座)Ｔ３１７６
利和(りわ・吉田)　→　*利和*(としかず・吉田よしだ、歌人)　Ｍ３１１４
利和(りわ・前田)　→　*利和*(としよし・前田まえだ、藩主/歌人)　Ｔ３１７５
利和(りわ・赤松)　→　*利和*(としかず・赤松あかまつ、里正/尊王)　Ｔ３１９５

J4993 **林**(りん/林女りんじょ・にんにょ)？-　？　江前期摂津三島郡水無瀬の農家の生/女流歌人/俳人、
水無瀬郷の知行羽林家の水無瀬家?に出仕、
のち河内志貴郡土師の里の真言宗尼寺道明寺の尼僧、
1657季吟と両吟:64「誹諧両吟集」上巻入、84西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
[袖ぞ汗うき世と流す水無川みなせかは](女哥仙;19)

M4978 **りん**(;姓不詳)　？-　？　江前中期;歌人、
戸田茂睡女(紫のひともと入)[or僧乗順の妹(茂睡編[不求橋梨本隠家勧進百首]入)説]、
歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首・刈谷本一人一首393・和歌継塵集424入集、
[暮れはてば何を形見の草の原今より秋のおもがはりして](若むらさき;83/暮秋)、
[花紅葉見しはきのふの春秋も昔にふりぬ庭の初雪](同;92雪/旧りに降るを掛る)

M4918 **林**(りん・座光寺ざこうじ、一色定武女)1758-1841*84*　信濃伊那郡の山吹領主座光寺為壽ためひさの妻、
歌人;澄月門、
[林(;名)の初名/号]初名;リン、号;長松
りん(・遠坂/長野)　→　*りん女*(林女/倫女りんじょ・藤の井、俳人)Ｋ４９４４
林(りん;一字名)　→　*光恕*(こうじょ;法諱、僧/俳人)　Ｐ１９８４
倫(りん・小橋)　→　*竜山*(りゅうざん・木内、儒者)　Ｅ４９２５
倫(りん・加藤)　→　*空山*(くうざん・加藤かとう、儒者/隠士)　Ｃ１７２１
倫(りん・大塚)　→　*松処*(しょうしょ・大塚おおつか、藩儒/剣術)　Ｔ２２１２
倫(りん・小橋/木内)　→　*竜山*(りゅうざん・木内/小橋、儒者/尊王)Ｅ４９２５
淪(りん・丸岡;変名)　→　*宗右衛門*(そうえもん・長谷川/松崎、藩士/勤王)Ｇ２５３０
綸(りん・赤松/河野)　→　*魯斎*(ろさい・河野こうの/赤松、藩儒者/兵学)Ｂ５２５３
隣(りん/となり・大江)　→　*大江丸*(おおえまる・大伴/安井、俳人)　１４０３
隣(りん・岡田)　→　*眞澄*(ますみ・岡田、幕府儒員/国学/歌)　Ｄ４００２

隣(りん・加藤)　→　*桜老*(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派)　Ｃ１４７３
隣(りん・笠原)　→　*百春*(ももはる・笠原かさはら、医者/歌人)　Ｊ４４６４
隣(りん・倉八)　→　*隣*(となる・倉八くらはち/梶原、神職/歌人)Ｖ３１０８
隣(りん・松岡)　→　*隣*(ちかし・松岡まつおか、陪臣/蘭学者)　Ｎ２８５２
鱗(りん・細木)　→　*香以*(こうい・細木ほそき/さいき、摂津国屋、俳)１９７０
鱗(りん・安部井)　→　*澹園*(たんえん・安部井あべい、藩士/儒者)　Ｔ２６１８
鱗(りん・長沢)　→　*蘆洲*(ろしゅう・長沢ながさわ、円山派絵師)　Ｂ５２６８
鱗(りん・中川)　→　*淳庵*(じゅんあん・中川、医者/蘭学者)　Ｊ２１１９
璘(りん・安岡/宇田川)　→　*玄真*(げんしん・宇田川うだがわ、医/蘭学者)Ｃ１８３８
麟(りん・沢田)　→　*東江*(とうこう・沢田/平/源、書家/詩)　３１１０
麟(りん・田/田中)　→　*止邱*(止丘しきゅう・田中/田、儒者)　Ｂ２１５８
麟(りん・武雄)　→　*逍遥*(しょうよう・武雄たけお、儒者)　Ｂ２２８６
麟(りん・昌谷)　→　*千里*(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者)　Ｇ２４８０

J4994 **琳阿**(林阿りんあ;法諱/法師、琳阿彌/玉林/玉琳たまりん)?-?　浄土僧、室町幕府同朋衆、連歌:救済門、
将軍足利義満の周辺にあり幕府有力者と東寺の仲介役をする、
1375-76金蓮字浄阿の浄阿主催の歌会に参加、曲舞「東国・西国下」作詞/能の詞章作の技術、
菟玖波集2句入、
［しぐれし雲はみねの白雲しらくも］(菟;冬523/前句;日にそへて寒さかさなる山風に)

J4995 **臨阿**(りんあ;法諱)　?-　?　室町期和泉堺の時宗僧、連歌:肖柏門、
1482(文明14)「大山祇神社万句」参加/1482可トと「千句」催
輪阿(りんあ;号)　→　*慧恭*(えきょう;法諱・可円、浄土僧)　Ｄ１３６９
琳阿彌(りんあみ)　→　*琳阿*(りんあ、連歌/曲舞作詩)　Ｊ４９９４

J4996 **琳庵**(りんあん・荘田しょうだ、谷時中男?)1639-74刑死*36歳*　武蔵の儒者:谷一斎門/談論に長ず、
講義に感銘した丹波亀山藩主松平忠晴により招聘;亀山藩儒に登用/150石、侍講、
1670忠晴没後;権臣の専横の擯斥を図る;逆に讒により投獄;死刑、「獄吏問答」著、
［琳庵(;号)の名/字/通称］名;静、字;子黙、通称;万右衛門

J4997 **琳庵**(りんあん・浅井あさい)1652-1711*60歳*　近江の儒者:植田玄節門/のち山崎闇斎門、
丹波園部藩に出仕;儒臣、1678「小学入耳記」編/1689「干土草」1700・03「大学論孟開耳説」著
「於喜奈艸」「武要抄」「小学聞書」「孟子聞書」「神代聞書」「梯雲観記」「名義詳説」「詩集」著、
［琳庵(;号)の名/通称］名;重遠しげとお、通称;万右衛門
林庵(りんあん)　→　*顕成*(あきなり・山井/阿知子あちし、医/連歌/俳人)Ｃ１０２３
林庵(りんあん・藤井/吉田/吉)→　*篁墩*(こうとん・吉田/藤井、医/儒者)１９１８
林庵(りんあん・苗村)　→　*丈伯*(常伯じょうはく・苗村なむら、仮名草子)Ｂ２２２３
林昱(りんいく・木村)　→　*林昱*(しげてる・木村きむら、藩士/和算家)　Ｒ２１６１
林逸(りんいつ・林)　→　*宗二*(そうじ・林りん・饅頭屋、商家/和漢学)２５０９

J4998 **倫員**(りんいん・藤村ふじむら、別号;何方子)?-?　京の俳人:梅盛門、1663「木玉集こだましゅう」編、
1663梅盛「早梅集」入/68梅盛「細少石」56句入、72元隣「諸国独吟集」75高政「誹諧絵合」入

J4999 **林陰**(りんいん)　?-　?　俳人;1691北枝「卯辰集」3句入、
［山吹やまぶきに干しつゞけたる手染め哉］(卯辰;149/庭の山吹の側で干し続ける/布も黄色)

K4900 **林右衛門**(りんえもん・佐瀬させ、長峯清左衛門3男)1651-1727*77*　南会津南山御蔵入の勧農家、
佐瀬与次右衛門の長女と結婚;養嗣、養父と共に農業改良研究に尽力;
農作物の新栽培法を広める、1713「幕内農業記」、「佐瀬家記録」著、
［林右衛門(;通称)の名/別通称］名;盛之、別通称;吉之丞
林右衛門(りんえもん・北原)→　*稲雄*(いなお・北原きたはら、国学者)　Ｉ１１０４
林右衛門(りんえもん・福田)→　*峨山*(がざん・福田、藩士/国学)　Ｌ１５７２
林右衛門(りんえもん・内藤)→　*丈草*(じょうそう・内藤なとう、藩士/俳人)　２２２５
林右衛門(りんえもん・綿屋)→　*李曠*(りこう・服部はっとり、商家/俳人)　Ｂ４９０１
林右衛門(りんえもん・志村)→　*履徳*(のりよし・志村しむら、国学/歌人)　Ｉ３５６８

K4901 **倫円**(りんえん;法諱・香積房;号、源行宗男)1116-1204*89*　母;源基綱女、天台宗園城寺の僧、
1183法眼/1200(正治2)権僧正・園城寺別当、法印、雅重の弟、歌人:万代集入、

千載集(1115)、
[登るべき道にぞまどふ位山くらゐやまこれより奥のしるべなければ](千載;雑1115、
位山は飛騨の歌枕;位階の比喩/もう僧位昇進の指標のない高位僧としての逡巡)、
[倫円(;法諱)の俗名] 公豪
麟園(りんえん・七尾) → *宣陽*(のぶあき・七尾ななお、紀行文) ３５７５
臨淵軒(りんえんけん) → *磐斎*(ばんさい・加藤、和学/歌学) ３６４１
臨淵社(りんえんしゃ) → *景樹*(かげき・香川、歌人) １５１２
K4902 **霖翁**(りんおう;道号・禅霈ぜんはい;法諱、俗姓;野瀬のせ)1683-1741*59* 美濃本巣郡神海の臨済僧、
幼時;尾張総見寺太竜門/1693(11歳)剃髪;諸国歴遊、1721美濃正眼寺住、
師の太竜没後;総見寺住持、1730(享保15)京の妙心寺住;31織田信長150年遠忌主催、
能書家、「霖翁和尚語録」「円覚経略疏弁釈」著、
[霖翁禅霈の別法諱] 禅倡/傅倹
M4950 **輪応**(りんおう;法諱・畠山)1728-1819*82* 筑前遠賀郡中間村の真宗本願寺派光林寺住職、歌人
稟翁(りんおう・倉島) → *玄隆*(げんりゅう・倉島くらしま、医者/国学) Ｎ１８７０
輪王寺宮(りんおうじのみや→りんのうじのみや)→*守澄親王*(しゅちょうしんのう、天台座主)Ｚ２１０３
林屋(りんおく) → *海屋*(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) １５９１
林屋(りんおく) → *清春*(きよはる・菱川、絵師) Ｑ１６１７
K4903 **倫加**(りんか) ？－ ？ 俳人/1672可常「誹諧法農華のりのはな」入
K4904 **林可**(りんか・智蓼園;号) ？－ 1785(早世?) 伊勢の俳人:二日坊宗雨門、
1778(安永7)「笠と杖」82「雪の台」著、追善集「ゆきのつゑ」(;1786蘿道編)
倫海(りんかい) → *快倫*(かいりん;法諱、天台僧) Ｊ１５１３
輪海(りんかい・田中) → *保祐*(保佑やすすけ・田中たなか、歌人) Ｂ４５７４
K4905 **林外**(りんがい・広瀬ひろせ、旭荘男)1836-74*39* 豊後日田儒者/詩人;伯父広瀬淡窓の咸宜園入門、
1856(安政3)淡窓没;広瀬青邨に代り咸宜園を運営、史学に通ず、維新後;修史館勤務、
詩;1857梅外「梅外詩鈔」入/「宜園百家詩」入、「謁晃録」「塘報録」「西史一斑録」著、
「林外随筆」「林外雑著」「林外読書録」「林外日記」「六橋随筆」「西游紀行」「南筑紀行」外著多、
[林外(;号)の名/字/通称]名;孝、字;維孝、通称;孝之助
K4906 **臨海法師**(りんかいほうし) ？－ ？ 狂歌作者:1782黒人「初笑不琢みがかぬ玉」入、万載集入、
L4900 **林角**(りんかく) ？－ ？ 広島蕉門系俳人;1666支考「西華集」入、
1705支考「三日歌仙」・06凉兎「潮とろみ」入
L4924 **鱗角**(りんかく) ？－ ？ 江前期上州吉井の俳人;1694不角「うたたね」入、
[朽ちるから沖の石とも詠めぬ袖](うたたね/前句;割りてみせたや我が胸の内)、
(本歌;わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らねかわく間もなし[百人一首;讃岐])
林覚(りんかく;法号) → *明卿*(あきのり・新井あらい、儒者) Ｄ１０７４
林学(りんがく・金井) → *烏洲*(うしゅう・金井かない、農家/儒/絵師)Ｂ１２７５
林岳(りんがく;号) → *憲海*(けんかい;法諱・大願;字、真言僧) Ｉ１８０８
林下乞士(りんかこっし) → *蓮体*(れんたい・惟宝いほう、真言僧/説話集)Ｂ５１２６
林葛(りんかつ・白沢) → *英長*(ひでなが・白沢しろさわ、幕臣/歌人) Ｉ３７２４
林花堂(りんかどう) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
K4907 **霖寰**(りんかん・安原やすはら、浅右衛門仲武2男)1698-1780*83* 近江高島郡南市村の生/伯父伯照の養子、
儒者;中江藤樹の藤樹書院修学/1718京の伊藤東涯門、1746(天保17)信濃上田藩に招聘;
馬廻;1749上田住;藩主松平忠愛・忠順の侍講、1761領内の惣百姓一揆に郡奉行として収拾、
1780側役を辞任;隠居、上田藩学の基礎を築く、「藤田先生遺文」編/「客館漫筆」著、
「先侯累世実録」「松平忠山君伝」「梁園高会集」「奥窓随筆」「霖寰詩文集」著、安原方斎の兄、
[霖寰(;号)の名/字/通称/別号]名;貞平、字;伯亭、通称;太郎、別号;省所
倫観坊(りんかんぼう) → *澄胤*(ちょういん;法諱・古市、法相僧/武将)Ｌ２８１１
林観房(りんかんぼう;号) → *聖詮*(しょうせん;法諱、華厳僧) Ｋ２２３６
林吉(りんきち・赤松) → *則義*(のりよし・赤松あかまつ、歌人) Ｈ３５０９
林久(りんきゅう・吉川) → *林久*(しげひさ・吉川よしかわ/藤原、神職/国学)ａ２１０７
隣居(りんきょ・二邨) → *公忠*(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家)Ｃ１６８５

K4908 林喬(りんきょう;法諱)　？－　？　僧;法師、連歌:菟玖波集1句(発句)入、
[秋風にちらで音ある木の葉かな](菟;発句2128)
L4963 臨空(りんくう;法諱)　？－　?(1460・2月10日以前に没)　天台僧、臨盛の師、
1432(永享4)「自受用所居廬談問要」著
臨空(りんくう;法名)　→　*孝親*(たかちか・中山、廷臣/連歌)　Ｍ２６２３
林九郎(りんくろう・三輪)　→　*秀富*(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人)　Ｄ３７３６
倫訓(りんくん・下平)　→　*倫訓*(とものり・下平しもひら、神職/国学)　Ｖ３１４０
K4909 林卿(りんけい・溝口みぞぐち)　？－　?1820頃*50余歳没*　江戸の大工棟梁:規矩術に長ず、
1757(宝暦7)「木匠言語」/58「紙上蜃気」88「方円順度」、「尺算新書」著、
[林卿(;名)の字/通称]字;之繇、通称;内匠たくみ
臨卿(りんけい・堀田)　→　*正敦*(まさあつ・堀田/紀/伊達、藩主/歌)Ｂ４０１５
隣卿(りんけい・小林)　→　*元有*(もとあり・小林こばやし/林、国学者)　Ｊ４４９５
隣卿(りんけい・小林)　→　*緑樹園*(りょくじゅえん・小林、商家/狂歌)　Ｊ４９７７
鄰卿(りんけい・青木)　→　*絙剛*(かんたん・青木あおき、医者)　Ｒ１５３２
麟卿(りんけい・立野)　→　*桂山*(けいざん・立野たての、儒者)　Ｅ１８７２
麟渓(りんけい・工藤)　→　*工十*(こうじゅう・工藤くどう、俳人/連歌)　Ｊ１９５５
K4910 琳冏(りんげい;法諱、俗姓;繁森)?-1834　伊賀河合村の浄土僧:河合村西福寺で剃髪、
江戸芝増上寺学寮に修学/のち学頭職、1814下総弘経寺入/1820幕命で駿河宝台院転住;没、
1820「小金東漸寺諦誉周益上人記」著
隣鶏下(りんけいか)　→　*此柱*(しちゅう・長野ちょうの、俳人)　Ｕ２１３４
鱗形屋三左衛門(りんけいや/うろこがたやさんざえもん)→　*三左衛門*(さんざえもん・山野、書肆)Ｆ２０８２
鱗形屋杖人(りんけいや/うろこがたやじょうじん)→　*杖人*(じょうじん・東武、書肆/雑俳)Ｏ２１０６
鱗形屋孫兵衛(りんけいや/うろこがたやまごべえ)→　*孫兵衛*(まごべえ・鱗形屋、書肆)４０８３
K4912 林月(りんげつ)　？－　？　江前期俳人;1699荷兮「青葛葉あおくずのは」入
K4913 輪月(りんでつ)　？－　？　江中期江戸の雑俳点者、1714「俳諧媒口なこうどぐち」入
隣月楼(りんげつろう)　→　*眞澄*(ますみ・岡田、幕府儒員/国学/歌)　Ｄ４００２
K4915 琳賢(りんけん;法諱、通称;伊勢君、伊勢守橘義済男)1070?-?　1138存　天台宗比叡山横川の僧/歌人、
大原に房あり、造園・飾り車に秀でた風流人(;今鏡打聞)、同時期の高野山の琳賢とは別人、
1109顕季歌合/10山家五番歌合/1116基俊判雲居寺結縁経後宴歌会/34顕輔歌合などに参加、
基俊と不仲でからかった逸話あり(;無名抄)、
勅撰3首:金葉716/詞花306/千載130、続詞花集946;心也法師と連歌、
[あくといふ事を知らばや紅くれなゐの涙に染むる袖やかへると](金葉;補遺歌716;恋の心、
飽くと灰汁あくを掛る/かへるは色抜きして元に戻る)
K4914 琳賢(りんけん;法諱・円如;字、俗姓;平)1074-1150*77*　紀伊神崎の僧;東大寺順海門;華厳を修学、
のち高野山入;慶俊門;真言を修学、良禅門;両部灌頂を受/弥勒院に住、顕密を兼学、
小聖と称される、1139(保延5)高野山検校;堂塔の復興・経典の繕写を実施、「愛染法」著
同時期の天台僧琳賢とは別人
K4916 琳賢(りんけん/りんげん;号・有勝;法諱)?-?　戦国期天文1532-55頃の春日絵所仏絵師、法眼、
興福寺大乗院門跡の吐田座に属す、1536(天文5)「東大寺大仏殿縁起」画、
[琳賢(;号)の通称]琳賢坊有勝、誤称;芝琳賢(;江戸期以後)
M4956 林軒(りんけん;号、)　？－　？　江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、
[聞きなれぬ音羽の山の小夜時雨袖にも冬をしらせそめけん](麓の塵;冬303/初冬時雨)
K4917 林犬(りんけん・鹿島かしま、延俊弟)1649-?　摂津伊丹の酒造業/俳人;
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、1683「三人蛸」参加(;宗旦・鬼貫と)、
[白浪の海盗みけり汐干の今日](難波色紙;86/白浪;盗賊/今日大潮の引き潮)
倫兼(りんけん・高野)　→　*倫兼*(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌)　Ｐ３１３５
林軒(りんけん・片岡)　→　*春及*(しゅんきゅう・片岡、農業/文筆/歌)　Ｚ２１６１
L4973 林元(りんげん)　？－　？　大阪の俳人;
1673西鶴「生玉万句」;第七月千句発句入、
[急ぎいそぐ都にはやく月の暮](生玉万句月発句;着くと月を掛る、

謡曲「融」;急ぎ候程に是は早都に着きて候)
磐城の水野林元と同一か?
K4918 林元(りんげん・水野みずの) ? - ? 磐城の俳人;1677「百五十番誹諧発句合」左方参
K4919 林言(りんげん) ? - ? 江戸の談林俳人;
1676松意「幕づくし」三吟百韻入(;松意・雅計らと)
琳賢坊有勝(りんけんぼうゆうしょう)→ *琳賢*(りんけん;号・有勝、仏絵師) Ｋ４９１６
臨古(りんこ・吉村) → *遍宜*(扁耆へんぎ・吉村よしむら、医者) Ｂ２７１６
K4920 琳弘(りんこう・教禅房きょうせんぼう)?- ? 鎌倉期僧/朗詠;聖玄門、
1292(正応5)聖玄しょうげんより藤家流朗詠口伝を受ける;譜本「朗詠要集」(:70首収拾)
K4921 琳公(りんこう・栖安軒) ? - ? 江前期説話伝承者;「奇異雑談きいぞうだん集」入
L4964 稟公(りんこう;法諱) ? - ? 1695存 江前期天台僧;武蔵川越の高松院住、
1696刊「摩訶止観円頓抵掌」著
K4922 林鴻(りんこう・堀江ほりえ、名;重則)?-? 江前期近江大津の生/京の車屋町通竹屋町上ル住、
俳人:似船門、前句付点者としても活躍、1681-93(元禄4-6)頃貞門の随流を論戦、
浮世草子作者、1691「誹諧京羽二重」著、93「あらむつかし」編(;随流「貞徳永代記」に反駁)、
1694「口こたえ」編、1702如水「俳諧口三味線」/轍士「花見車」入、浮世草子「好色産毛」著、
[つらつら世の中の恋の闇 まよへば闇くらし 了さとれば裸でも暮しよき](1692頃;好色産毛)、
[するすると花の花うむ杜若かきつばた](花見車;24/京羽二重入/重なり合う花)、
[林鴻(;号)の別号] 烟月堂/雲風子/風雲子
K4923 林紅(りんこう・土屋つちや、住職の順正2男)1680-1752*73* 越中井波誓立寺の生、
誓立寺住職秀的の弟、
俳人;浪化の侍者/芭蕉に対面、浪化集団に属し師に随従、
「浪化日記」1699一門の百韻入、1695浪化「有磯海・となみ山」五吟歌仙入、
[林紅(;号)の通称/別号]通称;是三、別号;今宵庵
K4924 林篁(りんこう・待問斎、鳥取の浄宗寺義観男)1724-87*64* 因幡鳥取の真宗本願寺派僧;
のち江坂田郡鳥居本村(彦根)専宗寺8世住職、
俳人:冶天門;師より許六・冶天旧蔵の俳書を相伝、詩歌人、「砂川」編、歌;[鳰のうみ]入、
去来・許六「青根が峯」の模写、了超(専宗寺継嗣)・了鮮の父
[林篁(;号)の法諱/字/別号]法諱;了廓/**了観**りょうかん、字;洞泉、
別号;待問斎/青松子/桃五坊
K4925 臨皐(りんこう・伊藤いとう、東所6男)1796-1851*56* 儒(家学)を修学、1818伊藤海嶠の嗣;蘭嵎家4代目、
「臨皐詩文稿」「臨皐書簡集」「臨皐先生書集」著、
[臨皐(;号)の名/字/別号]名;弘剛、字;泰蔵/大蔵、別号;実斎/三橋、諡号;文端先生
臨皐(りんこう・山崎) → *長質*(ながかた・山崎やまざき、藩士/系譜) Ｄ３２４３
倫綱(りんこう・朽木) → *倫綱*(ともつな・朽木くつき、藩主) Ｐ３１８３
倫興(りんこう・秦) → *倫興*(ともおき・秦はた/河島、郷土史家) Ｐ３１２６
琳珖(りんこう;字/琳珖院)→ *日整*(にっせい;法諱・琳珖;字、日蓮僧) Ｅ３３６２
鱗甲(りんこう神谷) → *玄武坊*(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人)Ｃ１８９９
麟孝(しょういん;通称) → *宥仁*(ゆうにん;法諱、真言僧/国学) Ｈ４６４９
隣江庵(りんこうあん) → *魚坊*(ぎょぼう・中島、歌人/俳人) Ｑ１６３０
臨高庵元竹(りんこうあんげんちく;書号)→ *桐葉*(とうよう・林、俳人) Ｈ３１７２
輪光院(りんこういん;法号)→ *暾子*(とんこ・池田/伊達、藩主室/歌人)Ｍ３１３７
臨江斎(りんこうさい) → *紹巴*(じょうは・里村/松井、連歌師) ２２０１
臨江斎(りんこうさい) → *玄仲*(げんちゅう・里村、紹巴男/連歌師) １８２５
臨江斎(りんこうさい) → *静庵*(せいあん・川上かわかみ、国学者) Ｈ２４２２
臨江亭(りんこうてい) → *桃源*(とうげん・渡辺、商家/俳人) Ｄ３１４５
琳光房(りんこうぼう;字) → *眞辨*(しんべん;法諱・琳光房、真言僧) ２２２９
K4926 臨谷(りんこく・跡部あとべ)1774- 1830*57* 常陸水戸藩士:1822仕官、
稲作研究;河内の衣笠文治の説を受ける、「学稼新書」著、
[臨谷(;号)の名/通称]名;正続、通称;新八

K4927 林谷(りんこく・細川ほそかわ/初姓;広瀬)1782-1842*61*　讃岐寒川郡石田村の篆刻家;阿部良山門、
諸国遊歴後に京住/のち江戸住、詩・書・画も嗜む、1827「林谷山人帰去来印譜」著、
「詩鈔印譜」「林谷詩鈔」著(共に没後1848刊)、林斎の父、
[林谷(;号)の名/字/通称/別号]名;潔、字;瘦仙/氷壺、通称;春平/俊平しゅんぺい、
別号;林谷山人/林道人/忍冬庵/三生翁/白髪小児/天然画仙/不可刻斎/有竹、
法号;法雲院
林居士(りんこじ)　→　*諸鳥*(もろとり・林はやし/塩瀬、商家/歌人)Ｈ４４５５
K4928 林斎(りんさい・篠井秀次しのいひでつぐ4世)?-1624/44?　京の塗師:四条住/代々茶器の製作、
小堀遠州の塗師;出仕、連歌作者;1600(慶長5)了味と「何木百韻」
K4929 粼斎(りんさい・幡鎌はたかま)1776-1823*48*　江後期常陸水戸の儒者;江戸浅草に移住、
片山兼山に私淑、講説教授業、のち松下葵岡門、「荀子楊註刪補」「崇古道人文集」著、
[粼斎(;号)の名/字/通称/別号]名;穎、字;子達、通称;三吾、別号;崇古道人
K4930 臨犀(りんさい・生野いくの、名;克長)1808-95*88*　信濃筑摩郡生坂村の儒者:安積艮斎門、
安政1854-60頃海防策を幕府に献上;採用されず帰郷、維新後加賀藩に招聘;
能登に櫛比学校を開設、廃藩後に帰郷;信濃で教員、「会友録」「白得堂文鈔」著、
[臨犀(;号)の字/別号]字;子慶、別号;痴雲/自得堂
K4931 林斎(りんさい・岡嶋/岡島おかじま)?-1865　江後期幕臣;八代洲河岸定火消屋敷の与力;
同屋敷の歌川広重と同僚、絵師:狩野素川門/のち一家を成す、富士山の画に妙を得る、
1850太田子徳の招きで瀬田村占勝亭に集う;江口忠房「瀬田之記」の画を担当;
その時の歌[登戸宿雁]入、1852(嘉永5)太田子徳(佑良)編「江西三十八勝詩歌」画、
[林斎(;号)の名/字/通称/別号]名;素岡、字;独慎、通称;武左衛門、別号;半仙、
法号;林斎院
K4932 林斎(りんさい・細川ほそかわ、林谷男)1815-73*59*　江戸浅草の篆刻家;父の業を継嗣、
1855(安政2)「西游印譜」著、
[林斎(;号)の名/字/通称/法号]名;訊、字;言卿/言甫/子玄、通称;俊平、法号;澄心院
臨西(りんさい;号)　→　*政友*(まさとも・住友すみとも、商家/涅槃僧)Ｅ４０６６
麟斎(りんさい・一色)　→　*重熙*(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者)Ｓ２１４８
林左衛門(りんざえもん・高田)→　*清将*(きよまさ・高田たかだ、藩士/歌人)　Ｑ１６３３
林左衛門(りんざえもん・綿屋)→　*李曠*(りこう・服部はっとり、商家/俳人)　Ｂ４９０１
林左衛門(りんざえもん・大塚)→　*清風*(きよかぜ・大塚おおつか、藩士/歌人)Ｔ１６７７
K4933 琳策(りんさく・長井ながい)1789-　1863*75*　阿波徳島藩医/本草家:1848(安政5)産物志御用、
禄;百50石、1858嫡男琳章に家督譲渡、小原峒山と交流、
1816より小原峒山が始めた「阿波産志」編纂に参加(息子琳章らが明治に完成)、
[琳策(;通称)の名/別通称/号]名;武吉、初通称;才右衛門、号;楽道
麟三郎(りんざぶろう・寺村)→　*成範*(しげのり・寺村、藩士/国学)　Ｓ２１１９
K4935 霊山(りんざん;道号・道隠どういん;法諱)1255-1325*71*　宋の杭州の臨済僧:仰山の雪岩祖欽門;法嗣、
1318(文保2)渡来、北条高時の招聘で1319鎌倉建長寺18世/1324円覚寺12世、
建長寺に正受庵を結庵;同所に没、「業識団」「霊山和尚語録」「霊山和尚法語」著
霊山道隠の諡号;仏慧禅師
K4934 淋山(りんざん;号・鹿苑舎、宥勝;法諱)?-?　江後期武蔵の僧;蒲生光明寺住、
俳人:巣兆門、1813(文化10)羽前最上の宝蔵院に転住、
1813巣兆撰「うきおり集」編刊、1826(文政9)「星の林」編
隣山(りんざん・川合)　→　*長行*(ながゆき・川合かわい、郷土史家)　Ｇ３２２７
隣山居(りんざんきょ)　→　*李徑*(りけい・隣山居、俳人)　４９９０
K4936 倫子(りんし/ともこ・源みなもと、左大臣源雅信女)964-1053長寿*90*　母;藤原朝忠女の穆子ぼくし、
平安中期歌人、藤原道長の室;987結婚/頼通・彰子・能信・教通などの母、1008従一位、
1016道長と共に准三宮、1021出家、歌;1048「鷹司殿倫子百和香歌合」主催、万代・秋風集入、
女房に赤染衛門、勅撰3首;新勅撰(1206)続後撰(427)玉葉(2419)、
[まだ知らぬ衣の色をたちかへて君がためにと見るぞ悲しき](新勅撰;1206/反歌)、
(贈歌道長;けさかふるなつの衣は年を経てたちしくらゐのいろぞことなる、

出家してのち四月一日法服袈裟を見て詠む歌)
[倫子(;名)の通称/法名]通称;鷹司殿、法名;清浄法
K4937 **綸子**(りんし・西園寺全子、公経女、母藤原能保女)?-1251　従一位准后、九条道家の室、38出家、
「明恵上人歌集詞書」に入、教実・良実・実経・頼経・円実・慈源・法助の母、
K4938 **麟子**(りんし・柳糸堂;号) ? -　?　江前期伊賀上野の俳人:貞門?、
1704「俳諧よりくり」編;付合心得/前句付の修行が俳諧の付合に入る前段階と主唱
K4939 **麟趾**(りんし・佐藤さとう/旧姓;松本)1763-1834*72* 陸前仙台藩儒佐藤家の養子、儒;京の山田静斎門、
寛政1789-1801頃罹病;鈴木成章を養嗣子とし隠居、北山隠士と号す、
「易冒解」「三易通考」「周易口義」著、
[麟趾(;号)の名/字/通称/別号]名;成知、字;子円、通称;兵助、別号;北山隠士
鱗之(りんし・八木)　→　*雕*(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌)　Ｉ１０５７
麟趾(りんし・川平)　→　*朝範*(ちょうはん・川平かびら/向、琉球三司官)Ｍ２８３２
倫之(りんし/ともゆき・宮川/大浦)→　*節翁*(せつおう・大浦/宮川、藩老)　Ｋ２４７２
K4940 **鱗舎**(りんしゃ)　? -　?　雑俳/川柳作者、万句合、
1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
K4942 **麟洲**(りんしゅう・石川いしかわ、名;正恒、介軒男)1707-59*53* 京の儒者:柳川(向井)滄洲・堀南湖門、
1739豊前小倉藩に出仕;藩儒、思永館の学頭、荻生徂徠「弁道」を朱子学の立場から批判;
1755(宝暦5)「弁道解蔽」を著し徂徠批判の先駆となる、「麟洲文集」「童子問辨妄」著、
「石増二先生文鈔」「遊学紀行」「日野阿新伝」著、
先祖は丹波保津の人/曾祖父草春は京の町医/草春兄の宗鑑は小倉藩医、
[麟洲(;号)の字/通称]字;伯卿/伯毅、通称;平兵衛
林雀(りんじゃく・滝)　→　*方山*(ほうざん・滝たき、俳人:貞門のち談林系)Ｂ３９００
麟寿院(りんじゅいん)　→　*以保子*(いほこ・西野にしの/吉松、歌人)　Ｋ１１５３
麟洲(りんしゅう・島津)　→　*斉彬*(なりあきら・島津しまづ、藩主)　Ｈ３２０５
倫秋(りんしゅう・豊原)　→　*倫秋*(ともあき・豊原/豊/岡、楽人;笙)　Ｐ３１０７
倫重(りんじゅう・三善)　→　*倫重*(ともじげ・三善/矢野、幕臣/評定衆)Ｐ３１５４
倫重(りんじゅう、俳人)　→　*倫重*(ともじげ、江戸期俳人)　Ｐ３１５８
隣首座(りんしゅざ)　→　*宗啓*(宗慶そうけい;法諱・南坊;号、臨済僧/茶道)Ｂ２５１７
隣春(りんしゅん・福島)　→　*隣春*(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師)　Ｂ２８６６
K4943 **麟嶼**(りんしょ・山田やまだ/本姓;菅原/修姓:菅、山田宗円男)1712-35早世*24歳* 代々江戸幕府の医官、
江戸昌平橋の邸に生/儒:荻生徂徠門、1724幕臣;将軍吉宗により医官から儒官に;禄2百石、
1725(享保10)上京;伊藤東涯門、「尚古堂文集」著/「麟嶼遺稿」、
[麟嶼(;号)の名/字/通称/別号]名;正朝(;初名)/弘嗣、字;大佐だいすけ、
通称;宗見/大佐/大助、別号;尚古堂
K4944 **りん女**(林女/倫女りんじょ、医者遠坂とおさか柳仙の女)1674-1757*84*　筑前秋月の生、
豊後日田郡渡里村庄屋の長野直玄(野紅)の妻、俳人:夫の野虹と野坡門、
1701晩柳「放鳥集」入/1702師の野坡が逗留、夫野紅と双白堂を経営、1740夫の野虹没、
旅に出て蕉門名家を訪ねる、1716「歌仙貝発句」共著(新;りん女筆/古;野虹筆)、「若艸」著、
「諸国風人衆会巻」著、遺稿;「紫藤の井発句集」、
[りん女(;号)の名/別号]名;りん、別号;倫婦/藤の井、法号;釈尼貞翔
参照　→　*野虹*(やこう・長野、庄屋/俳人)　４５５６
林女(りんじょ)　→　*林*(りん/林女りんじょ・にんにょ、摂津俳人)　Ｊ４９９３
K4945 **臨招**(りんしょう;法諱)　? -　?　戦国期浄土宗不断光院の僧/連歌作者:
1487-92頃に公武の連歌会に参加;1488宗祇「北野花の下開百韻」参加など、
新撰菟玖波入集3句入
K4946 **林松**(りんしょう・鵜辺)　? -　?　丹波与謝郡の俳人;
1690言水「新撰都曲みやこぶり」2句入、
[紫羅いちはつの屋禰やねや都にうつされず](都曲;346、茅屋の棟に一八を植え風を防ぐ、
塩竈の景を都に移した源融もさすがに一八の屋根は移せなかったろう)
K4947 **鄰松**(りんしょう・鈴木すずき/本姓;藤原、幕臣船橋茂伴2男)1732-1803*72* 江戸生/幕臣鈴木正友の養子、

1762養家の家督継嗣/1767小十人、1774(安永3)辞職/78致仕、絵師:狩野典信門、
英一蝶に私淑、活発な作画活動;巷間の評判、狩野探幽・英一蝶の粉本により画譜類を出版、
沢田東江と交流、1758「英筆百画」69-71「当世穴さがし」/70「一蝶画譜」「狂画苑」画、
1772「絵本七笑顔」76「烟花清談」78「群蝶画英」82「狂歌四画二賛」画、
没後;息子鄰江が遺志を継ぎ「聚珍画譜」を上梓、
[鄰松(;号)の名/通称/別号]名;茂銀、通称;源太左衛門、
別号;素絢斎そけんさい/芝山館主人/致仕後号;珉山

K4948 **琳章**(りんしょう・長井ながい、琳策男)1818-1900*83* 阿波徳島藩医;父門/本草学;1848谷山懸門で修学、
父に代わり産物志御用/1858(安政5)父の名代仕官勤務;家督継嗣、
1859藩主蜂須賀斉裕父子の侍医、維新後;藩庁に出仕;産物方・塩方御用/本草学教授歴任、
1816(文化13)-明治「阿淡産志」(小原峒山より始まる編纂に父と参画/完成)、
[琳章(;通称)の名/別通称]名;長済、初通称;琳泉、長義の父

K4949 **麟祥**(りんしょう・箕作みつくり、省吾の長男)1846-97*52* 母;箕作阮甫3女しん、美作津山藩江戸藩邸の生、
儒;藤森天山・安積艮斎門/家で蘭学・英学を受、1861蕃書調所英学教授手伝並出役に登用、
のち幕府開成所教授見習・外国奉行支配翻訳御用頭取を歴任、
1867(慶応3)徳川昭武に随行し渡仏;68帰国、開成所御用掛/大坂舎密局出勤歴任、
兵庫県御用掛/1869東京の翻訳御用掛・大学中博士、のちフランス法中心に司法界で活躍、
法典整備に尽力、1862「鹿児島事件」訳/62達之助「英和対訳袖珍辞書」編纂助力、
[麟祥(;号)の幼名/名]幼名;貞太郎、名;貞一郎

林常(りんじょう;字) → *快道*(かいどう;法諱・林常、真言僧) Ｉ１５９８
輪丈(倫丈りんじょう;法諱)→ *春登*(しゅんとう;法諱、時宗僧/国学者) ２１６３
臨松院(りんしょういん) → *安治*(やすはる・脇坂わきさか、武将/藩主/歌)Ｈ４５０４
隣鐘居(りんしょうきょ) → *倫里*(りんり・足立あだち、俳人/父追善集)Ｋ４９８３
隣松軒(りんしょうけん) → *兼寿*(けんじゅ・猪苗代、連歌師) Ｃ１８０２
隣松軒(りんしょうけん) → *吉村*(よしむら・伊達だて、藩主/詩歌文) Ｈ４７６１
隣松軒(りんしょうけん) → *頼長*(よりなが・桑折こおり/くわおり、藩士/国学/歌)Ｍ４７６６
隣松主人(りんしょうしゅじん)→ *大猪*(おおい・和田わだ、神職/国学者) Ｅ１４２６
隣松亭(りんしょうてい) → *金忠*(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) Ｏ１５６０
臨松亭(りんしょうてい) → *百川*(ひゃくせん・臨松亭、俳人) Ｅ３７６５
臨照堂(りんしょうどう) → *輝星*(暉星きせい・松井まつい、易占家) Ｂ１６３６

K4950 **隣松鉢**(りんしょうはつ) ？－ ？ 江中期絵師;1776葦原守中しゅちゅう「烟花清談」画
森二郎(りんじろう・鈴木) → *抱山*(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者) Ｂ３９１７
林次郎(りんじろう・樋口/関)→ *武雄*(たけお・関せき/樋口、神職/国学) Ｘ２６７６
麟次郎(りんじろう・松岡) → *隣*(ちかし・松岡まつおか、陪臣/蘭学者) Ｎ２８５２

K4951 **隣信**(りんしん) ？－ ？ 奈良期法隆寺僧;
747(天平19)「法隆寺・大安寺・元興寺伽藍縁起并流記資財帳」共著:霊尊・玄鏡らと
林信(りんしん・藍庭) → *玉粒*(ぎょくりゅう・晋米斎しんべいさい、戯作/狂歌)Ｄ１６１２
輪心子(りんしんし) → *一洞*(いちどう・杏きょう/村田、医者/書家)Ｇ１１３２

K4952 **隣水**(りんすい:号) ？－ ？ 享保1716-36頃の雑俳点者:
蘭台関係点帖に点者として入、1719「源氏百韻」/25「雲丹」「冬牡丹半百韻」著/「歌仙」編、
1726「源氏貝」「芳野」「首尾吟」「東籬」「七十二候井伊」著/28「山郭公」30「百韻伊豆」編

K4953 **林水**(りんすい・都賀つが) ？－ ？ 江中期摂津都賀の俳人/雑俳;灘連、
1747雑俳撰集「兎の目」(一葉編)の須磨寺外10寺社奉納の願主灘連中の1(:五仙・竹比と)
林水(りんすい・佐野) → *友行*(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人) Ｖ３１３１

M4951 **臨随**(りんずい;法諱、通称;興誉)?-1791 安藝広島の浄土僧、筑前遠賀郡若松村善念寺住職、歌人
林瑞(りんずい:道号) → *戒輗*(かいげい;法諱・石車:道号、黄檗僧)Ｉ１５５７
麟瑞(りんずい) → *陳阿*(ちんあ・麟瑞、浄土僧/国学) Ｋ２８５５
臨翠軒(りんすいけん) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
林助(りんすけ・筆耕/川名)→ *孟綽*(たけひろ・川名かわな、儒者/詩人) Ｏ２６７０
林助(りんすけ・阿保) → *邦彪*(くにたけ・阿保あほ/中川、国学者) Ｄ１７９３

K4954 林清(りんせい/りんぜい・日暮ひぐらし)?- ?　　寛文元禄1661-1704頃京の歌念仏の名手、
林清節の創始者;京の四条河原で興行した鉦かねを用いた歌念仏、のち義太夫節などに採用
林盛(りんせい・全巌)　→　*全巌*(ぜんがん;道号・林盛、曹洞僧)　Ｍ２４０１
倫成(りんせい・西河)　→　*倫成*(やすなり・西河にしかわ、絵師)　Ｃ４５４９
輪成院(りんせいいん)　→　*日教*(にちきょう;法諱、輪朝、日蓮僧)　Ｂ３３３１
K4955 林石(りんせき・甲良こうら)1690-1752*63*　京の俳人:知石門、1747撰集「磯の波」編/序(;野田藤八板)、
1750「富士乃雪」「松のはやし」「梅のはやし」編/1751「誹諧小春駒」編、
[林石(;号)の別号] 伏亀堂/愚候/都斎/寸松堂3世
粼石(りんせき・谷こく/神谷)→　*南澗*(なんかん・神谷かみや、儒者)　Ｉ３２８０
K4956 輪雪(林雪りんせつ・杉山すぎやま、名;為章)1670-1711*42* 美作久世の商家/俳人:弟旦流も俳人、
豊後日田の朱拙を迎えて1709「星会ほしあい集」編纂、
[輪雪(;号)の通称/別号]通称;太郎右衛門/市右衛門、初号;林雪、屋号;塚谷屋、
法号;妙法林華院祐雪/秋華院祐雪
K4957 臨川(りんせん・松下まつした) ? -　?　　大阪の俳人;1692才麿「椎の葉」5句入
[身にしみむは桜咲く日の念仏ねぶつかな](椎の葉;99/無常を誘う)
K4958 臨川(りんせん・寺田てらだ/本姓;源/修姓;田・寺、医者寺田林庵男)1678-1744*67* 安藝広島の儒者、
漢学・兵学:味木立軒門、儒学林鳳岡門/1704(宝永元)広島藩に登用;侍講、
藩講学所教授督学/1711味木立軒と共に大阪で朝鮮通信使と唱酬筆語す/1743致仕、
文学/詩文に長ず、「韓館酬和集」「藝藩諸士系譜」「白雉祥瑞考」「覆載(味木立軒)遺稿」著、
1731「藝備古城志」36「二孝伝」39「厳島神社重造華表記」41「臨川全集」著、高年の養父、
[臨川(;号)の名/字/通称/別号]名;革/高通、字;立革/士豹、通称;半蔵、別号;鳳翼
K4959 臨川(りんせん・井手いで、名;好古よしひさ)1733-1813*81*　備中淺口郡勇崎の医者/儒;京の那波魯堂門、
帰郷;医業、歌;橘道守門、詩歌を嗜む/西山拙斎・菅茶山・頼春水と交流、
「文苑襍記ざつき」著
K4960 臨川(りんせん;号・谷たに) ? -　?　　江後期駿府の絵師、1862刊「安鶴在世記」画
臨川(りんせん・山県)　→　*行載*(ゆきのり・山県やまがた、藩士/国学者)Ｈ４６４２
林泉(りんせん・杉本)　→　*左近*(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職)Ｈ２０４０
林泉(りんせん・林屋)　→　*正蔵*(しょうぞう・林屋はやしや、噺家/合巻作者)２２６４
林泉(りんせん・高見)　→　*祖厚*(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書)Ｌ２５０４
琳泉(りんせん・長井)　→　*琳章*(りんしょう・長井ながい、藩医/本草家)Ｋ４９４８
琳泉(りんせん・中里)　→　*千族*(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人)　Ｎ２８１５
隣善(りんぜん・香川)　→　*宣阿*(せんあ・香川かがわ/平、藩士/歌人)　２４２２
臨川閣(りんせんかく)　→　*永言*(ながこと・生駒こま、藩士/歌人)　Ｌ３２０７
臨川居(りんせんきょ)　→　*蝶羅*(ちょうら・下郷しもさと、醸酒業/俳人)Ｋ２８０７
森川漁夫(りんせんぎょふ)　→　*樗軒*(ちょけん・中尾なかお、商家/鑑定)　Ｋ２８３６
臨川亭(りんせんてい)　→　*暮牛*(ぼぎゅう・菅、俳人)　Ｃ３９８３
臨川亭(りんせんてい)　→　*巨山*(きょざん・足立、俳人)　Ｐ１６５６
臨泉堂(臨川堂りんせんどう)→　*治郎兵衛*(じろべえ・文台屋、書肆)　Ｑ２２５２
林泉坊(りんせんぼう)　→　*公意*(こうい;法諱、天台僧/連歌)　Ｈ１９２９
林泉坊(りんせんぼう)　→　*公豪*(こうごう;法諱、天台僧/歌人)　Ｂ１９０３
林泉房法印(りんせんぼうほういん)→　*明禅*(みょうぜん;法諱、天台僧/浄土教)Ｇ４１５２
K4961 林宗(りんそう・柿岡かきおか、時房4男)1743-1815*73*　羽後秋田藩士の家/儒(経学)を修学、
家塾成章館で子弟教育、藩校明導館創設の際に教官に招聘されるが固辞、1793剃髪、
武芸に長ず;柳生心陰流の達人、「成章館全集」「中庸合読」「論語合読」「柳生流演義纂註」、
「心陰柳生流丸橋演義口訣纂註」著、
[林宗(;通称)の名/字/別通称/号]名;時行/時績/時縝、字;士元、別通称;林蔵、
号;濬川しゅんせん、法号;智徳院
K4962 林宗(りんそう・青地あおち/あおぢ、藩侍医青地快庵男)1775-1833*59* 伊予松山の医者;父門/漢方、
のち蘭方を志す/天文学;馬場佐十郎門、1822幕府天文台訳局訳官;多くの洋書を翻訳、
杉田立卿・宇田川榛斎らと翻訳/1832水戸藩に招聘;医員となる;西学都講を兼任、

究理学を中心に翻訳多数、1825「気海観瀾」著/28「医学集成」訳、「和蘭産家全書」訳、
「訶倫産科書」「昆斯猊觚凡例」訳/「金備輿地誌」「製剤篇」「泰西医家書目」著、外訳・著多数、
[林宗(;字)の名/別字/号]名;盈、別の字;子遠、号;芳滸ほうこ、法号:芳滸院

K4963 **林曹**(りんそう・麻野あさの、初姓;笠原)1791-1851*61* 河内林村の儒者、麻野家を継嗣、
儒;平田竹軒・篠崎小竹門、詩文に長ず、「三省録」著、
[林宗(;号)の名/字/通称]名;正修、字;子業、通称;猪三太

K4964 **林曹**(りんそう・比良城ひらき)? - ? 淡路の俳人:梅室門、大坂道修町住;花の本8世、
伊丹の糠人の師、1833「三戸瀬不離」著/34「頭巾勧進」43「白菊集」編、「折々草」編、
「糠人林曹両吟」著、
[林曹(:号)の別号] 拾芥/柊庵

倫宗(りんそう・飯沼/間宮)→ *林蔵*(りんぞう・間宮まみや、探検家/測量) K４９６５
林壮(りんそう・林) → *良斎*(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学)H４９６６

K4965 **林蔵**(りんぞう・間宮まみや、名;倫宗、庄兵衛の長男)1775-1844*70* 常陸筑波郡上平柳村の農家の生、
貧窮のため隣村の名家飯沼家の養子;1790(寛政2)頃江戸に出て地理学:村上島之丞門、
のち箱根で測量術;伊能忠敬門、幕命を受け蝦夷島・樺太を巡見・測量;樺太海峡を確認、
外国船渡来に備え東北海岸・伊豆諸島を調査、1828シーボルト事件後幕府の隠密;長崎住、
密貿易の摘発等に従事、「蝦夷記」「蝦夷紀行」「蝦夷日記」「唐太見分書」「北蝦夷島新説」、
1804-8「東韃とうだつ紀行」07「北蝦夷図説」08「松田間宮両人カラフト見分申上書」、
1809「間宮林造満江分図書」11「北夷分界余話」、「北蝦夷図説考」「北蝦夷島地図」外著多数、
[林蔵(;通称)の法号]威徳院/顕実院

林蔵(りんぞう・後藤) → *基邑*(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) Ｅ４４４１
林蔵(りんぞう・柿岡) → *林宗*(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育) Ｋ４９６１
林蔵(りんぞう・津江) → *四谷庵月良*(よつやあんつきよし;号、幕臣/狂歌)Ｉ４７１６
林蔵(りんぞう・北原) → *信維*(のぶこれ・北原きたはら、国学・歌人) Ｉ３５２０
林蔵(りんぞう・内部) → *寛郷*(ひろさと・内部うちべ、国学者) Ｉ３７６３
林窓庵(りんそうあん) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
林宗二(りんそうじ・桂室) → *宗二*(そうじ・林、歌、漢学和学) ２５０９
林窓舎(りんそうしゃ) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
輪台(りんだい) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
輪太夫(りんだゆう・萱場) → *傍斎*(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士) ３９９０
林太夫(りんだゆう・笹川) → *道張*(みちはる・笹川ささがわ/源、藩士/歌) Ｊ４１２２
林太郎(りんたろう・梅沢) → *千種庵*(三世ちぐさあん、磐樹、商家/狂歌師)Ｄ２８０３
林太郎(りんたろう・中沢) → *茂七*(もしち・中沢なかざわ、商家/紀行) Ｂ４４２１
林太郎(りんたろう・矢吹) → *経正*(つねまさ・矢吹やぶき、里正/歌人) Ｆ２９１２
林太郎(りんたろう・三島) → *通庸*(みちつね・三島みしま、藩士/官僚) Ｋ４１６８
森太郎(りんたろう・北原) → *信綱*(のぶつな・北原きたはら、名主/政治家)Ｉ３５２１
麟太郎(りんたろう・勝) → *海舟*(かいしゅう・勝かつ、幕臣/海軍) Ｉ１５７１
輪池(りんち・屋代) → *弘賢*(ひろかた・屋代やしろ、幕臣/国学者) ３７１５
臨池(りんち;号) → *光性*(こうしょう;法諱、真宗大谷派本願寺17世)Ｊ１９７６

K4966 **藺仲**(りんちゅう) ? - ? 室町戦国期連歌作者;1472紹永催「美濃千句」参加

K4967 **隣忠**(りんちゅう・徳田とくだ、通称;藤左衛門)1677-1760*84* 紀州和歌山藩抱の能役者徳田道二の養子、
渋谷道修門、養父を継嗣;和歌山藩抱の能役者;徳川吉宗の愛顧を受、
1754(宝暦4)「隣忠見聞集」60「隣忠秘抄」、「御世話筋秘曲」著

倫忠(りんちゅう・黒田) → *倫忠*(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実) Ｅ３５９６
林中助(りんちゅうじょ) → *都の錦*(みやこのにしき、浮世草子作者) ４１３９

K4968 **林中樵夫**(りんちゅうしょうふ・本名不詳)?-? 1744随筆「野籔談話」序(著者不詳)

K4969 **輪超**(りんちょう;法諱) ? - 1678 伊勢山田の浄土僧;伊勢の光樹寺林応門;出家、
新田大光院無絃門;宗学を修学/のち芝増上寺で修学、常陸江戸崎の大念寺7世、
三河岡崎の大樹寺に転住、詩歌人、1646「往生論註字選」54「直牒一見聞聚集」著、
1662「十牛糟粕集」67「布薩式辨正返破論」/73「帝伝字注」「論註捃詒書」、「五重指南箇条」著、

「往生論註字選助見集」「大原談義助見集」「浄土譜脈謬伝破釈集」「浄土二蔵本末補書」著、
[輪超(;法諱)の法名]縁蓮社三誉唯称
K4970 倫重(りんちょう) ? - ? 俳人;1666「阿波千句」入
K4971 林蝶(りんちょう) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」1句入、
[蚊屋を吹く風の木猫いかりや煙草盆](椎の葉;116/蚊帳の押さえ[碇]に急遽煙草盆)
K4972 林鳥(りんちょう、秋柯?、秋色初世[1669?-1725]と寒玉の長男)?-? 17末-18ctの俳人、紫万しまん兄
K4973 林鳥(りんちょう・松花堂) ? - ? 江戸噺家;1826林屋正蔵「升おとし」名前に入
鱗長(りんちょう) → *九思軒鱗長*(きゅうしけんりんちょう・浮世草子)C１６４１
鱗長(りんちょう・浦池) → *九淵*(きゅうえん・浦池うらいけ、藩士/詩文) I１６６９
輪朝(りんちょう;宇) → *日教*(にちきょう;法諱、輪成院、日蓮僧) B３３３１
琳澄(りんちょう・塩路) → *沂風*(きふう・塩路しおじ、真宗僧/俳人) B１６７３
森貞(りんてい・桂) → *森貞*(もりさだ・桂かつら、藩士/国学) J４４７０
麟亭(りんてい・松宮) → *俊英*(としひで・松宮、兵学/儒) N３１４９
麟典(りんてん;号) → *応住*(おうじゅう;法諱・寂法、真言律僧) C１４０５
林塘[庵](りんとう[あん]) → *卜幽軒*(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者)E３９０２
林湯(りんとう・竹村) → *眞方*(まさかた・竹村たけむら、藩士/歌人) Q４０８０
林道(りんどう・西尾) → *正履*(まさのぶ・西尾にしお、国学者) R４０３６
鱗堂(りんどう・柴田) → *弘器*(ひろき・竜廼屋・柴田、藩医/狂歌)F３７７５
隣濤庵(りんとうあん) → *一蝶*(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師) C１１０８
林道人(りんどうじん) → *林谷*(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人)K４９２７
竜胆助(りんどうのすけ・笹) → *笹竜胆助*(ささりんどうのすけ:号・歌舞伎作者)
倫篤(りんとく・三須) → *倫篤*(ともあつ・三須/藤原、室町幕臣/連歌)P３１１５
淪読斎(りんどくさい) → *保考*(やすたか・賀茂/岡本、神職/書家) B４５８５
K4974 麟那(りんな・蕉山下;号) ? - ? 江中期俳人:千梅門、
1763(宝暦13)同門梅尺と共に「やきおほね」著;春耕「誹諧糸切歯」の所説に反駁/師を擁護
林女(りんにょ) → *林*(りん/林女りんじょ・にんにょ、摂津俳人) J４９９３
倫寧(りんねい・藤原) → *倫寧*(ともやす・藤原、廷臣/歌/蜻蛉日記作者の父)３１６３
L4965 輪応(りんのう;法諱) ? - ? 1754存 江中期総州の真言僧;大和長谷寺住、
1754(宝暦4)「西谷名目開講要義」著
輪王寺宮(りんのうじのみや) → *守澄親王*(しゅちょうしんのう、天台座主) ２１７２
林之丞(りんのじょう・中台)→ *惇*(あつし・中台なかだい、藩士/儒者) E１０６２
錦之丞(りんのじょう・服部)→ *保紹*(やすつぐ・服部はっとり、幕臣) C４５０６
林之助(りんのすけ・片桐) → *嘉矜*(よしえり・片桐かたぎり、藩士/暦算家)C４７２９
麟之助(りんのすけ・吉村) → *光徳*(みつのり・吉村よしむら、里正/国学者)K４１９４
麟之助(りんのすけ・昌谷) → *千里*(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者) G２４８０
麟之輔(憐之助りんのすけ・浅田)→*義言*(よしこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌)D４７３１
隣坡(りんぱ) → *逸人*(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B１１５１
霖伯(りんぱく;初道号) → *驢雪*(ろせつ;道号・鷹灞、曹洞僧) C５２００
麟伯軒(りんぱくけん・戸次)→ *道雪*(どうせつ・戸次べっき/立花、武将) G３１０３
林八(りんぱち・乙葉) → *義言*(よしこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌)D４７３１
林八郎(りんぱちろう・清家)→ *信郷*(のぶさと・清家せいけ、製造業/歌人) I３５８１
K4975 麟馬亭三千歳(りんばていみちとせ)?- ? 江後期戯作者:初世烏亭焉馬門、
1812(文化9)刊「春月薄雪桜」著
K4976 林斧(りんぷ) ? - ? 俳人;1689「あら野」2句入、
[掻き寄する馬糞にまじる霰あられ哉](あら野;仲冬/対照の妙)
倫婦(りんぷ) → *りん女*(林女/倫女りんじょ、俳人) K４９４４
臨風(りんぷう;号) → *慧鎧*(えがい・誓禅、真宗本願寺派僧) D１３５４
倫文(りんぶん・ともふみ・勝野)→ *良順*(よしより・勝野かつの/田宮、藩士/和漢学)M４７２２
K4977 林平(りんぺい;通称・宮部みやべ、名;豊盛/号;空蛙)?-? 江後期磐城白河藩主松平定信に出仕、
渡部流砲術家/主家転封に随い伊勢桑名に移住;藩の砲術師範/俳諧を嗜む、

1789頃「御流儀火術鋳張巻」著
林平(りんぺい・八木)　→　*質*(ただす・八木やぎ、和算家)　Ｐ２６６３
臨平(りんぺい・山県)　→　*昌壽*(まさひさ・山県やまがた、役人/国学)　Ｔ４０３９
臨平(りんぺい・米内)　→　*眞豊*(まさとよ・米内よねうち/高橋、陪臣/国学)Ｔ４０７５
林兵衛(りんべえ・伊勢屋)→　*生成*(いきなり・万年堂、商家/狂歌師)　Ｆ１１１９
K4978 **隣寶**(りんほ/りんほう・高田たかた)？－　？　江前期紀伊和歌山の女流俳人/曲舞の長ず、
1675重安「糸屑集」4句入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、84西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入
[短冊は軒の風鈴ふりやうか家桜](古今俳諧師手鑑)、
[月影をかくす懐鏡ふところかがみかな](女哥仙;21/)
K4979 **林卜**(りんぼく)　？－　？　近江柏原の俳人;江水「百人一句目録」入
麟盟(りんめい・寺部)　→　*屯麿*(たむろまろ・寺部てらべ、書/手習師匠)Ｙ２６３４
林茂(りんも・大場)　→　*寥和*(初世りょうわ・大場、俳人)　Ｊ４９６６
臨模(りんも・内藤)　→　*東甫*(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人)　Ｈ３１１１
M4959 **林雄**(りんゆう・山田やまだ、しげお/もとお/よしお?)?-?　江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[かはらじと思ふ心はやまの井のふかきならひの契りたがふな](麓の塵;恋516)
林遊(りんゆう・高木)　→　*忠風*(ただかぜ・高木たかぎ、藩士/歌)　Ｘ２６９９
倫誉(りんよ・超蓮社)　→　*念海*(ねんかい;法諱、浄土僧)　３４６１
K4981 **林葉堂**(りんようどう)　？－　？　江中期俳;蝶々子門?、1732「園の梅」編;松柏堂板
K4982 **林来**(りんらい;号)　？－　？　江後期江戸の僧/俳人;諸国行脚の後;羽後象潟住、
1830(文政13)「蜆籠集」編/31(天保2)「古今百奇談」著、
[林来(;号)の別号]　桂山/仏孫
K4983 **倫里**(りんり・足立あだち、志村無倫男)?-1737　江戸の俳人:父無倫[1655-1723]門、
1724師一周忌追善集「葉の雫」・1735十三回忌追善集「俳諧三の水」編纂、俳人来川らいせんの父、
[倫里(;号)の通称/別号]通称;久兵衛、別号;穂葉軒/隣鐘居
隣梨庵(りんりあん)　→　*冬映*(初世とうえい・牧、俳人)　Ｂ３１２９
K4984 **霖竜**(りんりゅう;道号・如沢にょたく;法諱、山野甚右衛門4男)1805-83*79* 周防吉敷郡秋穂村の農家の生、
黄檗僧:1814(10歳)長門府中覚苑寺素明衍聡門;出家/1828嗣法、長門万松院・覚苑寺住持、
長門萩東光寺22世/1883宇治万福寺39世;没、「霖竜和尚進山語録」著/「霖竜禅師遺稿」
隣柳庵山楽(りんりゅうあんさんらく)→　*山楽*(さんらく・隣柳庵、盆景師)　Ｅ２０７９
隣柳斎山楽(りんりゅうさいさんらく)→　*山楽*(さんらく・隣柳庵、盆景師)　Ｅ２０７９
倫良(りんりょう・三善)　→　*倫良*(ともよし・三善、国学/神道/詩歌)　Ｑ３１９１
琳亮(りんりょう;字)　→　*信澄*(眞証しんちょう;法諱・琳亮、真言僧)Ｐ２２３９
K4986 **麟々**(鱗々りんりん;号)　？－　？　江中後期;江戸日本橋雑俳点者、
1767丸窓「豆鉄炮」入/77吐屑「芝さかな」入/1834一声「歌羅衣」入
粼々(りんりん)　→　*長忠*(ながただ・白石、和算家)　Ｅ３２１５
隣々舎(りんりんしゃ・岩間)→　*麦羅*(ばくら・岩間、俳人)　Ｅ３６０２
輪蓮社(りんれんしゃ・転誉覚阿)→　*存統*(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文)　Ｆ２５６８
稟蓮社承誉(りんれんしゃしょうよ;法名)→　*法洲*(ほうじゅう:法諱、浄土僧)Ｂ３９４６
林麓草堂(りんろくそうどう)　→　*玄対*(げんたい・渡辺/辺・内田、絵師)　Ｋ１８９０